

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第253集

上鷹生遺跡発掘調査報告書

鷹生ダム建設関連遺跡発掘調査

(財) 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

上鷹生遺跡発掘調査報告書

鷹生ダム建設関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、9,800箇所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。特に治山・治水・利水及びエネルギー開発は、多方面から期待されるところであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告の大船渡市上鷹生遺跡は、鷹生川右岸の崖錐性扇状地に立地し、平成3年と4年の発掘調査によって縄文時代の集落跡であることが明らかになりました。中でも、縄文時代後期の住居跡群や晩期の墓域の発見は、当時の生活を考えるうえで貴重な資料になるものであります。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力、ご援助を賜りました岩手県土木部、大船渡市・陸前高田市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成8年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 船越昭治

例 言

1. 本報告書は^{おおふなと}大船渡市^{ひごろいち}日頃市^{わんだい}町字上代27-1ほかに所在する上鷹生遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号と調査略号は、次のとおりである。
遺跡番号 NF18-2222 調査略号 KT-90・91
3. 本遺跡の調査は、鷹生ダム建設に伴う緊急調査である。調査は岩手県土木部鷹生ダム建設事務所と岩手県教育委員会事務局文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
4. 発掘調査は、平成3年6月24日～10月31日、平成4年4月10日～9月4日の2カ年にわたって実施した。室内整理は平成3年11月1日～平成4年3月31日、平成5年7月1日～12月31日、平成6年8月1日～平成7年3月31日まで行なった。
5. 発掘調査面積は平成3年度600㎡、平成4年度700㎡、計1,300㎡である。
6. 発掘調査は、平成3年度は、酒井宗孝・伊東 格・金子昭彦、平成4年度は、酒井宗孝・花坂政博が担当した。本書の執筆は酒井が担当した。
7. 出土品の鑑定及び分析は、次の方々に依頼した。(敬称略)
石器・石製品の材質鑑定 佐藤二郎(佐藤地質工学研究所)。火山灰の分析・鑑定 三辻利一(奈良教育大学)。動物遺存体種類同定 西本豊弘(国立歴史民俗博物館)。赤色顔料の分析・鑑定 小山陽造・千葉憲一(八戸高等専門学校)
8. 発掘調査において、次の機関の協力を得た。
大船渡市・大船渡市教育委員会、陸前高田市教育委員会。
9. 発掘調査及び整理・報告書の作成には次の方々の協力・指導をいただいた。(敬称略) 金野良一(大船渡市立博物館)、佐藤正彦(陸前高田市立博物館)、中村良幸(大迫町教育委員会)、武田将男・高橋憲太郎・鎌田祐二(宮古市教育委員会)、関 豊(二戸市教育委員会)、高田和徳(一戸町教育委員会)、桐生正一・井上雅孝(滝沢村教育委員会)、小林克・大野憲司(秋田県埋蔵文化財センター)、成田滋彦・畠山 昇・岡田 康博(青森県埋蔵文化財調査センター)、岡本孝之(慶応義塾大学)
10. 野外作業では、佐藤得一氏をはじめとする地元作業員の方々の協力をいただいた。また、室内整理においては、当センターの臨時職員の皆様をいただいた。
11. 本遺跡で出土した遺物及び調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

本文目次

序

例言

I 調査に至る経過	3	8. 自然遺物	262
II 遺跡の立地と環境	3	V まとめ	
1. 地形と地質	3	1. 遺構 2. 遺物	310・312
2. 周辺の遺跡	7	3. おわりに	313
III 調査の方法と整理	11	VI 分析・鑑定	
1. 調査の方法	11	1. 上鷹生遺跡の土壤中の赤色 顔料および礫に付着した赤 色顔料の主要成分元素の物 理学的分析	315
2. 整理	13	2. 上鷹生遺跡出土の焼獣骨の 種別同定	319
IV 検出された遺構と遺物	14	表	
1. 竪穴住居跡・住居跡状遺構	14	土器観察表	273
2. 土坑類	34	陶器観察表	299
3. 柱穴状小土坑	55	石器観察表	300
4. 埋設土器	66	石製品観察表	306
5. 炉跡・焼土遺構	80	土偶観察表	306
6. 集石遺構	85	土製円盤観察表	307
7. 遺物包含層	97	土製品観察表	309
(1) 層相と形成過程	97	骨角器観察表	309
(2) 出土遺物	101	金属製品観察表	309
1. 土器	101		
2. 中世陶器	111		
3. 石器	233		
4. 石製品	259		
5. 土製品	261		
6. 骨角器	262		
7. 金属器	262		

図 版 目 次

<p>第1図 岩手県及び周辺地域における 遺跡の位置図 ……………1</p> <p>第2図 遺跡周辺地形図 ……………2</p> <p>第3図 遺跡周辺地形分類図 ……………4</p> <p>第4図 基本土層柱状図 ……………6</p> <p>第5図 土層堆積模式図 ……………6</p> <p>第6図 大船渡市の遺跡分布図 ……………9</p> <p>第7図 グリッド配置図……………12</p> <p>第8図 実測図凡例……………13</p> <p>第9図 I A - 1 住居跡……………14</p> <p>第10図 I A - 2 住居跡……………15</p> <p>第11図 I A - 3 住居跡……………16</p> <p>第12図 I A - 4 住居跡……………18</p> <p>第13図 I A - 5 住居跡……………19</p> <p>第14図 I A - 6・7 住居跡……………21</p> <p>第15図 II A - 1 住居跡……………23</p> <p>第16図 II A - 2・3 住居跡……………24</p> <p>第17図 II A - 4 住居跡……………26</p> <p>第18図 II A - 5 住居跡……………27</p> <p>第19図 II A - 6 住居跡……………28</p> <p>第20図 I B - 1 住居跡……………29</p> <p>第21図 I B - 2 住居跡……………31</p> <p>第22図 I A - 1 住居跡状遺構……………32</p> <p>第23図 II A - 1・2 住居跡状遺構……………33</p> <p>第24図 土坑類(1) I A 8 j - 1・2 ・ I A 9 b・ I A 9 c - 1・2 ・ I A 9 e - 1 土坑……………56</p> <p>第25図 土坑類(2) I A 9 e - 2~4 ・ I A 9 f - 1~3・ I A 9 g ・ II A 0 b・ II A 0 c 土坑……………57</p>	<p>第26図 土坑類(3) II A 0 d - 1・2 ・ II A 0 e・ II A 0 f - 1・2 ・ II A 0 g ・ I B 6 d - 1~3 土坑……………58</p> <p>第27図 土坑類(4) I B 6 c ・ I B 6 e - 1~4 ・ I B 6 f - 1~3 ・ I B 7 a 土坑……………59</p> <p>第28図 土坑類(5) I B 7 b - 1・2・ I B 7 c - 1~3・ I B 7 d・ I B 7 e・ I B 7 f - 1・2・ I B 8 b - 1 土坑……………60</p> <p>第29図 土坑類(6) I B 7 f - 3 ・ I B 8 a - 1~4・ I B 8 b - 2・ I B 8 c・ I B 8 d - 1 土坑……………61</p> <p>第30図 土坑類(7) I B 8 d - 2 ・ I C 8 e・ I C 8 f ・ I C 9 f・ II C 0 f - 1・2 ・ II C 0 g - 1・2 ・ II C 2 f 土坑……………62</p> <p>第31図 土坑類(8) II C 2 g - 1・2 ・ II C 3 f - 1~3 土坑……………63</p> <p>第32図 II C 区柱穴状土坑群……………64</p> <p>第33図 II A 区柱穴状土坑群……………65</p> <p>第34図 埋設土器・炉跡・焼土 遺構分布図……………76</p> <p>第35図 埋設土器(1) I A 8 j・ I A 9 g - 1~3・ II A 0 d・ II A 0 e ・ II A 0 f - 1・2・ I B 5 e・</p>
--	---

	I B 5 f · I B 5 i - 1 · 2 埋 設土器……………77	第45図	遺構配置図……………95
第36図	埋設土器 (2) I B 5 j · I B 6 d · I B 6 e - 1 ~ 3 · I B 7 c · I B 7 d - 1 · 2 · I B 7 e 埋設土器……………78	第46図	遺物包含層時期別分布図……………97
第37図	埋設土器 (3) I B 8 c · I C 7 d · I C 8 e - 1 · 2 · I C 8 f - 1 · 3 · I C 9 e · II C 0 f · II C 1 g 埋設土器……………79	第47図	土器出土量分布図……………98
第38図	炉跡・焼土遺構 (1) II A 0 f 石囲炉 · I A 8 i · I A 9 h · I A 9 i · II A 0 c · II A 0 f · II A 1 g · II A 1 f - 1 ~ 4 · I B 6 d · I B 6 f 焼土遺構…83	第48図	遺物包含層断面図 (1) ……99
第39図	焼土遺構 (2) I B 6 g · I B 9 c · I C 8 f · II C 0 g · II C 1 f 焼土遺構……………84	第49図	遺物包含層断面図 (2) ……100
第40図	集石遺構 (1) A · B 区隣群分 布図 · I A 8 j · I A 8 f · I A 9 i · I A 9 j · II A 0 c 集石…89	第50図	遺構内出土遺物 (1) I A - 1 住居跡 ……112
第41図	集石遺構 (2) II A 0 d · II A 0 e - 1 · 2 · II A 1 e · II A 0 g · I B 7 d 集石遺構…90	第51図	遺構内出土遺物 (2) I A - 2 · 3 · 4 住居跡 ……113
第42図	集石遺構 (3) I A 9 b 区 ~ II A 0 e 区隣検出 状況……………91	第52図	遺構内出土遺物 (3) I A - 4 · 5 住居跡 ……114
第43図	集石遺構 (4) I B 8 b · I B 8 c · I B 8 e · I B 9 a · b 集石遺構……………93	第53図	遺構内出土遺物 (4) I A - 5 · 6 住居跡 ……115
第44図	集石遺構 (5) I B 8 d · e 集石遺構……………94	第54図	遺構内出土遺物 (5) I A - 6 住居跡 ……116
		第55図	遺構内出土遺物 (6) I A - 6 住居跡 ……117
		第56図	遺構内出土遺物 (7) I A - 6 · II A - 1 · 2 住居跡 ……118
		第57図	遺構内出土遺物 (8) II A - 2 · 3 · 4 住居跡 ……119
		第58図	遺構内出土遺物 (9) II A - 4 · 5 · 6 住居跡 ……120
		第59図	遺構内出土遺物 (10) I B - 1 住居跡 ……121
		第60図	遺構内出土遺物 (11) I B - 2 住居跡 ……122
		第61図	遺構内出土遺物 (12) I B - 2 住居跡 ……123
		第62図	遺構内出土遺物 (13) I B - 2 住居跡 · I A - 1 · II A - 1 住居跡状

	遺構 ……………124		I B 6 e - 1 ・ 2 埋設土器 ……134
第63図	遺構内出土遺物 (14)	第73図	遺構内出土遺物 (24)
	I A 8 j - 1 ・ 2 ・ II A 0 c		I B 6 e - 3
	・ II A 0 b ・ I A 9 c - 2		・ I B 6 f - 1 埋設土器 ……135
	・ II A 0 d - 2 土坑 ……………125	第74図	遺構内出土遺物 (25)
第64図	遺構内出土遺物 (15)		I B 6 f - 2
	II A 0 e ・ II A 0 f - 1		・ I B 7 c 埋設土器 ……………136
	・ I B 6 c ・ I B 6 d - 3	第75図	遺構内出土遺物 (26)
	・ I B 6 e - 3 土坑 ……………126		I B 7 d - 1 ・ 2 ・ I B 7 e
第65図	遺構内出土遺物 (16)		・ I B 8 c 埋設土器 ……………137
	I B 6 e - 4 ・ I B 7 c - 1	第76図	遺構内出土遺物 (27)
	・ I B 8 a - 4 ・ I B 8 d - 1		I C 7 d ・ I C 7 e 埋設土器 ……138
	・ II C 0 f - 1 土坑 ……………127	第77図	遺構内出土遺物 (28)
第66図	遺構内出土遺物 (17)		I C 8 e ・ I C 8 f - 1
	II C 0 f - 1 ・ II C 0 g - 2 ・ II		I C 8 f - 2 ・ 3 埋設土器 ……139
	C 2 g - 1 ・ II C 3 f - 1 土坑…128	第78図	遺構内出土遺物 (29)
第67図	遺構内出土遺物 (18)		I C 9 e ・ II C 0 f
	I A 8 j ・ I A 9 g - 1		・ II C 1 g 埋設土器 ……………140
	・ 2 埋設土器 ……………129	第79図	遺構内出土遺物 (30)
第68図	遺構内出土遺物 (19)		I A 8 j ・ I A 9 j
	I A 9 g - 3		・ I B 7 d 集石遺構 ……………141
	・ II A 0 d 埋設土器 ……………130	第80図～第169図	遺物包含層出土遺物
第69図	遺構内出土遺物 (20)		(土器) 1 ～90
	II A 0 e		・ (陶器) 1 ……………142～231
	・ II A 0 f - 1 埋設土器 ……………131	第170図	遺物包含層出土遺物
第70図	遺構内出土遺物 (21)		(陶器) 2 ……………232
	II A 0 f - 2 ・ I B 5 e	第171図～第190図	遺物包含層出土遺物
	・ I B 5 f 埋設土器 ……………132		(石器) 1 ～20 ……………239～258
第71図	遺構内出土遺物 (22)	第191図	遺物包含層出土遺物
	I B 5 i - 1 ・ 2 ・ I B 5 j		(石製品) 1 ……………259
	・ I B 6 d 埋設土器 ……………133	第192図	遺物包含層出土遺物
第72図	遺構内出土遺物 (23)		(石製品) 2 ……………260

第193図～第197図 遺物包含層出土遺物

(土偶) 1～5 ……263～267

第198図～第200図 遺物包含層出土遺物

(土製円盤) 1～3 ……268～270

第201図 遺物包含層出土遺物

(土製円盤) 4・土製品 ……271

第202図 骨角器・金属製品 ……272

第203図 墓壇の軸方向分布図 ……312

写真図 版目次

1 遺跡遠景・近景 ……323

2 空中写真 ……324

3 土層断面(1) ……325

4 土層断面(2) ……326

5 土層断面(3)・遺物出土状況 ……327

6 遺物出土状況・作業風景 ……328

7 IA-1住居跡 ……329

8 IA-2住居跡 ……330

9 IA-3住居跡 ……331

10 IA-4住居跡 ……332

11 IA-5住居跡 ……333

12 IA-6・7住居跡 ……334

13 IIA-1住居跡 ……335

14 IIA-2住居跡 ……336

15 IIA-3住居跡 ……337

16 IIA-4住居跡 ……338

17 IIA-5住居跡 ……339

18 IIA-6住居跡 ……340

19 IB-1住居跡 ……341

20 IB-1・2住居跡 ……342

21 IB-2住居跡 ……343

22 IA-1住居跡状遺構 ……344

23 IIA-1住居跡状遺構 ……345

24 IIA-2住居跡状遺構 ……346

25 IA8j-1・2・IA9b

・IA9c-1土坑 ……347

26 IA9c-2・IA9e-1

～3土坑 ……348

27 IA9e-4・IA9f-1

～3土坑 ……349

28 IA9g・IIA0b・IIA0c

・IIA0d-1土坑 ……350

29 IIA0d-2・IIA0e

・IIA0f-1・2土坑 ……351

30 IIA0g・IB6c・IB6d

-1～3土坑 ……352

31 IB6e-1～4・IB6f-

1土坑 ……353

32 IB6f-2・3・IB7a

・IB7b-1・2土坑 ……354

33 IB7c-1～3・IB7d土

坑 ……355

34 IB7e・IB7f-1～3土

坑 ……356

35 IB8a-1～4土坑 ……357

36 IB8b-1・2・IB8c

・IB8d-1土坑 ……358

37 IB8d-2・IC8e・IC

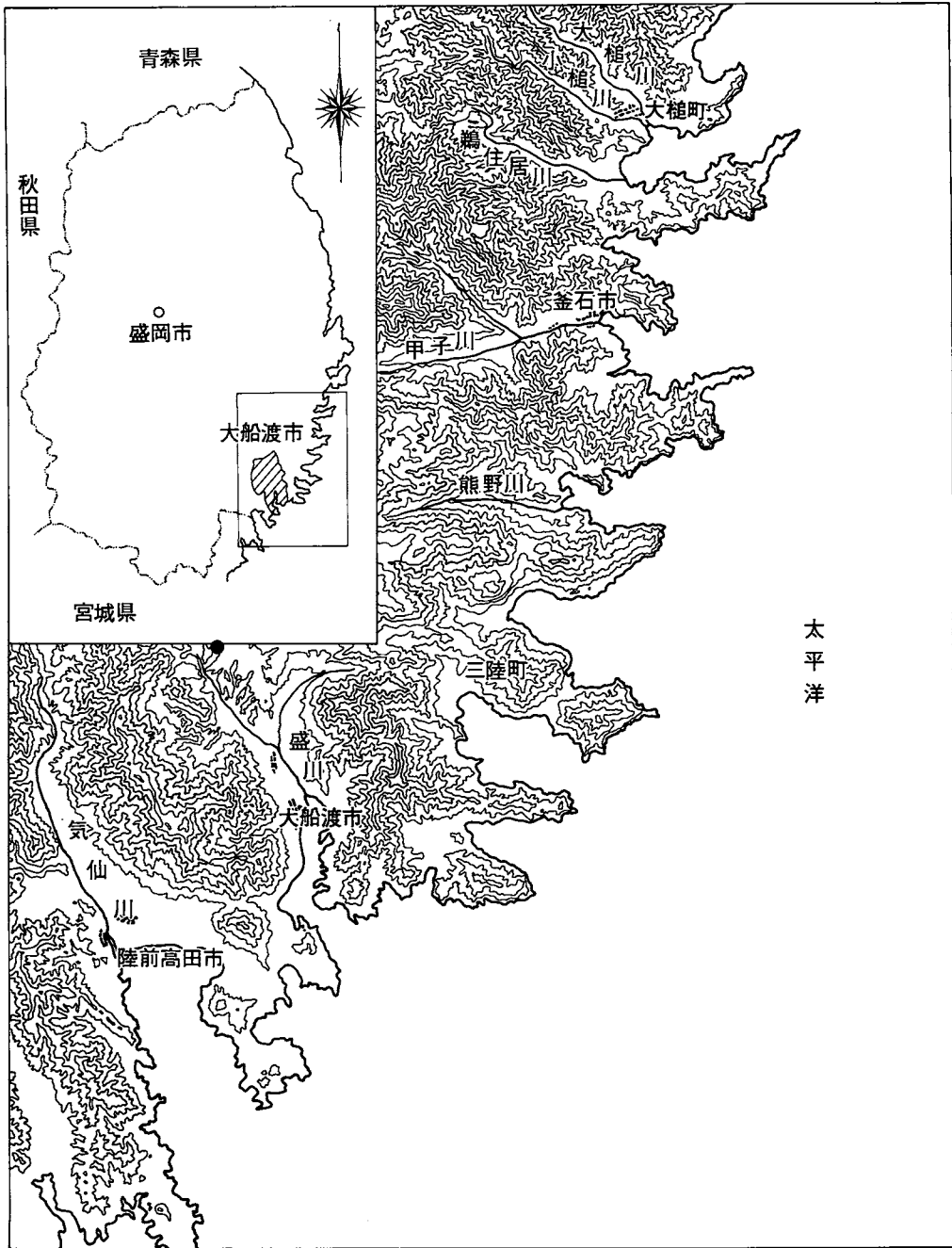
8f・IC9f土坑 ……359

38 IIC0f-1・2・IIC0g-

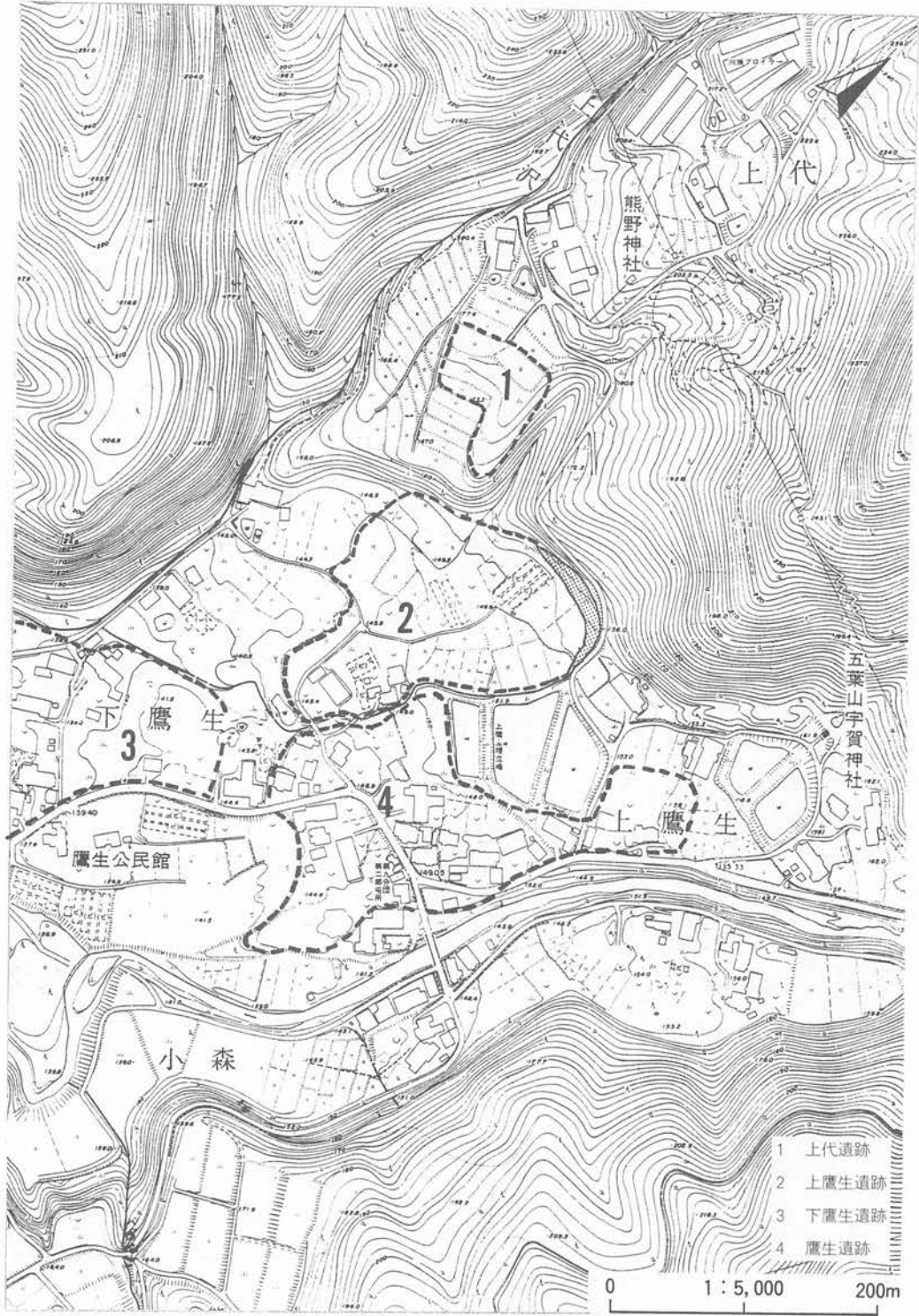
1土坑 ……360

39 IIC0g-2・IIC2f・IIC

	2 g - 1 ・ 2 土坑 ……………361	53	I A 9 i ・ I A 9 j ・ II A 0 c ・ II A 0 e - 1 ・ II A 1 e 集石 ……375
40	II C 3 f - 1 ~ 3 ・ II A 0 h 土 坑 ……………362	54	II A 0 d ・ II A 0 e - 2 集石 ・ II A 0 e ・ f 区礫検出状況……………376
41	I A 8 j ・ I A 9 g - 1 ~ 3 ・ II A 0 d 埋設土器 ……………363	55	II A 0 f 区礫検出状況 ・ II A 0 g 集石 ……………377
42	II A 0 e ・ II A 0 f - 1 ・ 2 ・ I B 5 e 埋設土器 ……………364	56	I B 7 d ・ I B 8 b ・ I B 8 c ・ I B 8 e 集石 ……………378
43	I B 5 f ・ I B 5 i - 1 ・ 2 I B 5 j 埋設土器 ……………365	57	I B 9 a ・ b ・ I B 8 d ・ e 集石 ……379
44	I B 6 d ・ I B 6 e - 1 ~ 3 埋設土器 ……………366	58~87	遺構内出土遺物 (1) ~ (30) ……………380~409
45	I B 6 f - 1 ・ 2 ・ I B 7 c ・ I B 7 d - 1 埋設土器 ……………367	87~163	遺物包含層出土遺物 (土器) 1 ~ 77 ……………409~485
46	I B 7 d - 2 ・ I B 7 e ・ I B 8 c ・ I C 7 d 埋設土器 ……368	163・164	遺物包含層出土遺物 (陶器) 1 ・ 2 ……………485~486
47	I C 7 e ・ I C 8 e - 1 ・ I B 8 f - 1 ~ 3 埋設土器 ……………369	165~179	遺物包含層出土遺物 (石器) 1 ~ 15 ……………487~501
48	I C 9 e ・ II C 0 f ・ II C 1 g ・ I C 8 e - 2 埋設土器 ……………370	179・180	遺物包含層出土遺物 (石製品) 1 ・ 2 ……………501~502
49	II A 0 f 石囲炉 ・ I A 8 i ・ I A 9 h ・ I A 9 i ・ II A 0 f 焼 土 ……………371	180~183	遺物包含層出土遺物 (土偶) 1 ~ 4 ……………502~505
50	II A 1 g ・ II A 0 c ・ II A 1 f - 1 ~ 4 焼土 ……………372	184~187	遺物包含層出土遺物 (土製円盤) 1 ~ 4 ……506~509
51	I B 6 d ・ I B 6 f ・ I B 6 g ・ I B 9 c 焼土 ……………373	187	遺物包含層出土遺物 (土製品) ……………509
52	I C 8 f ・ II C 0 g ・ II C 1 f 焼土 ・ I A 8 j ・ I A 8 f 集石 ……374	188	遺物包含層出土遺物 (骨角器 ・ 金属器) ……………510
		189	アスファルト付着土器……………511



第1図 岩手県及び周辺地域における遺跡の位置図



第2図 遺跡周辺地形図

I 調査に至る経過

鷹生ダムは、盛川総合開発の一環をなすもので、大船渡市日頃市町上甲子地内に建設される。ダムは、重力式コンクリートダムとして高さ77.0m、最大貯水容量9,680,000 m^3 、有効貯水容量9,000,000 m^3 で、流域における洪水調節、流水の機能維持及び水道用水の供給を目的とする多目的ダムである。

当事業に係わる埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県土木部と岩手県教育委員会との間で協議がなされ、平成元年度に事業実施地区全域にわたる分布調査が行なわれた。この結果、用地内には埋蔵文化財包蔵地の可能性を持つ地点が9か所存在することが明らかとなった。これを基に両者間でさらに協議が重ねられ、これらについて平成2年に試掘調査が実施された。

試掘調査を行なった県教育委員会は、多量の遺物が出土した当遺跡と集落跡の可能性を持つ上甲子遺跡の2遺跡について本調査が必要との判断をし、上鷹生遺跡については平成3年度に本調査を実施することとした。本調査にあたっては、(財)岩手県文化振興事業団の委託事業とすることとなり、県土木部と事業団との協議の後、工事用道路にかかる1,300 m^2 を対象として平成3年6月1日付けの委託契約が結ばれた。

この委託契約を受けて、当埋蔵文化財センターは同年6月24日～10月31日まで発掘調査を実施したが、当初の予想を上回る遺構・遺物が検出されたことにより、対象区全域の調査を終了できなかった。未了となった700 m^2 については、平成4年4月1日付けで改めて委託契約が結ばれ、同年4月10日～9月4日まで発掘調査を実施した。

II 遺跡の立地と環境

1. 地形と地質

上鷹生遺跡の所在する大船渡市は、岩手県の南東端に位置し北は釜石市、東は三陸町、西は住田町、南は陸前高田市と接している。

岩手県の2/3の面積を占める北上山地は、青森県八戸市付近から宮城県牡鹿半島まで、南北約250km、東西最大約80kmの紡錘形の広がりを持つ。古世層・中世層とこれを貫くように介在する花崗岩類から構成され、準平原化した老年期山地がその後の地殻変動で再隆起したもので、緩やかな丸みをおびた尾根が連なっている。最高峰はほぼ中央に位置する早池峰山(1913.5m)で、定高性を示す周囲の山並から一際ぬきんでた美しい山稜が各地から望まれる。東縁は太平洋に接し、山塊と海とが織りなす風光明媚な環境は、「陸中海岸」として国立公園の指定を受けている。このうち宮古～気仙沼間は大小の湾と岬が複雑に入り組む典型的なりアス海岸地形を呈し、その規模は日本最大である。各岬は300～400mの定高性を示し、湾頭にはいずれも河川が流入して、小規模な沖積地を形成している。沿岸地方の各市町村は、この沖積地に立地しており、大船渡市も盛川による沖積地にその中心部をおいている。

盛川は、高森山(717.6m)の南麓に源を発し、鷹生川、立根川、大野川等の中小河川を合わせて北西から南東方向に流れて大船渡湾に注いでいる。地質構造の弱い部分に沿って流れる

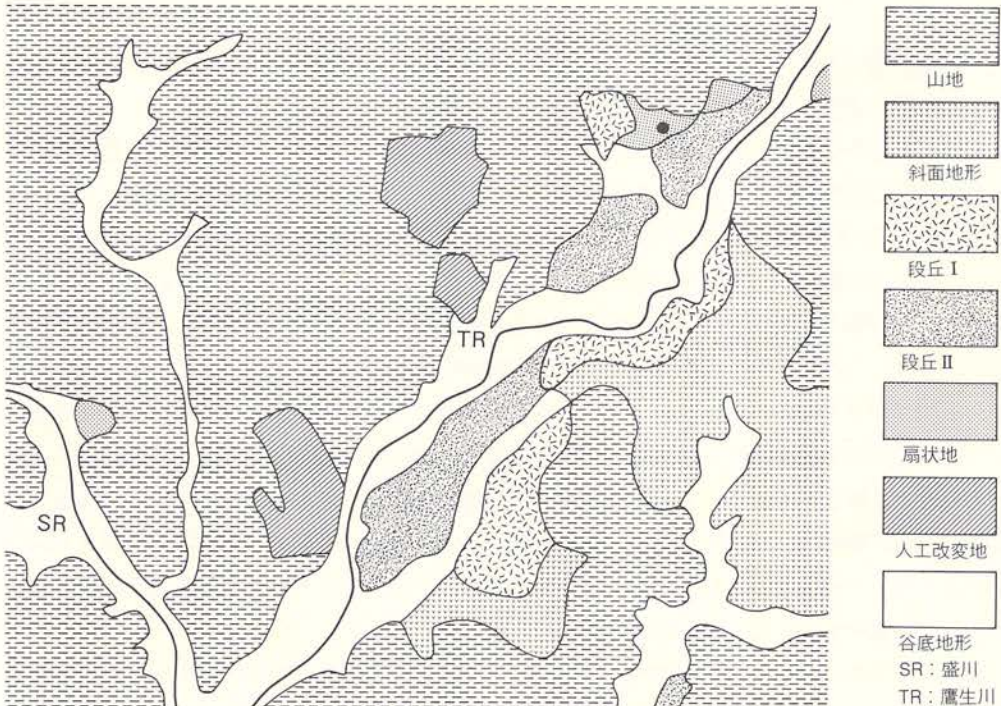
適流川で、全長は約12kmと短い。流域における洪積段丘の発達には沿岸地方の他の地域同様に悪く、立根川左岸と鷹生川の左岸に小規模なものが見られるものの、いずれも面は連続性に欠ける。両河川とも地域内では比較的広い沖積地が開け、兩岸の山地からは小規模な沢による崖錘性扇状地が形成されている。

上鷹生遺跡は、北緯 $39^{\circ} 8' 24''$ 、東経 $141^{\circ} 41' 30''$ 付近に位置し、岩手開発鉄道日頃市駅の北東約2.5kmの距離にある。なお、国土地理院発行の1:25,000の地形図では「盛」(NJ-54-14-6-1)の図幅に含まれる。

盛川の支流である鷹生川は、周辺地域の最高部である五葉山(1341.3m)を源とし、花崗岩地帯に浅く明るい溪谷を刻んで南流し、日頃市町関谷で本流に合流する。前述の通り、段丘の発達が悪い当地域の中では比較的成達は良く、小森及び下宿の左岸では洪積段丘低位面に相当すると考えられる標高140m前後の平坦面が見られる。また、沖積段丘も良く発達し、周辺地区内では広い谷底平野と氾濫平野が形成されている。

遺跡は、鷹生川右岸の沖積段丘と山側でこれを覆う崖錘性扇状地に、隣接する鷹生遺跡と下鷹生遺跡と共に立地している。今回の調査区は、扇状地の東側扇側部にあたる。現地地形面は南向きの緩斜面を呈するが扇状地堆積土が厚く、山寄りの部分での旧地形は最大約 25° の急斜面となっている。標高は156~152m、現河床面からの比高は11~7mで、現状は畑地と山林であった。

第4図はII A 0 j 区とII C 区に深掘り断面を基に作成した模式柱状図で、これを遺跡の基本



第3図 遺跡周辺地形分類図

層序とした。また、第5図には、調査区における土壌堆積の模式図を示した。

- 第Ⅰ層 黒褐色土（層厚10～25cm） 耕作土を主体とし、山林部ではいくぶん薄くなる。
- 第Ⅱ a層 黒褐色土～暗褐色土（層厚30～85cm） 崖錘性の堆積土。ほとんど遺物を含まないが、摩耗した小破片が出土する。
- 第Ⅱ b層 暗褐色砂礫層（層厚35cm） I B区の急斜面中部からI C区の緩斜面下部にかけて、北西－南東方向に幅60cm前後の帯状に堆積する。5～1cmの円礫と砂からなる新鮮な砂礫層で、洪水等の痕跡の可能性はある。層中から古銭（元祐通寶）が出土しており、堆積年代は中世以降と考えられる。また、第Ⅱ層全体の堆積年代も中世以降の時期が想定され、土壌の供給源となる北側山地への人為的行為の現れかも知れない。
- 第Ⅲ層 黒色土～黒褐色土（層厚30～160cm） 急斜面の最上部を除く全域に堆積する遺物包含層で、中世陶器～縄文時代中期までの遺物が多量に出土する。断面の観察では4～8層に細分が可能である。しかし、各区域によってその層相や層厚が異なるうえ、遺構内への廃棄土と考えられる土層が介在するため一部を除いて形式的な把握はできなかった。大略的には、最上部は炭化物をやや多く含む黒褐色土で、この上部からは中世陶器、下部からは弥生土器が伴う。上部は小礫を含まないサラサラした黒色土で、縄文時代晩期中葉の大洞C2式土器が出土する。中部は小礫を含む黒色～黒褐色土で、晩期中葉～後期中葉までの遺物を含む。下部はいくぶん砂質な黒褐色土で、後期前葉～中期後葉までの遺物が出土する。
- 第Ⅳ層 暗褐色土～明褐色土（層厚5～22cm） 粉状のパミス層で、十和田火山を噴出源とする安家火山灰（中坵火山灰）層と考えられる。急斜面から緩斜面への移行部分から、平坦部にかけて堆積する。斜面部では汚れがひどく、純層はブロック状であったが、平坦部では純層の堆積が観察された。I Bでは、この下部に縄文時代前期前葉の土器を含む層が堆積するが、I C区の南部では直接河床堆積物を覆う。このことから当遺跡は、縄文時代早期には離水状態にあったと考えられる。なお、安家火山灰の降下年代としては約5,400年前（早川、1983）が得られており、土器の出土状況に層位的な矛盾はない。
- 第Ⅴ a層 褐色土～黒色土（層厚10～35cm） 地点によって層相は異なるが、斜面中部～下部にかけて堆積するIV層下位の層として一括した。斜面の中部では小礫を含む褐色土で、硬くしまり層厚は薄い。斜面の下部では黒色～黒褐色土で、砂質の部分とやや粘性を持つ部分に細分される区域もある。層中には、縄文時代前期初頭～前葉の遺物を包含する。
- 第Ⅴ b層 褐色土～明褐色土（層厚5～15cm） 主にC区の平坦面に堆積する砂質のシルト層で、南側では砂層となる。北側では縄文時代前期前葉の土器が出土している。なお、調査区内ではa層との接点は確認できなかった。

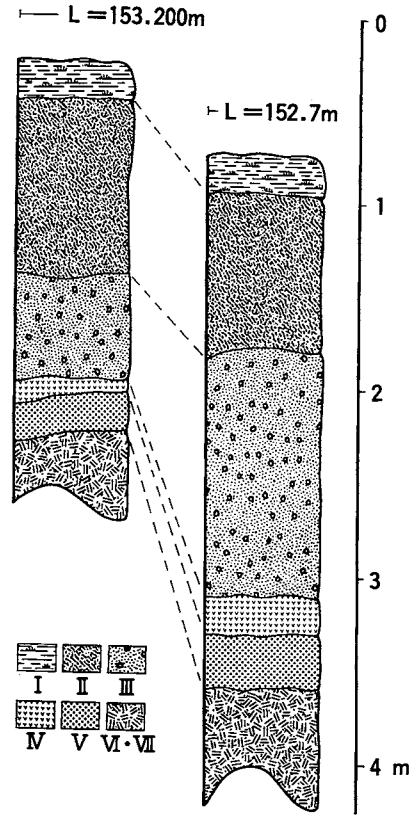
- 第VI層 褐色砂礫層（層厚不明）C区の基盤層で、上部の砂層と下部の礫層から構成されるが、南端部の深掘りの観察では、下部ではさらに砂層が葉理状に交差する。
- 第VII層 褐色土（層厚不明）斜面部における基盤層で、粘板岩及び凝灰岩の巨礫が含まれる。

2. 周辺の遺跡

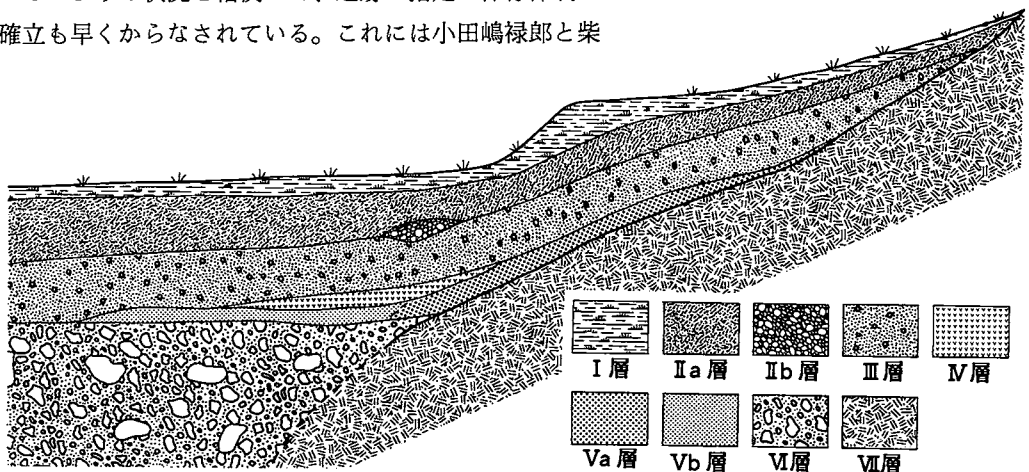
大船渡市が所在する気仙地方の洞穴遺跡や貝塚は、日本における考古学の黎明期から研究対象となっていた。大正年間に行われた、東北大学の長谷部言人や松本彦七郎の発掘調査及び研究は、その後の研究の大きな指標となった。長谷部は形質人類学の立場に立って、当市細浦上ノ山貝塚及び大洞貝塚を調査し、出土した人骨について新しい知見を発表し、松本は古生物学的方法論を陸前高田市瀬沢貝塚の発掘調査に応用して、大きな成果を上げた。

昭和に入っても当地区の貝塚や洞穴遺跡は研究者に注目され、大山 柏、八幡一郎、小金井良精、柴田常恵などによる調査が行われた。東北大学の長谷部は、この時期赴任した山内清男と共に大洞貝塚を再度調査し、この成果を基に山内は縄文時代晩期の土器群を「大洞式」として6細分し、全国の縄文時代の終末に関する論文を草する事となる。

このような状況と相俟って、遺跡の指定と保存体制の確立も早くからなされている。これには小田嶋禄郎と柴



第4図 土層断面柱状図



第5図 土層堆積模式図

田常恵の業績が大きく、昭和9年(1934)に当市蛸の浦貝塚・下船渡貝塚、陸前高田市中沢浜貝塚の3遺跡が国指定史跡となった。これらの経緯については、熊谷(1985)に詳しい。

戦後になっても、当地区の遺跡は学会に数多くの資料を提供する舞台であった。以前からの東北大学をはじめ慶応大学、早稲田大学、明治大学、岩手大学によって下船渡貝塚、清水貝塚、蛸の浦貝塚、長谷堂貝塚等の遺跡が積極的に調査された。

最近では、三陸縦貫自動車道の建設に伴い沢川遺跡、猪川館跡、細野Ⅱ遺跡、鷹生ダム建設に伴い、上甲子遺跡が当埋蔵文化財センターによって調査されている。

平成8年4月付けの岩手県教育委員会のまとめでは、大船渡市内には98ヶ所の遺跡が登録されている。第6図にはこれらの遺跡の分布を示した。

旧石器時代の遺跡は、基石遺跡だけである。昭和47・48年に東北大学の芹沢長介教授らが発掘調査を行い、尖頭器、彫器、ピエス・エスキュー等の石器が出土している。

縄文時代の遺跡は多く、全体の約8割を占める。集落跡として登録されているものは5遺跡と少なく、大部分は散布地になっているが、これは未調査の遺跡が多いためであろう。この他には、前述の貝塚17ヶ所、洞穴1ヶ所がある。当遺跡の南西約2kmに所在する関谷洞穴は、昭和32年(1957)県指定の史跡になった洞穴住居跡遺跡で、昭和43年に及川 洵・後藤勝彦両氏によって発掘調査され、縄文時代早期から弥生時代後期までの良好な資料が得られている。

弥生時代の遺跡は6遺跡と少なく、いずれも縄文遺跡との複合遺跡であるが、昭和46年に調査された長谷堂貝塚からは、県内で初めて弥生時代中期の竪穴住居跡が検出された。なお、当遺跡と同様に、鷹生ダム建設に関連して調査された上甲子遺跡からは、初頭期の住居跡6棟が検出され、集落跡であることが確認された。

古代は15遺跡が確認されているが、これもほとんど複合遺跡である。このうち当埋蔵文化財センターで調査した名高根遺跡と猪川館跡から竪穴住居跡が検出されている。両遺跡とも平安時代の住居跡で、前者は9世紀初頭、後者は10世紀代の遺構と考えられてる。なお、現在は壊滅しているが、地の森遺跡からは蕨手刀の出土報告があり、末期古墳であった可能性が高い。

中世では、11ヶ所の城館跡が登録されている。いずれも自然地形を利用した山城である。前述の猪川館跡からは掘立柱建物跡、柵列跡、腰郭(段築)等が検出されているほか、中～近世の金の採掘跡が多数確認されている。

<参考・引用文献>

- (1) 安藤今男他(1975);北上山系開発地域 土地分類基本調査(盛).岩手県.
- (2) 貝塚爽平他(1985);日本の平野と海岸.日本の自然4.岩波書店.
- (3) 金子史朗(1972);地形図説2.古今書院.
- (4) 及川 洵(1978);「考古編」.『大船渡市史』.大船渡市.
- (5) 熊谷常正(1981);「Ⅲ. 岩手における考古学の歩み」.『岩手の土器』.岩手県立博物館.
- (6) ———(1985);「1920年代の文化財保護運動」.『岩手県立博物館研究報告第3号』.岩手県立博物館.
- (7) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(1988);『甕る埋蔵文化財』.
- (8) 岩手県埋蔵文化財センター(1982);名高根遺跡発掘調査報告書.
- (9) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(1992);細野Ⅱ遺跡発掘調査報告書.
- (10) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(1994);猪川館跡発掘調査報告書.

周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	時代等 / 備考
1	上甲子Ⅱ	集落跡	縄文/弥生 住居跡 H6/7年調査
2	上甲子Ⅰ	散布地	縄文 土器
3	上甲子Ⅲ	散布地	
4	下甲子Ⅲ	散布地	縄文 土器
5	上代	散布地	縄文 土器(中・晩期)
6	上鷹生	集落跡	縄文/弥生 住居跡 墓壇 土器(前~晩期) 報告遺跡
7	鷹生	集落跡	縄文/古代 縄文土器 土師器
8	下鷹生	集落跡	縄文 土器(晩期)
9	大野林Ⅱ	散布地	縄文 土器
10	大野林Ⅰ	散布地	縄文 土器(晩期)
11	行人沢	散布地	
12	関谷	散布地	縄文 土器(後・晩期)
13	上宿	散布地	縄文 土器(後期)
14	松館	城館跡	中世 主郭 二の郭 腰郭 堀
15	関谷洞窟住居跡	洞穴	縄文/弥生/古代 縄文土器(早・前・中・後・晩) 弥生土器 土師器 石器 骨角器 人骨 県指定史跡
16	板用	散布地	縄文 土器
17	上手	散布地	縄文 土器(後・晩期) 石鎌 石斧
18	萱中Ⅲ	散布地	縄文 土器
19	萱中Ⅱ	散布地	縄文 土器
20	野尻Ⅰ	散布地	縄文 土器
21	野尻Ⅱ	散布地	
22	萱中Ⅰ	散布地	縄文 土器
23	萱中Ⅳ	散布地	縄文 土器(中期)
24	沼田	散布地	縄文 土器(後・晩期)
25	細野Ⅲ	散布地	縄文 土器
26	細野Ⅱ	散布地	縄文/弥生 土器(早~中) 弥生土器 H2年調査
27	細野Ⅰ	散布地	縄文 土器
28	大畑野	散布地	縄文 土器
29	久保	散布地	縄文 土器
30	桑原	散布地	縄文 土器
31	川原城	城館跡	中世 主郭 空堀 平場 腰郭
32	堀内館(御獄古城)	城館跡	中世 主郭 空堀 腰郭
33	堰口	散布地	縄文 土器
34	前田	散布地	縄文 土器
35	猪川城	城館跡	中世 主郭 腰郭 掘立柱建物跡 採掘坑跡 平安:住居跡 土師器 H2~4年調査
36	天神山	散布地	土器
37	根ノ城(根岸城)	城館跡	中世 主郭 空堀 腰郭
38	沢川	散布地	H2年調査
39	上富岡	散布地	縄文/古代 縄文土器 土師器 石鎌
40	畑中	散布地	縄文 土器(後期) 石器
41	長洞	散布地	縄文 土器(中期)
42	殿位	墳墓	迎館遺跡と複合
43	迎館	城館跡	中世 主郭 腰郭
44	下富岡	散布地	縄文 土器 石鎌
45	名高根	集落跡	縄文:住居跡 土坑 土器(中期) 平安:住居跡 土師器 鉄器 S56年調査
46	八幡	散布地	縄文 土器(中期)
47	下中井	散布地	縄文 土器(後期) 石鎌
48	中井貝塚	貝塚	縄文/古代 縄文土器(後・晩期) 土師器 須恵器
49	長谷堂東	散布地	古代 土師器
50	善屋敷	散布地	縄文 縄文土器(中期) 須恵器
51	ソレッコ	散布地	縄文 土器
52	長谷堂貝塚	貝塚	縄文/弥生 住居跡 縄文土器(中~晩期) 弥生土器 骨角器 石器 S46年・H8年調査
53	小山長根	散布地	縄文/古代 縄文土器(前) 土師器
54	向山	散布地	縄文/古代 縄文土器 土師器
55	長谷寺	散布地	縄文/古代 縄文土器 土師器
56	沢田	散布地	縄文/古代 縄文土器 土師器
57	中井	散布地	縄文 土器(中・後期)
58	沢田城(館)	城館跡	中世 主郭 空堀 腰郭
59	赤洞	散布地	平安 土師器 須恵器
60	沢田貝塚	貝塚	縄文/古代 土器(前期) 土師器
61	田茂山城	城館跡	中世 郭 城滅
62	地ノ森	散布地	古代 土師器 蕨手刀 城滅
63	富沢貝塚Ⅰ	貝塚	縄文 土器(晩期) 骨角器 石器
64	富沢貝塚Ⅱ	貝塚	縄文 土器(晩期)
65	尾久根山	散布地	縄文 土器(中・後期) 石皿
66	赤崎城(生形館)	城形館	中世 生形貝塚と複合 城滅
67	生形貝塚	貝塚	縄文 土器(前・中期) 城滅



第6図 大船渡市遺跡分布図

No	遺跡名	種別	時代等 / 備考
68	大洞貝塚	貝塚	縄文 住居跡 土器(後・晩期) 石器 骨角器 県指定史跡
69	上山	散布地	縄文 土器(中期)
70	田中貝塚	貝塚	縄文 土器(後期) 壊滅
71	上坊	散布地	縄文 土器(後期)
72	礼林	散布地	縄文 土器(晩期) 石器
73	下船渡	散布地	縄文 土器
74	下船渡貝塚	貝塚	縄文/弥生 縄文土器(後・晩期) 弥生土器 骨角器 石器 国指定史跡
75	丸森Ⅰ	散布地	縄文 土器
76	下清水	散布地	縄文 土器(中期)
77	清水貝塚	貝塚	縄文 土器(前・中期) 石器 骨角器
78	蛸ノ浦貝塚	貝塚	縄文 土器(前・中期) 石器 骨角器 国指定史跡
79	丸森Ⅱ	散布地	縄文 土器
80	舟河原	散布地	縄文 土器
81	森館	城館跡	中世 腰郭
82	鳥沢	貝塚?	縄文 土器(後期)
83	峯岸	散布地	縄文 土器(中期)
84	内田貝塚	貝塚	縄文 土器(中期)
85	長橋	散布地	縄文 土器(前・中期)
86	細浦上の山貝塚	貝塚	縄文 土器(前～後期)
87	細浦	祭祀跡	土器 石鏝
88	鬼沢貝塚(山岸)	貝塚	縄文 土器
89	小細浦貝塚	貝塚	縄文 土器(中・晩期)
90	門之浜	散布地	縄文/平安 縄文土器(後期) 土師器 須恵器 壊滅
91	名越	散布地	縄文 土器(後期)
92	赤土倉	散布地	土器 石鏝
93	末崎城	城館跡	中世 主郭 二の郭 腰郭 空堀
94	碁石	散布地	旧石器? ハンマーストーン 台石
95	後ノ入	散布地	縄文 土器(前・晩期)
96	鬼沢	散布地	縄文 土器(中・後期)
97	長橋貝塚貝塚	貝塚	縄文 土器(晩期) 壊滅
98	外口	散布地	縄文 土器

Ⅲ 調査の方法と整理

1. 調査の方法

(1) グリッドの設定と遺構名

グリッドは平面直角座標(第X系)に合わせた。調査区内に基点1(X=-95,120・Y=74,200)及び基点2(X=-95,120・Y=74,280)を設け、調査区をほぼ2分する基軸線を設定した。この基軸線を延長し、40×40mのメッシュで調査区全体を大きく区割した。当メッシュの北西端を基準として南北方向にはI・IIの番号、東西方向にはA・B・Cのアルファベットを付してIA・IIAと呼称した。さらに大区画を10等分して4×4mに小区画し、北から0～9、西からa～jを付しIA1a・IB3e等の基本グリッドを設定した。

遺構名は、住居跡には大グリッド名に検出された順を付けて、IA-1住居跡のように命名した。また、土坑類・埋設土器及び炉跡・焼土遺構、集石遺構には小グリッド名を付した。遺構が複数のグリッドにかかる場合は、より若い区画名を取ったが厳密なものではない。

(2) 粗掘と検出・遺構の精査と遺物の取り上げ

遺構検出面までの深さ及び層序の確認のため、7カ所に小規模なトレンチを入れた。この結果、一部を除いて遺物を含まない崖錐堆積物が1m以上の厚さで存在することや、第Ⅲ層以下には弥生時代～縄文時代の遺物包含層が形成されていることが確認された。このため、表土

(第Ⅰ層)及び第Ⅱ層の除去には重機(パワーショベル)を使用し、この後人力によって、遺構の有無を確認しながら第Ⅵ・Ⅶ層面まで掘り下げた。

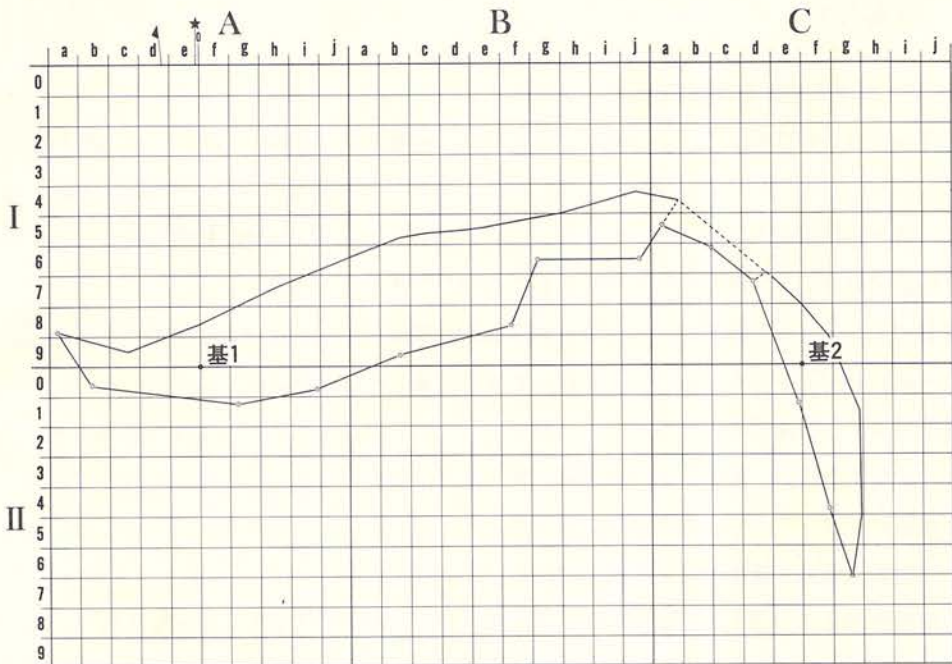
検出された遺構は住居跡は4分法、土坑類は2分法を原則として精査を行なったが、必要に応じてその他の方法も併用した。精査の各段階において図面の作成や写真撮影を適宜行なった。

遺構内出土遺物は、埋土では上部・下部に分けて取り上げ、床面出土の遺物は、必要に応じて写真撮影、図面作成の後に取り上げた。遺構外出土遺物については、グリッド毎に出土した層位を記して取り上げるよう努めた。しかし、旧地形は約25°の急傾斜となっており、細分層位(型式学的層位)の把握及び、これらの各グリッドにおける対応関係の把握は困難であった。

(3) 実測と写真撮影

遺構の平面実測にあたっては、トータル・ステーション及びトランシットを併用し、簡易的な遣り方測量を行なった。実測図は平面図・断面図とも1/20縮尺での作成を原則としたが、炉跡や焼土遺構・埋設土器は1/10の縮尺で図面を作成した。

写真撮影は6×7cm判カメラ(モノクロ)をメインカメラとし、これに35mm判カメラ2台(モノクロ・カラーリバーサル)を補助カメラとして使用した。撮影にあたっては、撮影状況を記した「撮影カード」事前に写し、整理時の混乱を防止した。なお、各遺構の精査が進んだ段階で、小型ヘリコプターによる空中写真の撮影(6×6cm:モノクロ)を行なった。



第7図 グリッド配置図

2. 整理

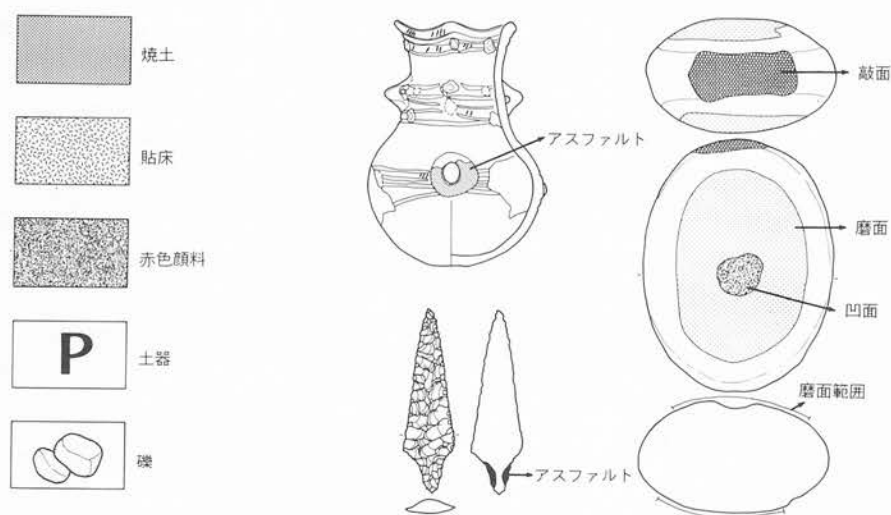
室内での作業は、野外調査で作成した遺構図面の点検と補正及びトレース、遺物の復元と仕分けを優先させて行なった。次に実測・計量・拓本・写真撮影を並行して進めた。この後、実測図の点検とトレースを行ない、図版・写真図版の作成を順に行なった。個々の整理方法及び縮尺は次のとおりである。

(1) 遺構

遺構配置図は発掘調査時に作成した図面を基に1/200の縮尺図を作成し、仕上がり1/400で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケール・縮尺率を付した。住居跡の平・断面図…1/50、炉の断面図…1/25、土坑・墓壇の平・断面図…1/40、炉跡・焼土遺構・埋設土器の平・断面図…1/25。なお、土坑類の軸方向は座標軸からの角度で、平面図における北印も座標北を示す（基1における真北方向角は $0^{\circ} 32' 30''$ 西偏する）。

(2) 遺物

土器の実測図は原則として、反転実測が可能なもの（口縁部・底部が1/6分以上残存するもの）に限ったが、器面に凹凸が著しく、拓本では表現できないものについては平面実測して掲載した。縄文・弥生土器のうち、地文のみが施されているものや、文様が単純なものは、中軸線の左側のみを図化した。掲載遺物の縮尺率は次のとおりである。なお写真撮影は、整理期間と写場の関係で実測に先立って行なったものが多くなったため、実測図の正面と写真の正面が一致しない場合がある。土器の実測図・拓本…1/3、剥片石器・石製品…1/2、磨製石斧・礫石器…1/3、大型の礫石器…1/6。遺物写真の縮尺については、ほぼ実測図に準じている。



第8図 実測図凡例

IV 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居跡・住居跡状遺構

I A - 1 住居跡 1

遺構（第9図・写真図版7）

〈検出状況・重複関係〉I A 9 g・h区、急斜面の下位に位置する。Ⅲ層中で、石囲炉及び貼床の一部が検出されたことで住居と認定した。中央部を雨裂跡によって破壊されているほか、精査時点に床面を掘りすぎている。

〈規模・平面形〉斜面下部にあたる南半部は削剥されている。残存部から推定すると、径3.5～4 m前後の不整な円形基調のプランが考えられる。

〈埋土〉炭化物をわずかに含む黒褐色土の単層である。

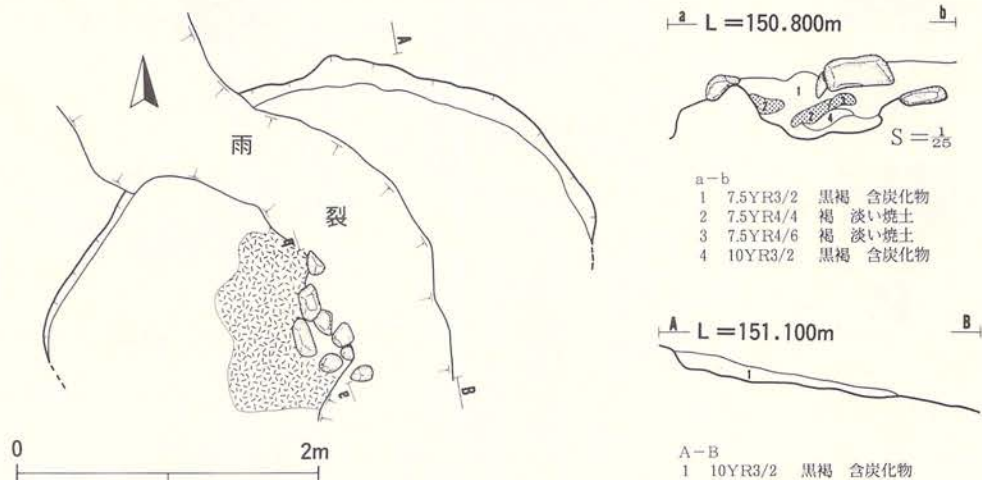
〈壁・床面〉壁高4～20cmで、緩く外傾して立ち上がる。貼床は炉の周辺部のみに分布しており、黄褐色の粘性土を用い2～5 cmの厚さで施こされている。この部分は平坦で硬くしまる。

〈炉〉ほぼ中央と考えられる位置に石囲炉を持つが、東半は雨裂によって破壊されている。径60cm前後の円形を呈していたものと考えられ、深さ23cmの掘り方を持つ。内部には最大6 cmの厚さで、焼土ブロックが見られる。

遺物（第50図・写真図版58）

〈出土状況〉埋土と貼床内及び床下から土器・土製円盤と石器が出土しているが、床下からの遺物は下部の包含層に伴う可能性が高い。

〈土器〉1～8は晩期、9は後期の土器である。1・2は前葉期の注口土器、3～8は中葉



第9図 I A - 1 住居跡

期の鉢・壺及び皿である。9は5単位の大波状口縁を持つ深鉢で、床下からの出土である。

〈土製円盤〉土器の底部を利用したもので、周囲を打ち欠いて成形している。

〈石器〉13は有茎凸器の石鏃で、先端部と茎の部分を欠損する。14は鋭利な側縁部に刃部加工が施された不定形石器、15は3面に使用痕を持つ磨石である。

時期 出土遺物からは明確に時期を決定できないが、検出された層位等を考え合わせると縄文時代晩期前葉～中葉にかけての遺構の可能性が高い。

I A - 2 住居跡

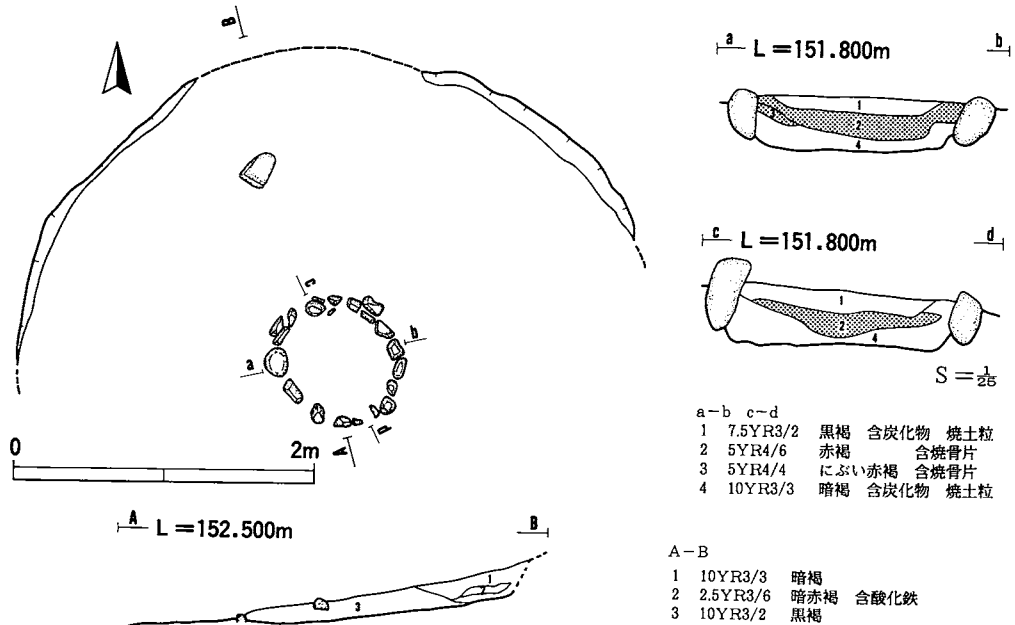
遺構 (第10図・写真図版8)

〈検出状況・重複関係〉I A 9 i・j区、急斜面の下位に位置する。Ⅲ層中部で石囲炉が検出され、住居と認定した。北側でI A - 3住居跡及びI A 8 j - 1土坑と重複し、これらを切っている。また、北壁は墓壇と考えられる遺構(プランを確認することはできなかった)に切られている。

〈規模・平面形〉斜面下位にあたる南半部は削剥されている。残存部からの推定であるが、径4～4.5m前後の円形基調のプランを呈するものと考えられる。

〈埋土〉炭化物をわずかに含む暗褐色土が主体となる。

〈壁・床面〉北壁は重複のため不明である。壁高は4～11cmで、残存部ではいくぶん外傾して立ち上がる。床はⅢ層中で、概ね平坦で硬くしまる。



第10図 I A - 2 住居跡

〈炉〉ほぼ中央と考えられる位置に石囲炉を持つ。5～20cm大の円礫・角礫20個ほどを径90cmの円形に配し、約20cmの掘り方を持つ。内部はよく焼けており、最大8cmの厚さで焼土層が形成されている。

遺物（第51図・写真図版58）

〈出土状況〉埋土から土器・土偶・石器が出土しているが、量は少ない。

〈土器〉16～22は後期、23・24は晩期の土器である。16は頂部に突起を有する大波状口縁の深鉢で、沈線区画の充填縄文と小さな貼り瘤を持つ。23・24は壺の破片で浮彫的文様である。

〈土偶〉25は、肘部分に沈線文を持つ右腕である。

〈石器〉26は、鋭利な縁辺部に使用痕が見られる剥片である。

時期 出土遺物が少なく明確に時期を決定できないが、検出された層位等を考え合わせると縄文時代晩期前葉～中葉にかけての遺構の可能性が高い。

I A - 3 住居跡

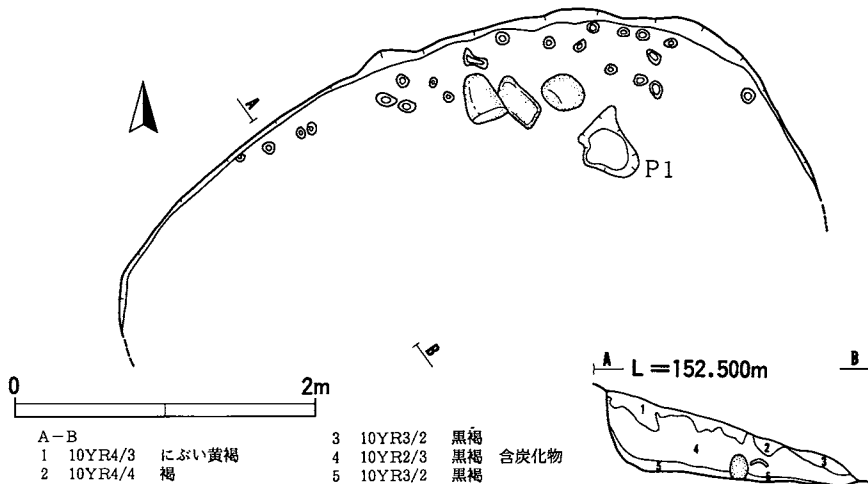
遺構（第11図・写真図版9）

〈検出状況・重複関係〉I A 8 i 区、急斜面の中位に位置する。I A - 2 住居跡の精査時に確認された。同住居跡に切られるほか、I A - 6 住居跡を切っている。なお、I A - 7 住居跡との新旧関係は不明である。

〈規模・平面形〉重複する2つの住居のため、北側の一部が残存するだけである。北壁の状況から、長軸4.5m前後の隅丸長方形～楕円形のプランが推定される。

〈埋土〉黒褐色土を主体とし、上～中部は非常に硬くしまる。

〈壁・床面〉壁高は61～45cmで、各部分ともほぼ垂直に立ち上がる。床は北壁際がⅧ層中で、



第11図 I A - 3 住居跡

他は I A - 6 住居跡の埋土となるが、概ね平坦で硬くしまる。

〈柱穴〉壁際から径 7~15cm、深さ 3~5 cm の小土坑が 23 個検出されたが、支柱穴を構成するような規模のものは無い。なお床面西側から 45×32cm、深さ 8 cm の不整形な土坑が検出されている。

〈炉〉重複のためか、検出されていない。

遺物 (第 51 図・写真図版 58・59)

〈出土状況〉埋土から土器・土製円盤・石器が出土しているが、量は少ない。

〈土器〉いずれも後期の土器である。27 は頂部に肥厚する突起を有する大波状口縁の深鉢で、突起部の表裏に小さな貼り瘤を持つ。28 は、刻み列と充填縄文が施された広口の壺である。

〈土製円盤〉34 一点だけである。羽状縄文が施された後期の土器片を利用し、周囲全面を研磨して成形している。

〈石器〉35 は、両面からの細かい加工によって成形された剥片石器で、厚みと大きさから尖頭器に分類した。

時期 出土遺物は少ないが、検出された層位や重複関係から推定して、縄文時代後期中葉~後葉期の遺構と考えられる。

I A - 4 住居跡

遺構 (第 12 図・写真図版 10)

〈検出状況・重複関係〉I A 9 h 区、急斜面の下位に位置する。Ⅲ層中~下部で石囲炉が検出され、住居と認定した。東側で I A - 5 住居跡を切っている。

〈規模・平面形〉斜面下位にあたる南半部は削剥されている。残存部からの推定であるが、径 4 m 弱の円形のプランを呈するものと考えられる。

〈埋土〉中央部は暗褐色土、壁際は黒褐色土で構成され、層中には僅かに炭化物が含まれる。

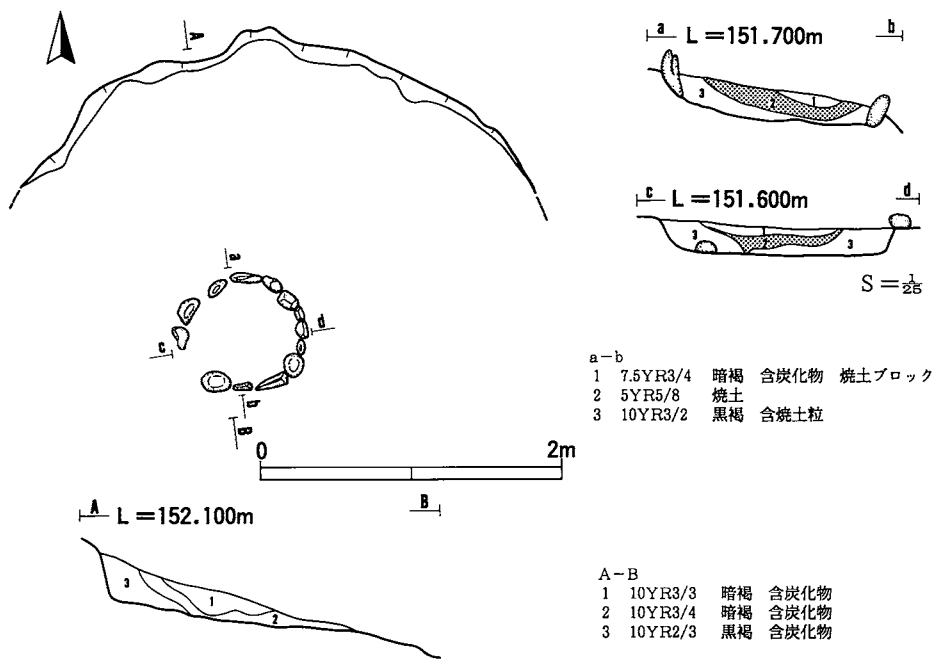
〈壁・床面〉斜面下部の南半部は削剥されているほか、東壁は雨裂によって上部を削られている。最も残存状況の良い北壁東側の壁高は 55~41cm で、各所ともいくぶん外傾して立ち上がる。床は北壁際はⅦ~Ⅴ層、南側はⅢ層中で、概ね平坦で硬くしまる。

〈炉〉ほぼ中央と考えられる位置に石囲炉を持つ。10~25cm 大の円礫・角礫 14 個を径 90cm の円形に配置している。内部には約 10cm の掘り方を持ち、最大 7 cm の厚さで焼土層が形成されている。

遺物 (第 51・52 図・写真図版 59)

〈出土状況〉埋土から土器と石器が出土しているが、量は少ない。

〈土器〉いずれも後期の土器である。36 は口縁部・頸部・胴部に貼り瘤列を持つ深鉢で、こ



第12図 I A—4 住居跡

れに区画された中には縦の細線が充填された入り組み帯状文が施文されている。44は沈線区画の縄文帯に小さな貼り瘤を伴う。

〈石器〉45は頸部を欠損する有茎凸基の石鏃で、片面には身部の上方までアスファルトの付着が見られる。46は抉入状の使用痕を持つ剥片である。

時期 出土した土器の特徴及び重複関係から推定して、縄文時代後期後葉期の遺構と考えられる。

I A—5 住居跡

遺構（第13図・写真図版11）

〈検出状況・重複関係〉I A 9 g区、急斜面の中位に位置する。雨裂跡の壁面及びI A—4住居跡の精査時に壁の立ち上がりを確認した。西壁の上部をI A—4住居跡に切られている。

〈規模・平面形〉斜面下位にあたる南半部は削剥されている。残存部からの推定であるが、径4 m弱の円形のプランを呈するものと考えられる。

〈埋土〉3層に大別され上部は黄褐色土、中部から下部は壁際が褐色土、中央部は黒褐色土で構成される。なお上部及び壁際の土層は、人為的な廃棄土の可能性が高い。両層も非常に硬い。

〈壁・床面〉北壁中央部は雨裂、東壁は4住居跡によって上部を削られている。最も残存状況の良い北壁東側の壁高は75cmで、各所ともほぼ垂直に立ち上がる。床は、全体に硬くしまる。壁際ではⅦ層まで掘り込まれ平坦であるが、中央部はⅤ～Ⅲ層下部層で、炉を中心とする約1.5m四方の範囲は緩く凹んでいる。

〈柱穴〉柱穴状の小土坑は3基検出された。これに北西部に位置する不整形土坑P1を合わせた4本の配置が考えられる。

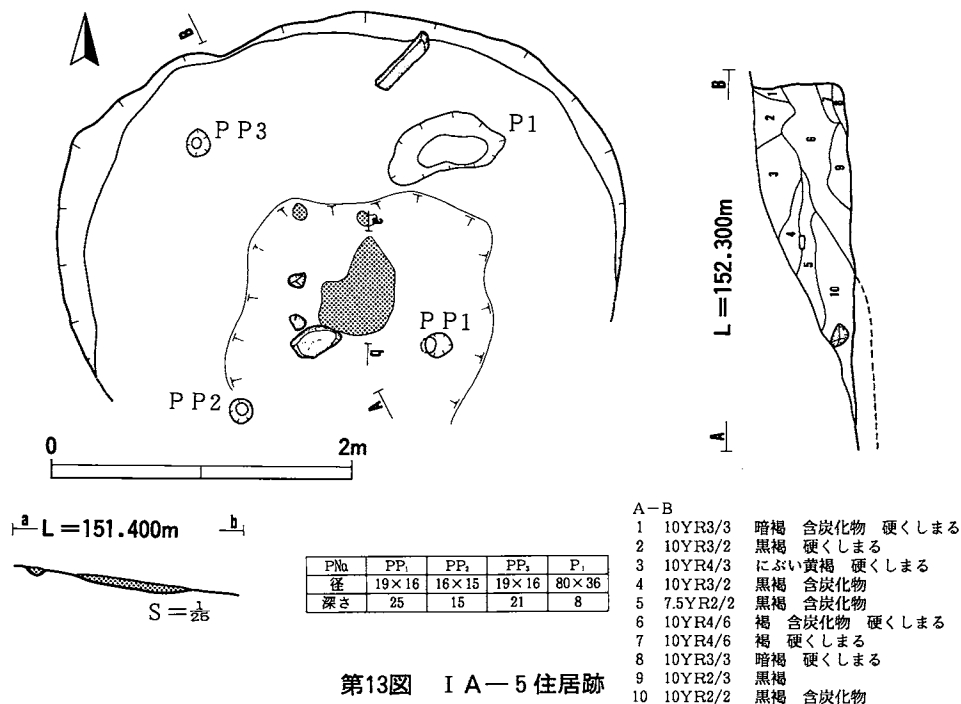
〈炉〉地床炉で、ほぼ中央に位置する。50×65cmの範囲に最大3cmの厚さで焼土層が形成されている。なお凹んだ範囲内にはこの他に小規模な焼土の分布が見られ、炉の作り変えが行なわれた可能性がある。

遺物（第52・53図・写真図版59・60）

〈出土状況〉床面直上及び埋土から土器と石器が出土している。埋土出土のものは、下部からの出土が多い。

〈土器〉いずれも後期の土器である。鉢、深鉢、壺、注口土器があり、器種は豊富である。多くは沈線区画の充填縄文と刻み列を有する。48は平行沈線文と矢羽根状の短沈線文、低い貼り瘤が施された壺である。62～64は後期前葉期の土器である。

〈石器・石製品〉69は無茎凹基の石鏃、70は縦形の石匙である。71は棒状の石錐、72・73は厚さと大きさから尖頭器に分類した。74～77は不定形石器、78は部分的に刃部加工が施された剥片である。79は刃部を欠損する磨製石斧で、欠損部分は周囲から剥離が加えられていること



第13図 I A—5 住居跡

剥片である。79は刃部を欠損する磨製石斧で、欠損部分は周囲から剥離が加えられていることから、再利用を試みたものと考えられる。80は扁平な自然礫の上部に、左右から挟りを入れた石製品で、垂れ飾りと思われる。

時期 出土した土器の特徴と重複関係から、縄文時代後期中葉期の遺構と考えられる。

I A - 6 住居跡

遺構（第14図・写真図版12）

〈検出状況・重複関係〉I A 9 i 区、急斜面の中位に位置する。I A - 3 住居跡の精査時に壁の立ち上がりを確認した。西壁を除いて同住居跡に壁の上部を削られるほか、北東部でI A - 7 住居跡と重複する。7 住居跡との新旧関係は不明である。

〈規模・平面形〉南壁の一部は削剝を受けているが、ほぼ全体が残存している。規模は東西5.1m、南北4.3mで、東西にいくぶん長い楕円形を呈する。推定される床面積は約15㎡である。

〈埋土〉3層に大別され上部は硬くしまる黒褐色土、中部は黒褐～暗褐色土、下部は黒褐土で構成される。また、中部には最大約15cmの厚さで焼土層が堆積する。明確に残存する床面とのレベル差が30cm程あるが、この焼土が7住居跡の炉であった可能性を残す。

〈壁・床面〉最も残存状況の良い北壁東側の壁高は86cm、他は35～10cmで、各所とも僅かに外傾して立ち上がる。床は壁際がⅦ層、その他の部分はⅤ～Ⅲ層下部層で、南端部を除いて平坦で硬くしまる。

〈柱穴〉柱穴状の小土坑は10基検出されたが配置等は不明である。また、北西部には径5～13cm、深さ3～8cmの小規模な土坑が基検出されている。壁柱穴と考えられる。

〈炉〉地床炉で、ほぼ中央に位置する。80×95cmの範囲に最大9cmの厚さで焼土層が形成されている。

〈その他〉中央東側に、径55×44cm、深さ24.5cmの摺り鉢状土坑が検出されているが、詳細は不明である。

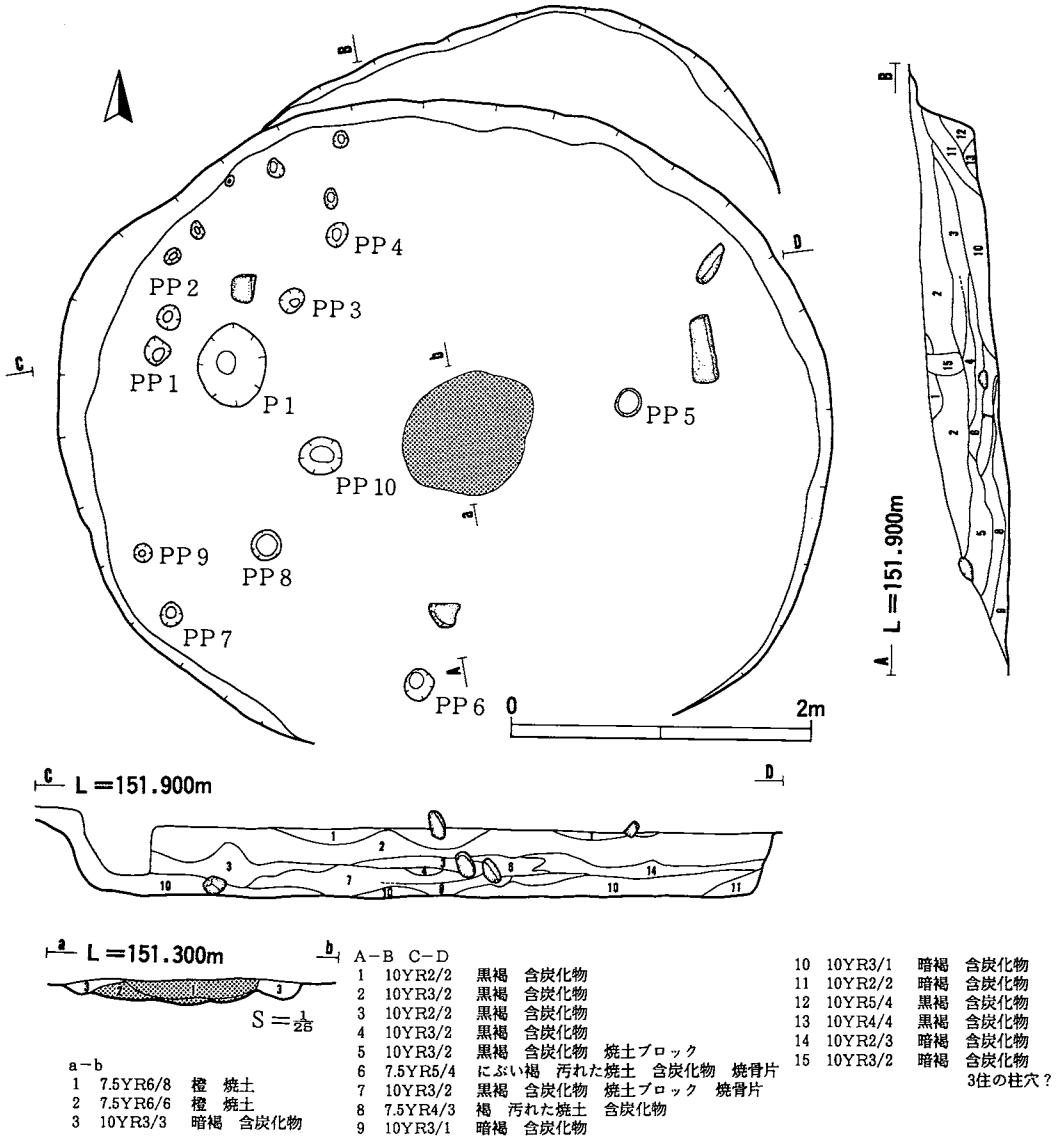
遺物（第53～56図・写真図版61～63）

〈出土状況〉床面及び埋土から土器・土製円盤と石器が出土している。出土量は検出された遺構中最も多い。床面と埋土の下部から出土したものを中心に掲載した。

〈土器〉いずれも後期の土器である。81は香炉形土器の天井部分で、細い縄文帯と小さな貼り瘤によって文様が構成されている。床面から出土したが、遺構外から出土した破片と接合した。82～104は、沈線区画の充填縄文と刻み列による文様を持つものが多い。105～108は充填縄文に貼り瘤を伴う。

〈石器〉117～120は有茎凸基、121は無茎凹基の石鏃である。123は縦・横中間形の石匙、124・

125は身部につまみを有する石錐、126は棒状、127は剥片の尖端部を利用した石錐である。128～131は尖頭器として分類した。この他の剥片石器としては、不定形石器（132～141）、部分的に刃部加工を持つ剥片（142・143）、使用痕が見られる剥片（144・145）を掲載した。146は、刃部を欠損する磨製石斧で、欠損部にはアスファルトが付着している。147・148は表裏両面に使用痕が見られる磨石で、後者の片面側は凹石としても使用されている。



第14図 I A-6・7 住居跡

〈土製円盤〉羽状縄文が施された土器片を利用し、周囲の全面を研磨して成形している。

時期 出土した土器の特徴と重複関係から、縄文時代後期中葉期の遺構と考えられる。

I A - 7 住居跡

遺構（第14図・写真図版12）

〈検出状況・重複関係〉I A - 3 住居跡の精査時に確認された。当初 I A - 6 住居跡と一連の遺構と考えたため、3 住居跡及び6 住居跡との新旧関係を把握することが出来なかった。

〈規模・平面形〉重複のため、北～東壁の一部が残存するだけである。残存部からの推定では、長軸4 m前後の隅丸長方形～楕円形のプランを呈するものと考えられる。

〈埋土〉固有の土層断面は作成していない。調査時の観察では炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体となっていた。

〈壁・床面〉壁高は5～10cmで、各部とも外傾して立ち上がる。床はⅦ層で、いくぶん凹凸があるが硬くしまる。

〈炉〉床面と同レベルでは検出されていない。しかし、重複する6 住居跡の埋土中部に焼土層が認められる。床面との比高は約30cmあるが、位置的にはほぼ中央にあたりこの焼土層が当住居跡の炉である可能性も考えられる。

時期 固有の出土遺物はなく詳細は不明であるが、他の住居跡との重複関係から縄文時代後期中葉期以降の遺構と考えられる。

II A - 1 住居跡

遺構（第15図・写真図版13）

〈検出状況・重複関係〉II A 0 e 区、急斜面の下位に位置する。Ⅲ層中で、石囲炉及び貼床の一部が検出されたことで住居と認定した。直接重複する遺構はないがII A - 1 住居跡状遺構の埋土上部を切る形になる。

〈規模・平面形〉貼床が施されている北壁部以外は、いずれも不明瞭である。残存部からは、径3 m前後の不整な円形が推定できる。

〈埋土〉炭化物と焼土粒を僅かに含む、黒～黒褐色土の単層である。

〈壁・床面〉貼床部分から緩く傾斜しており、壁の明確な立ち上がりは確認出来ない。床はⅢ層中で、炉の周辺部以外は凹凸が見られ、貼床部分を除いて軟らかい。

〈炉〉ほぼ中央と考えられる位置に石囲炉を持つ。10～30cm大の円礫12個を、60×50cmの不整な円形に配し、深さ25cmの掘り方を持つ。内部には最大15cmの厚さで、汚れた焼土層が見られる。

遺物 (第56図・写真図版63)

〈出土状況〉炉及び床面直上から土器が出土しているが、量は極めて少ない。

〈土器〉いずれも晩期の土器である。150は炉の直上から出土した注口土器である。口縁部には6単位の突起を持ち、胴部には浮彫的な変形工字文が施されている。

時期 出土した土器の特徴と検出面から推定して、縄文時代晩期後葉期の遺構である可能性が高い。

II A-2 住居跡

遺構 (第16図・写真図版14)

〈検出状況・重複関係〉VII層上面で、黒褐色土の広がりとして検出された。東部でII A-3住居跡と重複しこれを切っている。また、埋土の上部をII A 0 g埋設土器に切られている。

〈規模・平面形〉南半部は調査区域外にかかっている。また、当初3住居跡との重複がわからず、精査を行なったことから東壁の一部を掘りすぎている。残存部から推定すると、径4.5m前後の円形を呈するものと考えられる。

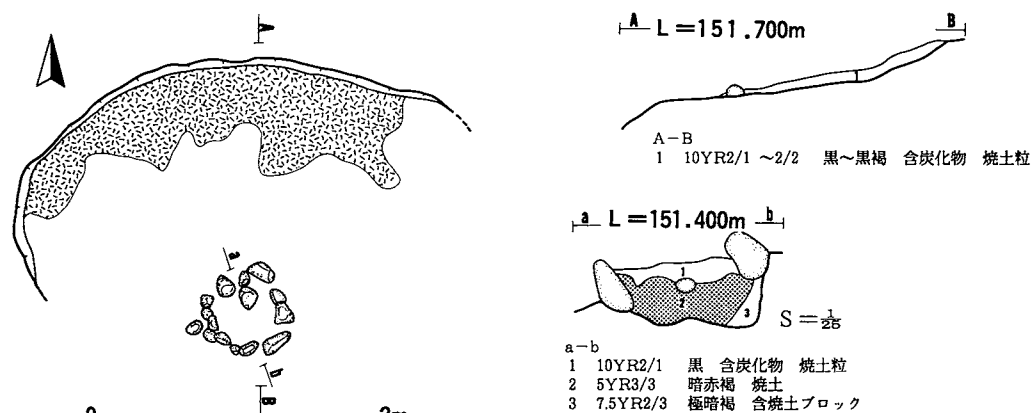
〈埋土〉自然堆積の様相を呈し9層に細分されるが、全体に炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体となっている。なお、最下部に位置する黒褐色土の薄層は、貼床の可能性はある。

〈壁・床面〉壁高は84~30cmで、いずれもほぼ垂直に立ち上がる。床は3住居跡と重複する部分では黒褐色土であまりしまりはないが、他はVII層を深く掘り込んでおり、平坦で非常に硬くしまる。

〈炉〉精査した範囲内では検出されなかった。

遺物 (第56・57図・写真図版63・64)

〈出土状況〉埋土から土器が出土しているが、量は少ない。



第15図 II A-1 住居跡

〈土器〉後期の土器と晩期の土器が出土しているが、量的には後期が卓越する。156・157・171・172は晩期の土器である。後期の土器は充填縄文と刻み列が施文されるものが多いが、168は細い平行沈線と豆粒状の貼り瘤による文様を持つ。174は大型の注口土器で、沈線区画の充填縄文によって、入り組み文が構成され、注口部の上下には小突起が付けられている。

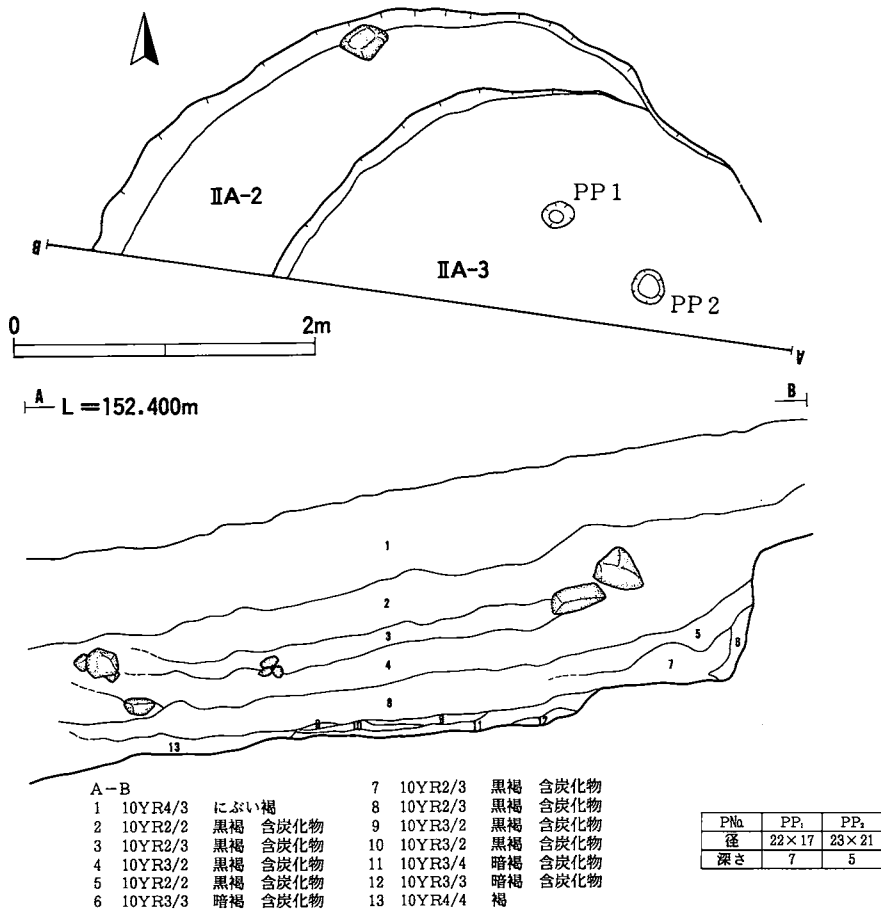
時期 埋土下部から出土した注口土器の特徴から、縄文時代後期後葉期の遺構である可能性が高い。

Ⅱ A - 3 住居跡

遺構（第16図・写真図版15）

〈検出状況・重複関係〉Ⅱ A - 2 住居跡の精査中にその存在が確認された。残存する壁のほとんどが、住居跡によって上部を削られている。

〈規模・平面形〉2 住居跡と同様に、南半部は調査区域外にかかっている。また、斜面下位



第16図 Ⅱ A - 2・3 住居跡

にあたる東壁は削剝を受けている。残存部から推定すると、径3.5m前後の円形を呈するものと考えられる。

〈埋土〉最下部のみの残存で、炭化物を僅かに含む黒褐～暗褐色土で構成される。

〈壁・床面〉壁高は15～13cmで、いずれもほぼ垂直に立ち上がる。床は東部を除いてⅦ層で、全体に平坦で非常に硬くしまる。

〈柱穴〉柱穴状の小土坑は2個検出されているが、いずれも浅く明確なものではない。

〈炉〉精査した範囲内では検出されなかった。

遺物（第57図・写真図版64）

〈出土状況〉埋土下部から土器片が出土しているが、量は極めて少ない。

〈土器〉いずれも後期の土器片である。175は沈線区画による大柄な磨消縄文が施された深鉢片である。

時期 出土遺物が少なく、時期の詳細を判断することは難しいが、重複関係を考え合わせると、縄文時代後期中葉期の遺構の可能性が高い。

Ⅱ A - 4 住居跡

遺構（第17図・写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉Ⅱ A 0 g区、緩斜面の上部に位置する。Ⅴ層相当面で、地床炉に伴う黒褐色土の広がりとして検出された。

〈規模・平面形〉北壁以外は削剝されているほか、南半部は調査区域外にかかっている。残存部から推定すると、径4.5m前後の円形を呈するものと考えられる。

〈埋土〉北半の一部しか検出できなかった。炭化物と焼土粒を僅かに含む、黒褐色土が主体をなす。

〈壁・床面〉壁高は26～10cmで、各所ともほぼ垂直に立ち上がる。床は壁際ではⅦ層、他はⅤ～Ⅲ層下部層で、南端部を除いて平坦で硬くしまる。

〈柱穴〉柱穴状の小土坑は6個検出されたが、配置等は不明である。

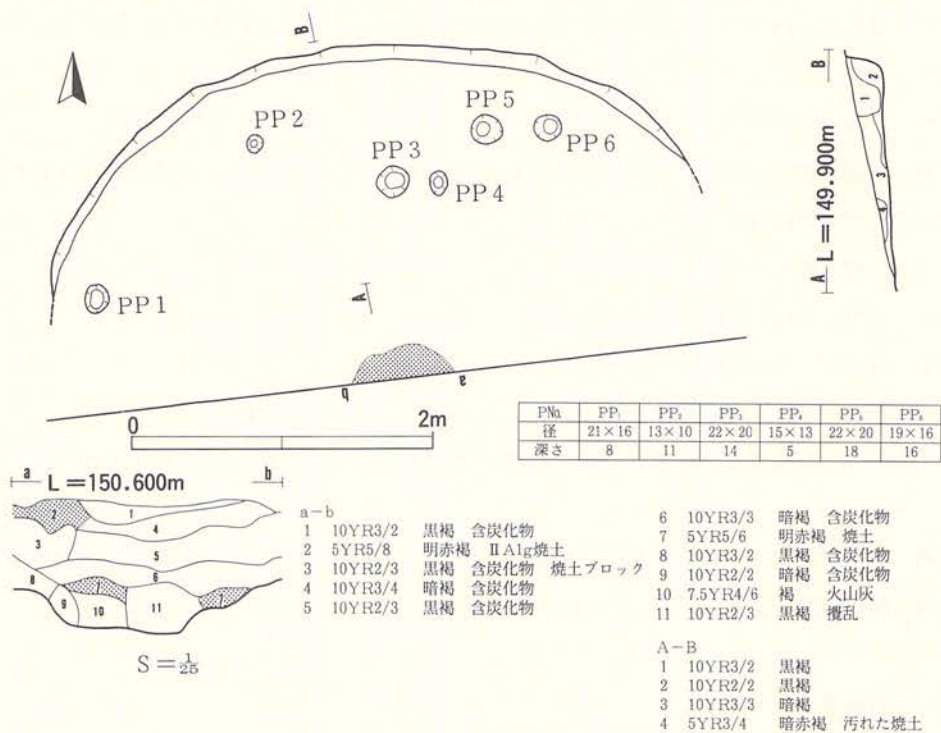
〈炉〉ほぼ中央と考えられる位置に地床炉を持つが、南半部は調査区域外にかかる。調査範囲内では、最大6cmの厚さに焼土層の形成が見られた。

遺物（第57・58図・写真図版64）

〈出土状況〉埋土の下部から土器と石器が出土しているが、量は少ない。

〈土器〉いずれも後期の土器である。179～182は波状口縁を呈する深鉢で、沈線区画の充填縄文と刻み列が施されるものが多い。

〈石器〉186は、つまみ部分を欠損する石匙である。



第17図 II A-4 住居跡

時期 出土した土器の特徴と検出層位から、縄文時代後期中葉期の遺構と考えられる。

II A-5 住居跡

遺構 (第18図・写真図版17)

<検出状況・重複関係> II A 0 h区、緩斜面の上部に位置する。Ⅲ層の下部～Ⅴ層相当面で、暗褐色土の広がりとして検出された。

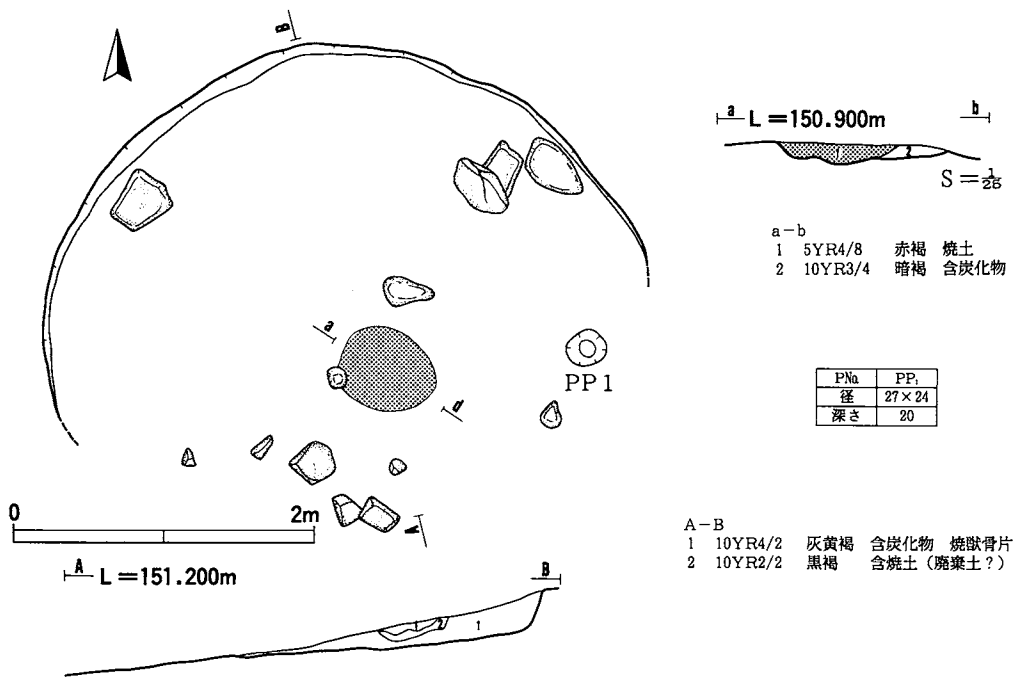
<規模・平面形> 斜面下部に当たる南半部は削剝を受けている。残存部から推定すると、径3.5～4mの円形あるいは楕円形を呈するものと考えられる。

<埋土> 炭化物及び焼骨片を含む暗褐色土が主体となるが、一部に廃棄土と考えられる汚れた焼土を含む黒褐色土が堆積する。

<壁・床面> 北壁の壁高は30～23cmで、各所ともいくぶん外傾して立ち上がる。床は壁際ではⅦ層、他はⅤ層～Ⅲ層下部層で、南端部を除いて概ね平坦で硬くしまる。

<柱穴> 柱穴状の小土坑は1個のみで、配置等は不明である。

<炉> 中央やや南寄りと考えられる位置に地床炉を持つ。65×55cmの範囲に、最大7cmの厚さで焼土層が形成されている。



第18図 II A-5 住居跡

遺物 (第58図・写真図版64・65)

〈出土状況〉床面及び床面直上から土器と石器が出土しているが、量は多くない。

〈土器〉いずれも後期の土器片である。187～197は、沈線区画の磨消縄文及び充填縄文による文様を持ち、188～190は刻み列を伴う。197は、地文に網目状の捺糸文が施されている。

〈石器〉200～202は石鏃で200は有茎凸基、202は有茎平基鏃に分類した。203は、挟入状の使用痕を持つ剥片である。

時期 出土した土器の特徴と検出層位から、縄文時代後期中葉期の遺構と考えられる。

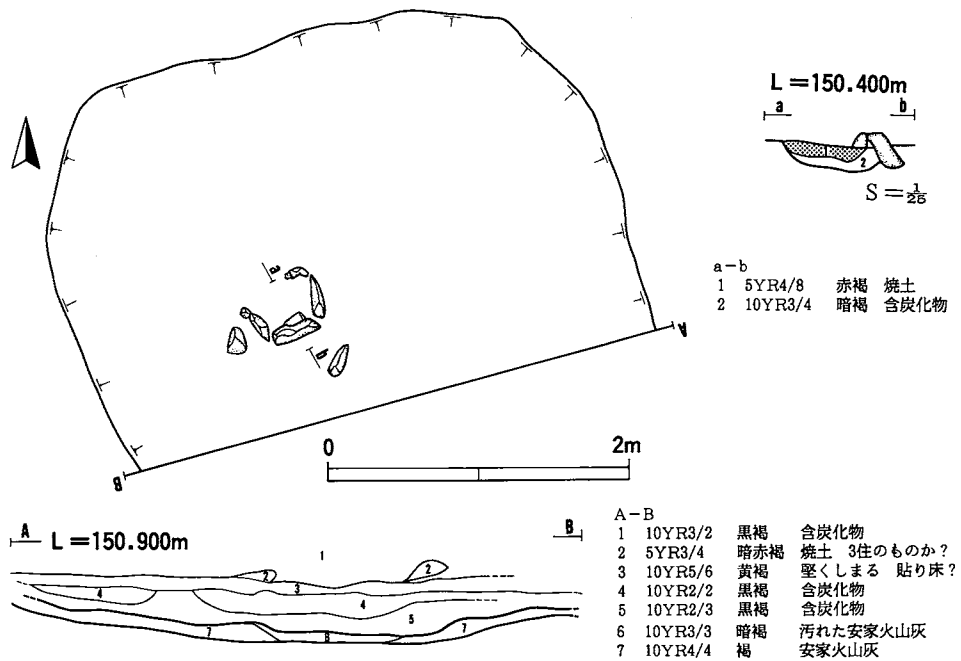
II A-6 住居跡

遺構 (第19図・写真図版18)

〈検出状況・重複関係〉II A 0 i 区、緩斜面の上位に位置する。IV層相当面(III層最下部)及びV層面で、黒褐色土の不整な広がりとして検出された。

〈規模・平面形〉南端部は調査区域外にかかる。残存部から推定すると、一辺3.5～3.7m前後の隅丸方形または隅丸長方形を呈するものと考えられる。

〈埋土〉炭化物を含む黒褐色土が主体となる。南端部分ではこの上部に黄褐色土の堆積が見



第19図 II A-6 住居跡

られる。分布範囲が狭く詳細は不明であるが、当層は南側で重複関係を持つ住居跡の貼床の可能性はある。

〈壁・床面〉全体に緩い傾斜で検出面につながり、明確な立ち上がりは認められない。北側検出面と床面中央部との比高は約30cmである。床は壁際から北半部がV層、他はⅢ層下部からIV層上部で、中央を中心として緩く凹んでおり、割合硬い。

〈炉〉中央やや西寄りと考えられる位置に石囲炉を持つ。25～35cm大の扁平な角礫を用い、北側が開く「コ」字状に配置している。内部には15cmの掘り方を持ち、最大5cmの厚さで焼土層が形成されている。

遺物（第58図・写真図版65）

埋土の下部から土器片が出土しているが、多くは重複する住居跡に伴う遺物の可能性がある。

〈土器〉204～211は、後期の土器片である。211を除いて、沈線区画の充填及び磨消縄文によって文様が構成される。212は地文のみが施された土器片で、詳細は不明であるが、胎土及び地文の施文方向から後期前葉～中期末葉期の土器である可能性を持つ。

時期 出土した土器の特徴からは、縄文時代後期中葉期の時期が想定されるが、重複関係及び検出層位を考え合わせると、これより以前の遺構の可能性が高い。

I B - 1 住居跡

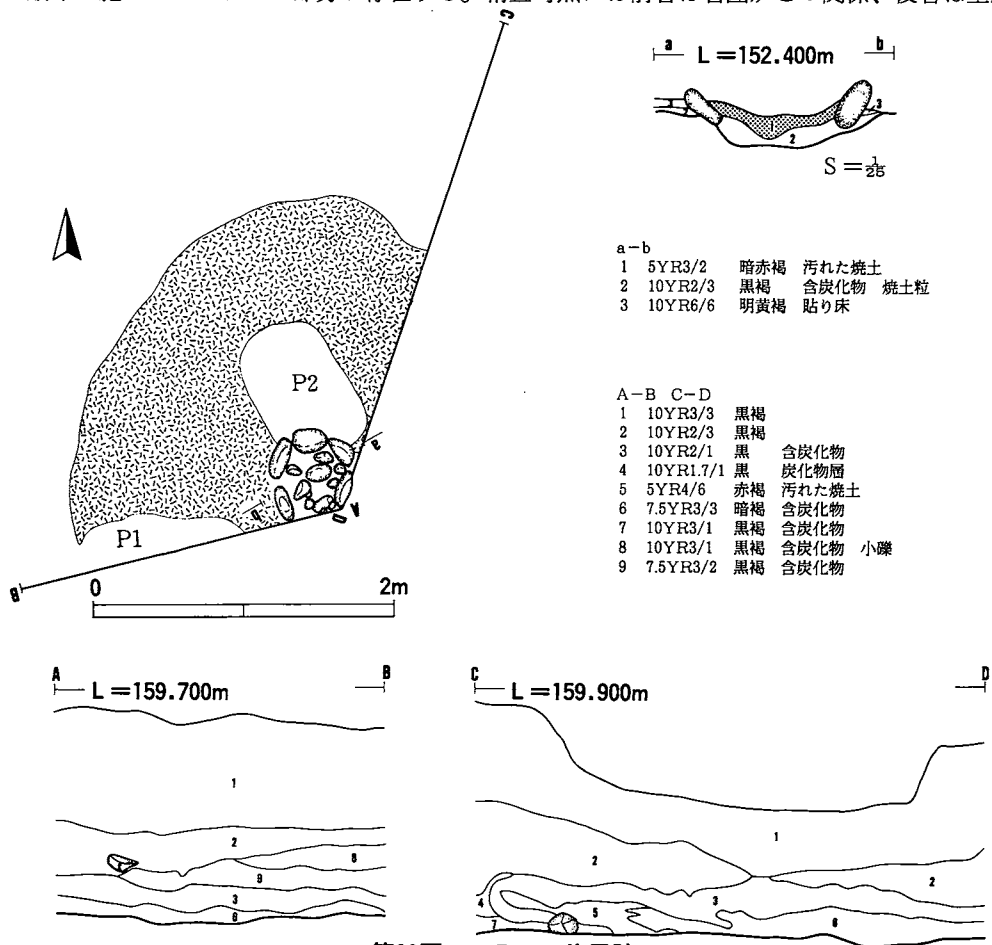
遺構 (第20図・写真図版19)

<検出状況・重複関係>Ⅲ層中部で、石囲炉及び貼床が検出されたことで住居と認定した。直接重複する遺構はない。

<規模・平面形>南側及び東側は調査区域外となっているほか、残存部でも壁の立ち上がりを把握できなかったことから、規模及び形状の詳細は不明である。貼床の範囲から推定して、径3.5m前後の円形を基調とした住居跡と考えられる。

<埋土>上部は黒色土、下部は黒褐色土で構成される。いずれの層中にも炭化物が含まれるほか、北東部では両層間に廃棄土と考えられる汚れた焼土層が介在する。

<床面>貼床は黄褐色の粘土質土を用い、10~5cmの厚さに施されており、概ね平坦で硬くしまる。なお、炉の西側(P1)と北側(P2)には、95×60cm、110×30cmの楕円形の範囲に貼床が施されなければならない部分が存在する。精査時点には前者は石囲炉との関係、後者は土層



第20図 I B - 1 住居跡

断面の観察から当住居に伴う遺構と判断した。しかし半截の結果、双方とも明確な底面を把握することができず、土坑であるかどうかは不明である。

〈炉〉ほぼ中央と考えられる位置に石囲炉を持つ。20～25cm大の楕円礫6個を、60×55cmの円形（六角形）に配置している。内部には深さ15cmの掘り方を持ち、最大8cmの厚さで焼土層が形成されている。なお、炉の内側には、8～18cm大の円礫が数個置かれていた。

遺物（第59図・写真図版65・66）

〈出土状況〉床面及び炉脇の小土坑から土器が出土しているが、小土坑出土のものは、下部の包含層に伴う遺物の可能性がある。

〈土器〉213・214は、P2から一括して出土した壺形土器である。いずれも頸部に三叉文、胴部には磨消縄文による文様を有する。214は、胴部中央にも三叉文系の文様が施されている。216は炉脇の床面直上から出土した鉢破片で、頸部に平行沈線と刺突列を持つ。

時期 出土した土器は時期差を持つ上、出土状況も今一つ明確ではないことから明確に時期を判断できない。一応、縄文時代晩期の住居跡であるということに止める。

I B - 2 住居跡

遺構（第21図・写真図版20・21）

〈検出状況・重複関係〉I B 8 b・c区、急斜面の最下位に位置する。V層相当面で、黒褐色土の広がりとして検出された。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉全範囲が検出された。東西4.2m、南北3.5mの東西方向にやや長い楕円形を呈する。床面積は9.74㎡である。

〈埋土〉全体に自然堆積の様相を呈し、上部は黒褐色土、中部は暗褐色土、下部は黒褐色土で構成されるが、中部の暗褐色土中には土器片や土偶破片を含み、人為的廃棄土の可能性が有る。

〈壁・床面〉壁高は63～5cmで、いずれもいくぶん外傾して立ち上がる。床は北壁際がVI a層、他はIII層下部～V層で、全体に概ね平坦で硬くしまる。

〈柱穴〉柱穴状の小土坑は4個検出された。いずれも浅く、不明確なものもあるが、これらを結ぶ四角形の配置が考えられる。

〈炉〉床面中央部に地床炉を持つ。80×60cmの範囲に、最大8cmの厚さで焼土層が形成されている。

遺物（第60～62図・写真図版66～68）

〈出土状況〉埋土から土器・石器・土偶が出土している。ほとんどの遺物は、上部～中部に堆積する暗褐～黒褐色土（土層断面図2層）からの出土で、この他は極めて少ない。層内での

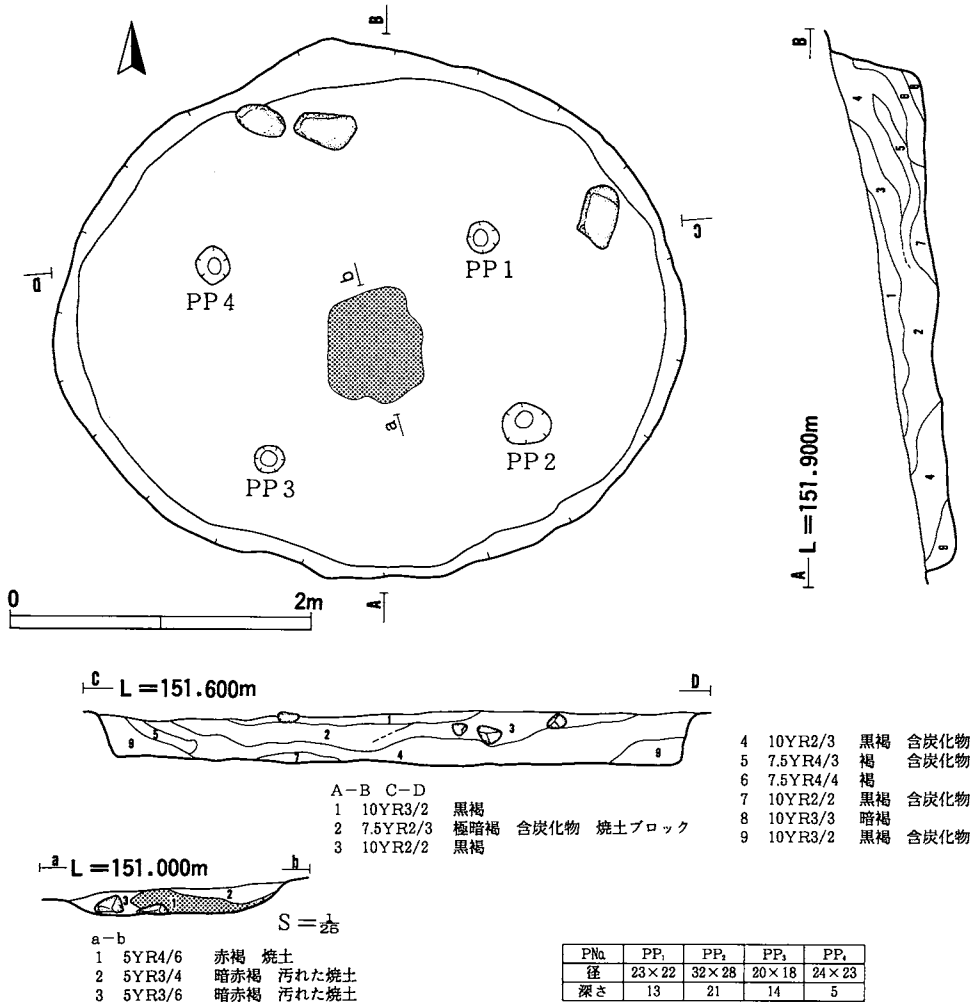
上下はあるが、あまり時間差を持たずに廃棄されたものと考えられる。

〈土器〉いずれも後期の土器である。器種には鉢、深鉢、壺がある。220は鉢で、4単位の低い突起を持ち、沈線区画の刻み列と充填縄文によって文様が構成されている。他も沈線区画の大柄な充填・磨消縄文が施されるものが多い。

〈石器〉237は横形の石匙、238は部分的な刃部加工を持つ剥片である。

〈土偶〉239は胴下半部と左足を残存する土偶で、へそ及び正中線は刻みを伴う隆帯で表現されている。中実であるが中心部は生焼けて、粘土が脱落している。240～242は胎土と縄文から同一個体である可能性がある。240は頭部で眉、鼻、目、口は隆帯で表現されている。

時期 いずれも直接遺構に伴う遺物ではないが、出土状況から推定して、縄文時代後期中葉期の遺構と考えられる。



第21図 I B-2 住居跡

I A - 1 住居跡状遺構

遺構 (第22図・写真図版22)

〈検出状況・重複関係〉 I A 9 g 区、急斜面の下位に位置する。II A - 5 住居跡の精査中にその存在が確認された。東西両側を雨裂跡によって破壊されており、残存部は極僅かであるが、壁の状態から住居跡状遺構とした。土層断面の観察では5住居跡より新しい遺構であるが、確認が遅れたため実測図では表現できなかった。

〈規模・平面形〉残存部が少ないため、いずれも不明である。

〈埋土〉炭化物を僅かに含み、硬くしまる暗褐色土の単層である。

〈壁・床面〉壁高は37~25cmで、いくぶん外傾して立ち上がる。床はVII~V層で、凹凸があるが硬くしまる。

遺物 (第62図・写真図版68・69)

〈出土状況〉埋土から土器と石器が出土している。

〈土器〉243~246は、埋土の中部から下部にかけて出土した後期の土器片である。243は沈線区画の刻み列が2段に巡る、口縁部片である。247は埋土の上部から出土した晩期の土器片で、浮彫的な羊歯状文を持つ。

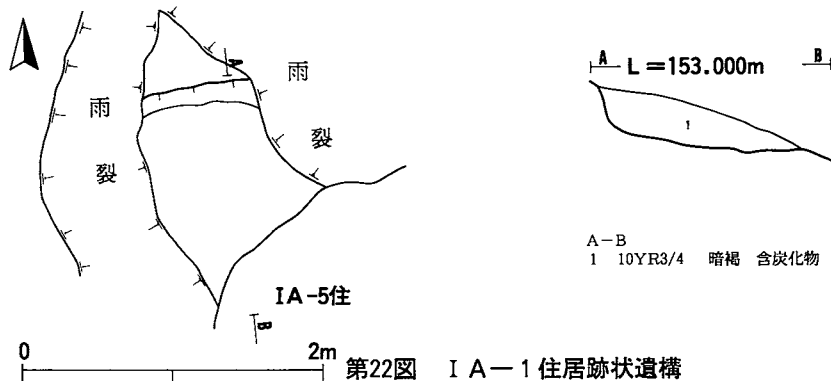
〈石器〉429は縦横中間形の石匙、250は周囲に刃部加工が施された不定形石器である。

時期 出土した土器の特徴と重複関係から、縄文時代後期中葉期の遺構と考えられる。

II A - 1 住居跡状遺構

遺構 (第23図・写真図版23)

〈検出状況・重複関係〉 II A 0 e 区、急斜面の下位に位置する。VII層上面で、黒褐色土の不整な広がりとして検出された。北東部でII A - 2 住居跡状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。なお、推定されるプランの範囲内西側からII A 0 f 石囲炉が検出されたが、床面との比高差が約30cmあり、別個の遺構として扱った。



〈規模・平面形〉北壁以外は削剥されている。残存部から推定すると、長軸3.5m前後の楕円形または隅丸長方形を呈する可能性がある。

〈埋土〉炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体をなし、壁際には暗褐色土が堆積する。

〈壁・床面〉壁高は32~10cmで、外傾して立ち上がる。残存部の床はⅦ層で、いくぶん凹凸があるが硬くしまる。

〈柱穴〉柱穴状の小土坑は6個検出されたが、配置等は不明である。

遺物（第62図・写真図版69）

〈出土状況〉埋土から土器片が出土しているが、量は極めて少ない。

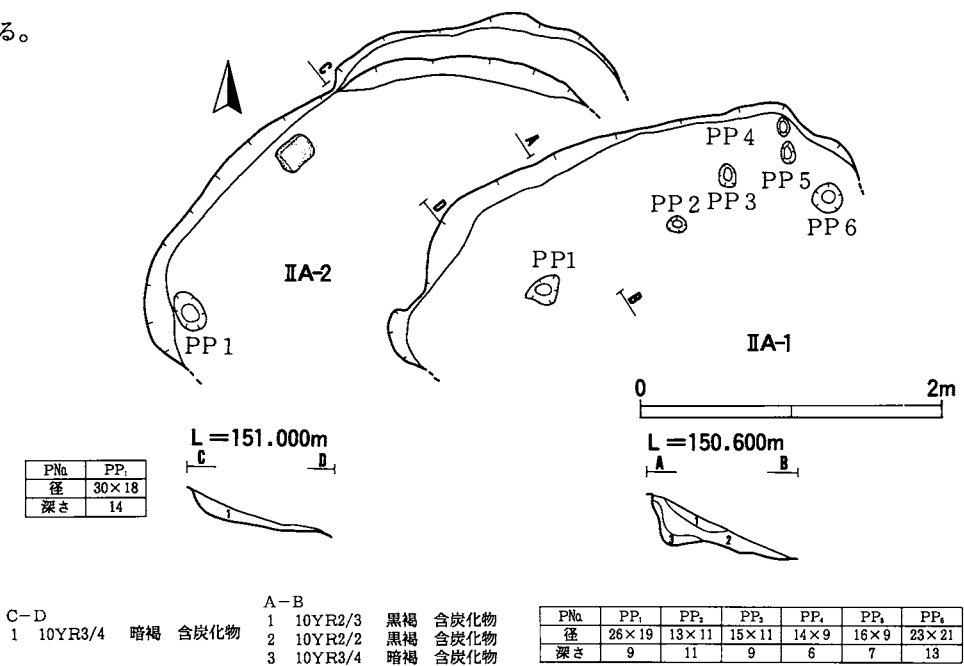
〈土器〉いずれも後期の土器片である。251は沈線区画の充填縄文と貼り瘤を持ち、252は地文として櫛歯状の状痕文が施されている。

時期 遺物量が少なく時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期の遺構の可能性はある。

Ⅱ A - 2 住居跡状遺構

遺構（第23図・写真図版24）

〈検出状況・重複関係〉Ⅱ A 0 e区、急斜面の下位に位置する。Ⅶ層上面で、暗褐色土の不整な広がりとして検出された。南西部でⅡ A - 1 住居跡状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。



第23図 Ⅱ A - 1・2 住居跡状遺構

〈規模・平面形〉北壁以外は削剥されている。残存部から推定すると、長軸3.5m前後の不整な楕円形または隅丸長方形を呈する可能性がある。

〈埋土〉炭化物を僅かに含む暗褐色土の単層である。

〈壁・床面〉壁は東部では明確なものではない。壁高は38～10cmで、緩く外傾してに立ち上がる。残存部の床はⅦ層で、凹凸があるが硬くしまる。

〈柱穴〉柱穴状の小土坑は、北西隅から1個検出された。

時期 出土遺物はなく時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期の遺構の可能性はある。

2. 土坑類

土坑は66基を登録、掲載した。検出面や出土遺物から1基を除いて縄文時代の土坑である。1基は出土遺物から中世の遺構で、記述は後項で行っている。また、集石の下部から検出された4基については集石の項で扱っている。縄文時代の65基のうち、形状や形態から墓塚と考えられるものが56基あるが、この他にもプランは確認できなかったものの、赤色顔料が分布していた地点が数カ所で見られ、実数は登録数より多くなる。なお、集石下部から検出された土坑についても、墓塚の可能性が高い。

I A 8 j - 1 土坑 (第24図・写真図版25)

遺構 〈検出状況・重複関係〉Ⅳ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。西側でI A - 3 住居跡、南東部でI A 8 j - 2 土坑と重複するが、何れも新旧関係は不明である。なお、当土坑に伴うものかどうかは不明であるが、上部に径55～10cm大の礫が集石状に検出された。(集石の項参照) 〈規模・形態〉南半部は削剥されている。残存部からの推定で、開口部径2.2m、底部径2m前後の円形基調の遺構と考えられる。壁高は最高部で31cm。底面は斜面方向に傾斜するが凹凸は無く、堅くしまる。〈埋土〉黒褐色土が主体となる。

遺物 埋土から土器が出土している(253～260)。いずれも後期の土器で、253は沈線区画の充填縄文と貼り瘤列を持ち、256は地文に櫛歯状の条痕文が施されている。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代後期中葉期の遺構と考えられる。

I A 8 j - 2 土坑 (第24図・写真図版25)

遺構 〈検出状況・重複関係〉Ⅴ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。北西部でI A 8 j - 1 土坑と重複するが、新旧関係は不明である。〈規模・形態〉南端部は削剥されている。開口部1.2×0.78m、底部1.06×0.59mの楕円形を呈する。壁高は30

～7cm。底面は凹凸は少なく堅くしまる。形状から推定して、墓壇と考えられる。〈埋土〉2層に大別されるが、黒褐色土が主体となる。〈軸方向〉N-26°-W

遺物 埋土から後期の土器破片が出土している(261～264)。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I A 9 b 土坑 (第24図・写真図版25)

遺構 〈検出状況〉V層相当面で検出された。調査区西端、急斜面部の中位に位置する。

〈規模・形態〉南東部は削剥されている。開口部0.78×0.6±m、底部0.6×0.5±mの楕円形(不整円形)を呈する。壁高は最高部で21cm。底面は斜面と同方向に緩く傾斜し、凹凸は少なく堅くしまる。残存部の形状から墓壇の可能性がある。〈埋土〉炭化物を僅かに含む、黒褐色土の単層。北東部と南部から径20cmと40cmの礫2個が検出された。〈軸方向〉N-45°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I A 9 c - 1 土坑 (第24図・写真図版25)

遺構 〈検出状況〉VI層相当面で検出された。調査区西端、急斜面部の中位に位置する。

〈規模・形態〉南壁は削剥されている。開口部1.38×0.8±m、底部1.24×0.6±mの隅丸長方形(不整楕円形)を呈する。壁高は最高部で21cm。底面は幾分凹凸があるが、堅くしまる。形状から推定して、墓壇と考えられる。〈埋土〉2層に大別されるが、暗褐色土が主体となる。〈軸方向〉N-78°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I A 9 c - 2 土坑 (第24図・写真図版26)

遺構 〈検出状況〉VI層相当面で検出された。調査区西端、急斜面部の中位に位置する。

〈規模・形態〉南壁は削剥されている。開口部1.26×0.7±m、底部0.98×0.6±mの不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で15cm。底面は斜面と同方向に緩く傾斜し、概ね平坦で堅くしまる。北東部を中心に径40～10cmの角礫が8個検出されている。形状から推定して、墓壇と考えられる。〈埋土〉黒褐色土の単層。〈軸方向〉N-59°-E

遺物 埋土から土器の小破片が出土している(274～277)

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I A 9 e - 1 土坑 (第24図・写真図版26)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。
<規模・形態>開口部1.33×0.62m、底部1.1×0.5mの不整な楕円形を呈する(西端部は掘りすぎている)。壁高は30~3cm。一部に掘り過ぎがあるが、底面は船底状を呈し堅くしまる。形状・形態から墓壇と考えられる。 <埋土>炭化物を含む黒褐色土と暗褐色土で構成される。
<施設>壁に沿って最大長40~10cmの扁平な角礫が1.4×0.76cmの楕円形に配される。石組内の西端部には、26×20cmの範囲に赤色顔料の分布が見られた。 <軸方向>N-65°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

I A 9 e - 2 土坑 (第25図・写真図版26)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。
<規模・形態>開口部1.28×0.68m、底部1.39×0.62mの不整な楕円形を呈する。壁高は40~2cm。底面は船底状を呈し堅くしまる。 <埋土>黒褐色土と暗褐色土主体で構成される。
<施設>西~北及び東壁の一部にかけて、最大長36~15cmの扁平な角礫が配されている。また、底面のほぼ中央に30×18cmの扁平な角礫が検出され、この下部から遺骨が出土したが、全て粉状となっており部位等は不明である。遺骨が残存していた唯一の例で、同様の形態を持つ土坑の性格決定のうえで大きな根拠となる。 <軸方向>N-32°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

I A 9 e - 3 土坑 (第25図・写真図版26)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。
<規模・形態>調査時の不手際から、平面図の作成を行っていない。写真及び断面図から推定して、1.4×0.5m前後の不整な楕円形を呈するものと考えられる。壁高は断面図作成部分では23cmである。底面は緩い船底状を呈し堅くしまる。形状から推定して、墓壇と考えられる。
<埋土>暗褐色土が主体で構成される。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

I A 9 e - 4 土坑 (第25図・写真図版27)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。

〈規模・形態〉南壁の一部は削剥されている。開口部 $1.73 \times 0.9 \pm m$ 、底部 $1.53 \times 0.8 \pm m$ の不正な楕円形を呈する。壁高は最高部で43cmである。底面は平坦で堅くしまる。形状から推定して、墓塚と考えられる。〈埋土〉炭化物を僅かに含む黒褐色土の単層である。西壁際の埋土下部から、最大長28cmの扁平な礫が検出された。〈軸方向〉N-74°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

IA9f-1 土坑 (第25図・写真図版27)

遺構 〈検出状況〉VI層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。〈規模・形態〉開口部径58cm、底部 $38 \times 36cm$ の不整な円形を呈する。壁高は20～2cmである。〈埋土〉大半を掘りすぎたが、南半部では黒褐色土が主体をなしている。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

IA9f-2 土坑 (第25図・写真図版27)

遺構 〈検出状況〉VI層相当面で、IA9f-3土坑と共に検出した。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。当初同一遺構として精査したため、新旧関係は不明である。また、南西部分は削剥されている。〈規模・形態〉開口部径 $50 \pm cm$ 、底部径 $48 \pm cm$ の不整な円形を呈する。壁高は最高部で18cmである。底面は概ね平坦で堅くしまる。〈埋土〉炭化物を僅かに含む黒褐色土の単層である。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

IA9f-3 土坑 (第25図・写真図版27)

遺構 〈検出状況〉VI層相当面で、IA9f-2土坑と共に検出した。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。当初同一遺構として精査したため、新旧関係は不明である。〈規模・形態〉開口部 $1.16 \times 0.53m$ 、底部径 $1.02 \times 0.42m$ の楕円形を呈する。壁高は10～1cmである。底面は斜面方向に緩く傾斜するが、概ね平坦で堅くしまる。形状から推定して、墓塚と考えられる。〈埋土〉炭化物を僅かに含む黒褐色土の単層である。〈軸方向〉N-59°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I A 9 g 土坑 (第25図・写真図版28)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出した。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。北東部を雨裂跡によって破壊されている他、南東部は削剥されている。 <規模・形態>残存部から推定すると、開口部 $1.1\pm\times 0.7\pm$ m、底部径 $90\pm\times 65\pm$ cmの楕円形を呈するものと考えられる。壁高は最高部で22cmである。底面は概ね平坦で堅くしまる。形状から推定して、墓墳と考えられる。 <埋土>黒褐色土の単層である。 <軸方向>N-42°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II A 0 b 土坑 (第25図・写真図版28)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区西端部、急斜面部の中位に位置する。 <規模・形態>開口部 1.57×1 m、底部 1.41×0.48 mの不整な楕円形(隅丸長方形)を呈する。壁高は35～5 cm。底面は船底状を呈し、斜面と同方向に緩く傾斜しているが、堅くしまる。形状・形態から墓墳と考えられる。 <埋土>3層に大別され、炭化物を僅かに含む黒褐色土と暗褐色土で構成される。 <施設>西壁に沿って、最大長20～35cm大の礫が4個配されている。この内北端に位置するものは扁平な礫の二枚重ねになっており、間から赤色顔料が検出された。また、底面のほぼ中央にも、径12cmの範囲に赤色顔料の見られた。 <軸方向>N-31°-E

遺物 埋土から土器の小破片が出土している(269～273)。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II A 0 c 土坑 (第25図・写真図版28)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出した。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。 <規模・形態>開口部 1.11×0.67 m、底部径 1×0.59 cmの不整な楕円形を呈する。なお、北壁際に径20cm、深さ40cmの小土坑が検出されたが、当遺構に付随するものどうかは不明である。壁高は17～2 cmである。底面は斜面と同方向に緩く傾斜するが、概ね平坦で堅くしまる。形状から推定して、墓墳と考えられる。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土と暗褐色土で構成される。 <軸方向>N-7°-W

遺物 埋土から土器と石器が出土している(265～268)。265・266は口縁部上端に平行沈線が巡る。268は無茎凹期の石鏃である。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II A 0 d - 1 土坑 (第26図・写真図版28)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。
<規模・形態>東壁の一部を掘りすぎている他、南側は削剥されている。残存部からの推定では、開口部 $1.7\pm 0.9\text{m}$ 、底部 $1.53\times 0.76\text{m}$ の不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で25cmである。底面は緩い船底状を呈し、いくぶん斜面と同方向に傾斜しているが、堅くしまる。
<埋土>暗褐色土が主体となって構成される。 <施設>西壁に沿って、最大長20~30cm大の扁平な礫が5個配されており、この内4個は壁際に埋置されていた。また、南壁の東側にも同様の礫が検出されている。形態から推定して、墓壇と考えられる。 <軸方向>N-88°-E
時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

II A 0 d - 2 土坑 (第26図・写真図版29)

遺構 <検出状況>V層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。
<規模・形態>開口部 $90\times 58\text{cm}$ 、底部 $63\times 33\text{cm}$ の水滴形(不整な楕円形)を呈する。壁高は25~30cmである。底面は一部掘りすぎているが、斜面と同方向に傾斜し堅くしまる。形状から墓壇の可能性はある。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土と暗褐色土によって構成される。
<軸方向>N-30°-W

遺物 埋土から土器が出土している(278~280)。278は2個一対の台状突起を持つ粗製の深鉢、279は沈線と刺突文を持つ鉢、280は磨消縄文が施された壺である。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

II A 0 e 土坑 (第26図・写真図版29)

遺構 <検出状況>V層相当面で検出された。調査区西側、緩斜面部の上位に位置する。
<規模・形態>平面形は開口部 $1.55\times 1.35\text{m}$ 、頸部 $1.31\times 1.12\text{m}$ 、底部径 1.44m の楕円形(不整な円形)を呈し、断面形はフラスコ形を呈す。壁高は66~30cmである。底面は平坦であるが、軟らかい。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土と暗褐色土が主体となるが、中部には汚れた焼土層が堆積しており、一部は人為的な廃棄による土層と考えられる。

遺物 埋土から土器と石器が出土している(281~291)。器種には壺、深鉢、注口土器がある。多くは沈線区画の充填縄文による文様を持つが、283は無文、288は2本一組の沈線文が施されている。291は縦形の石匙である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代後期後葉期の遺構と考えられる。

II A 0 f - 1 土坑 (第26図・写真図版29)

遺構 <検出状況>V層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の下位に位置する。
<規模・形態>開口部73×60cm、底部40×33cmの不整な楕円形を呈する。壁高は55～20cmである。底面は船底状を呈し、堅くしまる。形状から墓壇の可能性はある。 <埋土>大半を黒褐色土が占める。 <軸方向>N-30°-W

遺物 埋土から縁辺部に刃部加工が施された不定形石器(292)が出土している。

時期 詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II A 0 f - 2 土坑 (第26図・写真図版29)

遺構 <検出状況>V層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の下位に位置する。
<規模・形態>開口部93×45cm、底部55×28cmの不整な楕円形を呈する。壁高は20～3cmである。底面は船底状を呈し、堅くしまる。形状から墓壇の可能性はある。 <埋土>上部が黒褐色土、下部は暗褐色土によって構成される。 <軸方向>N-72°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II A 0 g 土坑 (第26図・写真図版30)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区西側、急斜面部の下位に位置する。
<規模・形態>検出作業時点で東側を削平してしまった。また、南東部は削剥されている。残存部分から推定すると、開口部 $1.3 \pm 0.76 \pm m$ 、底部 $1 \pm 0.63 \pm m$ の不整な楕円形を呈するものと考えられる。壁高は最高部11cmである。底面は斜面と同方向に緩く傾斜し、堅くしまる。形状・形態から推定して、墓壇と考えられる。 <埋土>黒褐色土の単層である。
<軸方向>N-47°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 6 c 土坑 (第27図・写真図版30)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。
<規模・形態>検出作業時点で南西部を削平してしまった。開口部 $1.63 \pm 1.46 m$ 、底部 $1.54 \pm 1.04 m$ の不整な楕円形を呈する。壁高は最高部50cmである。底面は斜面と同方向に僅かに傾斜するが、概ね平坦で堅くしまる。形状から推定して、墓壇と考えられる。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土と暗褐色土で構成される。なお、各層は両拳大の角礫を含む。

＜軸方向＞ほぼ南北を指す。

遺構 埋土から土器の小破片が出土している（293～295）。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 6 d - 1 土坑（第26図・写真図版30）

遺構 ＜検出状況・重複関係＞VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。東側でI B 6 d - 2土坑と重複するが、新旧関係は不明である。＜規模・形態＞粗掘の段階で、遺構の存在に気づかず、上部を削平してしまった。また、南側は削剥されている。開口部 $1.15 \times 0.89 \pm \text{m}$ 、底部 $92 \times 55 \pm \text{cm}$ の隅丸長方形（不整な楕円形）を呈する。壁高は最高部で30cmである。底面はいくぶん斜面と同方向に傾斜し、堅くしまる。形状・形態から推定して、墓壇と考えられる。＜埋土＞残存部では黒褐色土の単層である。＜施設＞西壁～北壁に沿って、最大長10～26cm大の礫が9個配されている他、西端部には最大長36cmの巨礫が、覆いかぶさるように置かれている。また、遺構の範囲外となるが、西側から巨大な角礫が2個が検出されている。＜軸方向＞N-60°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 6 d - 2 土坑（第26図・写真図版30）

遺構 ＜検出状況・重複関係＞VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。東側でI B 6 d - 3土坑と重複し、これを切っている。＜規模・形態＞南側は削剥されている。開口部 $1.04 \pm \times 0.95 \pm \text{m}$ 、底部 $99 \pm \times 81 \pm \text{cm}$ の隅丸長方形（不整な楕円形）を呈する。壁高は最高部で32cmである。底面はいくぶん斜面と同方向に傾斜し、堅くしまる。北端部の東寄りから、最大長20cmの角礫が検出されている。形状・形態から推定して、墓壇と考えられる。＜埋土＞黒褐色土の単層である。＜軸方向＞N-4°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 6 d - 3 土坑（第26図・写真図版30）

遺構 ＜検出状況・重複関係＞VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。西側でI B 6 d - 2土坑と重複し、これに上部を切られている。＜規模・形態＞開口部 $1.92 \pm \times 0.98 \text{m}$ 、底部 $1.35 \pm \times 0.85 \text{m}$ の隅丸長方形（不整な楕円形）を呈する。壁高は45

～1 cmである。底面は緩い船底状を呈し、堅くしまる。東端部から、最大長23～10cm大の角礫が4個検出されている。形状・形態から推定して、墓塚と考えられる。〈埋土〉黒褐色土と暗褐色土で構成されている。〈軸方向〉N-41°-E

遺物 埋土から土器の小破片が出土している(296～298)。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 6 e - 1 土坑 (第27図・写真図版31)

遺構 〈検出状況〉VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。

〈規模・形態〉東側及び南側は削剥されている。開口部81±×62±cm、底部74±×54±cmの不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で20cmである。底面は緩い船底状を呈し斜面と同方向に僅かに傾斜するが、概ね平坦で堅くしまる。〈埋土〉炭化物を僅かに含む黒褐色土と暗褐色土で構成される。なお、底面の東端から最大長18cmの角礫一個が検出された。〈軸方向〉N-84°-E 時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 6 e - 2 土坑 (第27図・写真図版31)

遺構 〈検出状況・重複関係〉VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。東側でI B 6 d - 3土坑と重複し、これを切っている。また、南側は削剥されている。なお、赤色顔料の分布位置や礫群の検出状況から、2基の土坑が重複している可能性もある。

〈規模・形態〉開口部1.35×0.98±m、底部1.19±×0.92±mの不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で30cmである。底面は緩い船底状を呈し斜面と同方向に傾斜するが、堅くしまる。北壁際西寄りの底面直上部から、32×24cmの範囲に赤色顔料の分布が見られた。また、南西部と北東部の検出面及び埋土の上部から、最大長20～8cm大の角礫が十数個検出されている。しかし、これらが埋土に混入したものか、人為的に配置されたものかは不明である。形状・形態から推定して、墓塚と考えられる。〈埋土〉黒褐色土と暗褐色土で構成されている。

〈軸方向〉ほぼ東西を指す。

遺物 埋土から土器の小破片(299～302)が出土している。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 6 e - 3 土坑 (第27図・写真図版31)

遺構 <検出状況・重複関係>VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。西側でI B 6 d - 2 土坑と重複し、これに切られている。また、南西側は削剥されている。<規模・形態>開口部 $1.22 \pm 0.8 \pm \text{m}$ 、底部 $1.02 \pm 0.7 \pm \text{m}$ の不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で25cmである。底面は緩い船底状を呈し斜面と同方向に傾斜するが、堅くしまる。北東壁際中央から、径 $30 \times 28 \text{cm}$ の浅いくぼみが検出されている。形状・形態から推定して、墓墳と考えられる。<埋土>当初遺構の重複が分からず、精査を進めたため固有の土層断面図は作成していない。<軸方向>重複のため不明である。

遺物 埋土から土器の小破片(303~308)と棒状の石錐(309)が出土している。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

I B 6 e - 4 土坑 (第27図・写真図版31)

遺構 <検出状況・重複関係>VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。北側はI B 6 d - 1・2 土坑と重複する位置にあるが、新旧関係は不明である。<規模・形態>開口部 $1.36 \times 0.76 \text{m}$ 、底部 $1.06 \pm 0.53 \text{m}$ の隅丸長方形(不整な楕円形)を呈する。壁高は40~20cmである。底面は概ね平坦で、堅くしまる。形状・形態から推定して、墓墳と考えられる。<埋土>炭化物を僅かに含む暗褐色土が主体となる。層中には角礫を多く含む。<軸方向>N-69°-E

遺物 埋土から土器の小破片(310~313)が出土している。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

I B 6 f - 1 土坑 (第27図・写真図版31)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。<規模・形態>当初単一の遺構として精査し登録をしたが、規模及び壁の状態から2基の土坑が重複している可能性が高い。なお、南側は削剥されている。開口部 $2.28 \times 0.8 \pm \text{m}$ 、底部 $2.13 \times 0.7 \pm \text{m}$ の不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で25cmである。底面は斜面と同方向に僅か傾斜するが、概ね平坦で堅くしまる。形状・形態から推定して、墓墳と考えられる。<埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土の単層である。北壁際の中央部から最大長 $34 \sim 32 \text{cm}$ 大の角礫2個が検出された。<軸方向>N-66°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考え

られる。

I B 6 f - 2 土坑 (第27図・写真図版32)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。
<規模・形態>南・北壁の西側は大きく掘りすぎている。開口部1.46×0.74m、底部1.26±×0.56mの不整な楕円形を呈する。壁高は20～2cmである。底面は緩い船底状を呈し、堅くしまる。

<埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土の単層である。形状・形態から推定して、墓壙と考えられる。 <軸方向>ほぼ東西を指す。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 6 f - 3 土坑 (第27図・写真図版32)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。
<規模・形態>南側は削剥されている。開口部1.38×0.61±m、底部1.26±×0.56±mの楕円形を呈する。壁高は最高部で18cmである。底面は緩い船底状を呈し斜面と同方向に緩く傾斜するが、堅くしまる。形状・形態から推定して、墓壙と考えられる。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土の単層である。 <軸方向>N-74°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 7 a 土坑 (第27図・写真図版32)

遺構 <検出状況>VI層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。
<規模・形態>開口部1.84×1.18m、底部1.64±×1.06mの不整な楕円形を呈する。壁高は48～2cmである。底面は幾分凹凸はあるが概ね平坦で、堅くしまる。形状・形態から推定して、墓壙と考えられる。 <埋土>上部が暗褐色土、下部は黄褐色土で構成される。暗褐色土の南側では炭化物の薄層の堆積が見られた。 <軸方向>N-79°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 7 b - 1 土坑 (第28図・写真図版32)

遺構 <検出状況・重複関係>VII層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位

置する。土層断面の観察では、南側で I B 7 b - 2 土坑を切っているが、当初重複が分からず単一遺構として精査したため、図面上不備が生じている。形状・形態から推定して、墓墳と考えられる。〈規模・形態〉上記の理由で南部は掘りすぎている。残存部から推定すると開口部 $2 \times 1.1 \pm m$ 、底部 $1.82 \times 1 \pm m$ の不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で 20 cm である。底面は斜面と同方向に緩く傾斜するが、概ね平坦で硬くしまる。底面東側から最大長 20 cm の角礫 1 個が検出された。〈埋土〉炭化物を僅かに含む黒褐色土の単層である。

〈軸方向〉N - 82° - E

遺物 埋土から土器の小破片 (314~317) が出土している。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

I B 7 b - 2 土坑 (第28図・写真図版32)

遺構 〈検出状況・重複関係〉Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。北側で I B 7 b - 1 土坑に切られているが、当初重複が分からず単一遺構として精査した為、図面上不備が生じている。また、南側で I B 8 b - 1 と重複するが、新旧関係は不明である。〈規模・形態〉南西部は削剥されている。開口部 $1.38 \times 0.75 \pm m$ 、底部 $1.31 \times 0.65 \pm m$ の不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で 14 cm である。底面は概ね平坦で硬くしまる。底面北側から最大径 $25 \cdot 21 \text{ cm}$ 、深さ 10 cm の小土坑が 2 個が検出された。形状・形態から推定して、墓墳と考えられる。〈埋土〉暗褐色土と黒褐色土で構成される。〈軸方向〉N - 67° - W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

I B 7 c - 1 土坑 (第28図・写真図版33)

遺構 〈検出状況・重複関係〉Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。南東部で I B 7 c - 3 土坑と重複し、これを切っている。〈規模・形態〉開口部 $1.48 \times 0.78 \text{ m}$ 、底部 $1.44 \pm \times 0.68 \text{ m}$ の楕円形を呈する。壁高は $38 \sim 2 \text{ cm}$ である。底面は斜面と同方向に僅かに傾斜するが、ほぼ平坦で硬くしまる。形状・形態から推定して、墓墳と考えられる。〈埋土〉炭化物を僅かに含む暗褐色土と褐色土で構成される。

〈軸方向〉N - 3° - W で、ほぼ南北を指す。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

I B 7 c - 2 土坑 (第28図・写真図版33)

遺構 <検出状況> VII層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。
<規模・形態> 開口部1.44×0.92m、底部1.34×0.56mの不正な楕円形を呈する。壁高は30～10cmである。底面は斜面と同方向に傾斜するが、ほぼ平坦で硬くしまる。形状・形態から推定して、墓塚と考えられる。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体を成している。
<軸方向> N-84°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 7 c - 3 土坑 (第28図・写真図版33)

遺構 <検出状況・重複関係> VII層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。西側をI B 7 b - 1土坑に切られている。 <規模・形態> 重複の他、南部は削剥されているため、規模・形態とも詳細は不明である。残存部分は、東西方向で開口部63±cm、底部50±cmである。壁高は最高部で12cmである。底面は緩い船底状を呈し、硬くしまる。形状から墓塚の可能性がある。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土の単層である。
<軸方向> N-85°-W?

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 7 d 土坑 (第28図・写真図版33)

遺構 <検出状況> VII層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。
<規模・形態> 南端部は削剥されている。開口部86×73±cm、底部76×67±cmの不整な楕円形(歪な円形)を呈する。壁高は最高部で16cmである。底面は斜面と同方向に緩く傾斜し、概ね平坦で硬くしまる。形状から墓塚の可能性もある。 <埋土>炭化物を僅かに含む暗褐色土の単層である。 <軸方向> N-75°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 7 e 土坑 (第28図・写真図版34)

遺構 <検出状況> V層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。
<規模・形態> 開口部1.87×1.24m、底部1.65×1mの不正な隅丸長方形を呈する。壁高は40～20cmである。底面は斜面と同方向に僅かに傾斜するが、概ね平坦で硬くしまる。 <埋土>

3層に大別され、上部及び下部は炭化物を僅かに含む黒褐色土、中部は暗褐色土で構成されている。〈施設〉壁に沿って最大長30～10cm大の角礫が、組まれるように巡っていた。しかし、当初この石組みに気づかず、精査時点に取り上げてしまったことから、南壁の一部と北壁の一部しか実測できなかつた。形状・形態から墓塚と考えられる。〈軸方向〉N-56°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 7 f - 1 土坑 (第28図・写真図版34)

遺構 〈検出状況〉Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。〈規模・形態〉開口部1.03×0.85m、底部91×73cmの不整な楕円形を呈する。壁高は35～10cmである。底面は斜面と同方向に僅かに傾斜するが、ほぼ平坦で硬くしまる。南西壁際の底面から、最大長25～10cmの角礫2個が検出されている。形状・形態から推定して、墓塚と考えられる。〈埋土〉炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体となる。〈軸方向〉ほぼ南北を指す。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 7 f - 2 土坑 (第28図・写真図版34)

遺構 〈検出状況〉Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。〈規模・形態〉東側は、粗掘段階で削平してしまった。推定であるが、開口部83±×46cm、底部75±×39cmの不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で15cmである。底面は緩い船底状を呈し斜面と同方向に傾斜するが、硬くしまる。形状から墓塚の可能性はある。〈埋土〉上部が炭化物を僅かに含む黒褐色土、下部は暗褐色土で構成される。〈軸方向〉N-83°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 7 f - 3 土坑 (第29図・写真図版34)

遺構 〈検出状況〉Ⅶ層相当面でプランを確認できたが、埋土の状況からⅢ層中部から掘り込まれたものと考えられる。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。〈規模・形態〉東側の大半は調査区域外にかかるため、規模や平面形の詳細は不明である。調査できた部分の開口部最大径は85cm、底部66cmである。壁高は最高部で56cmである。底面はほぼ平坦で、硬くしまる。〈埋土〉上部が炭化物を含む黒褐～暗褐色土、下部は炭化物を含む黒褐色土である。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 8 a - 1 土坑 (第29図・写真図版35)

遺構 <検出状況・重複関係>Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。東側でI B 8 a - 2 土坑と接するが新旧関係は不明である。 <規模・形態>開口部1.64×1 m、底部1.54×0.84mの不整な楕円形を呈する。壁高は20～1 cmである。底面は斜面と同方向に僅かに傾斜するが、ほぼ平坦で硬くしまる。 <施設>西壁際から34×15cm、深さ10cmの楕円形の小土坑が検出されている。また、北壁の西側では、最大長20～10cmの角礫3個が立てられた状態で検出されている。形状・形態から、墓壙と考えられる。 <埋土>黒褐色土が主体となって構成される。なお、西壁寄りの埋土の下部には、径25cmの範囲に赤色顔料の分布が見られた。 <軸方向>N-70°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 8 a - 2 土坑 (第29図・写真図版35)

遺構 <検出状況・重複関係>Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。東側でI B 8 a - 1 土坑と接するが新旧関係は不明である。 <規模・形態>南東部は、削剥されている。開口部1.39×0.73m、底部1.32×0.58mの不整な楕円形を呈する。壁高は最高部で15cmである。底面はほぼ平坦で、硬くしまる。形状・形態から推定して、墓壙と考えられる。 <埋土>黒褐色土の単層である。 <軸方向>N-72°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 8 a - 3 土坑 (第29図・写真図版35)

遺構 <検出状況>Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。 <規模・形態>開口部1.47×0.84m、底部1.12×0.64mの不整な楕円形を呈する。壁高は21～2 cmである。底面は緩い船底状を呈し、硬くしまる。形状から推定して墓壙と考えられる。 <埋土>暗褐色土のブロックを含む黒褐色土の単層である。 <軸方向>N-69°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 8 a - 4 土坑 (第29図・写真図版35)

遺構 <検出状況>Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。 <規模・形態>東側は、粗掘段階で削平してしまった。推定であるが、開口部98×76cm、底部

67×48cmの不整な楕円形を呈する。壁高は40～20cmである。底面は斜面と同方向に緩く傾斜するが、硬くしまる。形状から推定して、墓墳の可能性もある。〈埋土〉上部は炭化物を僅かに含む黒褐色土、下部は炭化物を僅かに含む黒褐～暗褐色土で構成される。〈軸方向〉N-42°-W

遺物 埋土から土器(318)が出土している。大小の突起を持つ緩い波状口縁の深鉢で、沈線区画の充填縄文と低い突起を伴う刻み列が施されている。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代後期後葉期の遺構と考えられる。

I B 8 b - 1 土坑 (第28図・写真図版36)

遺構 〈検出状況・重複関係〉Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。北側でI B 7 b - 2 土坑と重複するが新旧関係は不明である。〈規模・形態〉南側及び東側は削剥されている。残存部から推定すると開口部1.5±×0.9±m、底部1.3±×0.8±mの不整な楕円形を呈するものと考えられる。壁高は最高部で10cmである。底面は斜面と同方向に僅かに傾斜するが、ほぼ平坦で硬くしまる。形状・形態から推定して、墓墳と考えられる。〈埋土〉黒褐色土が主体となって構成される。なお、北西部の底面直上で、径22cmの範囲に赤色顔料の分布が見られた。〈軸方向〉N-71°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 8 b - 2 土坑 (第29図・写真図版36)

遺構 〈検出状況〉Ⅶ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。〈規模・形態〉開口部1.28×0.75m、底部1.19×0.57mの不整な楕円形を呈する。壁高は23～1cmである。底面はほぼ平坦で、硬くしまる。形状・形態から墓墳と考えられる。〈埋土〉炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体となる。〈軸方向〉N-67°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 8 c 土坑 (第29図・写真図版36)

遺構 〈検出状況〉Ⅴ層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。〈規模・形態〉開口部1.91×0.96m、底部1.49×0.71mの西側がやや角張る隅丸長方形を呈する。壁高は49～21cmである。底面は緩い船底状を呈し、ほぼ平坦で硬くしまる。形状・形態から推定して、墓墳と考えられる。〈埋土〉上部が暗褐色土、下部は黒褐色土・暗褐色土で構

成される。〈軸方向〉N-79°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 8 d - 1 土坑 (第29図・写真図版36)

遺構 〈検出状況〉V層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。
〈規模・形態〉開口部1.69×0.96m、底部1.58×0.83mの隅丸長方形を呈する。壁高は37～15cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦で硬くしまる。〈埋土〉4層に大別され、上部～中部は炭化物を僅かに含む黒褐色土、下部は褐色～黒褐色土で構成されている。なお、西側の底面直上部に、66×38cmの範囲で赤色顔料の分布が見られた。〈施設〉北壁～東壁沿い、南壁・西壁の一部に最大長25～10cm大の角礫による石組が巡らされている。形状・形態から、墓塚と考えられる。〈軸方向〉ほぼ東西を指す。

遺物 埋土から土器片(319～321)が出土している。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 8 d - 2 土坑 (第30図・写真図版37)

遺構 〈検出状況〉V層相当面で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。
〈規模・形態〉開口部1.47×0.74m、底部1.29×0.63mの不整な楕円形を呈する。壁高は16～2cmである。底面の西側は掘りすぎてしまった。緩い船底状を呈し斜面と同方向に僅かに傾斜するが、概ね平坦で硬くしまる。形状・形態から、墓塚と考えられる。〈埋土〉上部は炭化物を僅かに含む黒褐色土、下部は赤色顔料をを含む極暗赤褐色土である。中央部には、38×36cmの範囲で赤色顔料の分布が見られた。〈軸方向〉N-83°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I C 8 e 土坑 (第30図・写真図版37)

遺構 〈検出状況〉VII層相当面で検出された。調査区東側、緩斜面部の下位に位置する。
〈規模・形態〉開口部39×35cm、底部14×12cmの柱穴状の小土坑である。平坦部で検出されている小土坑群との関係は不明である。壁高は40～25cm。〈埋土〉黒褐色土の単層である。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I C 8 f 土坑 (第30図・写真図版37)

遺構 <検出状況>Ⅶ層相当面で検出された。調査区東端部、緩斜面部の上位に位置する。
<規模・形態>開口部88×63cm、底部61×44cmの不整な楕円形を呈する。壁高は15～6cmである。底面は斜面と同方向に僅かに傾斜するが、概ね平坦で硬くしまる。形状から墓墳の可能性はある。<埋土>上部は炭化物を僅かに含む黒褐色土、下部は暗褐色土で構成される。
<軸方向>N-83°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I C 9 f 土坑 (第30図・写真図版37)

遺構 <検出状況>Ⅶ層相当面でプランを確認したが、土層断面の観察ではⅢ層中から掘り込まれているものと考えられる。調査区東端部、緩斜面部の上位に位置する。<規模・形態>東側は調査区域外にかかり、規模・平面形とも詳細は不明である。調査できた部分の開口部最大径は78cm、底部59cmである。壁高は最高部で34cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦で硬くしまる。なお、周辺部から検出されている土坑同様、墓墳の可能性はある。<埋土>上部は黒色土、下部は炭化物を僅かに含む黒褐色土で構成される。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II C 0 f - 1 土坑 (第30図・写真図版38)

遺構 <検出状況>Ⅳ層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。<規模・形態>開口部1.24×0.66m、底部1.03×0.51mの楕円形(隅丸長方形)を呈する。壁高は30～19cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦である。<埋土>上部は炭化物を僅かに含む黒褐色土、下部は黒色土で構成されている。<施設>北端部の埋土上部には33×28cm厚さ8cmの粗製の石皿が斜位に埋設されていた。また、東・西壁の北端部の底面直上には、最大長19・14cmの扁平な花崗岩の亜円礫が配されている他、北壁の中央部には径10cmの円礫(磨石か? 風化が著しい)が配置されている。なお、石皿の下側面と円礫及び礫が接する壁面には赤色顔料の分布が見られた。形状・形態から墓墳と考えられる。<軸方向>ほぼ南北を指す。

遺物 埋置されていた石皿、磨石の他に、埋土から土器片が出土している。329は石皿で、片面が使用によって緩くくぼむ。なお、磨石は風化が激しく実測できなかった。323～328は土器片で、325を除き晩期の土器である。

時期 出土遺物からの判断は難しいが、検出面から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II C 0 f - 2 土坑 (第30図・写真図版38)

遺構 <検出状況>IV層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。 <規模・形態>開口部48×47cm、底部37×36cmの隅丸方形(歪な円形)を呈する。壁高は13～8cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦である。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体となって構成されている。南西部の埋土から、最大長22cm大の礫2個が検出されている。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II C 0 g - 1 土坑 (第30図・写真図版38)

遺構 <検出状況>IV層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。 <規模・形態>開口部1×0.71m、底部57×31cmの不整な楕円形を呈する。壁高は22～20cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦である。形状から推定して墓塚と考えられる。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒色土が主体となって構成されている。 <軸方向>N-21°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II C 0 g - 2 土坑 (第30図・写真図版39)

遺構 <検出状況>IV層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。 <規模・形態>精査時の不手際により南側を掘りすぎてしまった。残存部からの推定であるが、開口部1.5±0.8m、底部1.4±0.7mの不整な楕円形(隅丸長方形)を呈するものと考えられる。壁高は最高部で21cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦である。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土・暗褐色土・黒色土で構成されている。 <施設>精査できた範囲の壁際には、最大長40×10cm大の垂円礫二十数個による石組が巡れられている。形状・形態から墓塚と考えられる。 <軸方向>N-8°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

II C 2 f 土坑 (第30図・写真図版39)

遺構 <検出状況>V層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。 <規模・形態>開口部1.05×0.51m、底部82×54cmの不整な楕円形を呈する。壁高は18～6cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦である。形状から墓塚の可能性がある。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土や暗褐色土で構成されている。 <軸方向>N-21°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

Ⅱ C 2 g - 1 土坑 (第31図・写真図版39)

遺構 <検出状況>V層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。 <規模・形態>開口部 $2.17\pm 1.53\text{m}$ 、底部 $1.65\pm 0.98\text{m}$ の不整な楕円形を呈する。壁高は35～12cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦で幾分堅い。 <埋土>壁際は黄褐色土、中央部は炭化物を僅かに含む黒褐色土で構成されている。なお、北東部の埋土最下部～底面にかけて、 $50\times 36\text{cm}$ の範囲に赤色顔料が分布していた。 <施設>南壁～東壁の中央部には底面に沿って、最大長30～10cm大の垂円礫及び垂角礫十数個が配されている。また、北壁側からは拳大及びそれ以下の小礫が十数個出土したが、特に意識的な配置状況は認められない。形状・形態から墓塚と考えられる。 <軸方向>N-59°-W

遺物 埋土から土器片(330～341)が出土している。いずれも晩期の土器であるが、各個体には時期差がある。

時期 出土遺物からは時期の判断は難しいが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

Ⅱ C 2 g - 2 土坑 (第31図・写真図版39)

遺構 <検出状況>V層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。 <規模・形態>開口部 $1.1\pm 0.66\text{m}$ 、底部 $99\pm 55\text{cm}$ の不整な楕円形を呈する。壁高は10～6cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦である。南東部の壁寄りに $27\times 17\text{cm}$ 、深さ18cmの小土坑が検出されている。形状から墓塚と考えられる。 <埋土>炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体となるが、小土坑部分は暗褐色土で構成されている。 <軸方向>N-32°-E

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

Ⅱ C 3 f - 1 土坑 (第31図・写真図版40)

遺構 <検出状況>V層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。 <規模・形態>開口部 $1.11\pm 1.1\text{m}$ 、底部 $90\pm 85\text{cm}$ の不整な円形(隅丸方形)を呈する。壁高は23～14cmである。底面は緩い船底状を呈し、概ね平坦である。 <埋土>壁際は褐色土、中央部は炭化物を僅かに含む黒褐色土と暗褐色土で構成されている。 <施設>底面及び底面直上部から、最大長30～10cm大の垂円礫4個が検出されている他、「立石」と考えられる長さ63cm、

幅21cm、厚さ7cmの長菱形の礫が検出されている。また、南端部の底面直上から深鉢2個が入れ子となって、横位の状態で出土している。形態から墓壇の可能性を持つ。

遺物 入れ子の土器の他に埋土から土製円盤が出土している。343は外側の土器で、羊歯状文の頂部が突起列となっている。344は中の土器で、簡略的な羊歯状文が施されている。342は土製円盤で摩耗が著しく細部は良く解らないが、周囲を部分的に研磨して成形しているものと考えられる。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代晩期前葉期の遺構である。

ⅡC3f-2 土坑 (第31図・写真図版40)

遺構 <検出状況・重複関係>V層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。南端部でⅡC3f-3土坑と重複し、これに切られている。<規模・形態>開口部径1.5m、底部径1.26mの不整な円形を呈する。壁高は15~10cmである。底面は概ね平坦で、幾分堅い。<埋土>炭化物を僅かに含む黒色土が主体となり、壁際は暗褐色土で構成されている。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

ⅡC3f-3 土坑 (第31図・写真図版40)

遺構 <検出状況・重複関係>V層相当面で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。北側でⅡC3f-2土坑と重複し、これを切っている。<規模・形態>開口部1.33×0.9m、底部1×0.8mの不整な楕円形を呈する。壁高は30~12cmである。底面は東側に向かって段状に下がり、幾分堅い。形状から墓壇の可能性を持つ。<埋土>上部は炭化物を僅かに含む黒褐色土、下部は暗褐色土~褐色土で構成されている。<軸方向>N-63°-W

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代後期~晩期の遺構と考えられる。

ⅡA0h 土坑 (第33図・写真図版40)

遺構 <検出状況・重複関係>Ⅲ層中で検出された。調査区中央、緩斜面部上位に位置する。周辺部には、柱状小土坑が分布し、当遺構はこれらの付属施設である可能性が高い。<規模・形態>開口部59×50cm、底部40×40cmの不整な円形を呈する。壁高は北壁で12cmである。底面はほぼ平坦で、堅くしめる。<埋土>炭化物を含む黒褐色土の単層である

遺物 低面から陶器の小破片と膜状の鉄錆が出土している。陶器片(写真図版1792)は碗と考えられるが、小破片のため実測図による掲載はできなかった。器面には灰白色の釉が見られ

るが、全体に火熱を受けており変色しているものと考えられる。

時期 陶器からの判断は難しいが、周辺部からは平安時代末～中世に位置づけられる陶器片が出土していることから、これらの遺物と同時期の遺構と考えられる。

3. 柱穴状土坑群

II C区柱穴状土坑群（第32図）

IV層面及びV層相等面で、15個の柱穴状小土坑が検出された。調査区東端（II C 0 f～1 f・II C 0 g・1 g区）の平坦部に位置する。径は20～40cm、深さは35～11cmで何れも浅い。埋土は、炭化部物を僅かに含む黒色土のものが多いが、黒褐色土のものや層中に焼土を含むものが数例ある。柱痕跡が確認されたものはない。

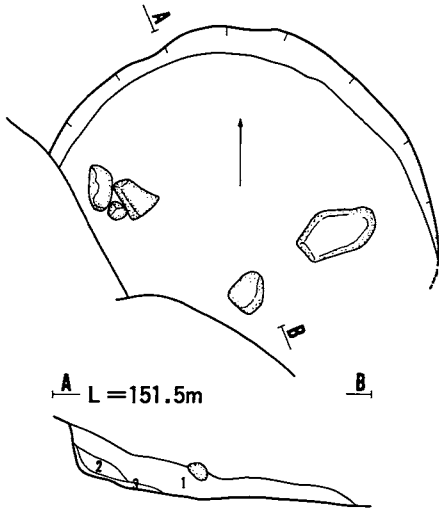
P17の埋土から石鏃（417）が出土している。茎部と基部の一部のみが残存する有茎凸基鏃である。

時期を判断できる遺物は無く、時期の詳細は不明であるが、検出面や埋土の状況から、周辺部から検出されている土坑類とほぼ同時期の遺構と考えられる。性格は不明である。

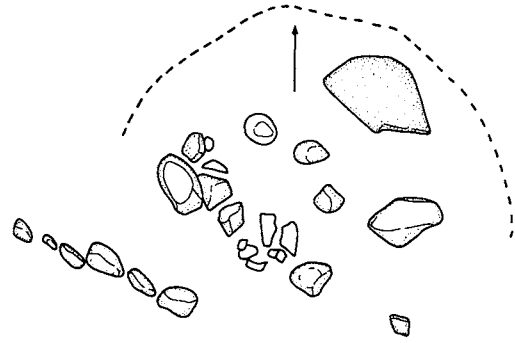
II A区柱穴状土坑群（第33図）

Ⅲ層中で、15個の柱穴状小土坑が検出された。調査区中央（II A 0 g～II A 0 i区）の緩斜面部に位置し、分布はさらに南側延びるものと考えられる。径は15～33cm、深さは12～53cmである。南端壁面の観察ではⅢ層の最上部から掘り込まれており、周辺に分布する遺構の中で最も新しい。P5・P7・P8・P12には柱痕跡が認められ、このうちP5とP12では柱痕部が空洞となっていた。埋土は炭化物を含む黒～黒褐色土が主体となり、柱痕部は周囲に比べて軟らかい。規則的な配置はみられないが、柱痕部の存在から掘立柱建物を構成するものと考えられる。なお、柱穴状土坑の分布域内にあるII A 0 h土坑は、当土坑群に付属する施設の可能性が高い。

土坑群からは直接的な遺物はないが、II A 0 h土坑からは中世に位置づけられると考えられる陶器の小破片が出土していることや、周辺部から平安時代末～中世にかけての陶器が出土していることから、当遺構もこれらの遺物と同時期の遺構と考えられる。

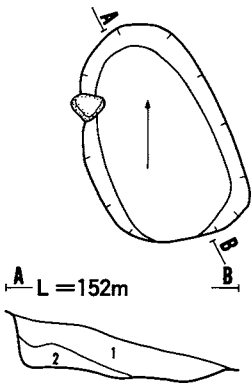


I A8j-1



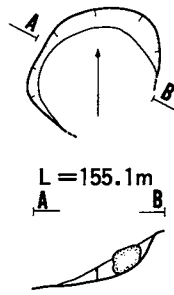
- 1 10YR2/3 黒褐
- 2 10YR2/3 黒褐
- 3 10YR4/4 褐

I A8j-2



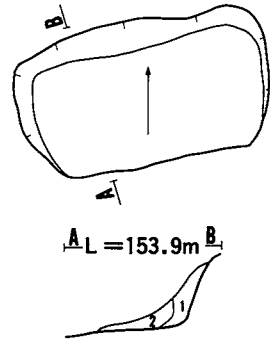
- 1 10YR3/2 黒褐
- 2 10YR2/3 黒褐

I A9b



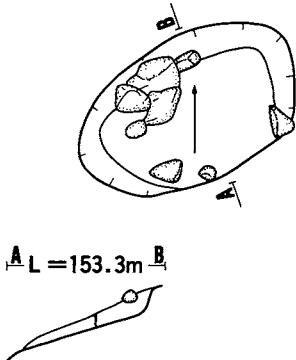
- 1 10YR3/2 黒褐 含炭化物

I A9c-1

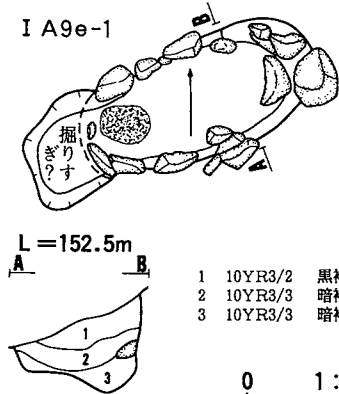


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐
- 2 10YR3/4 暗褐

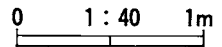
I A9c-2



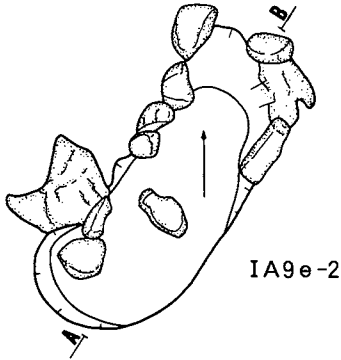
I A9e-1



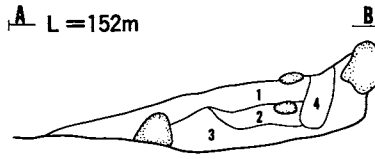
- 1 10YR3/2 黒褐 含炭化物
- 2 10YR3/3 暗褐
- 3 10YR3/3 暗褐 掘りすぎ?



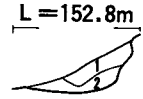
第24図 土坑類 (1)



IA9e-2

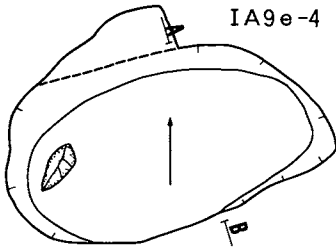


- 1 10YR3/3 暗褐
- 2 10YR4/4 褐
- 3 10YR3/3 暗褐
- 4 10YR2/2 黑褐 含炭化物

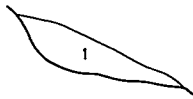


IA9e-3

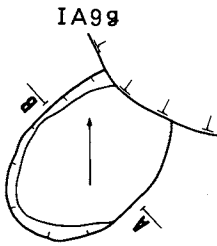
- 1 10YR3/3 暗褐
- 2 10YR3/4 暗褐



A-L=152.8m B



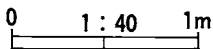
- 1 10YR3/2 黑褐 含炭化物



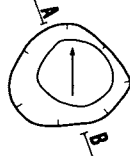
L=152.2m A B



- 1 10YR2/2 黑褐



IA9f-1

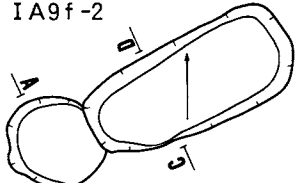


L=152.8m A B

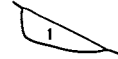


- 1 10YR2/3 黑褐

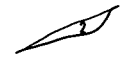
IA9f-2



L=152.3m A B

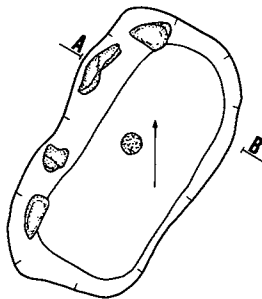


L=152.3m C D

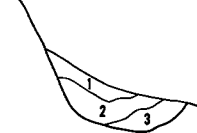


- 1 10YR2/3 黑褐 含炭化物
- 2 10YR2/3 黑褐 含炭化物

IIA0b

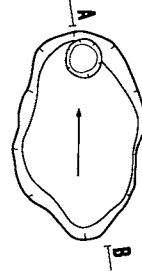


A L=155m B



- 1 10YR2/3 暗褐 含炭化物
- 2 10YR3/3 暗褐 含炭化物
- 3 10YR2/2 黑褐 含炭化物

IIA0c

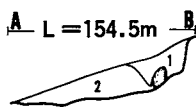
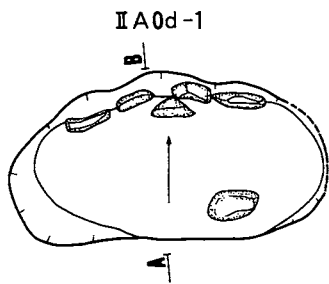


A L=154.1m B

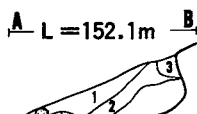


- 1 10YR3/4 暗褐 含炭化物
- 2 10YR3/2 黑褐 含炭化物
- 3 10YR3/3 暗褐

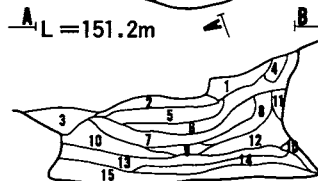
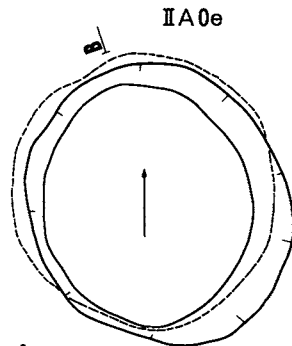
第25图 土坑类 (2)



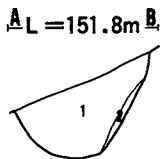
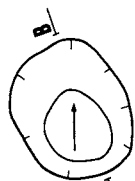
- 1 10YR3/3 暗褐
- 2 10YR3/4 暗褐



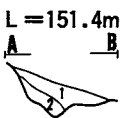
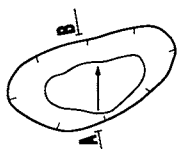
- 1 10YR3/1 黑褐 含炭化物
- 2 10YR3/4 暗褐 含炭化物
- 3 10YR2/1 黑 含炭化物
- 4 10YR2/2 黑褐 含炭化物
- 5 10YR3/4 暗褐 掘りすぎ



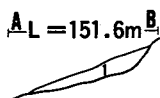
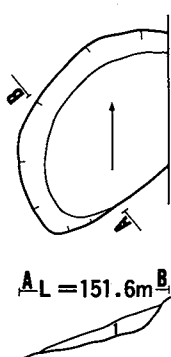
- 1 7.5YR3/2 黑褐 含炭化物
- 2 10YR2/3 黑褐 含炭化物
- 3 10YR2/3 黑褐 含炭化物
- 4 10YR3/4 暗褐
- 5 10YR2/3 黑褐 含炭化物
- 6 10YR3/3 暗褐 含炭化物
- 7 10YR2/3 黑褐 含炭化物 烧土壤
- 8 5YR2/1 暗赤褐 含炭化物
- 9 7.5YR3/3 暗褐 含炭化物
- 10 10YR3/3 暗褐 含炭化物
- 11 10YR3/3 暗褐 含炭化物
- 12 10YR2/3 黑褐 含炭化物
- 13 10YR2/3 黑褐 含炭化物
- 14 7.5YR3/3 暗褐 含炭化物
- 15 10YR3/3 暗褐



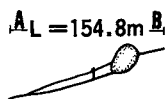
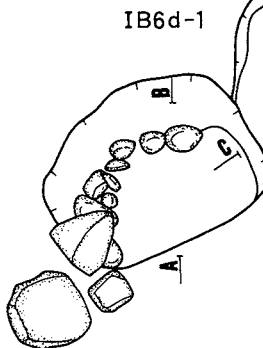
- 1 10YR2/3 黑褐
- 2 10YR4/4 褐



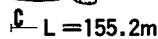
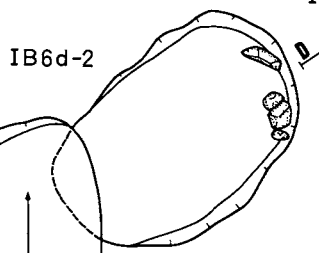
- 1 10YR3/2 黑褐
- 2 10YR3/3 暗褐



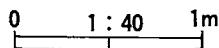
- 1 10YR2/2 黑褐



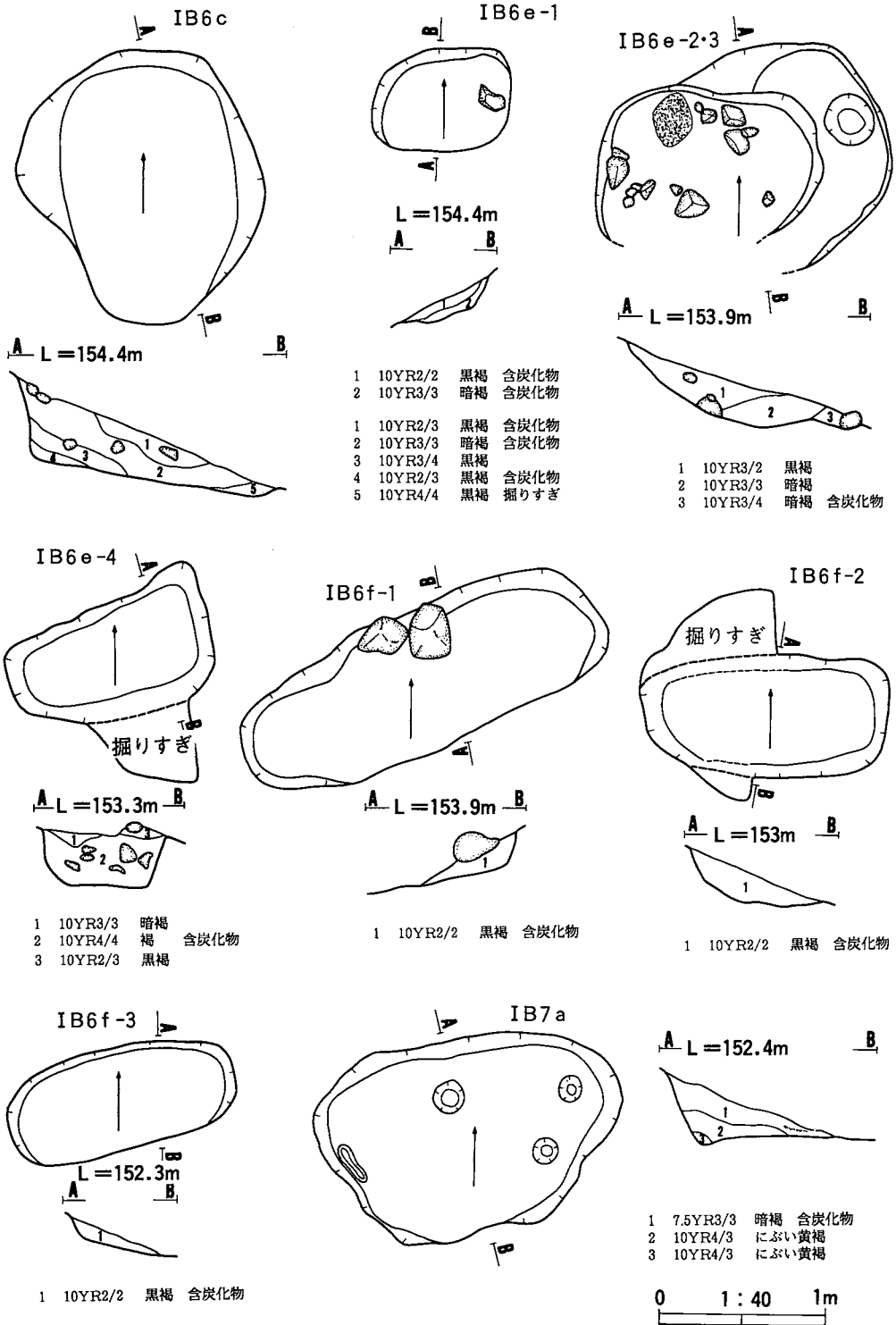
- 1 10YR3/2 黑褐



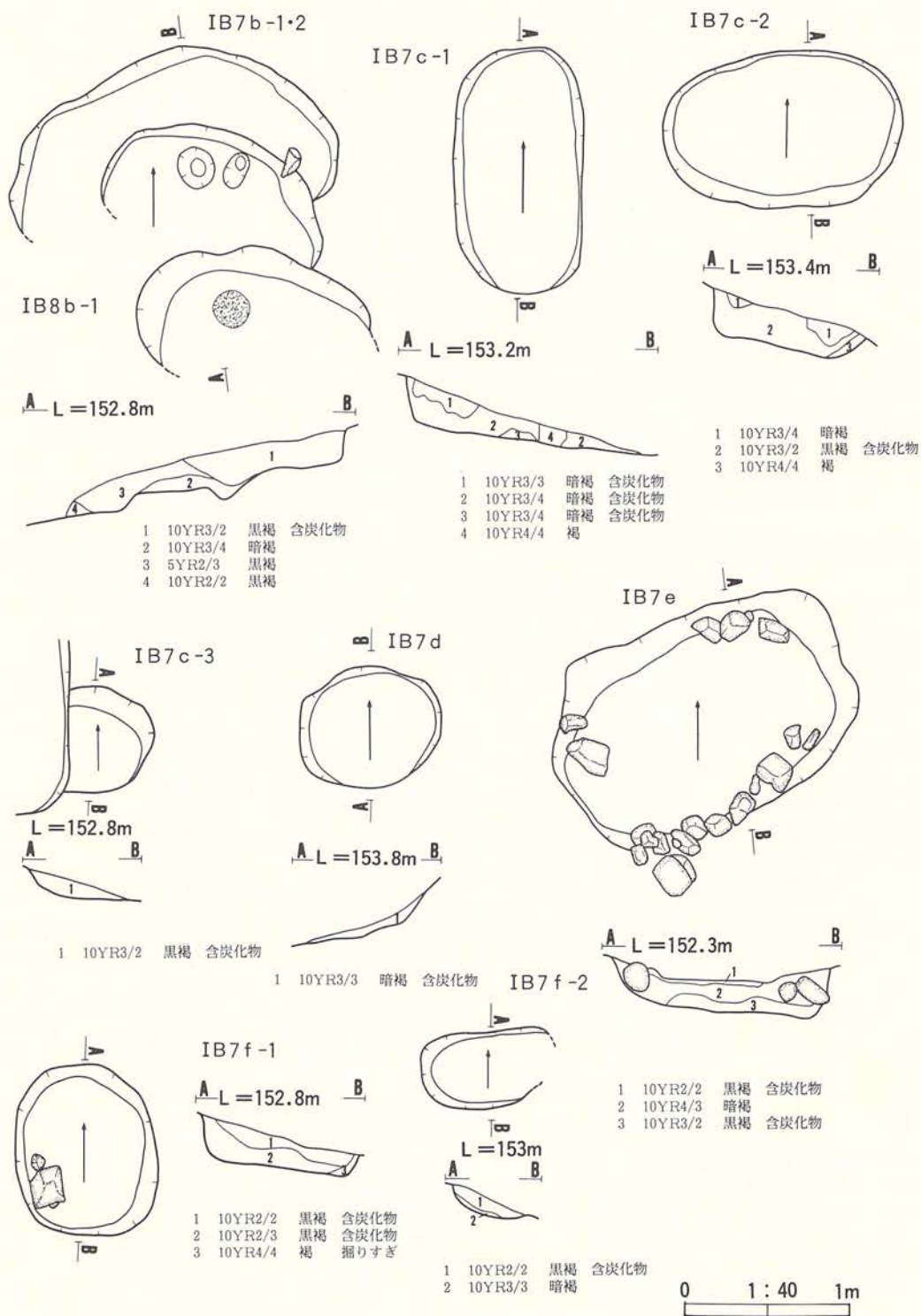
- 1 10YR2/2 黑褐
- 2 10YR3/4 暗褐
- 3 10YR2/3 黑褐
- 4 10YR2/2 黑褐
- 5 10YR2/3 黑褐



第26图 土坑类 (3)

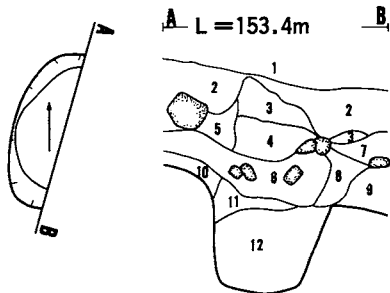


第27図 土坑類 (4)



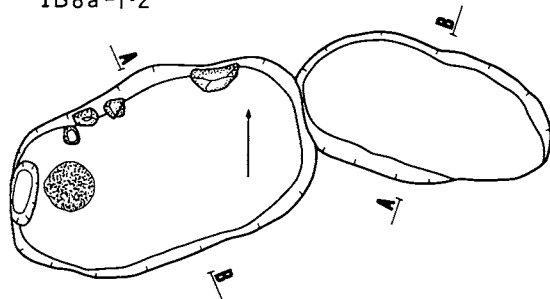
第28図 土坑類 (5)

IB7f-3

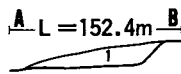


- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 10YR2/1 黑褐 含炭化物 | 7 10YR3/2 黑褐 含炭化物 |
| 2 10YR2/3 暗褐 含炭化物 | 8 10YR2/2 黑褐 含炭化物 |
| 3 10YR2/2 黑褐 含炭化物 | 9 10YR2/1 黑 含炭化物 |
| 4 10YR3/3 暗褐 含炭化物 | 10 10YR2/2 黑褐 含炭化物 |
| 5 10YR2/3 黑褐 含炭化物 | 11 10YR2/3 黑褐 含炭化物 |
| 6 10YR3/4 黑褐 | 12 10YR2/3 黑褐 含炭化物 |

IB8a-1·2

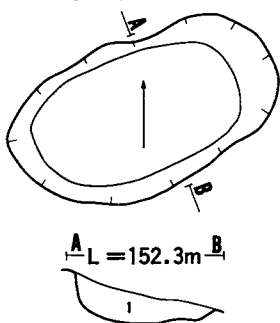


- | |
|--------------|
| 1 10YR3/2 黑褐 |
| 2 10YR3/4 黑褐 |



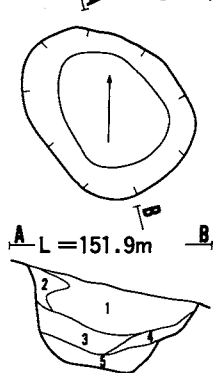
- | |
|--------------|
| 1 10YR3/2 黑褐 |
|--------------|

IB8a-3



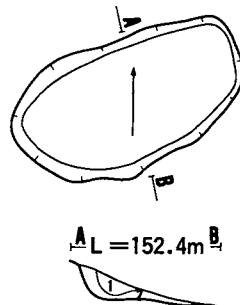
- | |
|-------------------|
| 1 10YR2/2 黑褐 含暗褐土 |
|-------------------|

IB8a-4



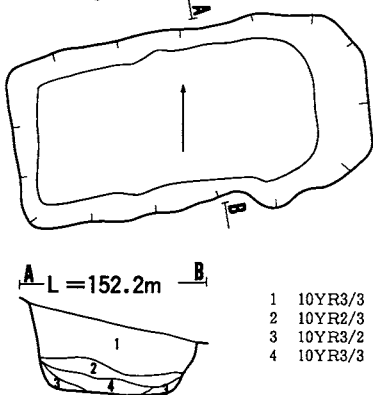
- | |
|-------------------|
| 1 10YR2/2 黑褐 含炭化物 |
| 2 10YR4/4 褐 |
| 3 10YR2/3 黑褐 含炭化物 |
| 4 10YR3/4 暗褐 含炭化物 |
| 5 掘りすぎ |

IB8b-2



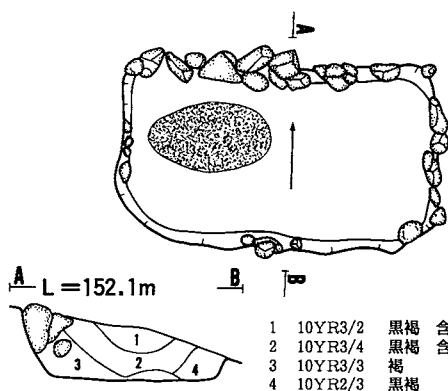
- | |
|-------------------|
| 1 10YR2/2 黑褐 含炭化物 |
| 2 10YR2/3 黑褐 含炭化物 |

IB8c

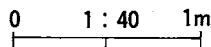


- | |
|--------------|
| 1 10YR3/3 暗褐 |
| 2 10YR2/3 黑褐 |
| 3 10YR3/2 黑褐 |
| 4 10YR3/3 暗褐 |

IB8d-1

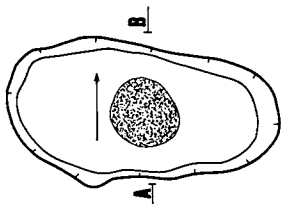


- | |
|-------------------|
| 1 10YR3/2 黑褐 含炭化物 |
| 2 10YR3/4 黑褐 含炭化物 |
| 3 10YR3/3 褐 |
| 4 10YR2/3 黑褐 |



第29図 土坑類 (6)

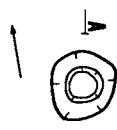
IB8d-2



A L = 151.5m B

- 1 10YR2/2 黑褐 含炭化物
- 2 5YR2/3 極暗赤褐

IC8e



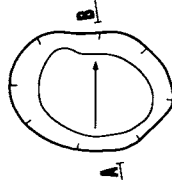
L = 152.9m

A B



- 1 10YR2/3 黑褐

IC8f



A L = 152.6m B

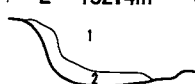


- 1 10YR3/2 黑褐 含炭化物
- 2 10YR3/3 暗褐 含炭化物

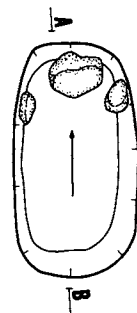


IC9f

A L = 152.4m B

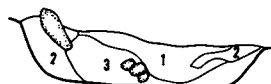


- 1 10YR2/1 黑 含炭化物
- 2 10YR2/3 黑褐 含炭化物



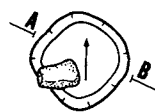
IC0f-1

A L = 151.7m B



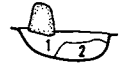
- 1 10YR2/2 黑褐 含炭化物
- 2 10YR2/1 黑 含炭化物
- 3 10YR2/1 黑 含炭化物 燒骨片

IC0f-2



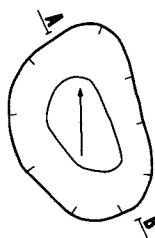
L = 151.5m

A B

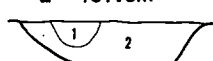


- 1 10YR2/2 黑褐 含炭化物
- 2 10YR3/2 黑褐 含炭化物

IC0g-1

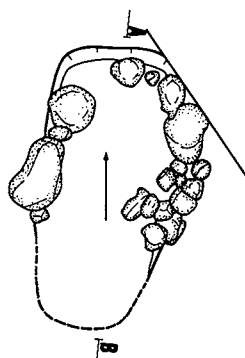


A L = 151.5m B

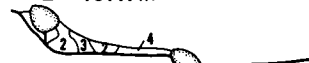


- 1 10YR1.7/1 黑 含炭化物
- 2 10YR2/1 黑 含炭化物

IC0g-2

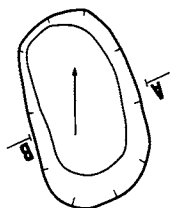


A L = 151.7m B



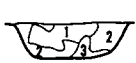
- 1 10YR3/3 暗褐 含炭化物
- 2 10YR2/2 黑褐 含炭化物
- 3 5YR3/3 暗赤褐 酸化鉄
- 4 10YR2/1 黑 含炭化物

IC2f



L = 150.9m

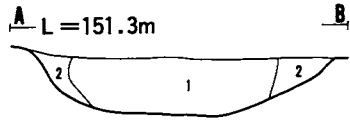
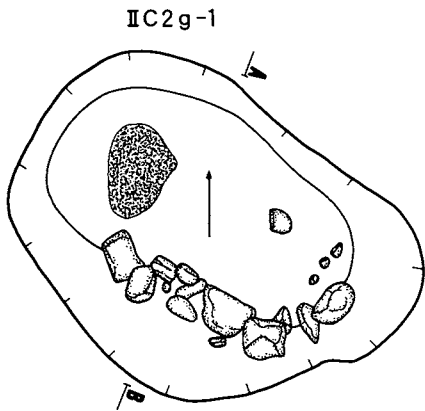
A B



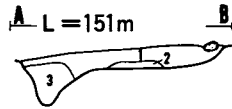
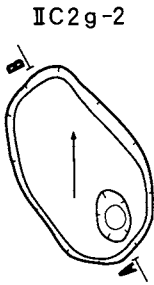
- 1 10YR2/2 黑褐 含炭化物
- 2 10YR3/3 暗褐 含炭化物
- 3 10YR4/4 褐

0 1 : 40 1m

第30圖 土坑類 (7)

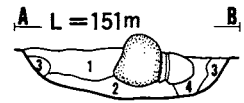
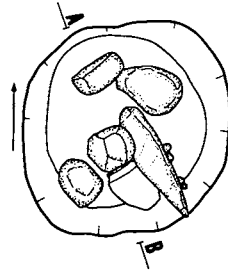


- 1 10YR3/1 黑褐 含炭化物
- 2 10YR4/2 灰黄褐 含明褐土



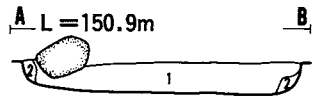
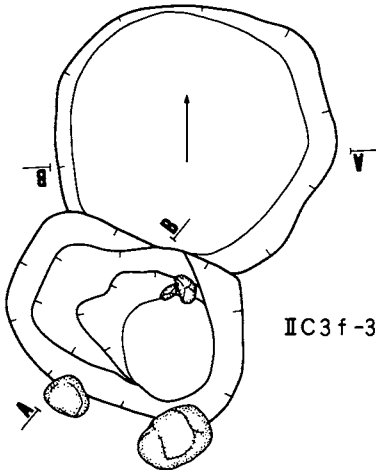
- 1 10YR2/2 黑褐 含炭化物
- 2 10YR3/4 暗褐
- 3 10YR3/3 暗褐 含烧骨片

IC3f-1

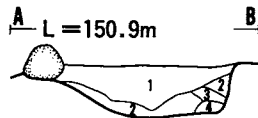


- 1 10YR2/2 黑褐 含炭化物·烧骨片
- 2 10YR3/2 黑褐 含炭化物
- 3 10YR4/4 褐
- 4 10YR3/3 暗褐 含炭化物

IC3f-2



- 1 10YR2/1 黑 含炭化物
- 2 10YR3/3 暗褐 含炭化物



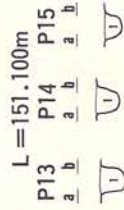
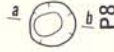
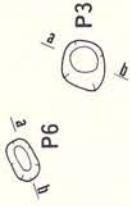
- 1 10YR2/2 黑褐 含炭化物
- 2 10YR3/3 暗褐
- 3 10YR4/4 褐
- 4 10YR2/1 黑 含炭化物

0 1 : 40 1m

第31图 土坑类 (8)

PNo	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	P ₅	P ₆	P ₇	P ₈	P ₉
径	24×20	24	36×30	21×22	21×19	28×17	24×20	31×30	
深さ	16.8	17.3	35.3	16.8	11	12.9	17	30.5	

PNo	P ₁₀	P ₁₁	P ₁₂	P ₁₃	P ₁₄	P ₁₅
径	40×39	25×24	30×29	30×24	28×22	22×20
深さ	19.5	24	16	16.5	18	16.5
				13.5		



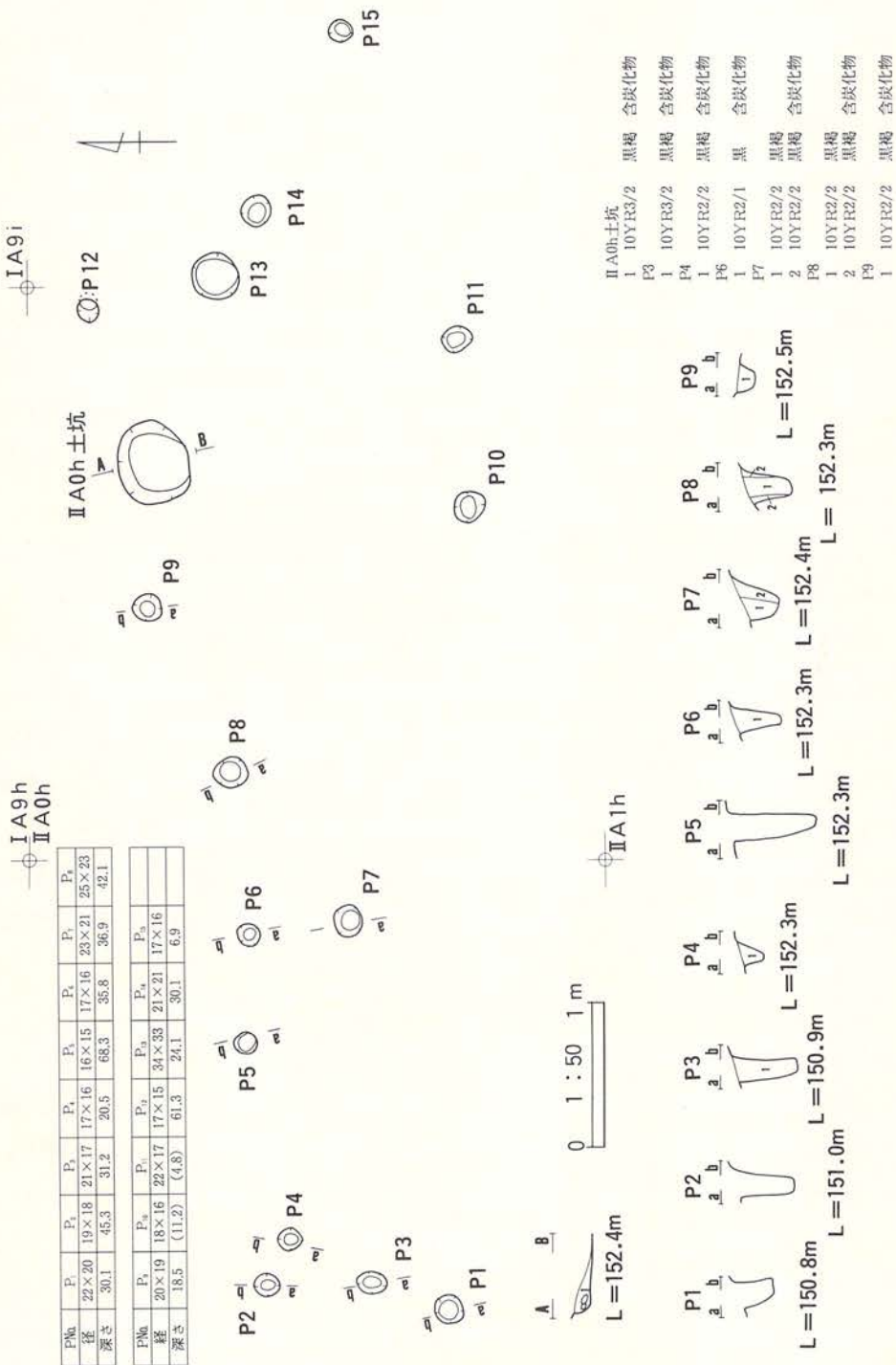
L=151.300m

L=151.100m

- | | | | |
|-----|---|-----------|---------|
| P9 | 1 | 10YR2/1 | 黑褐 |
| | 2 | 10YR3/2 | 黑褐 |
| P10 | 1 | 10YR3/2 | 黑褐 含炭化物 |
| | 2 | 10YR2/1 | 黑 |
| P11 | 1 | 10YR2/1 | 黑 含炭化物 |
| P12 | 1 | 10YR2/1 | 黑 含炭化物 |
| P13 | 1 | 10YR2/1 | 黑 含炭化物 |
| P14 | 1 | 10YR1.7/1 | 黑 含炭化物 |
| P15 | 1 | 10YR2/1 | 黑 含炭化物 |
| | 1 | 10YR3/2 | 黑 含炭化物 |
| | 1 | 10YR2/1 | 黑 含炭化物 |

0 1 m

第32図 II C区柱穴状土坑群



第33图 II A区柱穴状土坑群

4. 埋設土器

34基を登録、掲載したが多くは遺物包含層（Ⅲ層）を掘り込んで埋設しているため、遺構として認定できずそのまま取り上げてしまったものも多く、実数は登録数より増える。また、登録したものでも認定が遅れたため、平面図・断面図を作成できなかったものが有る。なお、当初埋設土器として扱っていなかったものを、整理段階で登録したものもある。

I A 8 j 埋設土器（第35図・写真図版41）

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区西側、急斜面部の下位に位置する。いくぶん斜面の下方（南）に傾くが、ほぼ正位に埋設されている。Ⅲ層中に埋設されているため、掘り方は確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器（345）だけである。小型の深鉢で、突起列状の小山形口縁部に2個のB突起が付き、胴部上端に沈線とB突起をもつ。〈時期〉土器の特徴から縄文時代晩期中葉の遺構と考えられる。

I A 9 g - 1 埋設土器（第35図・写真図版41）

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区西側、急斜面部の下位に位置し、I A - 4・5住居跡の埋土を切る形になる。土器は、いくぶん斜面の下方（南）に傾く斜位に埋設されている。検出面では土器の上方（北側）に接するように扁平な礫が検出されているが、これとの関係は不明である。主にⅢ層中に埋設されているため、明確な掘り方は確認できなかったが、土器の南側が崩壊していることから土器よりやや大きめの掘り方に埋設された可能性がある。

〈遺物〉遺物は埋設されていた土器（346）だけである。地文のみが施された大型の深鉢で、胴部上半が僅かに内湾する。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I A 9 g - 2 埋設土器（第35図・写真図版41）

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区西側、急斜面部の下位に位置し、I A - 5住居跡の埋土を切る形になる。崩壊が著しく全体の状態は不明であるが、底部の残存状況から推定して斜面下方（南）に傾く斜位に埋設されていたものと考えられる。Ⅲ層中に埋設されているため、明確な掘り方は確認できなかったが、土器の南側が崩壊していることから土器よりやや大きめの掘り方に埋設された可能性がある。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器（347）と土器内から出土した礫石器（378）である。土器は地文だけの大型の深鉢で、口唇部に突起が2個付き、胴部上半が内湾する。石器は両面に凹み、両面及び片側面を使用した磨石・凹石である。

〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I A 9 g - 3 埋設土器 (第35図・写真図版41)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区西側、急斜面部の中位に位置する。土器は、斜面下方(南)に傾く斜位に埋設されている。Ⅲ層中に埋設されているため、明確な掘り方は確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(349)だけである。地文のみが施された大型の深鉢で、口縁部を欠くが、胴部上半は僅かに内湾する。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

II A 0 d 埋設土器 (第35図・写真図版41)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区西端、急斜面部の下位に位置し、II A - 2 住居跡の埋土を切る形になる。土器は、いくぶん斜面の下方(南東)に傾く斜位に埋設されている。土器内の埋土最上部～中部に長さ10～15cmの垂角礫が3個出土している。また、土器内の下部には暗赤褐色土の堆積が見られ、埋設時点で土器内に赤色顔料を散布したものと考えられる。なお、大半はⅢ層中に埋設されているため、掘り方は検出できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(350)と土器内の埋土上部から出土した土器片(351～354)がある。350は地文のみが施された大型の深鉢で、胴部上半が僅かに内湾する。351は磨り消し縄文を持つ鉢、352・353は注口土器、354は粗製の鉢(壺?)の口縁部破片である。これらの土器は型式的に時期差を持つため、周辺からの混入の可能性が高く、当遺構に伴う遺物である可能性は低いと考えられる。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

II A 0 e 埋設土器 (第35図・写真図版42)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区西側、緩斜面部の上位に位置し、II A - 1 住居跡状遺構の埋土を切る形になる。土器はいくぶん斜面の下方(南)に傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、掘り方は確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(355)と、土器内の埋土から出土した土器片(356)及び石器(357)がある。356は地文のみが施された大型の深鉢で、胴部上半を欠く。なお、底面には3.6×2.8cmの穿孔を持つ。356は底部破片である。357は有茎凸基の石鏃である。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

II A 0 f - 1 埋設土器 (第35図・写真図版42)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区西側、緩斜面部の上位に位置し、II A 0 f - 1 土坑の埋土最上部を切る形になる。土器は僅かに斜面の下方(南)に傾く斜位に埋設されている。主

にⅢ層中に埋設されているため、明確な掘り方は確認できなかったが、土器の南側が崩壊していることから、土器よりやや大きめの掘り方に埋設された可能性がある。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器（358）と、土器内の埋土から出土した石器（359～364）がある。358は地文のみが施された大型の深鉢で、口縁部が僅かに内湾する。359・360は有茎凸基の石鏃、361は石錐、362・363は不定形石器、364は使用痕を持つ剥片である。出土状況からこれらは副葬された可能性が高い。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

Ⅱ A 0 f - 2 埋設土器（第35図・写真図版42）

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区西側、緩斜面部の上位に位置し、Ⅱ A 0 f - 2 土坑の埋土最上部を切る形になる。土器はいくぶん斜面の下方（南）に傾く斜位に埋設されている。検出時には土器の最上部に幅26cm、長さ19cm、厚さ12cmの扁平な礫が載っていた。しかし、周辺部には同様の礫が多数検出されており、これが当遺構の蓋石であるかどうかは不明である。主にⅢ層中に埋設されているため、掘り方は確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器（365）だけである。外反する小波状口縁をもち、口縁部上端と頸部に沈線が巡る。胴部は地文のみが施されている。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが器形から推定して、縄文時代晩期中葉～後葉の遺構と考えられる。

Ⅰ B 5 e 埋設土器（第35図・写真図版42）

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。土器は斜面の下方（南）に大きく傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかったが、断面の観察ではほぼ土器と同規模の掘り方に埋設されたものと考えられる。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器（366・367）だけである。366は地文のみが施された粗製の深鉢で、口縁部が僅かに内湾する。367は同一固体と考えられるが、接合しなかった。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

Ⅰ B 5 f 埋設土器（第35図・写真図版43）

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の上位に位置する。土器は斜面の下方（南）に口縁部を向けた横位に埋設されている。34基中横位に埋設されるものは当遺構だけである。Ⅲ層中に埋設されているため、掘り方は確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器（368）とこれに接して出土した土器（369）である。いずれも地文のみが施された

粗製の深鉢で、368は胴部上半が内湾し、369はほとんど内湾しない。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I B 5 i - 1 埋設土器 (第35図・写真図版43)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。土器は斜面の下方(南)に傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかったが、断面の観察では土器よりやや大きい掘り方に埋設されたものと考えられる。

〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(370)だけである。地文のみが施された粗製の土器で、口縁部が僅かに内湾する。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I B 5 i - 2 埋設土器 (第35図・写真図版43)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。土器は斜面の下方(南)に大きく傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかったが、断面の観察では土器よりやや大きい掘り方に埋設されたものと考えられる。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(371)だけである。頸部に文様帯を持つ半粗製の深鉢である。緩い小波状口縁を呈し、上下とも2本の沈線によって区画された頸部には三叉文系の文様が施文されている。〈時期〉土器に施文された文様の特徴から、縄文時代晩期中葉の遺構と考えられる。

I B 5 j 埋設土器 (第36図・写真図版43)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。土器は斜面の下方(南)に傾く斜位に埋設されている。遺構としての認定が遅れたため、上半部を精査前に取り上げてしまい、下部のみの記録しか残せなかった。主にⅢ層中に埋設されているため、掘り方の明確なプランは確認できなかったが、断面の観察では土器よりいくぶん大きな掘り方に埋設されたものと考えられる。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(372)だけである。

地文のみが施された粗製の深鉢で、胴部は僅かに内湾する。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I B 6 d 埋設土器 (第36図・写真図版44)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。土器は斜面の下方(南)に傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、明確な掘り方の

プランは確認できなかったが、断面の観察からは開口部では土器よりいくぶん大きく、底部ではほぼ同規模の掘り方に埋設されたものと考えられる。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(373)だけである。上端部に文様帯を持つ半粗製の深鉢で、胴部上半は内湾する。7単位?の突起を有する小山形口縁を呈し、頸部に連珠文が施文される。〈時期〉土器に施文された文様の特徴から、縄文時代晩期中葉の遺構と考えられる。

I B 6 e - 1 埋設土器 (第36図・写真図版44)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。土器は斜面の下方(南)に緩く傾く斜位に埋設されている。大半がⅢ層中に埋設されているため、明確な掘り方のプランは確認できなかったが、土層断面の観察では、ほぼ土器と同規模の掘り方に埋設されたものと考えられる。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(374)と土器の埋土から出土した土製円盤(375)である。374は小波状口縁を呈する粗製の深鉢で、口縁部は無文帯となり、胴部には地文のみが施されている。375は粗製土器を素材とする円盤で、周囲を打ち欠いて整形している。〈時期〉土器の器形の特徴から、縄文時代晩期中葉の遺構と考えられる。

I B 6 e - 2 埋設土器 (第36図・写真図版44)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。土器は斜面の下方(南)に傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、明確な掘り方のプランは確認できなかったが、断面の観察では、土器とほぼ同規模な掘り方に埋設されたものと考えられる。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(376)だけである。地文のみが施された粗製の深鉢で、胴部上端が僅かに内湾する。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I B 6 e - 3 埋設土器 (第36図・写真図版44)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。土器は斜面の下方(南)に大きく傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、明確な掘り方のプランは確認できなかったが、土層断面の観察では、比較的大きな掘り方に埋設されたものと考えられる。なお、南側には土器を支えるように長さ38cm、厚さ18cmの角礫が検出されたが、この礫が当遺構に伴うものであるかどうかは不明である。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(377)だけである。口縁部に文様帯を持つ半粗製の深鉢で、小山形口縁を呈し、羊歯状文と平行沈線文が施文されている。胴部上半は僅かに内湾する。〈時期〉土器の文様の特徴から、縄文時代晩期前葉の遺構と考えられる。

I B 6 f - 1 埋設土器 (写真図版45)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置し、I B 6 f - 2 土坑の埋土上部を切る形になる。遺構としての認定が遅れたため、位置を記録したのみで平面及び断面図の作成は行っていない。土器は斜面の下方(南)に大きく傾く斜位に埋設されている。土器内の下部には暗赤褐色土の堆積が見られ、埋設時に土器内に赤色顔料を散布したものと考えられる。なお、大半がⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかった。

〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(378)と土器内埋土の最下部から出土した石器(379~381)がある。378は地文のみが施された粗製の深鉢で、胴部上半部が内湾する。379は表裏両面に使用痕を持つ磨石、380・381は磨製石斧で、いずれも刃部を破損している。これらには赤色顔料が多量に付着しており、共に副葬されたものと考えられる。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉~中葉の遺構と考えられる。

I B 6 f - 2 埋設土器 (写真図版45)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置し、I B 6 f - 2 土坑の埋土上部を切る形になる。遺構としての認定が遅れたため、位置を記録したのみで平面及び断面図の作成は行っていない。土器は斜面の下方(南)に傾く斜位に埋設されている。大半がⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(382)だけある。口縁部に文様帯を持つ半粗製の深鉢で、小山形口縁を呈し、羊歯状文と平行沈線文が施文されている。胴部上半部は僅かに内湾する。〈時期〉土器に施文される文様の特徴から、縄文時代晩期前葉の遺構と考えられる。

I B 7 c 埋設土器 (第36図・写真図版45)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の中位に位置する。土器は斜面の下方(南)にいくぶん傾く斜位に埋設されている。大半がⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかったが、土層断面の観察では、下部はほぼ土器と同規模の掘り方を持つものと考えられる。なお、土器を支えるように北側に2個、南側に3個の角礫が検出されており、上部は土器に比べてだいぶ大きな掘り方を有していたものと考えられる。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(383)と土器内埋土の最下部から出土した小型の土器(384)がある。383は地文のみが施された粗製の深鉢で、胴部上半部が僅かに内湾する。384は無文の浅鉢で、内外面とも丁寧に研磨されている。出土状況からこの浅鉢は副葬されたものと考えられる。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉~中葉の遺構と考えられる。

I B 7 d - 1 埋設土器 (第36図・写真図版45)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。土器は斜面の下方(南)にいくぶん傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、明確な掘り方のプランは確認できなかったが、断面の観察では、土器とほぼ同規模な掘り方に埋設されたものと考えられる。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(385)だけである。地文のみが施された粗製の深鉢で、胴部上半部が僅かに内湾する。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I B 7 d - 2 埋設土器 (第36図・写真図版46)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。土器は斜面の下方(南)に僅かに傾く斜位に埋設されている。精査時点での不手際で周辺部を掘りすぎたため、掘り方のプランは確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(386)だけである。頸部に平行沈線が巡る粗製の深鉢で、胴部上半は内湾する。〈時期〉口縁部を欠くため詳細は不明であるが、頸部の沈線文から縄文時代晩期中葉の遺構と考えられる。

I B 7 e 埋設土器 (第36図・写真図版46)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。土器は斜面の下方(南)にいくぶん傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(387)だけである。口縁部を欠くが、胴部に地文のみが施された粗製の深鉢である。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I B 8 c 埋設土器 (第37図・写真図版46)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面部の下位に位置する。土器は斜面の下方(南)に僅かに傾く斜位に埋設されている。主にⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(388)だけである。地文のみが施された粗製の深鉢で、胴部は緩く外傾して開く。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I C 7 d 埋設土器 (第37図・写真図版46)

〈遺構〉V層相当面で検出された。調査区東端、急斜面部の下位に位置する。土器は斜面の下方(南)に僅かに傾く斜位に埋設されている。上半部は粗掘時に削平してしまったが、下半

部はV層を掘り込んで埋設されており、南北69cm、東西68cm、深さ30cmの不正な円形を呈する掘り方が確認できた。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(389)だけである。胴部上端から口縁部を欠くが、地文のみが施された粗製の深鉢で、胴部は緩く内湾する。なお、底面には5.2×2.6cmの穿孔を持つ。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

IC7e埋設土器(写真図版47)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区東端、緩斜面部の上位に位置する。遺構としての認定が遅れたため、位置を記録したのみで平面及び断面図の作成は行っていない。土器は口縁部を斜面の下方(南)に向けて、潰れた形で検出された。底部の検出状況から推定して、大きく傾く斜位に埋設されていたものと考えられる。なお、大半がⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(390・391)だけである。同一固体と考えられるが、接合しなかった。頸部に文様帯を持つ半粗製の深鉢で、胴部上半は緩く内湾する。文様帯は上下とも2本の沈線で区画され、この中に三叉文系の文様が一部に縄文を伴って施されている。〈時期〉土器の文様の特徴から、縄文時代晩期前葉の遺構と考えられる。

IC8e-1埋設土器(第37図・写真図版47)

〈遺構〉V層相当面で検出された。調査区東端、緩斜面部の上位に位置する。土器は斜面の下方(南)に傾く斜位に埋設されている。遺構としての認定が遅れたため、上半部の埋土をほとんど取り去ってしまったが、下半部はV層を掘り込んで埋設されており、南北55cm、東西50cm、深さ24cmの不正な円形を呈する掘り方が確認できた。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(392)だけである。地文のみが施された粗製の深鉢で、胴部は緩く内湾する。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

IC8f-1埋設土器(第37図・写真図版47)

〈遺構〉V層相当面で検出された。調査区東端、緩斜面部の上位に位置する。土器は斜面の下方(南)に傾く斜位に埋設されている。遺構としての認定が遅れたため、上半部の埋土をほとんど取り去ってしまった。下半部はV層を掘り込んで埋設されており、南北59cm、東西68cm、深さ15cmの不正な円形を呈する掘り方が確認できた。しかし、土器に対する掘り方の規模が他に比べて大きいことから、別の土坑との重複の可能性もある。〈遺物〉遺物は埋設された土器だけである。底部を欠くが、埋設時から欠損していたものと考えられる。地文のみが施され

た粗製の深鉢で、胴部は緩く内湾するが、上半から口縁部にかけてはほぼ直立する。

〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I C 8 f - 2 埋設土器 (写真図版47)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区東端、緩斜面部の下位に位置する。大半が調査区域外にかかることや遺構としての認定が遅れたため、位置を記録したのみで平面及び断面図の作成は行なっていない。土器は斜面の下方(南西)に大きく傾く斜位に埋設されている。なお、大半がⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(394)と土器の埋土内から出土した土器片(395)がある。394は地文のみが施された粗製の深鉢で、胴部は僅かに内湾する。395は頸部に文様帯を持つ半粗製の深鉢片で、圧痕状の小波状口縁を呈し、沈線による三叉文系の文様が施されている。この破片が当遺構に伴うものか、周囲から混入したものかは不明である。〈時期〉埋設された土器が粗製土器のため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I C 8 f - 3 埋設土器 (第37図・写真図版47)

〈遺構〉V層相当面で検出された。調査区東端、緩斜面部の下位に位置する。埋設土器としての認定が遅れたため、上部を取り上げてしまいV層から下部の僅かな部分の記録しか取れなかった。土器は南北40cm、東西40cm、深さ19cmの不整な円形を呈する掘り方で、僅かに斜面下方に傾く斜位に埋設されている。〈遺物〉遺物は埋設された土器(396)だけで、地文のみが施された胴部下端から底部が残存する。底面には2.6×1.7cmの穿孔を持つ。〈時期〉残存部分が少ないため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

I C 9 e 埋設土器 (第37図・写真図版48)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区東端、緩斜面部の下位に位置する。遺構としての認定が遅れたため、上部の埋土をほとんど取り去ってしまったが、土器は斜面の下方(南)に僅かに傾く斜位に埋設されている。全てⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかった。〈遺物〉遺物は埋設された土器(397)と土器の埋土内から出土した剥片(398)がある。397は口縁部と頸部に文様帯を持つ半粗製の深鉢で胴部上端は内湾し、口縁部はほぼ直立する。口縁部は突起列による小山形口縁で、頸部には2段の連珠文を持つ。398は鋭利な縁辺部に使用痕を持つ剥片で、周囲からの混入と考えられる。〈時期〉土器の文様の特徴から、縄文時代晩期中葉の遺構と考えられる。

Ⅱ C 0 f 埋設土器 (第37図・写真図版48)

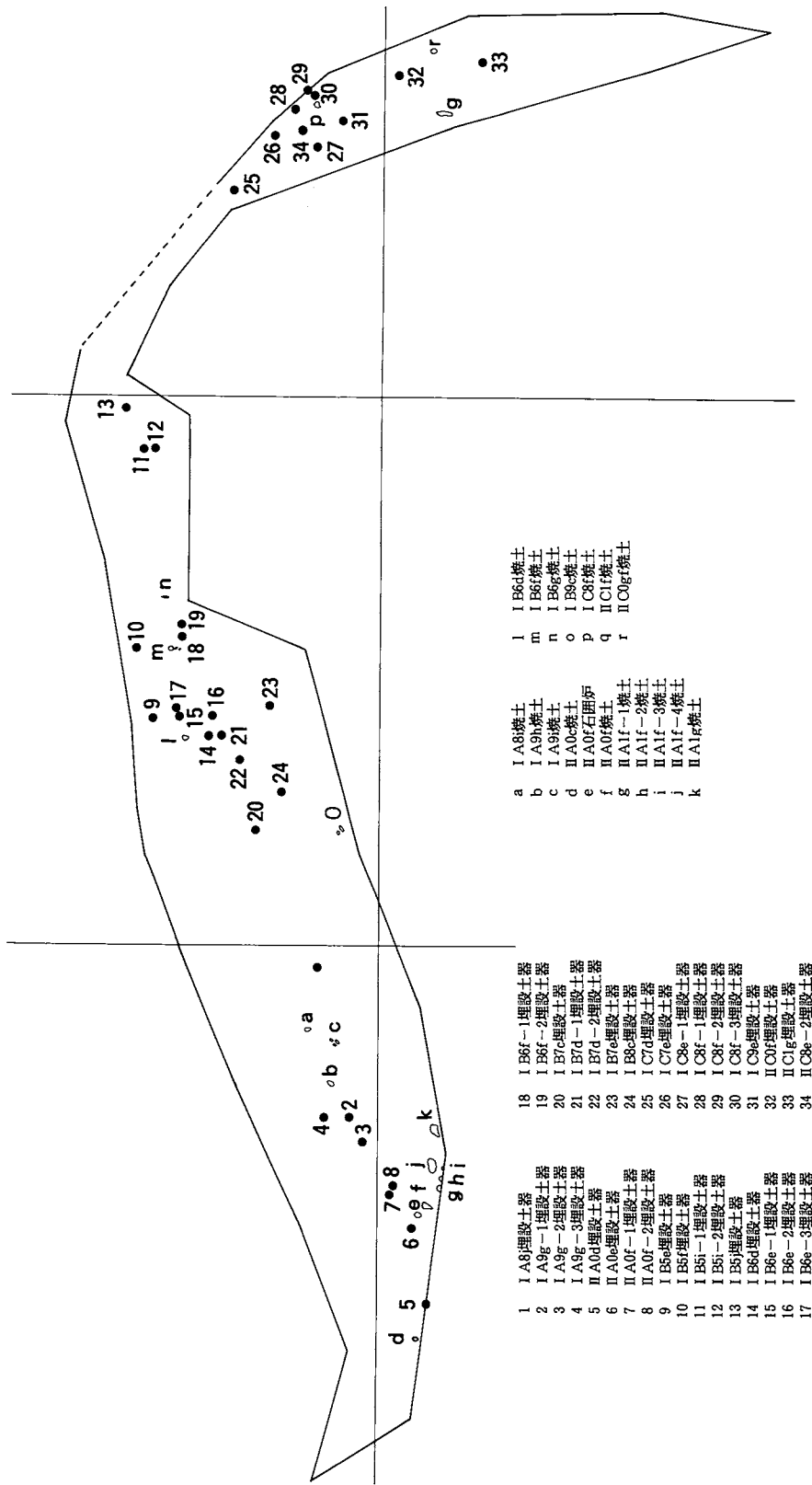
〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。遺構としての認定が遅れたため、上部を取り上げてしまった。土器は南北38cm、東西37cm、深さ17cmの不整な円形を呈する掘り方に、ほぼ正位に埋設されている。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(399)だけである。地文のみが施された胴部下半から底部が残存し、胴部は中央から僅かに内湾する。〈時期〉残存部が少ないため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる。

Ⅱ C 1 g 埋設土器 (第37図・写真図版48)

〈遺構〉Ⅲ層中で検出された。調査区東端、平坦部に位置する。遺構としての認定が遅れたため、上部を取り上げてしまった可能性がある。土器は南北48cm、東西37cm、深さ17cmの不整な円形を呈する掘り方に、ほぼ正位に埋設されている。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(400)だけである。地文のみが施された胴部のみが残存する。なお、底部は埋設時から欠損していたものと考えられる。器形は上部に向かって外傾して開く。〈時期〉残存部が少ないため詳細は不明であるが、縄文時代晩期前葉～中葉の遺構と考えられる

I C 8 e - 2 埋設土器 (第37図・写真図版48)

〈遺構〉整理時点で登録した遺構である。Ⅲ層上部で検出された。調査区東端、緩斜面部の上位に位置する。土器は斜面の下方(南)に傾く斜位に、倒立させて埋設されている。倒立状態での埋設は、34基中当遺構だけである。全体がⅢ層中に埋設されているため、掘り方のプランは確認できなかった。なお、土器の南側20cmには長さ60cm、幅18cm、厚さ10cmの柱状の角礫が、直立した状態で検出されているが、この立石と当遺構の、共伴関係は不明である。〈遺物〉遺物は埋設されていた土器(1515)だけである。外反する小波状口縁で、上端に2本の沈線が巡る。胴部は全体に内湾し、地文のみが施されている。〈時期〉粗製土器のため詳細は不明であるが器形から推定して、縄文時代晩期中葉の遺構と考えられる。



第34図 埋設土器・灰跡・焼土遺構分布図

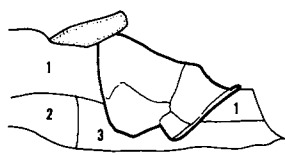
L = 152.2m



IA8j 埋設土器

- 1 10YR2/2 黒褐

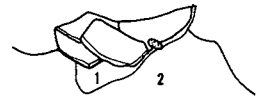
L = 151.6m



IA9g-1 埋設土器

- 1 10YR3/2 黒褐 含炭化物
- 2 10YR4/4 褐
- 2 10YR3/4 暗褐 含炭化物

L = 151.4m

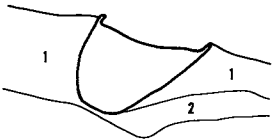


IA9g-2埋設土器

- 1 10YR2/3 黒褐
- 2 10YR3/3 暗褐 含炭化物

IA9g-3埋設土器

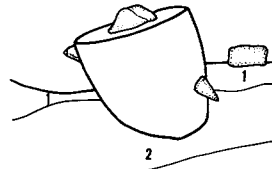
L = 152.2m



- 1 10YR2/3 黒褐
- 2 10YR3/3 暗褐

IIA0d 埋設土器

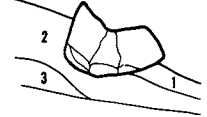
L = 151.9m



- 1 10YR2/2 黒褐 含炭化物
- 2 10YR2/3 黒褐 含炭化物

IIA0e 埋設土器

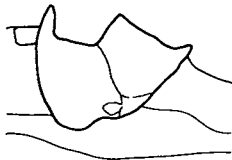
L = 151.1m



- 1 記載なし
- 2 10YR2/1 黒
- 3 7.5YR4/6 褐

IIA0f-1埋設土器

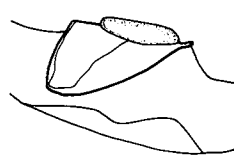
L = 152.3m



記載なし

IIA0f-2埋設土器

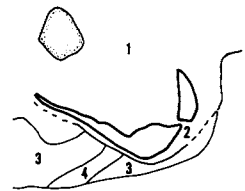
L = 152.0m



記載なし

IB5e 埋設土器

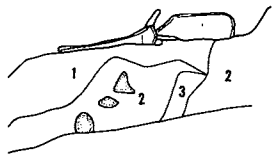
L = 156.0m



- 1 10YR2/1 黒
- 2 10YR2/3 黒褐
- 3 10YR4/4 褐
- 4 10YR3/4 暗褐 木根?

IB5f 埋設土器

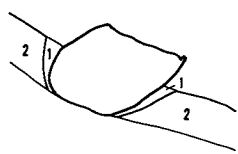
L = 155.9m



- 1 10YR2/3 黒褐
- 2 10YR4/4 褐
- 3 10YR2/3 黒褐 木根痕

IB5i-1埋設土器

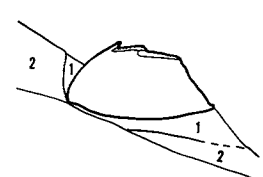
L = 154.9m



- 1 10YR3/2 黒褐
- 2 10YR3/3 暗褐

IB5i-2埋設土器

L = 154.6m

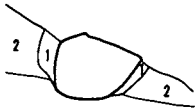


- 1 10YR3/2 黒褐 含炭化物
- 2 10YR3/3 暗褐

S = 1/20

第35図 埋設土器 (1)

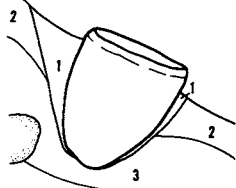
— L = 156.4m —



IB5j 埋設土器

- 1 10YR3/3 暗褐 含焼土粒・炭化物
- 2 10YR4/4 褐

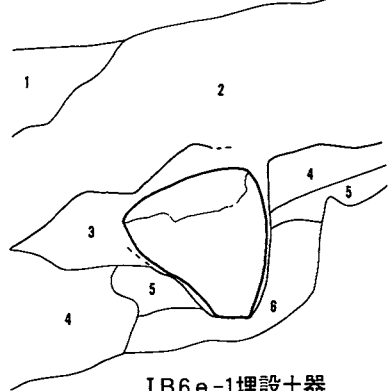
— L = 153.9m —



IB6d 埋設土器

- 1 10YR3/4 暗褐
- 2 10YR3/2 黒褐
- 3 10YR4/4 褐

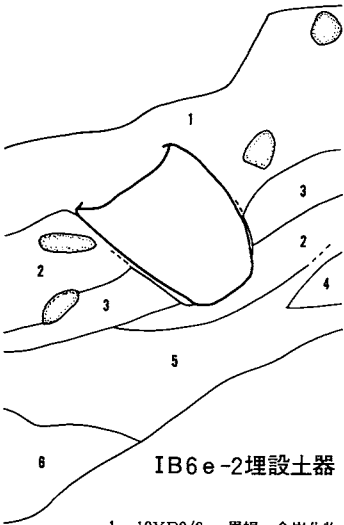
— L = 155.3m —



IB6e-1埋設土器

- 1 5YR4/4 暗オリーブ 砂礫層
- 2 10YR2/1 黒
- 3 10YR3/1 黒褐
- 4 10YR3/2 黒褐
- 5 10YR3/4 暗褐 含炭化物
- 6 10YR4/4 黄褐

— L = 154.4m —

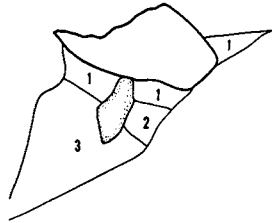


IB6e-2埋設土器

- 1 10YR2/3 黒褐 含炭化物
- 2 10YR4/4 褐 含炭化物
- 3 10YR2/3 黒褐 含炭化物
- 4 10YR3/4 暗褐
- 5 10YR2/2 黒褐
- 6 10YR5/6 黄褐 風倒木跡

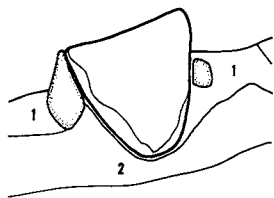
IB6e-3埋設土器

— L = 154.3m —



- 1 10YR2/3 黒褐
- 2 10YR4/4 褐
- 3 10YR3/2 黒褐

— L = 153.0m —

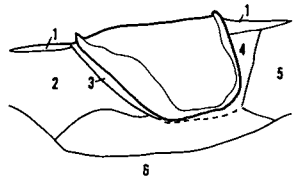


IB7c 埋設土器

- 1 10YR2/3 黒褐
- 2 10YR4/4 褐

IB7d-1埋設土器

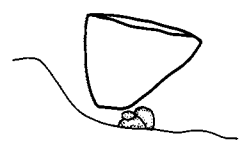
— L = 153.3m —



- 1 10YR3/1 黒褐
- 2 10YR3/3 暗褐
- 3 10YR3/4 暗褐
- 4 10YR2/3 黒褐
- 5 10YR4/4 褐
- 6 10YR2/2 黒褐

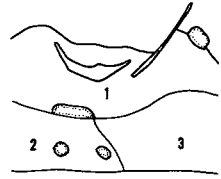
IB7d-2埋設土器

— L = 153.8m —



IB7e 埋設土器

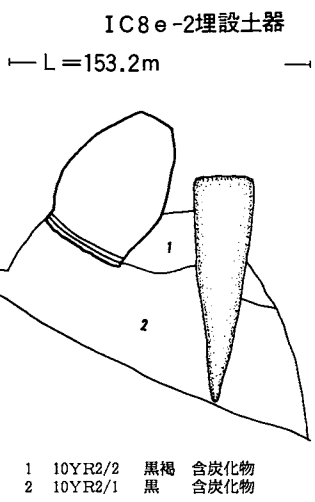
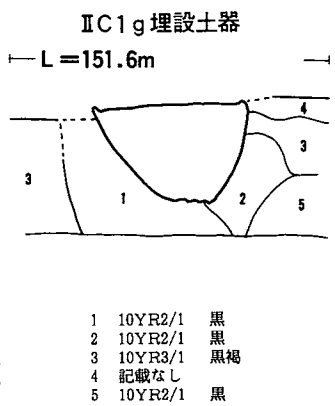
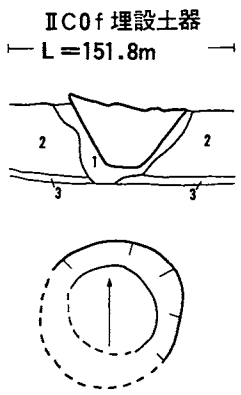
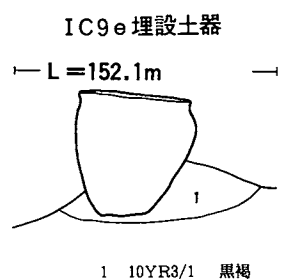
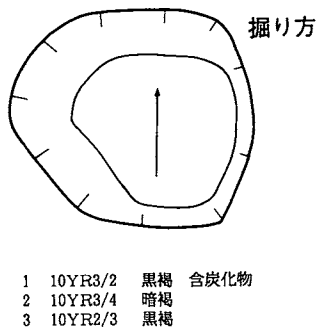
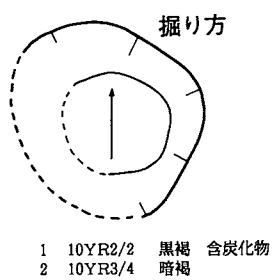
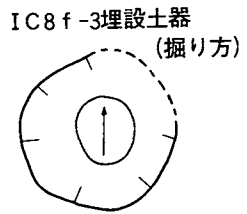
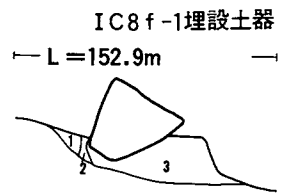
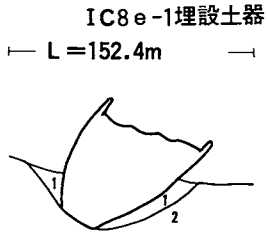
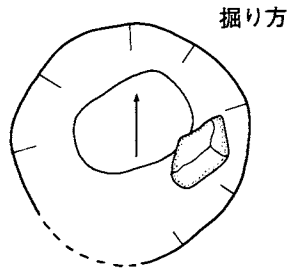
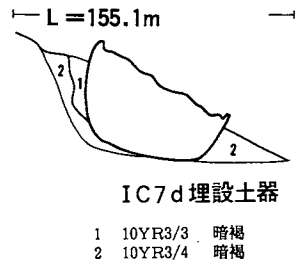
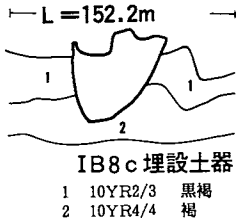
— L = 152.8m —



- 1 10YR2/3 黒褐 含炭化物
- 2 10YR2/2 黒
- 3 10YR2/3 黒褐

S = 1/20

第36図 埋設土器 (2)



S = 1/20

第37図 埋設土器 (3)

5. 炉跡・焼土遺構

炉跡1基、焼土遺構17基を登録、掲載した。形成面は斜面に沿ったものが多く、このような検出状況から大半は単独の遺構と考えられるが、一部は壁が検出できなかった住居跡に伴う炉跡の可能性を持つものもある。

II A 0 f 石囲炉 (第38図・写真図版49)

Ⅲ層中で検出された。住居跡に伴う炉跡と考えられるが、壁の立ち上がりや柱穴を検出できなかったため独立した石囲炉として記述する。調査区西側、緩斜面の上位に位置し、II A 0 e 土坑の埋土上部を切る形になる。II A - 1 住居跡状遺構のプラン内に位置するが、床面とは約50cmの高低差をもち、同一の遺構とは考えられない。

長径9～18cmの垂角礫4個を、43×30cmの北～東側が開くC字状に配して構築している。範囲内には最大7cmの厚さで焼土層が形成されている。出土遺物はなく詳細は不明であるが、重複関係から縄文時代晩期の遺構と考えられる。

I A 8 i 焼土遺構 (第38図・写真図版49)

Ⅲ層上部で検出された。調査区西側、急斜面の下部に位置し、I A - 3 住居跡の埋土最上部を切る形になる。37×25cmの不整な楕円形の範囲に、薄い焼土が分布する。直接伴う遺物は無いが、周辺からは弥生時代前期の土器が比較的まとまって出土しており、これに近い時期の遺構の可能性がある。

I A 9 h 焼土遺構 (第38図・写真図版49)

Ⅲ層上部で検出された。調査区西側、急斜面の下部に位置する。51×43cmの不整形な範囲に、最大5cmの厚さで焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

I A 9 i 焼土遺構 (第38図・写真図版49)

Ⅲ層上部で検出された。調査区西側、急斜面の下部に位置し、I A - 6 住居跡の埋土最上部を切る形になる。50×45cmの範囲に斑状に薄い焼土が分布する。直接伴う遺物は無いが、周辺からは弥生時代前期の土器が比較的まとまって出土しており、これに近い時期の遺構の可能性がある。

II A 0 f 焼土遺構（第38図・写真図版49）

Ⅲ層中で検出された。調査区東西側、緩斜面の上部に位置する。113×55cmの南西－北東に長い不整形な範囲に、最大8cmの厚さで焼土が分布する。検出時には長さ47cm、幅18cmの扁平な礫が焼土の上に載っていた。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II A 1 g 焼土遺構（第38図・写真図版50）

Ⅲ層中で検出された。調査区東西側、緩斜面の上部に位置し、南側は調査区域外に延びる。127×55cmの南西－北東に長い不整形な範囲に、最大13cmの厚さでしっかりした焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II A 0 c 焼土遺構（第38図・写真図版50）

Ⅲ層上部で検出された。調査区西端、急斜面の中部に位置する。25×24cmの不整形な範囲に割合しっかりした焼土が分布する。精査時の不手際から断面図を作成しておらず、焼土の層厚は不明である。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II A 1 f - 1 焼土遺構（第38図・写真図版50）

Ⅲ層中で検出された。調査区西側、緩斜面の上部に位置し、南側は調査区域外に延びる。周囲には同2・3・4焼土遺構が分布しており、一連の遺構の可能性が高い。45×28cmの不整形な範囲に、最大5cmの厚さでしっかりした焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II A 1 f - 2 焼土遺構（第38図・写真図版50）

Ⅲ層中で検出された。調査区西側、緩斜面の上部に位置し、南側は調査区域外に延びる。周囲には同1・3・4焼土遺構が分布しており、一連の遺構の可能性が高い。53×48cmの不整形な範囲に、最大4cmの厚さでしっかりした焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II A 1 f - 3 焼土遺構（第38図・写真図版50）

Ⅲ層中で検出された。調査区西側、緩斜面の上部に位置し、南側は調査区域外に延びる。周囲には同1・2・4焼土遺構が分布しており、一連の遺構の可能性が高い。45×28cmの不整形な範囲に、最大3cmの厚さでしっかりした焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明である

が、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

II A 1 f - 4 焼土遺構 (第38図・写真図版50)

Ⅲ層中で検出された。調査区西側、緩斜面の上部に位置する。周囲には同1・2・3焼土遺構が分布しており、一連の遺構の可能性が高い。106×58cmの東西に長い不整形な範囲に、最大8cmの厚さでしっかりした焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

I B 6 d 焼土遺構 (第38図・写真図版51)

Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面の上部に位置し、I B 6 d - 1土坑の埋土最上部を切る形になる。45×40cmの不整形な方形の範囲に、最大10cmの厚さでしっかりした焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

I B 6 f 焼土遺構 (第38図・写真図版51)

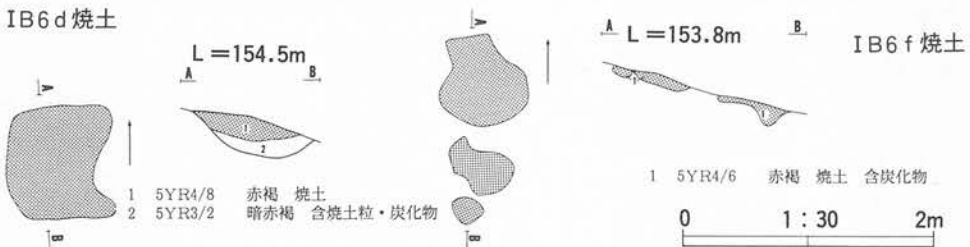
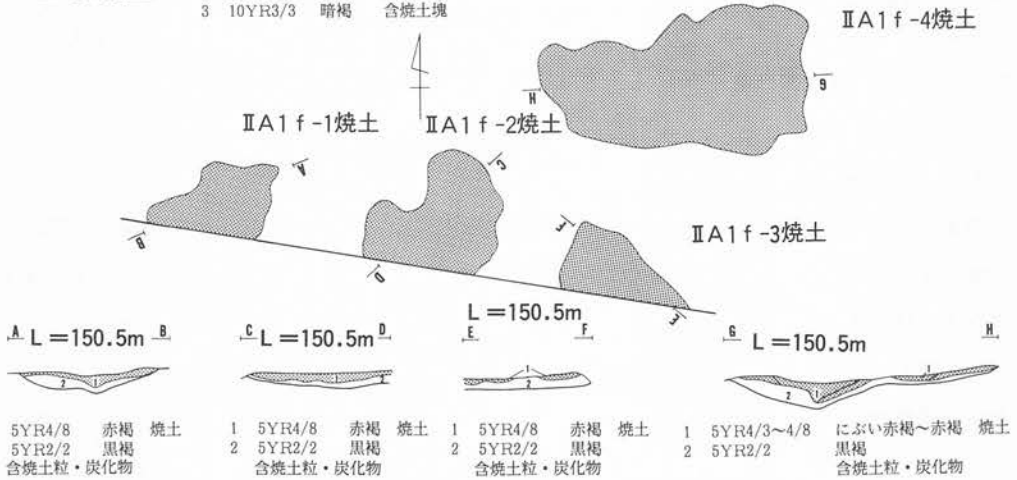
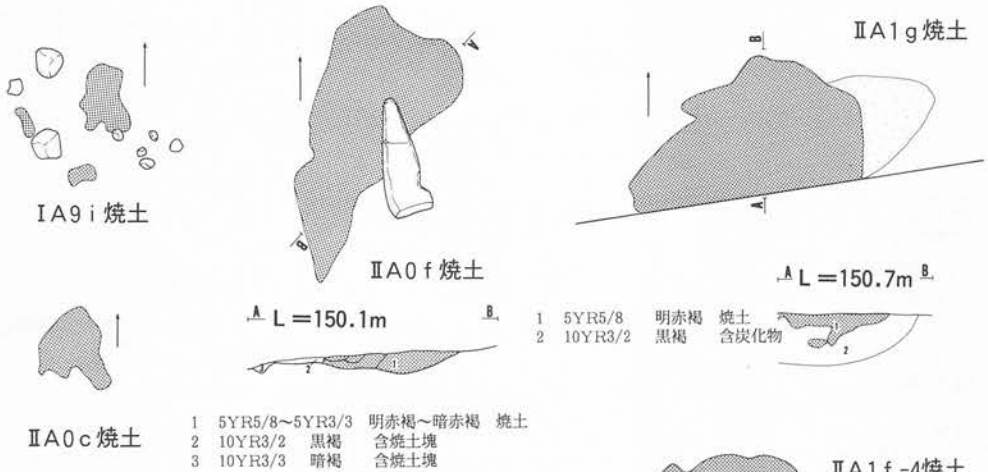
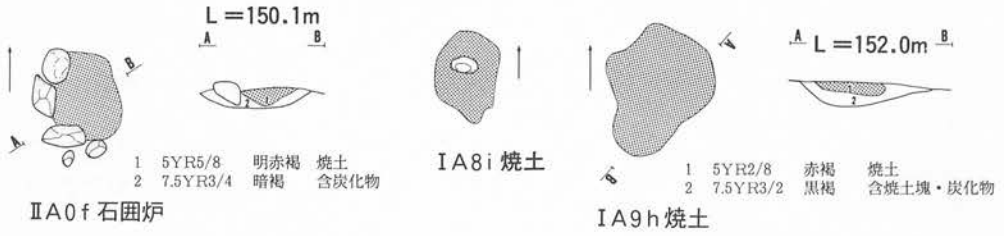
Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面の上部に位置し、I B 6 f - 1土坑の埋土最上部を切る形になる。75×35cmの南北に長い不整形な範囲に、最大9cmの厚さでしっかりした焼土が斑状に分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

I B 6 g 焼土遺構 (第39図・写真図版51)

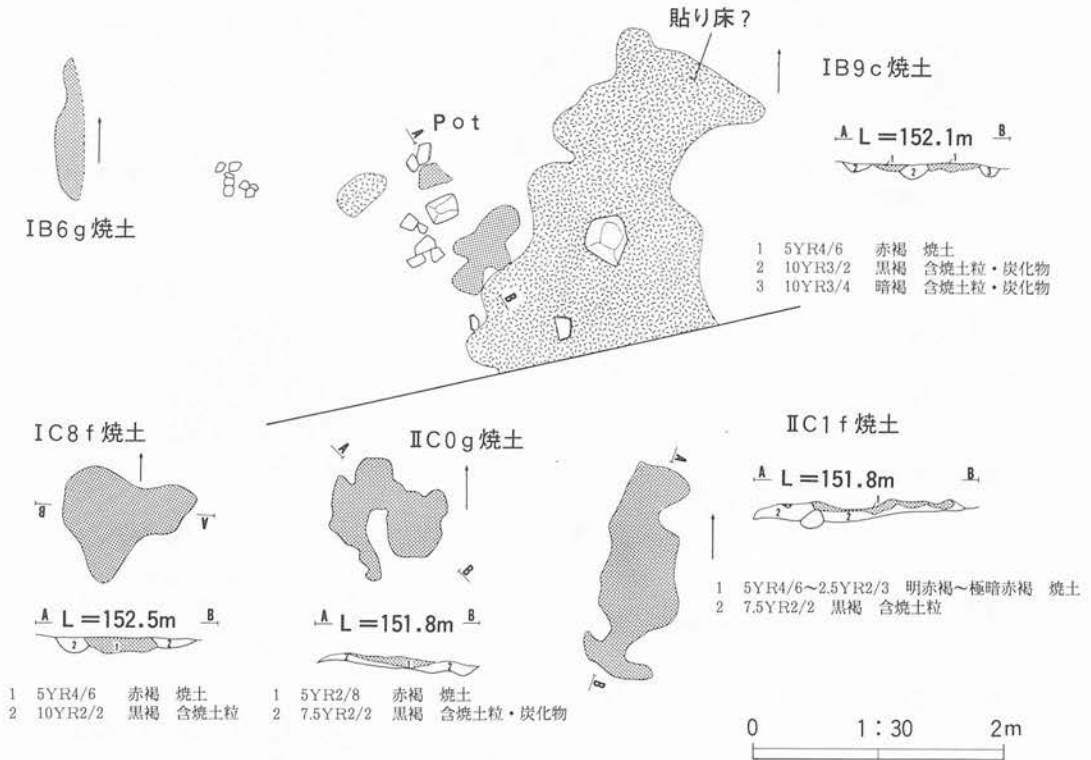
Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面の上部に位置する。試掘時に検出されたもので、精査の下手際から西端部を残して掘りすぎてしまった。40±×55cmの不整形な範囲に、3～5cmの厚さで割合しっかりした焼土が分布していた。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

I B 9 c 焼土遺構 (第39図・写真図版51)

Ⅲ層上部で検出された。調査区中央、緩斜面の上部に位置する。50×40cmの不整形な範囲に、最大3cmの厚さで薄い焼土が斑状に分布する。なお、当初周囲には比較的堅くしまる褐色土が広がり、住居跡の貼床の可能性も考えたが、断面の観察では廃棄行為による土層と思われ、焼土遺構として扱った。直接伴う出土遺物はないが、周辺部からは弥生時代後期の土器がまともに出ており、これらに近い時期の遺構と考えられる。



第38図 炉跡・焼土遺構 (1)



第39図 焼土遺構 (2)

IC8f 焼土遺構 (第39図・写真図版52)

Ⅲ層中で検出された。調査区東端、緩斜面の上部に位置する。53×45cmの不正形な範囲に、最大6cmの厚さで淡い焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

IC0g 焼土遺構 (第39図・写真図版52)

Ⅲ層中で検出された。調査区東端、平坦面に位置する。49×47cmの不正形な範囲に、最大4cmの厚さで淡い焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

IC1f 焼土遺構 (第39図・写真図版52)

Ⅲ層中で検出された。調査区東端、平坦面に位置する。85×32cmの南北に長い不正形な範囲に、最大4cmの厚さで淡い焼土が分布する。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代の遺構と考えられる。

6. 集石遺構

調査区の全域、特にA区・B区の斜面下位からは、多数の礫が検出された。斜面が急なため、旧地表面の把握が困難で層位的に上下関係にある礫も同時に検出している場合が多い。これらの内、同一面でまとまりの有るもの14基、礫分布域2ヵ所を集石遺構として登録したが、明らかに「集められた、配置された」と考えられるものは少ない。

I A 8 j 集石（第40図・写真図版52）

IV層相当面で検出された。調査区中央、急斜面の下部に位置する。礫群の分布は、2つのブロックに分けられる。西側には24～10cmの礫が1.1mにわたって直線的に配され、東側には1.6×1.2mの範囲に50～16cmの礫が疎らに分布する。なお、東側の礫群の下部からはI A 8 j - 1土坑が検出されており、当土坑に付随する集石の可能性は高いが、土坑の範囲外に位置する西側の礫群との関係を明確に判断することはできなかった。

東側の礫群中から土器片（401～407）が出土している。磨り消し縄文と貼り瘤を持つ深鉢が多いが、407は沈線文が施された壺である。いずれも縄文時代後期中葉の土器片で、当遺構もこれと同時期の可能性が高いと考えられる。

I A 8 f 集石（第40図・写真図版52）

IV層相当面で検出された。調査区中央、急斜面の中部に位置する。1.4×1.2mの範囲に46～14cmの礫が疎らに分布する。下部から土坑等の施設は検出されていない。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I A 9 i 集石（第40図・写真図版53）

III層下部で検出された。調査区中央、緩斜面の上部に位置する。なお、東側約1.5mには同じ層位から検出されたI A 9 j 集石があり、これと一連の遺構である可能性を持つ。礫は1.2×1mの範囲に、一辺50cm大の角巨礫とこの北側に40～10cmの礫が疎らに配されている。下部から土坑等の施設は検出されていない。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面及びI A 9 j 集石との関係から、縄文時代後期中葉頃の遺構と考えられる。

I A 9 j 集石（第40図・写真図版53）

III層下部で検出された。調査区中央、緩斜面の上部に位置する。なお、西側約1.5mには同じ層位から検出されたI A 9 i 集石があり、これと一連の遺構である可能性を持つ。礫は1.6×1.4mの範囲にJ字状に分布する。北側には35×25cm大のいくぶん大柄な礫が直線的に配置

され、南側には20cm～拳大の小礫が集中して分布している。下部から土坑等の施設は検出されていない。

集石の周辺部から、円盤状土製品（408～412）が5個出土している。いずれも縄文時代後期中葉の土器片を利用したもので、411を除いて周囲を研磨して整形している。411は周囲を打ち欠いた後、部分的に研磨している。なお、412は無文で、表面の中央部にアスファルトの付着が見られる。

周辺部から出土した円盤状土製品の時期から推定して、縄文時代後期中葉期の遺構と考えられる。

Ⅱ A 0 c 集石（第40図・写真図版53）

Ⅲ層下部で検出された。調査区西端、急斜面の中部に位置する。径約1mの範囲に40～20cmの扁平な礫8個が花卉状に配されている。下部から土坑等の施設は検出されなかったが、周囲に回る5個の礫はⅣ層を掘り込んで埋設されていた。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

Ⅱ A 0 d 集石（第41図・写真図版54）

Ⅲ層中で検出された。調査区西側、急斜面の下部に位置し、ⅡA-2・3住居跡の埋土最上部に載る形となる。礫群は全体としては2.2×1mの北西-南東に長い範囲に分布するが、大きく2つのブロックに分けられる。北西部には一辺約50cmの大きな角礫と30cm～拳大の礫が分布し、この南東には1.4×0.6mの範囲に35～10cm大の礫が配される。なお、南端部には長さ45cmの扁平で細長い礫が検出されており、この礫は立石の可能性を持つ。下部から土坑等の施設は検出されなかった。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面と重複関係から縄文時代晩期の遺構と考えられる。

Ⅱ A 0 e - 1 集石（第41図・写真図版53）

Ⅲ層中で検出された。調査区西側、急斜面の下部に位置する。礫群は1×0.6mの範囲に30cm～拳大の礫10個が疎らに分布する。下部から土坑等の施設は検出されなかった。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面と重複関係から縄文時代晩期の遺構と考えられる。

Ⅱ A 0 e - 2 集石（第41図・写真図版54）

Ⅲ層中で検出された。調査区西側、緩斜面の下部に位置する。1×1.1mの不整な円形の範囲に35～10cm大の礫が集中して分布する。礫は西側ではやや大きく、中央部と東側ではいくぶ

ん小さい傾向がある。なお、土坑等の施設はなかったが、礫の下部や南側からⅡA1e集石が検出されており、これと同一の遺構の可能性もある。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から推定して、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

ⅡA1e集石（第41図・写真図版53）

Ⅲ層下部で検出された。調査区西側、緩斜面の下部に位置する。大半が調査区域外にかかり、北端部を精査しただけである。検出部分では東西約1mの範囲に45～20cm大の礫が積み重ねた状態で分布していた。なお、これらの礫の下部から幅65cm・45cmの楕円形を呈する土坑が東西に並んで2基検出されている。しかし、深さは4cm・10cmで浅く、特に西側のものは緩く窪む程度である。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から推定して、縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

ⅡA0g集石（第41図・写真図版55）

Ⅲ層中で検出された。調査区西側、緩斜面の下部に位置する。90×75cmの範囲に35～10cm大の礫が集中して分布する。この礫群の東側には35cm大のやや大きな礫が疎らに分布するが、これらが一連のものかどうかは不明である。下部に土坑等の施設はなかった。出土遺物はなく詳細は不明であるが、検出面から推定して、縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

I B 7 d 集石（第41図・写真図版56）

Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面の中部に位置する。1.8×1mの範囲に30～10cm大の礫が北東側が開く馬蹄形に分布する。全体としては10cm～拳大の礫が多いが、南側には30cm大のやや大きな礫が配されている。図版には長・短軸方向の断面図を掲載したが、壁の立ち上がりは明確に把握できなかった。また、この中から出土した土器片の時期から、下部に土坑を伴わない可能性が高い。

集石内側の裁ち割りの際、土器片（413～416）が出土した。いずれも縄文時代後期中葉の土器片で、検出面下10cm以下からの出土である。当遺構の検出面では晩期の土器片が多数出土しており、これらの土器は当遺構の下部にある後期の包含層から掘り起こしてしまった土器と考えられ、直接遺構に伴う遺物である可能性は低い。以上から当集石は、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

I B 8 b 集石（第43図・写真図版56）

Ⅲ層下部で検出された。調査区中央、急斜面の中部に位置する。長さ90cmの細長い巨礫と20

～40cmの礫3個から構成されるが、規則的な配置ではない。下部から2基の土坑（北側：1号、南側：2号）が検出された。しかし、検出された位置から当集石に伴う可能性を持つものは2号土坑と考えられる。また、平面形から2基の土坑は重複関係にあると考えられるが、新旧の把握はできなかった。1号土坑は南側が削剥されているが残存部では $1.5 \times 0.8 \pm \text{m}$ 、深さ10cm、2号土坑は東側が削剥されているが $1.4 \pm 5.5 \text{m}$ 、深さ25cmで、いずれも不整な楕円形を呈する。埋土はどちらも黒褐色土の単層で、重複部分には粉状の骨片が僅かに見られたが、取り上げることはできなかった。

出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面から推定して縄文時代晩期頃の遺構の可能性はある。

I B 8 c 集石（第43図・写真図版56）

Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面の下部に位置し、I B - 2住居跡の埋土最上部を切る形となる。 $1 \times 0.8 \text{m}$ の範囲に30～15cmの礫8個がいくぶん東西に長く分布する。下部から土坑等の施設は検出されなかった。出土遺物は無く詳細は不明であるが、検出面と重複関係から縄文時代晩期の遺構と考えられる。

I B 8 e 集石（第43図・写真図版56）

Ⅲ層中で検出された。調査区中央、急斜面の下部に位置する。 $1 \times 1.2 \text{m}$ の範囲に40cm～拳大の礫がいくぶん疎らに分布する。下部から土坑等の施設は検出されなかった。直接伴う遺物はないが、周辺部からは晩期の遺物が多数出土しており、これらと同時期の遺構と考えられる。

I B 9 a・b 集石（第43図・写真図版57）

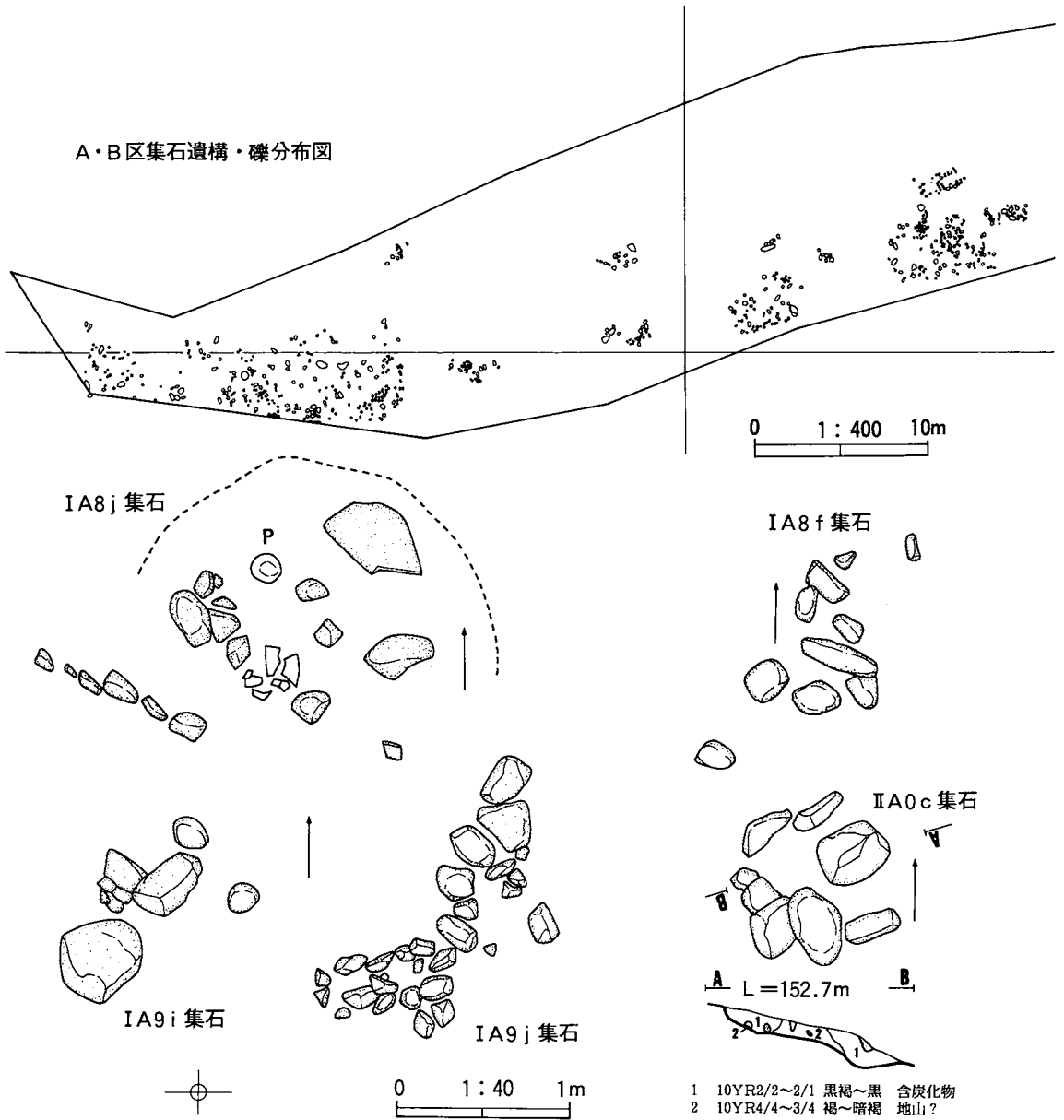
Ⅲ層中で検出された。調査区中央、緩斜面の上部に位置する。南北 $3.5 \times$ 東西4mの範囲に70～10cm大の礫が疎らに分布する。特にまとまった個所はなく、規則性も見られないが南側がやや密になる。下部から土坑等の施設は検出されなかった。直接伴う遺物はないが、周辺部からは縄文時代晩期の遺物が多数出土しており、これらと同時期の遺構と考えられる。

I B 8 d・e 集石（第44図・写真図版57）

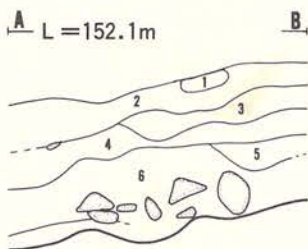
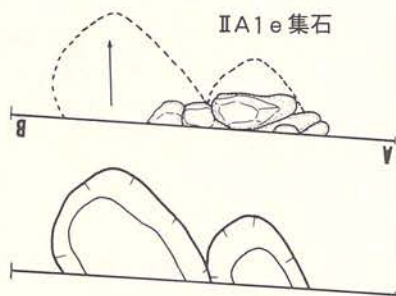
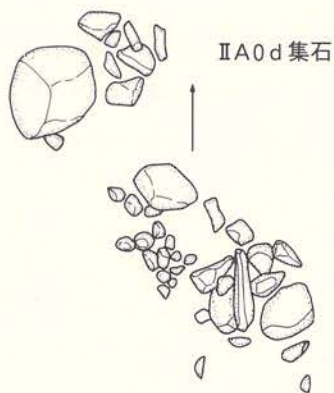
Ⅲ層中で検出された。調査区中央、緩斜面の上部に位置する。南北 $5 \times$ 東西8mの範囲に50～10cm大の礫が密に分布する。検出時に取り上げてしまった礫も多く、図面では礫群のまとまりとして見える部分があるが、これは周囲の礫を取り除いてしまったためである。なお、周辺部からは縄文時代晩期の土器が多数出土したが、斜面の上下では形式的に時期差を持っており、

全ての礫が同時期に集積されたものかどうかは不明である。また、中央部東側からは石鍬が6本まとまって出土している。(いずれも遺物包含層出土として記載)なお、中央部からは赤色顔料が検出されており、この部分に土坑墓が重複していたものと考えられる。下部から土坑等の施設は検出されなかった。

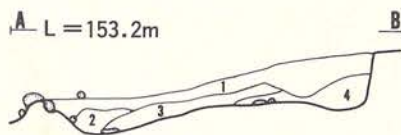
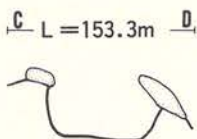
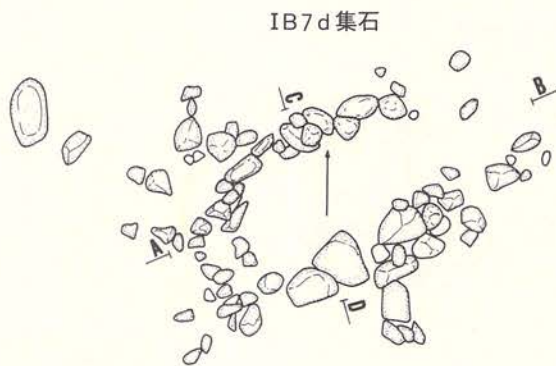
周辺部出土の土器から、縄文時代晩期頃の遺構と考えられる。



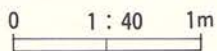
第40図 集石遺構 (1)



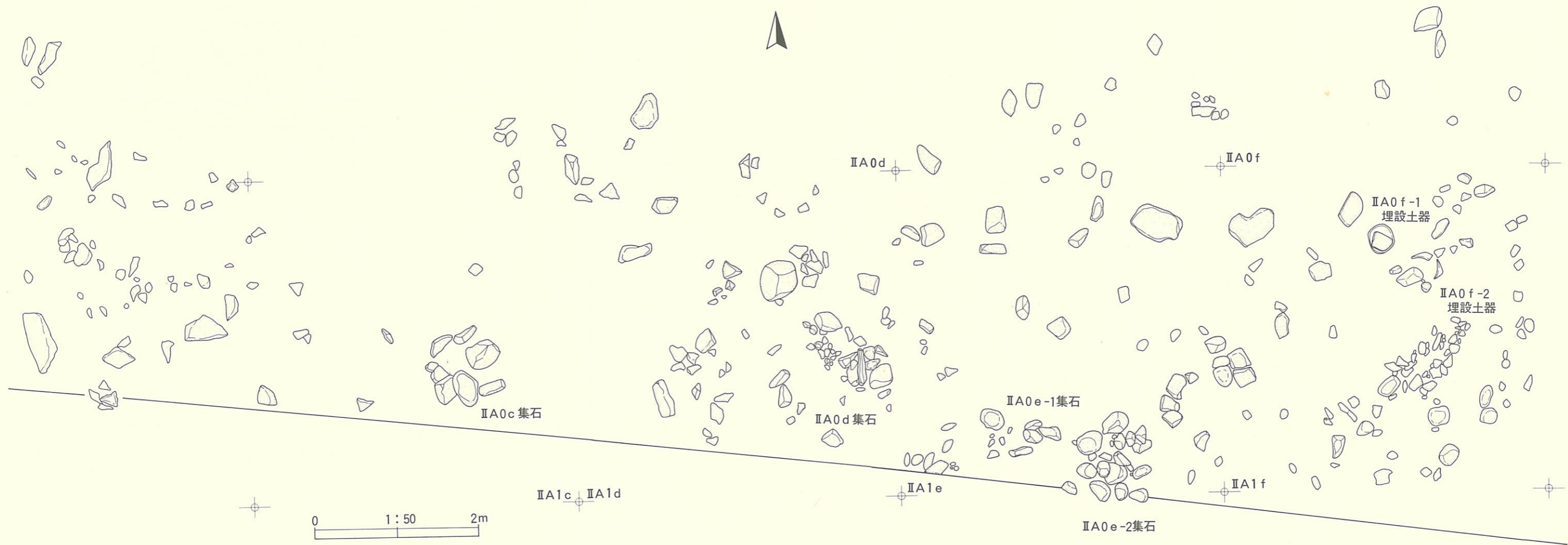
- | | | | |
|---|----------|----|----------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐 | 含炭化物 |
| 2 | 10YR2/1 | 黑 | 砂質 含炭化物 |
| 3 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | 含炭化物・焼土粒 |
| 4 | 10YR2/2 | 黑褐 | 砂質 |
| 5 | 10YR3/2 | 黑褐 | 含炭化物 |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐 | 含炭化物 |



- | | | | |
|---|---------|----|------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐 | 含炭化物 |
| 2 | 10YR2/2 | 黑褐 | 含炭化物 |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐 | 含炭化物 |
| 4 | 10YR2/3 | 黑褐 | 含炭化物 |

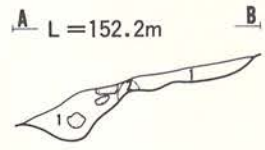
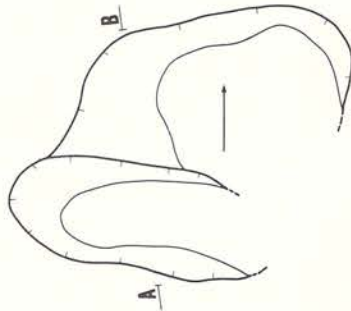
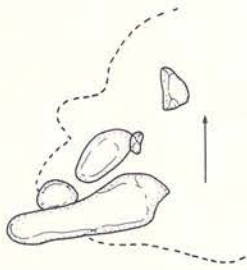


第41図 集石遺構 (2)



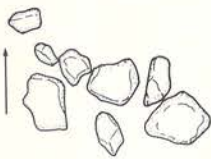
第42図 集石遺構 (3) I A9b~IIA0e区礫検出状況

IB8b 集石

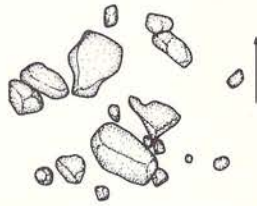


1 10YR2/2 黑褐
2 骨粉

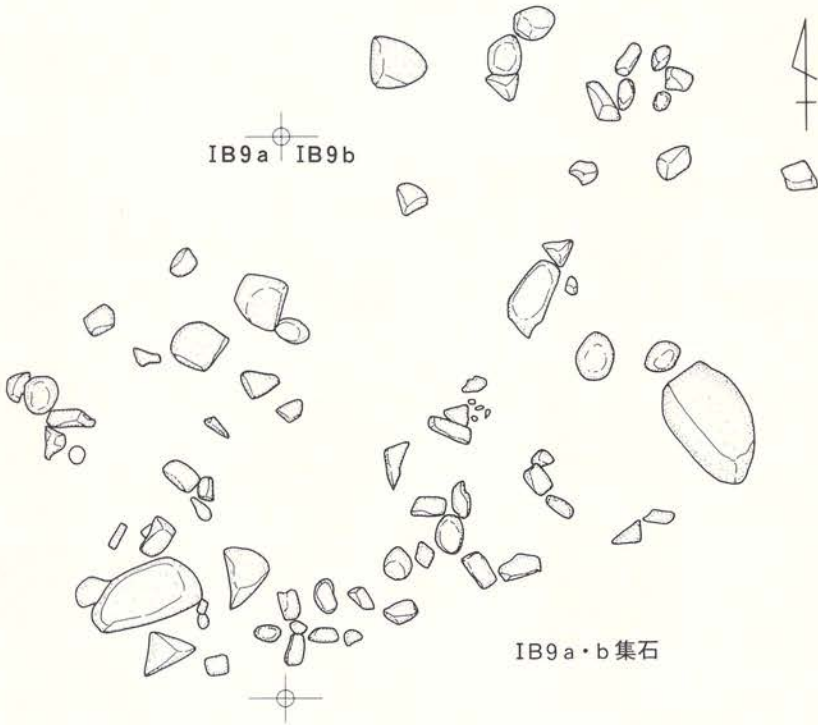
IB8c 集石



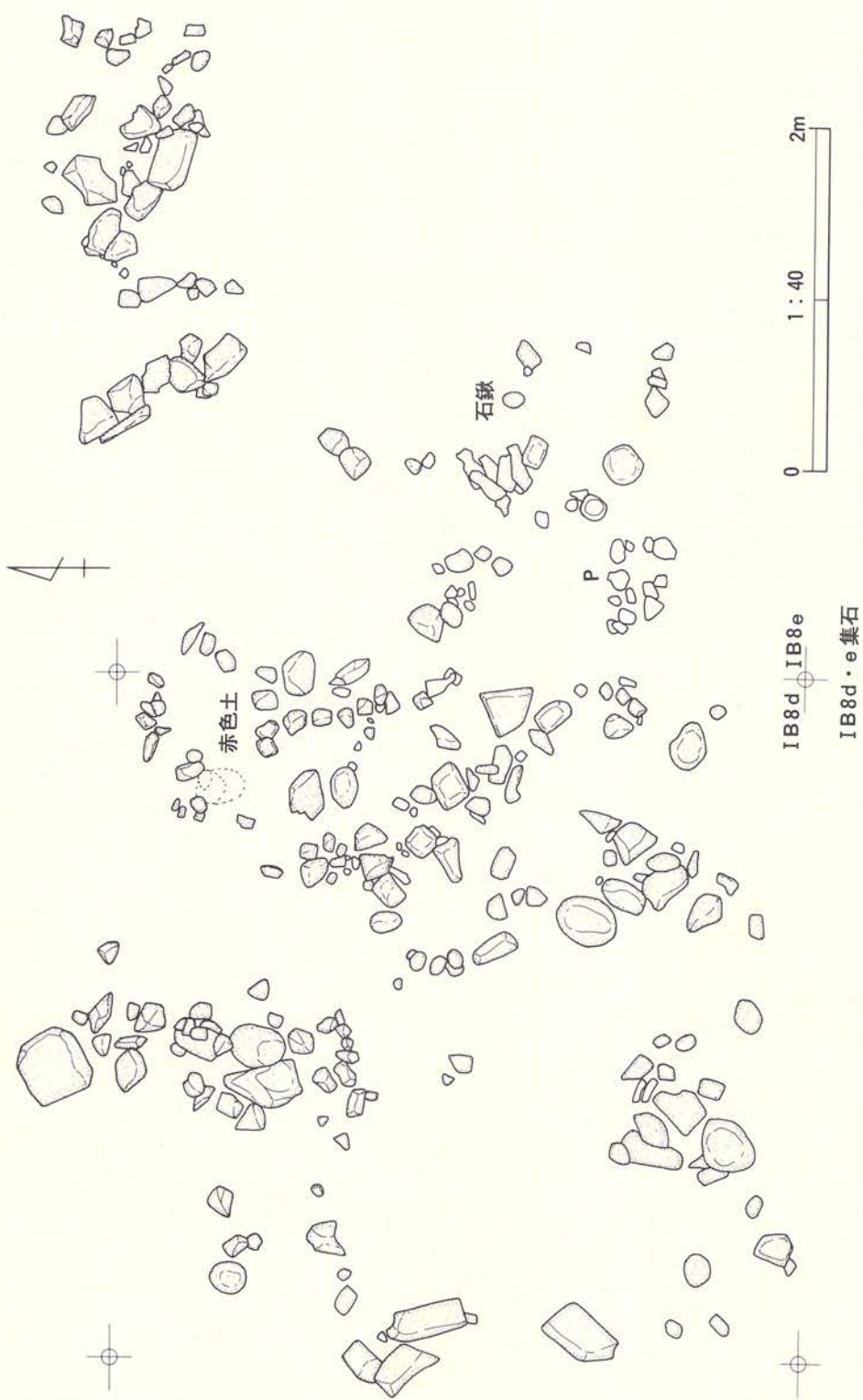
IB8e 集石



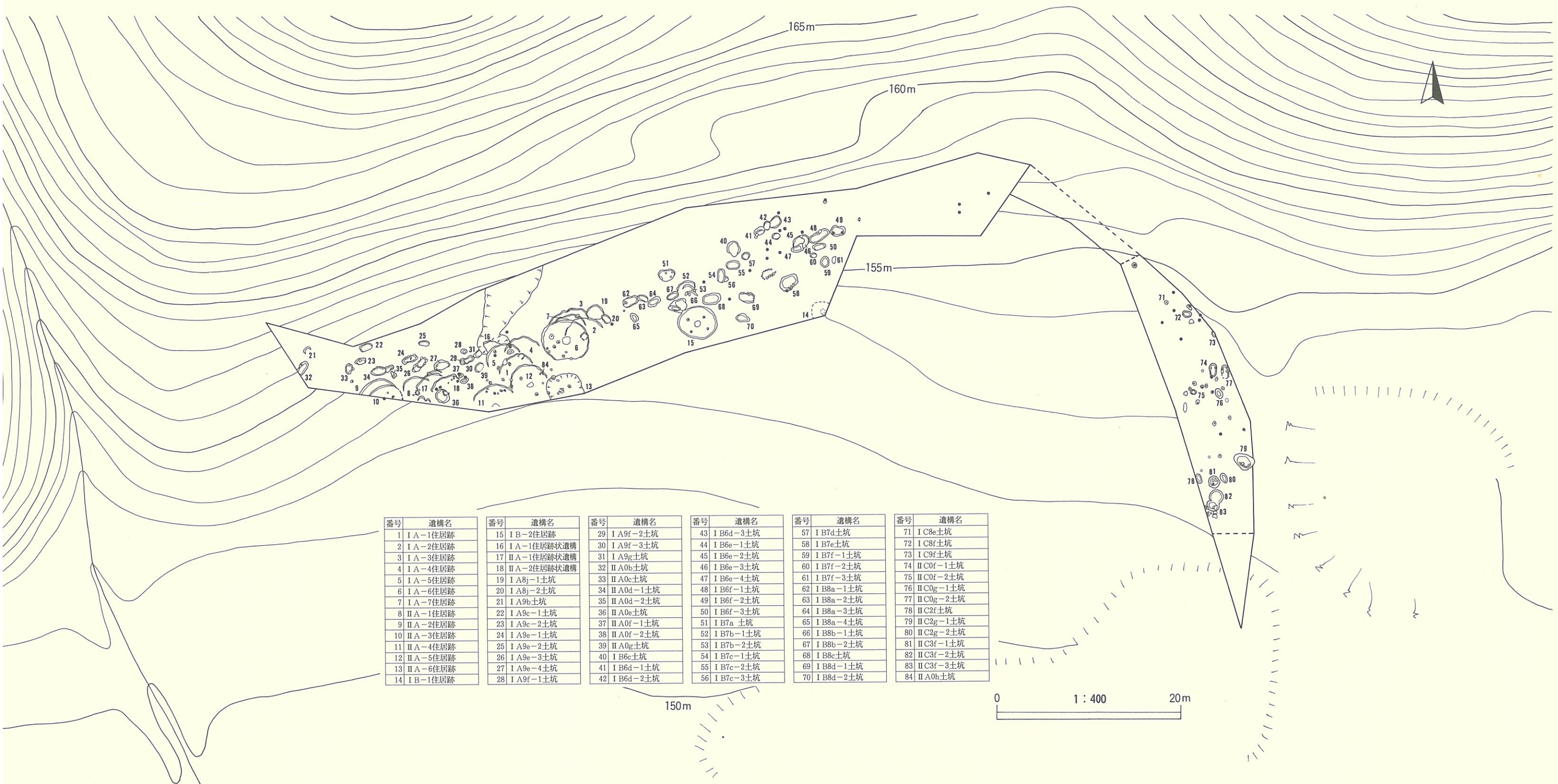
0 1 : 40 1m



第43図 集石遺構 (4)



第44図 集石遺構 (5)



番号	遺構名	番号	遺構名	番号	遺構名	番号	遺構名	番号	遺構名	番号	遺構名
1	I A-1住居跡	15	I B-2住居跡	29	I A9f-2土坑	43	I B6d-3土坑	57	I B7d土坑	71	I C8e土坑
2	I A-2住居跡	16	I A-1住居跡状遺構	30	I A9f-3土坑	44	I B6e-1土坑	58	I B7e土坑	72	I C8f土坑
3	I A-3住居跡	17	II A-1住居跡状遺構	31	I A9g土坑	45	I B6e-2土坑	59	I B7f-1土坑	73	I C9f土坑
4	I A-4住居跡	18	II A-2住居跡状遺構	32	II A0b土坑	46	I B6e-3土坑	60	I B7f-2土坑	74	II C0f-1土坑
5	I A-5住居跡	19	I A8j-1土坑	33	II A0c土坑	47	I B6e-4土坑	61	I B7f-3土坑	75	II C0f-2土坑
6	I A-6住居跡	20	I A8j-2土坑	34	II A0d-1土坑	48	I B6f-1土坑	62	I B8a-1土坑	76	II C0g-1土坑
7	I A-7住居跡	21	I A9b土坑	35	II A0d-2土坑	49	I B6f-2土坑	63	I B8a-2土坑	77	II C0g-2土坑
8	II A-1住居跡	22	I A9c-1土坑	36	II A0e土坑	50	I B6f-3土坑	64	I B8a-3土坑	78	II C2f土坑
9	II A-2住居跡	23	I A9c-2土坑	37	II A0f-1土坑	51	I B7a土坑	65	I B8a-4土坑	79	II C2g-1土坑
10	II A-3住居跡	24	I A9e-1土坑	38	II A0f-2土坑	52	I B7b-1土坑	66	I B8b-1土坑	80	II C2g-2土坑
11	II A-4住居跡	25	I A9e-2土坑	39	II A0g土坑	53	I B7b-2土坑	67	I B8b-2土坑	81	II C3f-1土坑
12	II A-5住居跡	26	I A9e-3土坑	40	I B6c土坑	54	I B7c-1土坑	68	I B8c土坑	82	II C3f-2土坑
13	II A-6住居跡	27	I A9e-4土坑	41	I B6d-1土坑	55	I B7c-2土坑	69	I B8d-1土坑	83	II C3f-3土坑
14	I B-1住居跡	28	I A9f-1土坑	42	I B6d-2土坑	56	I B7c-3土坑	70	I B8d-2土坑	84	II A0h土坑

第45図 上鷹生遺跡遺構配置図

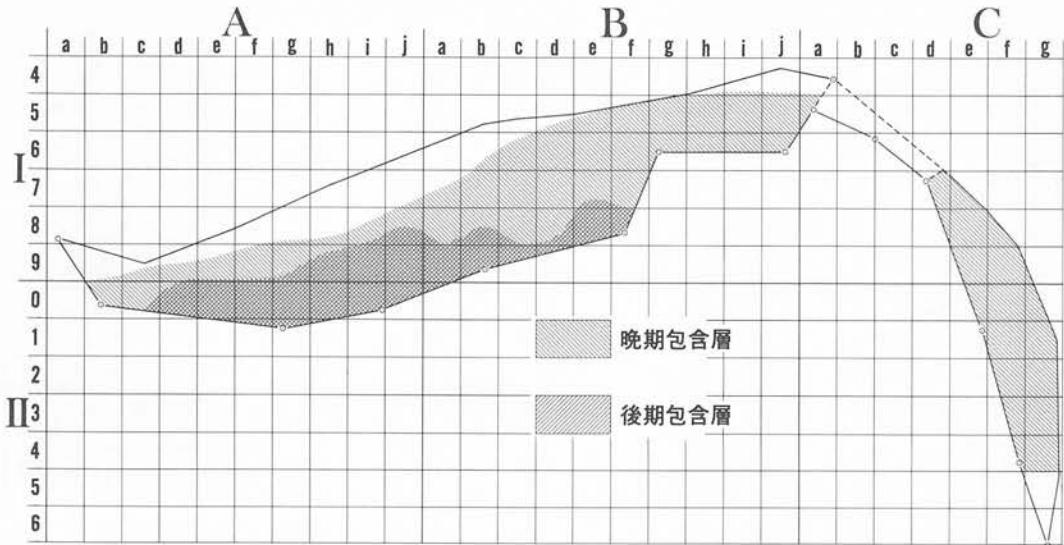
7. 遺物包含層

(1) 層相と形成過程

急斜面の中部から平坦部にかけて、厚い遺物包含層（以下、包含層）が形成されている。地形図からの概算では面積は約780㎡、厚さは30～160cm、体積は約740㎡で面積は全調査区の約7割に当たる。最も厚い部分は急斜面から緩斜面への移行部分で、平坦部ではいくぶん層厚を減じている。

当層は基本層序では第Ⅲ層とした層で、黒色及び黒褐色土を主体とし、土器・石器の他に炭化物・焼獣骨片を含んでいる。また、ほぼ全体に粘板岩の小礫を多量に含んでいる。包含される遺物の時期は土器の型式から、縄文時代晩期が最も多く、後期がこれに次ぎ、縄文時代中期・弥生土器及び中世の陶磁器も僅かであるが含まれている。出土量の多い後期と晩期の分布を第46図に示した。これを見ると、後期の土器は該期の住居跡が集中する区域及びその周辺に多く、晩期の土器はほぼ調査区の全域から出土している。層中からは遺物のほか縄文時代晩期に位置付けられる土坑や焼土遺構、埋設土器が検出されており、これらの分布は包含層の形成範囲と一致している。このようなことから包含層の主体は、縄文時代晩期に形成されたものと考えられる。

層中から各種の遺構が検出されていること、出土する遺物の時期には中世～縄文時代後期までの幅を有すること、断面の観察では4～8層に細分が可能であること等から、層中には相当

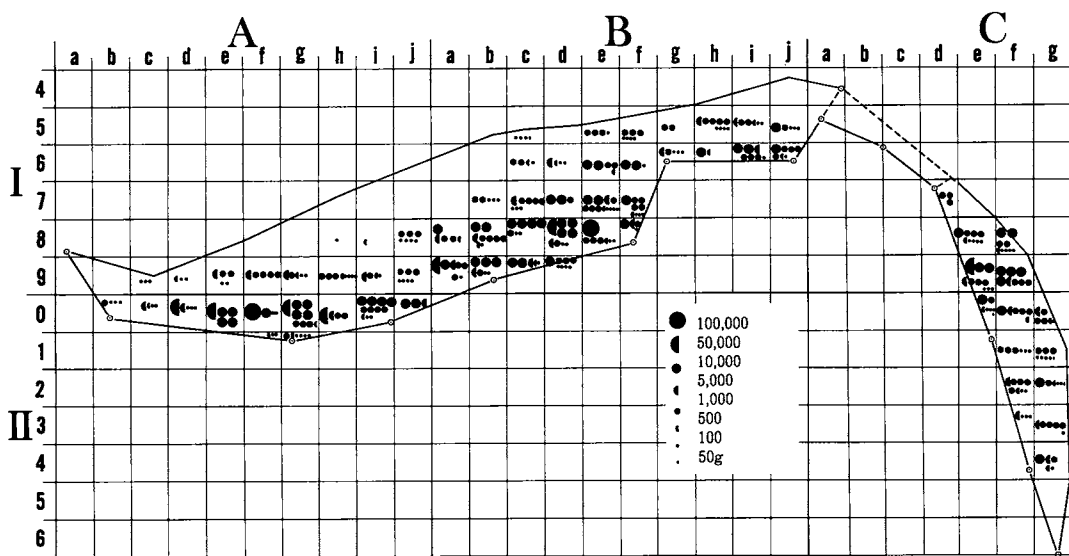


第46図 遺物包含層時期別分布図

数の生活面が存在するものと考えられる。しかし、極一部の層を除いて各層の面的広がり単位を把握することはできず、同一層毎の平面的調査は行なえなかった。調査に当たっては、グリッドに沿って南北方向のベルトを数本残して掘り下げたが、遺構が多数検出されたため、これらを取り払って精査を行なわなければならない、最終面まで断面を観察できなかった。このため作成した断面図も、各地区の対比を行なう上で参考呈度の資料にしかならなかった。出土する土器は一地点としては型的編年順と層位的な関係にほぼ矛盾無く出土したが、急勾配の斜面であるため4 mのグリッドの範囲中においても、北側と南側では出土する土器は時期差が見られた。また、一部では大きな層位の逆転が見られた。

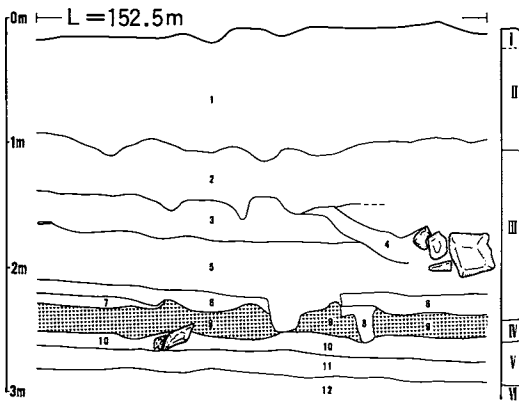
以上のように包含層の堆積状況からは、はっきりした形成過程を読み取ることはできないが、遺跡の周囲の状況からは包含層を伴う他の遺跡とは異なる形成過程をもつ可能性が指摘できる。

斜面部に包含層が形成されている遺跡の多くは、斜面上部に集落跡を伴い、この居住区を遺物の供給源として、斜面の上から下へ包含層が形成されていることがほとんどである。しかし、当遺跡の場合斜面上部の北側は、急峻な山地に接しており上部からの投げ捨ては考えられず、遺物は斜面の下部から運び上げられた可能性の方が高い。投棄行為の際、人間が上方を向いていたか、下方を向いてかははともかく、この場合斜面の上部から投げ捨てたよりは規則性は薄れると思われる。また、包含層と分布域を同じくする土坑、埋設土器によって絶えず掘り返され、攪乱と堆積が繰り返されて形成されたものであろう。これが各層の単位の不明瞭さを一層

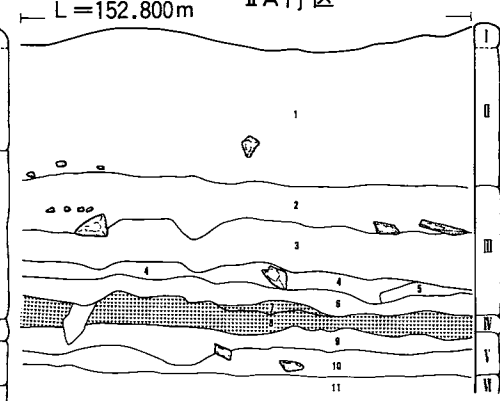


第47図 土器出土量分布図

IIA1g区



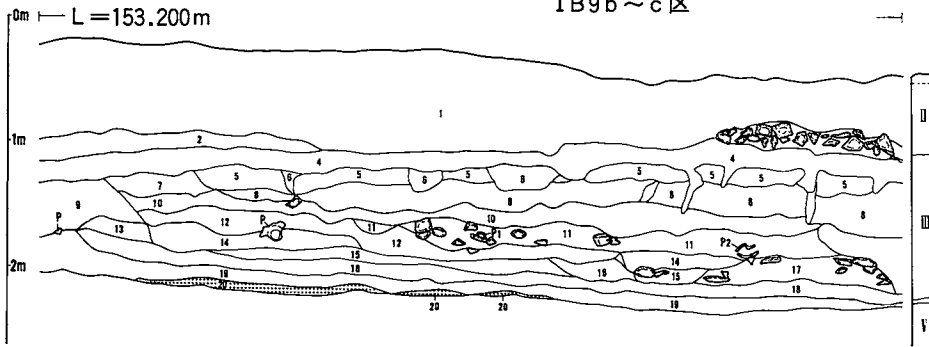
IIA1j区



- 1 10YR3/2 黒褐 小角礫30%
- 2 10YR2/2 黒褐 小角礫30% 炭化物5%
- 3 10YR2/1 黒 小角礫5~7% 炭化物7%
- 4 5YR4/4 にぶい赤褐 炭化物5%
- 5 10YR3/2~2/3 黒褐 小角礫上部3%・下部1% 炭化物5~7%
- 6 10YR3/3 暗褐 小角礫7~10% 炭化物3%
- 7 10YR3/2 黒褐 小角礫3% 炭化物3%
- 8 10YR3/2 黒褐 小角礫30% 炭化物若干
- 9 7.5YR4/4 褐 安家火山灰層 (10YR6/4粉状の純層が多い)
- 10 10YR3/1 黒褐 小角礫30% 炭化物3%
- 11 10YR2/1~3/1 黒~黒褐 小角礫5% 炭化物1%
- 12 10YR3/3 暗褐 砂質シルト層

- 1 10YR2/3 黒褐 小角礫50%
- 2 10YR3/2 黒褐 小角礫20% 炭化物5%
- 3 10YR3/3 暗褐 小角礫(シルト岩質)30% 炭化物5~7%
- 4 10YR3/2 黒褐 小角礫5~3% 炭化物3~5%
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐 小角礫5%
- 6 10YR2/1 黒褐 小角礫(シルト岩質1~3%) (粘板岩質30%) 含炭化物
- 7 10YR3/3 暗褐 主に汚れた火山灰
- 8 7.5YR4/4 褐 安家火山灰層 φ5~15cmの純層塊含 (10YR6/6明黄褐)
- 9 10YR4/4 褐 φ1~15cmの砂礫層
- 10 10YR2/2 黒褐 砂質土
- 11 10YR4/6 褐 砂層

IB9b~c区

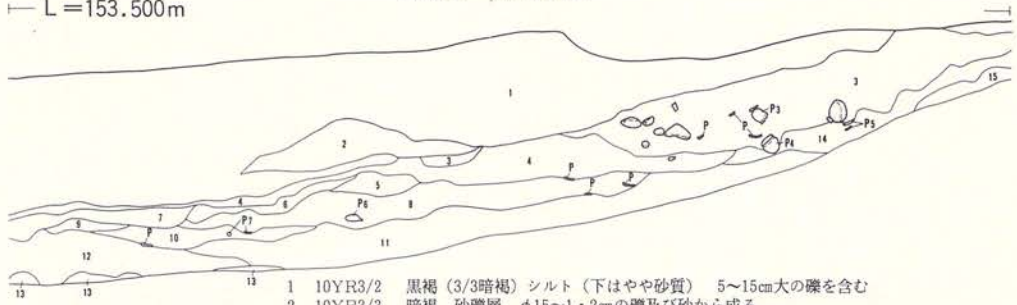


- 1 10YR3/4 暗褐 小角礫5%
- 2 10YR3/3 暗褐 φ0.5~2cmの小角礫5~7% 5cm大の角礫を含む 炭化物3%
- 3 10YR3/3 暗褐 10~30cm大の巨礫層
- 4 10YR2/1~2/2 黒~黒褐 φ0.5~2cmの小角礫5~7% 3~5cm大の角礫含む 炭化物5%含
- 5 10YR4/4 褐 φ0.5~2cmの小角礫7% 3cm大の角礫を含む 炭化物1%以下
- 6 10YR4/4~3/4 褐~暗褐
- 7 10YR3/3~3/4 暗褐 φ0.5~2cmの小角礫10% 3~5cm大の角礫を含む 炭化物3%
- 8 10YR3/3 暗褐 φ0.5~2cmの小角礫3% 炭化物3%
- 9 10YR2/3 黒褐 φ0.5~2cmの小角礫3% 炭化物3%
- 10 10YR3/2 黒褐 φ0.1~0.5cmの小角礫7% 炭化物3%
- 11 10YR3/2 黒褐 φ0.1~2cmの小角礫5% 3~20cm大の角礫及び円礫を含む
- 12 10YR3/2 黒褐 φ0.5~2cmの小角礫7% 炭化物5%
- 13 10YR2/2 黒褐 φ0.1~2cmの小角礫7% 炭化物5%
- 14 10YR2/2 黒褐 φ0.1~2cmの小角礫7% 炭化物5%
- 15 10YR2/3 黒褐 φ0.1~0.5cmの小角礫7% 炭化物3% 遺構(土坑)の埋土?
- 16 10YR3/3 暗褐 φ0.1~2cmの小角礫50% 炭化物1% 遺構(土坑)の埋土?
- 17 10YR2/3 黒褐 φ0.1~2cmの小角礫5% 20cm大の角礫を含む
- 18 10YR2/1~2/2 黒~黒褐 φ0.5~2cmの小角礫7% 炭化物3%
- 19 10YR3/2 黒褐 φ0.5~3cmの小角礫5% 炭化物3%
- 20 10YR4/4 褐 安家火山灰(中礫火山灰)層

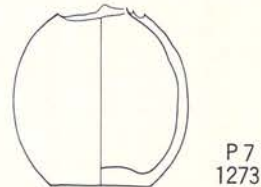
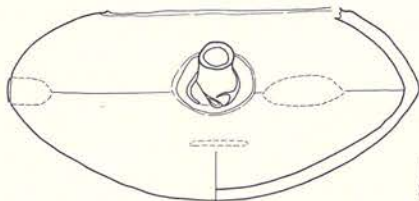
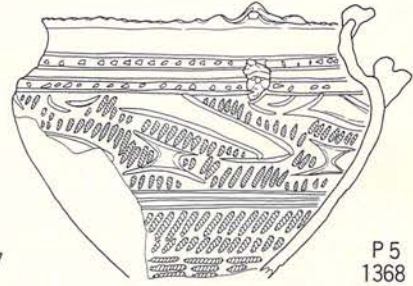
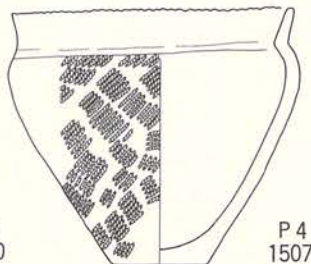
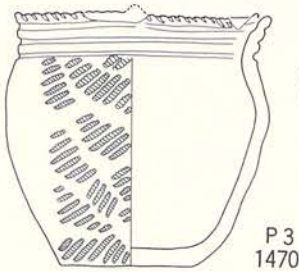
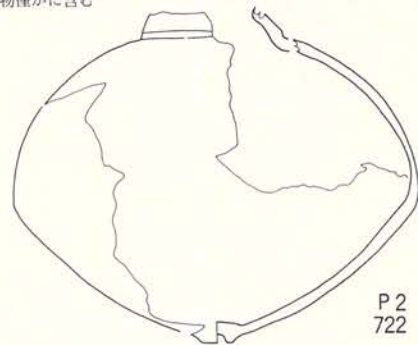
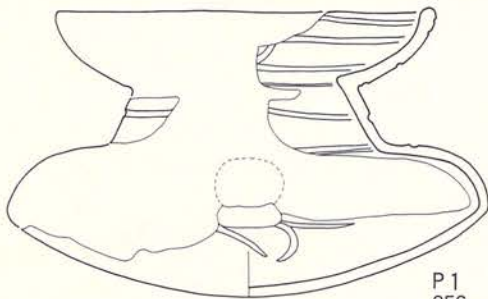
第48図 遺物包含層断面図(1)

IC8e~IC9e区

L = 153.500m



- | | | | | |
|----|-----------|------------|--------------|-------------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐 (3/3暗褐) | シルト (下はやや砂質) | 5~15cm大の礫を含む |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐 | 砂礫層 | φ15~1・2cmの礫及び砂から成る |
| 3 | 10YR1.7/1 | 黒 | シルト | 炭化物1~3% φ1~2cmの褐・明褐の小礫1~10% |
| 4 | 10YR2/1 | 黒 | シルト | 炭化物3~5% |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐 | シルト | 炭化物1% φ1~2cmの褐・明褐の小礫5~10% |
| 6 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | シルト主体 | 炭化物1~3% φ1~2cmの褐・明褐の小礫5~10%酸化鉄が集積する |
| 7 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | シルト (砂質) | 小礫1% 酸化鉄が集積する |
| 8 | 10YR2/2 | 黒褐 | シルト (砂質) | 炭化物1~3% φ1~2cmの褐・明褐の小礫5~10%含む |
| 9 | 10YR2/2 | 暗褐 | シルト (砂質) | 炭化物1~3% φ1~2cmの小礫1%以下 |
| 10 | 10YR2/2 | 黒褐 | シルト | 炭化物1% φ1~3cmの小礫含む |
| 11 | 10YR2/1 | 黒 | シルト | 炭化物1~3% φ1~3cmの褐・明褐の軟らかい小礫5~10%含む |
| 12 | 10YR1.7/1 | 黒 | (やや弱い)シルト | 炭化物1% φ1~3cmの小礫1~2% 5~10cm大の礫を含む |
| 13 | 10YR4/4 | 褐 | シルト | |
| 14 | 10YR3/3 | 暗褐 | シルト | 炭化物1% φ1~3cmの小礫5~10% |
| 15 | 10YR2/2 | 黒褐 | シルト | 炭化物僅かに含む |



第49図 遺物包含層断面図 (2)

増長させると共に、層位の逆転が見られる大きな原因ではないかと思われる。

なお、遺物の中には完形品を故意に破損させたと考えられる土器の存在や、一個所にまとまって出土した石鍬の状況から、単なる不用品の廃棄行為以外の要素も含むものと考えられる。

(2) 出土遺物

包含層からの出土遺物の総量は、コンテナ(42×32×30cm)130箱である。大半はⅢ層からの遺物であるが若干Ⅴ層から出土したのもや層位不明のものもある。ここではこれらも含めて掲載した。

種類には土器、陶器、石器、土製品、石製品、骨角器、金属器、自然遺物がある。

1. 土器

遺構内出土以外の土器の総量は約1,900kgで、グリッド毎の出土量の分布を第47図に示した。土器の取り上げに当たっては、前述の通り細分層単位の取り上げは行なわず、4×4mの小グリッド毎に上部・中部・下部等に分けて取り上げた。しかし、包含層が急斜面に形成されている部分では、層の厚さは斜面の上部と下部では著しく異なり、この区分もかなり杜撰なものである。

掲載及び記述にあたっては、縄文時代早期～前期…Ⅰ群、中期…Ⅱ群、後期…Ⅲ群、晩期…Ⅳ群、弥生土器…Ⅴ群の時期区分を行なった。これらの中での小分類は1類、2類…、a類、b類…として記載した。小分類については、最近の土器編年研究を参考にして、従来の土器型式に準拠した。

第Ⅰ群土器(第80図)

縄文時代早期末葉期から前期前葉期までの土器群である。いずれも小破片で、器形や形態の詳細が明瞭なものはなく、出土量も少ないことから1群内に納めた。第Ⅴ層(安家火山灰層の下)から出土したものは、全て当群の土器である。

Ⅰ群1類(418～430)

早期末葉～前期初頭に位置づけられる土器である。いずれも胎土には植物繊維を含むが、量が多いものと少ないものがある。418は口縁部上端から口唇部にかけて原体圧痕による刻みが施されている。裏面には僅かに擦痕が見られるが、明瞭なものではない。419は指頭圧痕状の小破状口縁を持つ。422は口縁部に原体圧痕による文様が施されている。423は地文に結束されない羽状縄文を持つ。

破片が小さいため詳細は不明であるが、関谷洞窟第6層出土の土器群に近いもので、型的には梨木畑式・船入島下層式～上川名Ⅱ式に相当する土器群と考えられる。

Ⅰ群2類(431～442)

前期前葉期の**大木2 b式**に当たる土器群である。胎土に繊維を含むが、量は極めて少ない。431～435は地文に網目状燃糸文、436～441はS字状連鎖沈文が横位に施されている。442は葺き瓦状の不整な燃糸文が施文されている。

第Ⅱ群土器（第80図・第81図）

縄文時代中期の土器群である。各型式に合わせて1～3類に細分される。なお、粗製土器は4類とした。

Ⅱ群1類（443～445）

中期中葉期の**大木8 b式**に比定される土器である。443は橋状の突起部分で渦巻文が配されている。444はキャリバー形の土器片で、隆沈文に渦巻文様が施されている。

Ⅱ群2類（446～450）

後葉期の**大木9式**に比定される土器である。主に沈線区画による、縦方向の磨消縄文を持つ。446は口縁部破片で、緩い波状口縁となっている。

Ⅱ群3類（451～454）

末葉期の**大木10式**に比定される土器である。大柄な磨消・充填縄文による文様を持つ。

Ⅱ群4類（455～465）

地文のみが施された破片を一括した。いずれも縄文で、多くは縦方向の回転である。

第Ⅲ群土器（第82図～第99図）

縄文時代後期の土器群である。出土量は晩期の土器（第Ⅳ群）に次いで多い。前葉～末葉期まで1～4類に細分した。また、時期を明確にできなかった粗製土器は、5類に一括した。

Ⅲ群1類（466～485）

後期前葉期に位置づけられる、**宮戸I a式**に類似する土器群である。466～469は波状口縁を呈する口縁部破片で、466・467は頂部に橋状の突起を持ち、刺突を伴う隆帯が口縁部を巡る。470～473は平縁で刺突文・沈線文が施されている。474はボタン状の張付け文、475は連鎖状の隆帯を持つ。479・480は沈線区画の磨消・充填縄文による文様が施されている。484・485は粗製土器で、地文として縦方向の網目状燃糸文を持つ。

Ⅲ群2類（486～550）

後期中葉期の土器群で、**気仙沼市田柄貝塚**出土の第Ⅲ群土器（手塚：1986）に類似する一群である。器種には深鉢、鉢、台付き鉢、注口土器、香炉形土器がある。文様は沈線区画の大柄な磨消縄文、刺突（刻み）列、刻み列を伴う隆帯等で表現されている。

486～503は胴部にくびれを持つ深鉢である。486～492は口縁部上端に沿って刻み列が巡り、489を除いて大波状口縁となる。483～496は刻み列を伴わない口縁部破片で、493を除いて波状（山形）口縁を呈する。497～501は胴部破片で、いずれもくびれ部分に沈線区画の刻み列が巡

る。506～508はバケツ形の深鉢で、大柄な磨消縄文が展開している。509・510は胴部が直立し、壺の可能性がある。511～517は鉢の口縁部破片である。518～522は沈線文が主体となる文様を持つ深鉢で、520～522は縄文地に沈線文が加えられて文様を構成している。523は沈線区画内に格子状の沈線文、524は櫛歯状の条痕文が充填されている。525～528は口縁部に刻み列が巡る深鉢（広口壺？）である。529・523は磨消縄文を持つ鉢であるが、文様の意匠から一段階古い時期の土器かも知れない。531～537は沈線文と刻み列による文様を持つ浅鉢及び鉢形土器である。

539は突起を有する台付き鉢で、刻み列と沈線文による文様を持つ。突起には頂部から側面に抜ける貫通孔が穿たれており、吊り下げて使用した可能性がある。なお、突起の破損部分にはアスファルトの付着が見れる。

540～545は注口土器である。540～543は沈線区画の刻み列と低い貼り瘤、544・545は沈線による文様が施されている。546～549は壺形土器である。550は香炉形土器で、蛸口状の窓を持ち、刻み列を伴う隆帯によって文様が構成されている。

Ⅲ群3 a類 (551～631)

後期後葉期の土器群で、田柄貝塚第Ⅳ群及び高柳編年瘤付土器第Ⅰ段階（高柳：1988）に類似する一群である。器種は2類と同じで、深鉢、鉢、注口土器、壺、香炉等がある。文様は沈線区画の充填・磨消縄文によるものが多く、これに貼り瘤が付加される。縄文帯の幅は2類に比べて狭いものが多い。また、沈線文や微隆起線文によるものもある。

551は5単位の大波状口縁で、口縁部上端に細い縄文帯が巡り、下部は無文となっている。552～559は頂部に大柄な突起を有する波状口縁を持つ。552は突起部に横位の貫通孔が穿たれ、553・554は突起の裏面に貼り瘤が付けられている。いずれも口縁部の裏側は肥厚し、文様は波頭部から展開している。

560～572は、胴部文様に所謂「タスキ状入組文」が施されている土器群である。560～563は平縁で、2個一対の台状突起を持つものが多い。557～572は壺の可能性ある。

573～591は、弧状及び鉤手状の文様を持つ土器群である。大型の口縁部破片には大小3個一対、2個一対の台状突起が見られるものがある。また、580は胴部、587・588は口縁部に貼り瘤を持つ。592～598・605は同様の文様が、櫛歯状の条痕文及び細沈線束によって表現されている。

599～602は入組帯状文が施された深鉢である。599の口縁部には、頂部に刻みを有する縦長の貼り瘤が等間隔に配されている。600は大型の深鉢で、2個一対の台状突起を持ち、胴部には木の葉状の入組帯状文が描かれている。601は口唇部に等間隔の台状突起が配され、胴部文様帯の入組部分に貼り瘤が付けられている鉢である。602は、区画内に櫛歯状の条痕文を充填

して入組帯状文を構成している。603・604は細い沈線文を持つ。

606～608は台付皿（高坏）で、細い縄文帯を持つ。609は低い高台が付く鉢で、山形突起が配されている。610は台部に円形の透かしを持つ台付鉢である。

611～630は壺形及び注口土器である。616・617の文様は、低い貼り瘤を伴うタスキ状入組文である。619は沈線区画された刻み列が巡らされているが、2類に比べて刻みは細かい。620・621は、貼り瘤を伴う充填縄文を持つ注口土器である。622～624は沈線文、625～628は微隆起線、629・630は沈線束によって文様が構成される。631は香炉で、蛸口状の窓を持つ。

Ⅲ群3 b類（632～688）

後期後葉期の土器群で、田柄貝塚第Ⅴ群土器及び瘤付第Ⅱ段階に相当する一群である。文様は沈線区画の充填縄文によるものが多く、これに貼り瘤が多用される。縄文帯の幅は、前段階のa類よりも狭いものが増える。この他に沈線文、半浮彫的隆帯等による文様がある。器種はa類と同様に深鉢、鉢、壺、注口土器、香炉等がある。

632～646は、弧状の充填縄文と貼り瘤による文様を持つ。632～635は波状口縁であるが、大柄な突起を持つものはない。636～643は平縁で、636～638には台状突起が付く。647・648は沈線よる曲線文様を持ち、647は刻み列が巡る。649～655は、入組帯状文が施文される土器である。649・650は同一個体で、大波状口縁を呈し口縁部には縦長の貼り瘤を持つ。653・654は、入組帯状文が沈線によって描かれ、655は櫛歯状条痕文が充填されている。

656・657は沈線束による文様を持ち、658は微隆起線と小さな貼り瘤によって文様が構成されている。659・660は縄文地に格子状の沈線文をもち、661は細い平行沈線上に等間隔で小さな貼り瘤が並ぶ。

662～683は壺及び注口土器である。662～666は割合幅の広い縄文帯を持ち、667～670の縄文帯は狭い。なお、668・670の縄文帯は半浮彫的なものとなっている。671～677は低い隆帯によって文様が構成されている。678は区画内に細かい刺突文が2列に充填され、胴部上半には微隆起線による文様を持つ注口土器である。なお、注口部は破損しており、破損部にはアスファルトを充填して閉鎖している。679～683は、細い沈線文と貼り瘤による文様を持つ。

684～687は無文の土器であるが、相伴した土器から当群にいられた。684は突起部、685は底部に穿孔をもち吊り手の土器と考えられる。687は無頸の壺、688は香炉形土器である。

Ⅲ群4 a類（689～705）

後期末葉期の土器群で、田柄貝塚第Ⅵ群土器及び瘤付第Ⅲ段階に相当する一群である。出土量は少ない。装飾には、貼り瘤のほかに刺突文を多用しており、口唇部に刺突（刻み）が施されるものが多い。

689～695は沈線区画された刺突列と、細い沈線によって文様が構成されている。697は頂部

が台状を呈する山形口縁で、突き起こし状の刺突文による文様を持つ。700は平縁で、雑な連続刺突と沈線文が施されている。701は波状口縁を呈し、沈線区画の刺突列によって入組帯状文を構成している。702～705は、沈線区画の充填縄文による入組帯状文に刺突列が伴う。

Ⅲ群 4 b 類 (706～732)

後期末葉の土器群で、田柄貝塚第Ⅶ群土器及び瘤付第Ⅳ段階に相当する一群である。文様の主体は、沈線区画の充填・磨消縄文による入組帯状文となり、瘤はほとんど用いられなくなる。

706～716は磨消・充填縄文による文様を持つ。706～708は小波状口縁で、胴部にくびれを持たない深鉢である。709は胴部がくびれる深鉢で台状の突起を持ち、文様帯は2段に施されている。711・712も台状突起を持つ。713・716は胴部がくびれるタイプで、くびれ部分には破線沈線と低い貼り瘤が配されている。

717～721は櫛歯状の細線文が加えられる土器群である。717は胴部がくびれる深鉢で、口唇部には台状突起が等間隔で配され、口縁部と胴部に沈線区画された細線文が文様帯を区画している。なお、胴部の区画帯には中央に刻みを持つ貼り瘤が付けられている。718は小型の深鉢で、6個の台状突起を持つ。口縁部及び上段の入組文内には細線、下段の入組文内には縄文が充填されている。719は入組部分に円形の刺突が加えられ、720・721は沈線区画内に細線が充填されている。

722～725は壺及び注口土器である。底部の小さな高台と注口部分の形態で当群とした。726～732は無文の壺と鉢である。共伴した土器から当群に入れたが、明確に時期の比定ができたものではない。

Ⅲ群 5 類 (733～746)

粗製土器を一括した。733～737は地文に縄文を持つ土器である。738～740は無文、741は雑な沈線文を持つ。742～746は櫛歯状の条痕文が施されている。

第Ⅳ群土器 (第99図～第165図)

晩期の土器群である。出土量は最も多く、包含層の主体をなす。初頭期～後葉期まで型式に合わせて1～5類に分けた。また、粗製土器は6類として一括した。

Ⅳ群 1 a 類 (747～772)

晩期初頭の大洞B 1式に比定される土器群である。前段階に比べて三叉文が強調されている。

747～750・754は突起及び山形口縁の下部に、沈線による三叉文が表現されている。751～753は突起の下部に磨消縄文による三叉文系の文様を持つ。755～765・767は磨消縄文による入組帯状文を持ち、区画沈線は前段階より三叉文を意識した描き方となっている。776は小波状口縁で、縄文帯を挟んで沈線による入組文が施されている。769・770は小波状口縁下を弧状沈線で囲み、縄文帯と無文帯を形成している。胴部には、沈線による円文と三角文が配されている。

772は丸底の注口土器で、注口部を挟むように三叉文が描かれている。

IV群 1 b 類 (773~866)

初頭期の大洞 B 2 式に比定される土器群で、三叉文が主要文様となっている。

773~775は、口縁部に磨消縄文による入組帯状文を持つ深鉢である。776~836は口縁部を2~3本の平行沈線で区画し、この中に沈線による三叉文を展開させている土器群である。器種には深鉢、鉢、台付鉢がある。平縁のものは希で、大半は連続する突起を有するか小波状(小山形)口縁を呈する。837~846は小波状口縁下に弧状の短沈線を配した土器群で、837~844はこの下部に三叉文系の文様を施している。848は台付鉢の台部である。849~851は壺形土器で、849は頸部に三叉文、850・851は胴部に大柄な磨消縄文が展開する。

852~865は注口土器である。852~854は注口部に三叉文が配されるが、他の部分は無文で良く研磨されている。857~861は胴部に浮彫的文様を持つ。なお、859は皿状の口縁部形態を持たない。863~865は皿状を呈する口縁部である。

866は小破片のため詳細は不明であるが、透かし文を持ち香炉形土器の胴部の可能性がある。

IV群 2 a 類 (867~913)

晩期前葉期に位置づけられる土器群の内、近年細分化が提唱されている大洞 B C 1 式(金子:1992 a・鈴木:1993)に類似する土器である。

867~879は口縁部に沈線による方形(菱形)基調の入組文、870は沈線内に裁断する文様を持つ深鉢である。872~881は胴部に磨消縄文を伴う鉢である。器形には872のように口縁部にくびれを持つものと、878のようにくびれを持たないものがある。口縁部の文様は三叉文、入組三叉文が多いが、879等は弧状や「の(C)」字状の半円文を配している。883~891は沈線による2段の文様帯を持つ。886~890は上下とも三叉文が配されるが、891は上段に裁痕列、下段に三叉文を持つ。892は弧状連結文、839は菱形の入組文、894はC字状文が施されている。895は大型の突起部分で、円形の透かしと円文・菱形文が沈線によって描かれている。896は口縁部に突起と弧状沈線が、波状の文様を構成している。897~900は無文地に沈線よる半円文、菱形入組文、菱形文が展開している。

901~906は壺で、球形の胴部には磨消縄文による菱形入組文が、規則的に配されるものが多い。902・903は頸部に三叉文を持つ。903・904は磨消縄文ではなく、沈線文による文様が描かれている。

907~913は注口土器で、いずれも磨消縄文を持つものはなく、沈線よる菱形入組文、菱形文、半円文が施されている。

IV群 2 b 類 (914~1060)

晩期前葉期の土器群で、大洞 B C 式(B C 2)に比定される一群である。羊歯状文と連珠文

を最大の指標とする土器群である。

914～973は、頸部にくびれを持たない深鉢及び鉢である。914～953は口縁部に羊歯状文が施文されている深鉢・鉢である。平縁を呈するものはなく、小山形及び突起列が連続する。文様帯を区画する沈線は、2本のものが多いが、1本・3本のものもある。921等は羊歯状文の下段に連珠文が配されている。940・950・951等は羊歯状文の入組部分が曖昧で、直線的なものになっており、新しい要素であろう。

954～970は連珠文を持つ鉢である。954～965等は連珠文の角が再調整されていない部分もあり、前段階に近いものと考えられる。965・966は胴部の縄文帯に三叉文系の文様が陰刻されている。969はx字状文の下段に連珠文が配され、胴部には磨消縄文によって菱形入組文が施文されている。970は浮彫的なC字状文を持つ。971～973は、山形口縁下に弧状の短沈線が施文される深鉢である。

974～1002は口縁部がくびれる鉢で、974～996は羊歯状文、997・998は連珠文を持つ。974は胴部に縦に区画された磨消縄文帯を持つ。

1003～1015は浅鉢で、1003～1006は羊歯状文系の文様、1012～1014は半浮彫的なx字文が施文されている。1016は胴部上端に、結合部に小孔が穿たれた三叉文を持つ。台付鉢であろうか。

1017～1029は台付鉢で、1017～1020は羊歯状文系の文様、1021～1023は連珠文系の文様が施されている。1024～1029は台部で、1024・1027を除いて透かし文様を持つ。1030は皿で、浮彫的文様が施されている。

1031～1041は壺形土器である。1031～1035は羊歯状文系の文様を持つ。1033・1034は注口土器及び鉢の可能性もある。1035は胴部の上半部に、浮彫的な文様が3段に施されており、羊歯状文(k字状文)の他にC字状文と菱形入組文を持つ。1036・1038～1042は、連珠文や沈線に区画された胴部上半部に大柄の磨消縄文が展開している。

1046～1059は注口土器で、いずれも磨消縄文が施文されるものはなく、半浮彫的な羊歯状文やx字文が描かれている。1060は香炉の天井飾りか。

IV群3類(1061～1296)

晩期中葉期の土器群で、大洞C1式に比定される一群である。器面全域に、各種の磨消縄文が展開するものが多い。

1061～1109は浅鉢形土器である。1061～1089は、胴部が直線的に外形して開く浅鉢である。ほとんどのものが、口唇部に浮彫的で連続する突起を持つ。胴部文様は沈線区画の磨消縄文で、雲形文、x字文等が大きく展開している。底部が残存するものは少ないが、1067・1068は底部にも施文されている。1083は口縁部の内面に刻みを伴う低い隆帯が巡り、1088も刻み列が施されている。1090～1119は胴部が内湾する浅鉢及び鉢である。突起列を持つものが多いが、1104

～1109等は平縁である。1120～1131は胴部下端から底部の破片であるが、1131は楕円形を呈する。

1133～1174は、胴部に磨消縄文による文様帯を有する深鉢形土器である。1133～1146は口縁部がくびれないもので、1148～1174はくびれを有する。いずれも口縁部上端に平行沈線と刻み（刺突）を持つ。1137・1148等は浅鉢にみられた浮彫的な突起を持つが、単純な突起が多く、1168～1173等は刻みだけである。1174は2本の沈線によって区画された胴部上半に沈線よる入組文が描かれている。

1175～1236は口縁部上端のみに、単純な文様を持つ半粗製の深鉢・台付鉢である。平行沈線と刻み（刺突）が主で、直線化した羊歯状文の名残であろう。1220～1236は大型の深鉢で、口縁部上端に、弧状の短沈線刻みを伴う平行沈線が施されるものが多い。

1237～1273は壺形土器で、赤色塗彩されるものが多い。1237～1246・1249は胴部に磨消縄文による文様帯を持つ。1253～1261は粗製、1166～1273は無文の壺である。なお、1273は整理時点での不手際で当類にいれたが、出土層位から1b類に伴う土器と考えられる。

1274～1294は注口土器である。1293・1294を除いて磨消縄文による文様を持ち、1277・1278・1284は赤色塗彩されている。また、口唇部と胴部上端には浮彫的な突起列が巡るものが多い。1295・1296は香炉と考えられ、前者の台部には透かしを伴う三叉文が施文されている。

IV群4類（1297～1572）

晩期中葉期の土器群で、大洞C2式に比定される一群である。出土量は全ての時期中で最も多い。前段階に比べて、幅が狭く彫りが浅い磨消縄文が展開する。

1297～1350は浅鉢形土器で、前段階同様胴部が直線的に開く器形のものと同内湾するものがあるが、量的には内湾するものが多い。口唇部の突起も3類に比べて大きな起伏を持つものは少なく、刻みのみが施されるものも増える。胴部の文様は、磨消縄文による雲形文等が展開するが、1308・1310等のように沈線文化するものがある。なお、1300・1303は胴部の内面に細い縄文帯を巡らせている。1344・1345等は胴部上端に、中央に沈線を伴う眼鏡状の隆帯が施されている。また、1346・1347等のように側面に2個一対の小突起を配するものも少なくない。

1351は直立する口縁部で、沈線内に刺突列が充填される文様を持つ。1352～1372は、口縁部がくびれて外反する鉢及び深鉢である。外反部分は無文帯となるものが多い。1373～1412は口縁部が短い鉢・深鉢である。いずれも磨消縄文による文様を持つが、胴部上半部にかざられる。口唇部・口縁部に2個一対の突起を有するものが多い。1414・1415は工字文的文様が施され、1416～1448は沈線による楕円文を持つ。1419は沈線による「く」字状の屈曲文が施文されている。1423は台付鉢と考えられるが、当器種はこの1点だけである。

1424～1511は口縁部のみに単純な文様が施された半粗製の鉢・深鉢である。多くは沈線内に

連続する刺突を充填させており、口唇部にも刺突を巡らせている。1424～1443は山形口縁や2個一対の突起を有する土器群で、1444～1467は平縁である。1483・1488等は中央に沈線を持つ長楕円文が巡り、1491・1494等は楕円文中に刺突を充填している。1510・1511は大型の深鉢で、口唇部に浮彫的な突起列が巡り、1511は2個一対の小突起が配されている。

1512～1528は大型の粗製土器であるが、いずれも僅かながら装飾が加えられている。口縁部は長く外傾して立ち上がり、1～数条の平行沈線が巡らされるものが多い。口唇部には刻みや指頭圧痕による小波状口縁となっている。なお、沈線の条数が少なく、広い無文体を持つ1517・1518等は、1段階新しい5類に伴う粗製土器の可能性はある。

1529～1554は壺形土器である。文様は胴部の上半部に施文される。1529～1531等は文様が横に展開するが、1535～1543等は縦の区画線が施され文様は平行化している。1544～1548等は工字文系文様が施されている。1552～1554は半粗製の壺である。

1555～1569は注口土器である。3類に比べて口縁部は、外反度を緩め直立気味となり、口唇部及び胴部上端の突起列は、平坦化して刻み状となっているものも多い。文様は1569を除いて磨消縄文が横位に展開するが、1569は縦の区画線を持つ。1570～1572は香炉形の土器である。

IV群5類 (1573～1659)

晩期後葉期の土器群で、大洞A式に比定される一群である。文様は工字文を主体とする。

1573は大型の浅鉢(鉢?)で、口縁部に隆帯による突起と連結する三角文が配されている。1574～1604は浅鉢及び台付鉢で、胴部にはいずれも工字文系の文様を持つ。1574～1579・1593等は頂部が肥厚するA突起を持つ。また、1593・1604は底部に低い足が付く。1605～1622は鉢及び深鉢で、1623～1626は台付鉢の台部である。

1627～1656は壺形土器である。1627は4単位のA突起と4単位の小突起をもち、胴部上端に平行沈線が巡る小型の壺で、器面は丁寧に研磨されている。1634・1635は器面が磨かれ、1636・1637は胴部に縄文が施文されている。1638～1656は、浮彫的工字文が施された壺である。1638・1639等は縄文を伴う工字文である。1651・1655・1656等は工字文のほかに、矢羽根状やZ字状の沈線文を合わせ持つ。1657～1659は注口土器で、刻みを伴う細い隆帯と浮彫的な工字文が施されている。

IV群6類 (1660～1706)

時期を明確にできない粗製土器を一括した。縄文のみが施されているものが多い。1660は壺、1661～1697は深鉢である。なお、1663・1666・1670～1672・1689は、出土地点及び出土状況から埋設土器であった可能性を持つ。また、1689・1694は底部に2.1×1.8cm、3×2cmの穿孔をもち、これらも埋設土器であったと考えられる。1696は底部の内外面に、アスファルトが多量に付着している。

1698・1699は台付鉢で、1698は口縁部上端の文様から、3類または4類に帰属するものと考えられる。1700～1705は無文の鉢である。1700～1703は3類または4類に属する可能性がある。1706は雑な平行沈線が巡る壺である。

第V群土器（第166図～168図）

弥生土器を当群とした。前期の一群（1類）と後期の一群（2類）がある。

V群1類（1707～1727）

弥生時代前期の初頭～前葉期に位置づけられる土器群で、小田野編年（小田野：1987）の第I期の土器群に類似するものである。器種には鉢・浅鉢・高坏及び甕があるが、破片が多く詳細は不明である。

1707・1708は波頭部に刻みを持つ波状口縁の浅鉢で、胴部には変形工字文が描かれている。また、裏面にも口縁部に沿った沈線が巡る。1709～1716は平行沈線が施される鉢類である。1718～1720は壺と考えられるが、1719は蓋の可能性も持つ。1721～1725は小型の甕で、いずれも口縁部は無文で外反している。1724・1725は中央に刻みを持つ小山形突起が配されている。1726は底部に網代痕を持つ。1727は整理時の不手際で掲載したが、出土層位から当群ではない可能性が高い。

V群2類（1728～1778）

弥生時代後期末葉期に位置づけられる土器群で、小田野編年第V期に相当し、赤穴式土器と呼ばれる一群である。壺と考えられるものもあるが、大半は甕である。

1728～1732は交互刺突文が施される口縁部破片で、いずれも緩く外反する。あまり整然としたものはないが、上下二段に刺突が加えられており、全く粗雑なものでもない。1733～1743は沈線による弧状文や曲線文様が施されている。1733は2本の原体圧痕文も合わせ持つ。1734は2本1組の細い沈線によって曲線文が描かれている。胴部の傾斜から推定して、長頸の壺の可能性はある。

1744～1778は地文のみが施された甕破片である。1765～1770等は不整な捺糸文を地文とするが、0段多条の縄文によるものが多い。なお、1765・1770は羽状に施文されている。

第VI群土器（第169図1779～1781）

続縄文時代の土器で、北海道系の後北C2式に比定される土器群である。他地域では第V群2類と共判関係が認められているが、当遺跡では確認されていない。

3点だけの出土で、いずれも鉢と考えられる。1779は口縁部破片で口唇部には刻みを持ち、山形状の口縁部に沿って2本の細い隆帯が巡らされている。胴部には沈線区画された縞縄文と三角形の刺突列が文様を構成している。1780は沈線区画の縞縄文が横方向、1781は縞縄文が縦に施文されている。

2. 中世陶器（第169図・170図1782～1792）

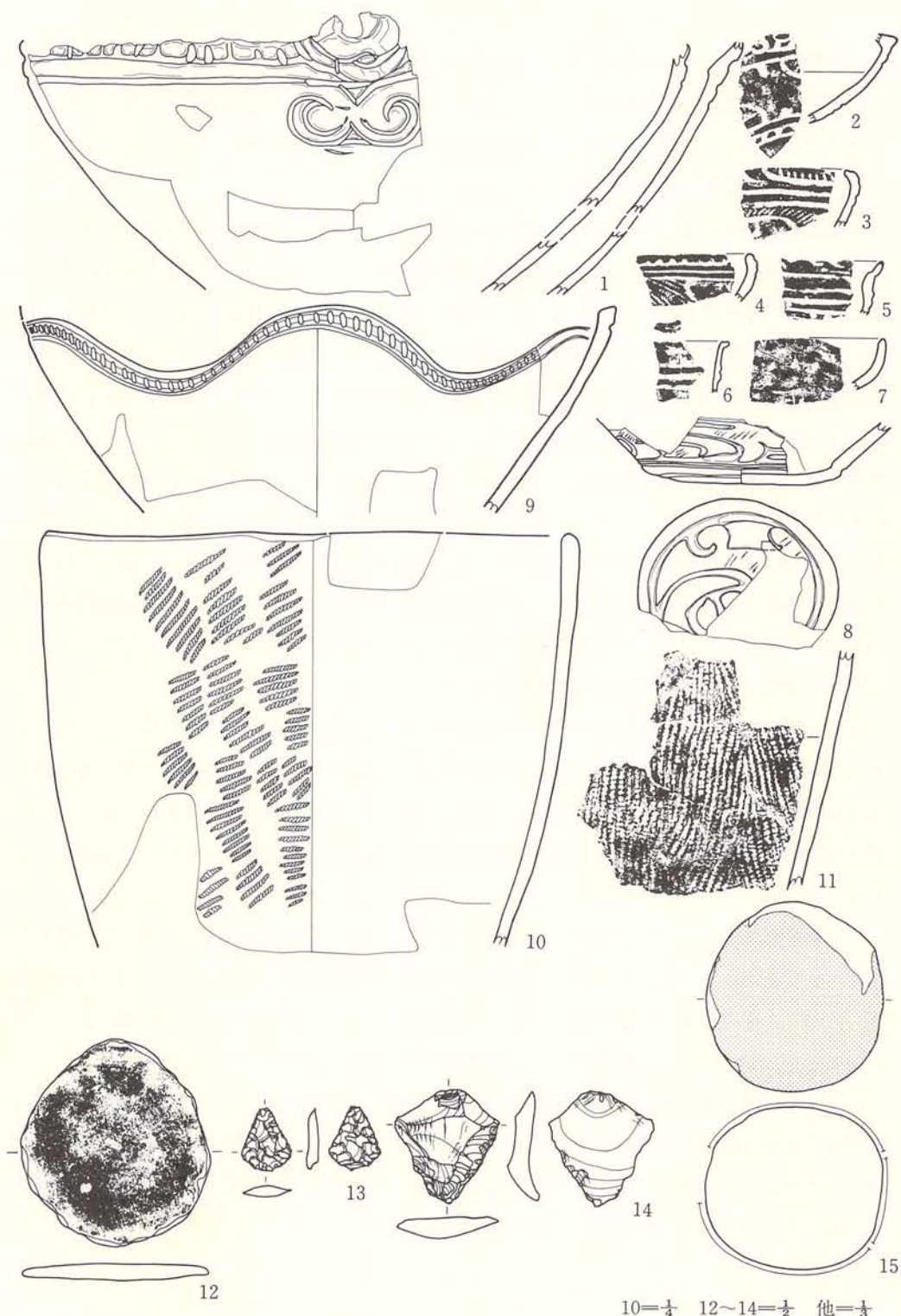
調査区中央の緩斜面の上部に当たる、I A 9 j・II A 0 j 区を中心に陶磁器が出土している。出土層位はいずれもⅢ層の最上部で、炭化物を多く含んでいる層である。時期の同定に当たっては、常滑市民俗資料館中野春久氏よりご教示を受けた。

1782はほぼ全体が残存する甕で、胴部下半に緩い屈曲を持ち、上半部に最大径を有する。頸部は狭く直立気味に外反し、僅かに内傾する口縁部に続く。口唇部は上方に挽き出されている。胴部外面はヘラケズリ、内面はナデによって調整されるが、内面には輪積痕が観察される。なお、口縁部から胴部上半には、緑灰色の自然釉が付着する。全体の器形及び口縁部の形態は、宮城県築館町伊豆沼古窯の熊狩A窯跡第2号窯出土の甕に酷似する。時期については、常滑焼編年（中野:1955）の6 a・6 b期に当たり、13世紀後半代の遺物と考えられる。1787は口縁部破片で、口縁部及び口唇部は上下に短く張り出す。器面全体には緑灰色の自然釉が付着している。常滑焼と考えられ、1782と同様13世紀後半代に位置づけられる。1784は頸部が長い甕である。胎土は細かな砂質で色調は灰色を呈し、12世紀末葉期の渥美焼と考えられる。1785も長頸の甕で色調は1784に似るが、胎土には1783に見られた白色の砂粒が含まれる。12世紀末葉期の常滑焼と考えられる。1786は胴部上端の破片で、平行文の押印を持つ。1782・1783と同様に、13世紀後半代に位置づけられる常滑焼である。

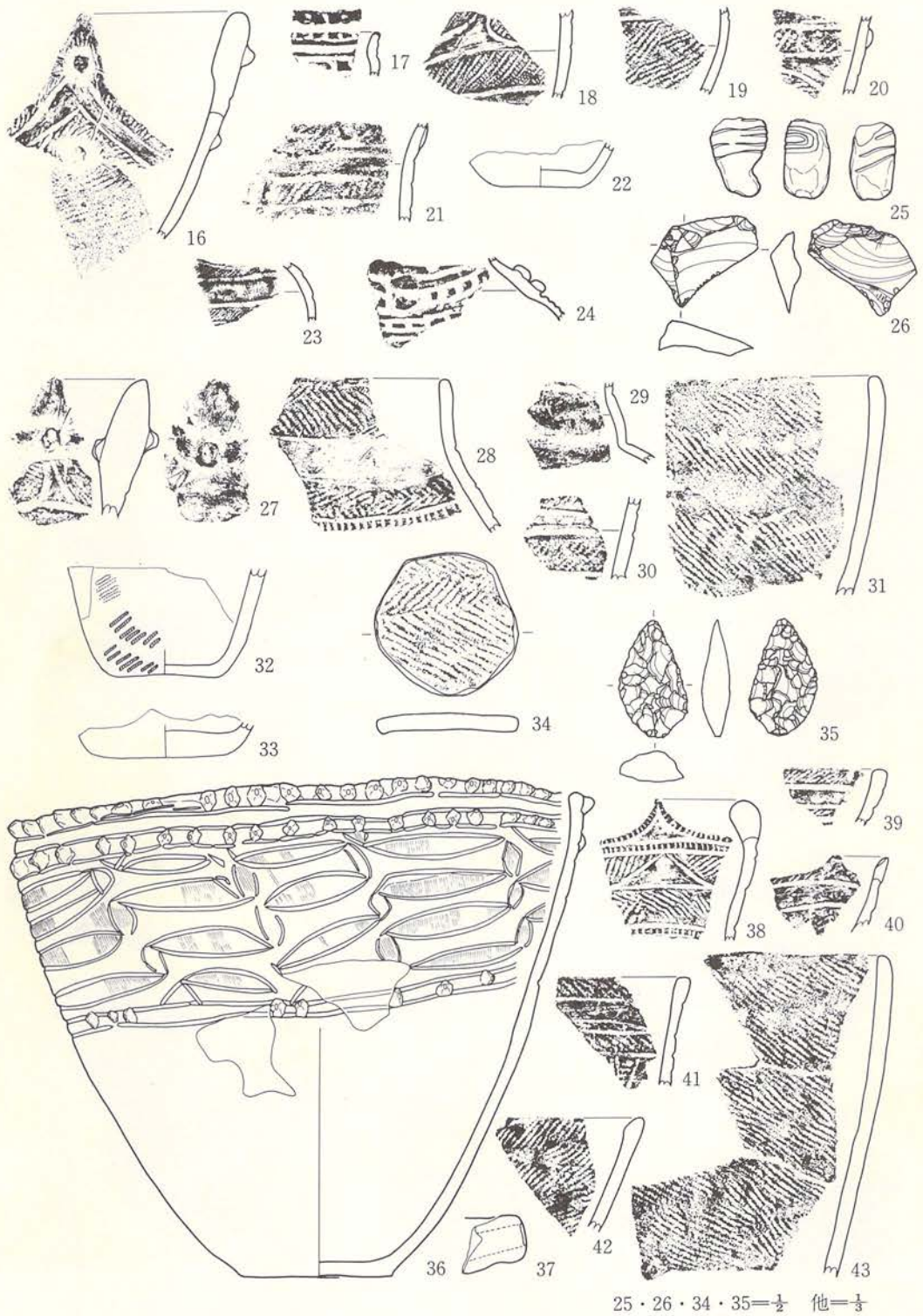
1787～1789は同一個体の鉢である。口縁部は短く外側に張り出し、口唇部は僅かに上方に挽き出されている。口縁部上端はロクロ痕を残し、胴部は浅いヘラケズリ調整されている。胎土は1783に類似している。上記編年の8・9期に比定され、15世紀前半代の常滑焼と考えられる。1784は鉢の胴部破片で、1787等と同一個体の可能性もあるが、外面は横方向のナデ調整が施されている。

1791・1792は片口鉢と考えられ、同一個体の可能性があり、推定復元した。胎土はいずれも白色の砂粒を含み、灰色を呈する。1791は胴部下端から底部の破片で、ハ字状の付け高台を持つ。1792は口縁部破片で外面は凹凸に富み、口縁部は丸い。いずれも内面は、使用によって滑らかなものとなっている。常滑焼で、13世紀後半代の遺物と考えられる。

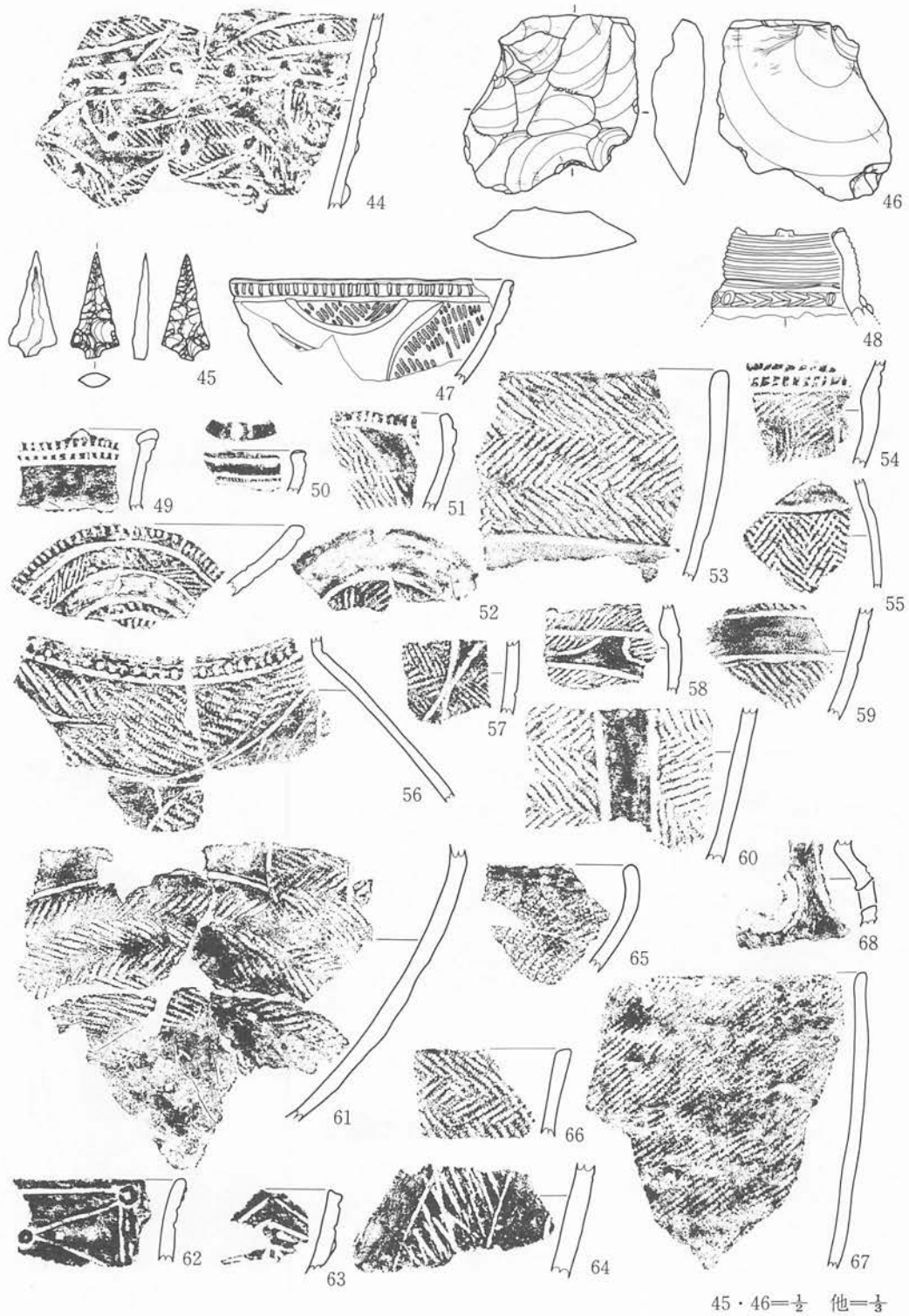
1793はI C区のII b層から出土した天目茶碗である。胎土は灰白色で、やや軟質の感がある。胴部の下端には薄い鉄釉の化粧釉がかけられ、これより上部及び内面には黒～茶褐色の鉄釉が施されている。高台脇はいくぶん斜めに削られている。美濃産と考えられ、化粧釉の施釉等から大窯I期、16世紀前半代の遺物と考えられる。



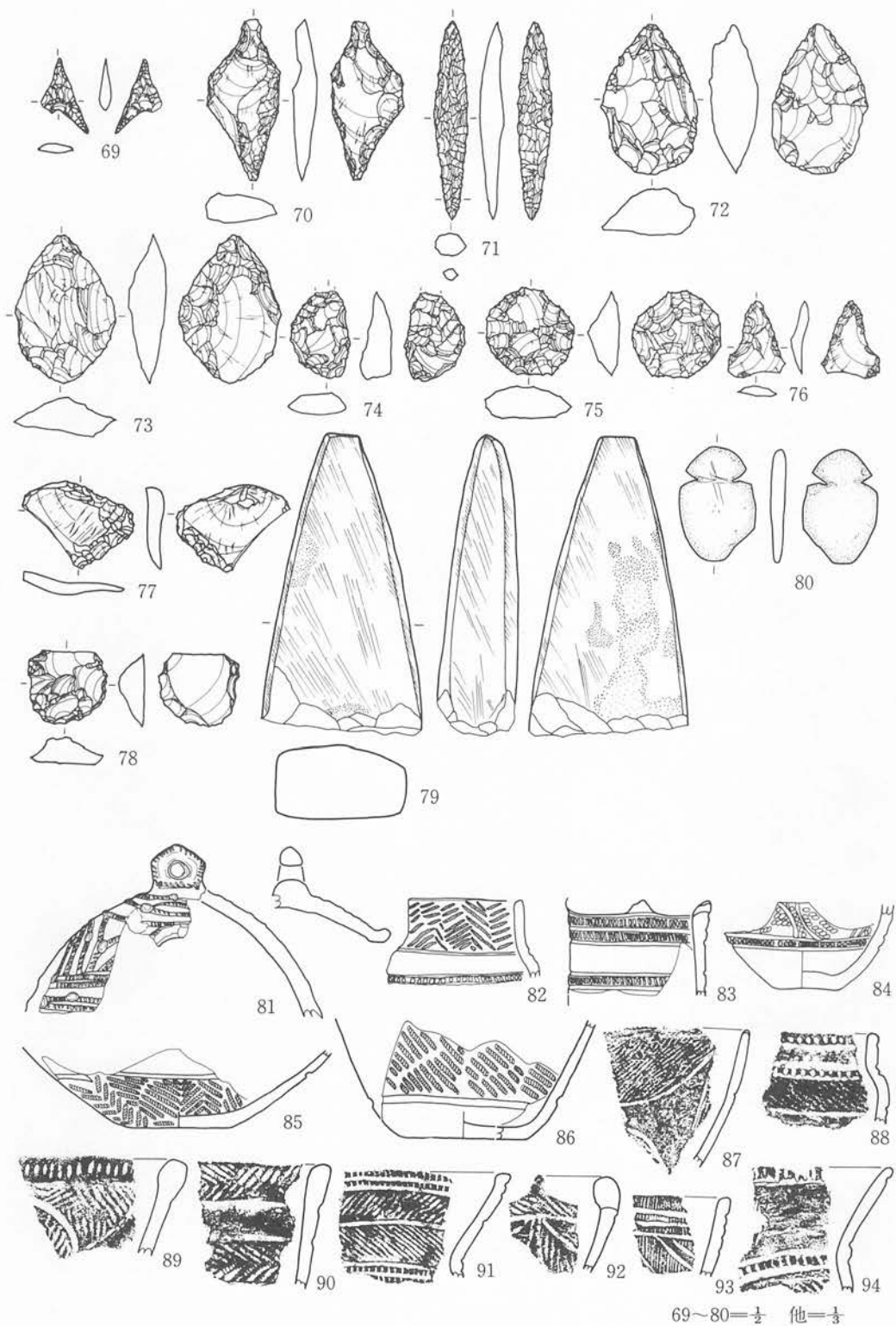
第50図 遺構内出土遺物 1 (I A-1 住居跡)



第51図 遺構内出土遺物2 (IA-2・3・4住居跡)

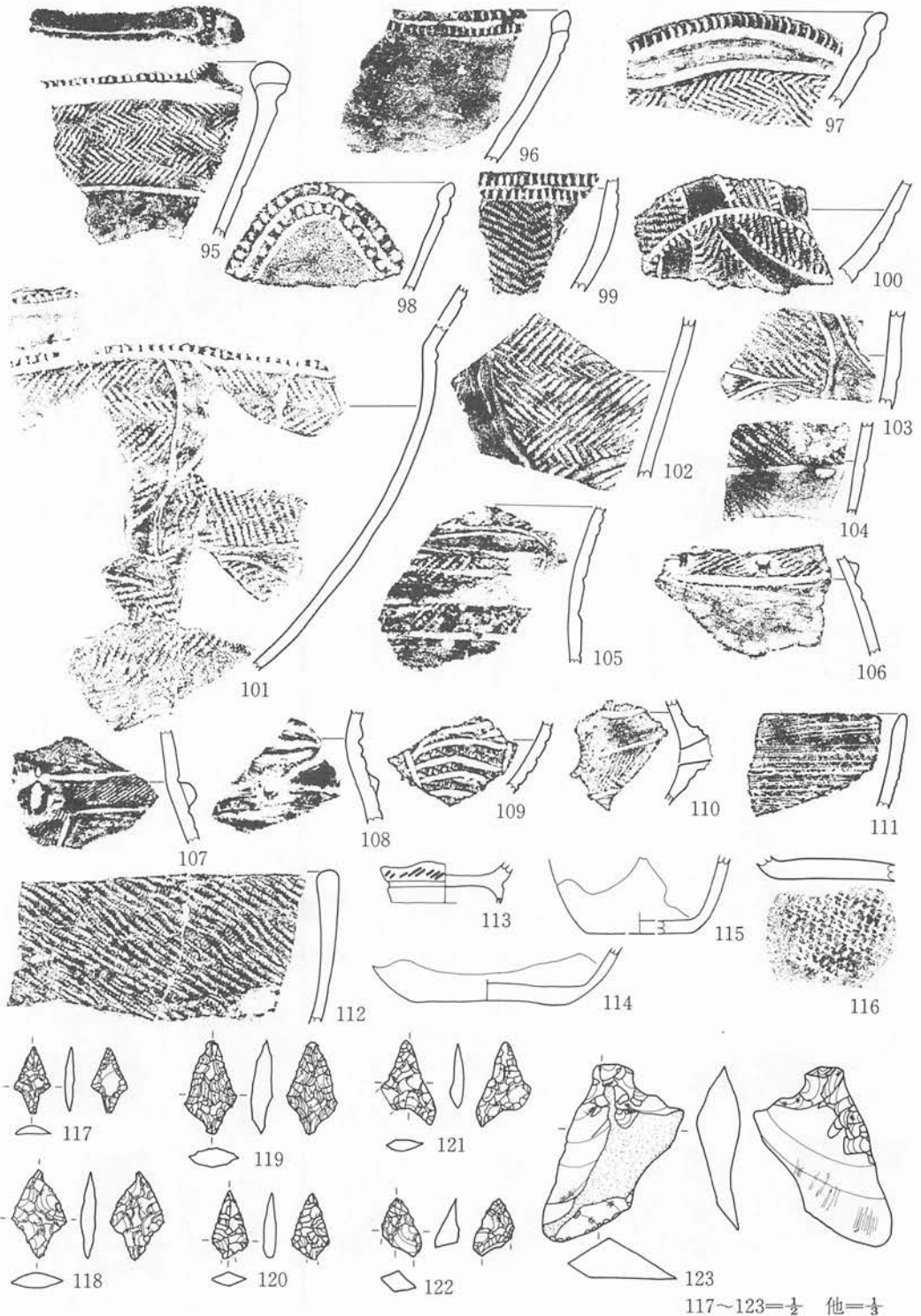


第52図 遺構内出土遺物3 (IA-4・5住居跡)



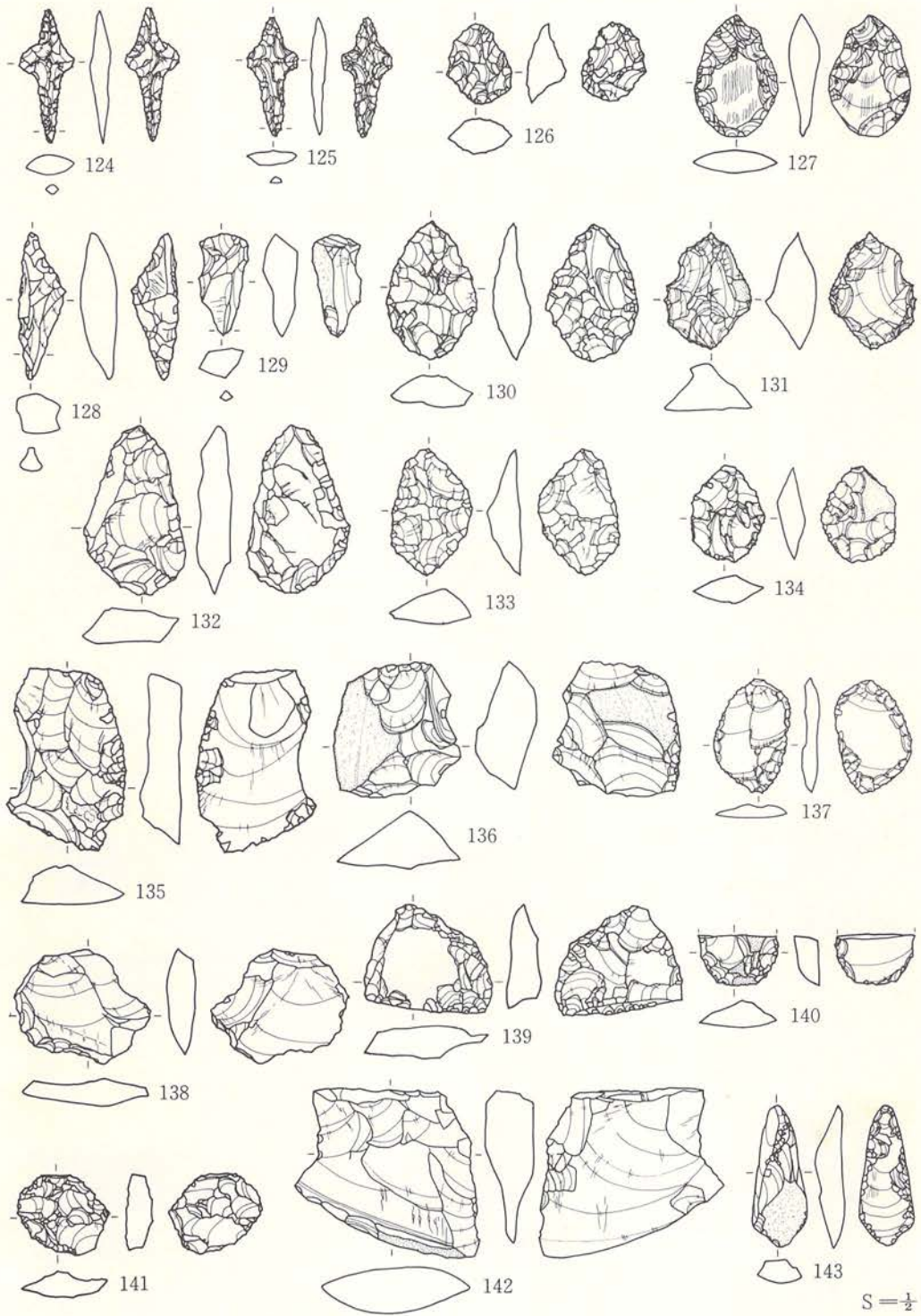
69~80=1/2 他=1/3

第53図 遺構内出土遺物4 (IA-5・6住居跡)

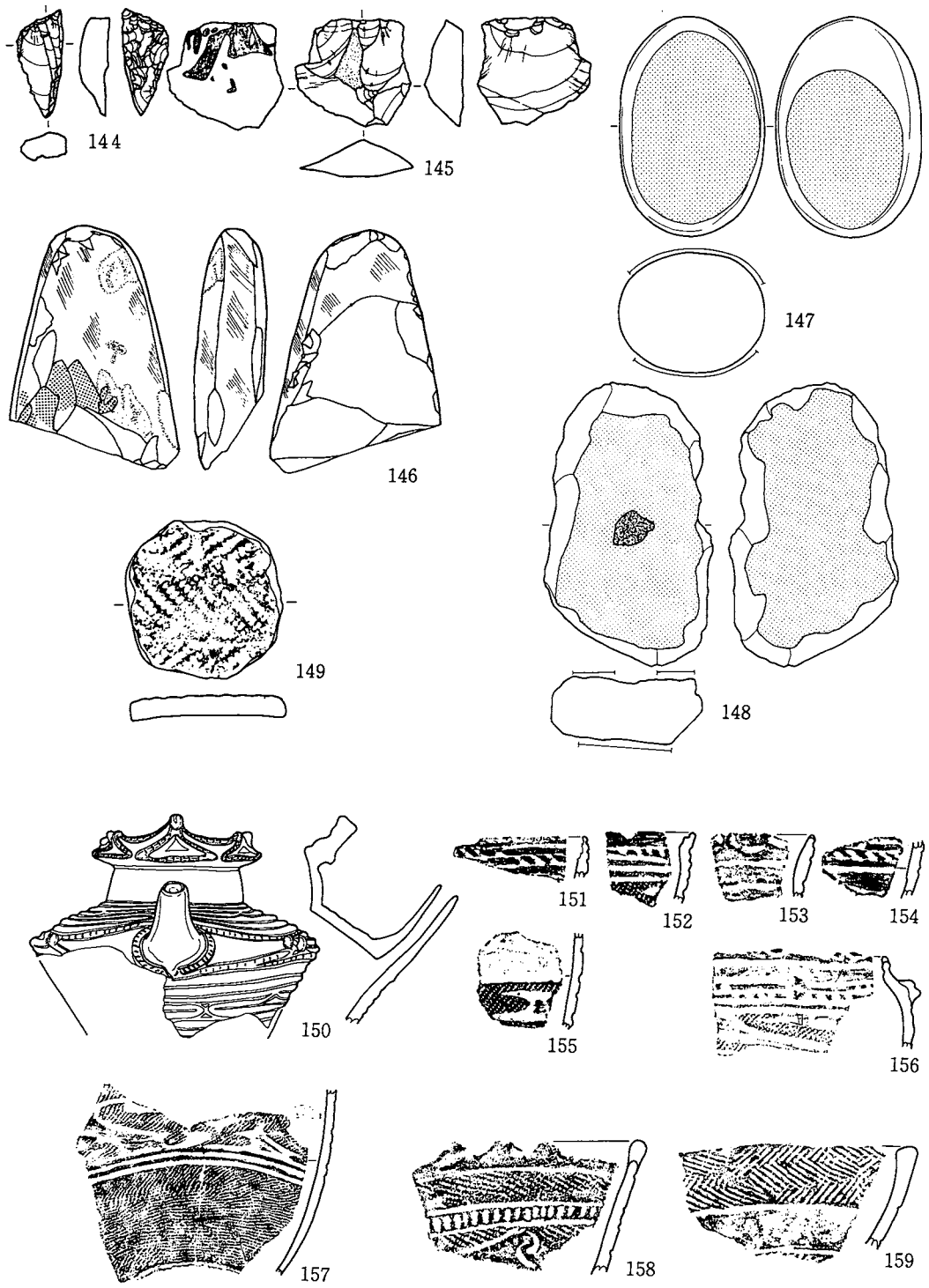


117~123=1/2 他=1/3

第54図 遺構内出土遺物5 (I A-6住居跡)

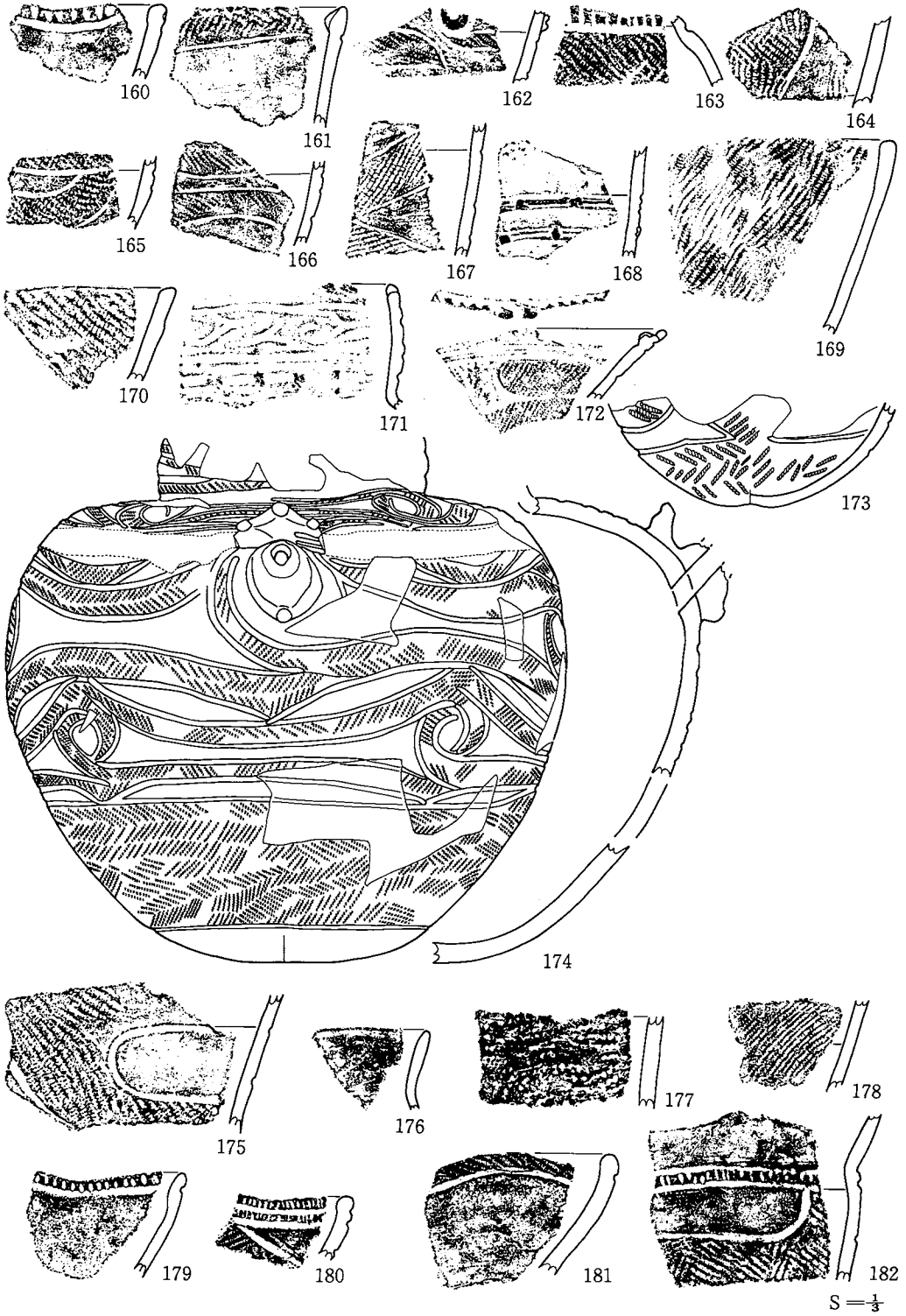


第55図 遺構内出土遺物 6 (I A—6 住居跡)

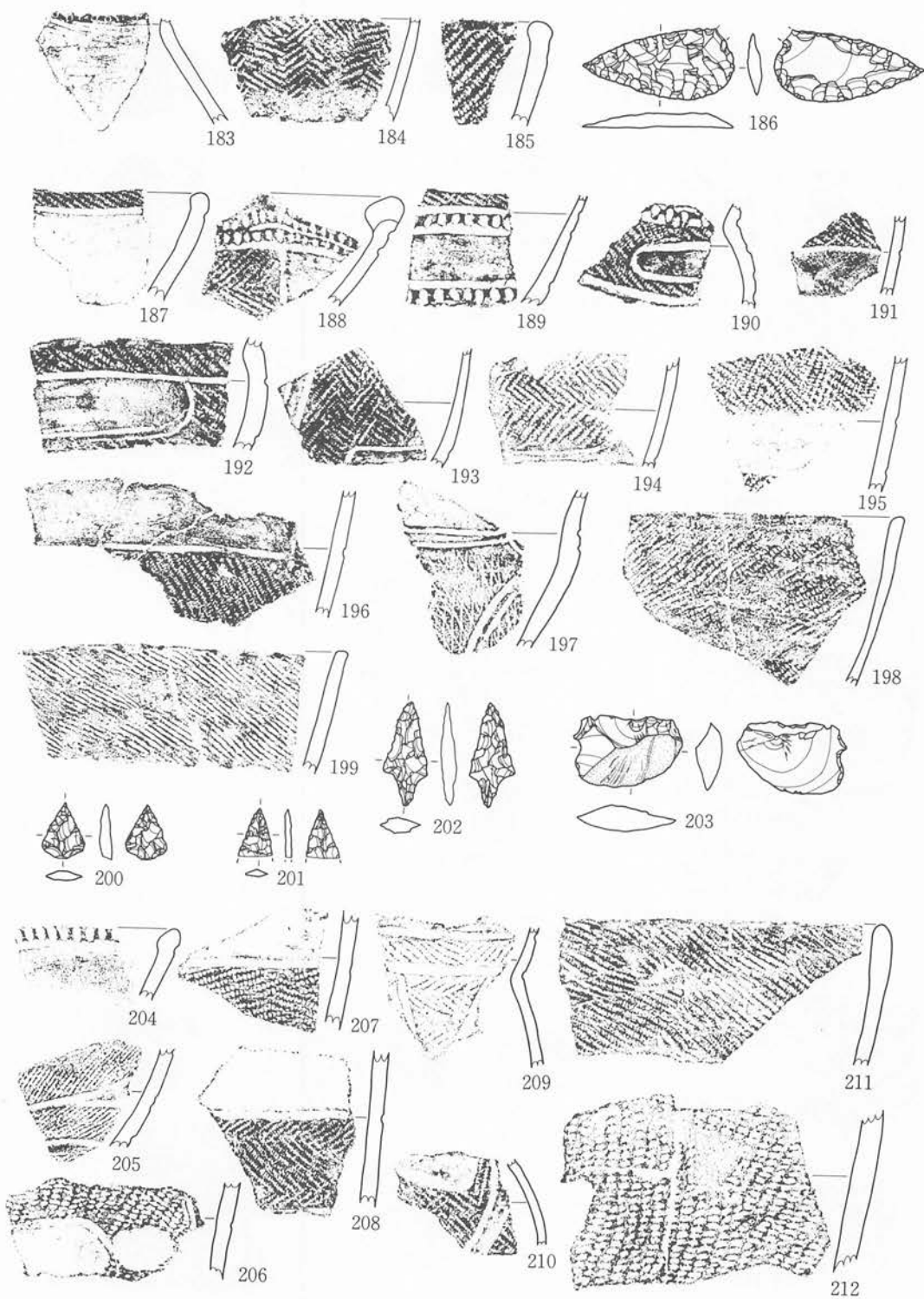


144~146・149=1/2 他=1/3

第56图 遺構内出土遺物7 (I A-6・II A-1・2住居跡)

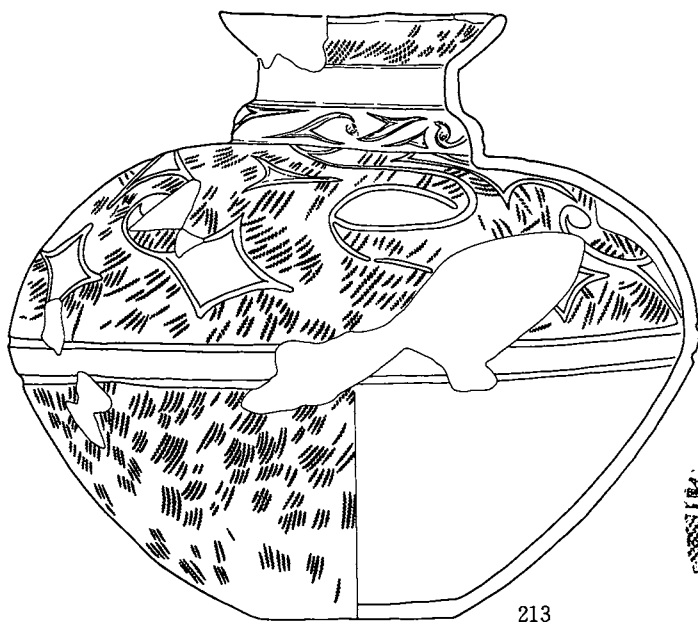


第57图 遺構内出土遺物 8 (ⅡA-2・3・4 住居跡)

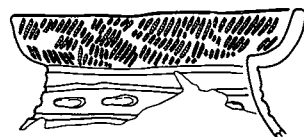


186 · 200 ~ 203 = $\frac{1}{2}$ 他 = $\frac{1}{3}$

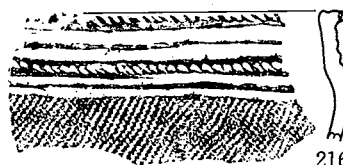
第58圖 遺構内出土遺物9(ⅡA-4·5·6住居跡)



213



215



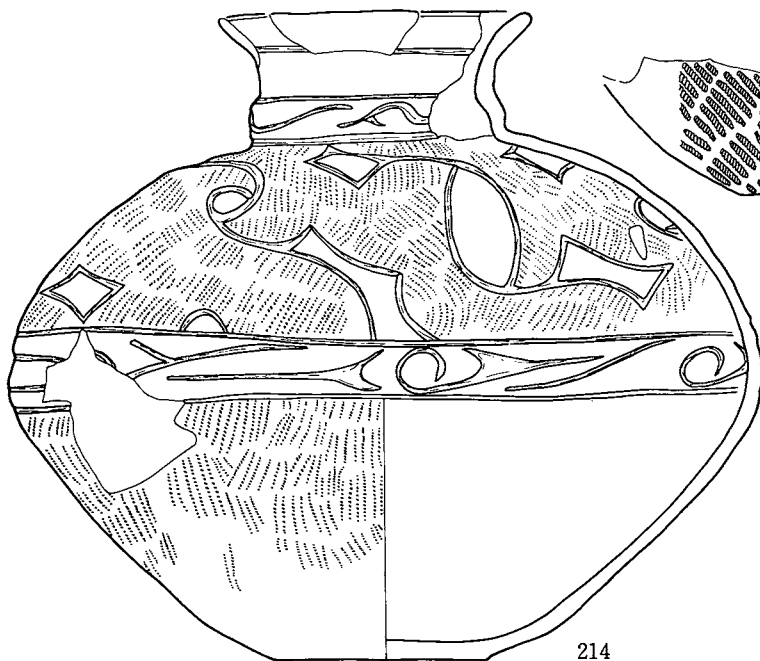
216



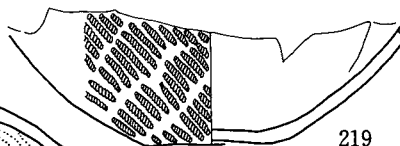
217



218



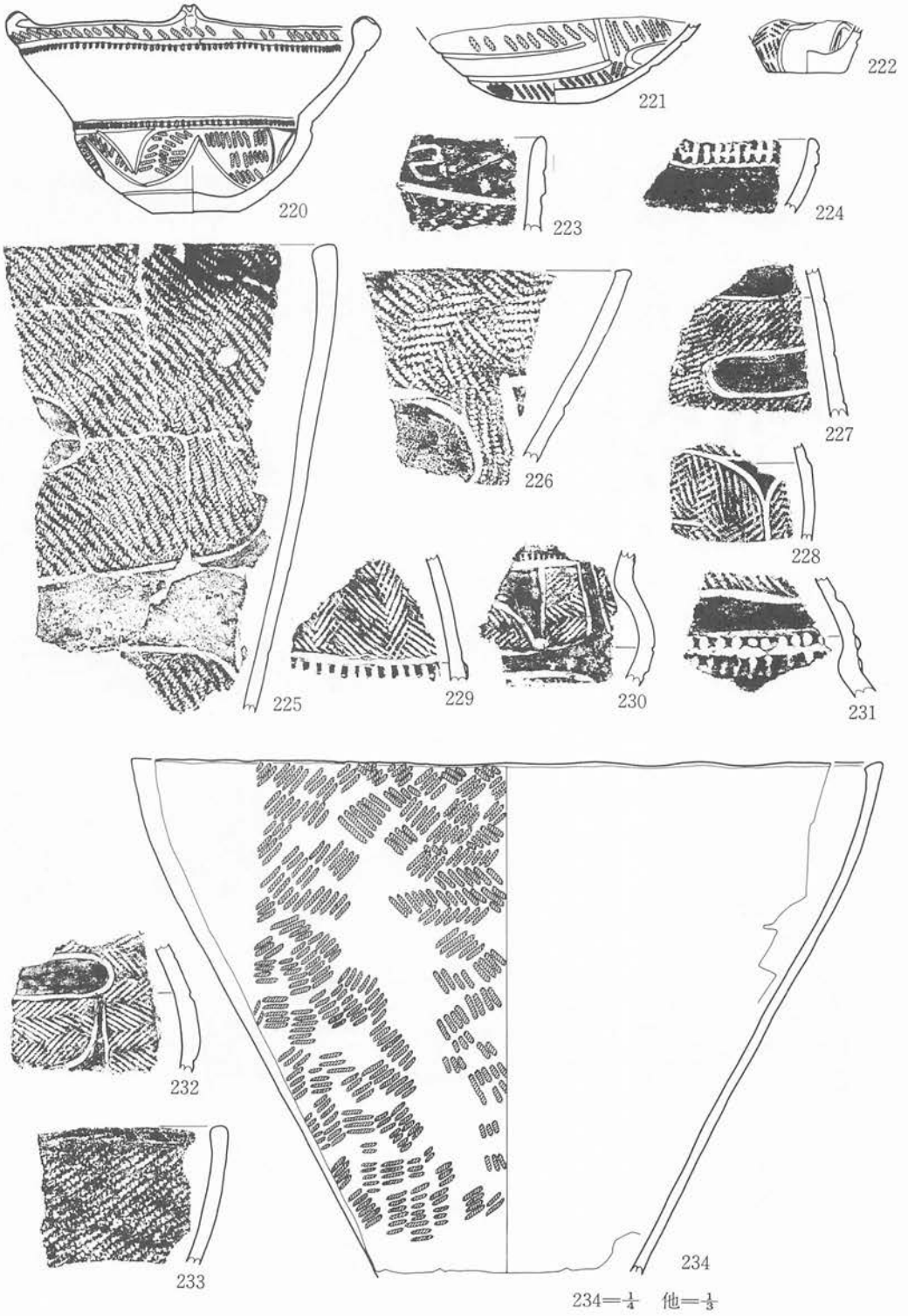
214



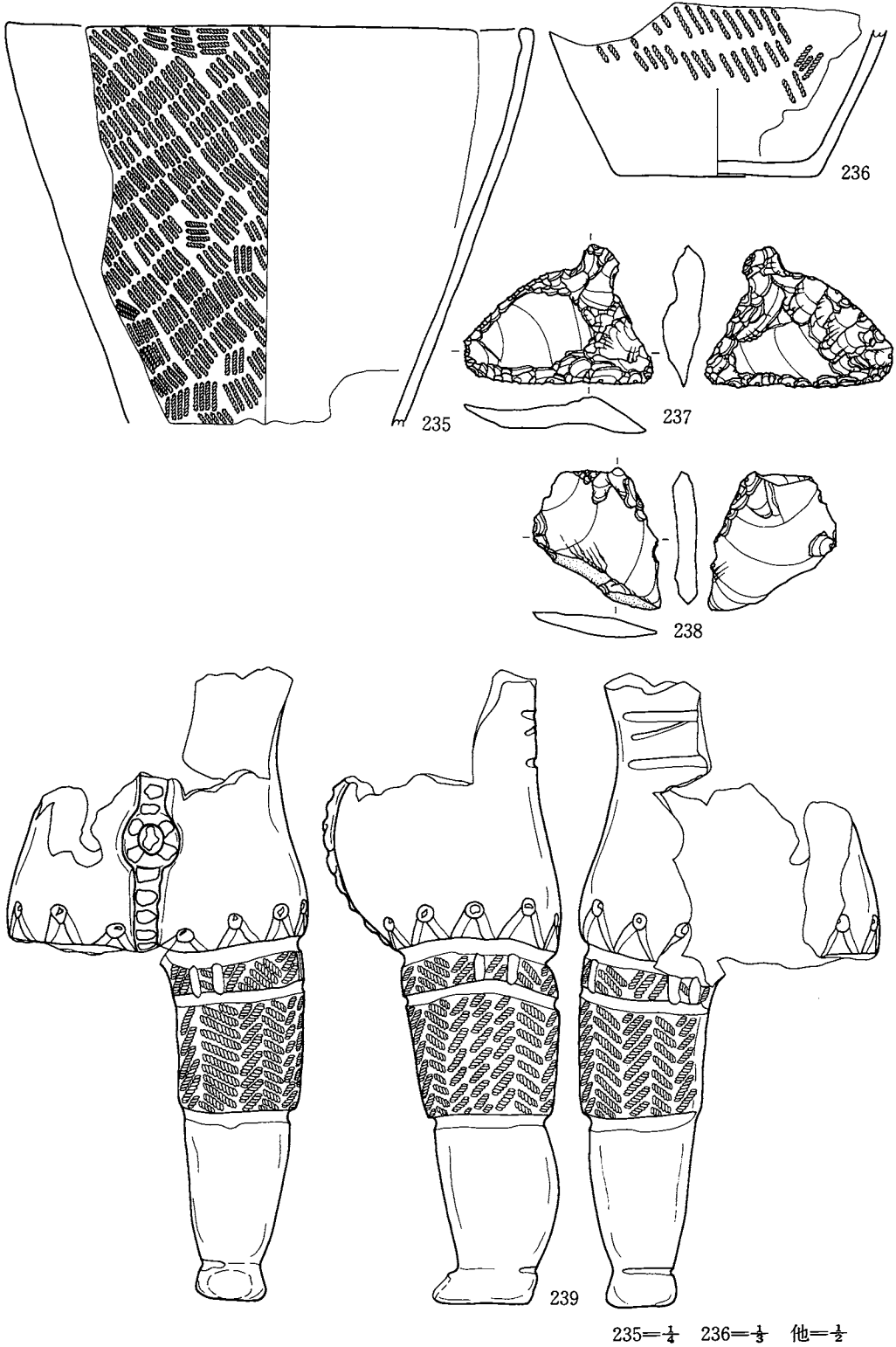
219

S = $\frac{1}{3}$

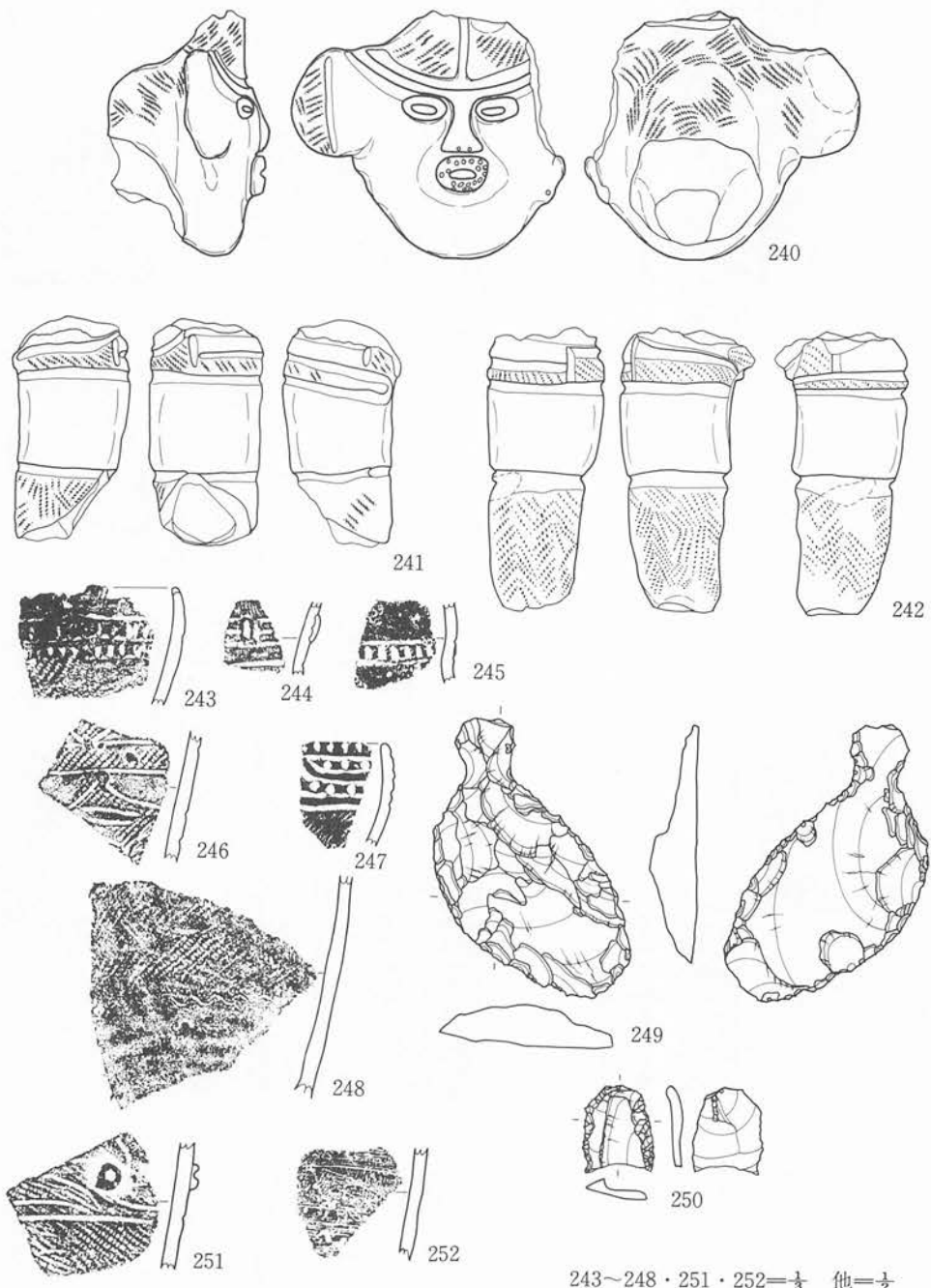
第59圖 遺構内出土遺物10 (I B-1 住居跡)



第60圖 遺構內出土遺物11 (I B-2 住居跡)

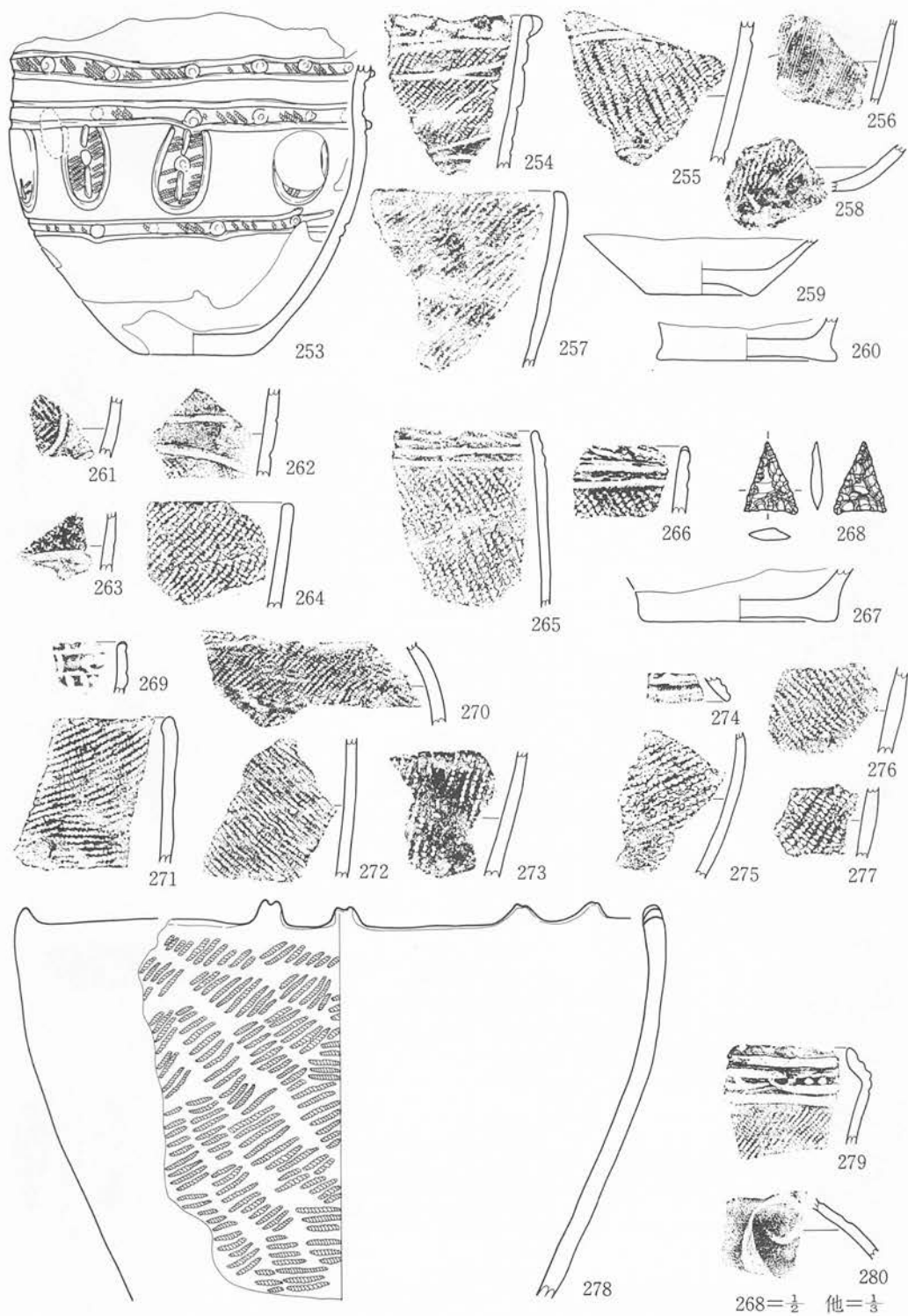


第61図 遺構内出土遺物12 (I B-2 住居跡)

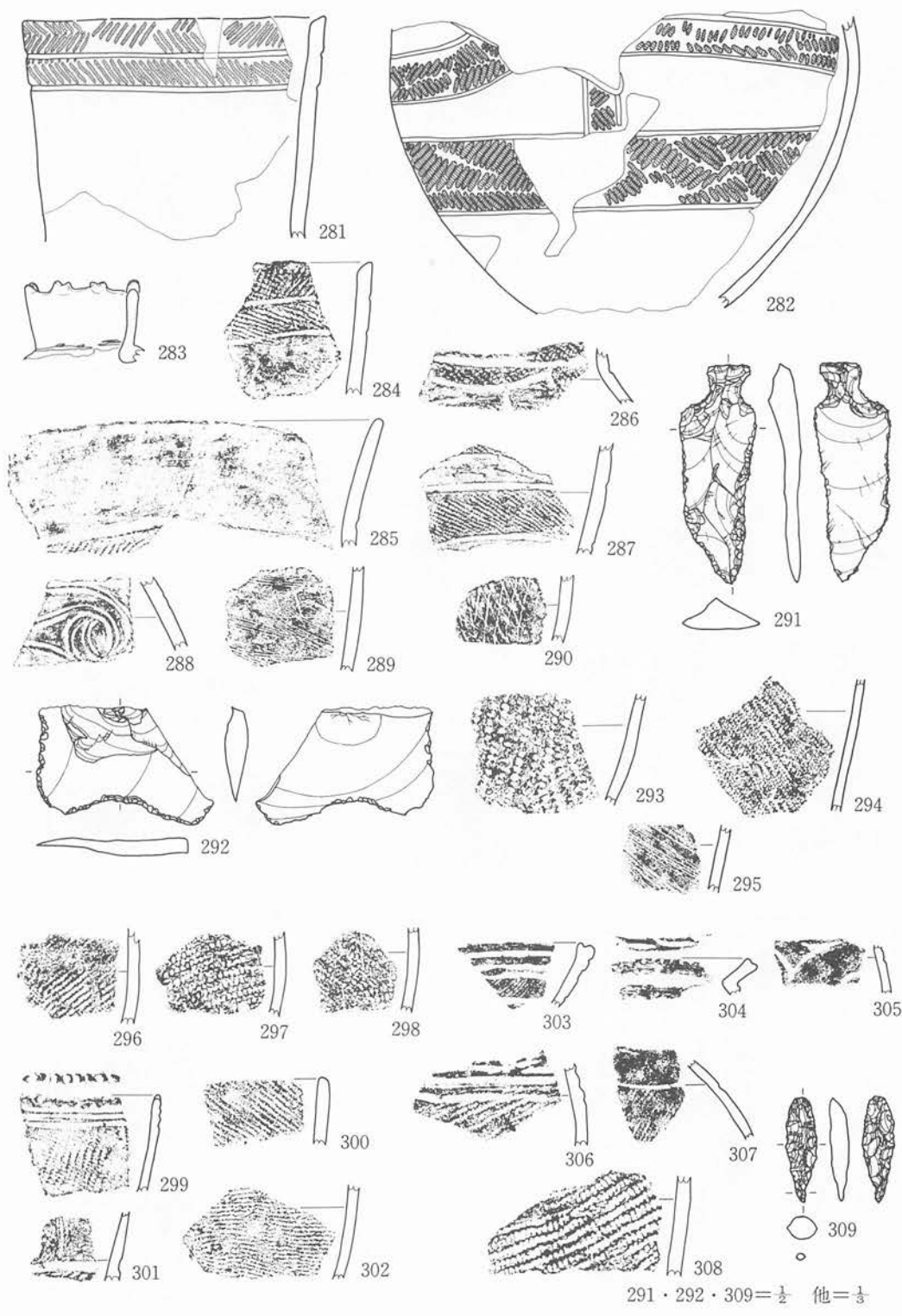


243~248・251・252=1/3 他=1/2

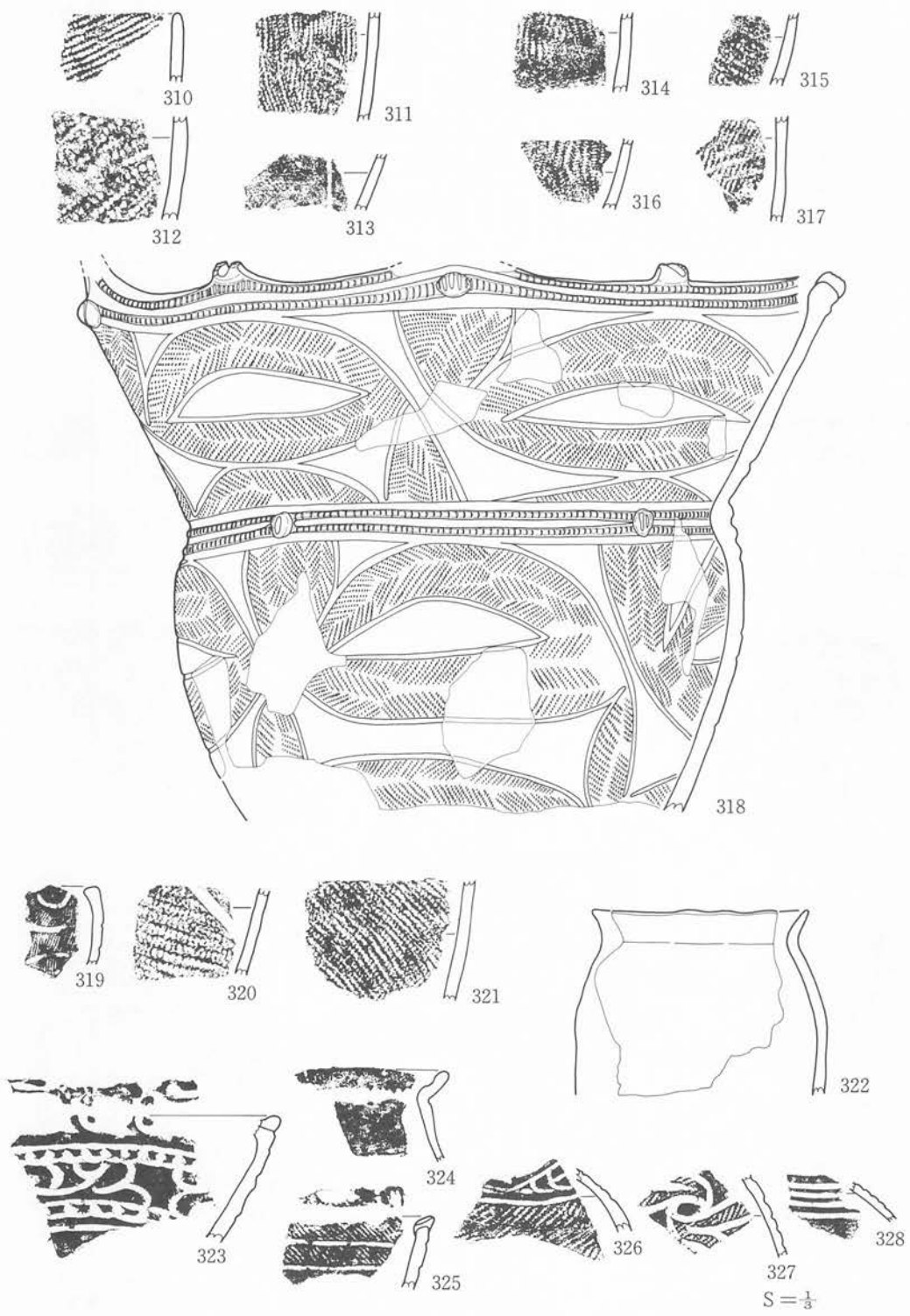
第62図 遺構内出土遺物13 (I B-2 住居跡・I A-1・II A-1 住居跡状遺構)



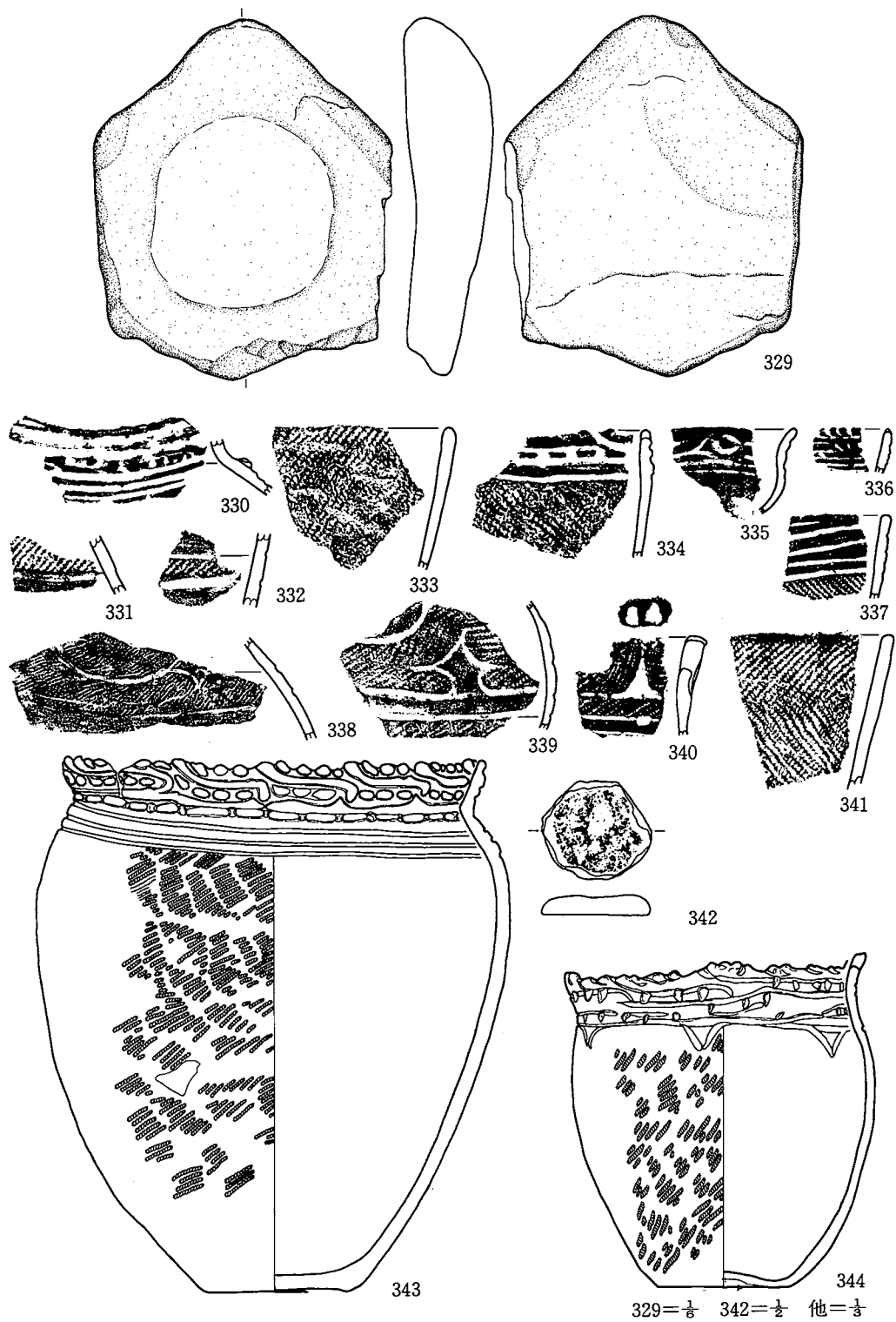
第63图 遺構内出土遺物14 (I A · II A区土坑)



第64图 遺構内出土遺物15 (II A · I B区土坑)



第65图 遺構内出土遺物16 (I B · II C区土坑)



第66图 遺構内出土遺物17 (II C区土坑)

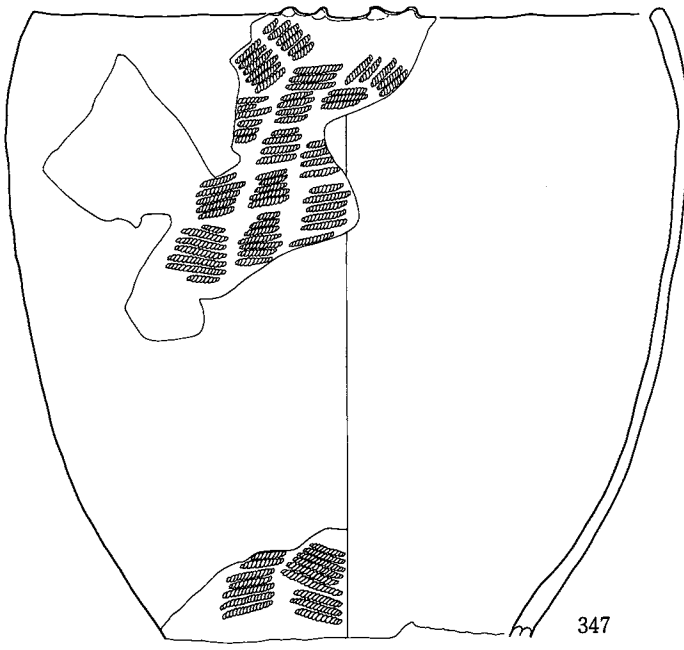


I A8埋設土器

345

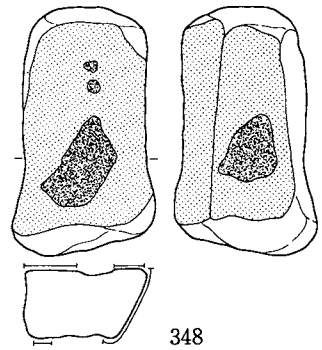
I A9g-1埋設土器

346



I A9g-2埋設土器

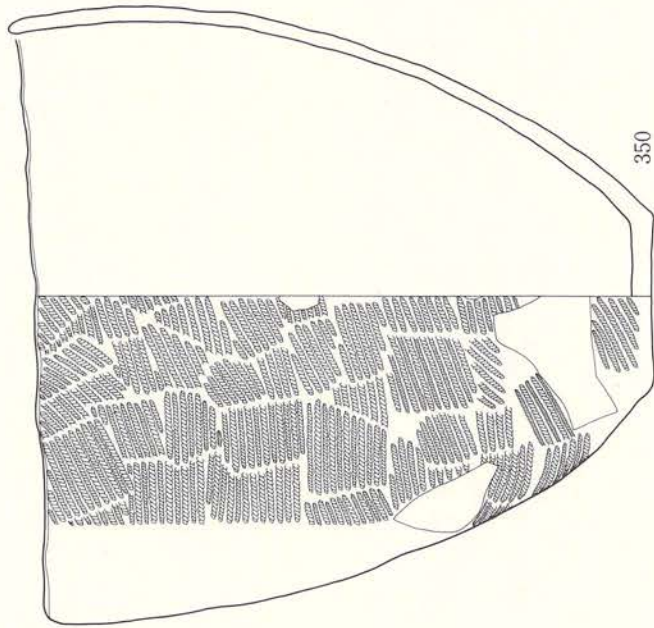
347



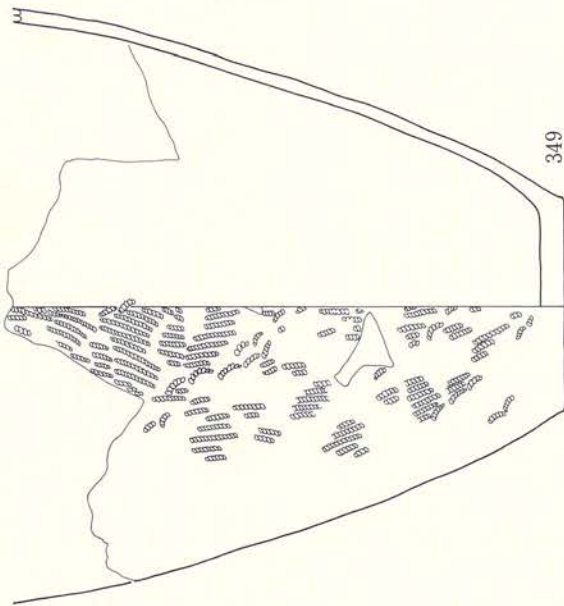
348

348=1/3 他=1/4

第67图 遺構内出土遺物18 (I A区埋設土器)

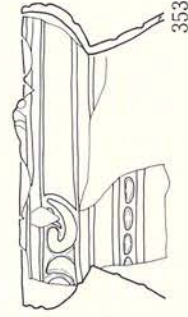


350



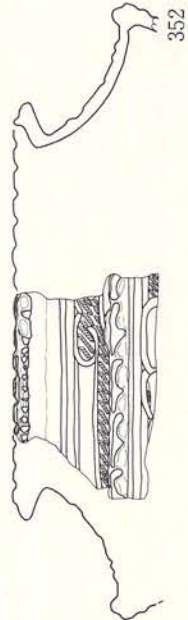
349

I A9g-3埋設土器



353

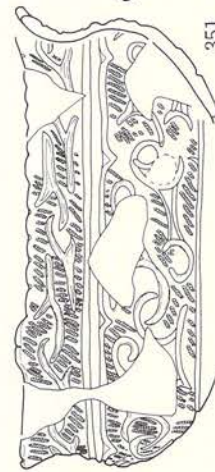
II A0d埋設土器



352



354



351

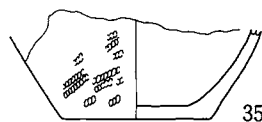
349・350 = $\frac{1}{4}$ 他 = $\frac{1}{3}$

第68図 遺構内出土遺物19 (I A・II A区埋設土器)

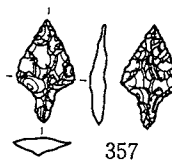


II A0e埋設土器

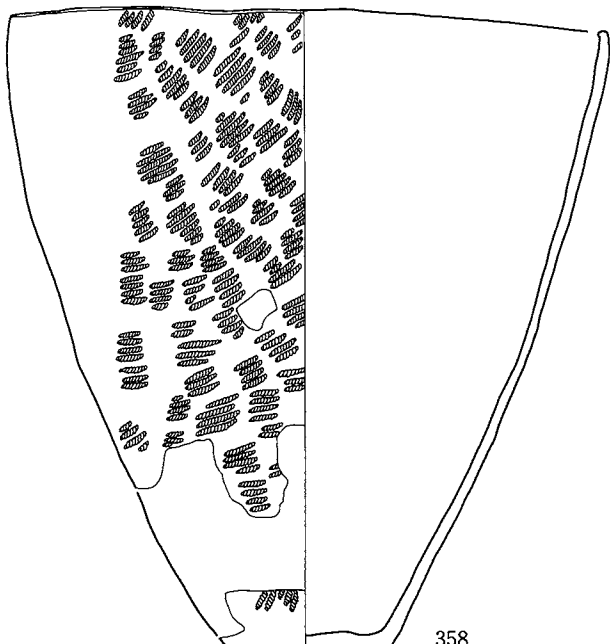
355



356

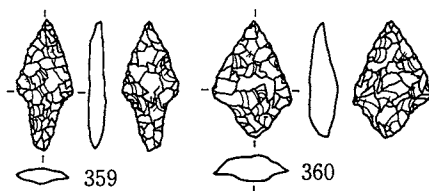


357



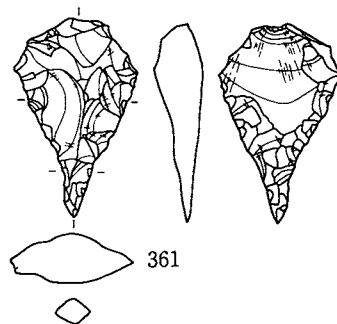
II A0f-1埋設土器

358

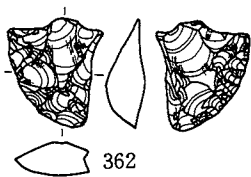


359

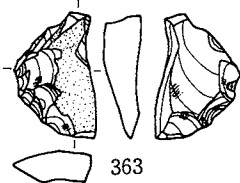
360



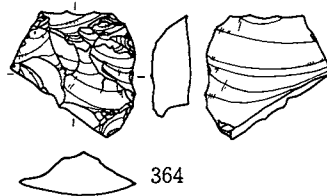
361



362



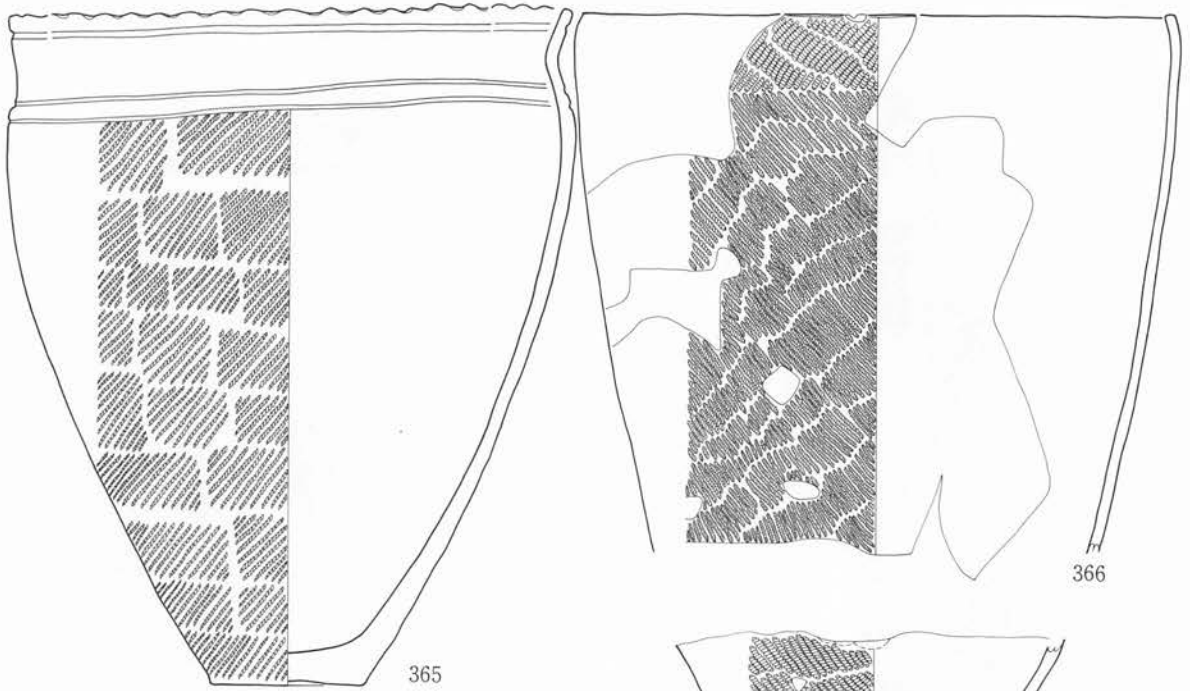
363



364

355・358 = $\frac{1}{4}$ 356 = $\frac{1}{3}$ 他 = $\frac{1}{2}$

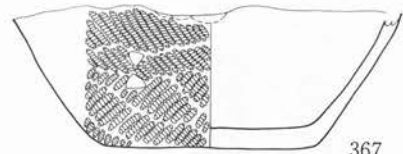
第69図 遺構内出土遺物20 (II A区埋設土器)



II A0f-2埋設土器

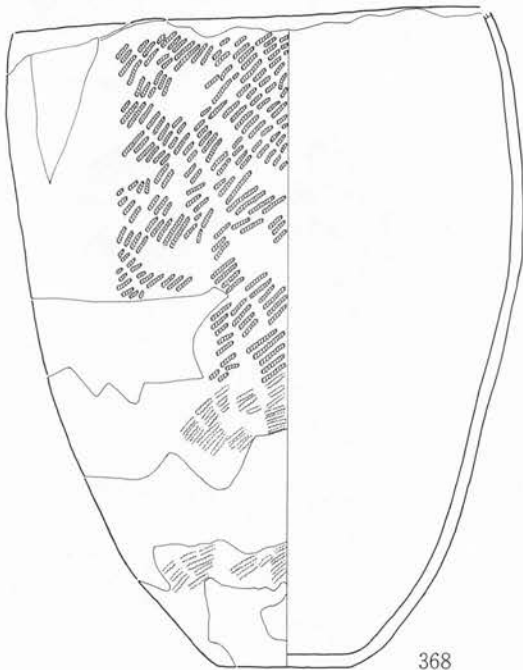
365

366



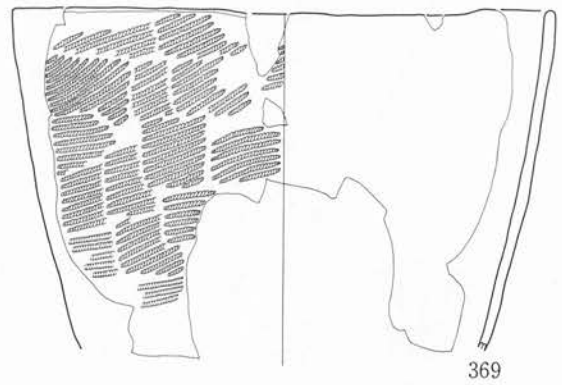
I B5e埋設土器

367



I B5f埋設土器

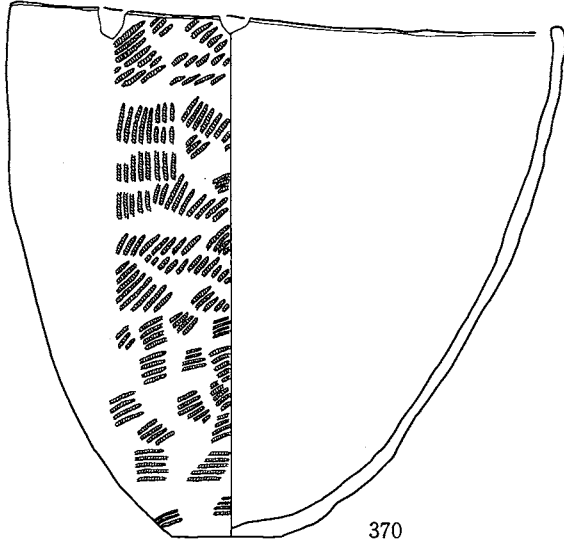
368



369

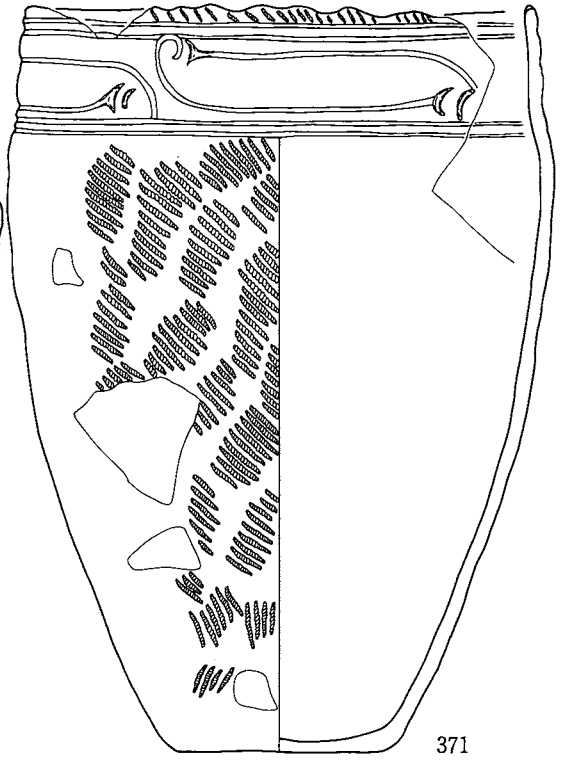
366・367=1/3 他=1/4

第70図 遺構内出土遺物21 (II A・I B区埋設土器)



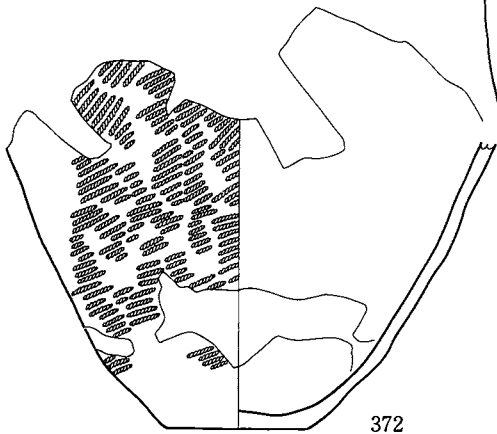
I B5i-1埋設土器

370



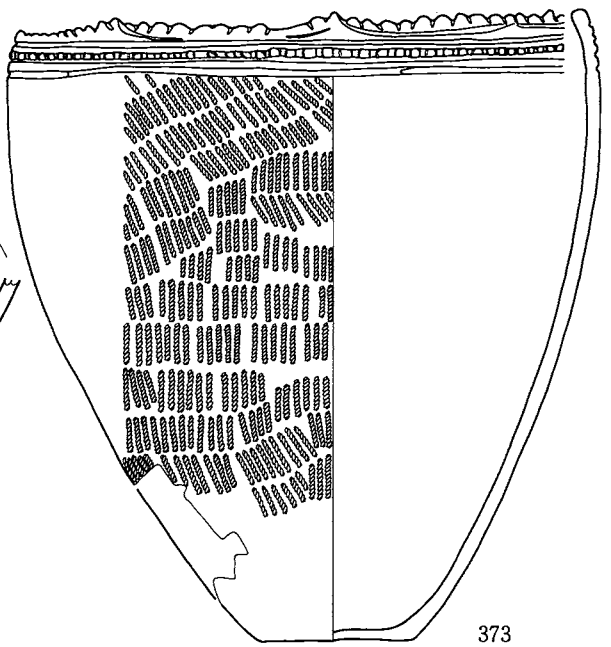
I B5i-2埋設土器

371



I B5j埋設土器

372

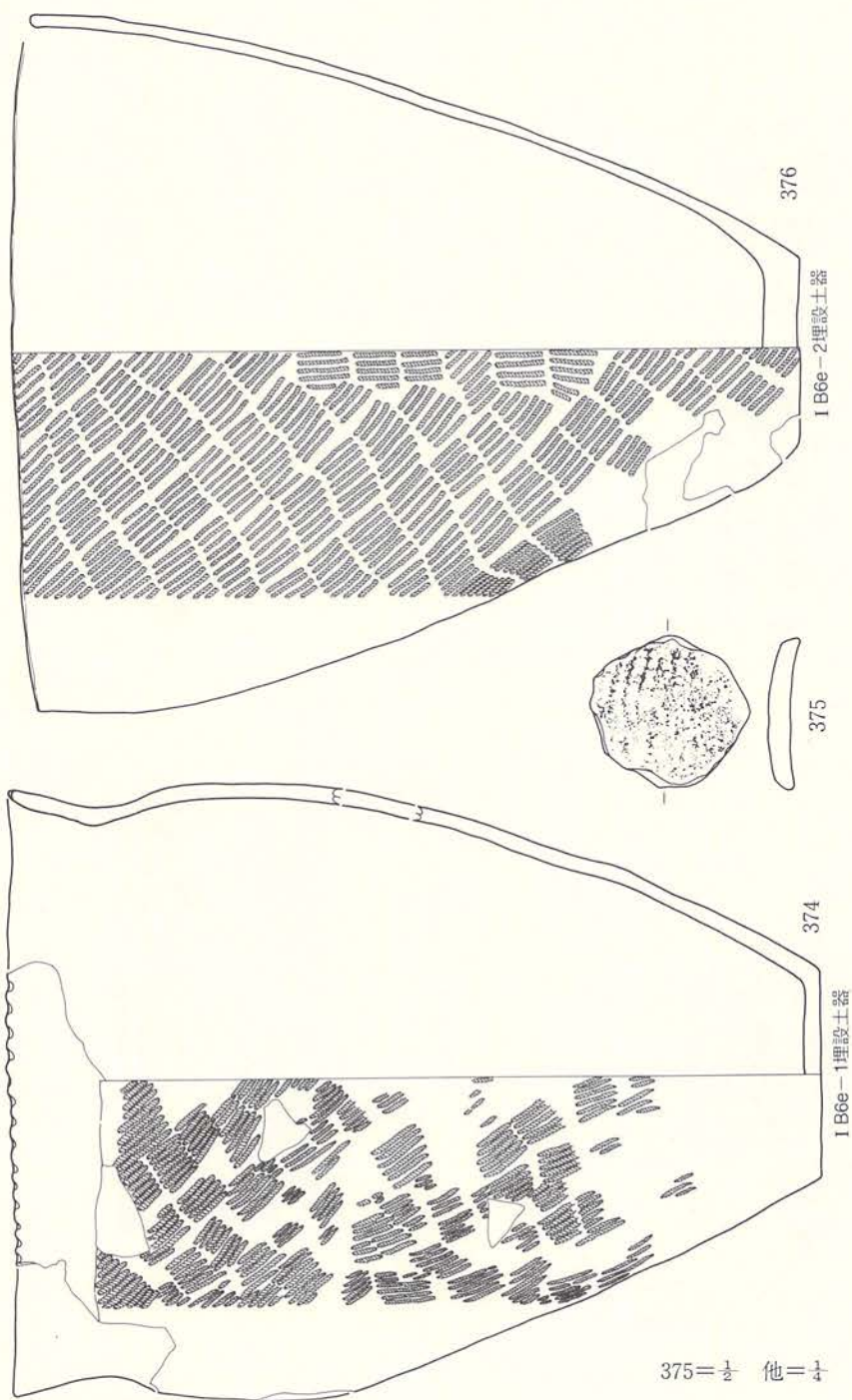


I B6d埋設土器

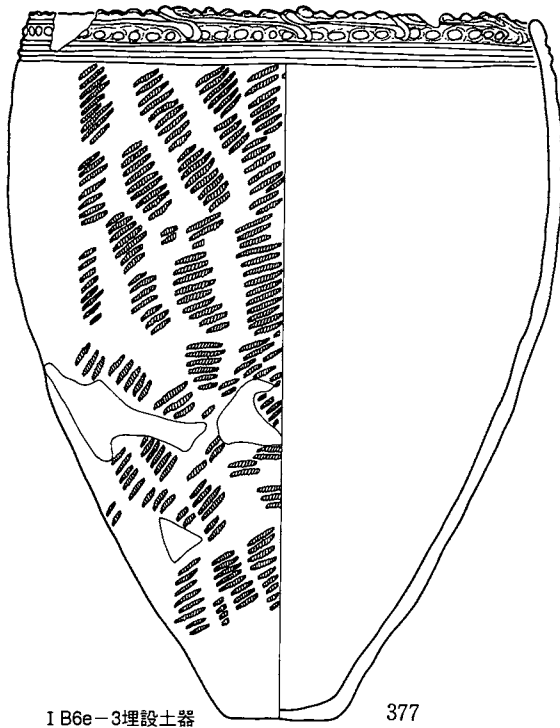
373

S = 1/4

第71図 遺構内出土遺物22 (I B区埋設土器)

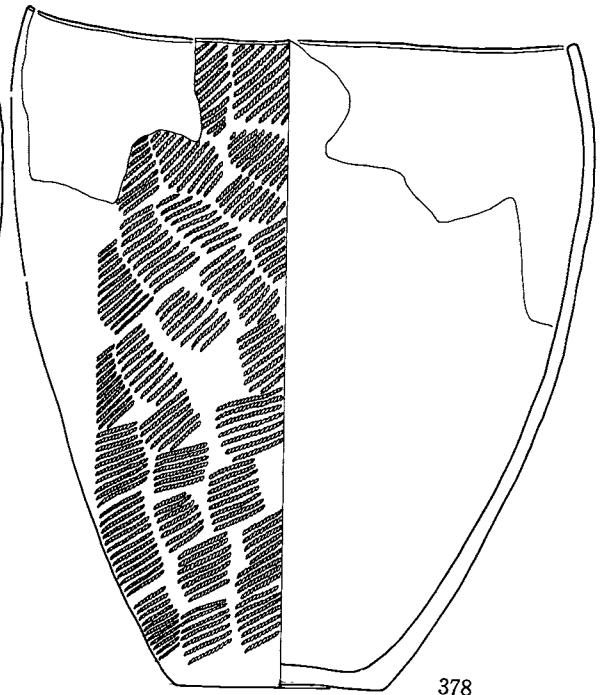


第72図 遺構内出土遺物23 (I B区埋設土器)



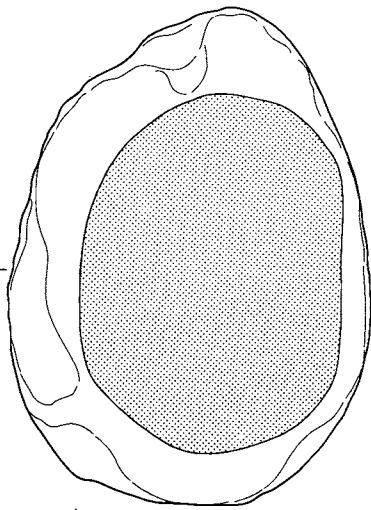
I B6e-3埋設土器

377

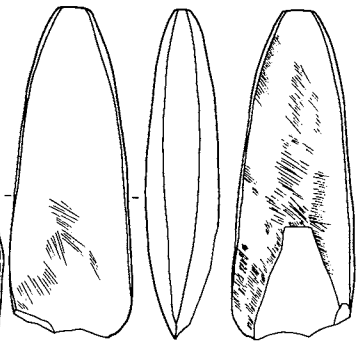
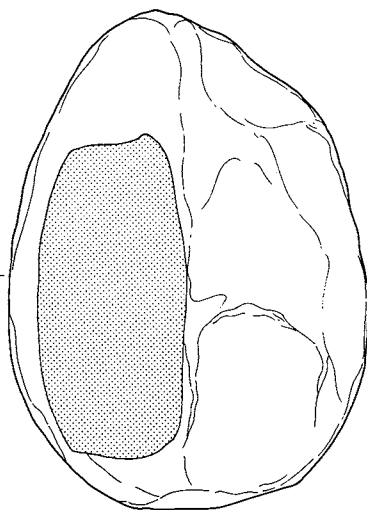


I B6f-1埋設土器

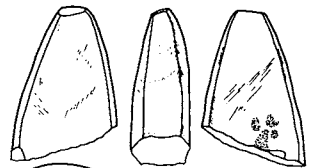
378



379



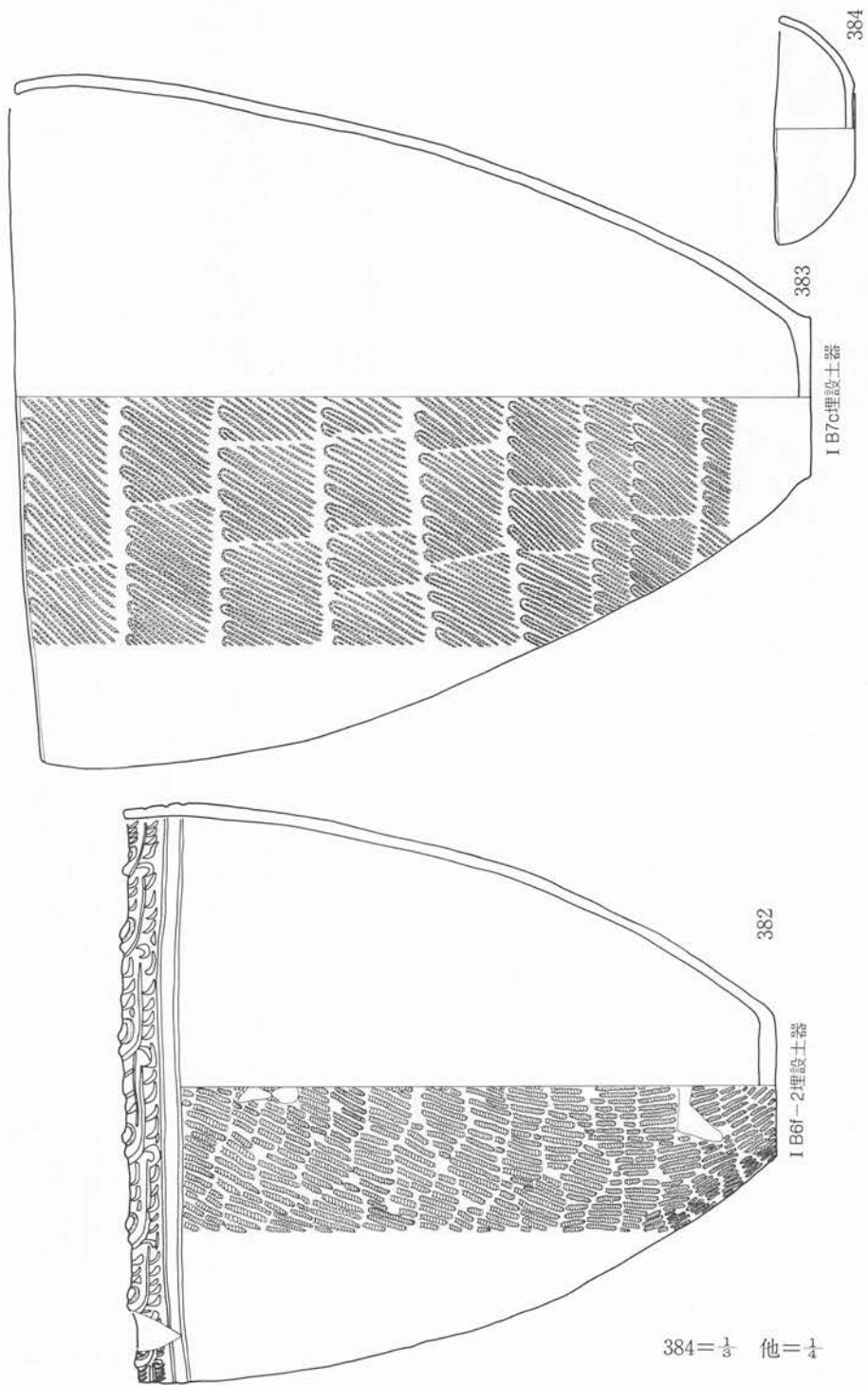
380



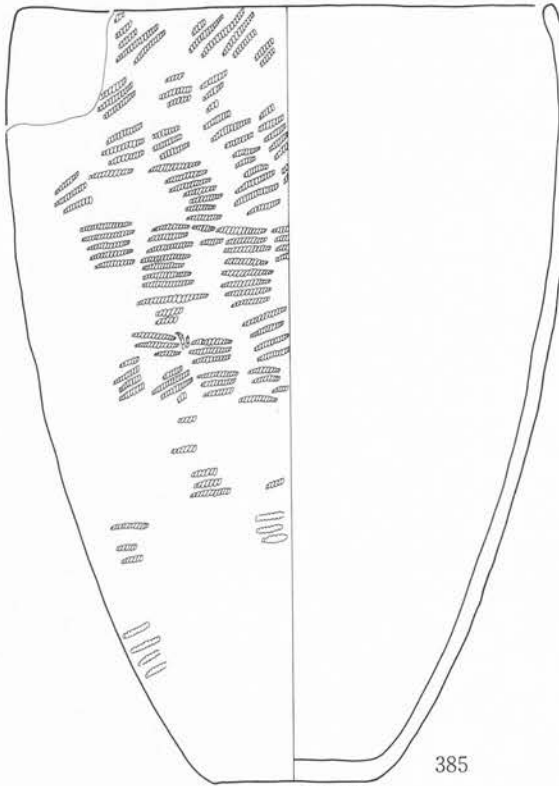
381

377・378=1/4 他=1/8

第73図 遺構内出土遺物24 (I B区埋設土器)

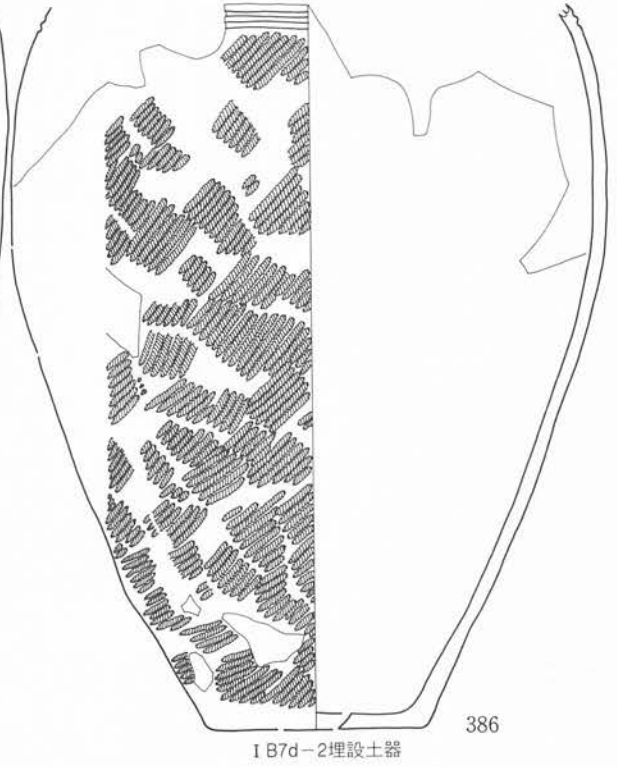


第74図 遺構内出土遺物25 (I B区埋設土器)



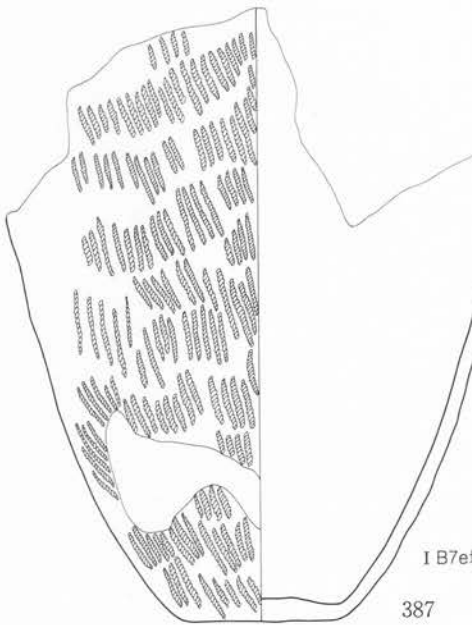
I B7d-1埋設土器

385



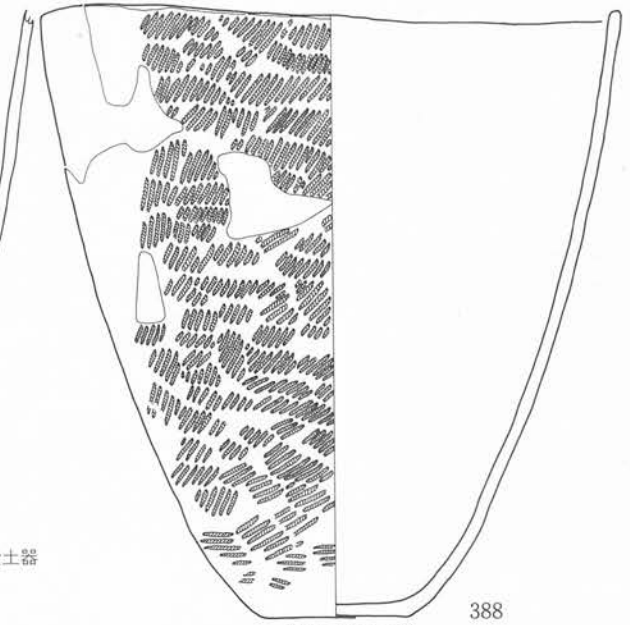
I B7d-2埋設土器

386



I B7e埋設土器

387

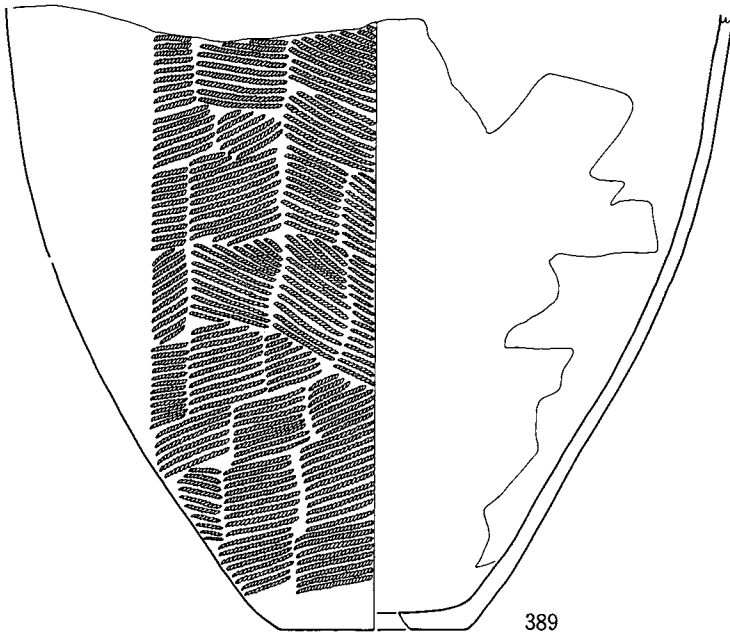


I B8c 埋設土器

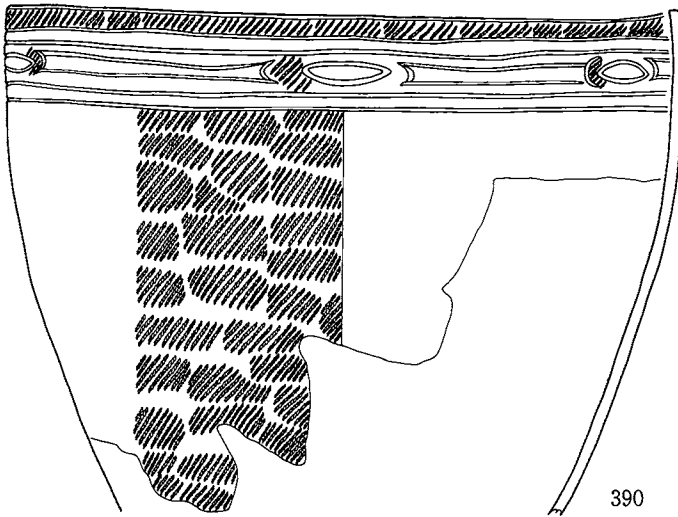
388

S = 1/4

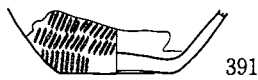
第75図 遺構内出土遺物26 (I B区埋設土器)



I C7d埋設土器

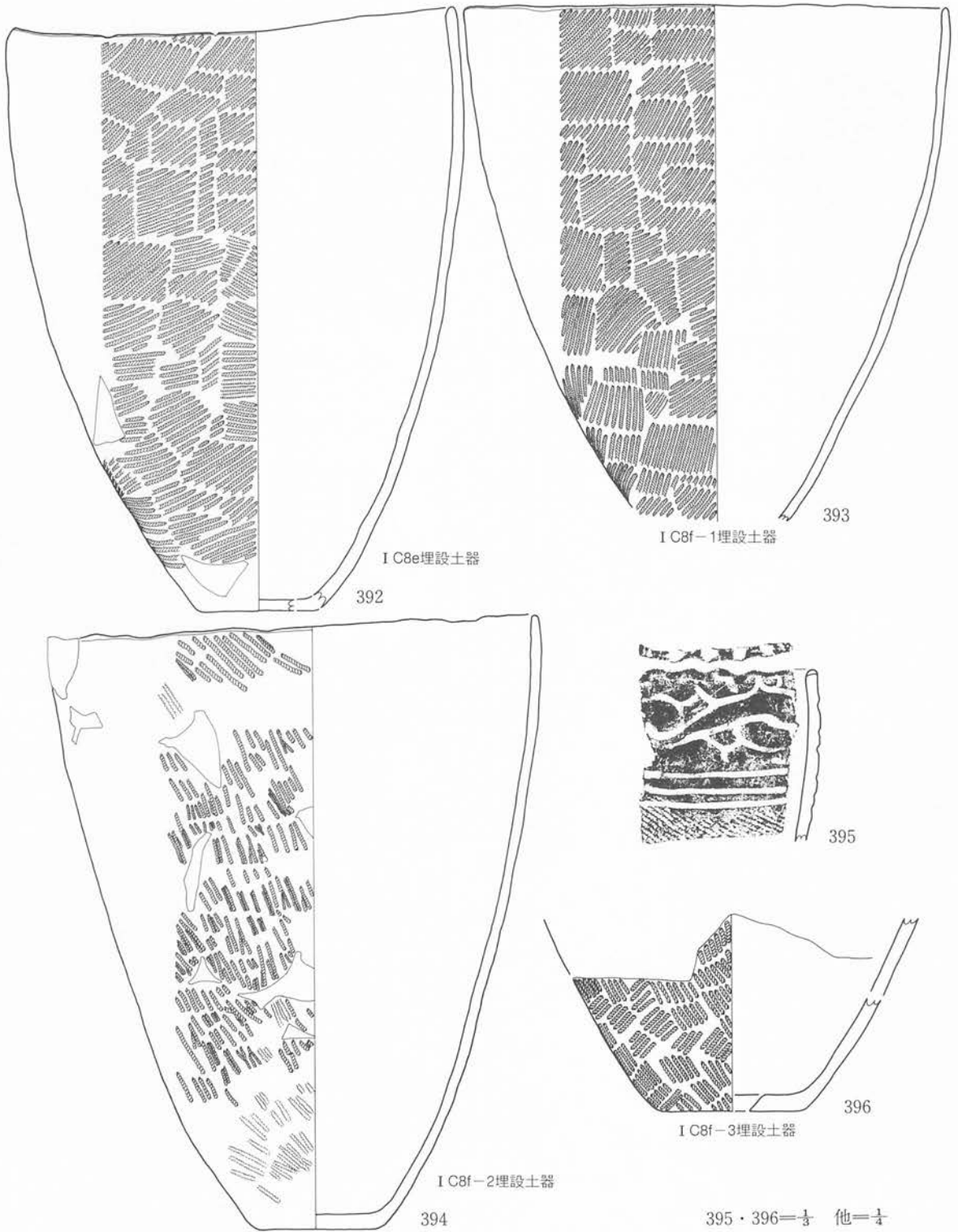


I C7e埋設土器

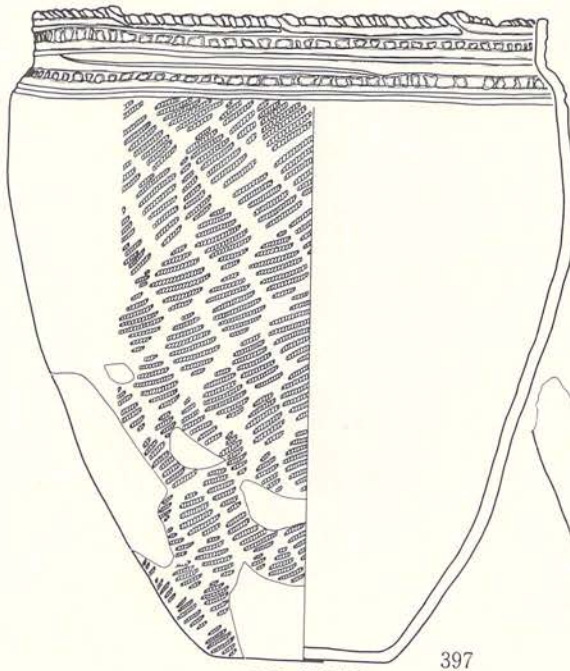


S = 1/4

第76図 遺構内出土遺物27 (I C区埋設土器)

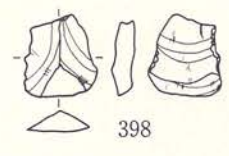


第77図 遺構内出土遺物28 (I C区埋設土器)

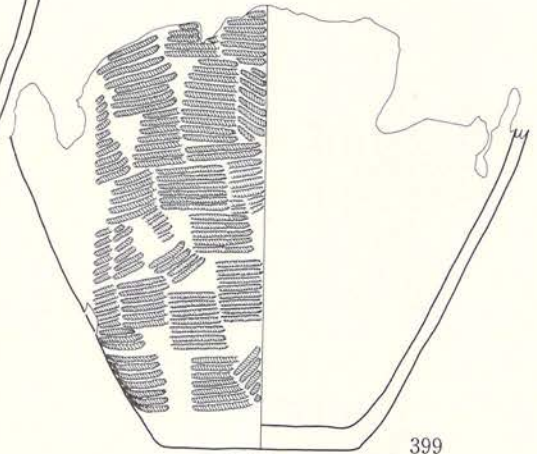


I C9e埋設土器

397

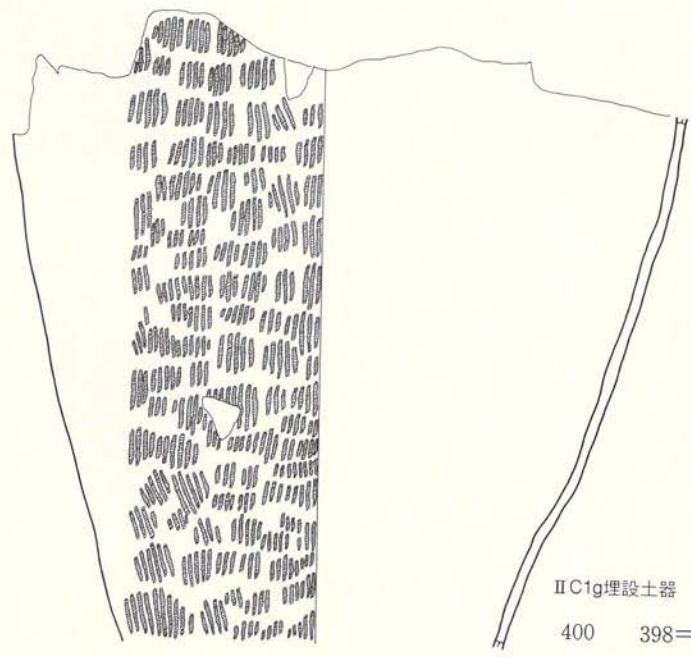


398



II C0f埋設土器

399



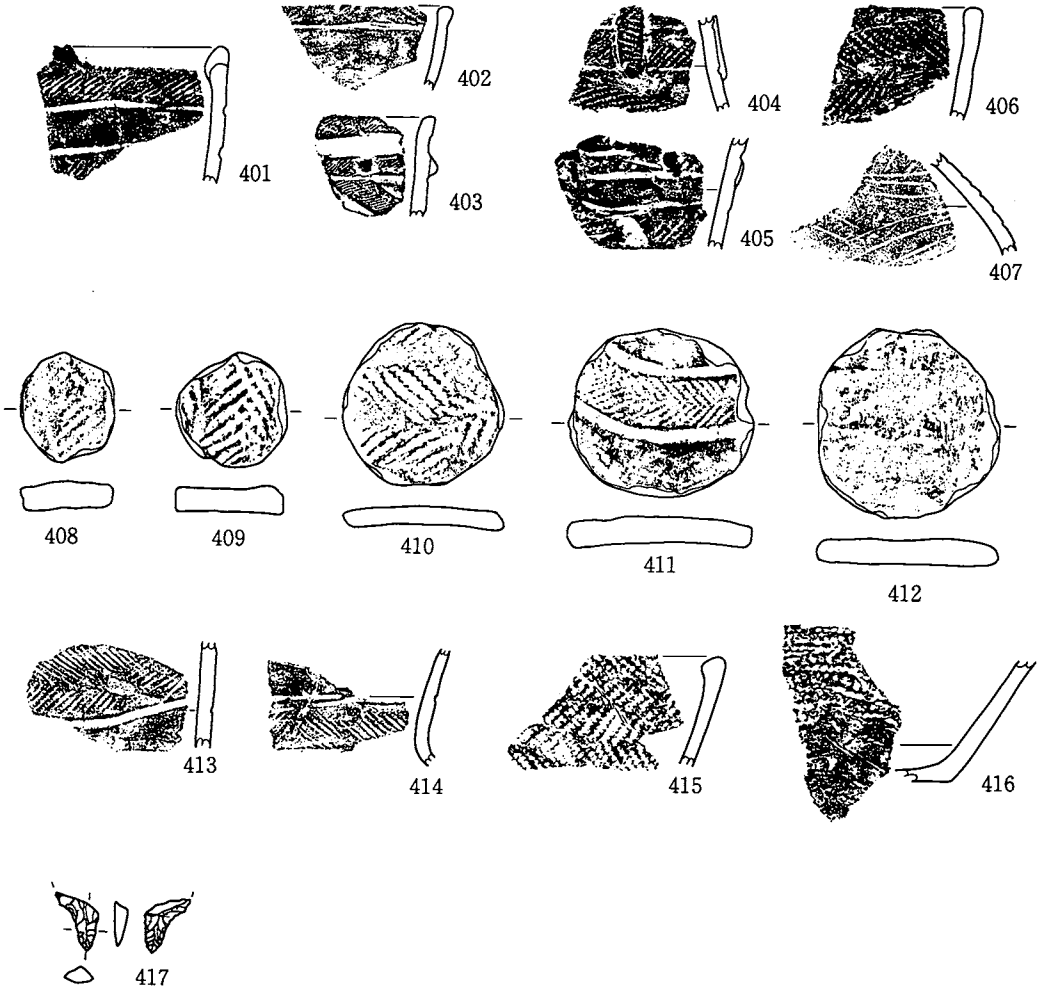
II C1g埋設土器

400

398 = $\frac{1}{2}$

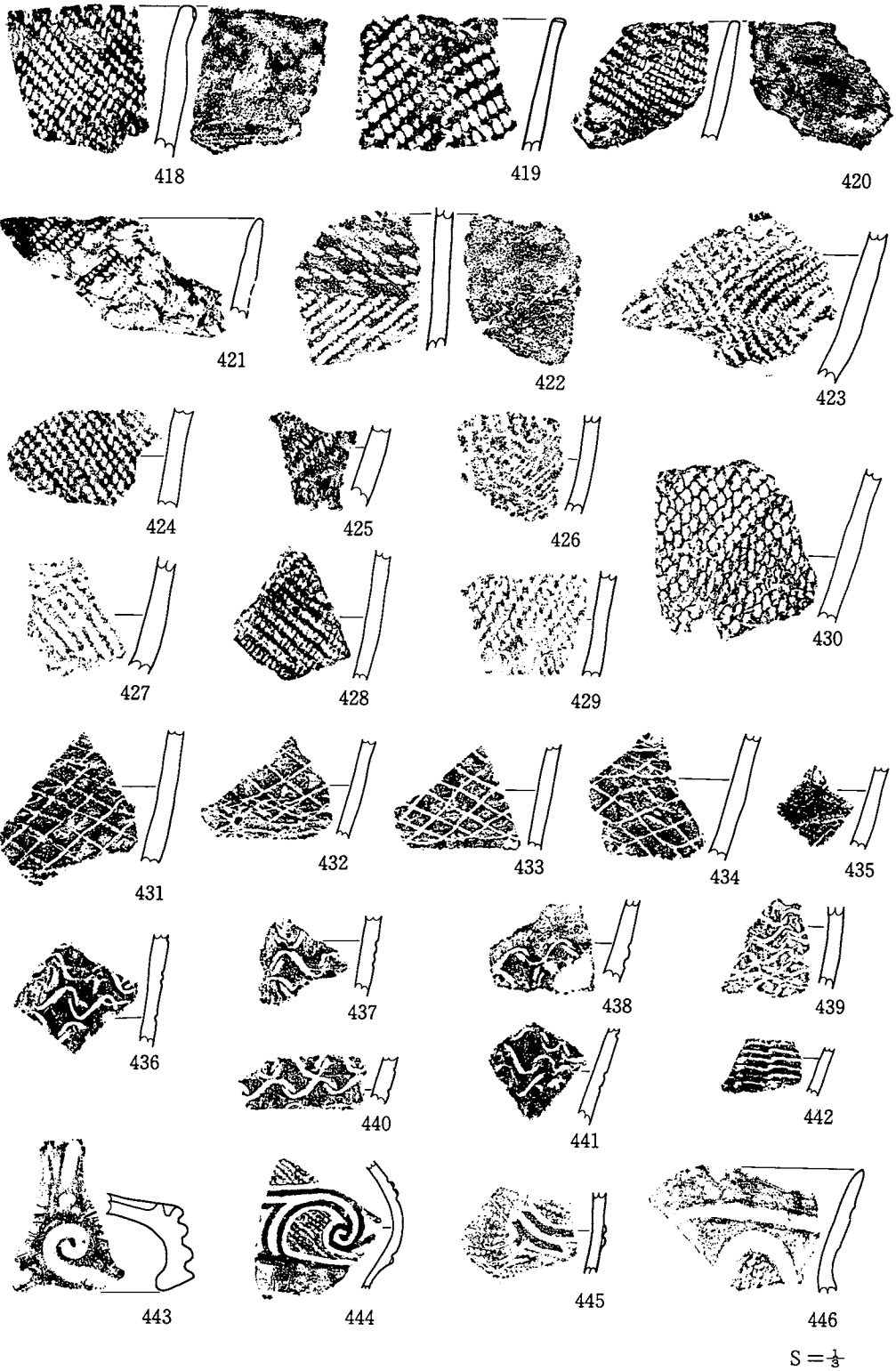
他 = $\frac{1}{4}$

第78図 遺構内出土遺物29 (IC・IIC区埋設土器)

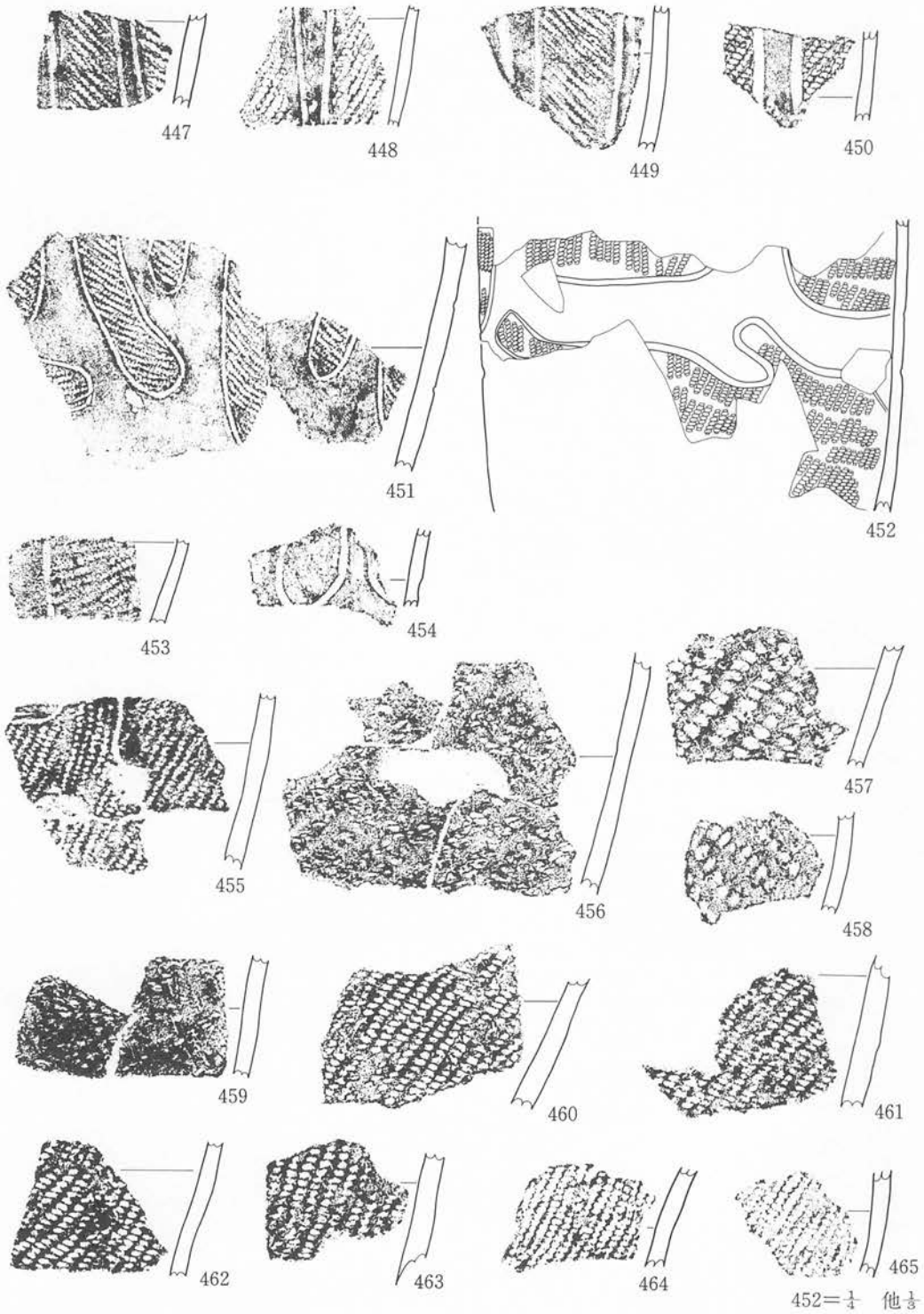


408~412・417=1/2 他=1/3

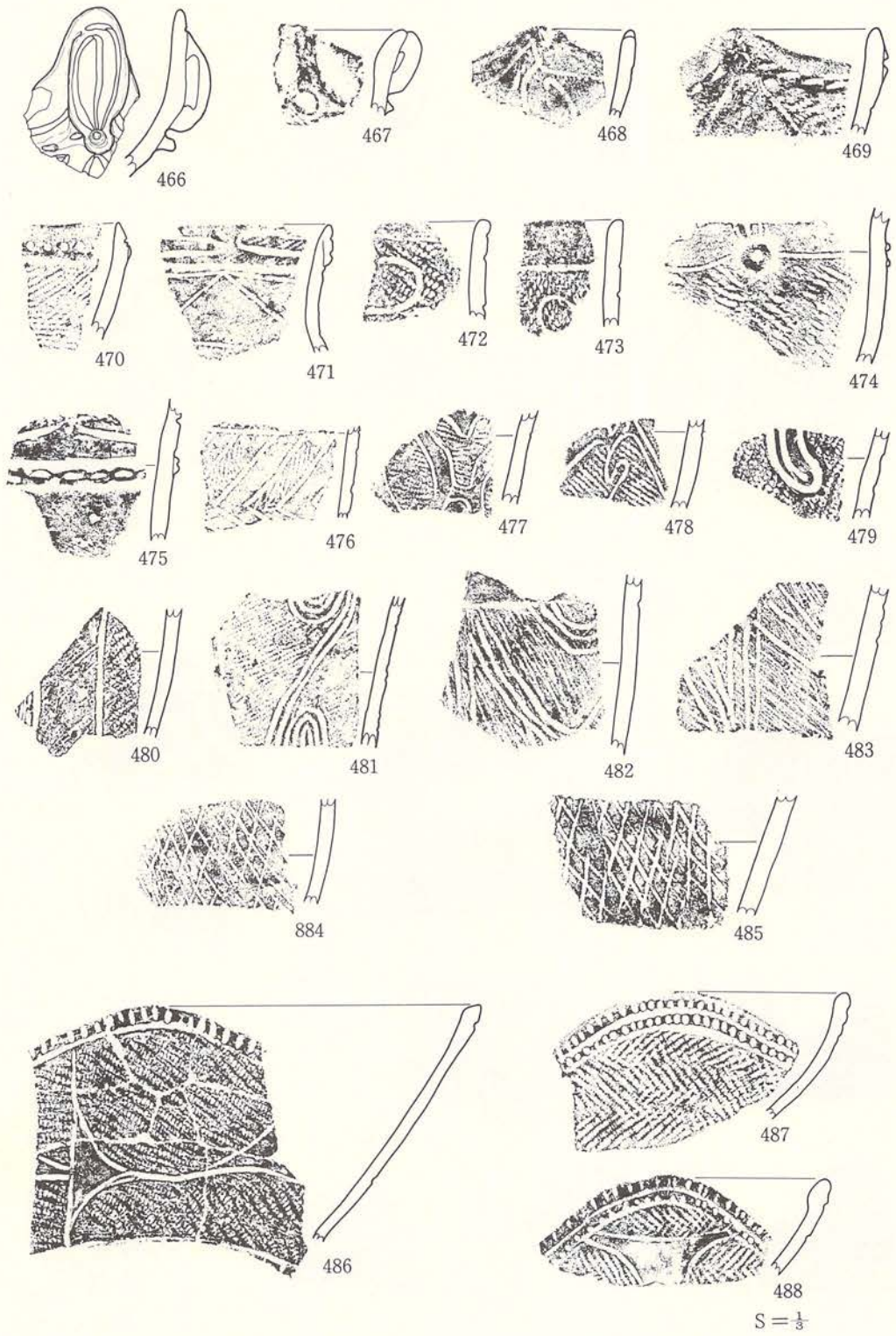
第79图 遺構内出土遺物30 (IA・IB区配石遺構)



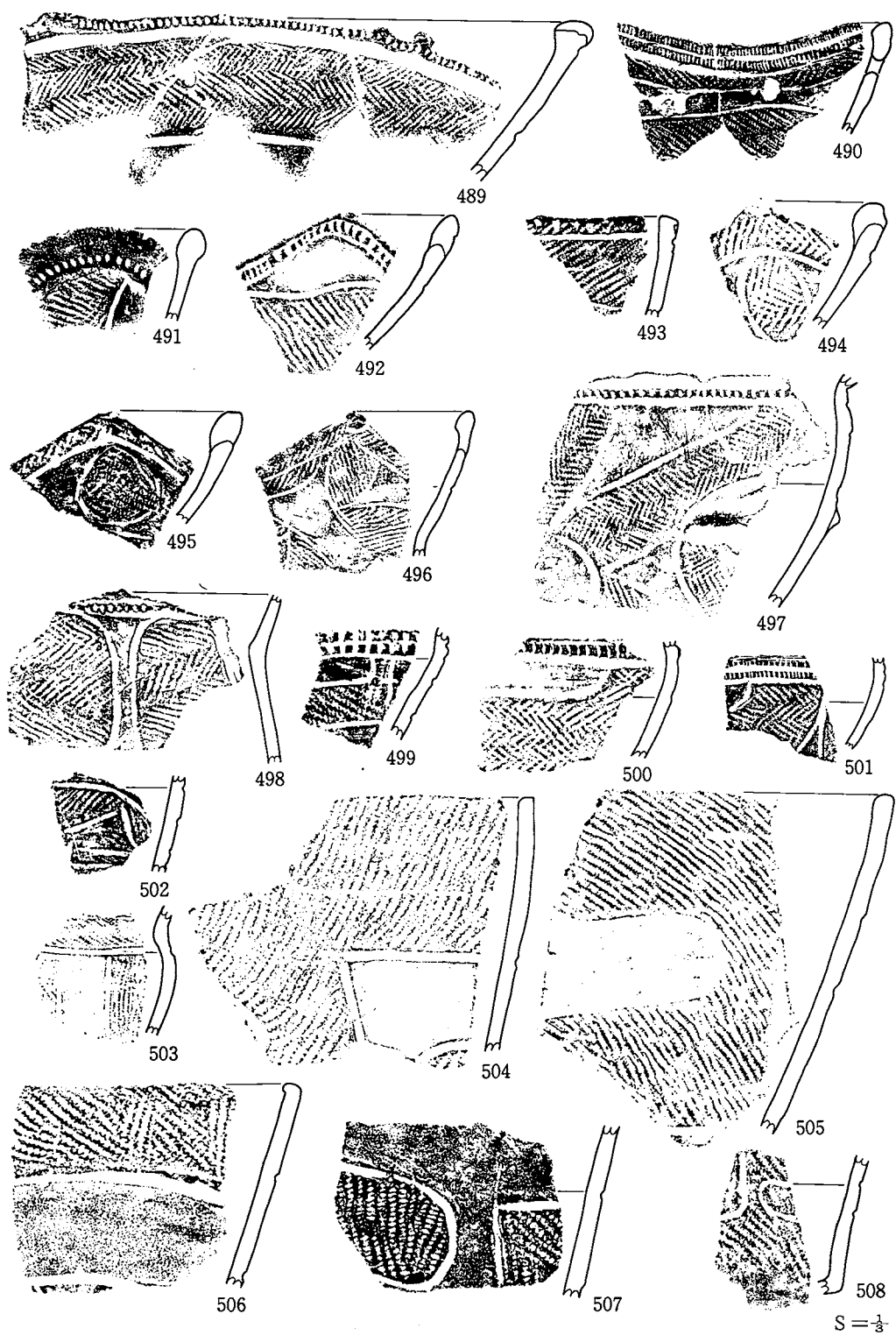
第80圖 遺物包含層出土遺物（土器） 1



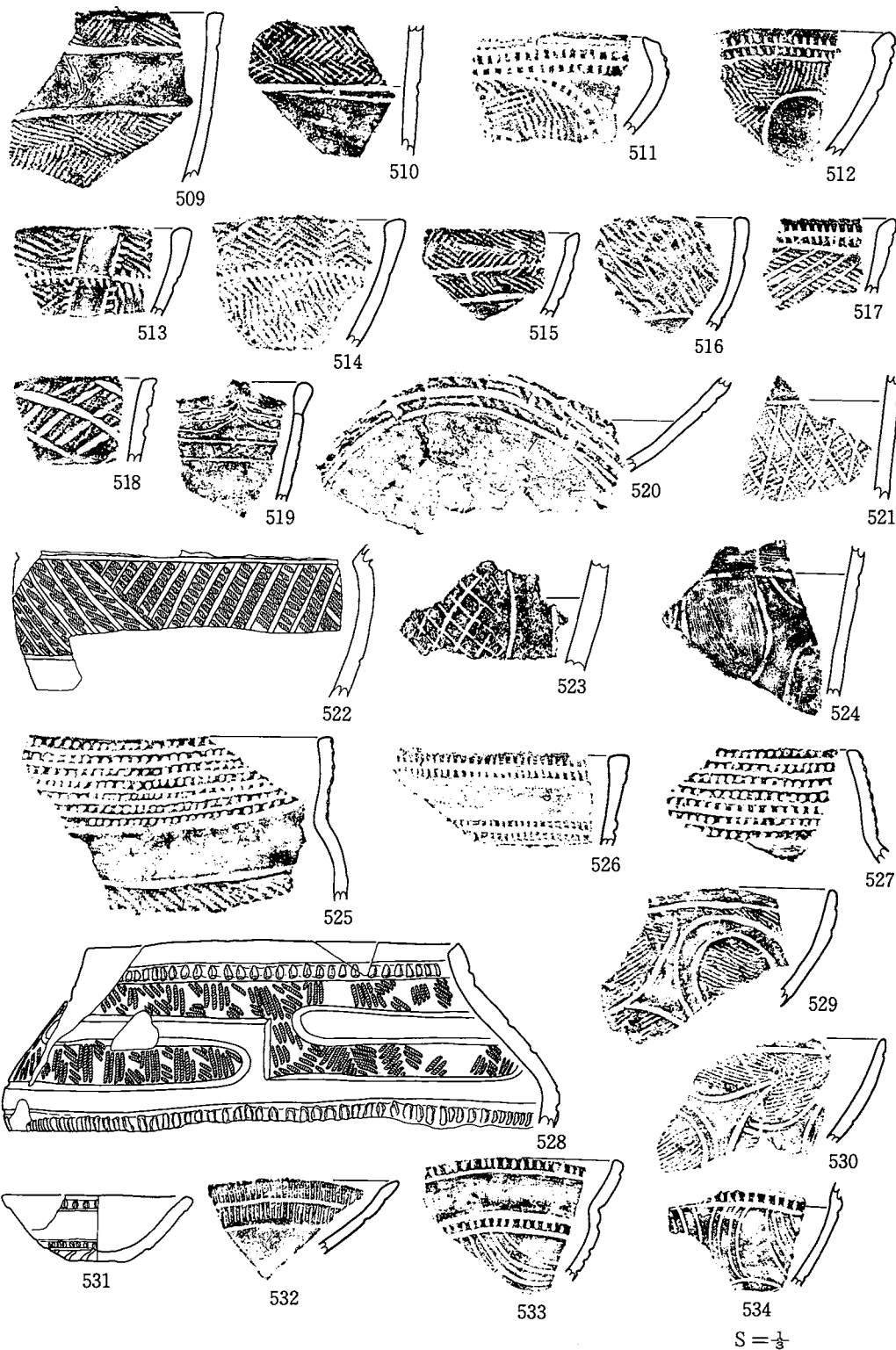
第81図 遺物包含層出土遺物（土器）2



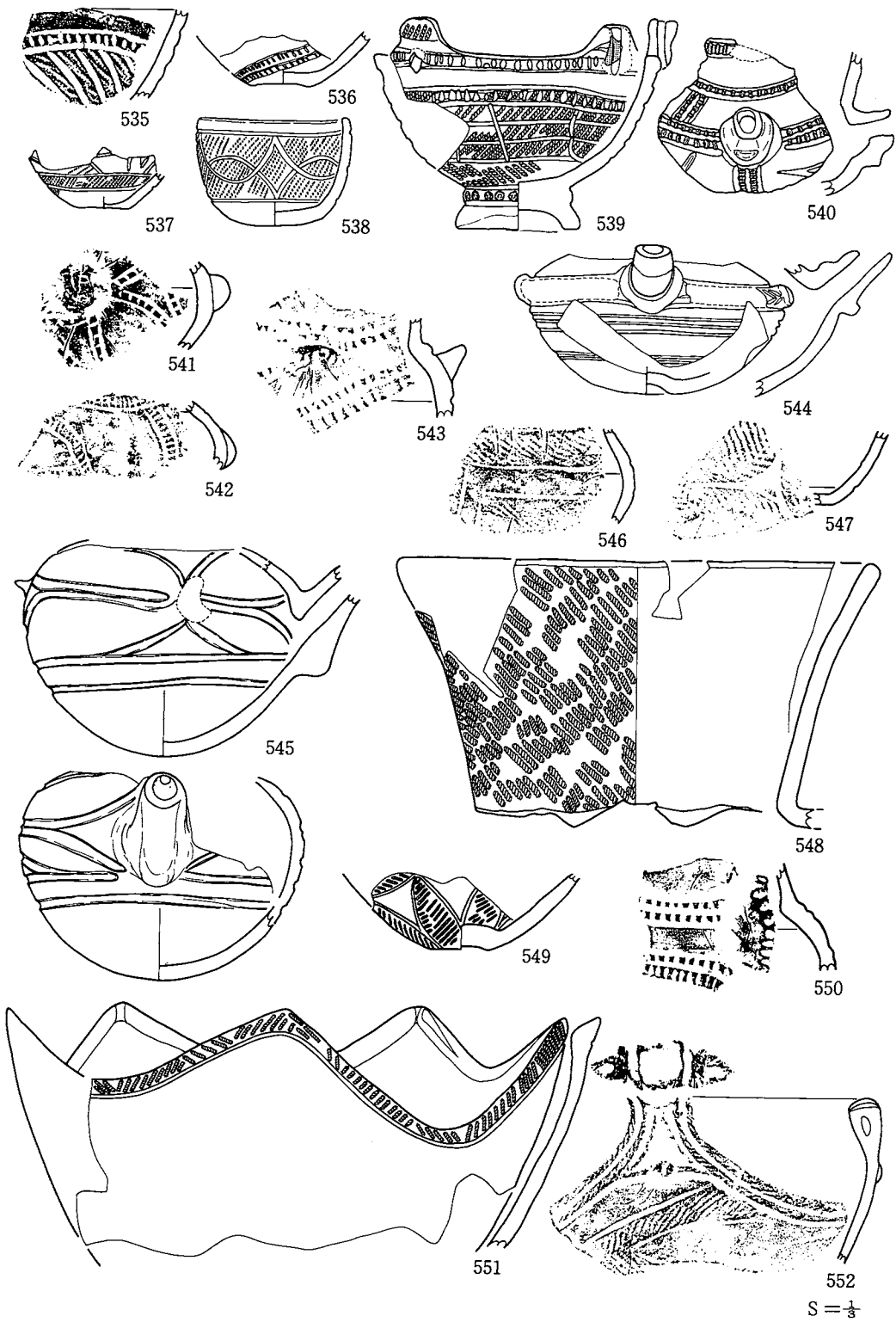
第82圖 遺物包含層出土遺物（土器）3



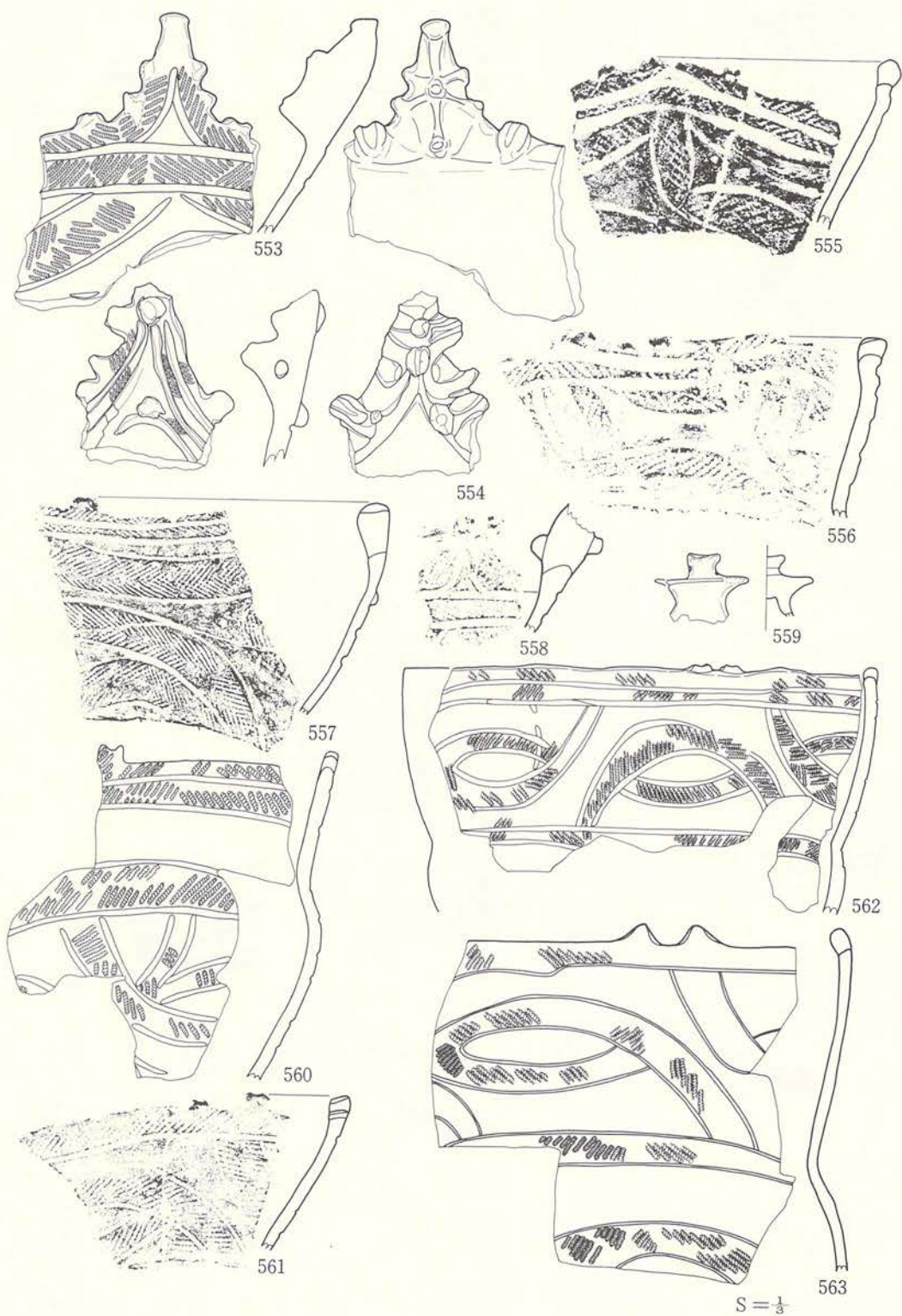
第83图 遺物包含層出土遺物（土器）4



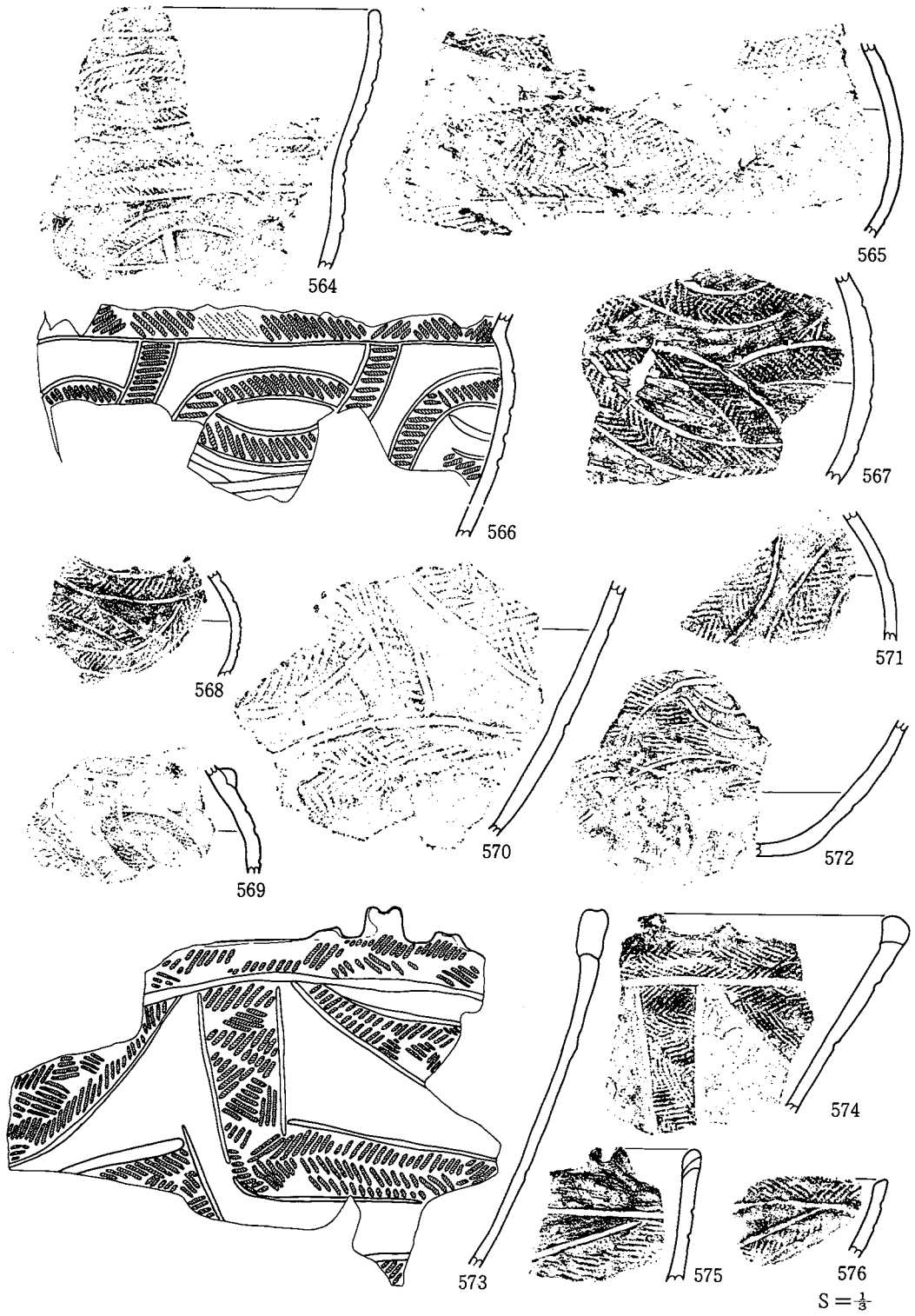
第84图 遺物包含層出土遺物（土器）5



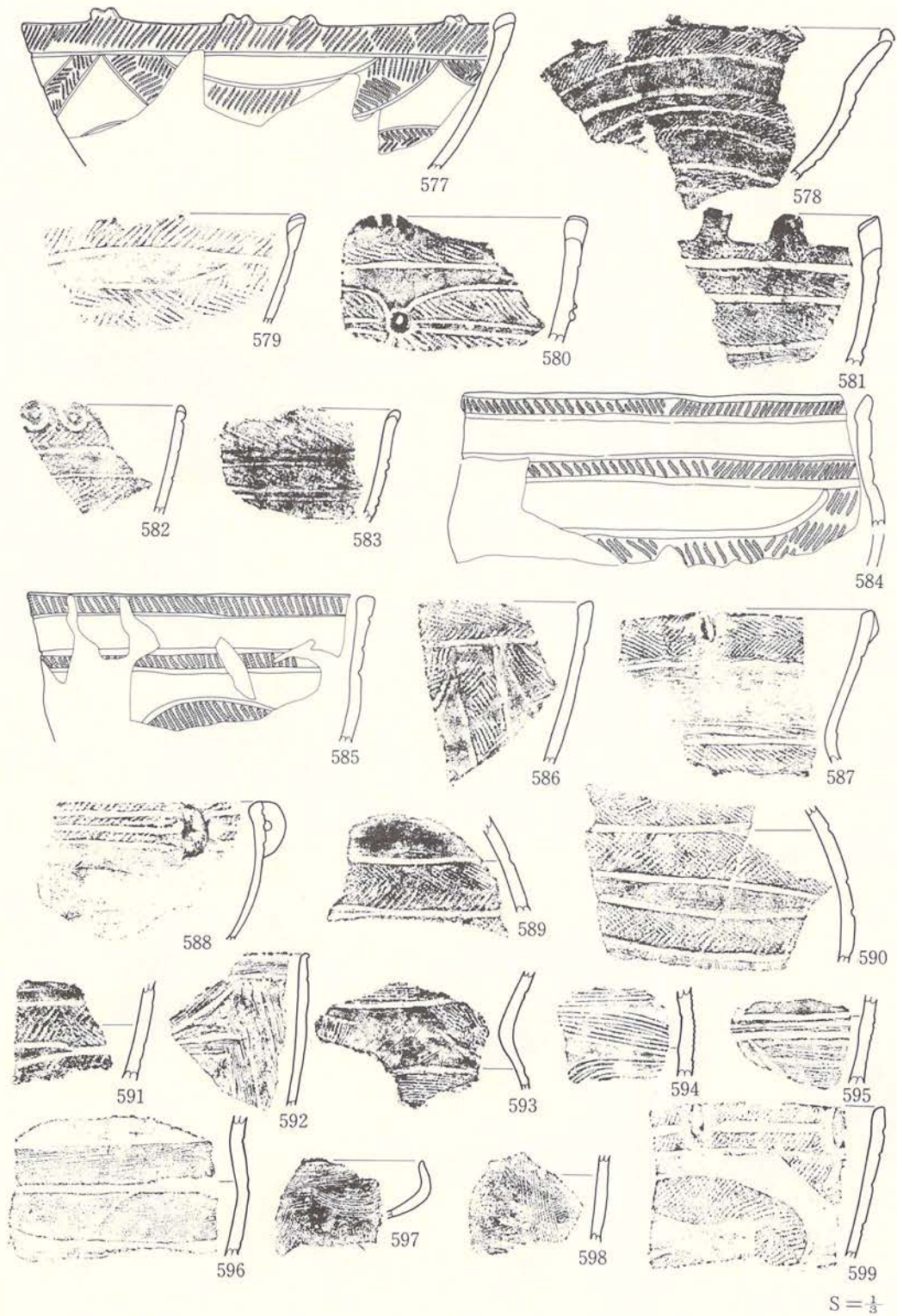
第85図 遺物包含層出土遺物（土器）6



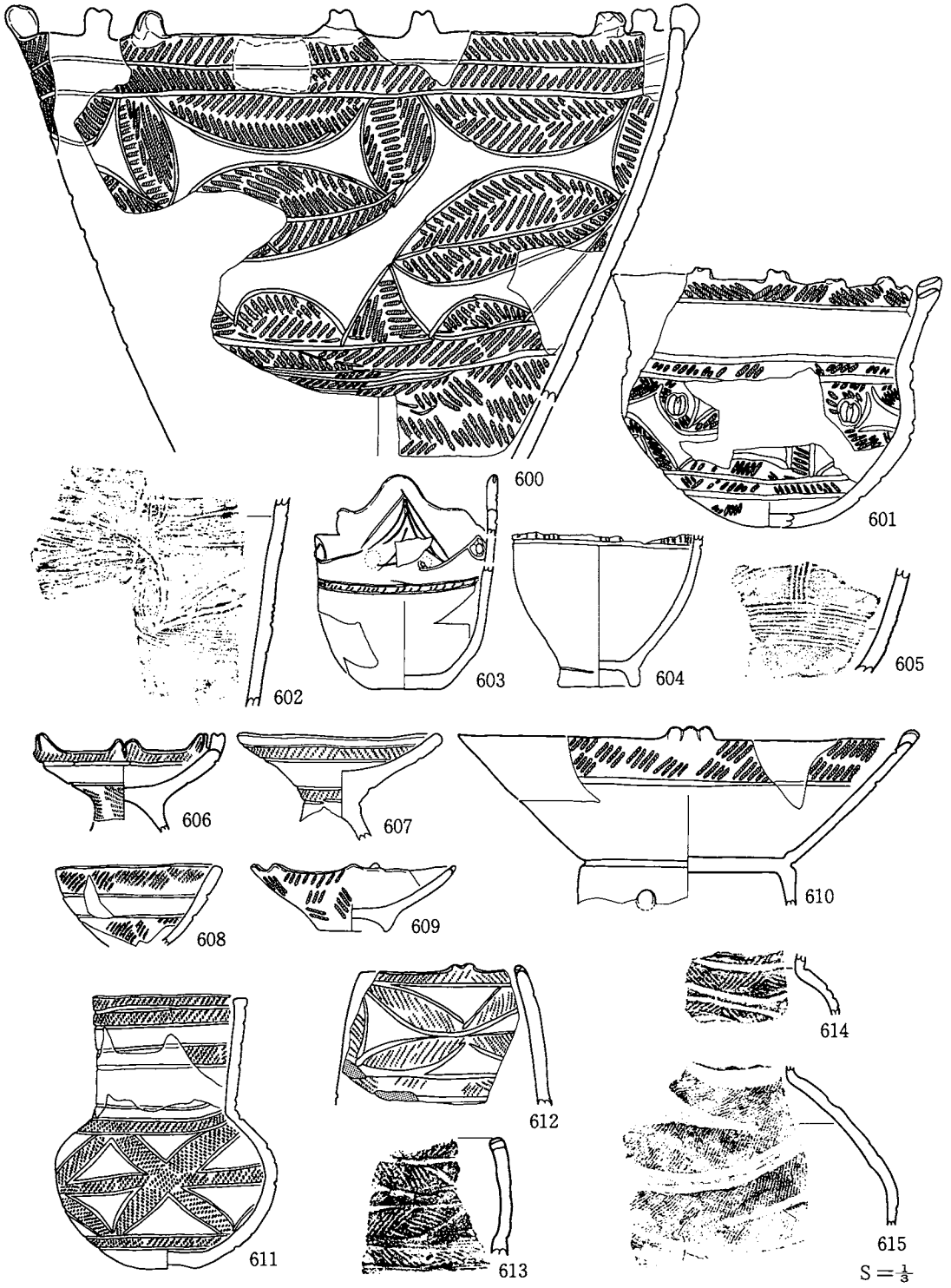
第86圖 遺物包含層出土遺物（土器）7



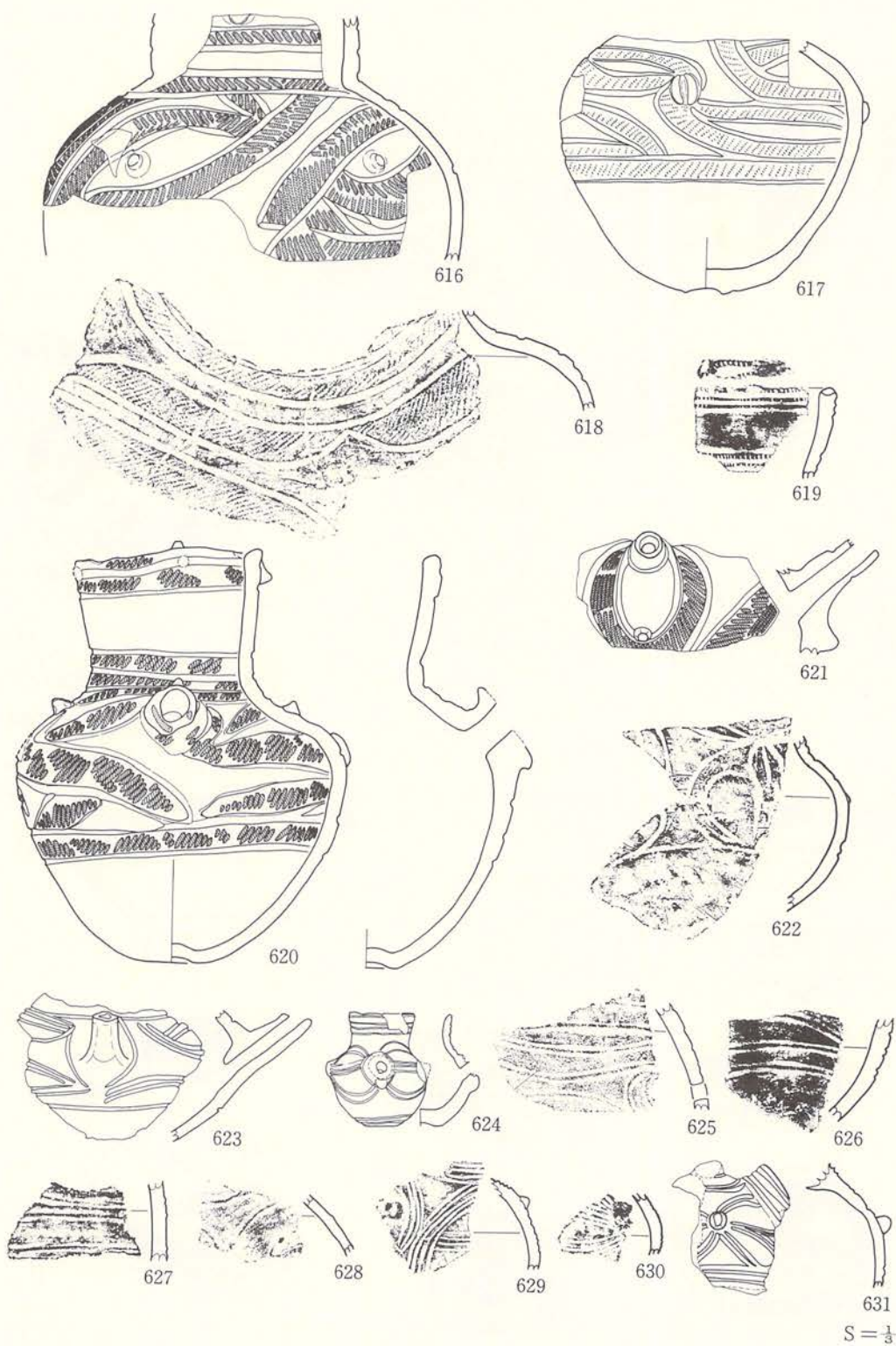
第87图 遺物包含層出土遺物（土器）8



第88圖 遺物包含層出土遺物（土器）9

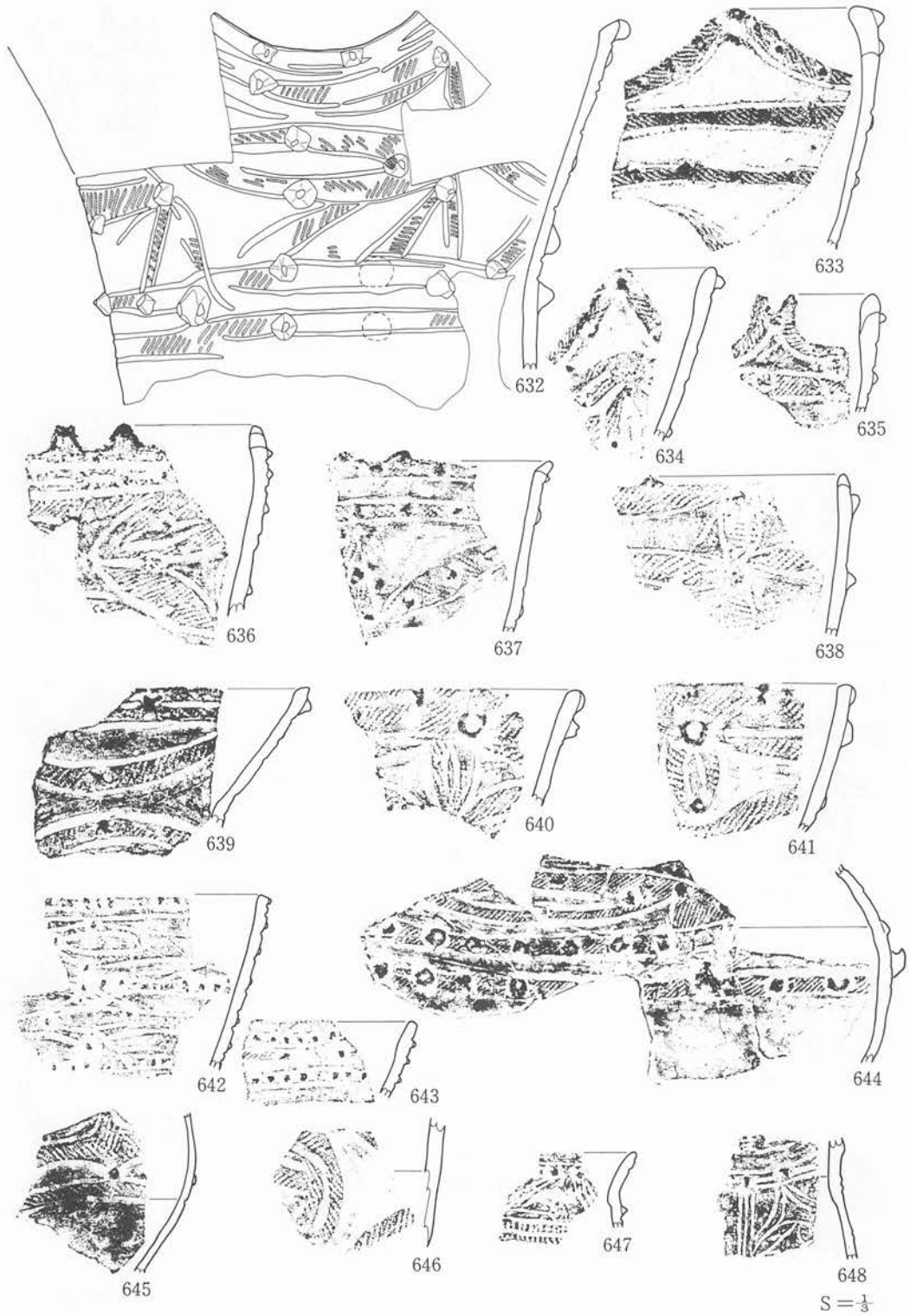


第89圖 遺物包含層出土遺物（土器）10



S = $\frac{1}{3}$

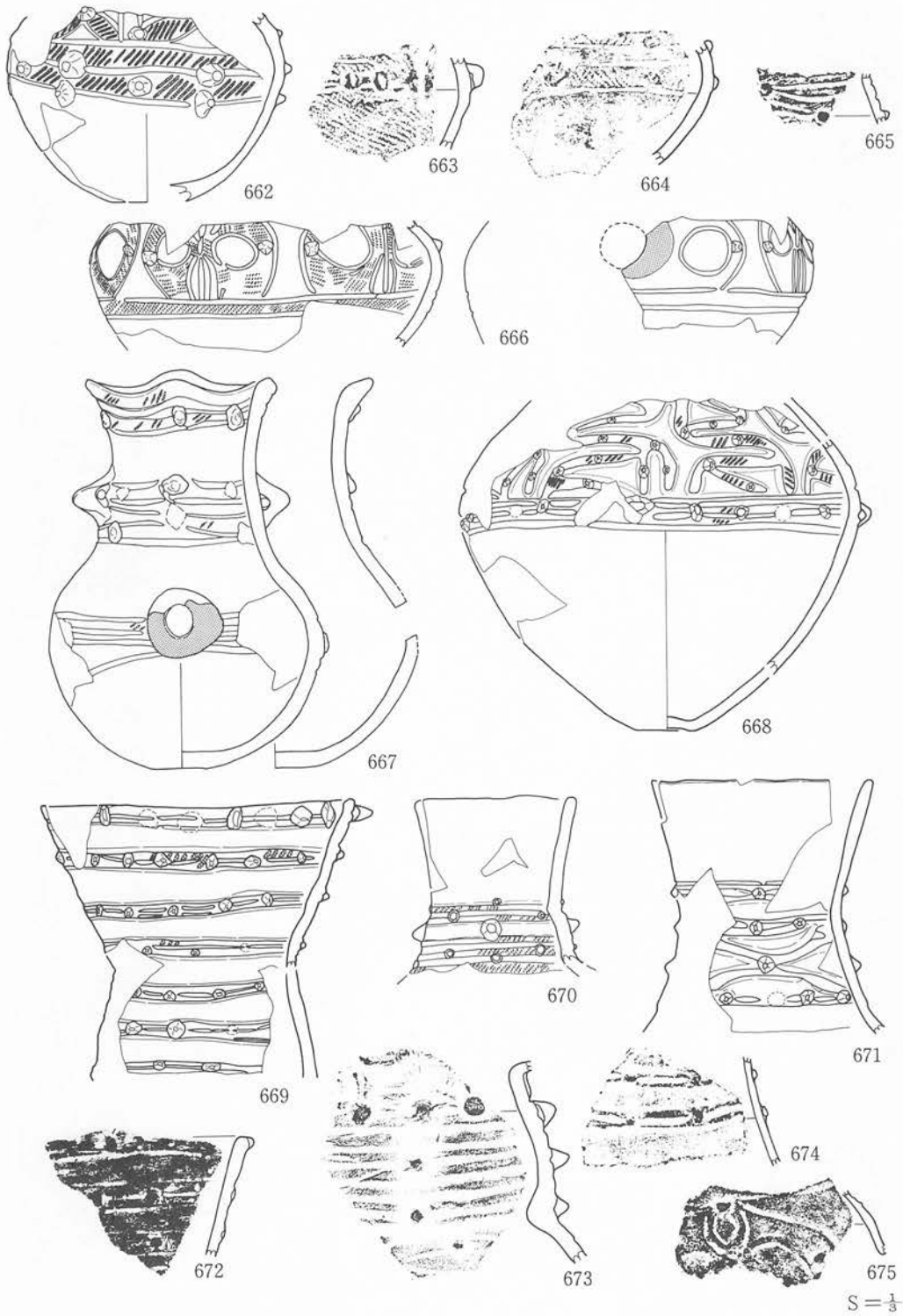
第90圖 遺物包含層出土遺物（土器）11



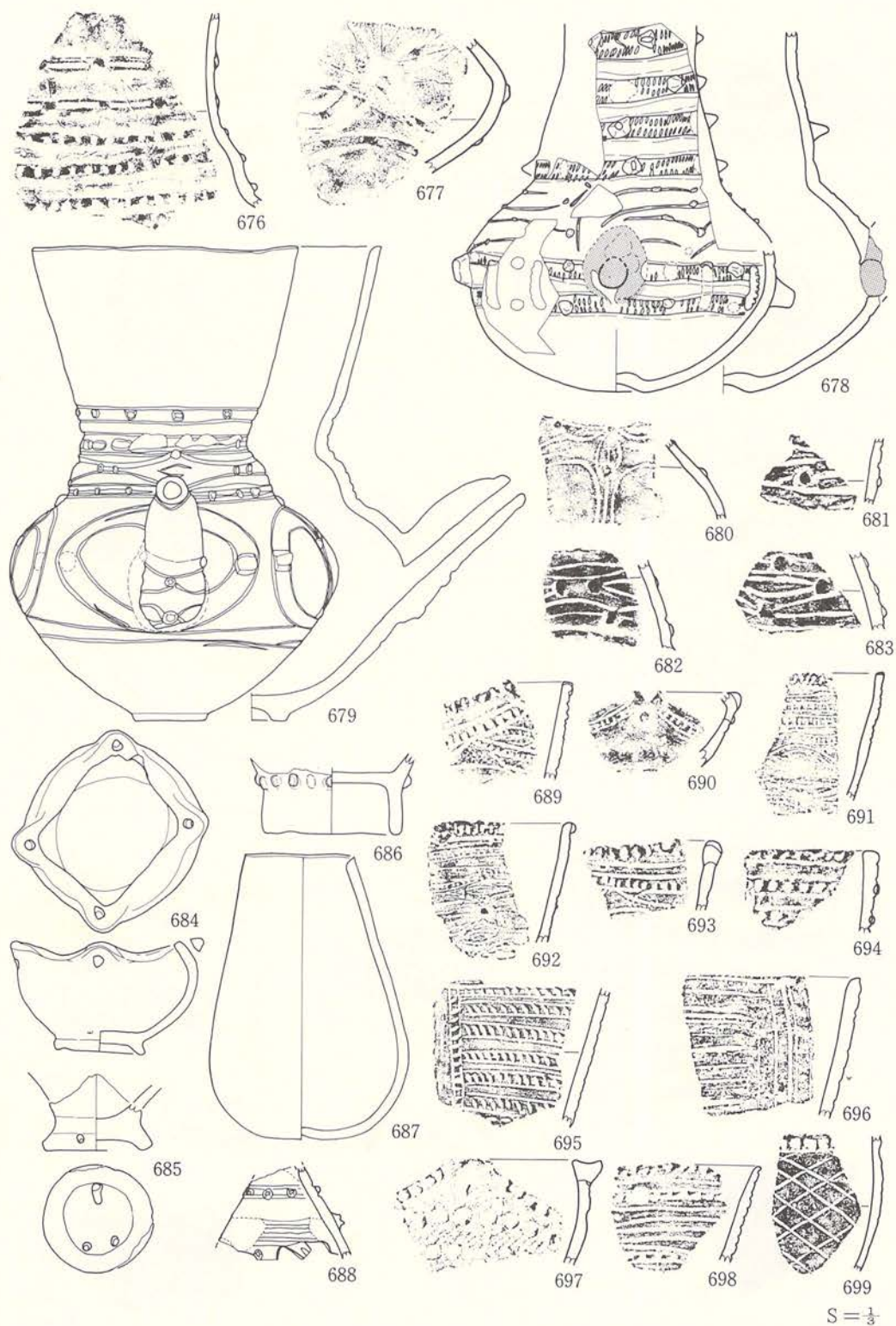
第91図 遺物包含層出土遺物（土器）12



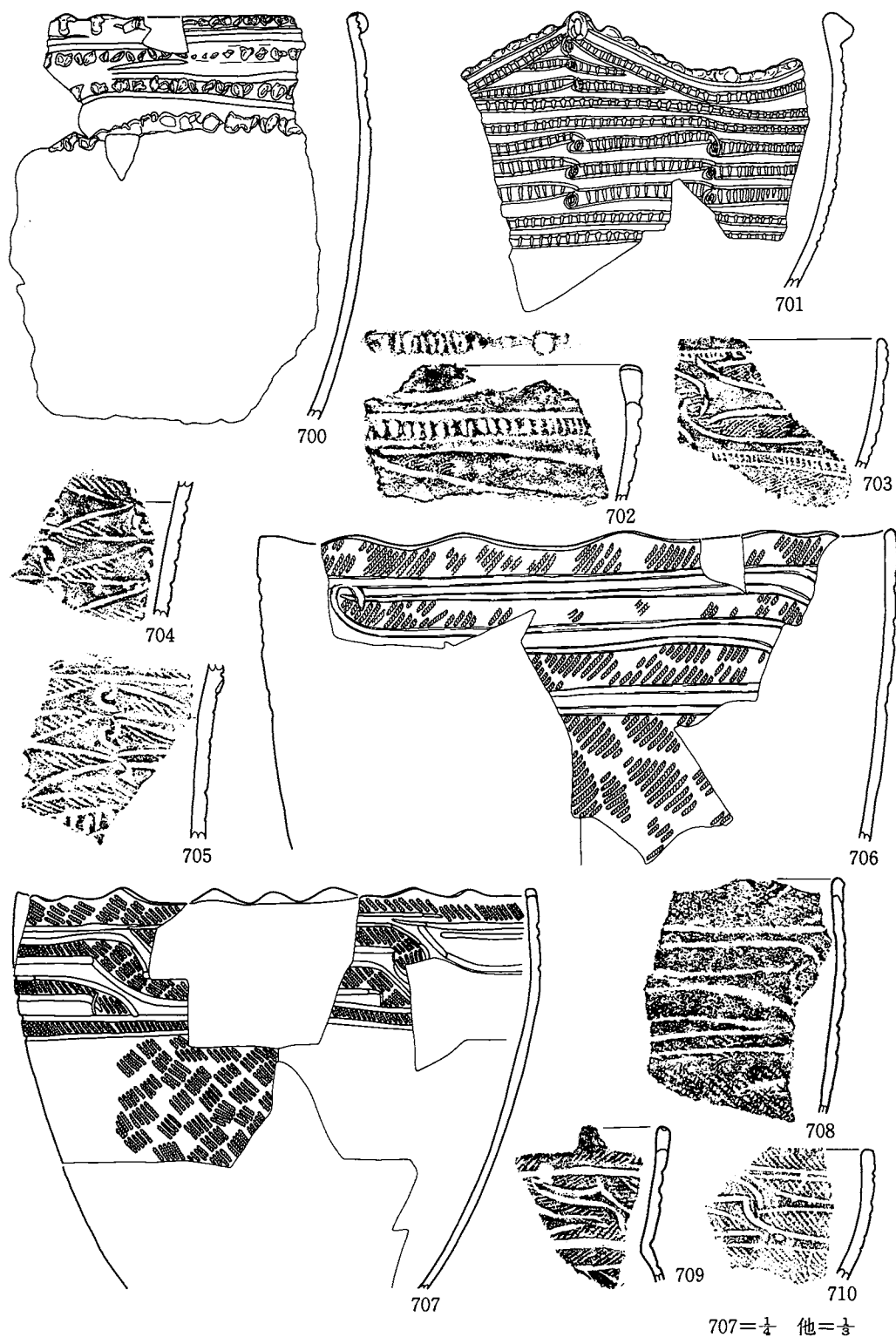
第92图 遺物包含層出土遺物（土器）13



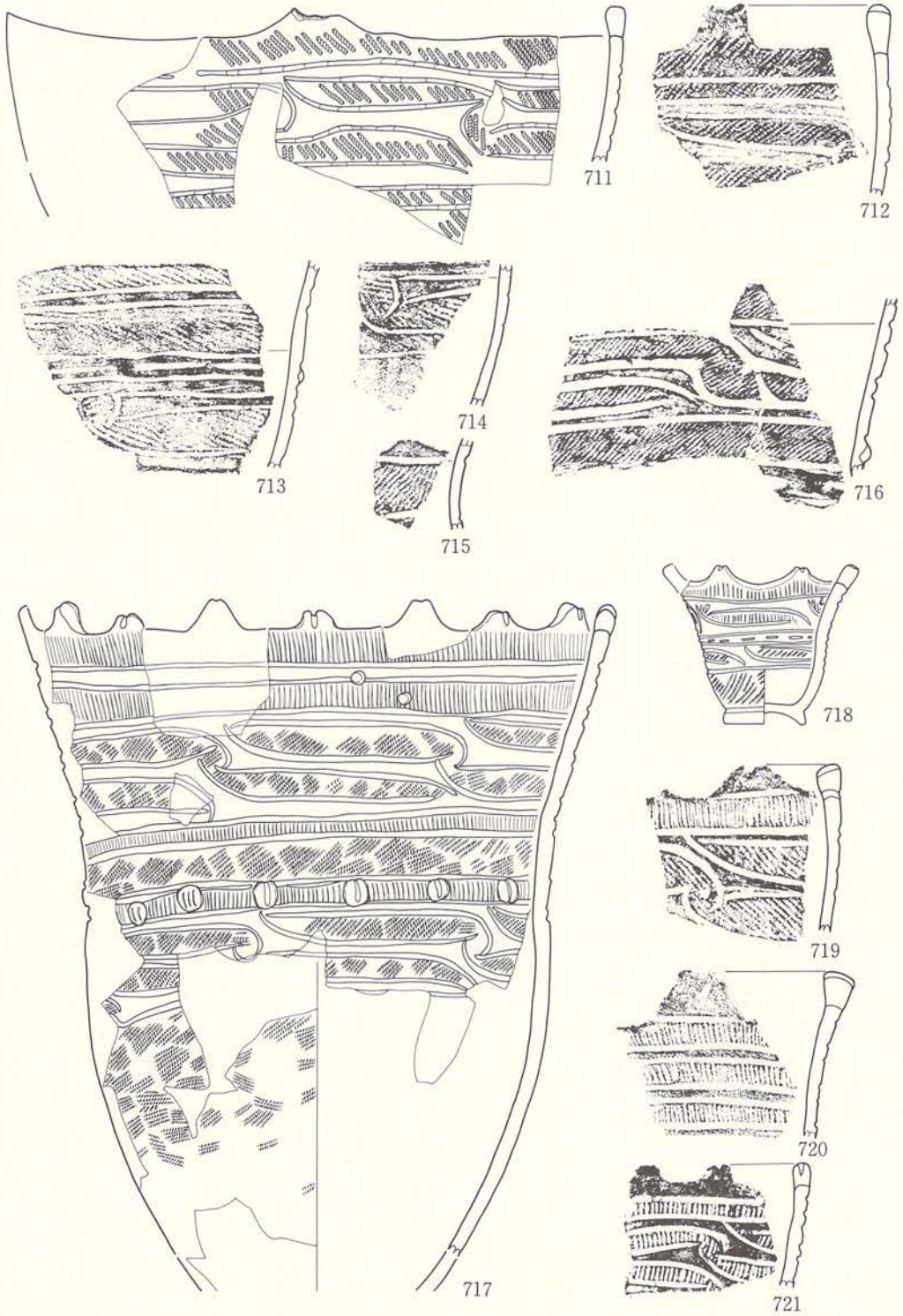
第93図 遺物包含層出土遺物（土器）14



第94圖 遺物包含層出土遺物（土器）15

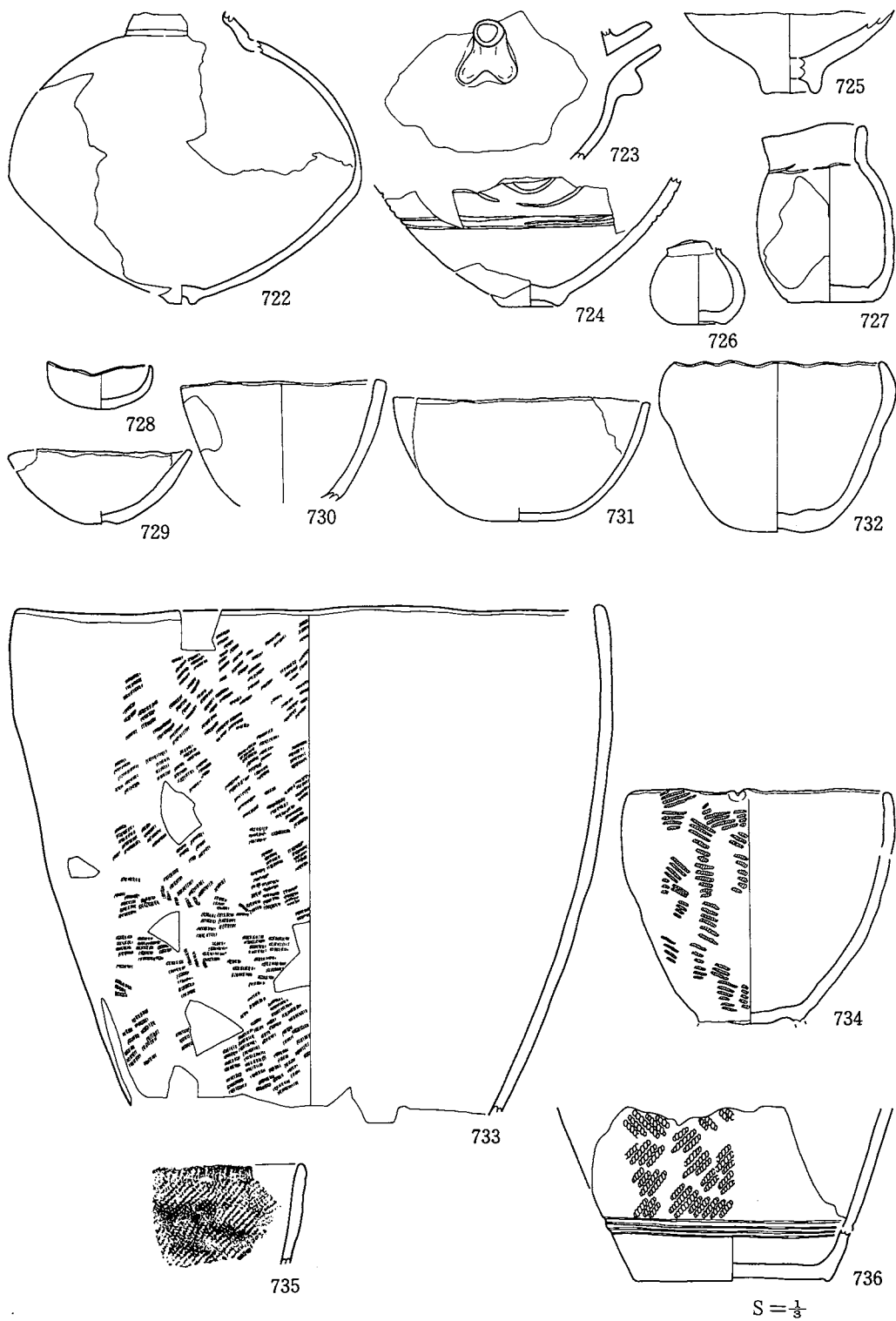


第95图 遺物包含層出土遺物（土器）16

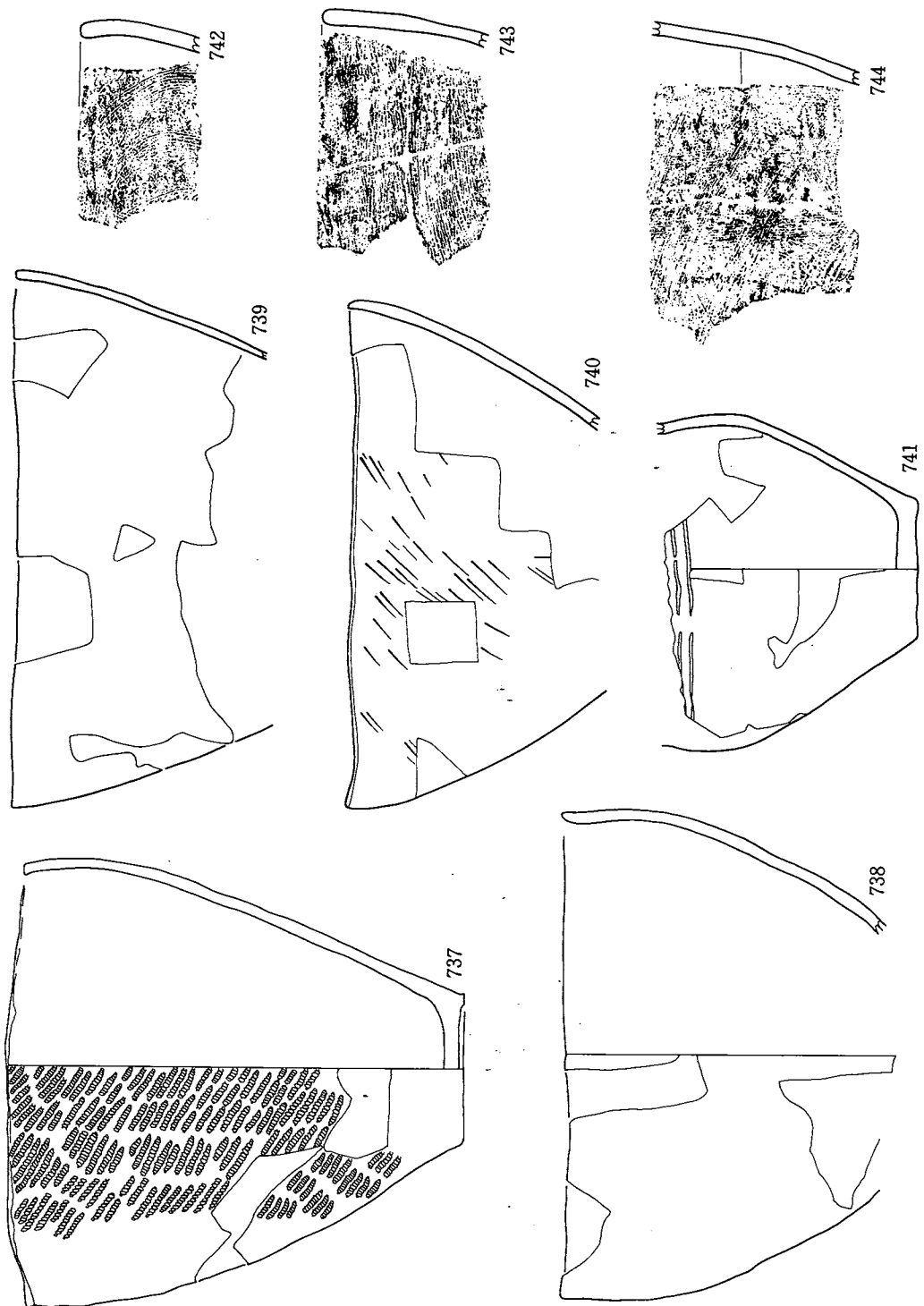


717=1/4 他=1/3

第96図 遺物包含層出土遺物（土器）17

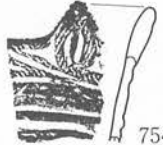
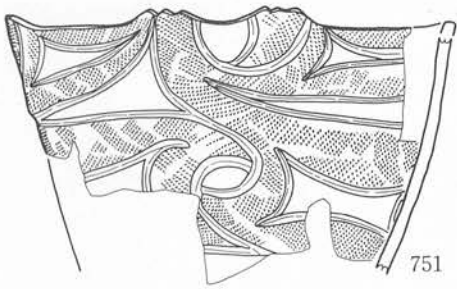
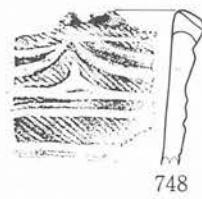
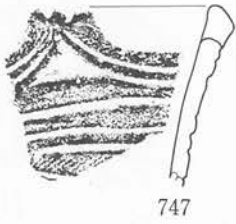
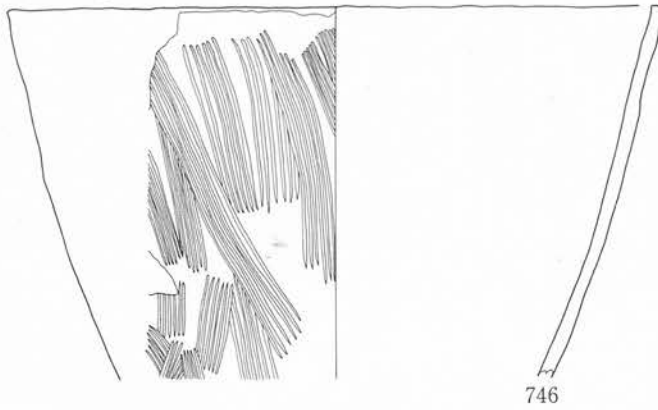
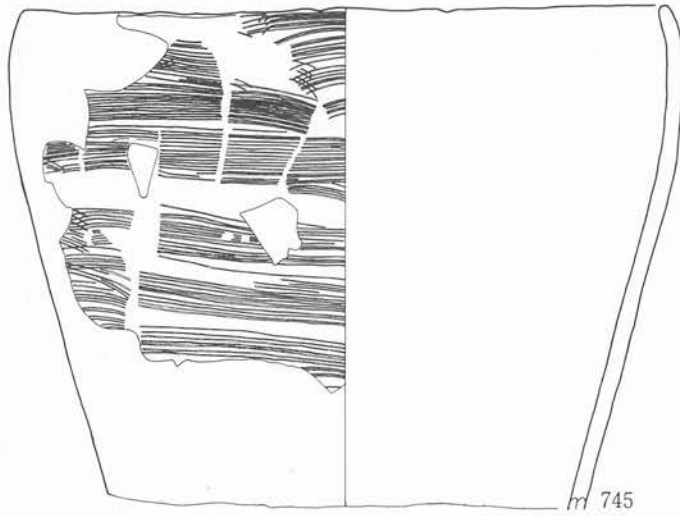


第97图 遺物包含層出土遺物（土器）18



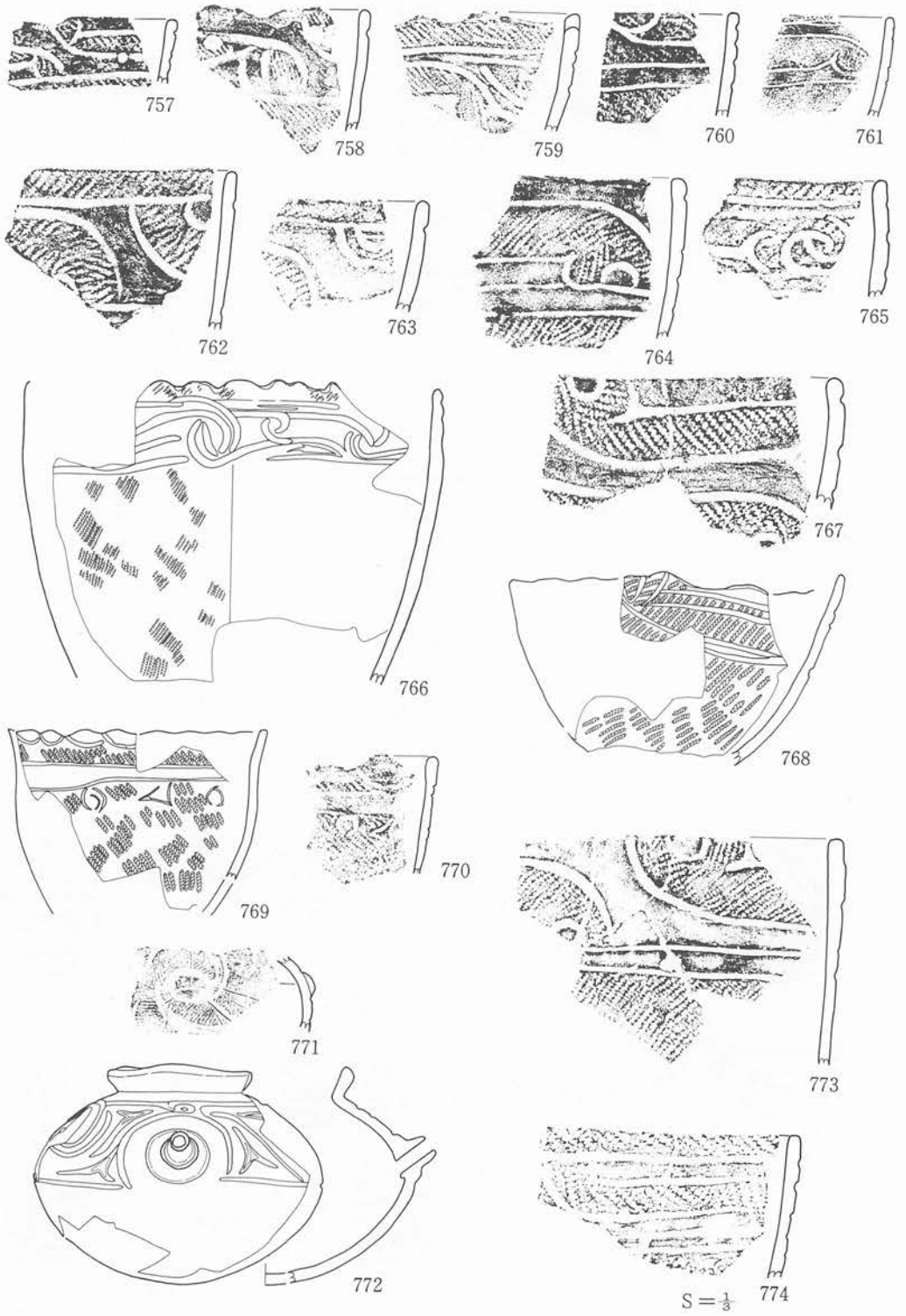
739・740=1/4 他=1/3

第98図 遺物包含層出土遺物(土器) 19

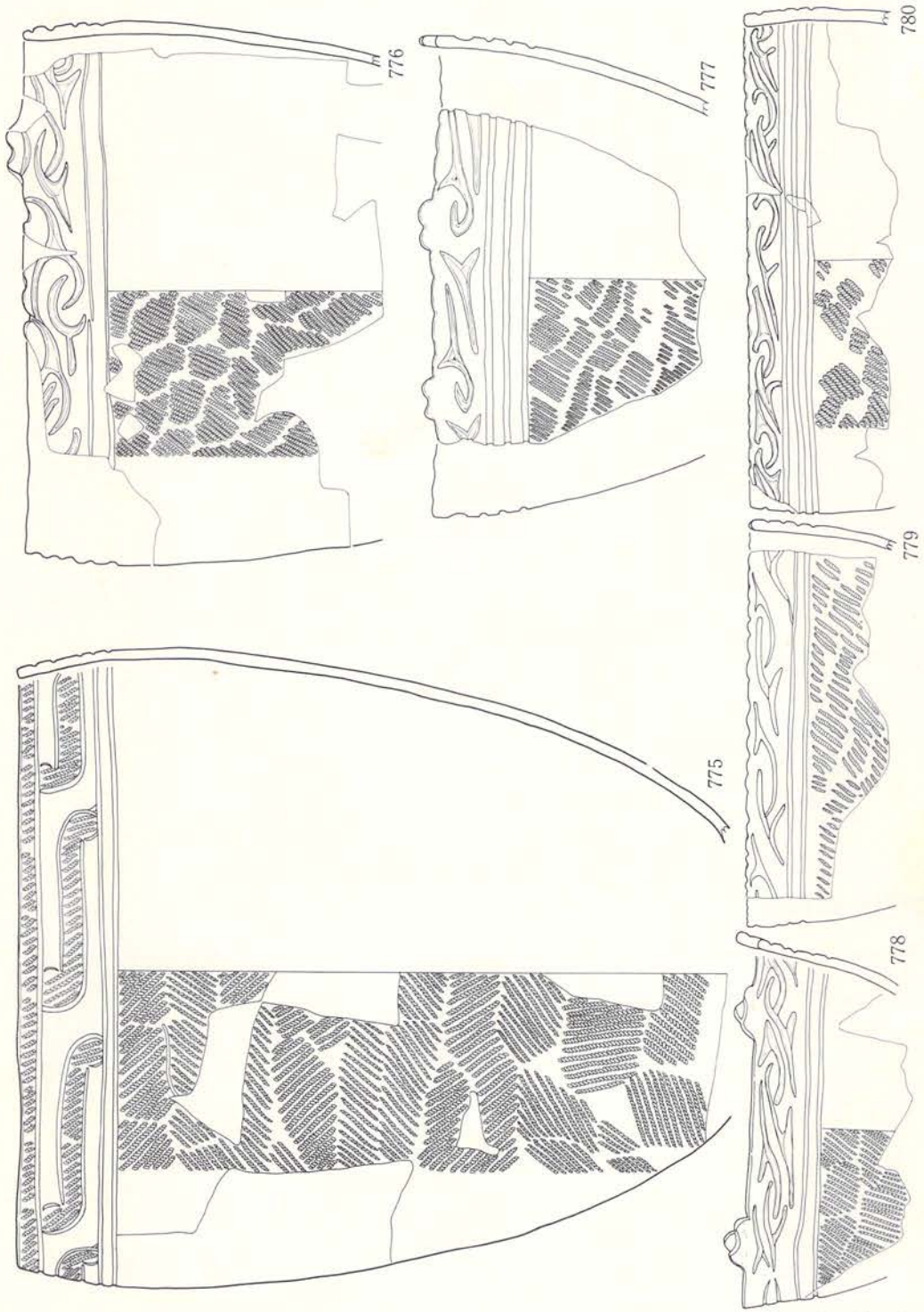


745・746=1/4 他=1/3

第99図 遺物包含層出土遺物（土器）20

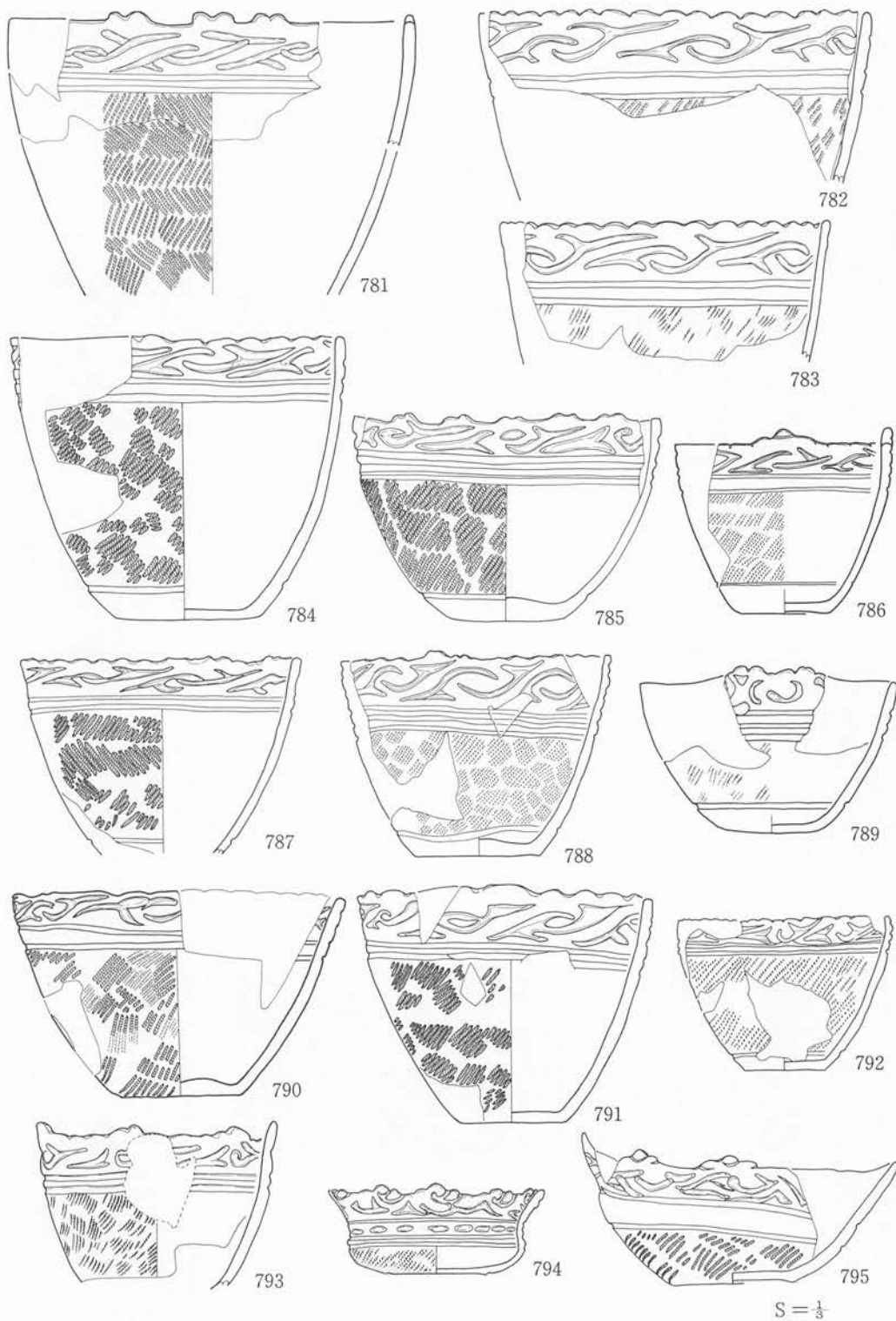


第100図 遺物包含層出土遺物（土器）21

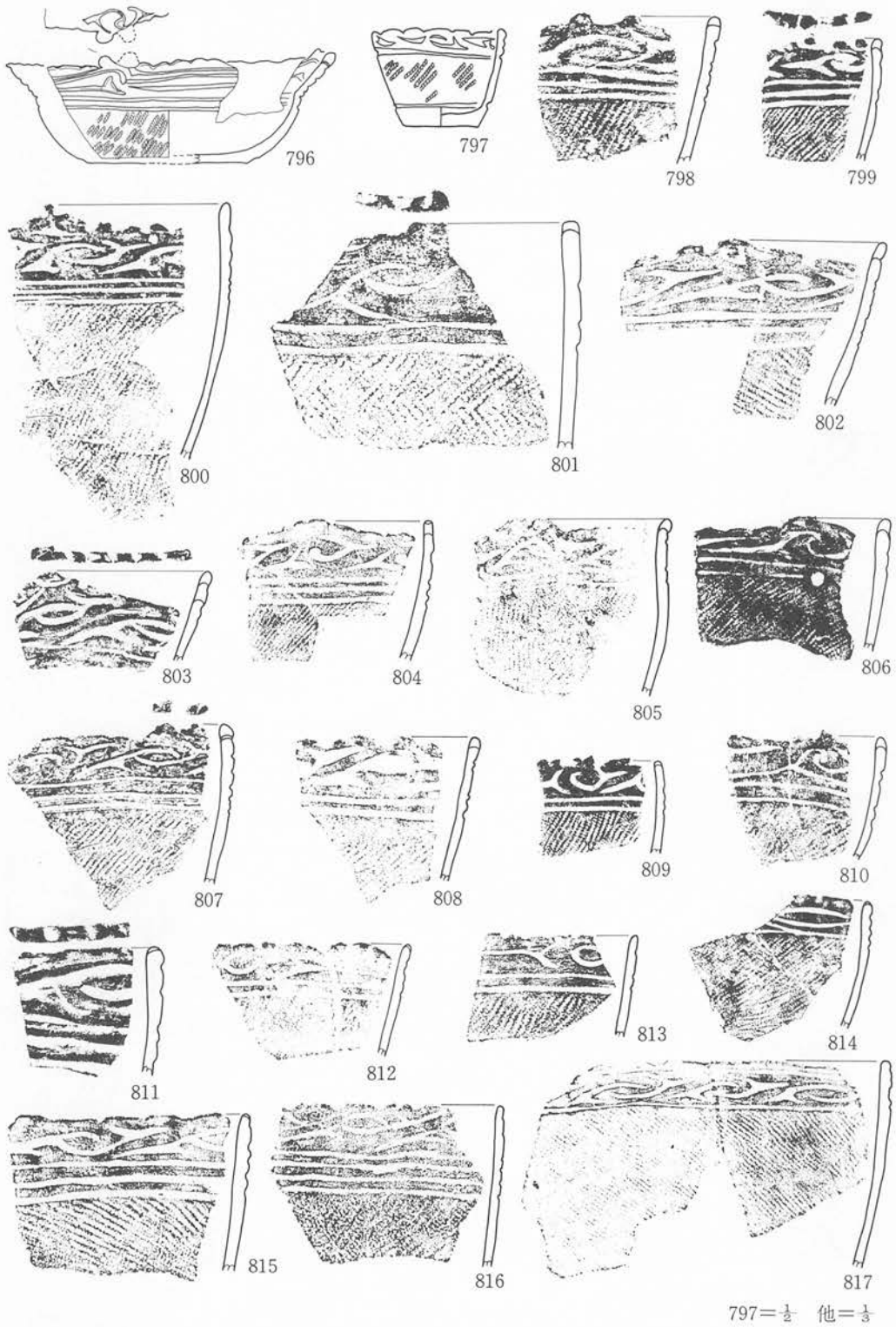


775~776・780=1/4 他=1/3

第101図 遺物包含層出土遺物（土器）22



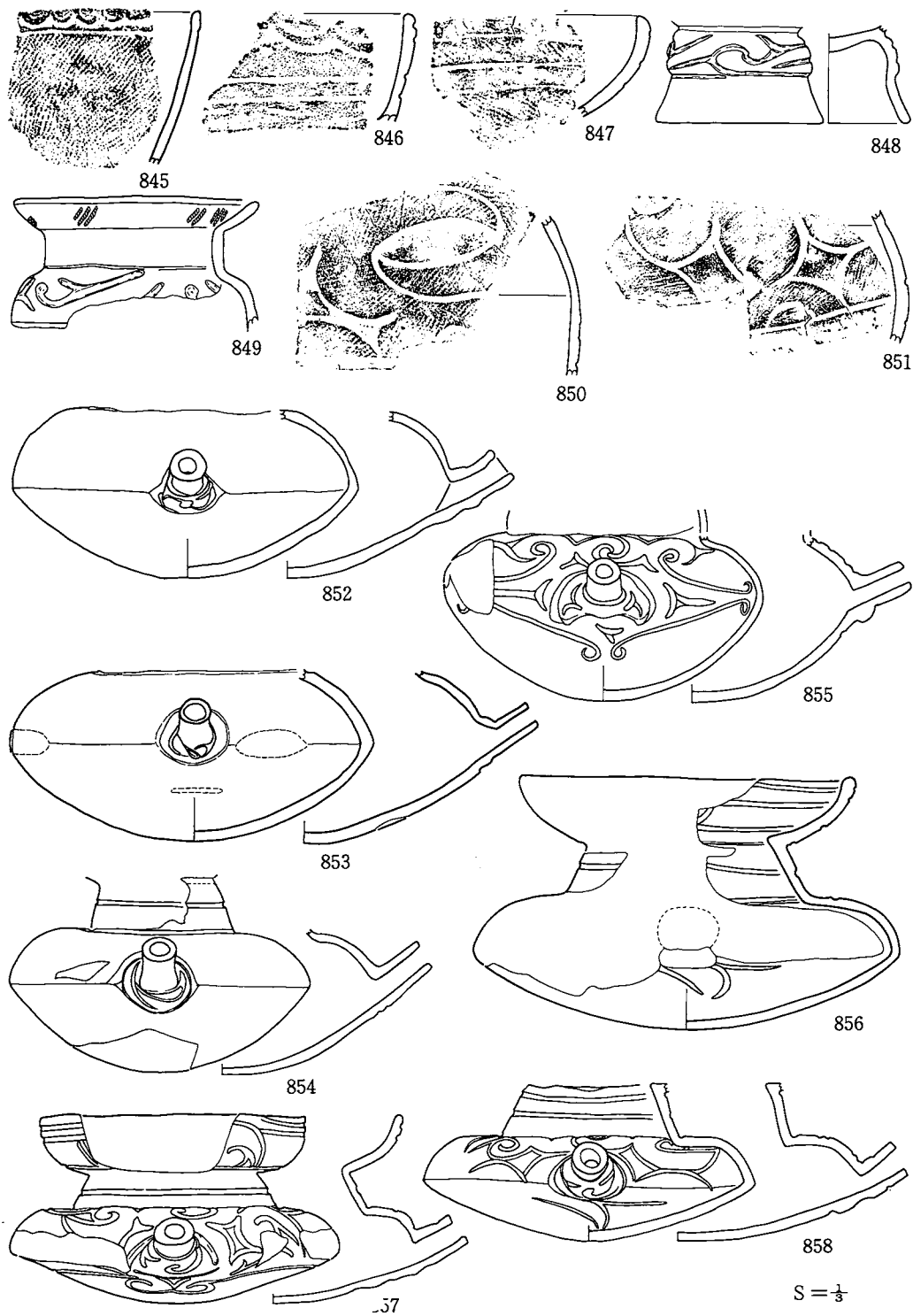
第102図 遺物包含層出土遺物（土器）23



第103図 遺物包含層出土遺物（土器）24



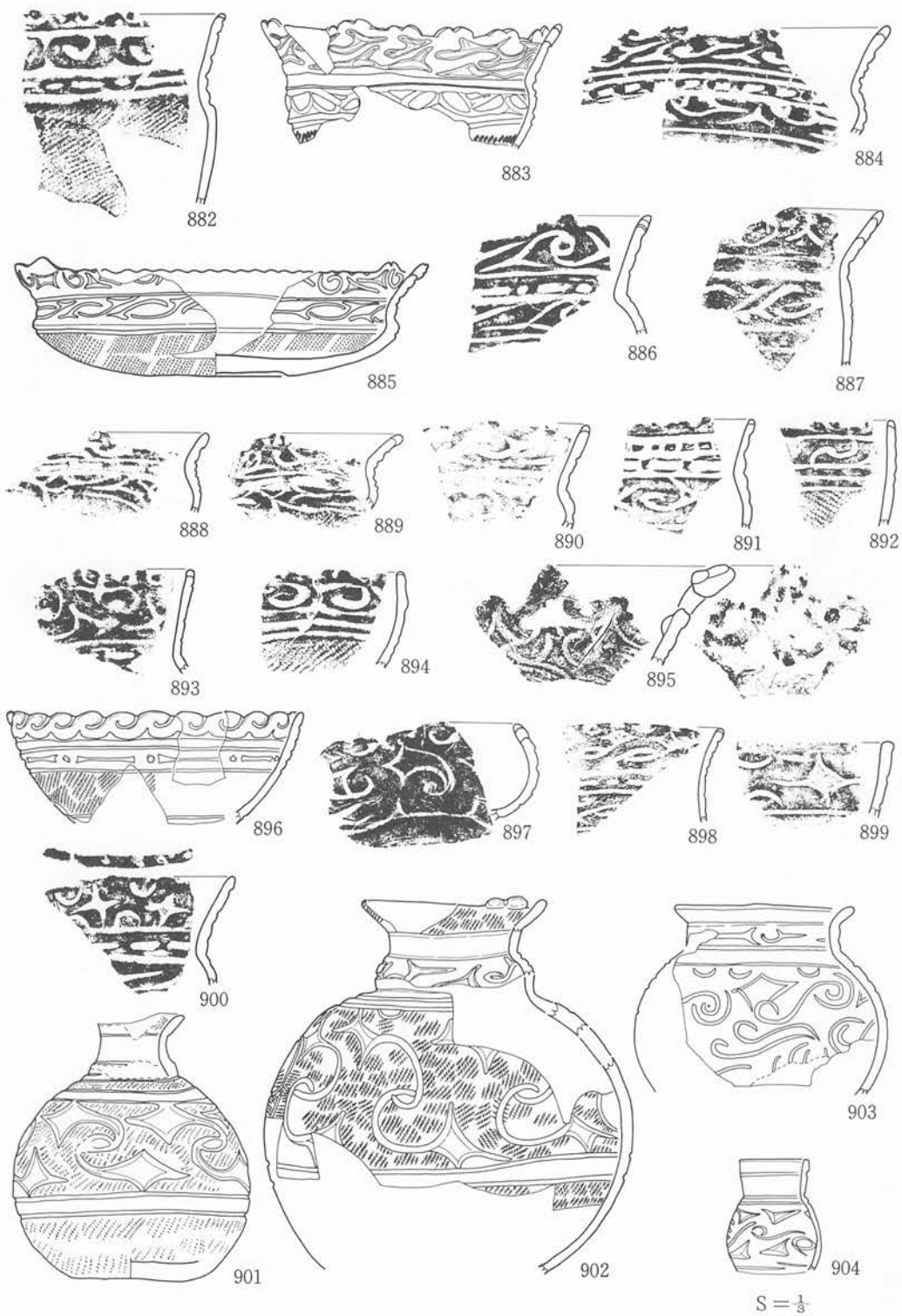
第104图 遺物包含層出土遺物（土器）25



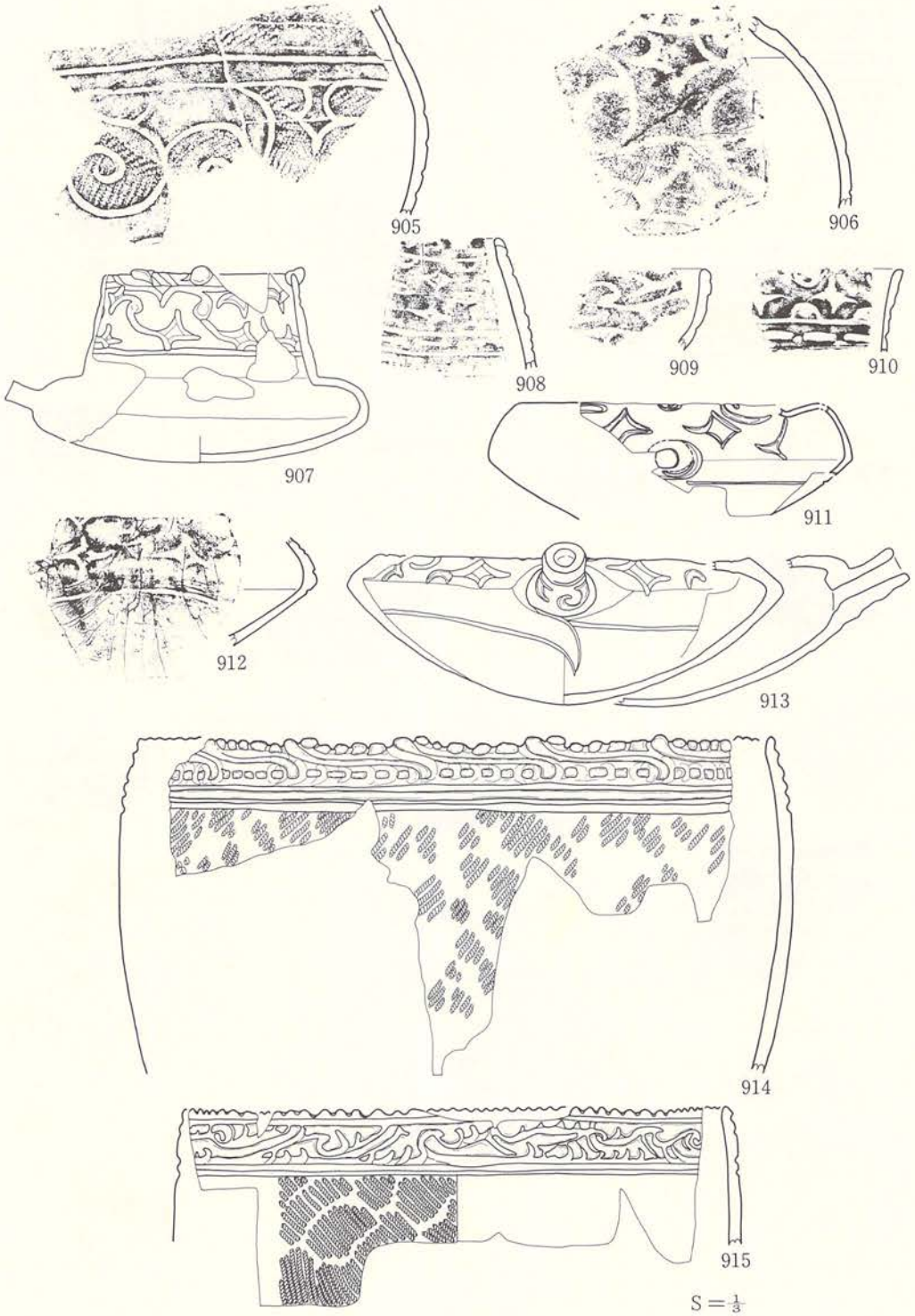
第105圖 遺物包含層出土遺物（土器）26



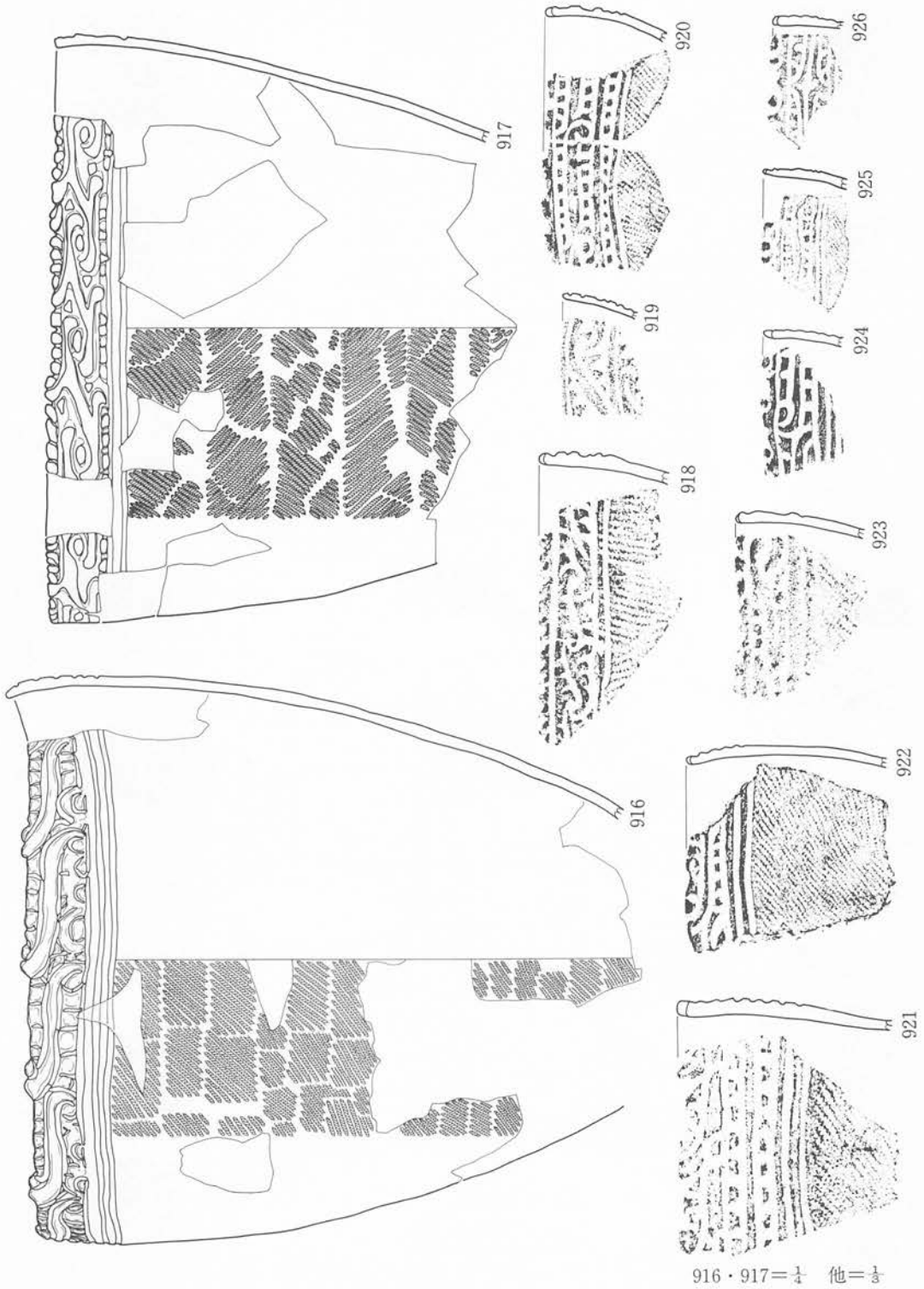
第106圖 遺物包含層出土遺物（土器）27



第107図 遺物包含層出土遺物（土器）28



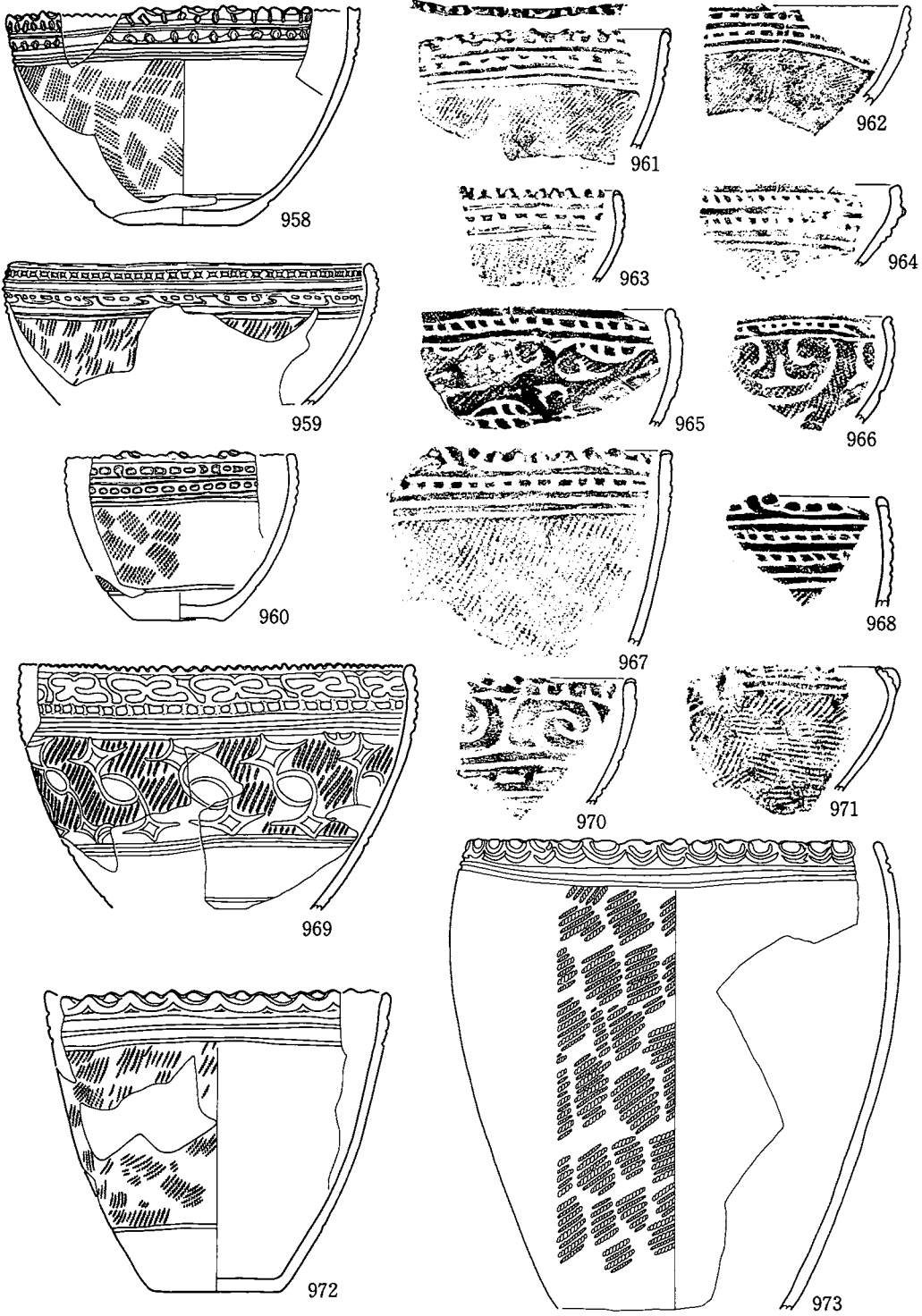
第108図 遺物包含層出土遺物（土器）29



第109図 遺物包含層出土遺物（土器）30

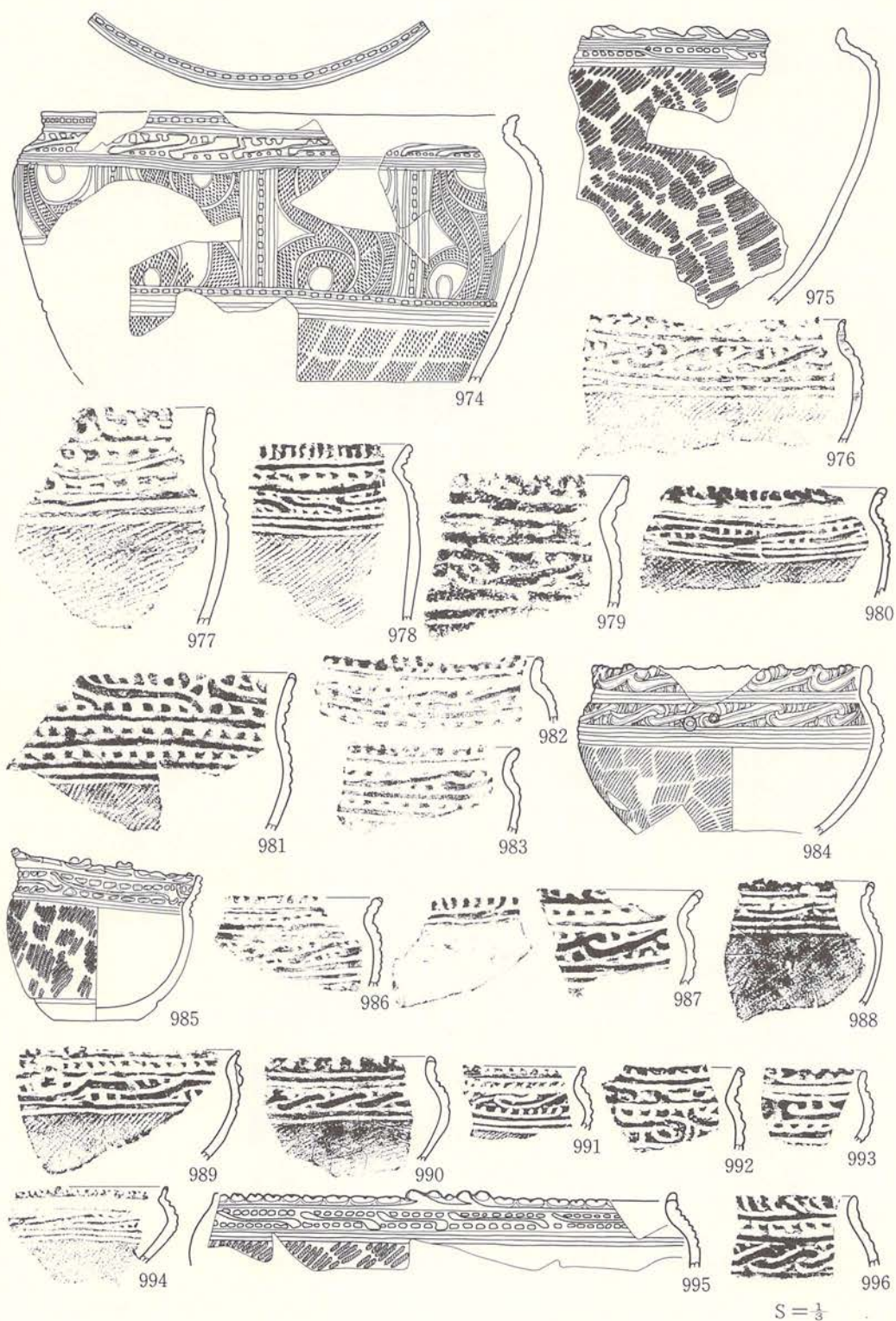


第110图 遺物包含層出土遺物 (土器) 31



973=¼ 他=¾

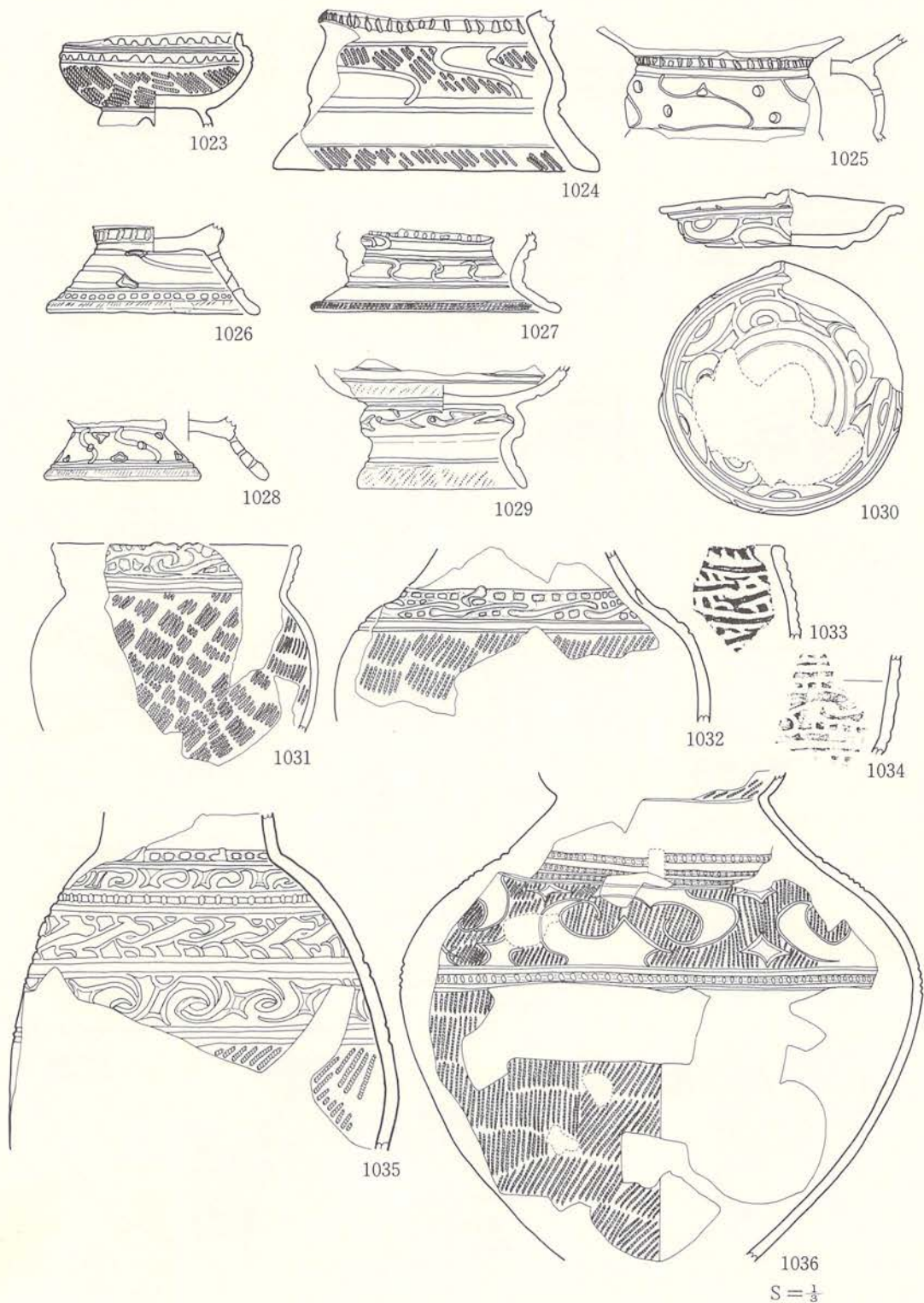
第111图 遺物包含層出土遺物（土器）32



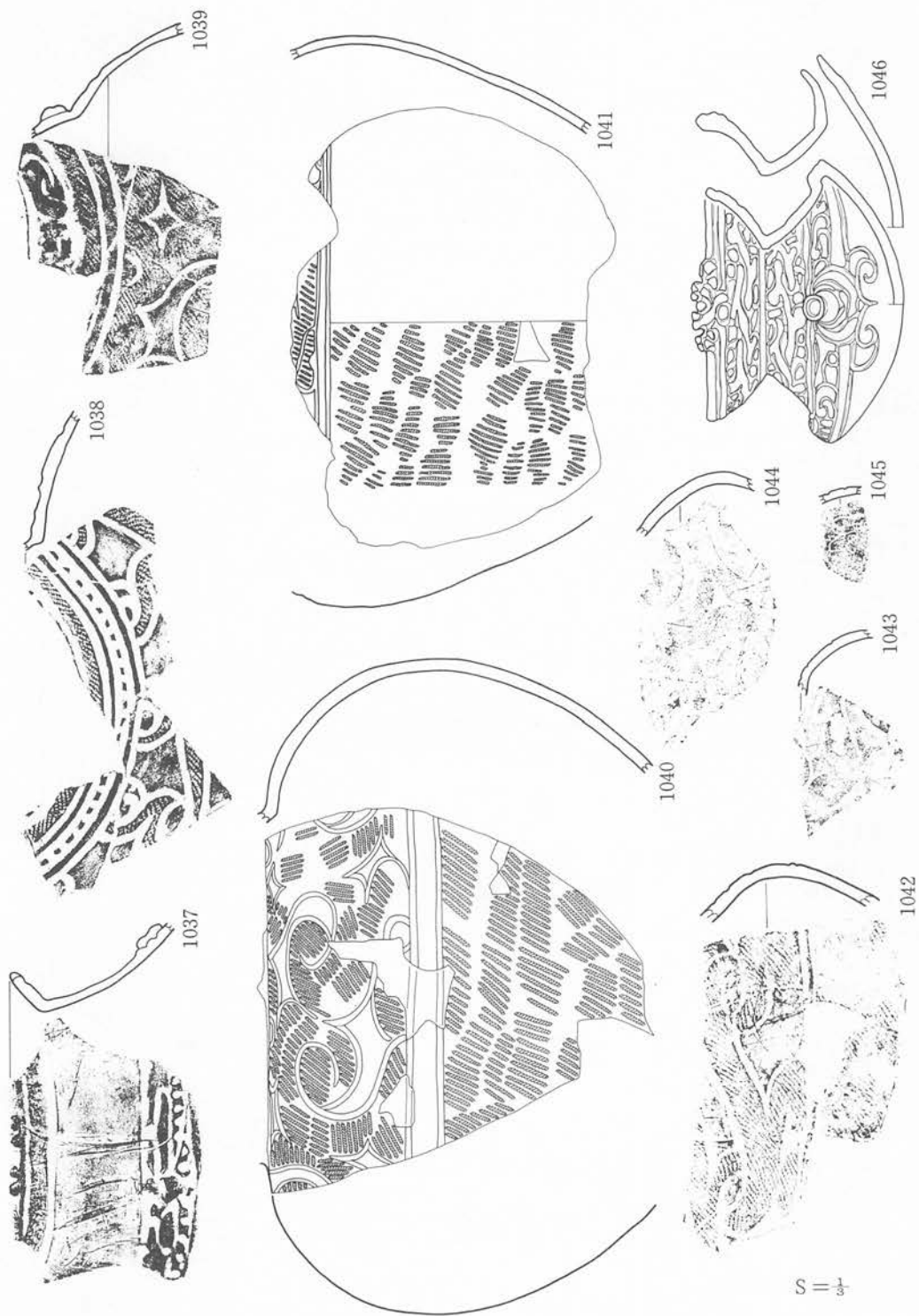
第112図 遺物包含層出土遺物 (土器) 33



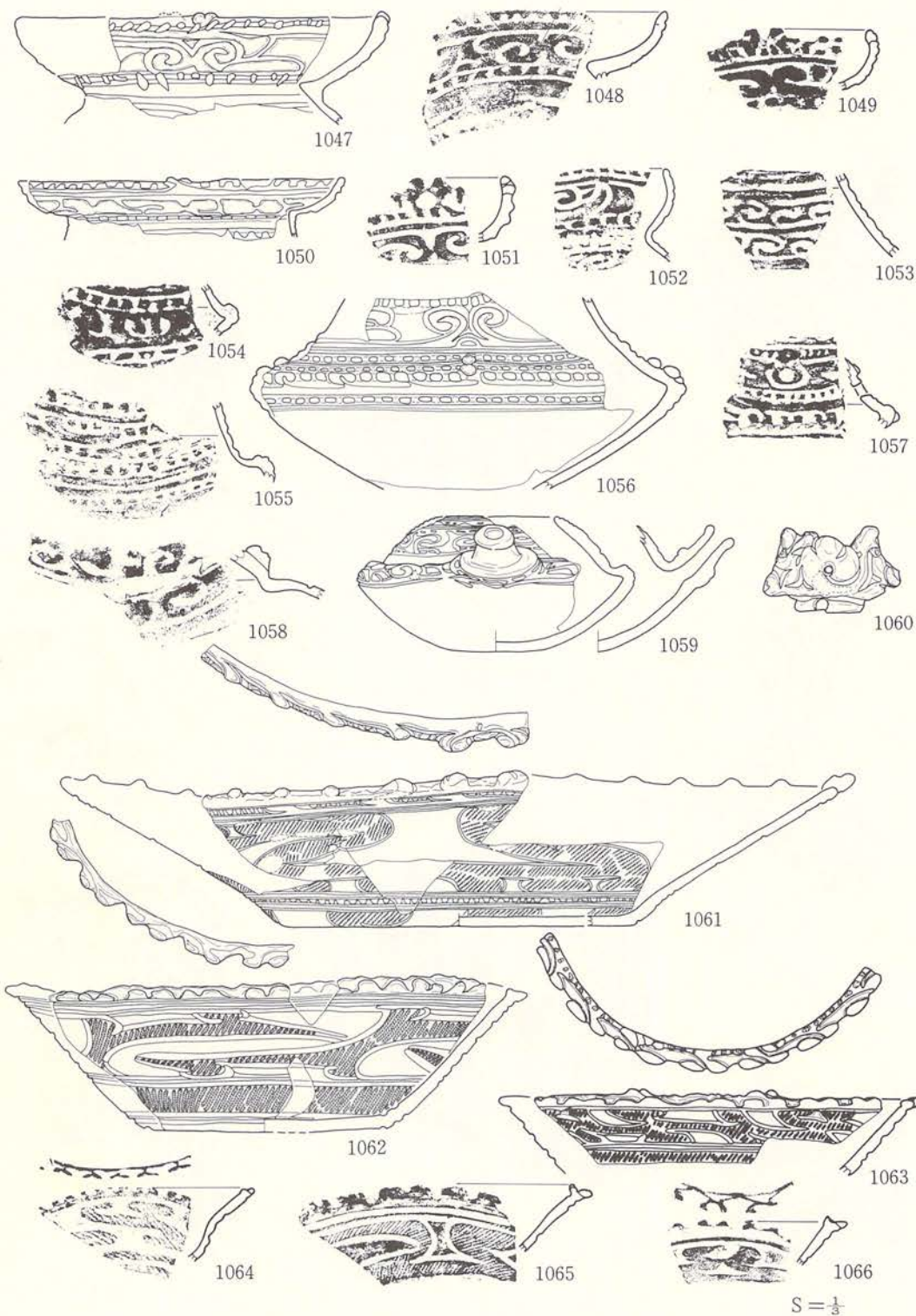
第113圖 遺物包含層出土遺物（土器）34



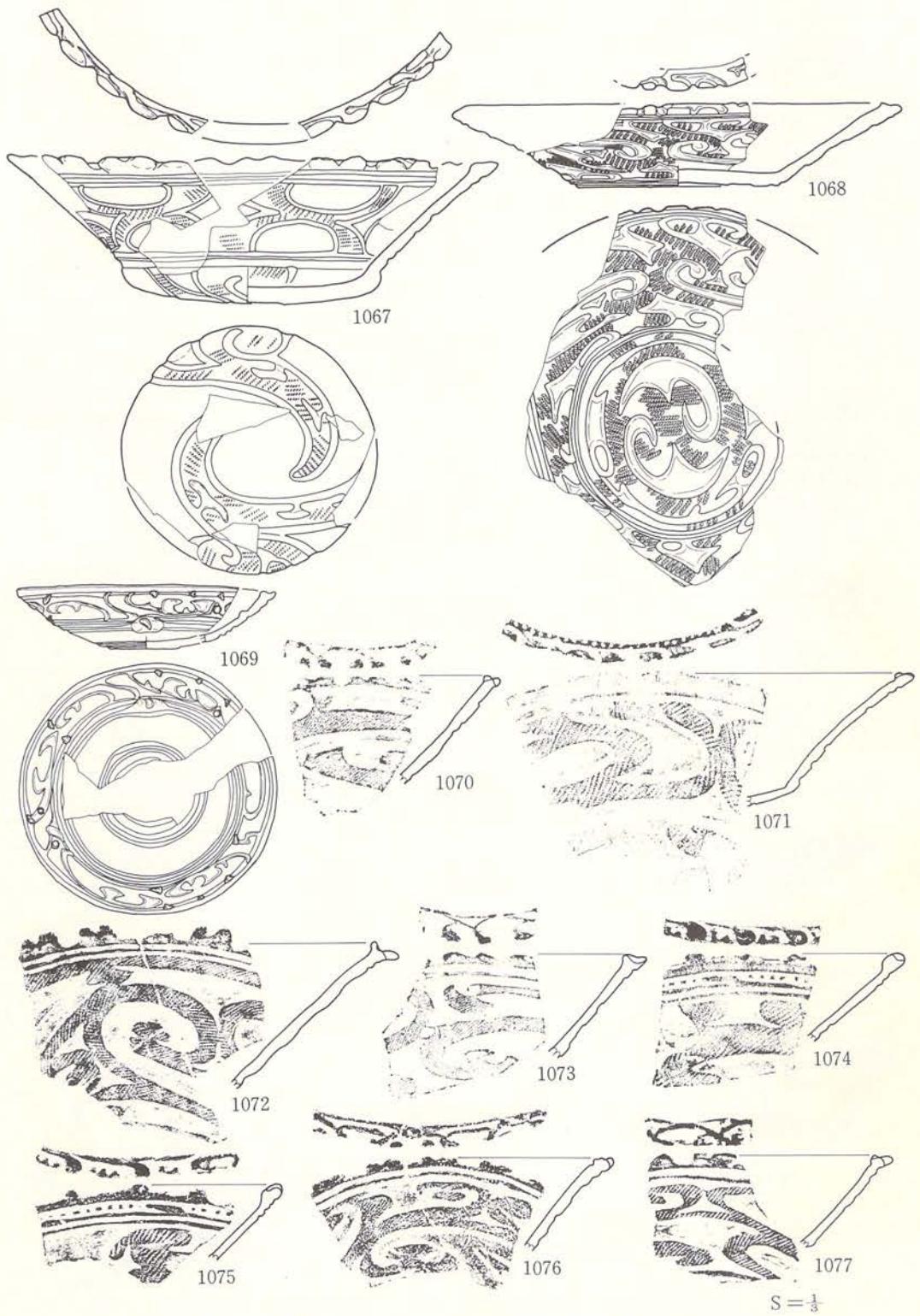
第114図 遺物包含層出土遺物（土器）35



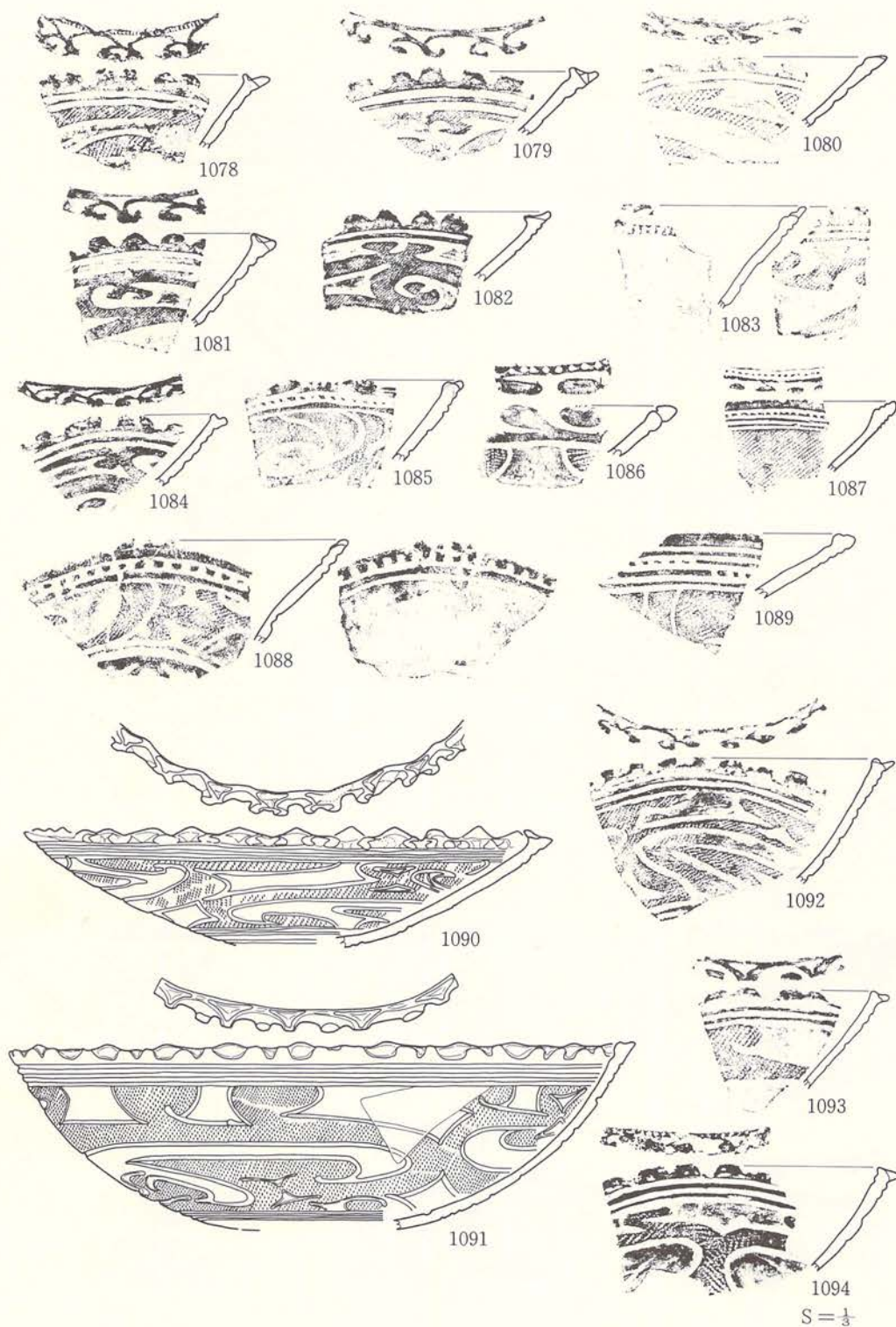
第115図 遺物包含層出土遺物（土器）36



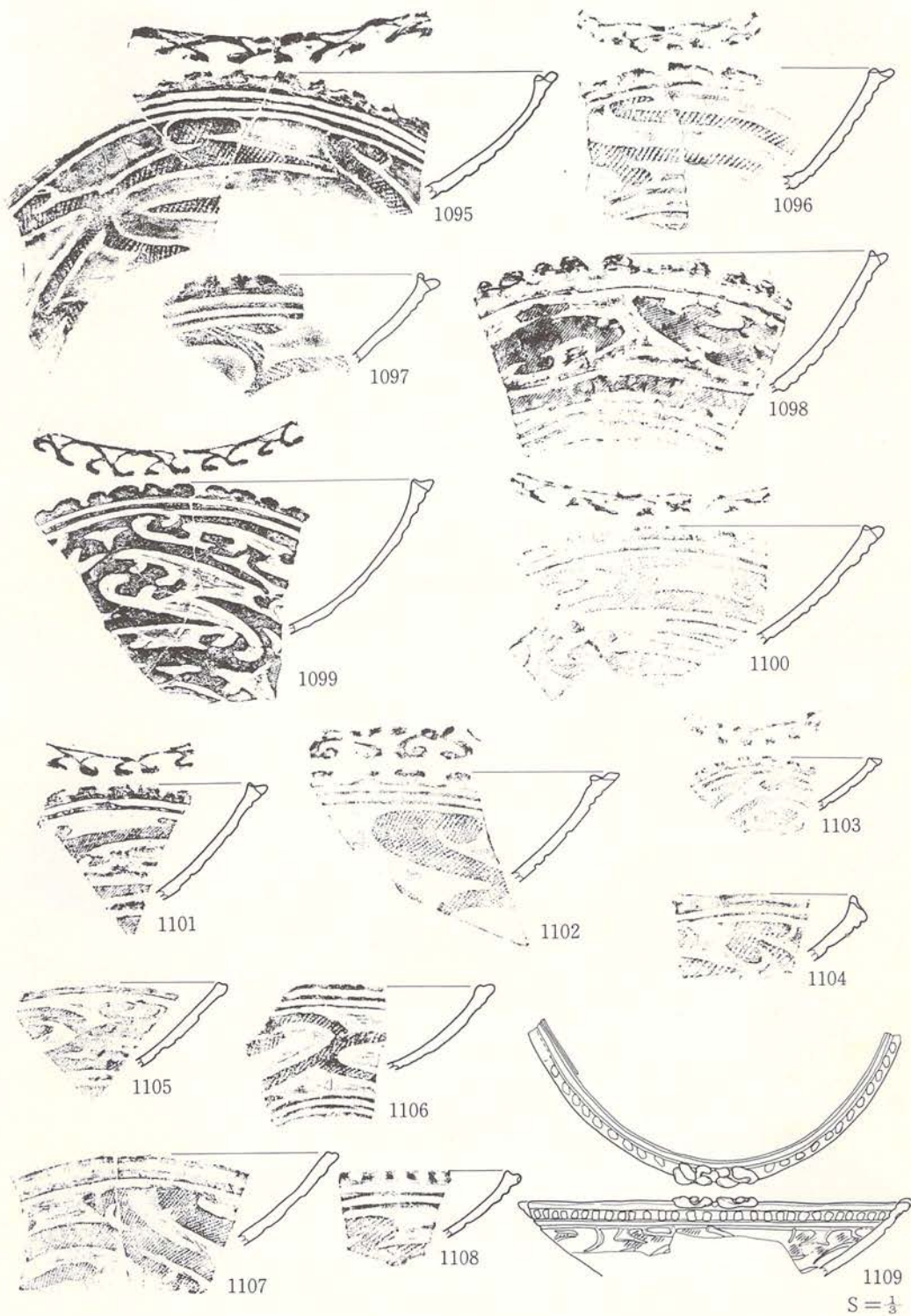
第116图 遺物包含層出土遺物（土器）37



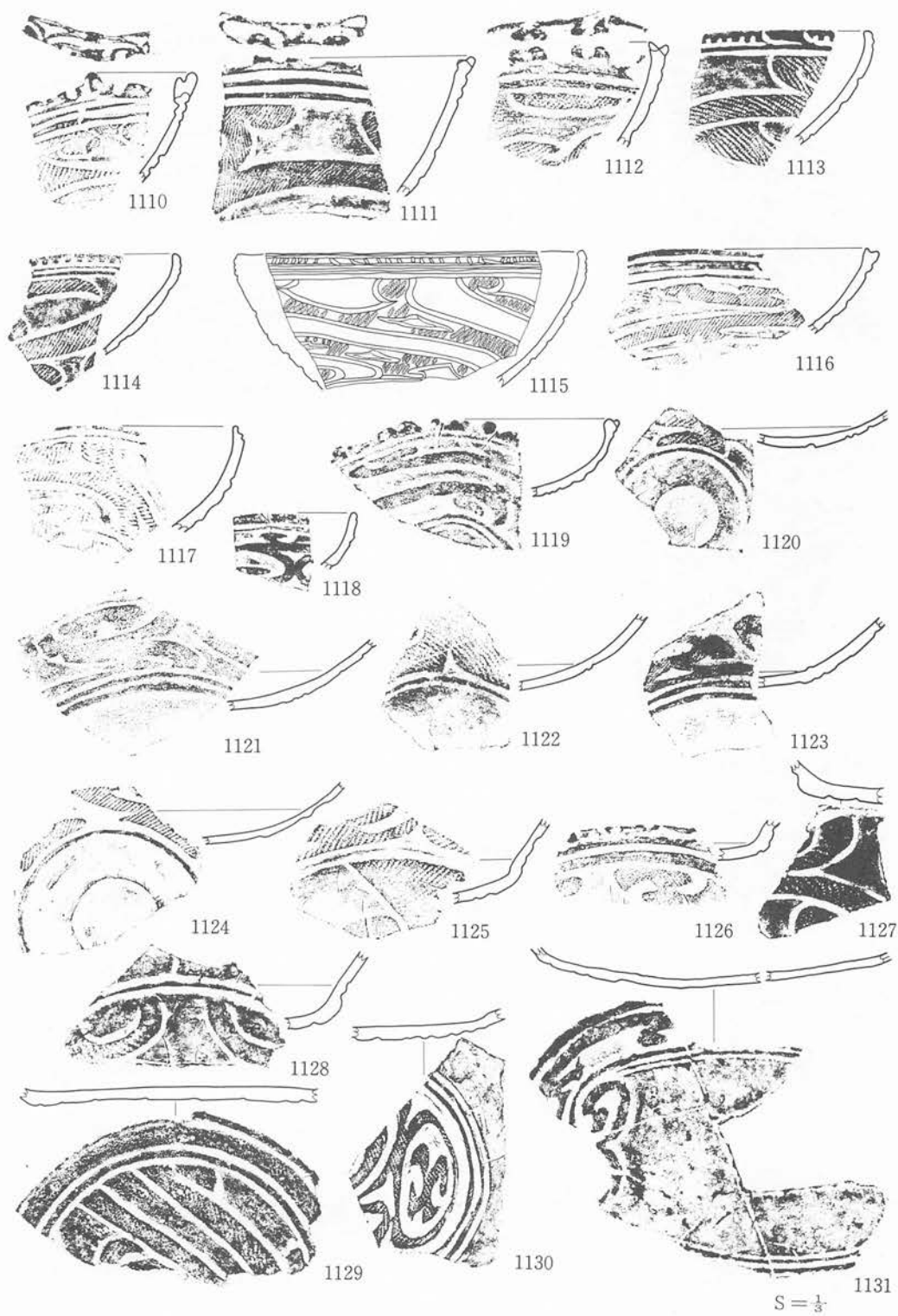
第117圖 遺物包含層出土遺物（土器）38



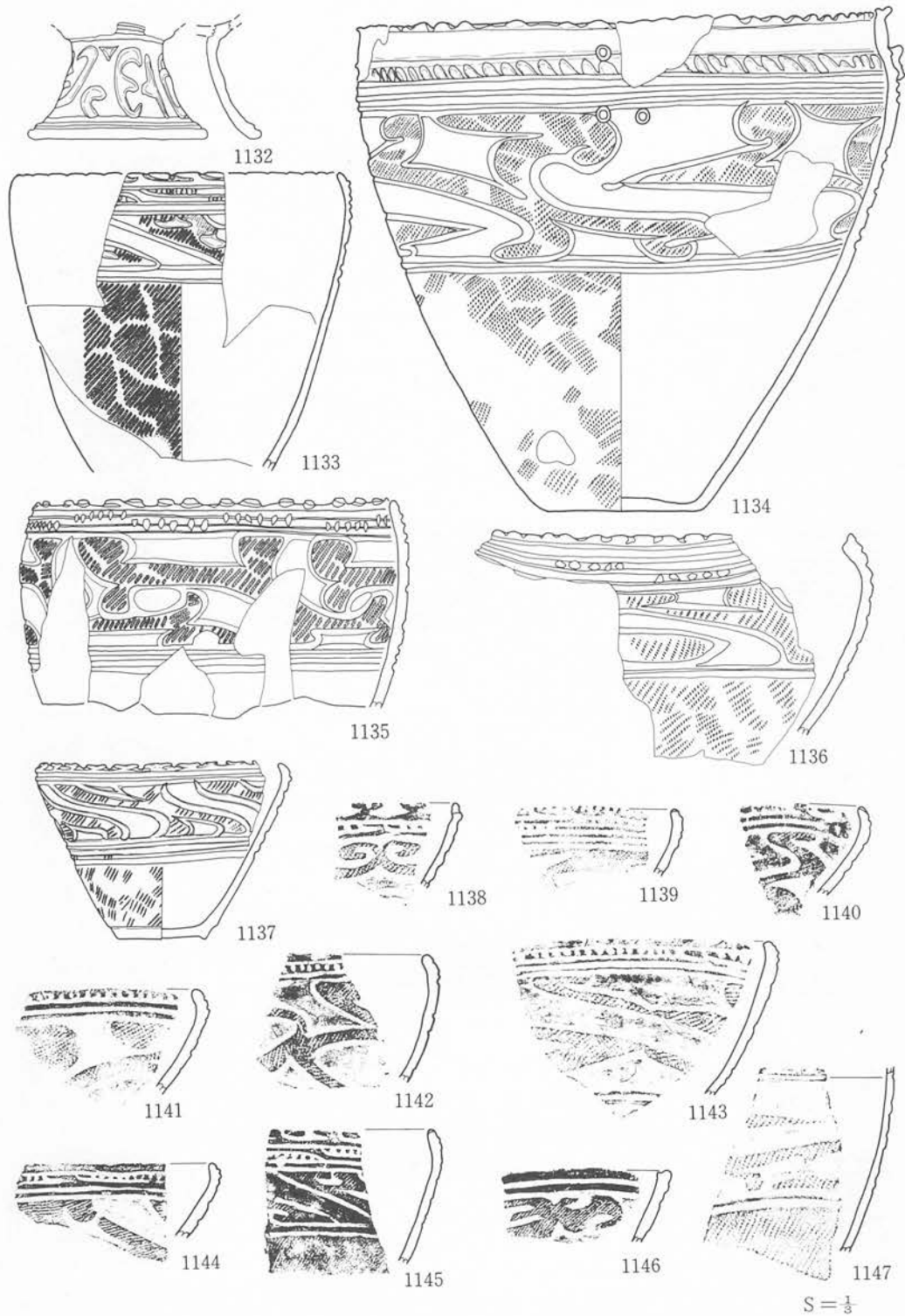
第118圖 遺物包含層出土遺物（土器）39



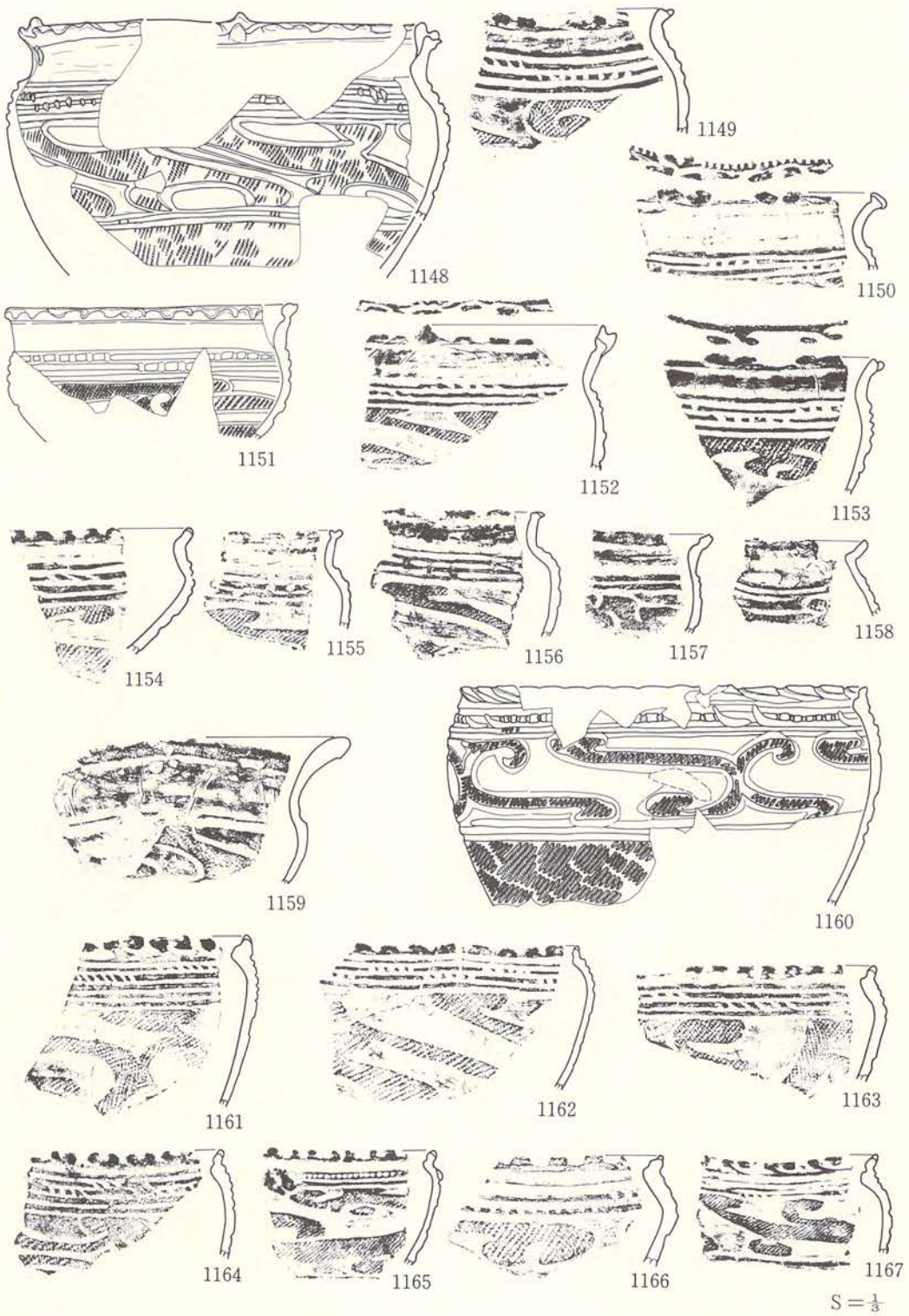
第119图 遺物包含層出土遺物（土器）40



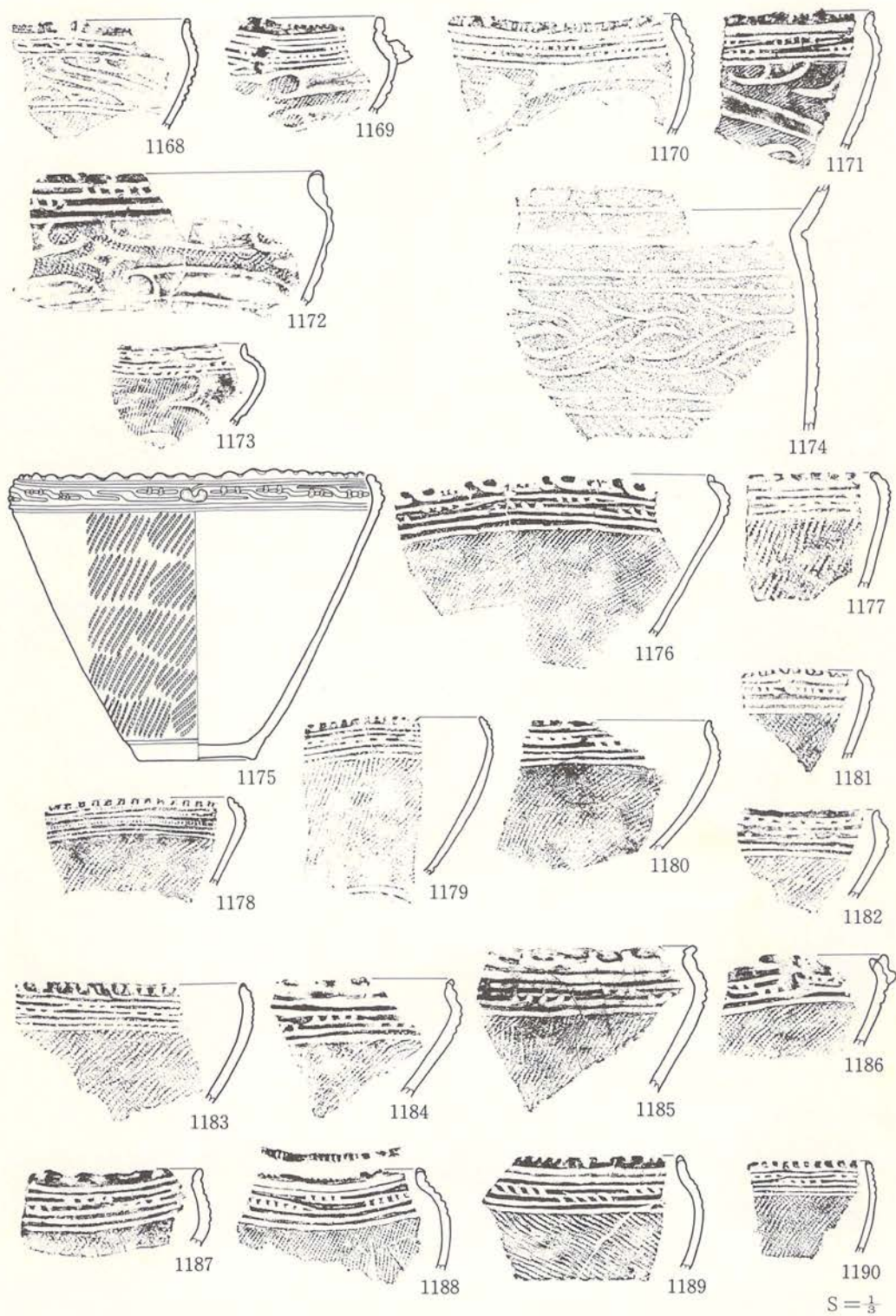
第120図 遺物包含層出土遺物（土器）41



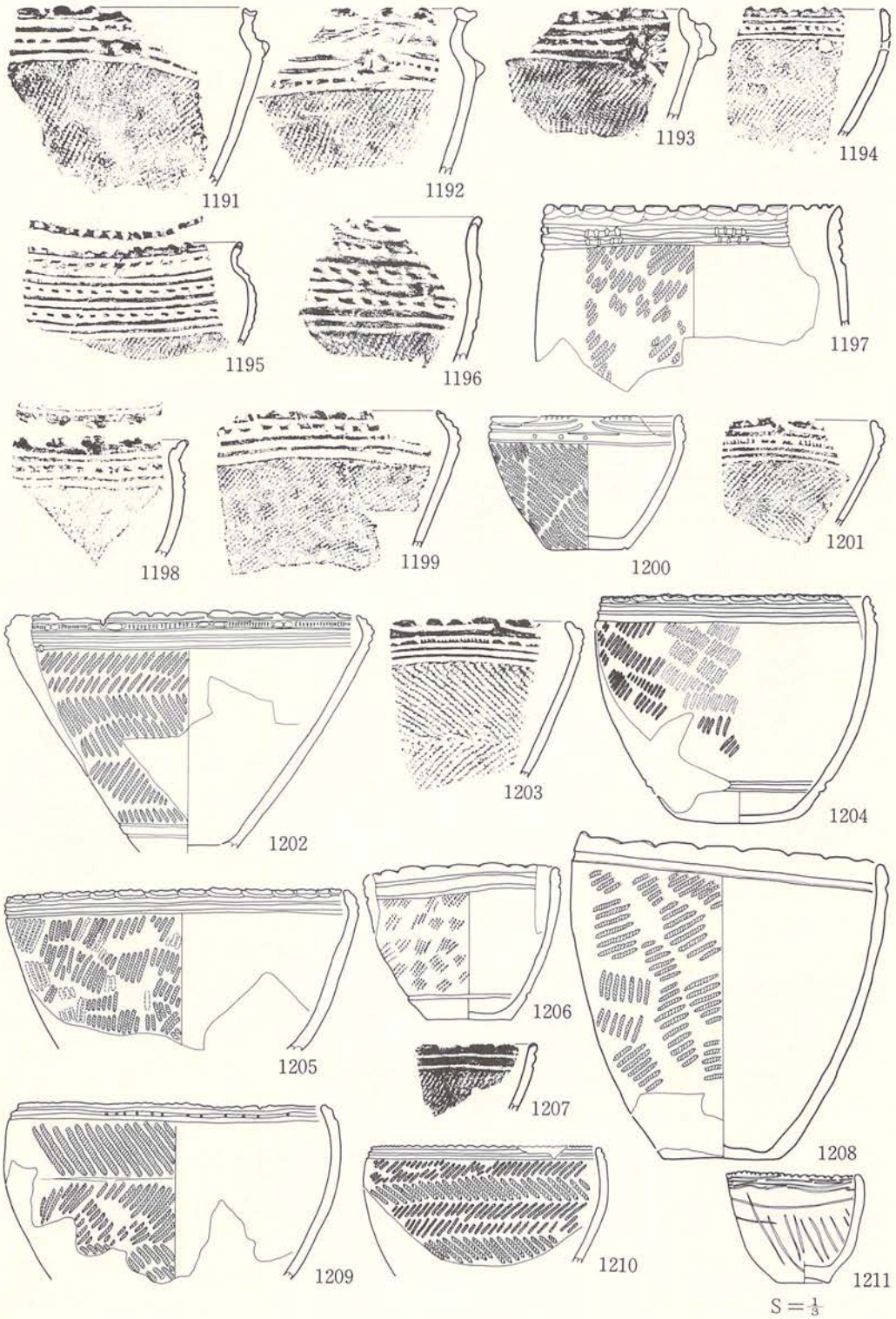
第121図 遺物包含層出土遺物（土器）42



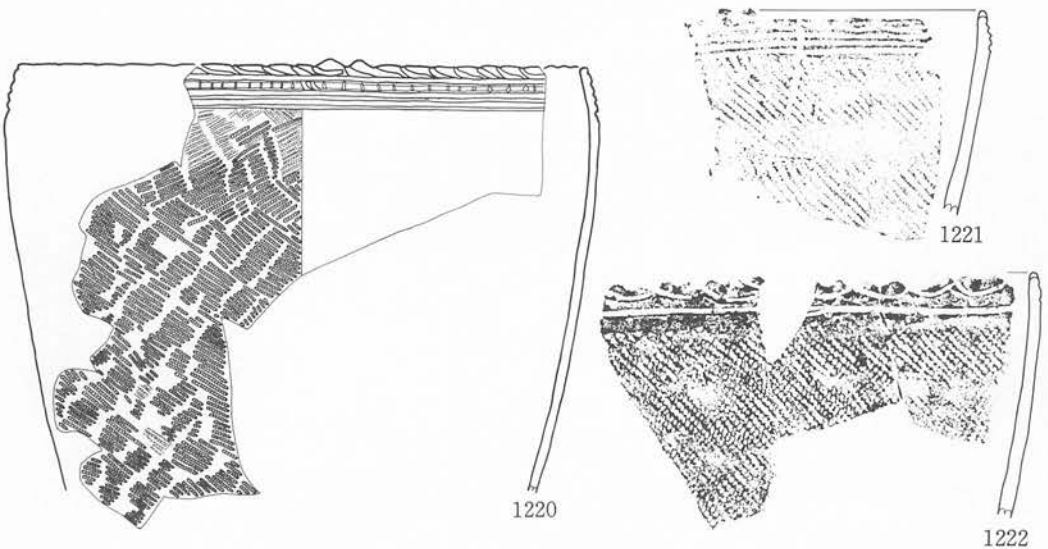
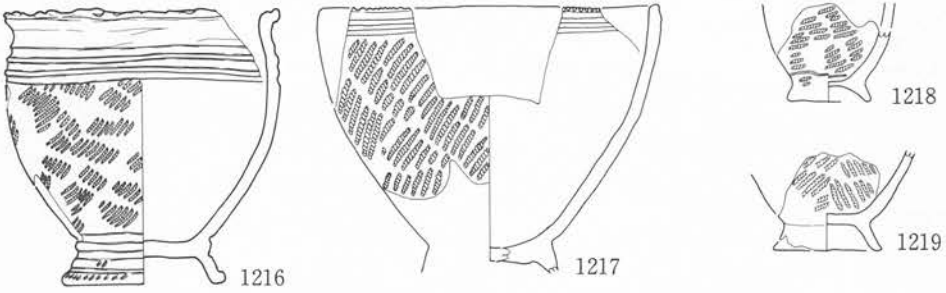
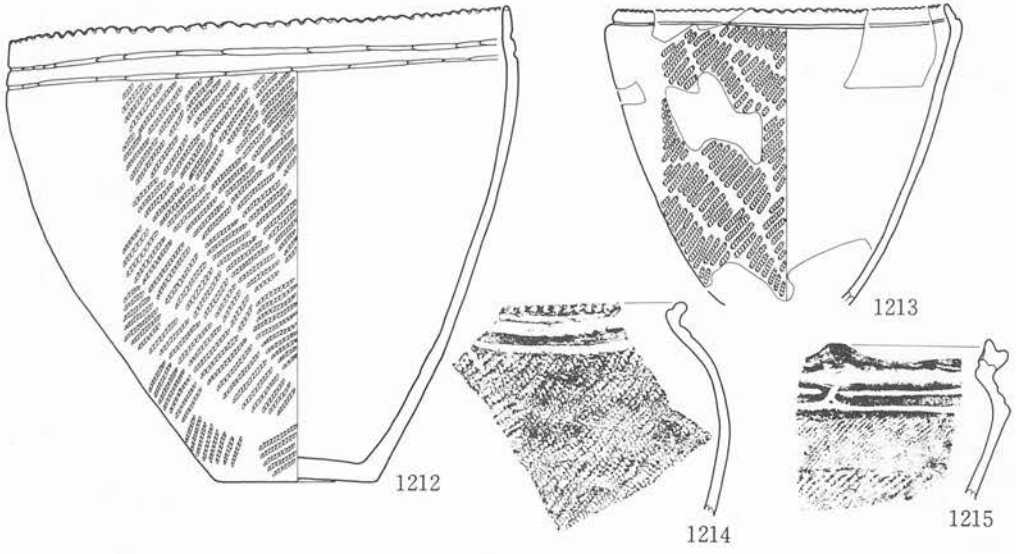
第122圖 遺物包含層出土遺物（土器）43



第123図 遺物包含層出土遺物（土器）44



第124図 遺物包含層出土遺物（土器）45

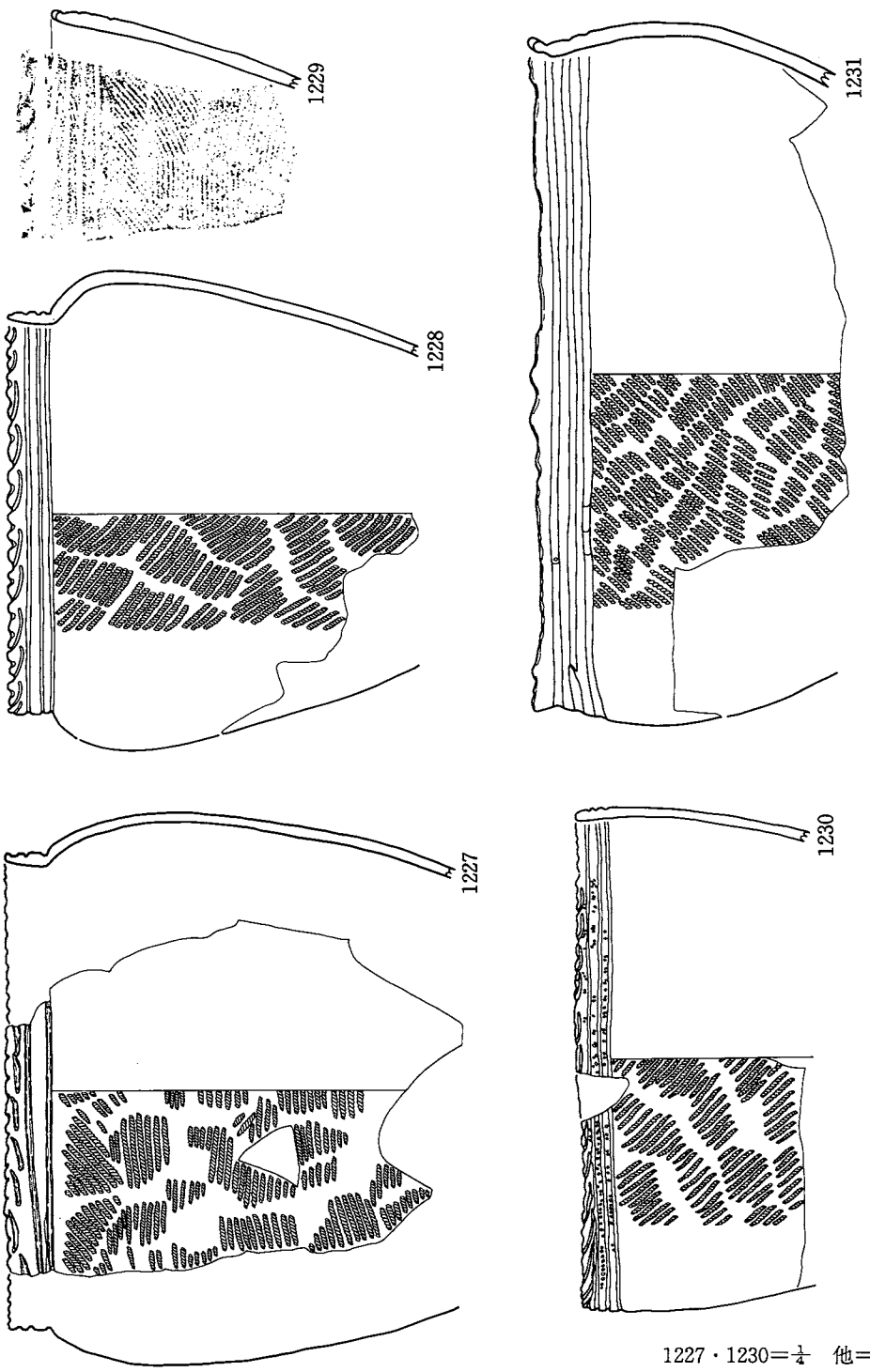


1220 = 1/4 他 = 1/3

第125図 遺物包含層出土遺物（土器）46

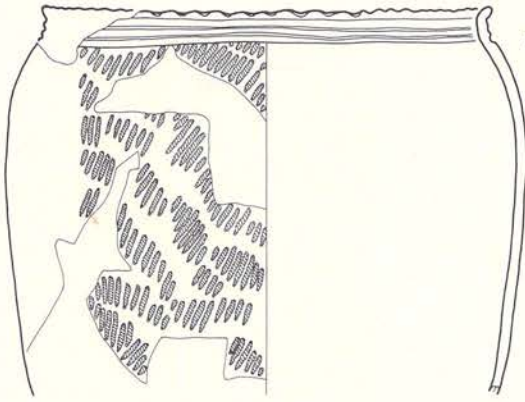


第126図 遺物包含層出土遺物（土器）47



1227 · 1230 = $\frac{1}{4}$ 他 = $\frac{1}{3}$

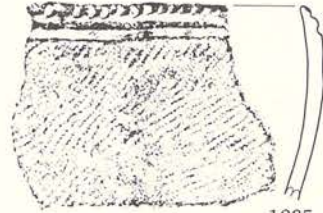
第127图 遺物包含層出土遺物（土器）48



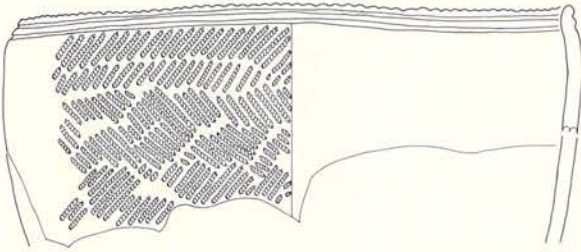
1232



1234



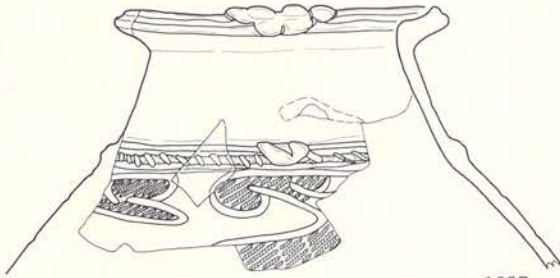
1235



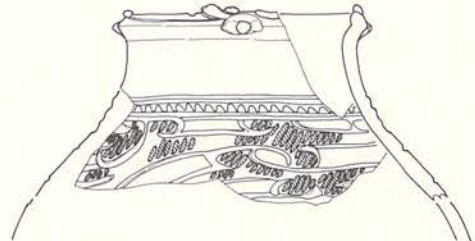
1233



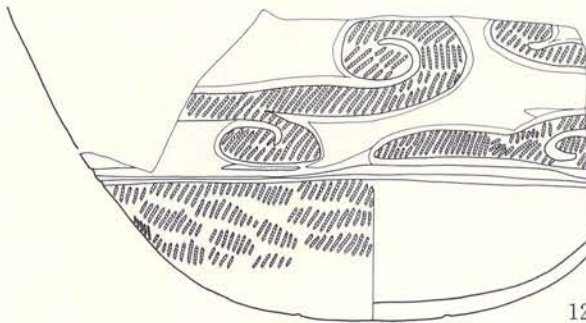
1236



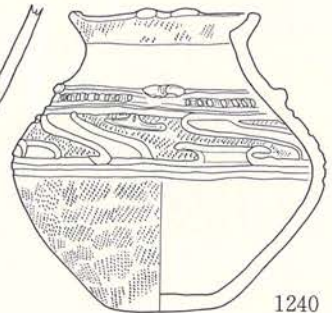
1237



1238



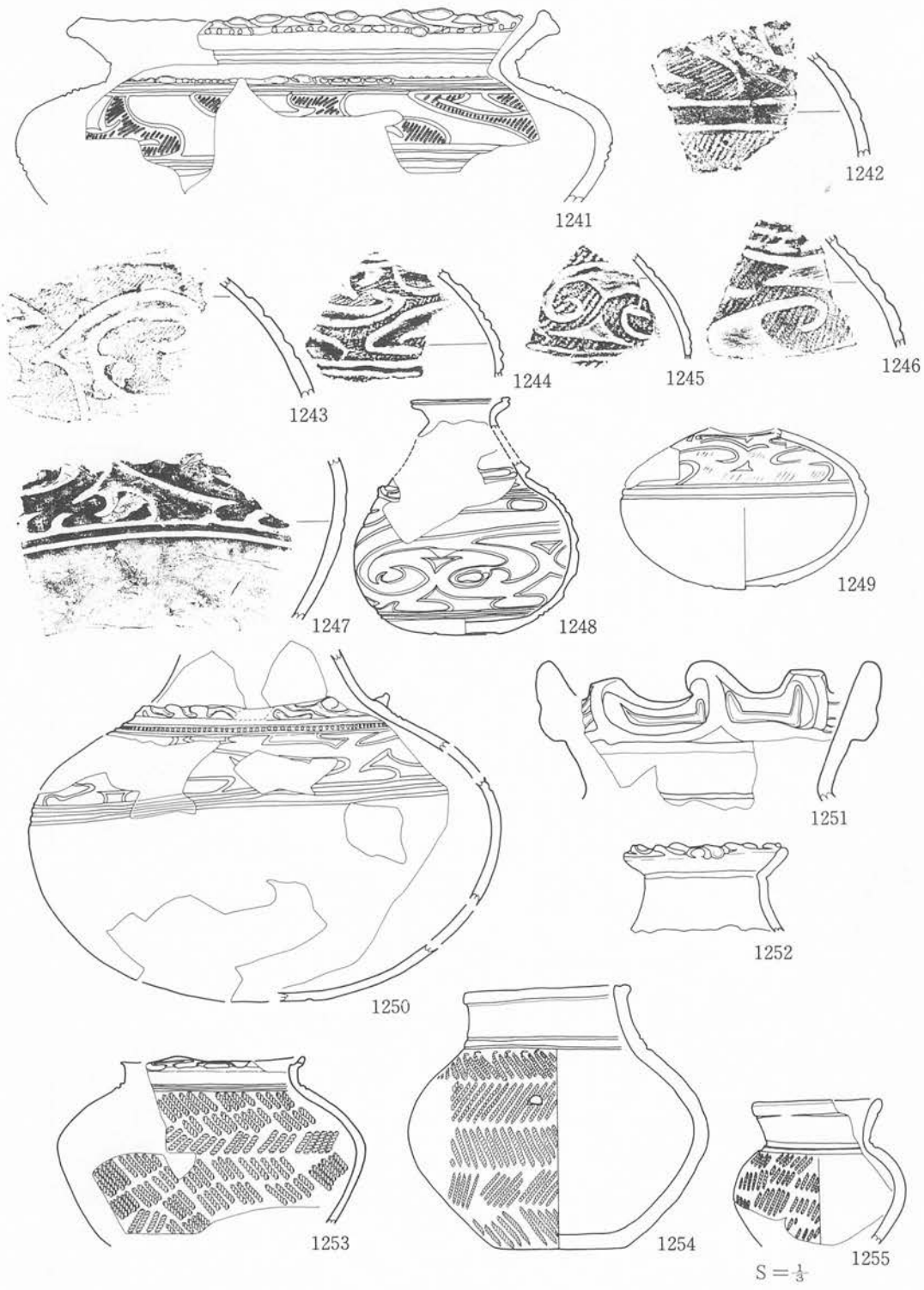
1239



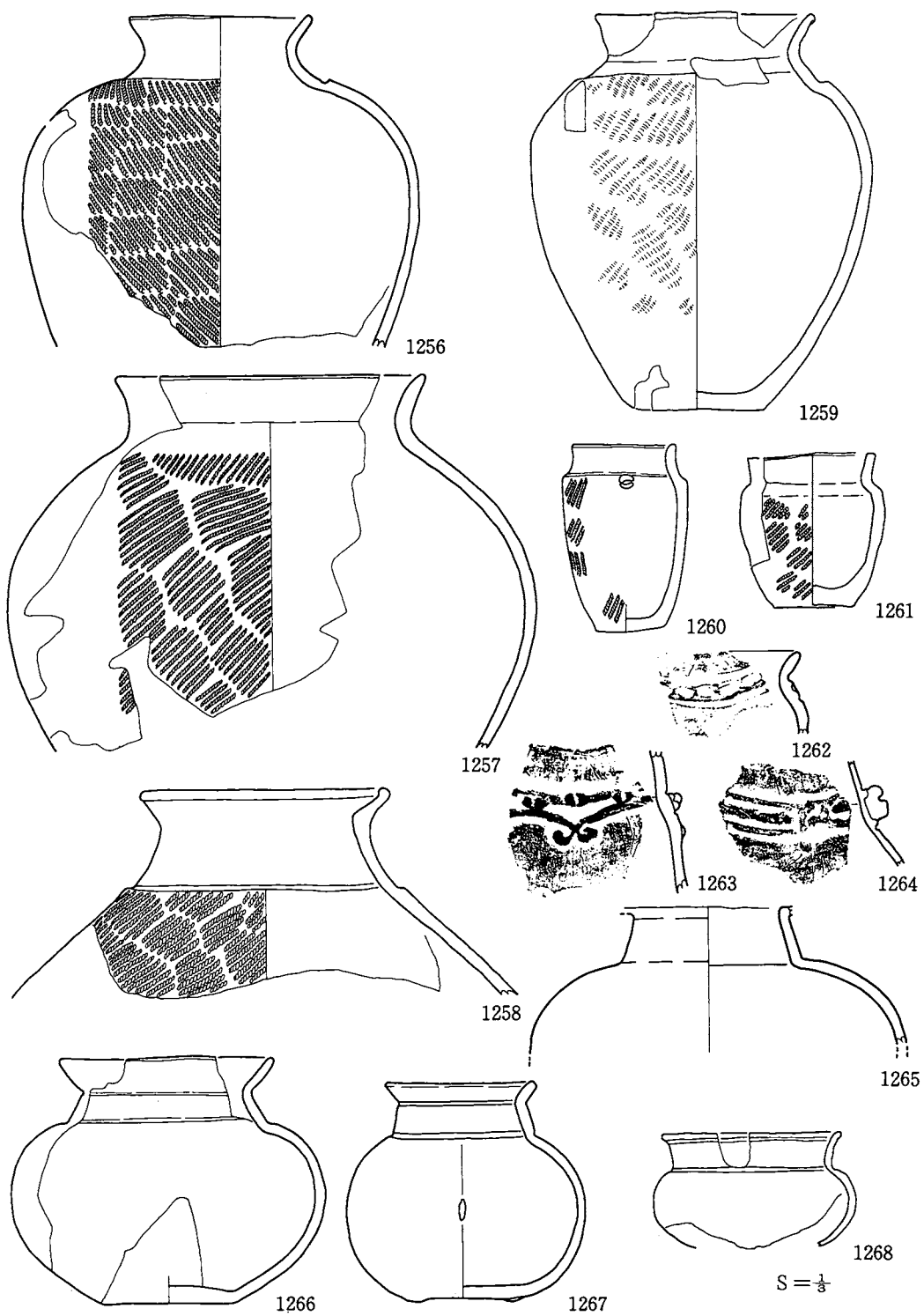
1240

S = $\frac{1}{3}$

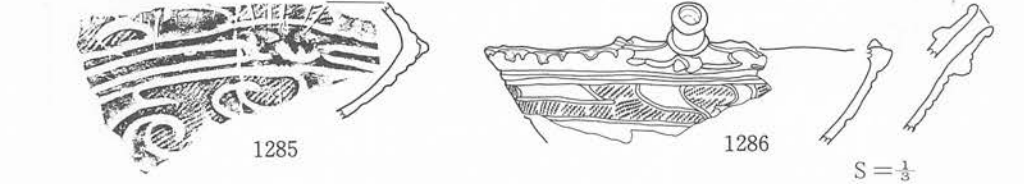
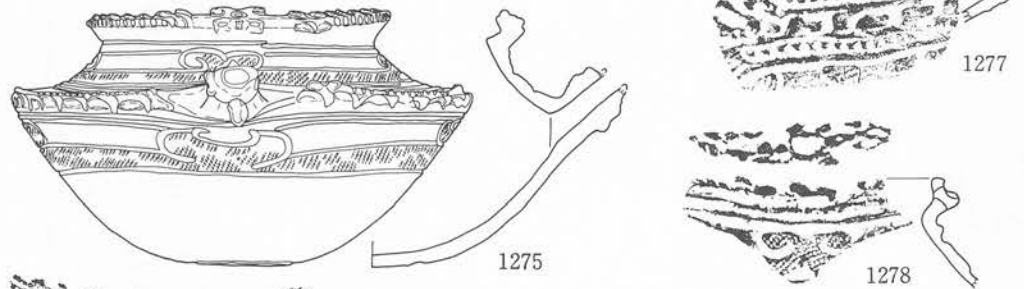
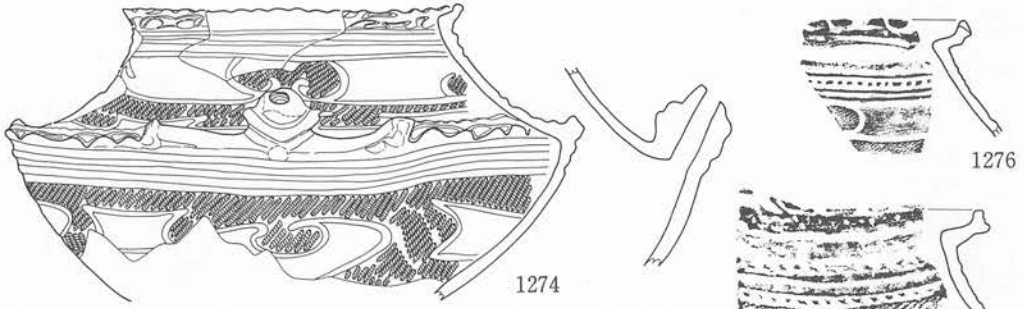
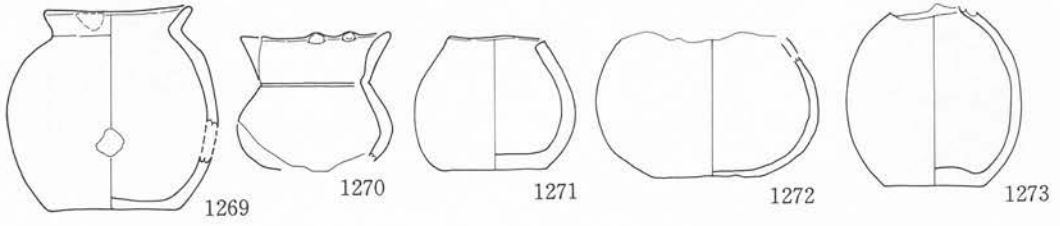
第128図 遺物包含層出土遺物（土器）49



第129圖 遺物包含層出土遺物（土器）50

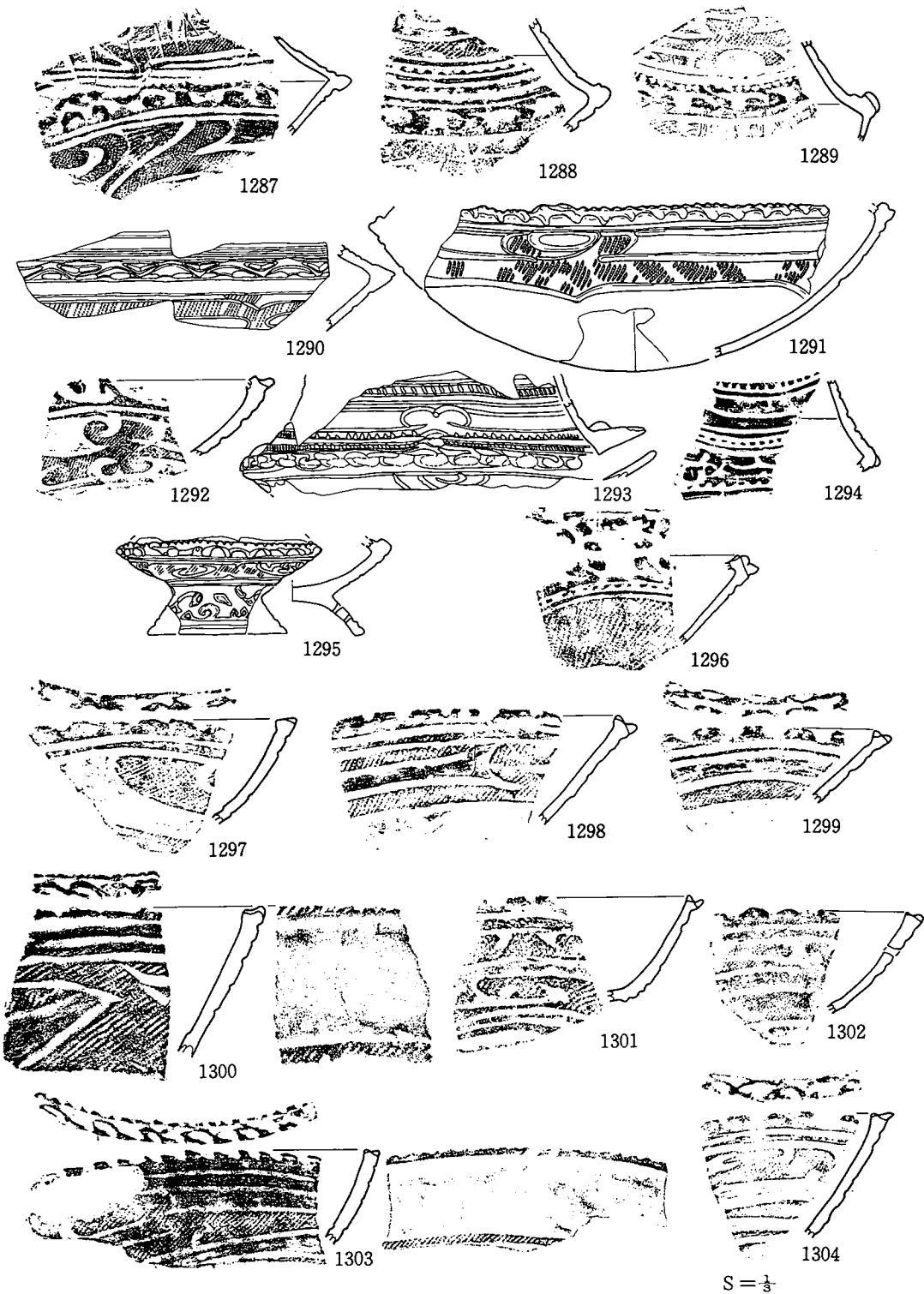


第130圖 遺物包含層出土遺物（土器）51

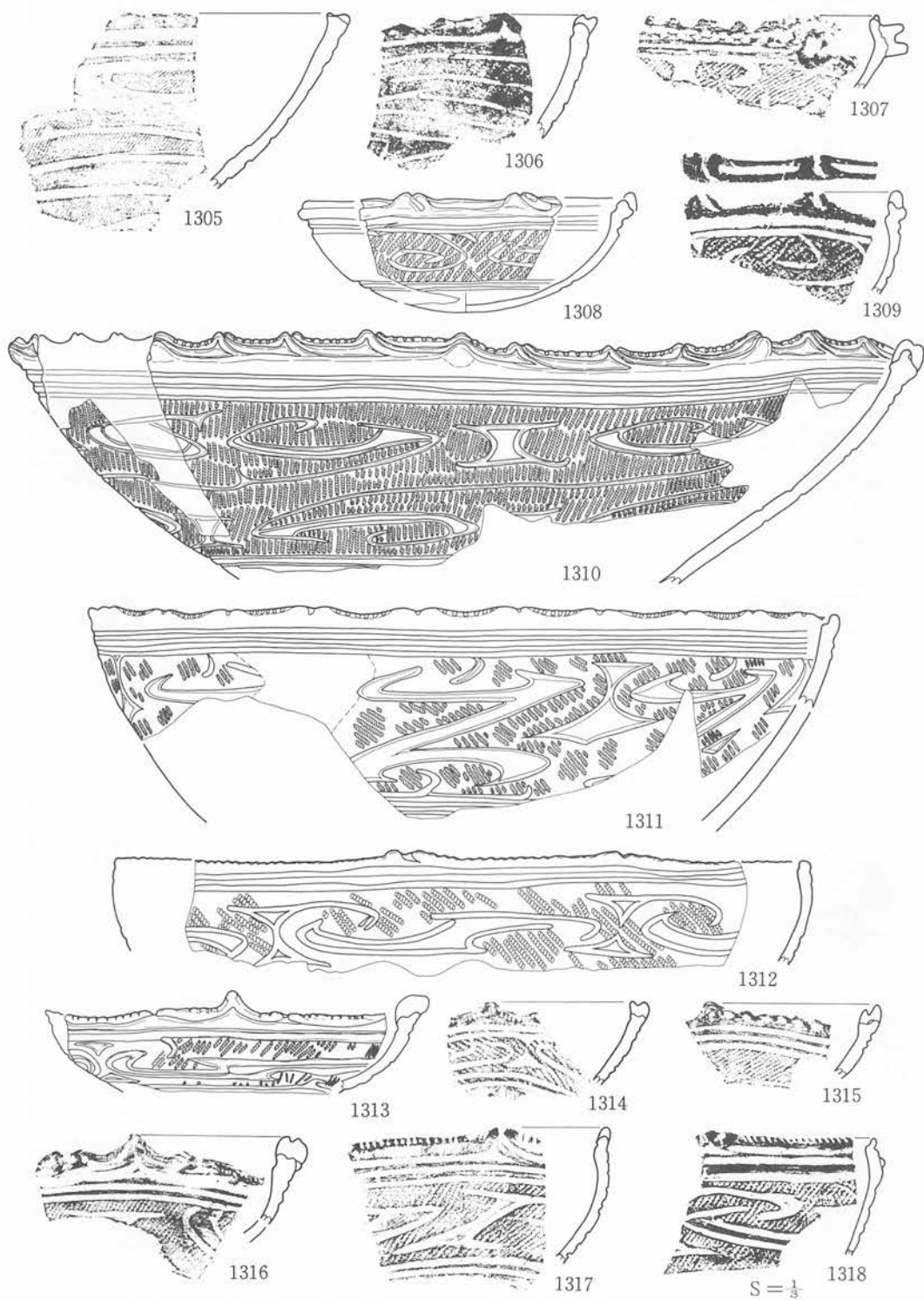


S = 1/3

第131图 遺物包含層出土遺物（土器）52



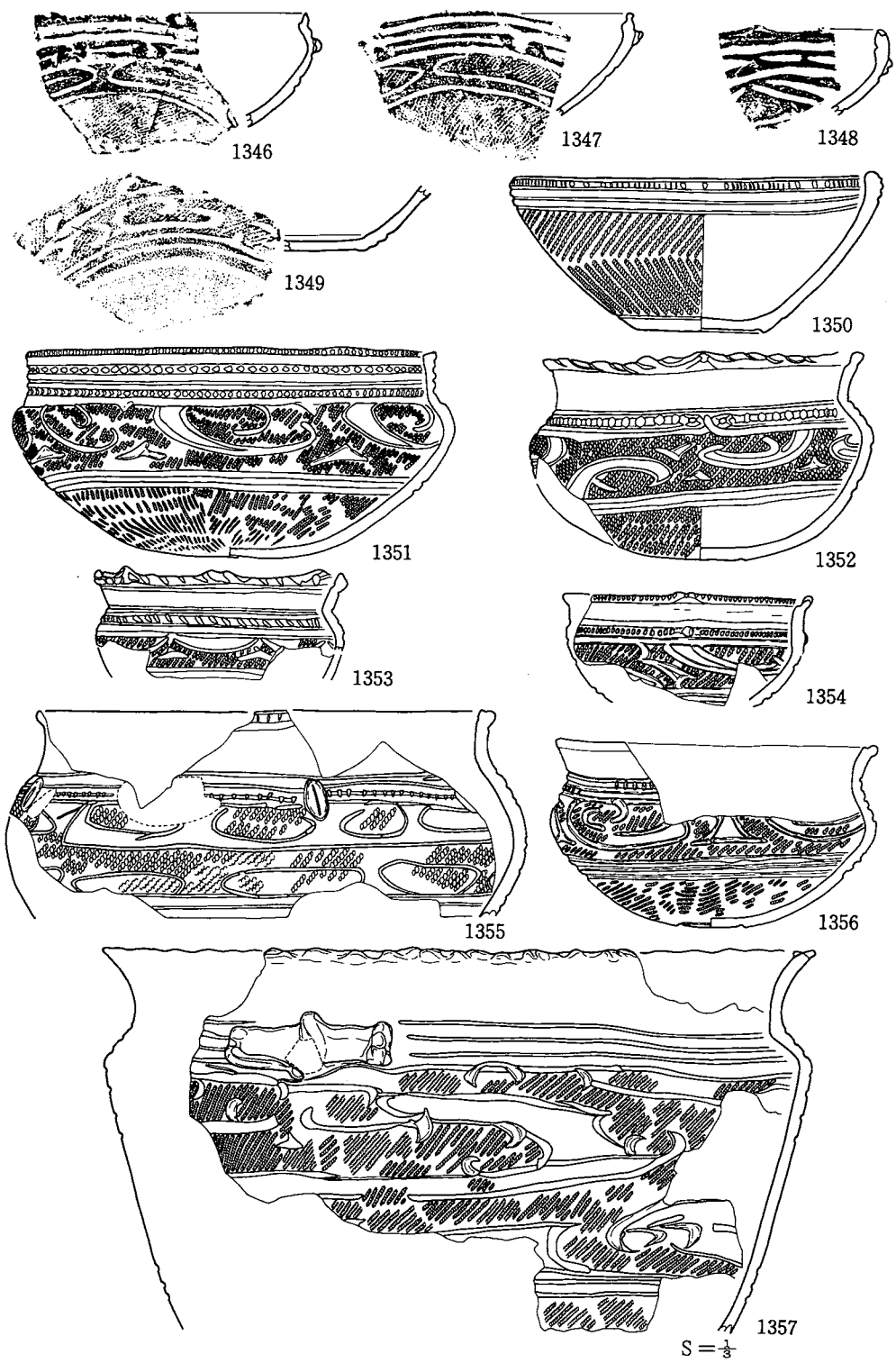
第132图 遺物包含層出土遺物（土器）53



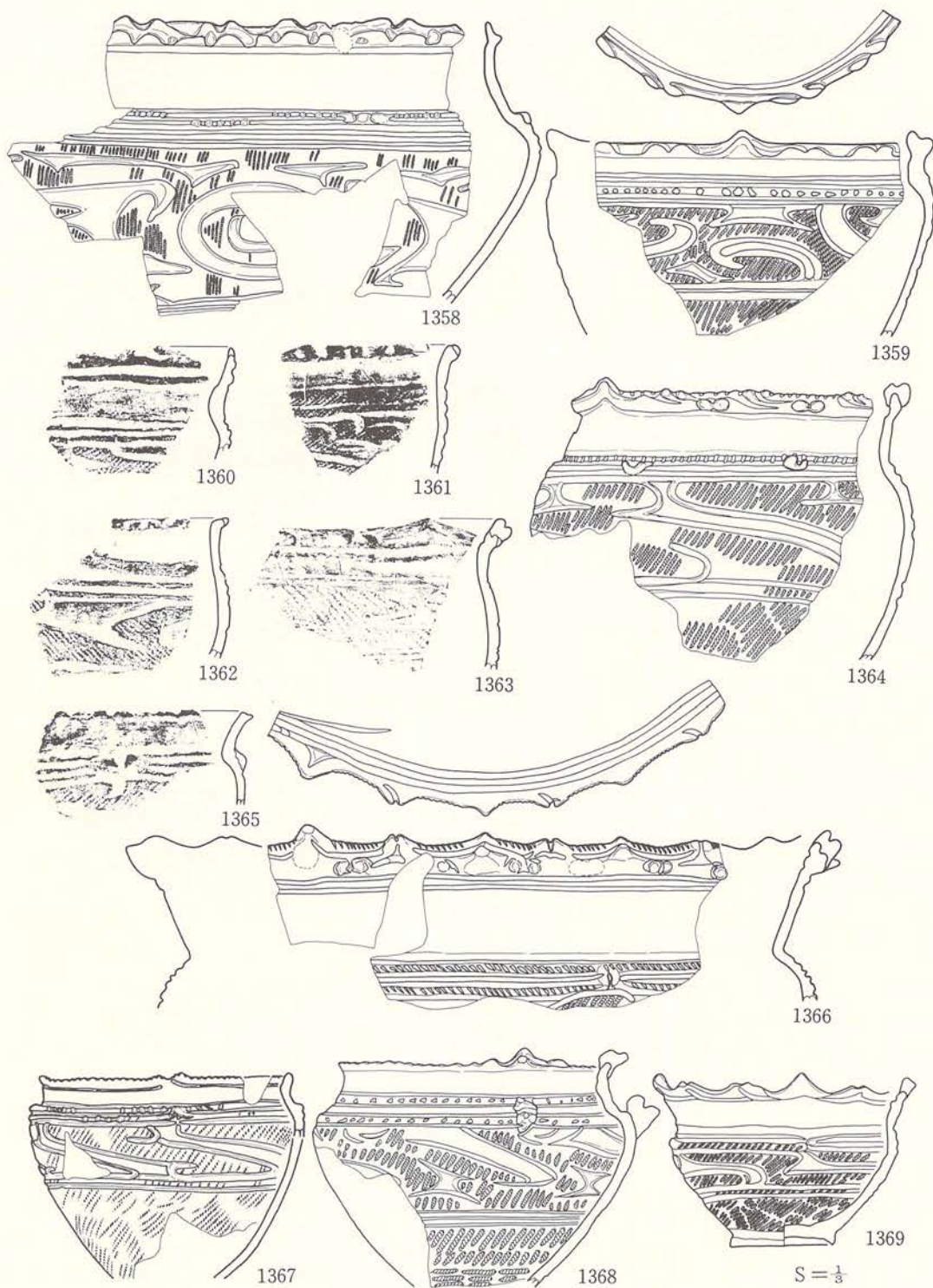
第133圖 遺物包含層出土遺物（土器）54



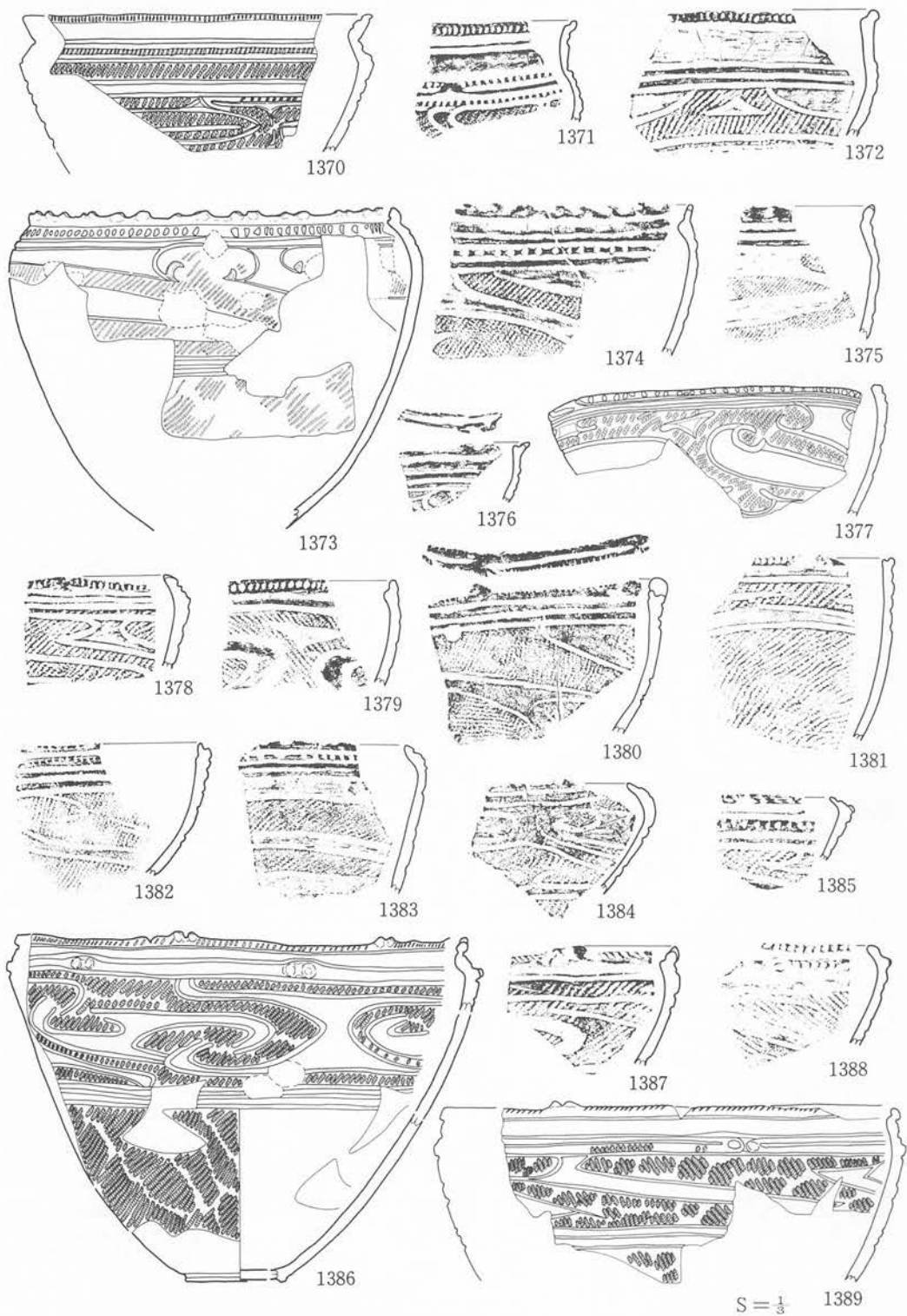
第134图 遺物包含層出土遺物（土器）55



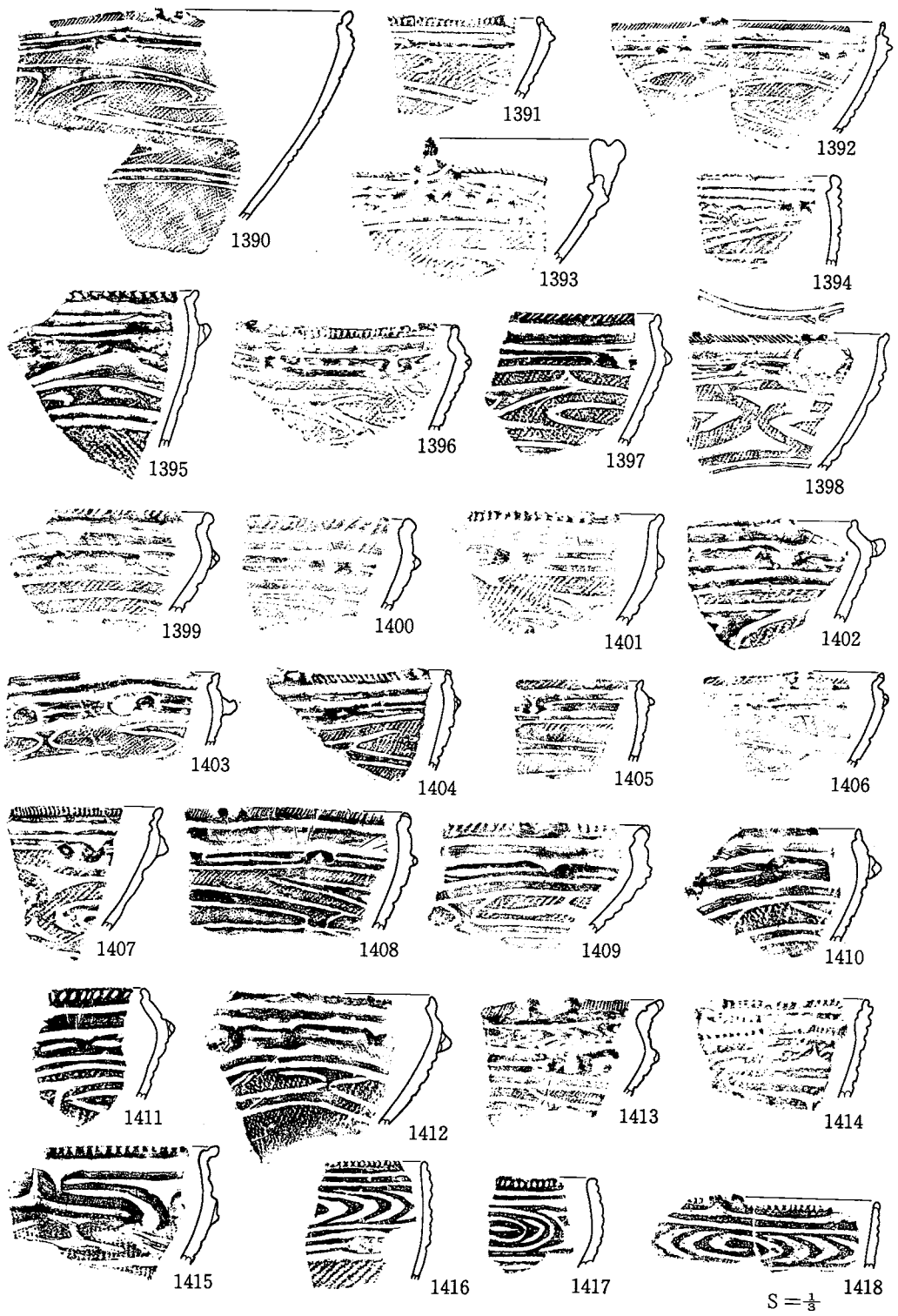
第135图 遺物包含層出土遺物(土器) 56



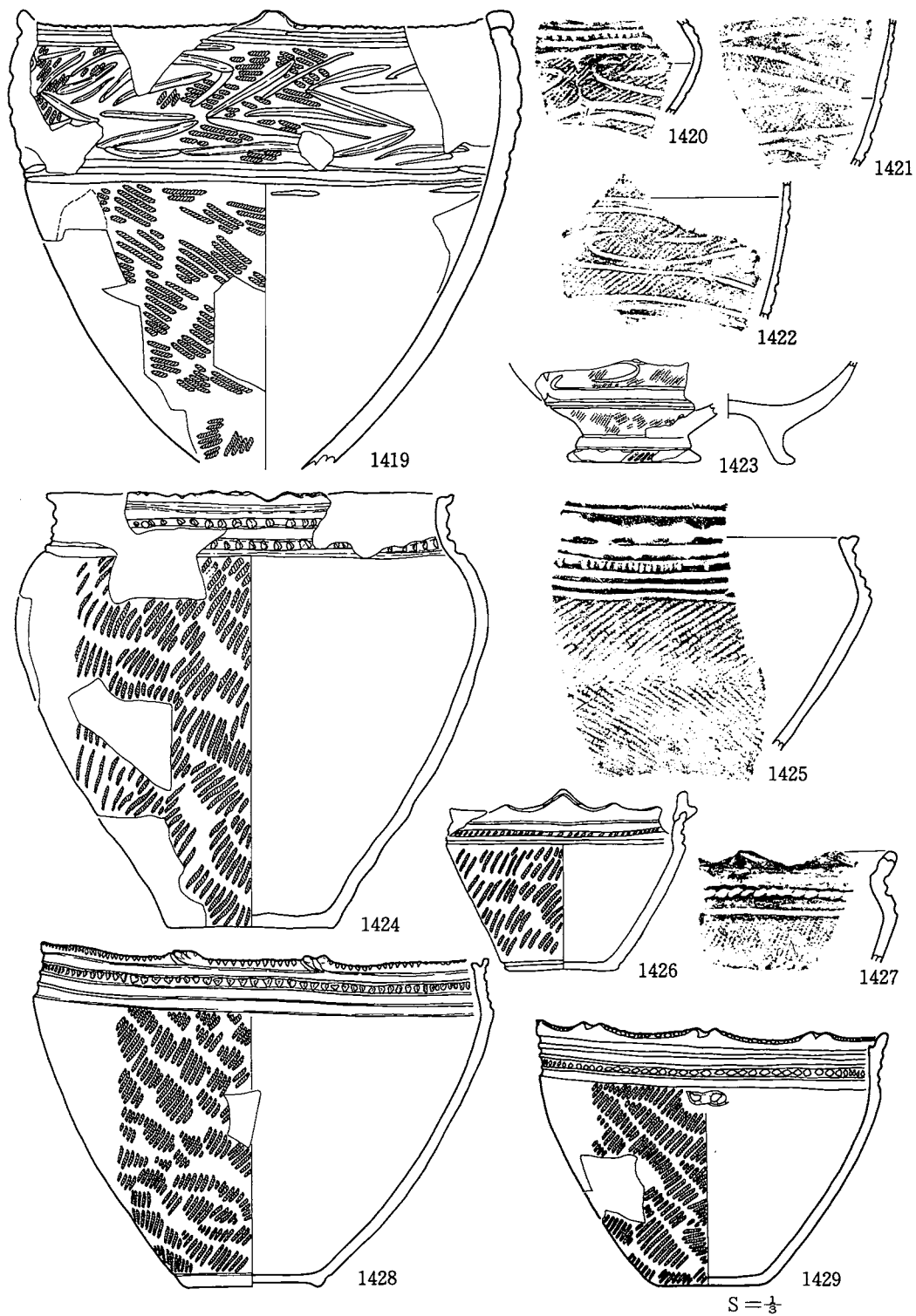
第136图 遺物包含層出土遺物（土器）57



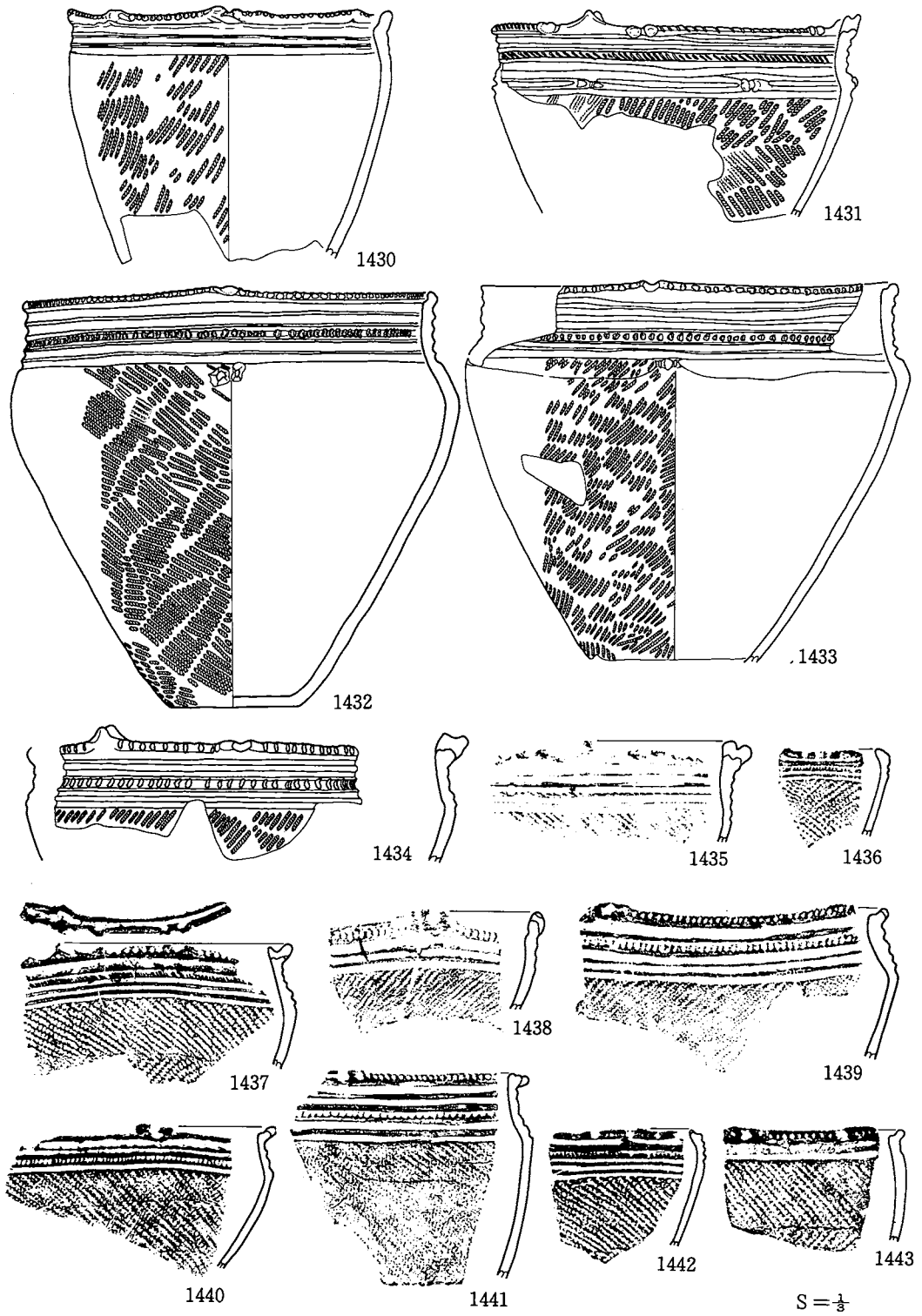
第137图 遺物包含層出土遺物（土器）58



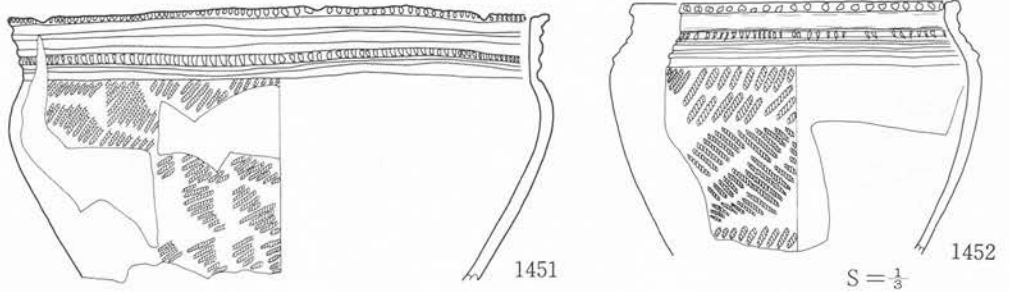
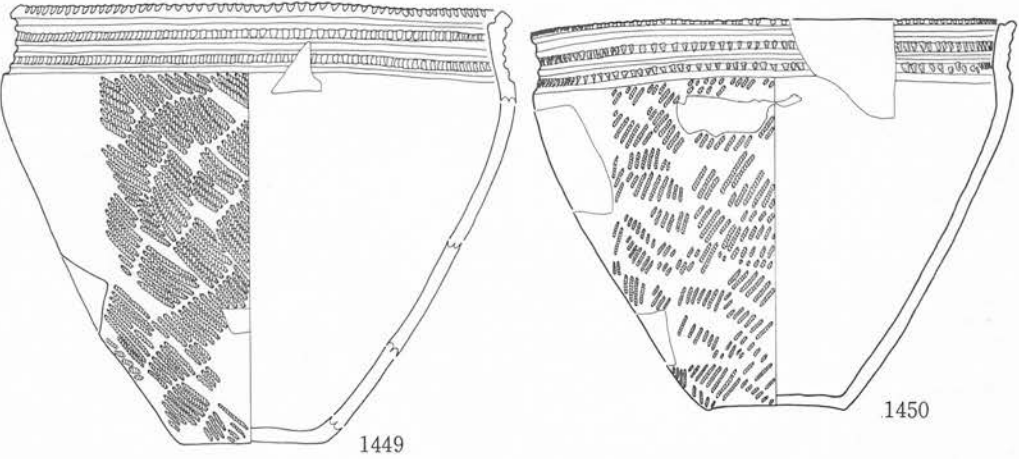
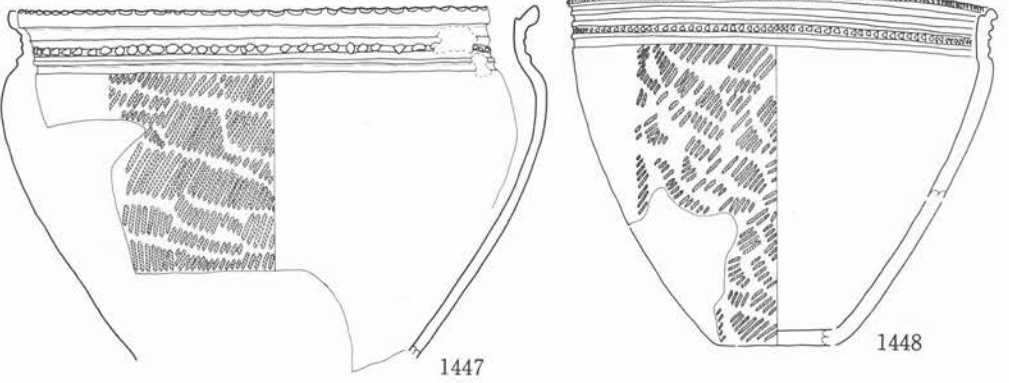
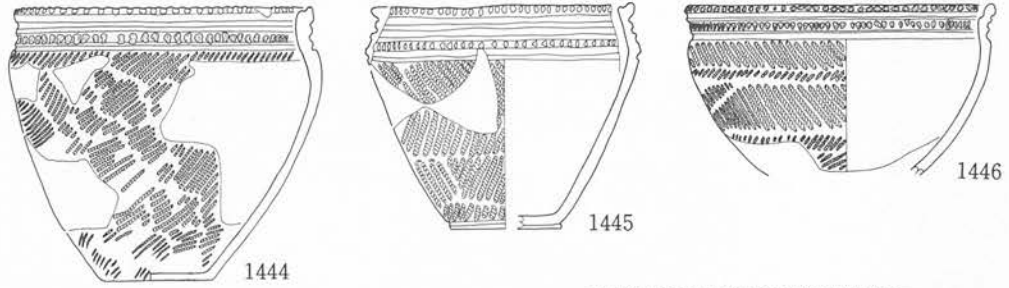
第138图 遺物包含層出土遺物（土器）59



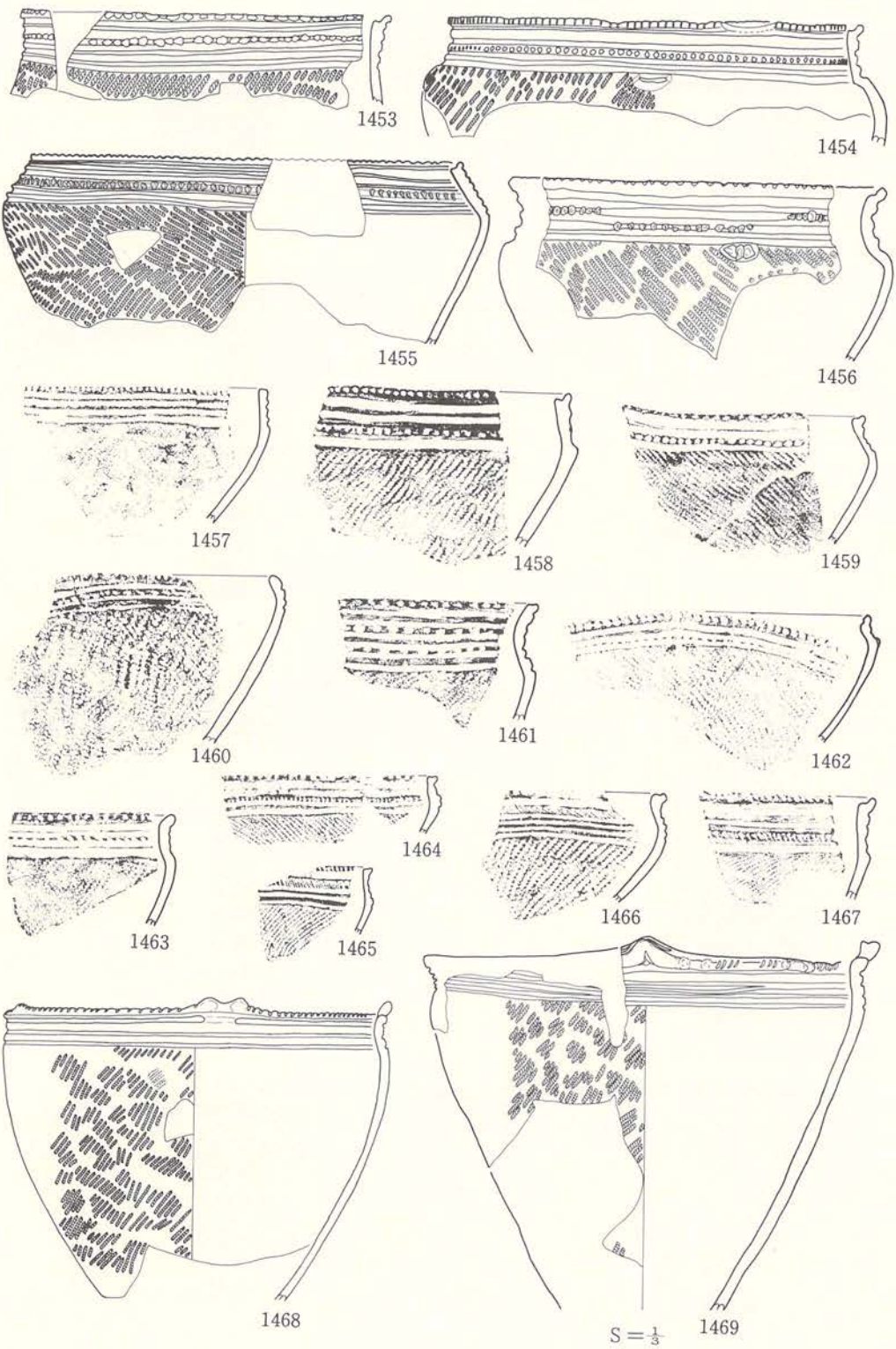
第139图 遺物包含層出土遺物（土器）60



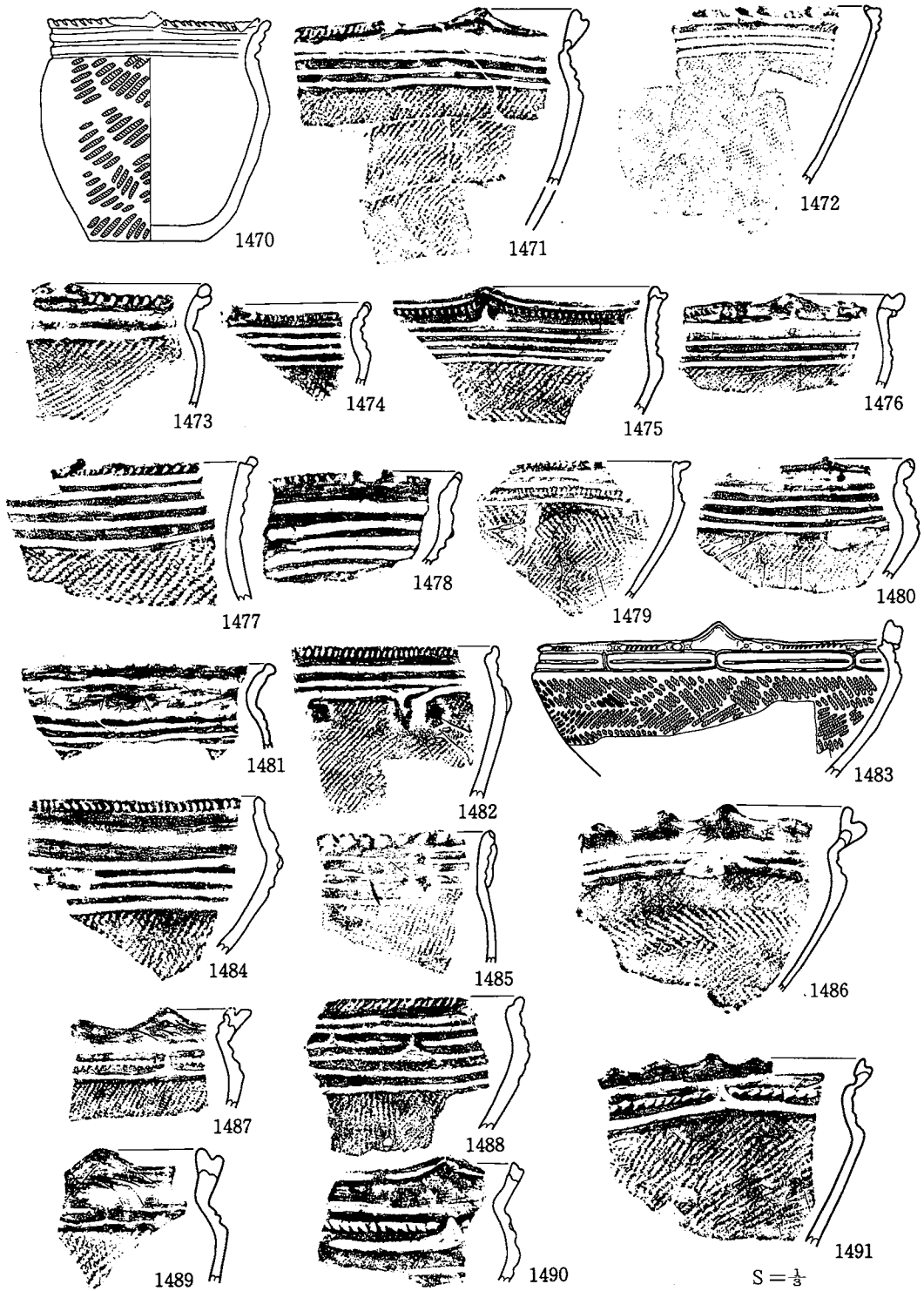
第140图 遺物包含層出土遺物（土器）61



第141図 遺物包含層出土遺物（土器）62

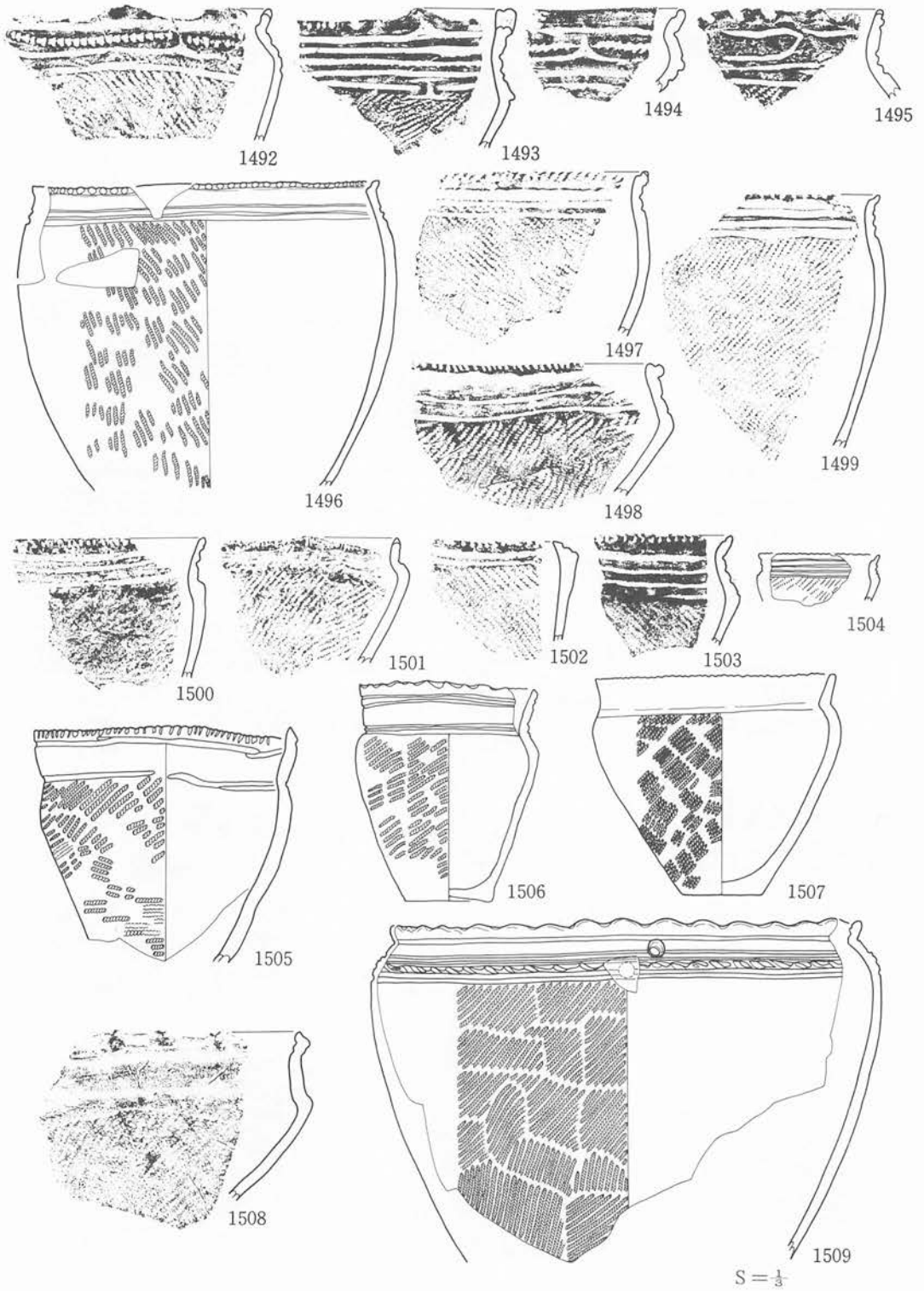


第142図 遺物包含層出土遺物（土器）63

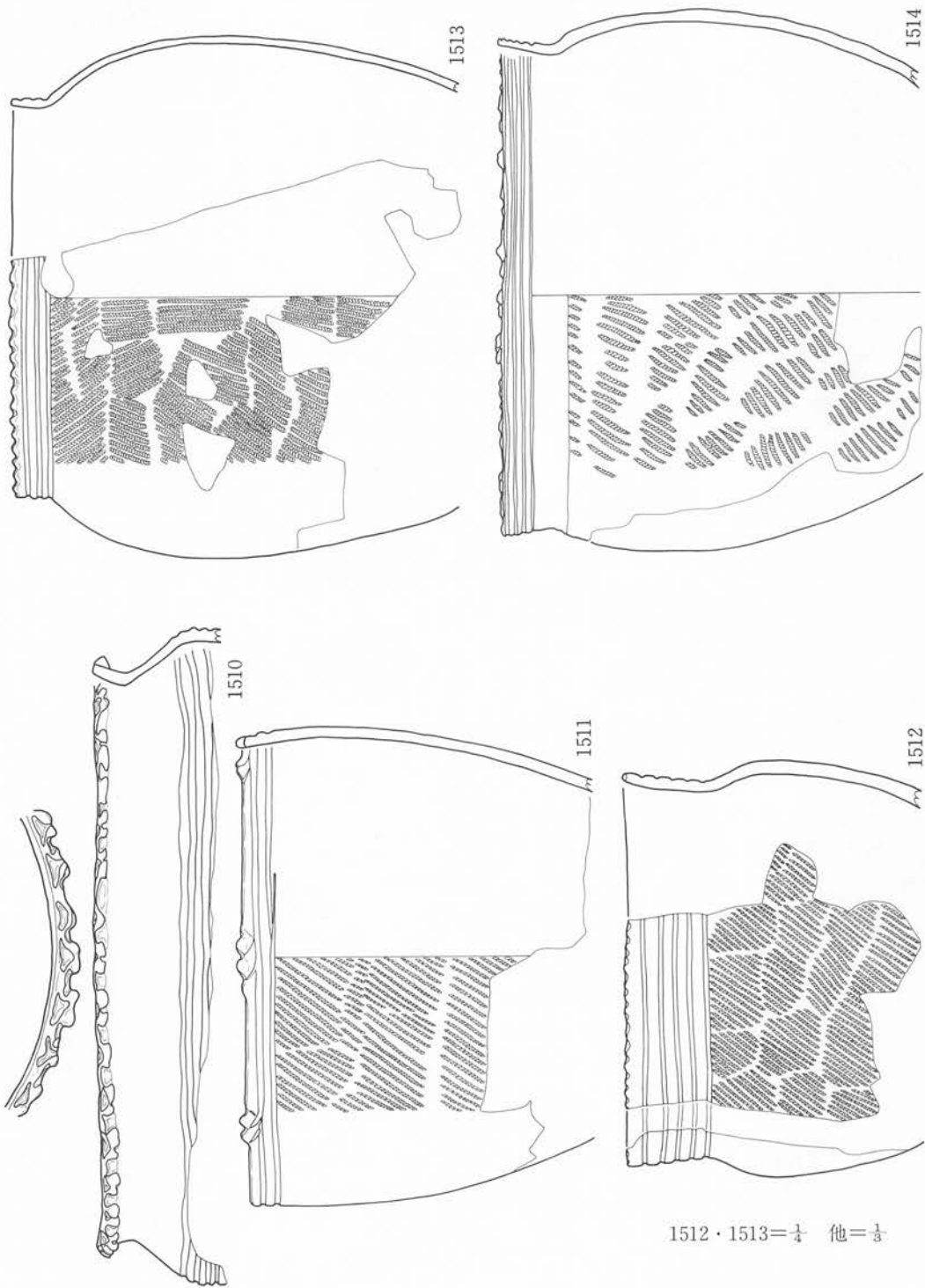


S = 1/3

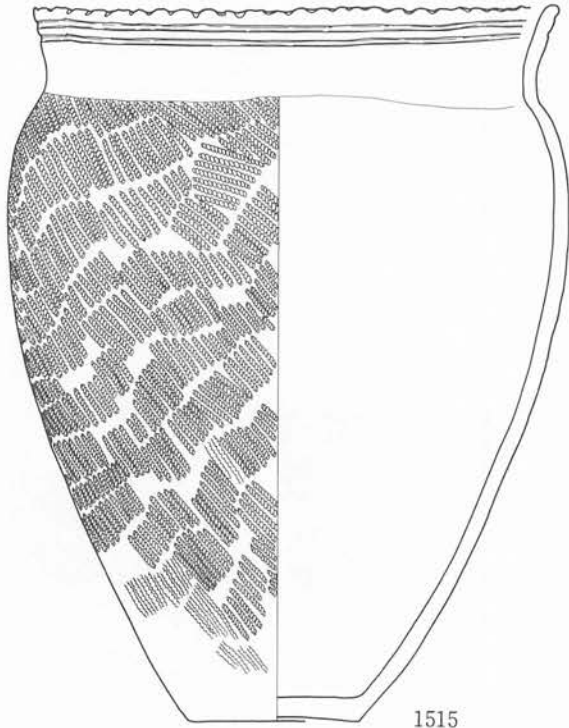
第143圖 遺物包含層出土遺物（土器）64



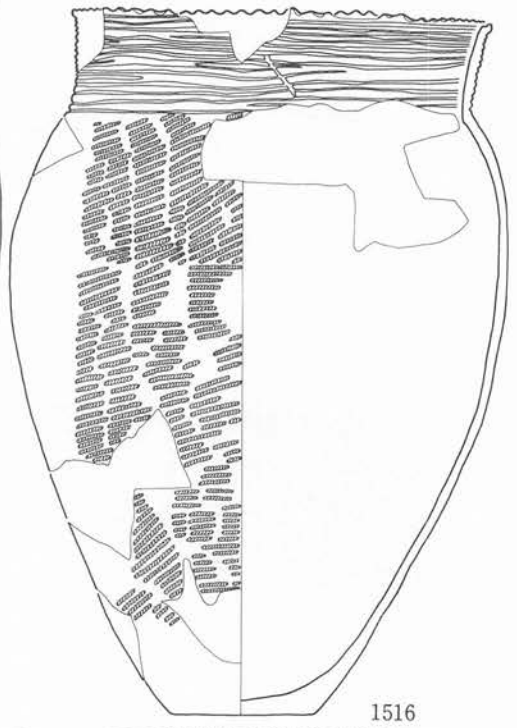
第144図 遺物包含層出土遺物（土器）65



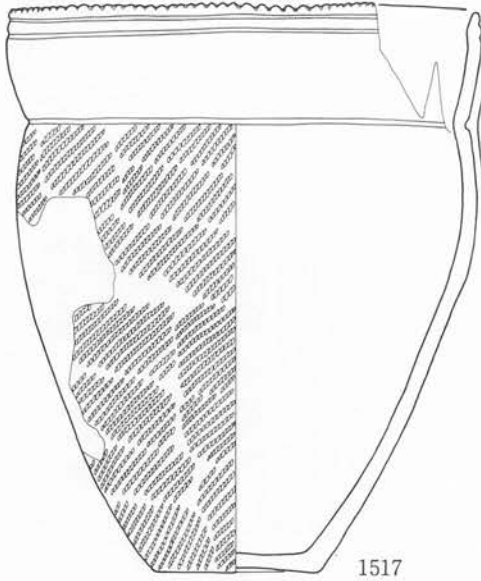
第145図 遺物包含層出土遺物（土器）66



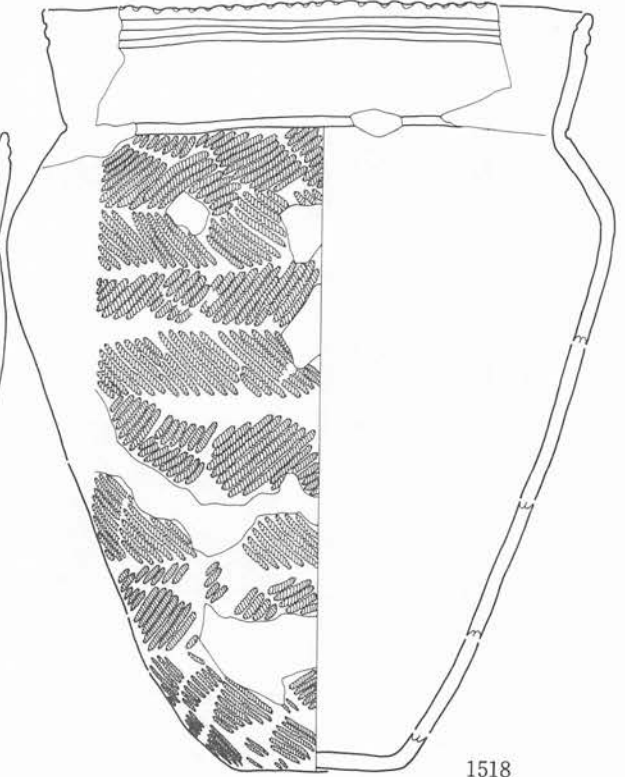
1515



1516



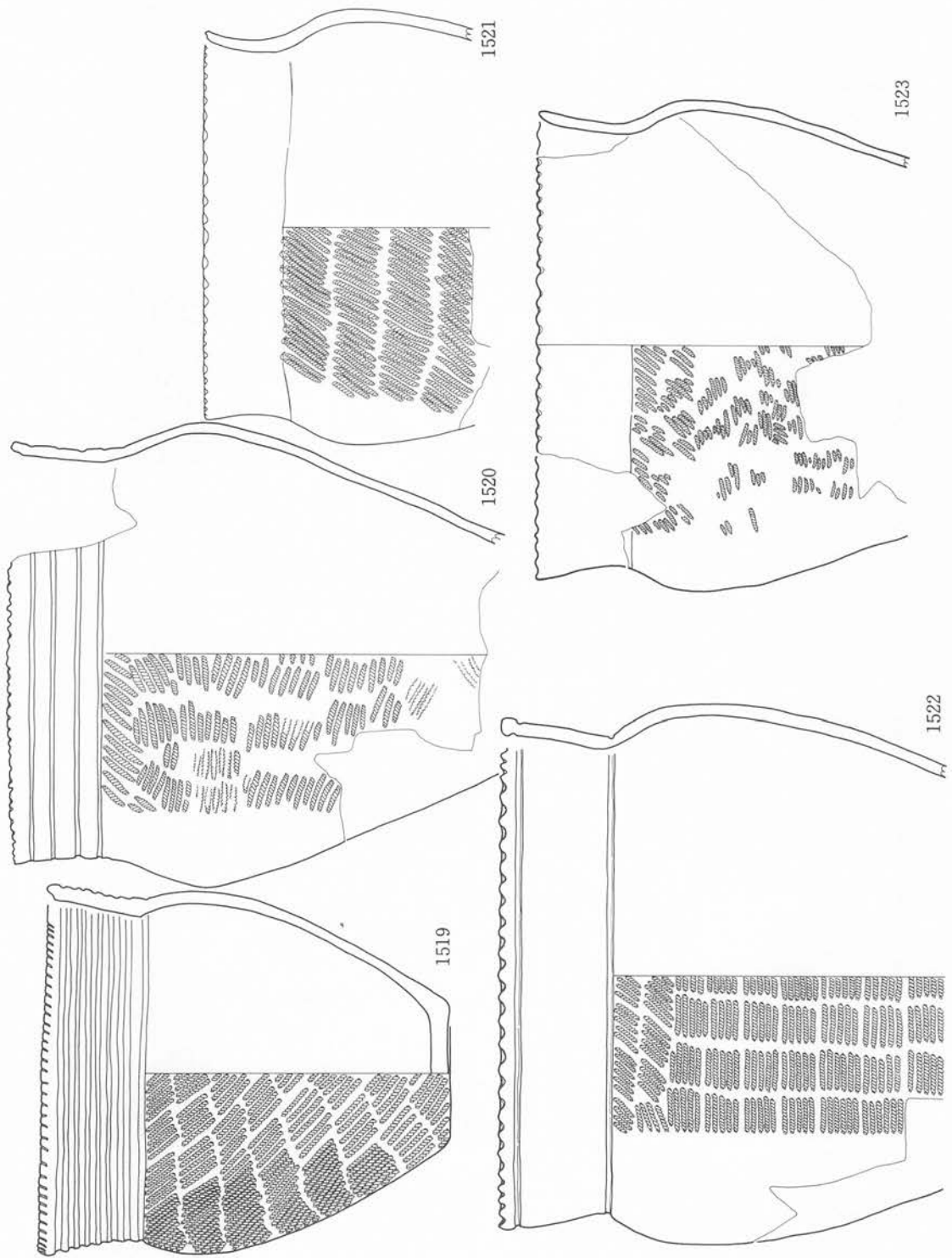
1517



1518

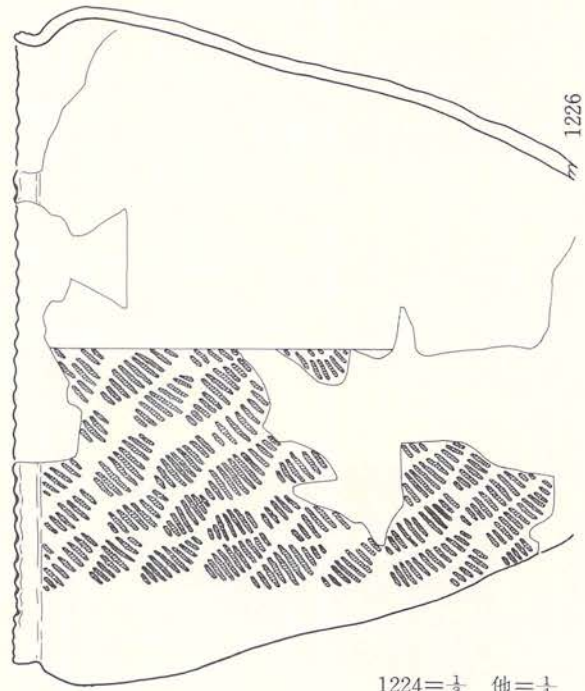
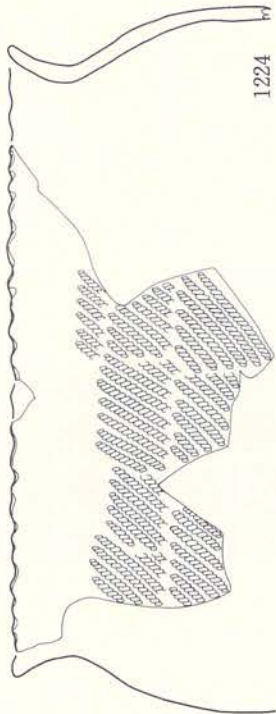
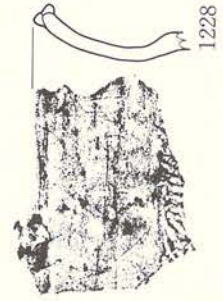
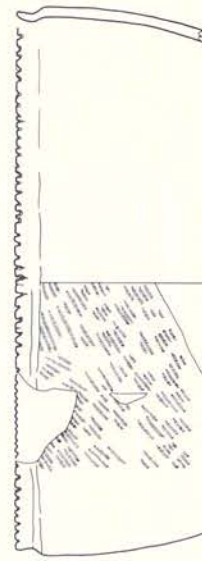
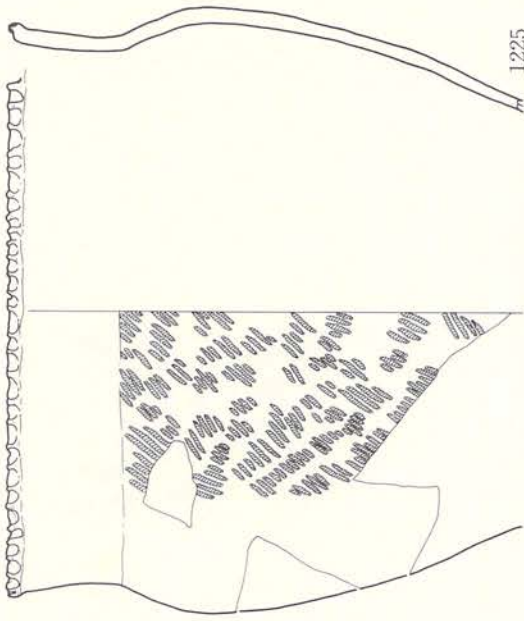
1517 = $\frac{1}{3}$ 他 = $\frac{1}{4}$

第146図 遺物包含層出土遺物（土器）67



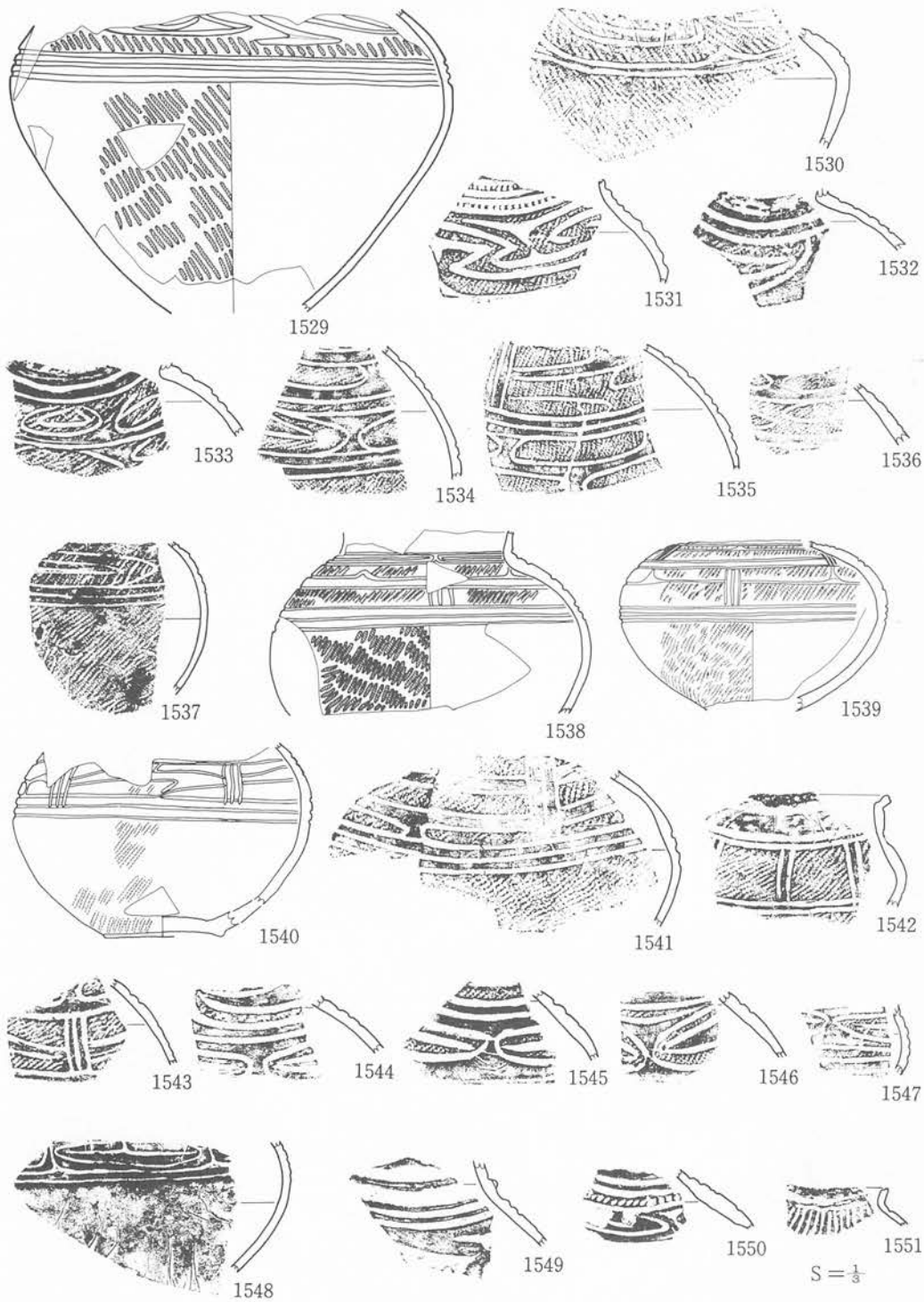
1519 = $\frac{1}{3}$ 他 = $\frac{1}{4}$

第147图 遺物包含層出土遺物（土器）68

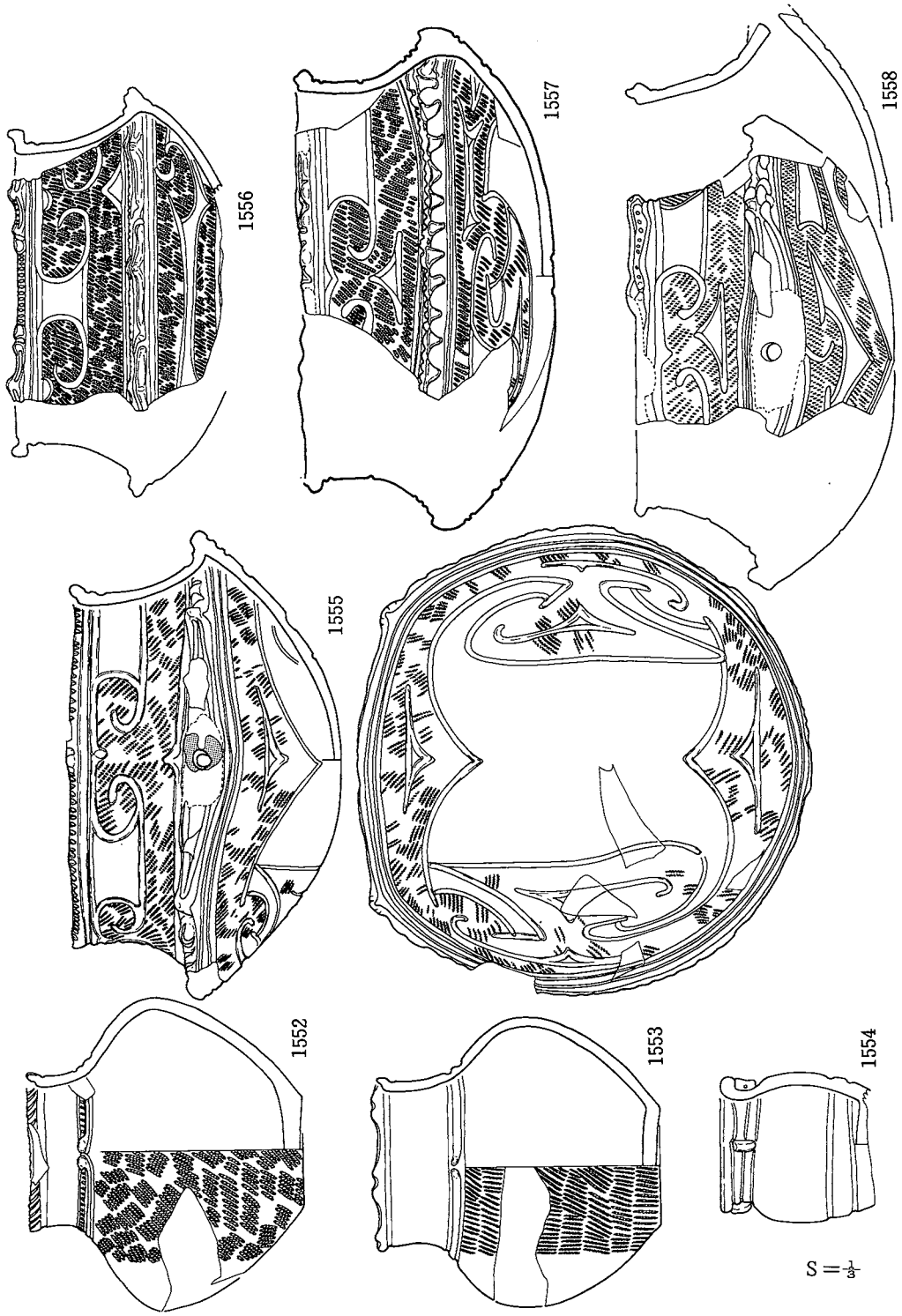


1224=1/3 他=1/4

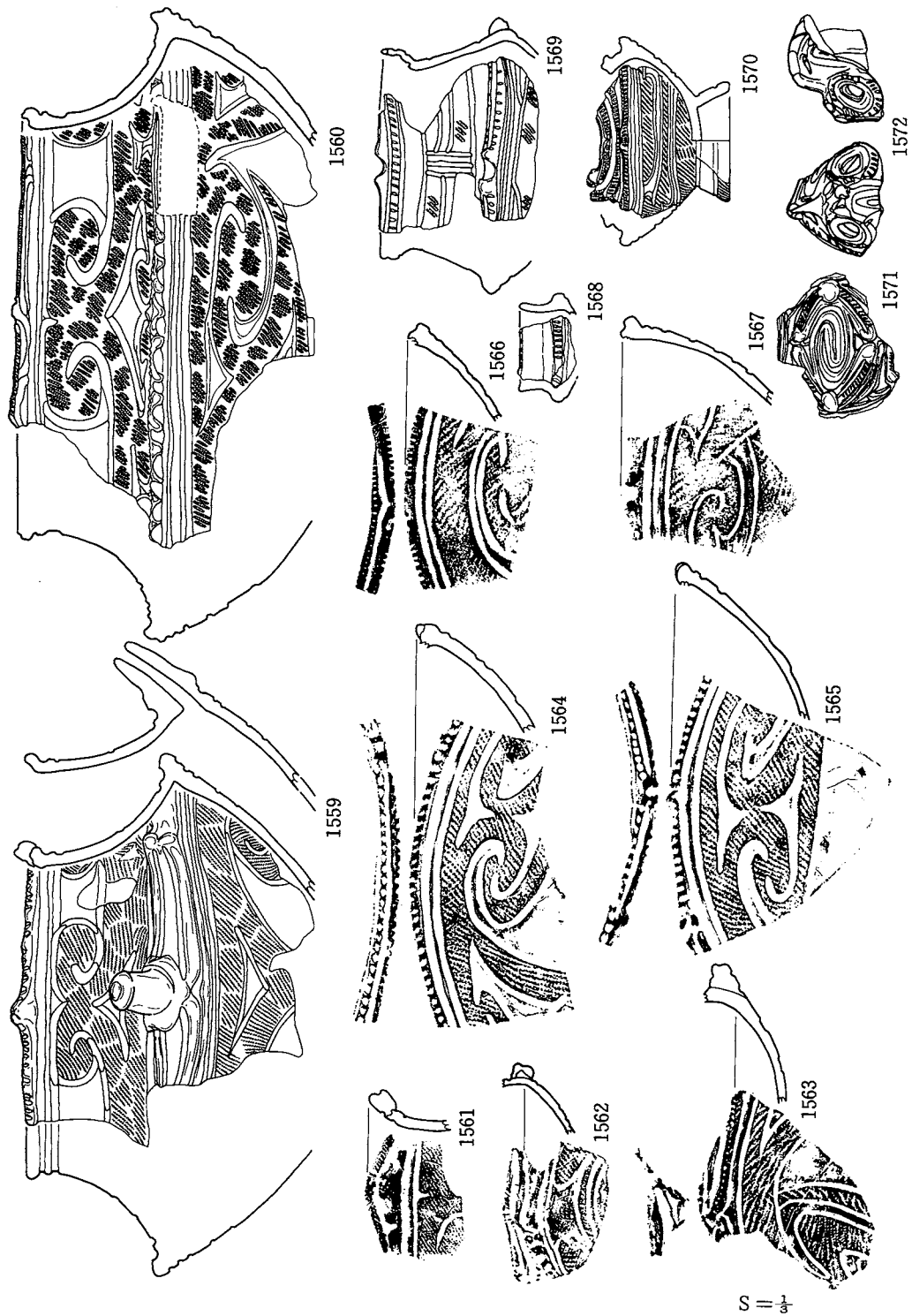
第148図 遺物包含層出土遺物（土器）69



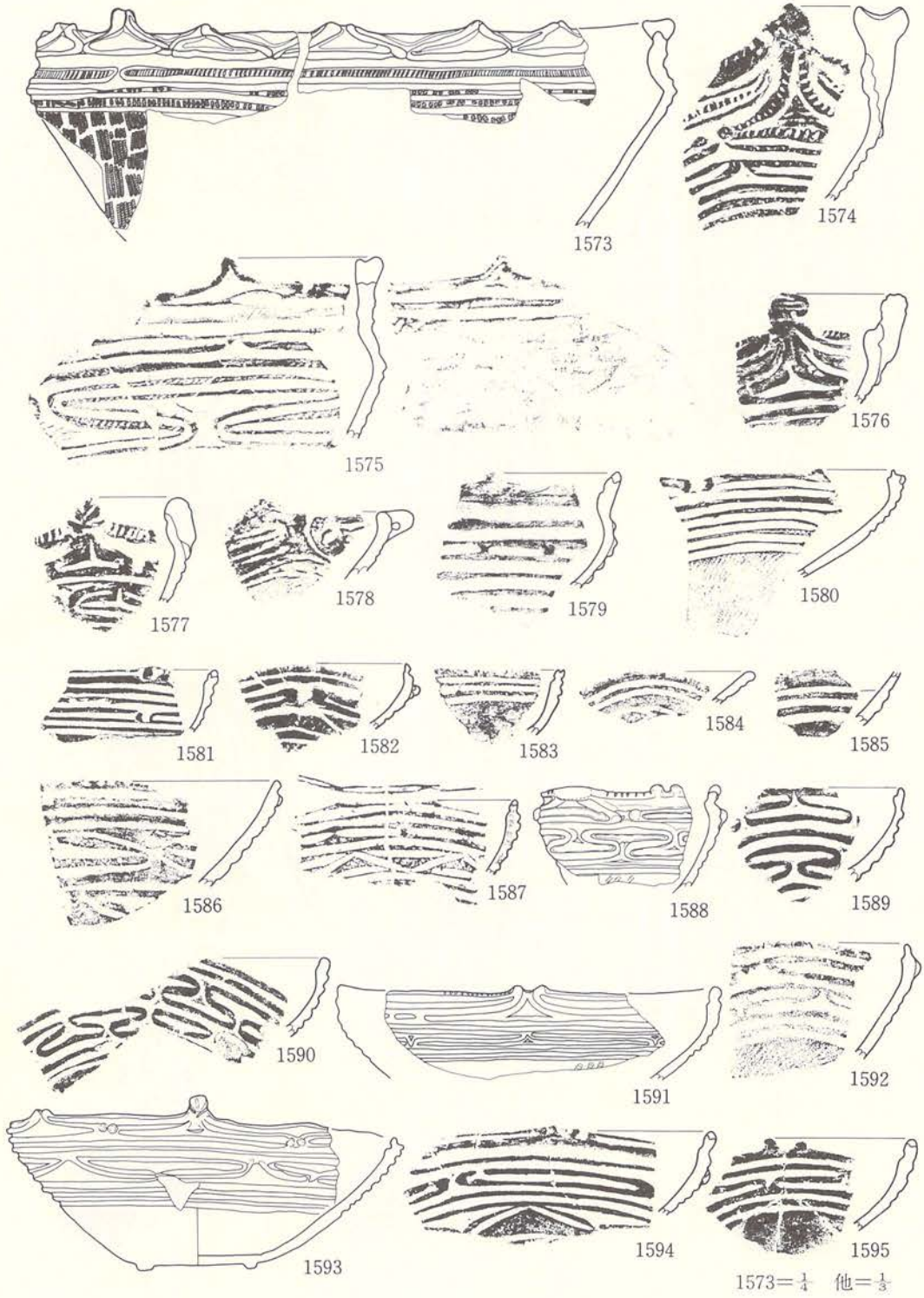
第149図 遺物包含層出土遺物（土器）70



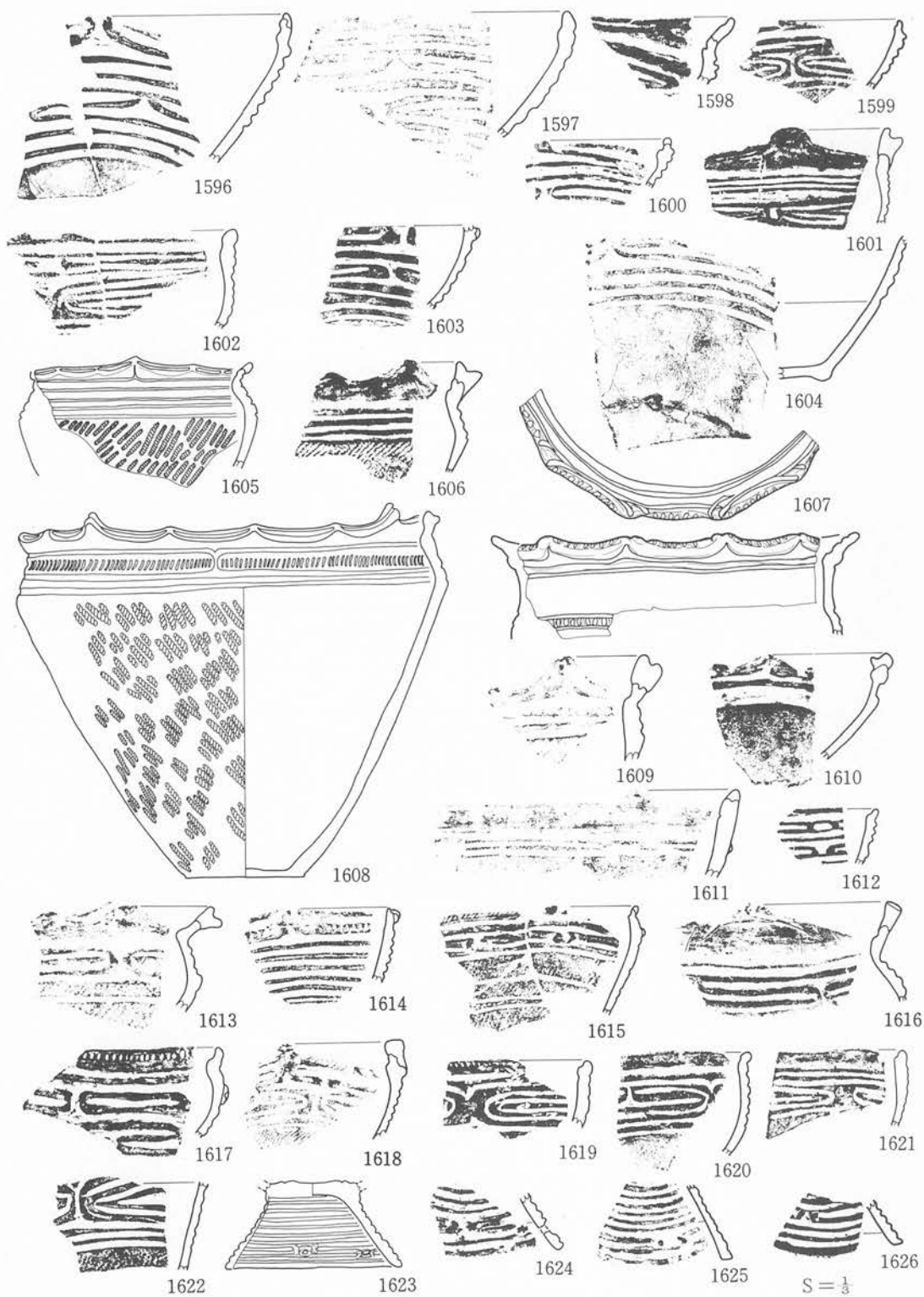
第150图 遗物包含层出土遗物（土器）71



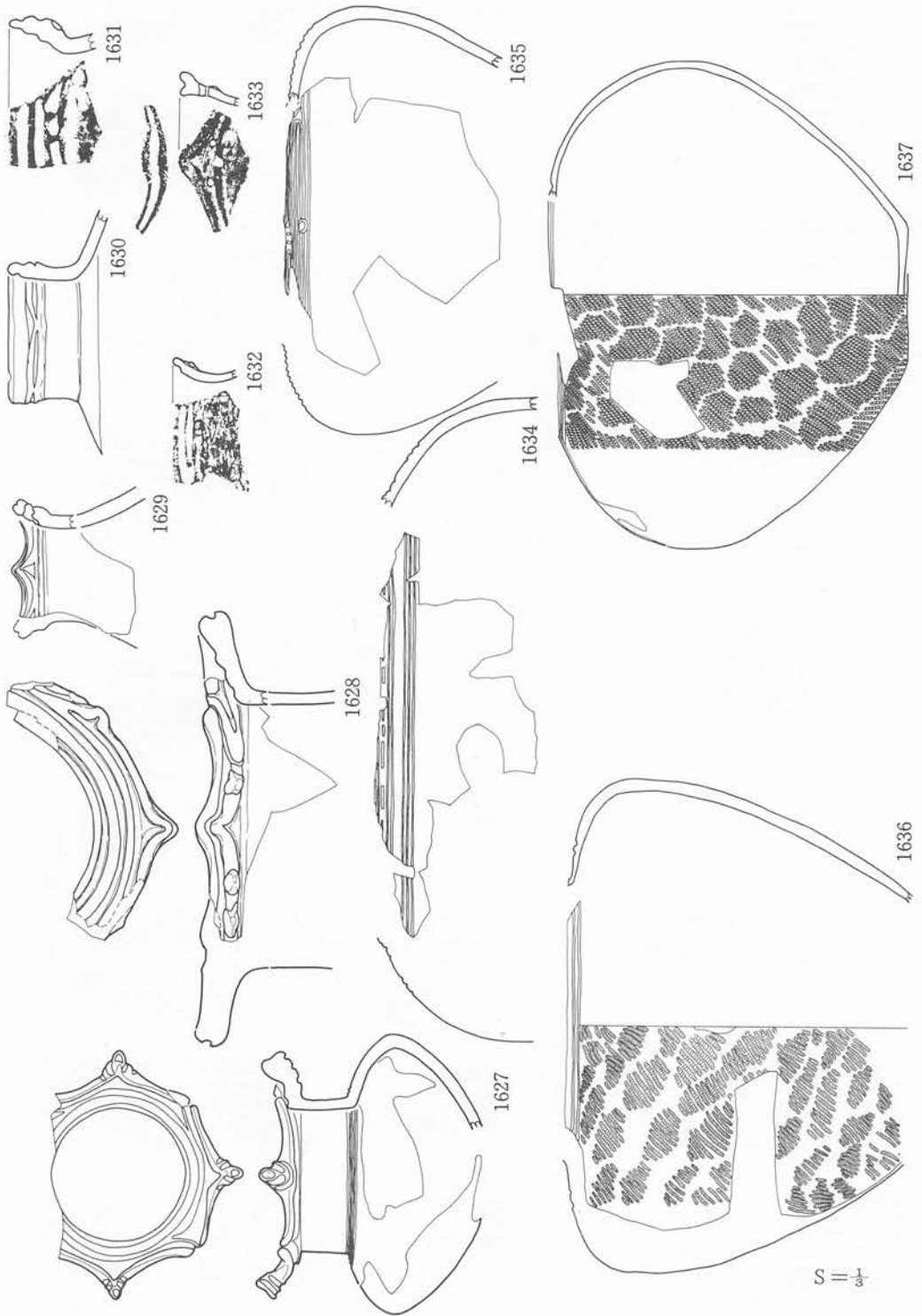
第151图 遺物包含層出土遺物（土器）72



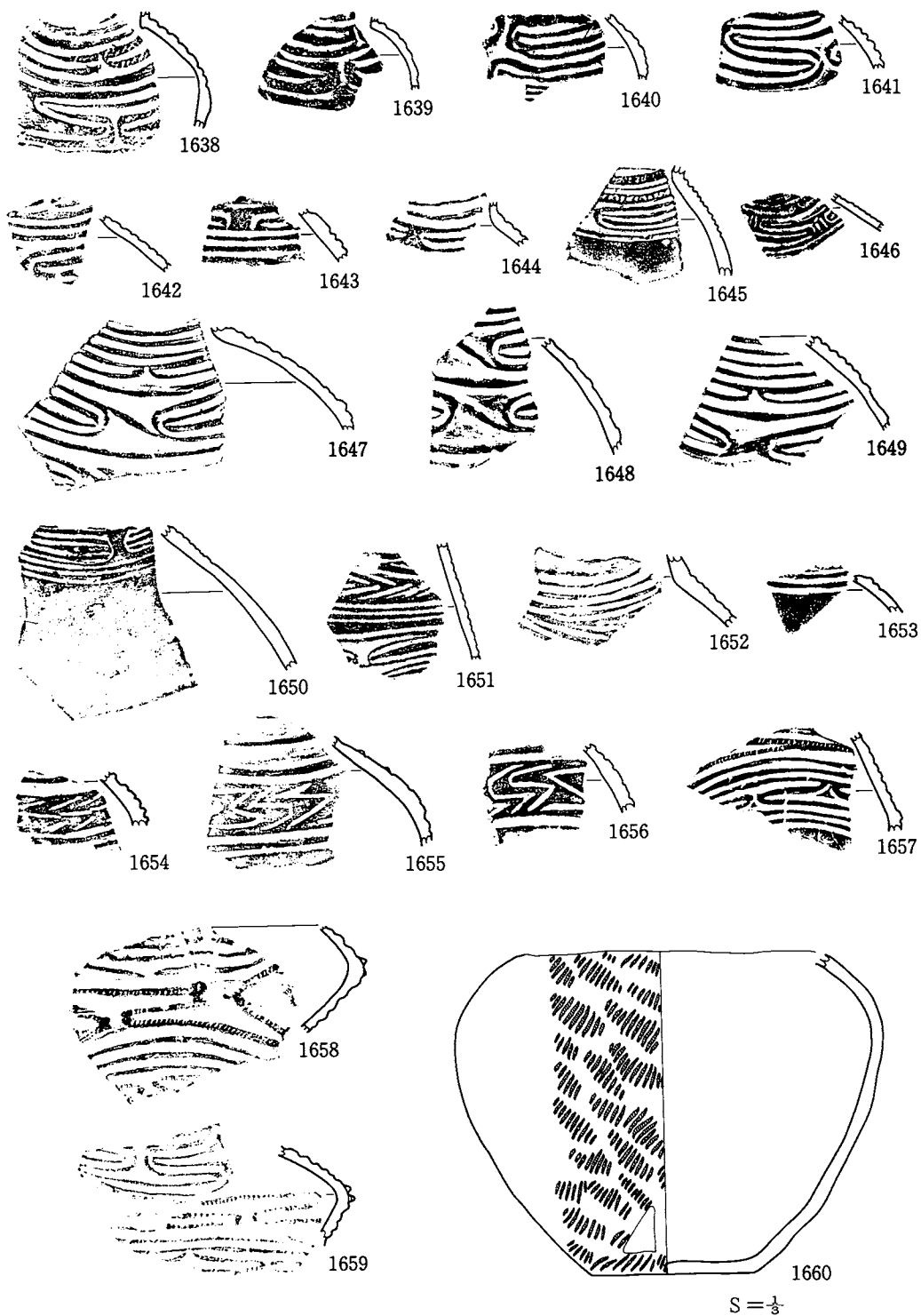
第152图 遺物包含層出土遺物（土器）73



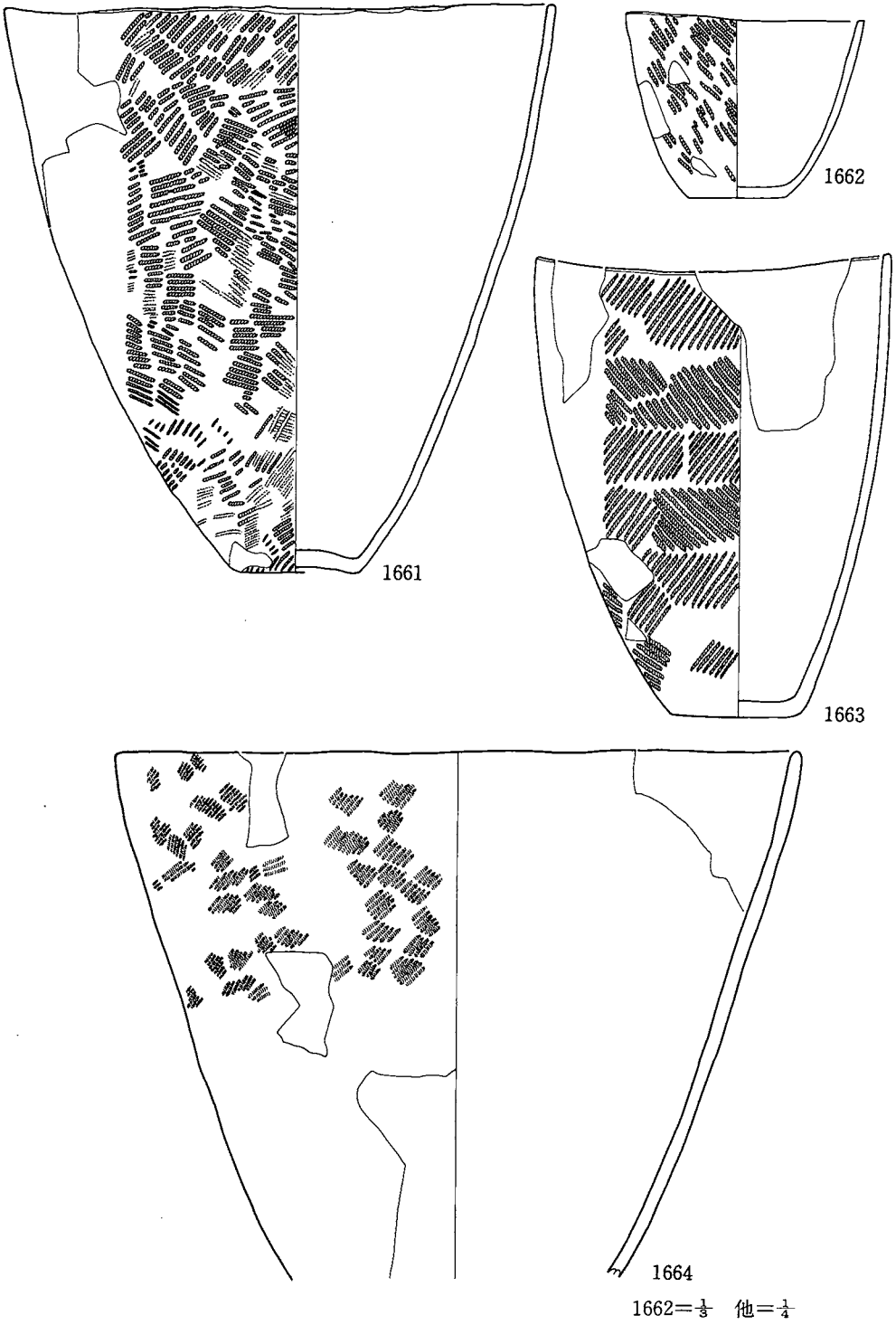
第153图 遺物包含層出土遺物（土器）74



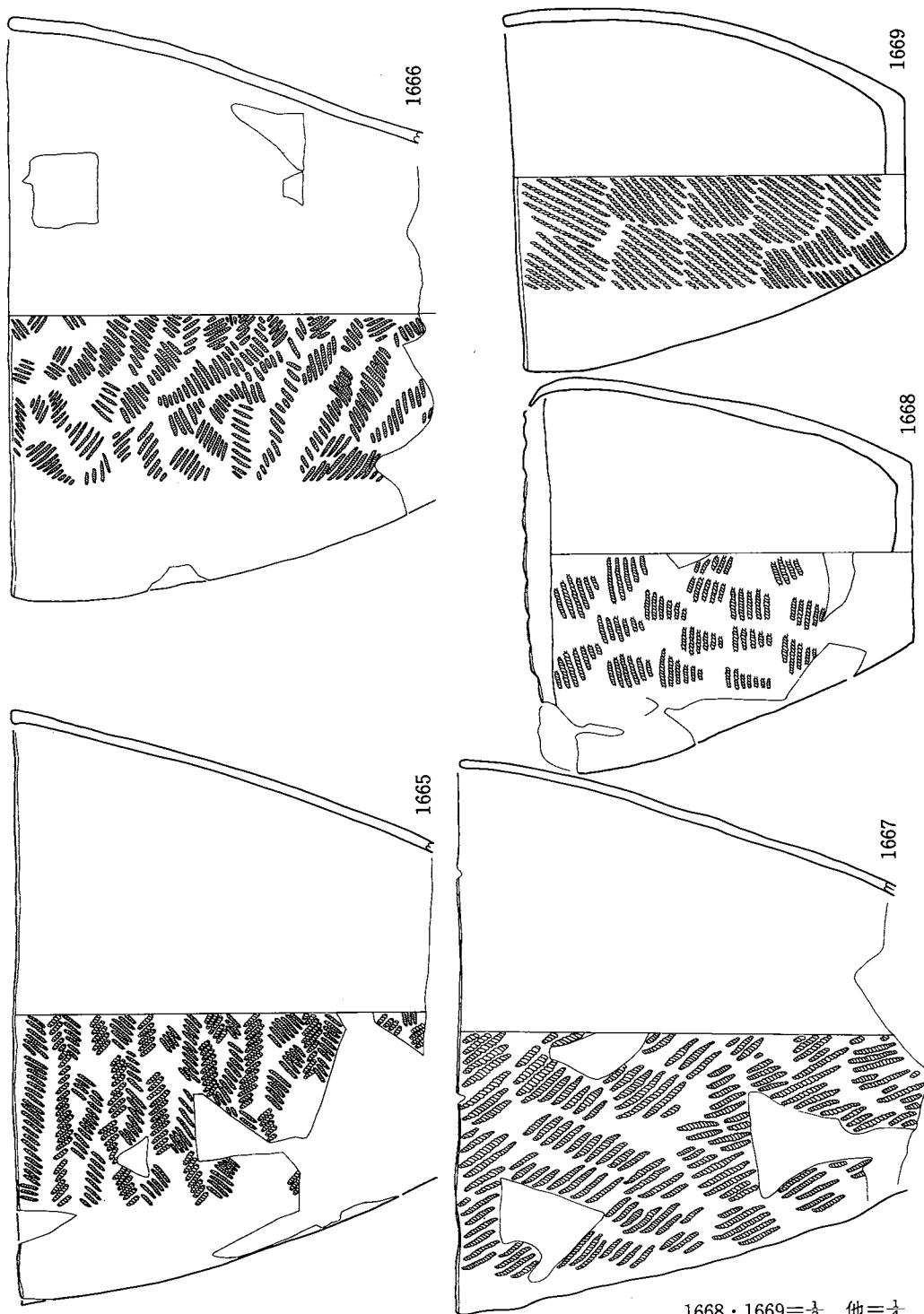
第154図 遺物包含層出土遺物（土器）75



第155圖 遺物包含層出土遺物（土器）76

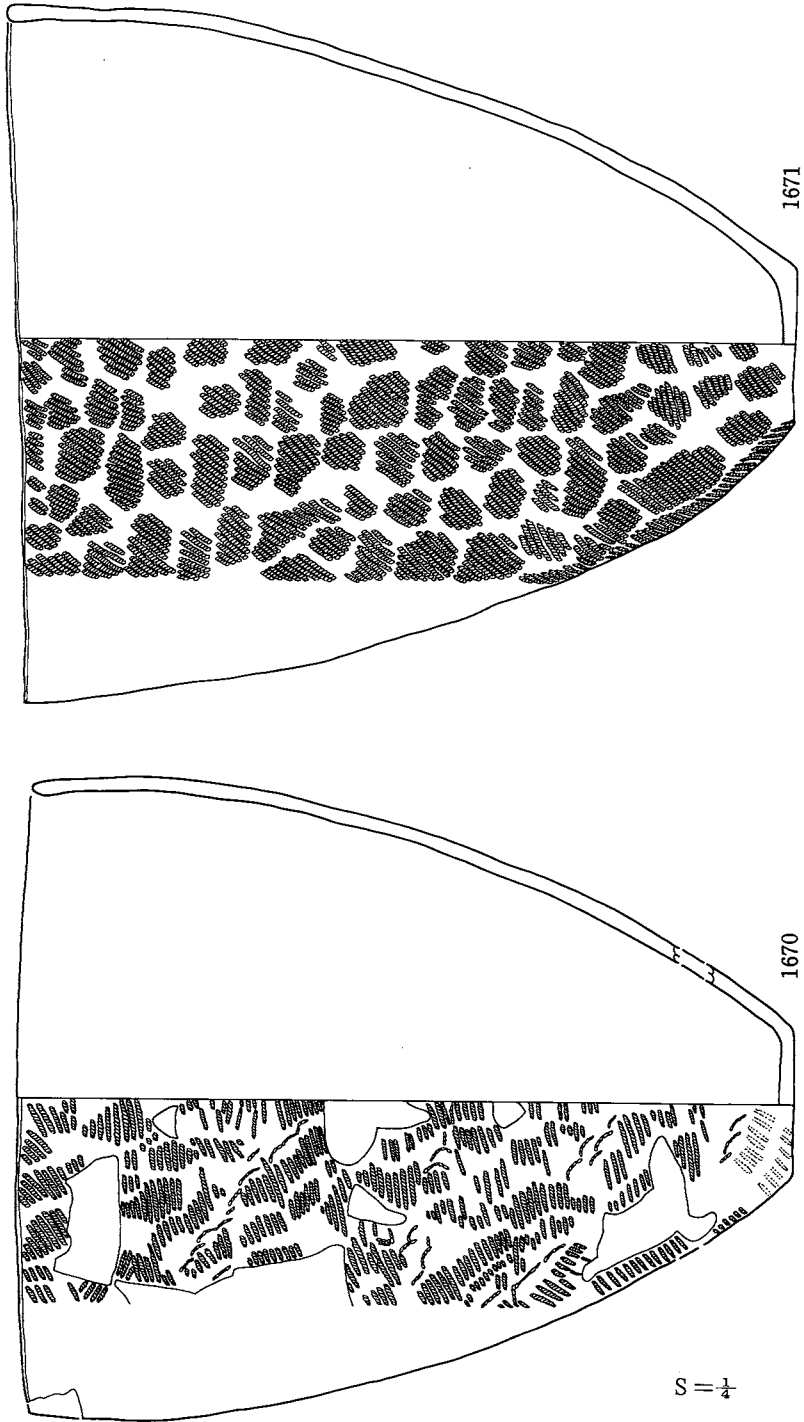


第156図 遺物包含層出土遺物（土器）77

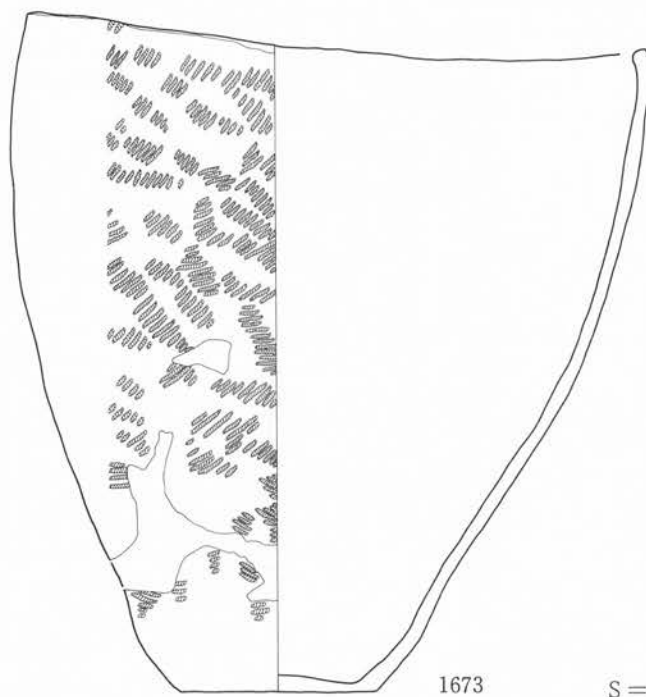
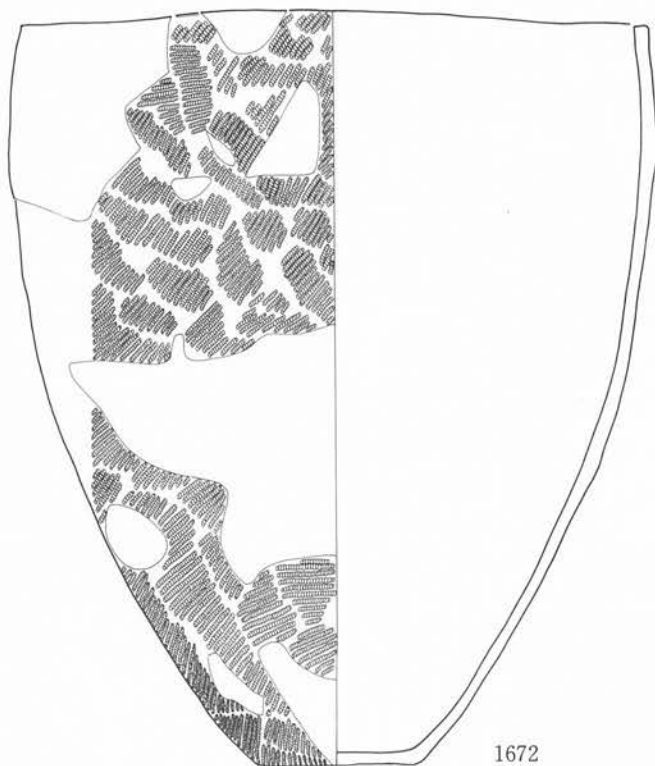


1668 · 1669 = $\frac{1}{3}$ 他 = $\frac{1}{4}$

第157图 遺物包含層出土遺物（土器）78

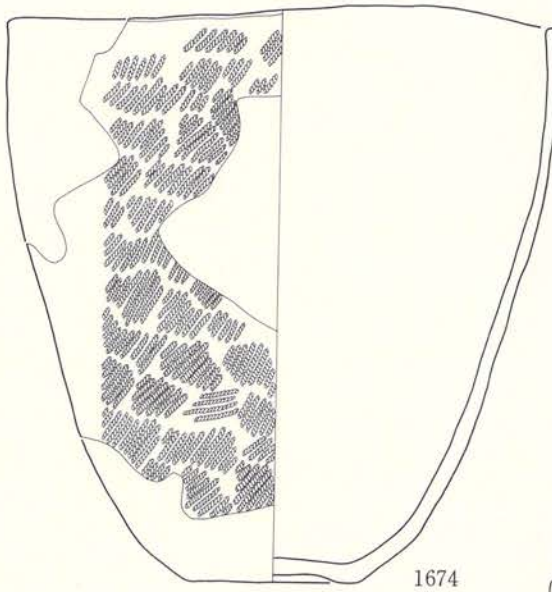


第158図 遺物包含層出土遺物（土器）79

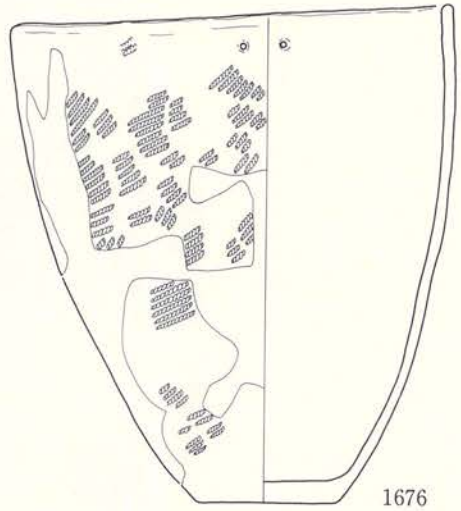


S = $\frac{1}{4}$

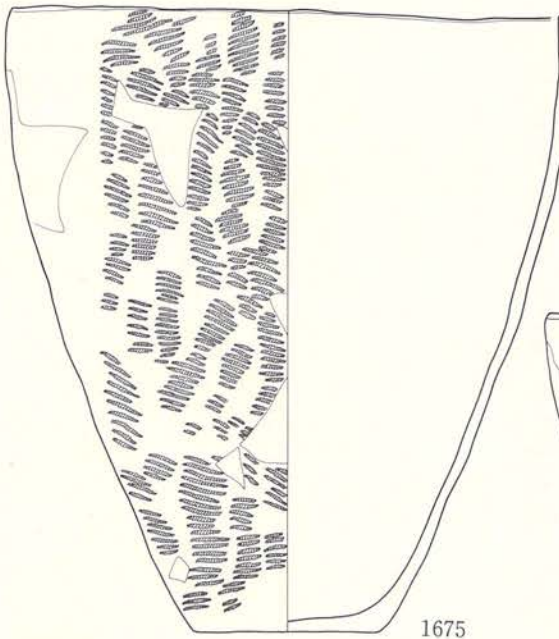
第159図 遺物包含層出土遺物（土器）80



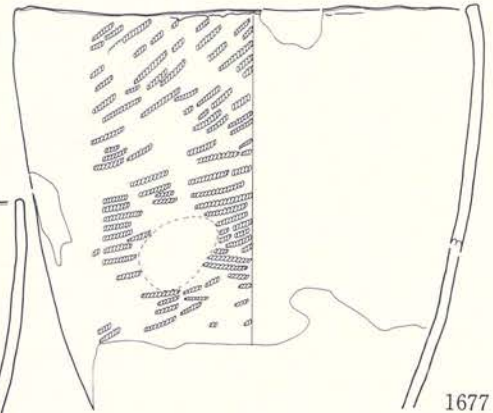
1674



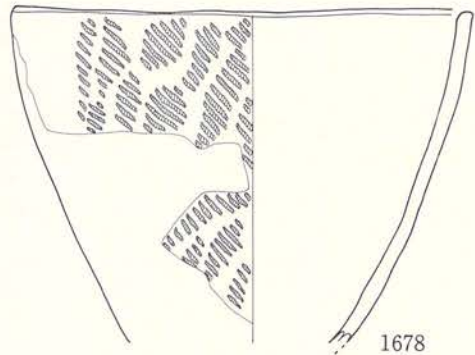
1676



1675



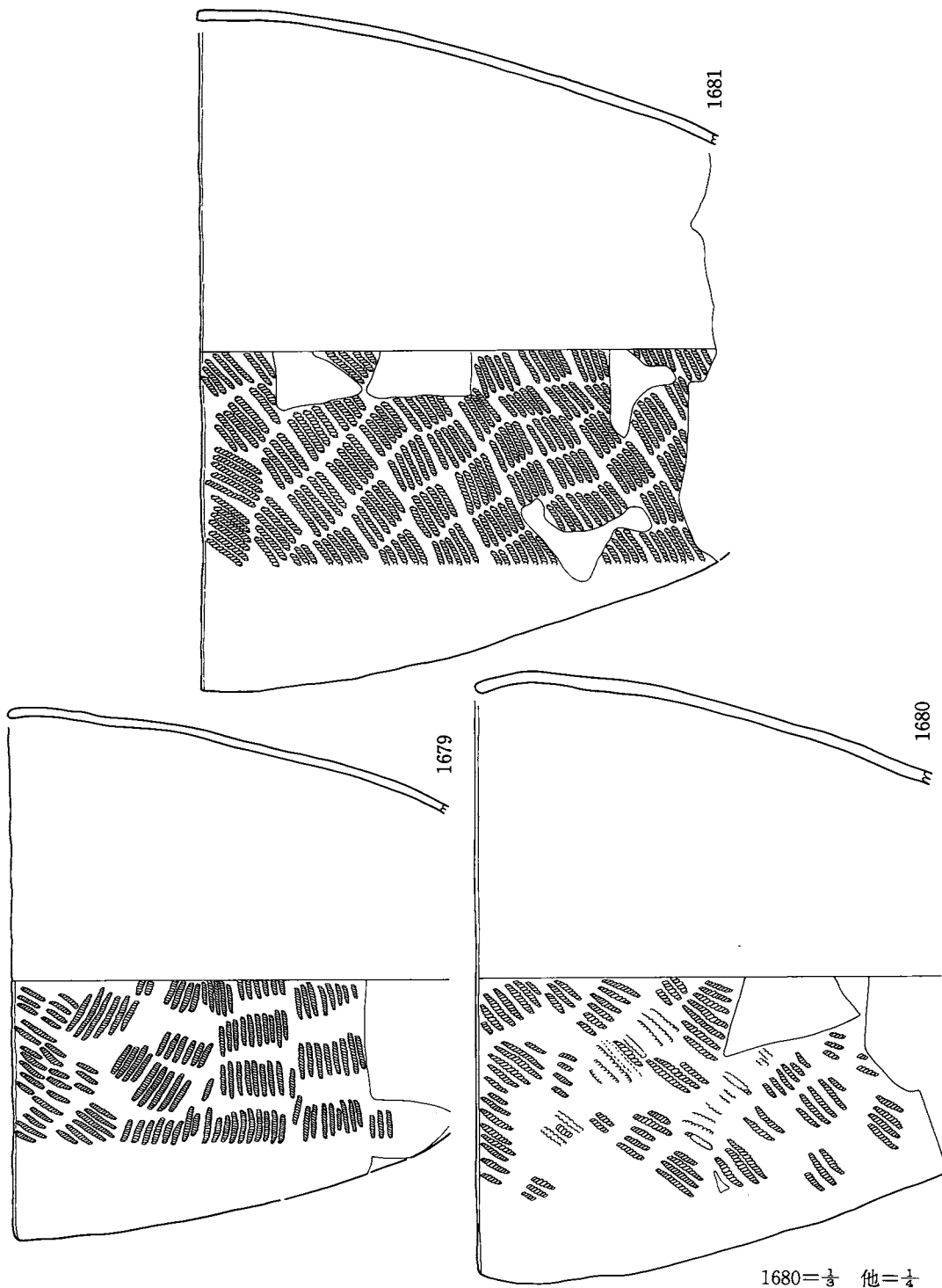
1677



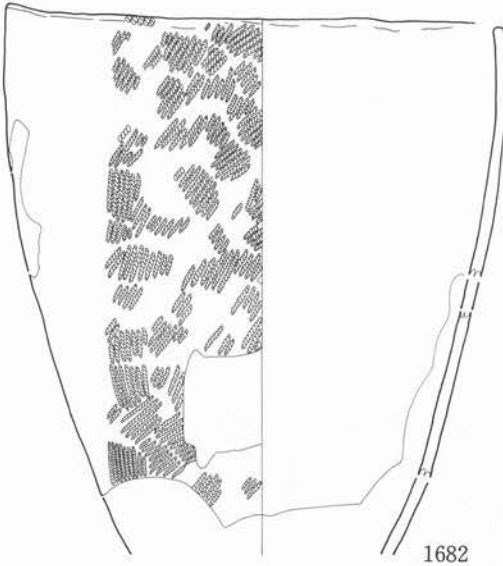
1678

1674 · 1678 = $\frac{1}{2}$ 他 = $\frac{1}{4}$

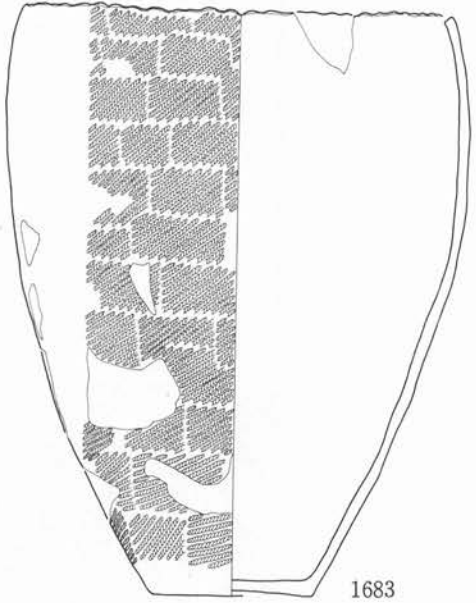
第160図 遺物包含層出土遺物（土器）81



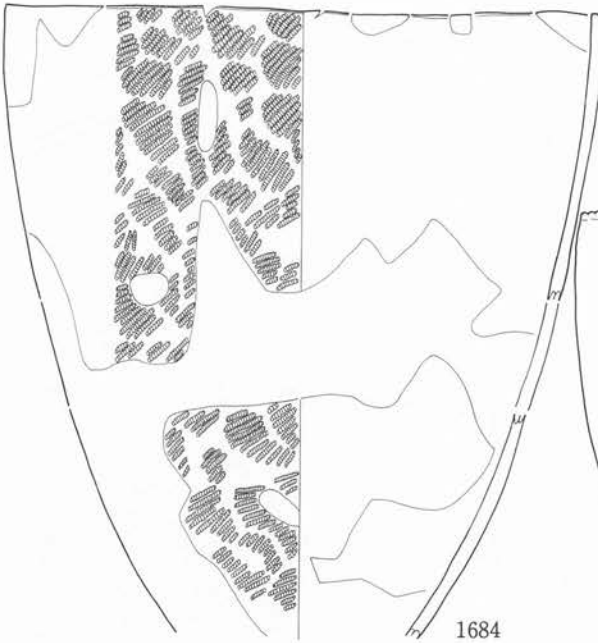
第161図 遺物包含層出土遺物（土器）82



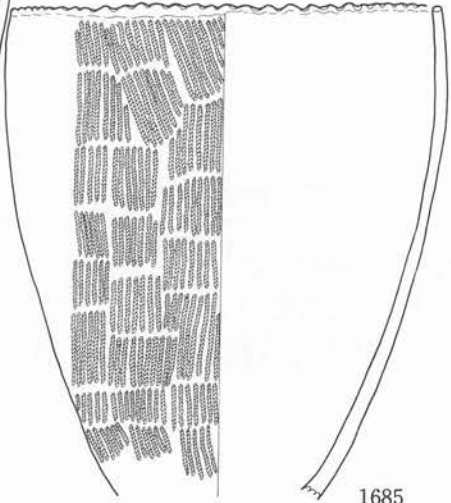
1682



1683



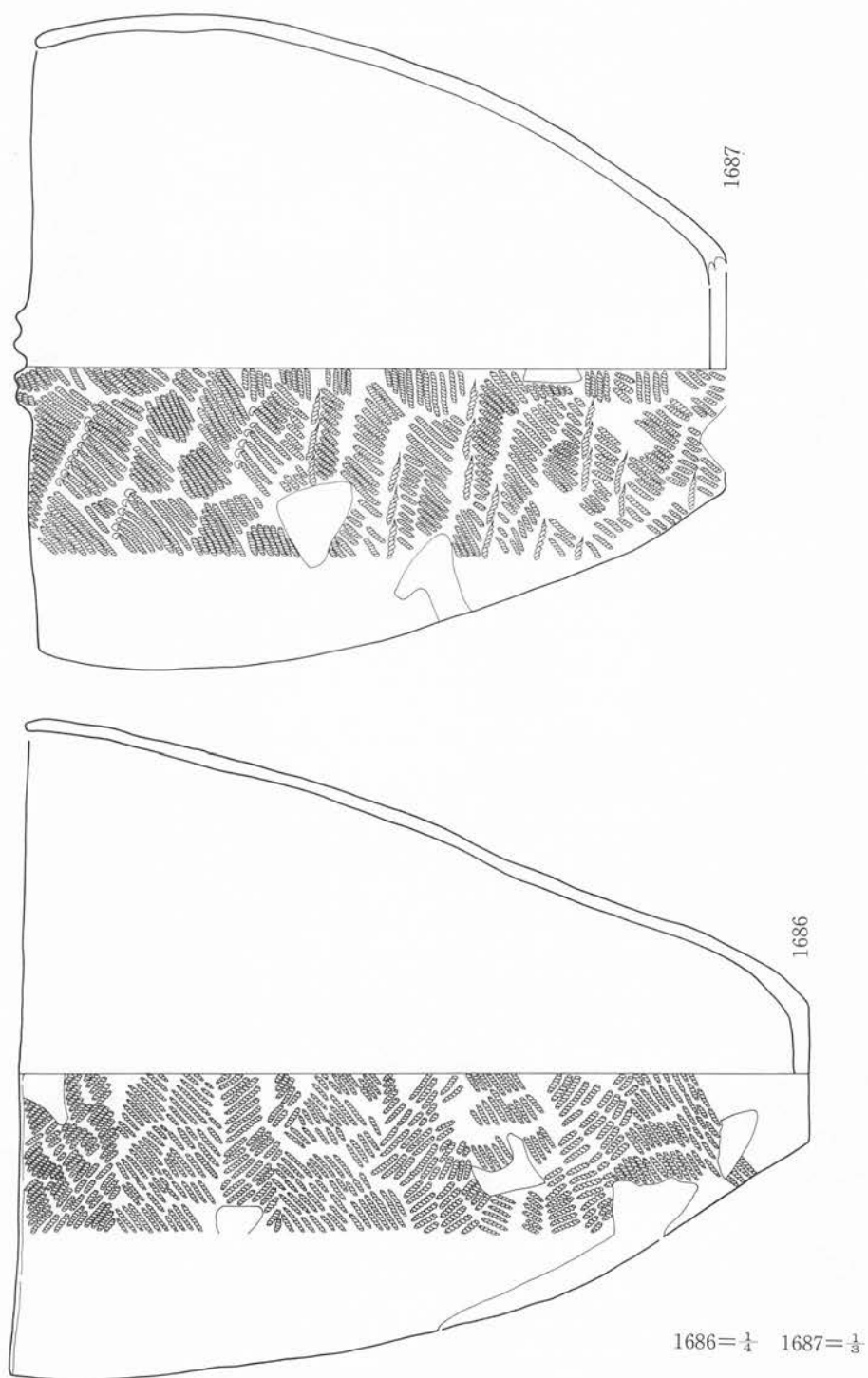
1684



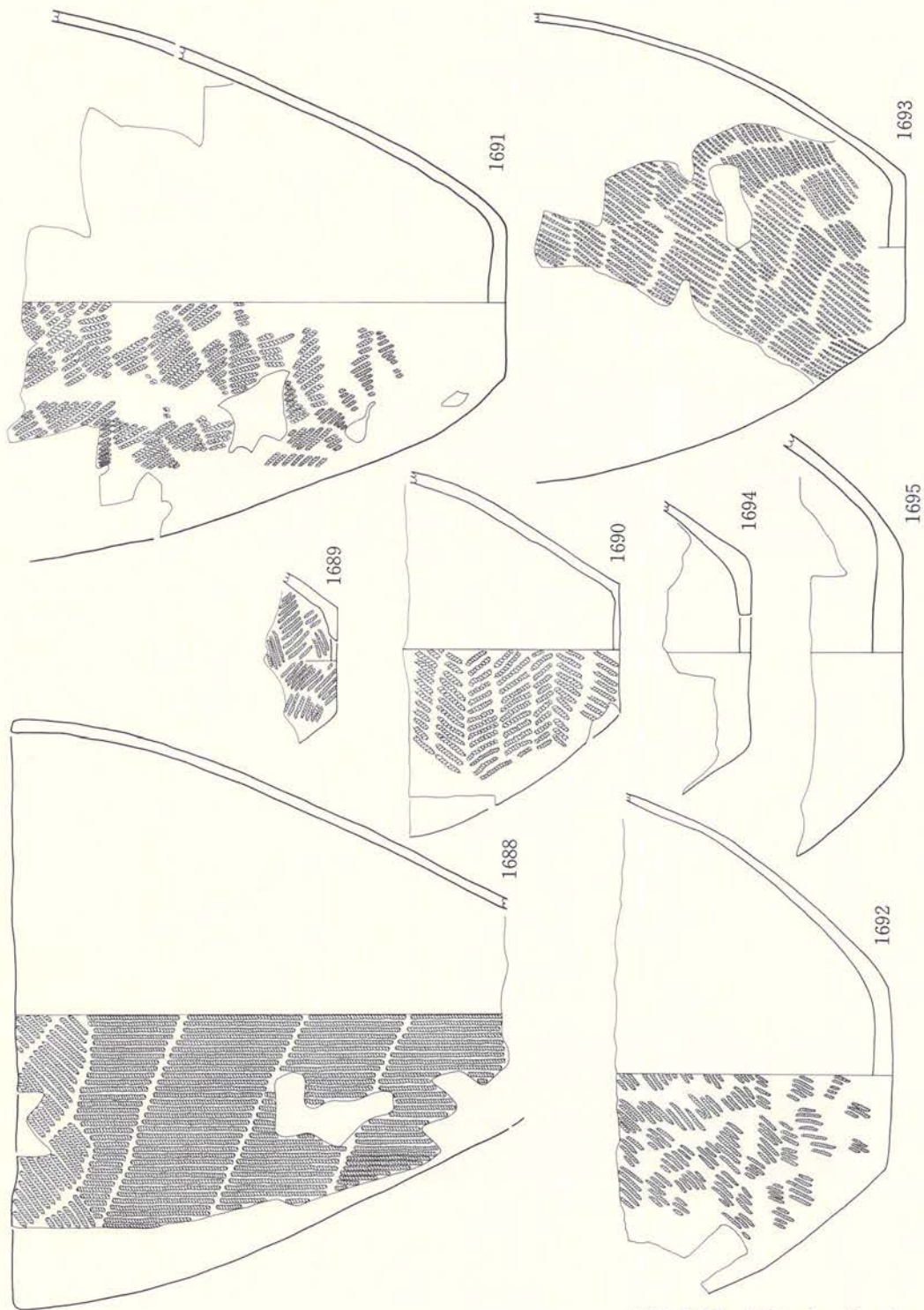
1685

S = $\frac{1}{4}$

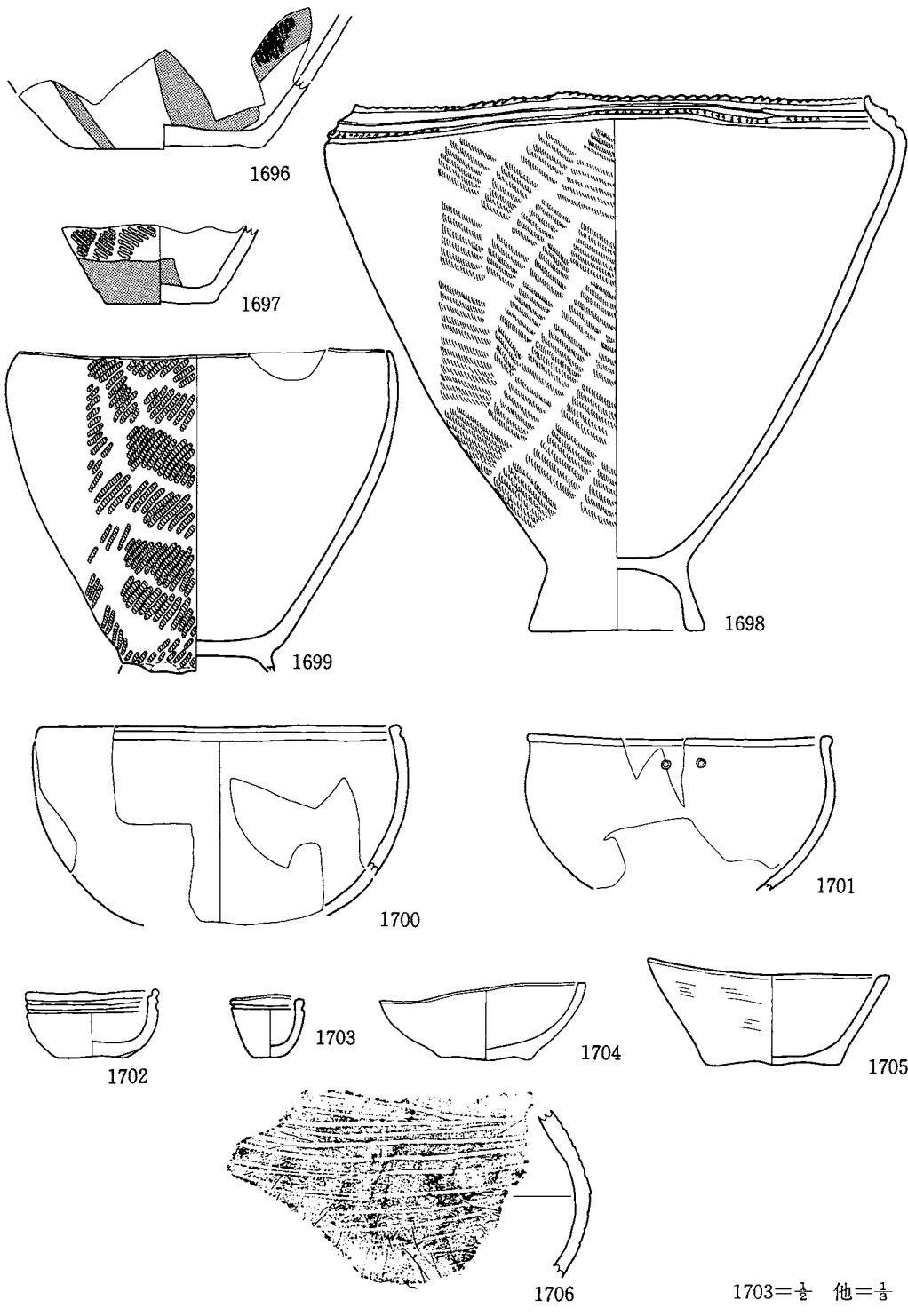
第162図 遺物包含層出土遺物（土器）83



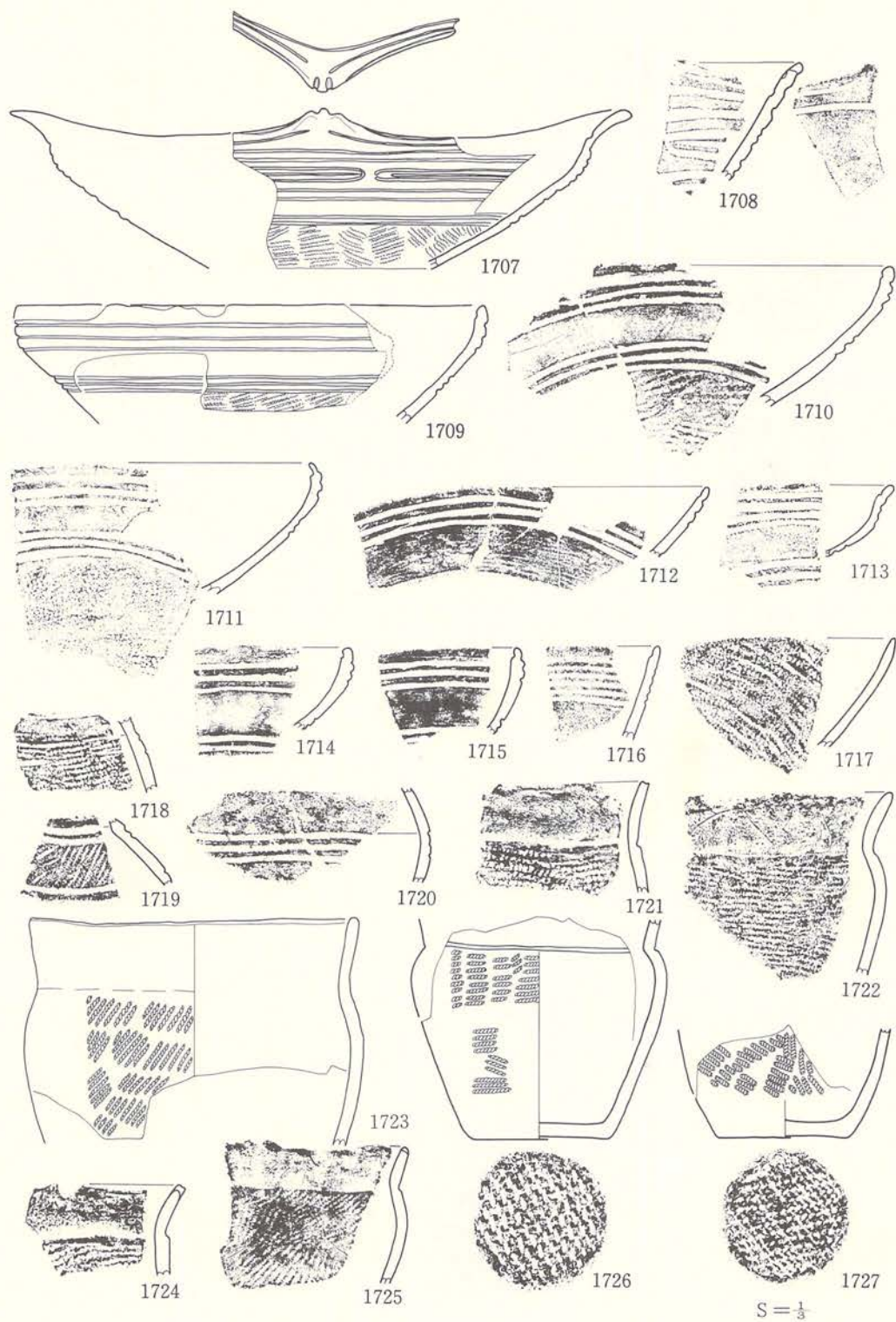
第163図 遺物包含層出土遺物（土器）84



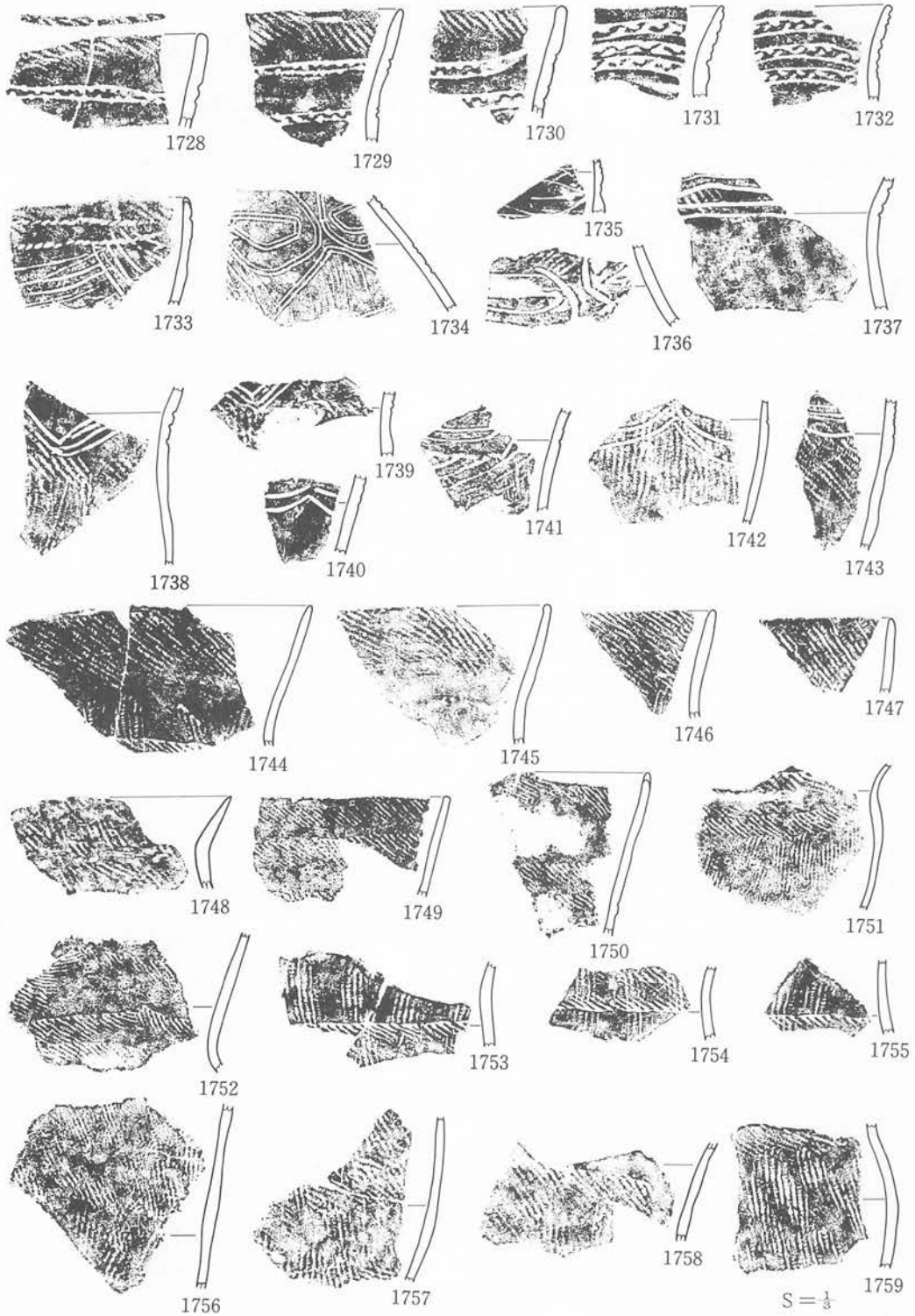
第164図 遺物包含層出土遺物（土器）85



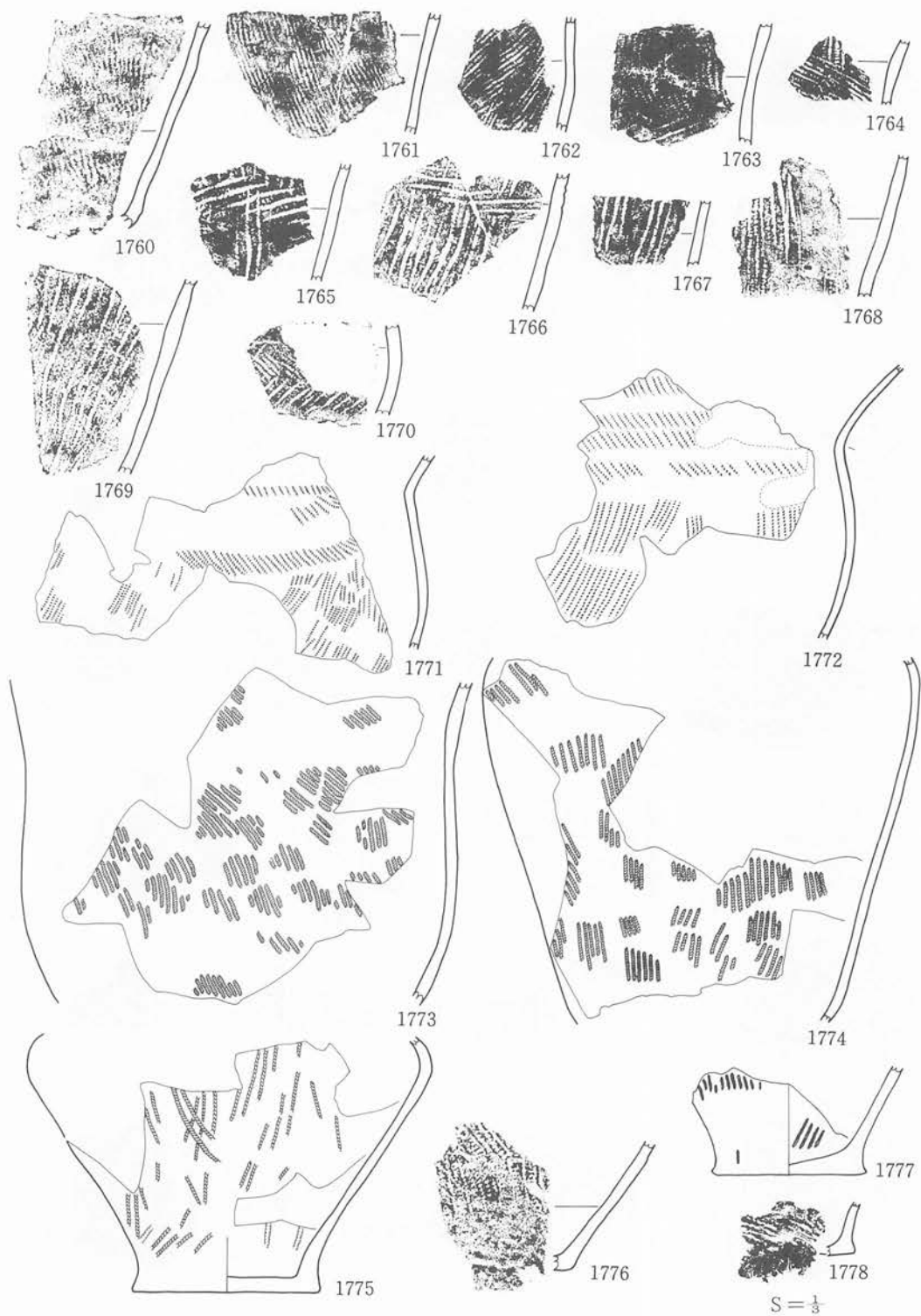
第165図 遺物包含層出土遺物（土器）86



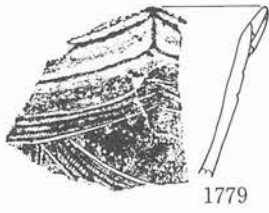
第166図 遺物包含層出土遺物（土器）87



第167図 遺物包含層出土遺物（土器）88



第168图 遺物包含層出土遺物（土器）89



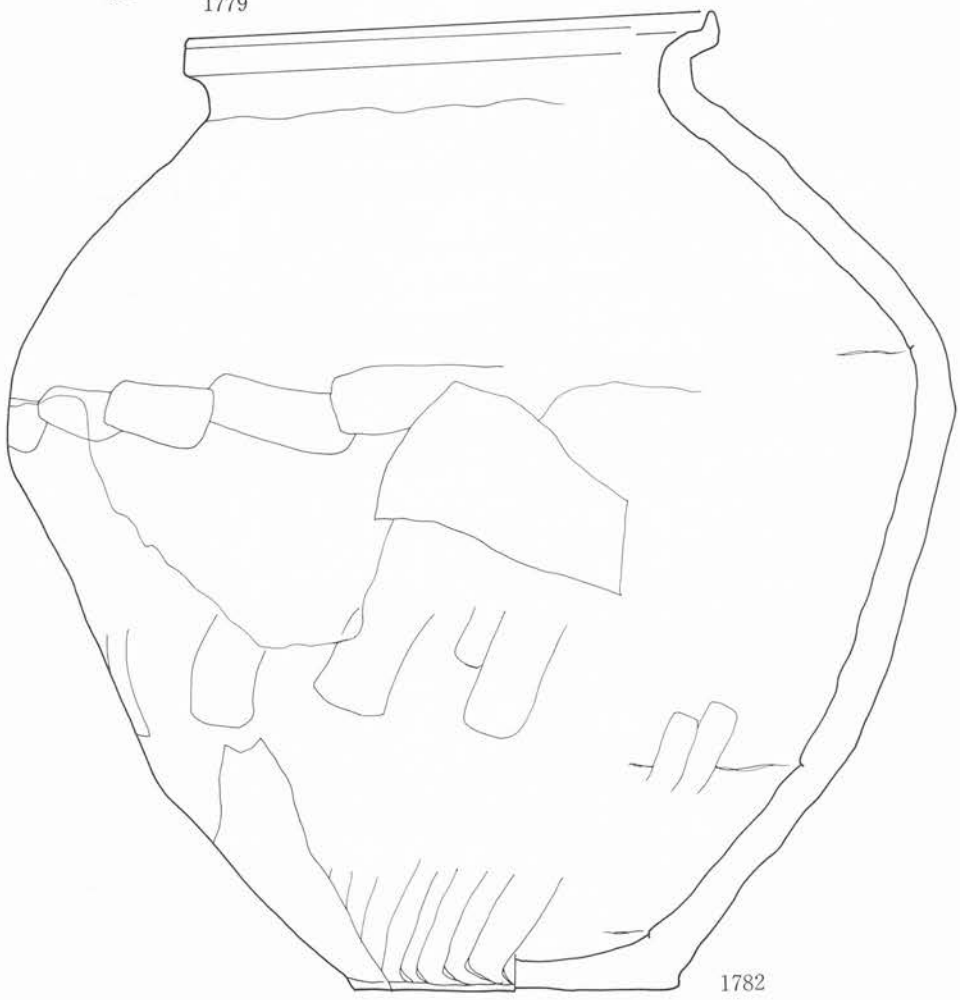
1779



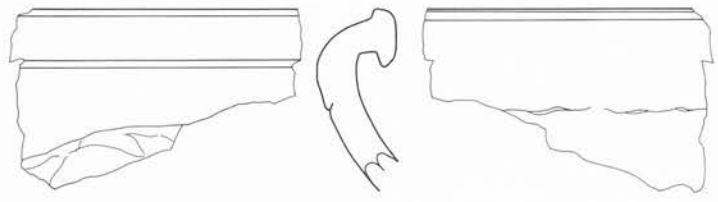
1780



1781



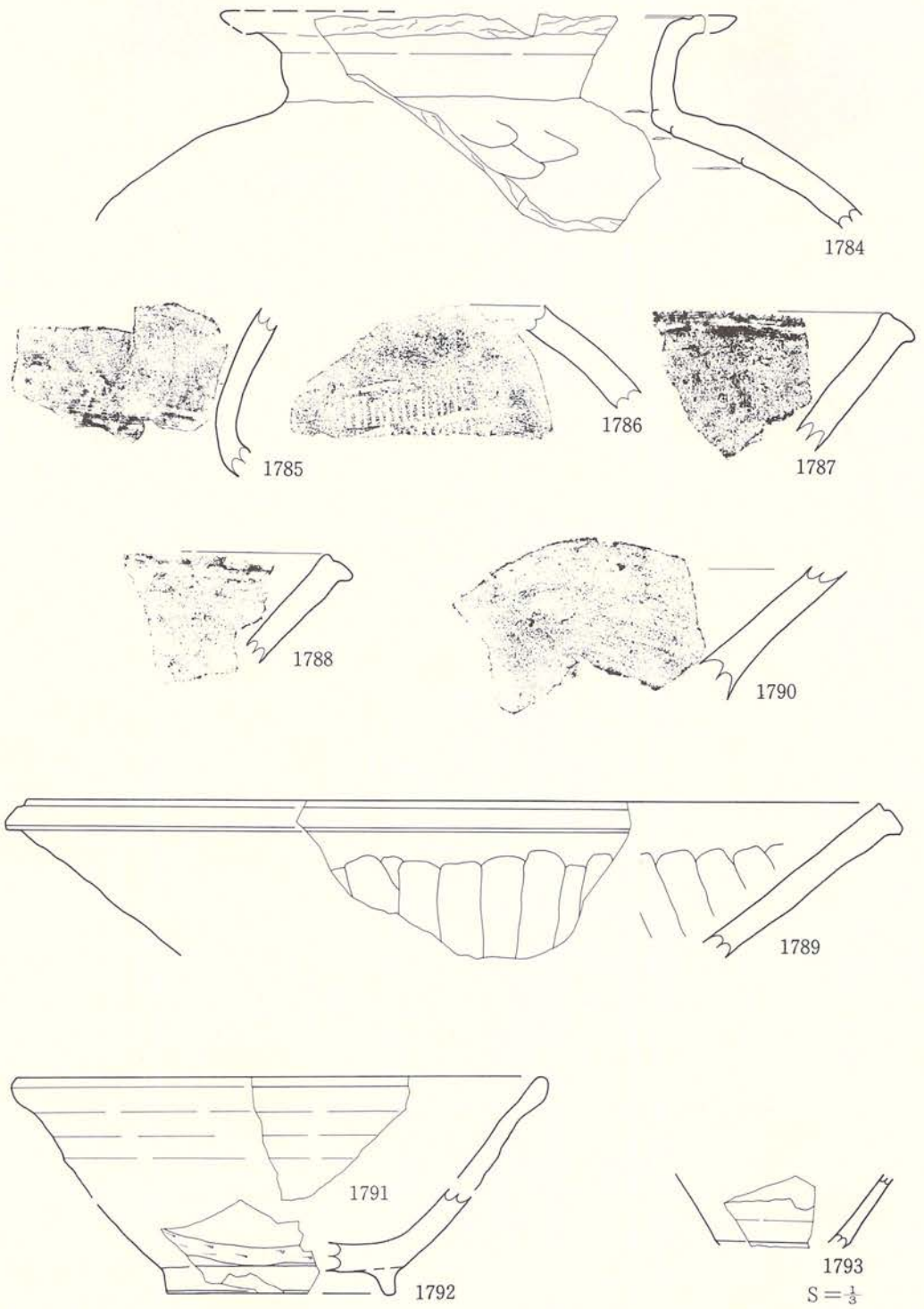
1782



1783

S = 1/3

第169図 遺物包含層出土遺物（土器）90・（陶器）1




第170圖 遺物包含層出土遺物（陶器）2

3. 石器

出土した石器の総量はコンテナ（42×32×30cm）で6箱、総数は10,000点を越える。これらのうち、使用痕が認められない剥片類、破損及び風化の著しい礫石器を除く950点（包含層出土は879点）を登録し、内346（269）点を実測掲載した。分類に当たっては定形石器として、石鏃、石匙、石錐、尖頭器に分け、これら以外の剥片石器は不定形石器として扱った。また、全面が成形加工された異形の石器は異形石器として分類した。礫石器及び石核石器はその形状と使用痕跡によって磨製石斧、石鏃、磨石、凹石、敲石、砥石等に分類した。なお、破損品が多く全体の形状が不明なものが多い石棒、石剣、石刀は一括して石棒・石剣類とした。

石鏃（第171図～173図）

202点（総数：219）が出土しており、全石器類中の割合は23%で最も多い。茎の有無と基部の形状から6群11類に細分される。基本的には鈴木道之助氏（鈴木：1991）の分類による。

I 群……有茎鏃		A 類……凸基	1～4
		B 類……凹基	1～3
II 群……無茎鏃		C 類……平基	
III 群……尖基鏃（有茎無基鏃）		IV 群……異形鏃	V 群……形態不明

総出土量における茎の有無での大別割合は有茎鏃159点（72.6%）、無茎鏃40点（18.2%）、不明20点（9.2%）である。また、破損の著しいものを除く165点における、鏃長及び重量の集計値は最大長5.5cm、最小長1.3cm、平均2.72cm、最大重量4.12g、最小重量0.32g、平均1.31gである。

I A 1 類（1795～1804） 有茎鏃のうち基部が丸みを有するもので、50点出土している。10点を掲載した。類内の集計値は鏃長の最大は4.5cm、最小は1.15cm、平均2.86cm、重量は最大4.12g、最小0.38g、平均1.47gである。このほかに遺構内出土のものが3点あり、石鏃内での割合は24.2%を占める。

I A 2 類（1805～1819） 有茎鏃のうち基部が角張るもので、67点出土しており、14点を掲載した。集計値は鏃長最大5.5cm、最小1.75cm、平均2.92cm、重量最大3.16g、最小0.32g、平均1.37gである。遺構内出土を合わせると75点で、全体の32.2%を占め最も多い形態である。

I A 3 類（1820・1821） 有茎鏃のうち基部が十字剣状を呈するもので、2点のみ出土している。長さは3cm前後で、重さは1g前後である。

I A 4 類（1822～1826） 有茎鏃のうち基部の発達が悪く、棒状を呈するものである。石錐の可能性も持つ。包含層から6点が出土している。いずれも長さは2cm大で、重量は1g以下である。

I B類 (1827~1830) 有茎鏃のうち基部が凹基のものである。3点を当類としたが、明確にこの形態を持つものは1827だけである。

I C類 (1830~1839) 有茎鏃のうち基部が平基のものである。計測値を基に分類を行ったわけではないので、基部が全く水平なものはなく、I A 2類に近いものも多い。一応14点を分類し、10点を掲載した。集計値は鏃長最大4.8cm、最小1.7cm、平均2.8cm、重量最大2.47g、最小0.36g、平均1.13gである。

II A類 (1840~1843) 無茎鏃のうち基部が円形となるもので、形状は後述の尖頭器に類似するが、規模は小さく薄い6点を当類とし、4点を掲載した。集計値は鏃長最大3.4cm、最小2.4cm、平均2.8cm、重量最大2.31g、最小0.84g、平均1.8gである。

II B 1類 (1844~1848) 無茎凹基鏃のうち基部の挟りが深いもので、包含層からは7点、遺構内から2点が出土している。4点を掲載した。集計値は鏃長最大2cm、最小1.3cm、平均1.64cm、重量最大0.64g、最小0.41g、平均0.49gで総じて小型である。

II B 2類 (1849~1856) 無茎凹基鏃のうち鏃身部の下端が内湾し、半円形の浅い挟りが施されるもので、包含層から13点が出土している。8点を掲載した。集計値は鏃長最大4.1cm、最小1.65cm、平均2.4cm、重量最大1.96g、最小0.36g、平均0.89gである。

II B 3類 (1857~1864) 無茎凹基鏃のうち挟りが浅いもので包含層から9点、遺構内から1点出土している。8点を掲載した。集計値は鏃長最大3.8cm、最小1.95cm、平均2.75cm、重量最大3.89g、最小0.67g、平均1.63gである。

II C類 (1865・1866) 無茎鏃のうち基部が平坦な所謂三角鏃である。2点だけの出土で、鏃身長は3cm以上でやや大型である。

III群 (1867~1869) 柳葉状の形状を呈するもので、大別的には有茎鏃に分類される。尖頭器に類似するがこれらより小型で薄い。3点が出土している。集計値は鏃長最大3.6cm、最小2.3cm、平均3cm、重量最大1.75g、最小0.5g、平均1.15gである。

IV群 (1870・1871) 異形鏃で、2点が出土している。いずれも茎をもち大別的には有茎鏃に分類される。1870は両側に3個の刺状の突起を持つ。1871は上部に3個の突起を配する三叉鏃である。

V群 (1872) 破損により形態が不明なもので、包含層から18点遺構内から2点出土している。1872は第V層からの出土である。

石匙 (第173図~第175図)

66点(総数:73)が出土しており、石器中の割合は7.7%である。ツマミの位置によって縦:A群、横:B群、中間:C群の3分類した。また、刃部の加工及び形態によって細分した。

刃部の加工：Ⅰ類…両面からの加工 Ⅱ類……片面からの加工 Ⅲ類……一部両面
Ⅳ類……両面・片面 Ⅴ類……形態不明

刃部の形態：①直刃 ②凸刃 ③凹刃 +これらに尖頭部の有無

A群（1873～1884） 縦形の石匙で28点出土しており、12点を掲載した。遺構内から出土した3点を合わせて器種中の割合は42.4%を占める。刃部の形態では、凸形の刃部を持つものが21点（直刃との複合4）、直刃11点（凸刃との複合4）、凹刃4点（凸刃との複合2）、不明1となる。また、尖頭部を持つものが15点ある。

B群（1885～1899） 横形の石匙で34点出土しており、15点を掲載した。遺構内から出土した2点を含めた器種中の割合は47.9%を占める。刃部形態では、直刃が18点（凸刃との複合1）、凸刃12点（直刃との複合1）、凹刃4点となる。また、尖頭部を有するものが10点ある。

C群（1900～1903） A・Bの中間形のもので、包含層からは5点が出土しており、4点を掲載した。遺構内からの出土は2点である。刃部形態では、凸刃が6点（直刃との複合2）、直刃3点（凸刃との複合2）で、尖頭部を有するものが2点ある。

石錐（第176図）

48点（総数：55）が出土しており、石器中の割合は5.8%である。主に形状から分類した。

Ⅰ群……ツマミを作り出しているもの

a…ツマミが先端に付くもの（1904～1908） 包含層から14点出土している。5点を掲載した。出土量は当類が最も多く、器種内の割合は24.5%を占める。

b…ツマミが中央に付くもの（1909） 包含層から1点、遺構内から2点出土している。

Ⅱ群……棒状を呈するもの

a…棒状を呈するもの（1910～1913） 包含層から8点、遺構内から1点出土している。4点を掲載した。

b…中央部が膨らむもの（1914～1916） 包含層から6点、遺構内から1点出土しており、3点を掲載した。

c…尖頭器状のもの（1917～1919） 包含層から4点、遺構内から1点出土しており、3点を掲載した。

Ⅲ群……剥片の一部を尖らせ刃部としているもの（1920～1923） 剥片の形状には定形性はない。包含層から8点、遺構内から2点が出土している。この内4点を掲載した。

Ⅳ群……異形のもの（1934～1927） 複数の突起を有するもので、突起間の抉入部が刃部となる可能性もあるが、突起部分が両面からの加工によって作り出されているため石錐とした。包含層から4点が出土している。

尖頭器（第176図～177図）

ほぼ全体に成形加工が及び、尖った刃部を有する石器で、46点（総数：53）が出土しており、石器中の割合は5.6%を占める。成形調整の違いでⅠ・Ⅱの2類に分類した。

Ⅰ類……割合細かく丁寧な剥離加工によって成形され、薄手のもの（1928～1932） 大型の石鏃等が含まれる可能性があるが、包含層から11点、遺構内から3点出土している。5点を掲載した。集計値は器長最大4.3cm、最小3.1cm、平均3.67cm、重量最大9.57g、最小1.2g、平均4.16gである。

Ⅱ類……Ⅰ類に比べて大きく粗い剥離によって成形され、厚手のもの（1933～1942） 石錐等を含む可能性があるが、包含層から35点、遺構内から4点が出土している。10点を掲載した。集計値は器長最大5cm、最小2.3cm、平均4.1cm、重量最大20.5g、最小1.9g、平均9.22gである。

異形石器（第177図・1943～1948）

6点を掲載した。1943～1947は細い枝状の部分を作り出している。石錐や削器等に利用した可能性がある。なお、1944～1947は石匙としての分類も可能かも知れない。

不定形石器（第178図～180図）

上記以外の剥片石器を一括した。形状と刃部の形態から細分した。

Ⅰ類（1949～1958）……Ⅱ類に比べて定形性は高い。ほぼ全面に剥離加工が施されて成形されるものである。形状及び加工は尖頭器に類似するが、尖頭部を持たないか、非常に鈍角なものである。用途は不明であるが、縁刃部を使用するスクレーパー的使用も考えられる。なお、尖頭器と同様に連続する押圧剥離によって丁寧に加工されるものと、粗く多い剥離によるものがある。包含層から28点、遺構内から3点が出土しており、器種内での割合は16.4%である。10点を掲載した。集計値は器長最大5cm、最小2.6cm、平均3.57cm、重量最大22g、最小0.98g、平均8.84gである。

Ⅱ類……剥片の一边または全縁に刃部加工が施された石器である。刃部の形態及び位置によってa～c類に細分される。各種のスクレーパー類とされる石器である。

a類（1961～1972・1975～1981）…縁刃部が主要な刃部となっているもので、1：一縁辺に刃部を持つもの 2：2～3縁辺に刃部を持つもの 3：全縁に刃部を持つものに細分される。また、刃部形態には直刃、凸刃、凹刃があり、さらに鋸歯状のものや抉入状のものがある。所謂削器・搔器類である。包含層から104点、遺構内から13点が出土しており、19点を掲載した。各類の出土数はa1類49点（遺構内4）、a2類42点（7）、a3類9点（3）、形態不明2点

である。

b類 (1959・1960・1973・1974) …尖頭部を作り出しているものである。しかし、尖頭器や不定形石器Ⅰ類のような形状に定形性はない。また、尖頭部は石錐の様な鋭利なものではない。包含層から16点、遺構内から1点出土しており、4点を掲載した。

c類 (1982～1985) ……抉入部を有する石器である。包含層から7点出土しており、4点を掲載した。

Ⅲ類 (1986～1990) ……向かい合う縁辺部に2個一対または4個一対の刃部を有する石器で、所謂楔形石器である。包含層5点が出土している。

以上の他に破損により形態が不明な石器が12点ある。また、包含層からの出土については実測図の掲載は行っていないが、細部加工剥片(Rフレイク)が56点(遺構内4)、使用痕が認められる剥片(Uフレイク)が60点(遺構内7)出土している。これらに付いても加工個所によってⅠ類：鋭利な縁辺部に加工痕や使用痕をもつもの Ⅱ：剥片の先端部や尖頭部に加工及び使用痕が認められるものに分類した。各類の個数は次の通りである。

Rフレ：Ⅰ類49(3)点、Ⅱ類7(1)点 Uフレ：Ⅰ類42点(5)、Ⅱ類10点(1)

磨製石斧(第181図～第182図・1991～2007)

45点(総数：49)が出土している。完形品は1991の1点だけで、これも3破片の接合である。器面には赤色顔料の付着が見られ、墓壙あるいは埋設土器への副葬品であった可能性が高い。この他にも基部で折れて(折られて)いるものが多く、I B 6 f- 1埋設土器内から出土した磨製石斧も同様の破損状況を示すことから、他の破損品に付いても埋葬と関係する事例かも知れない。

破損後に再加工されているものが13点あるが、この内8点は未製品である。また、敲石への転用品が6点ある。

石鋏・撥形石斧(第182図～第185図・2008～2017)

三味線の撥形を呈する打製石斧である。2008～2013はI B 8 e区から一括して出土した石鋏である。いずれも緑色の凝灰岩製で同一の石材から加工されたものである。なお、2012・2013は接合する。2008・2012等は比較的丁寧な成形加工が施されているが、他は大きな剥離によっておおよその形を作り出しているだけである。使用痕や手擦れ等が見られるものはない。出土状況から推定して、単に廃棄されたものとは考えにくく、墓壙等に供献された遺物の可能性がある。2014～2017は形状から分類した。いずれもほとんど加工は持たないが、2016の先端部には潰れ状の使用痕が顕著に観察される。

磨石・敲石・凹石（第185図～第188図）

自然礫を利用し、「擦る、敲く、潰す」といった機能を有する石器である。使用痕によって機能分類されるが、複合するものも多くより使用頻度が多いと考えらる器種に含めた。

磨石（2018～2033） 包含層からは48点（総数：50）出土しており、15点を掲載した。なお、敲石との複合が9点、凹石との複合が5点あるほか、火熱を受けたものが6点ある。また、2025は両端に浅い剥離痕を持ち、石錘に転用されている。さらに器面に赤色顔料が付着しているものが2点あり、II C 0 f - 1土坑の事例に見られるように墓壇に副葬・供献されたものであった可能性を持つ。

凹石（2034・2035） 包含層から2点（総数：4）出土している。2034は磨石と複合し、器面には赤色顔料が付着しているほか、火熱を受けている。

敲石（2036～2047） いずれも包含層からで、29点出土しており、12点を掲載した。楕円形状の礫を素材にして、両端あるいは一端部に顕著な潰痕を持っている。磨石と複合するものが6点ある。2039～2045等は、細長い小礫の端部を使用するもので、潰痕のほかに一部研磨痕を有するものが12点ある。また、中央部に「握るため？」の研磨加工を施しているものもある。

石皿（第189図・2048）

包含層からは1点だけの出土である（総量3）。2048は両面に使用痕を持つが、片面が顕著である。

石棒・石剣・石刀（第189図～190図・2050～2077）

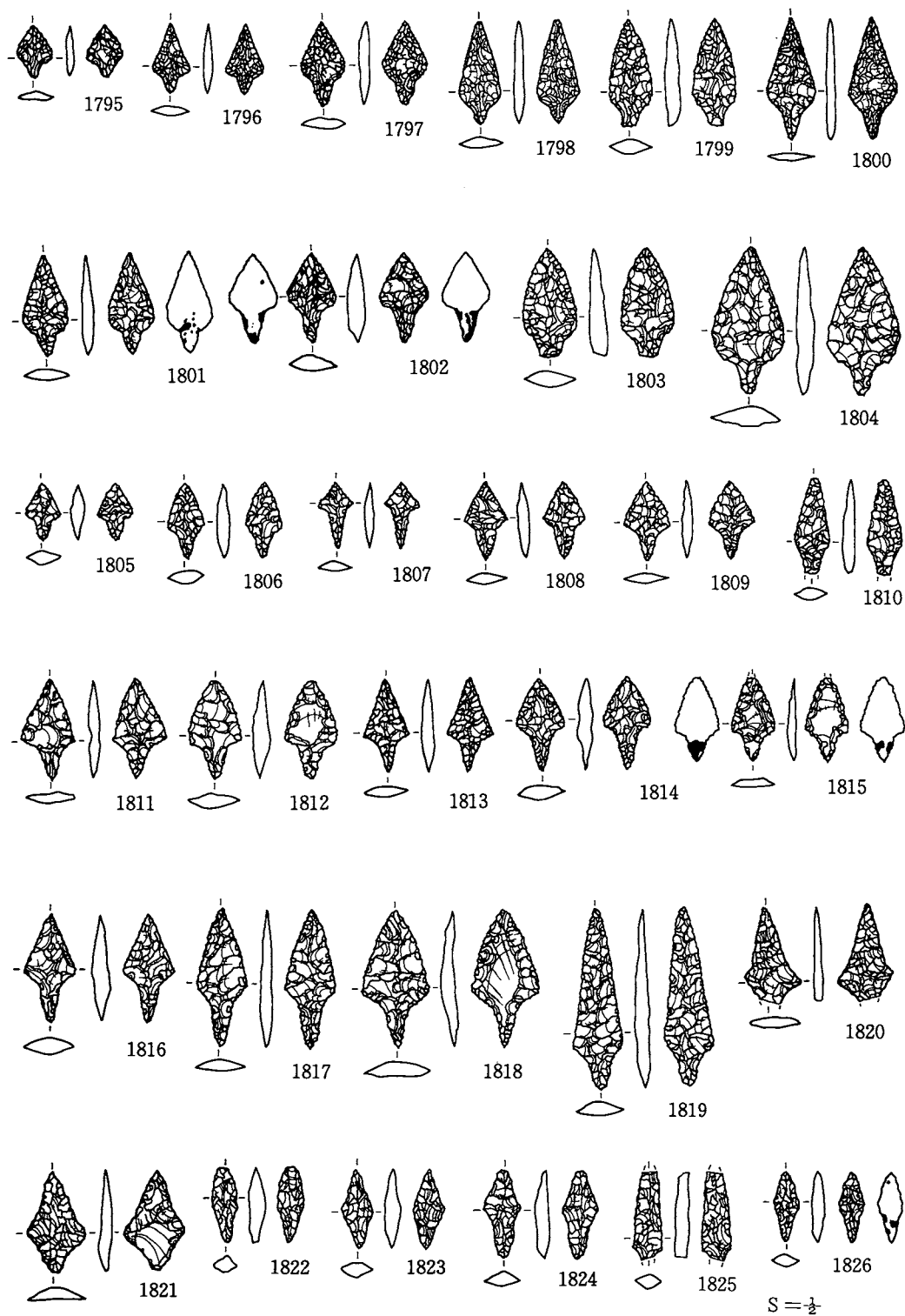
完形品はなく、小破片のものも多い。包含層から79点が出土しており、28点を掲載した。分類に当たっては主に断面形によったが、全体の形状が解るものではなく厳密なものではない。石棒には、頭部を亀頭状に作り出しているもの、これに浮彫的な文様を施すもの、沈線を巡らせるもの等がある。

砥石（第189図・第190図・2049・2078・2079）

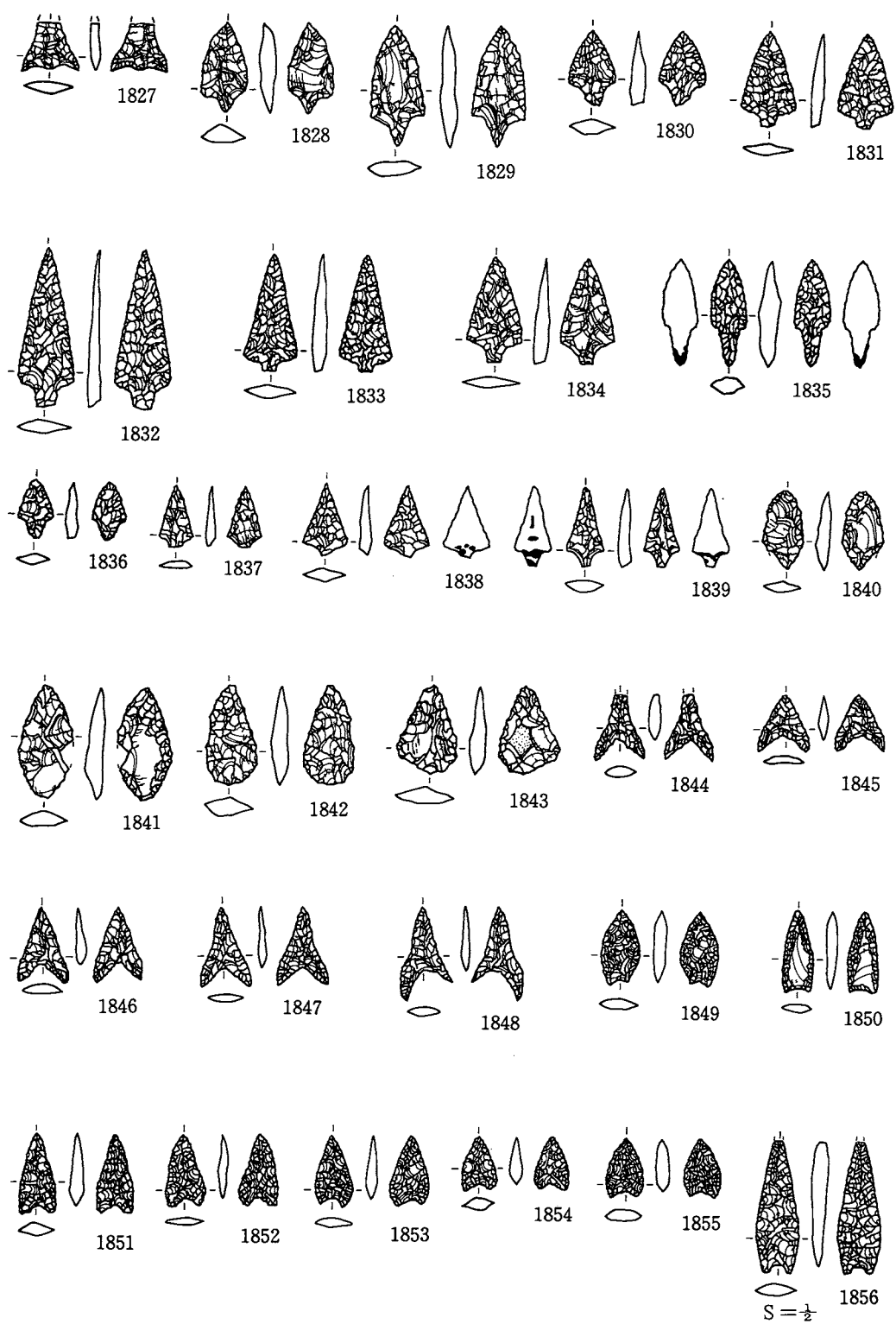
3点が出土している。2049・2078は縄文時代の遺物で、2079は中世以降の遺物である。前2者は扁平な自然礫を使用しており、2049は3面、2078は2面に使用痕を持つ。使用面は石皿のそれより滑らかである。

石核（第190図・2080）

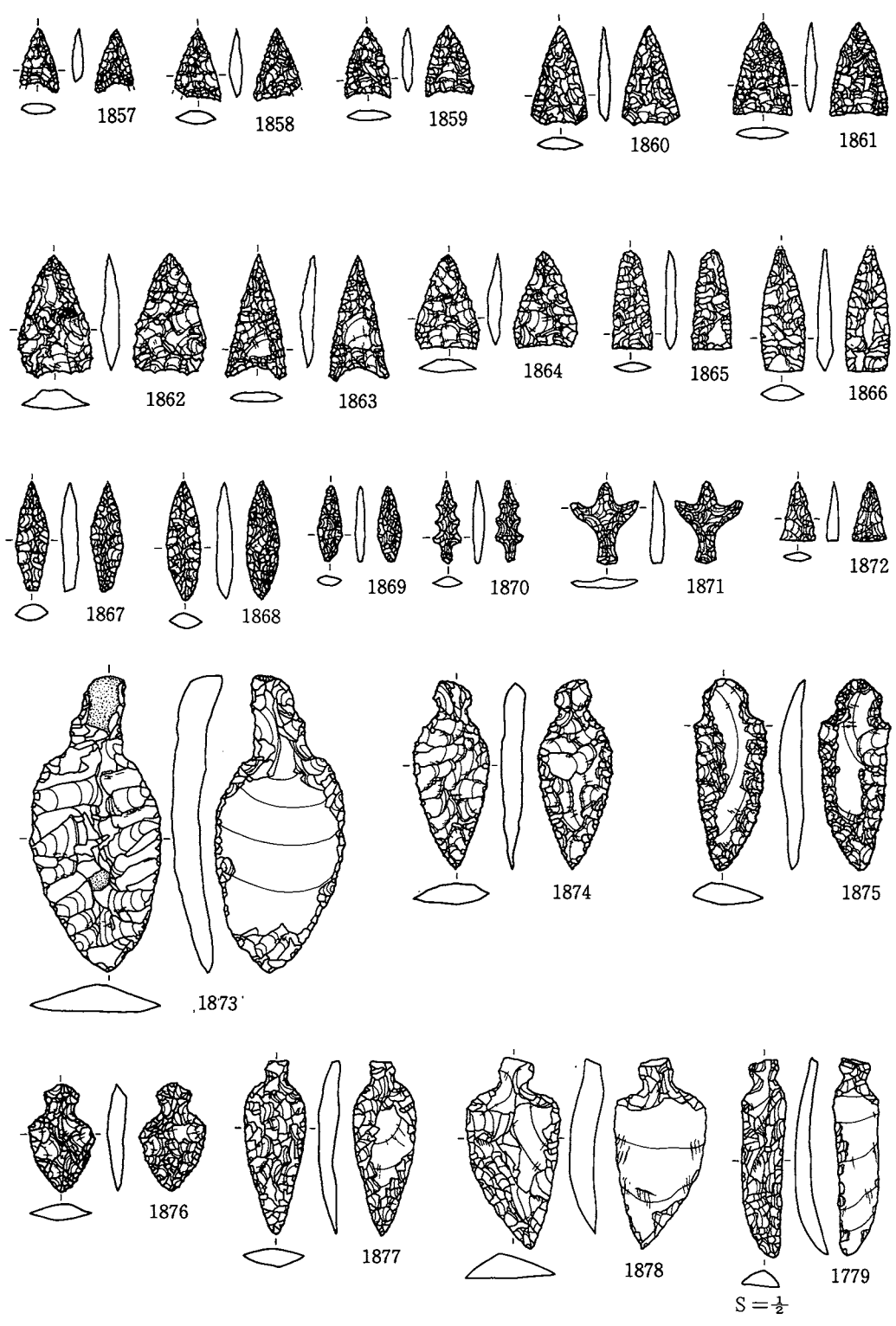
1点だけの出土である。両面に上下・左右からの剥離痕を有する。



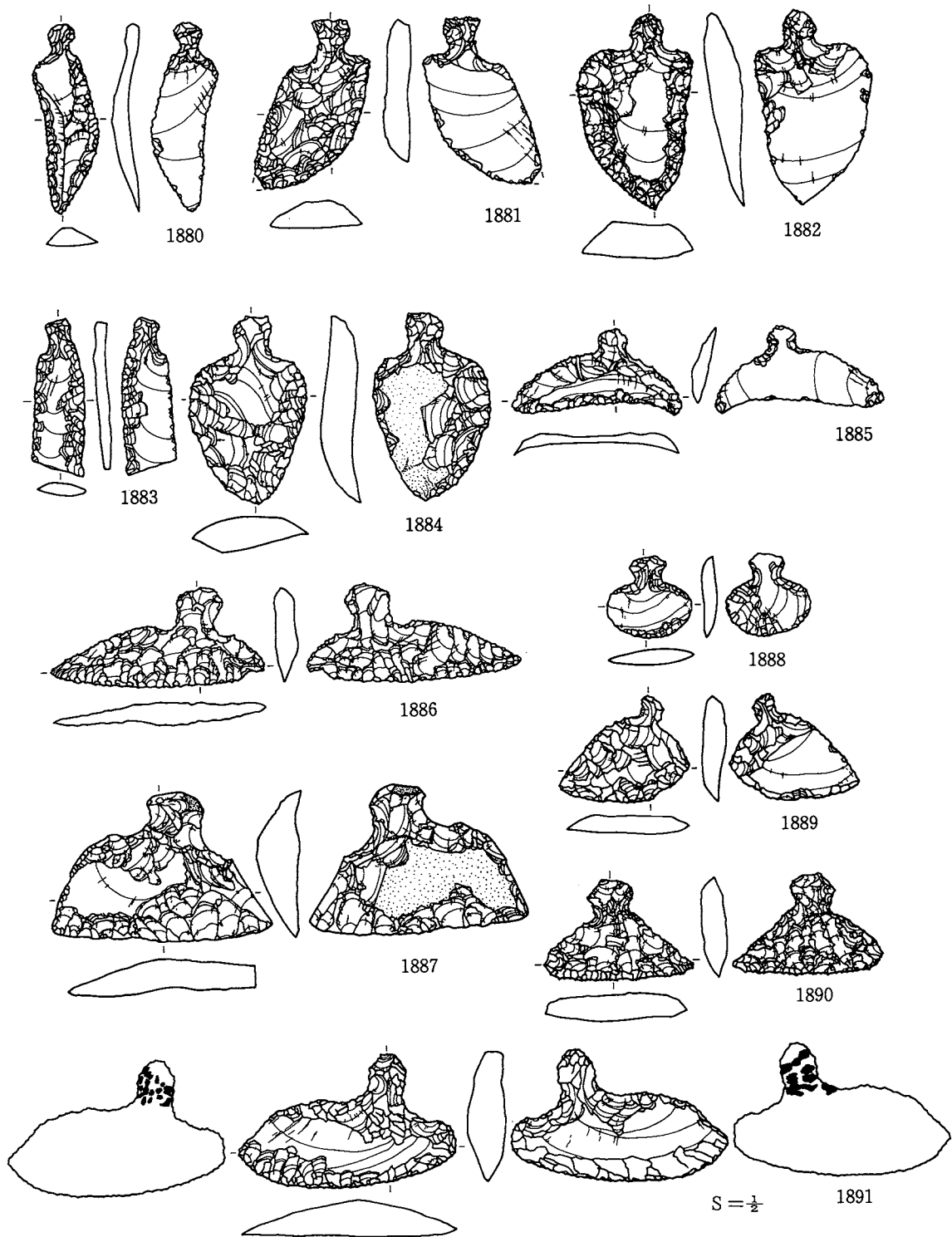
第171图 遺物包含層出土遺物（石器）1



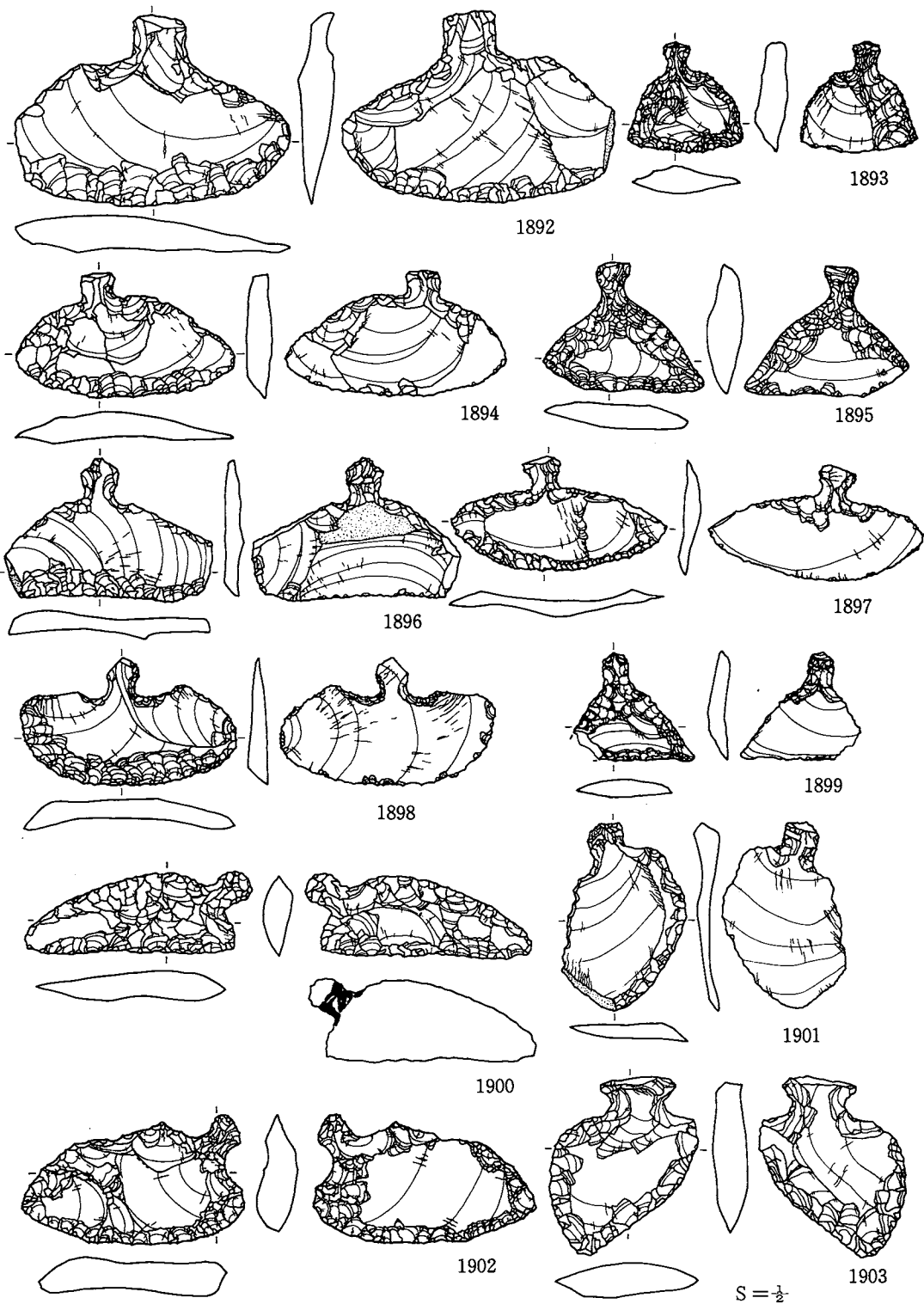
第172图 遺物包含層出土遺物（石器）2



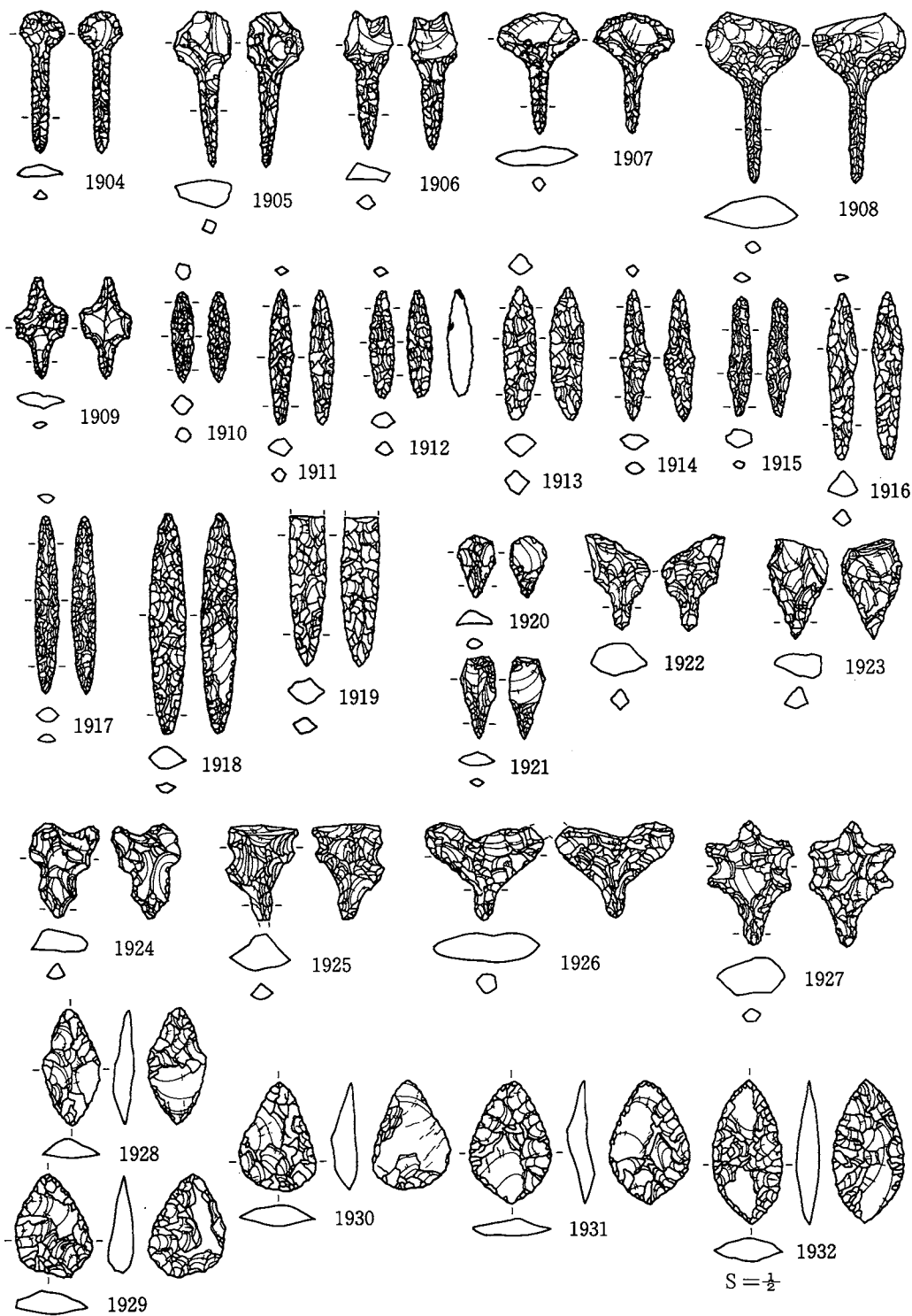
第173图 遺物包含層出土遺物（石器）3



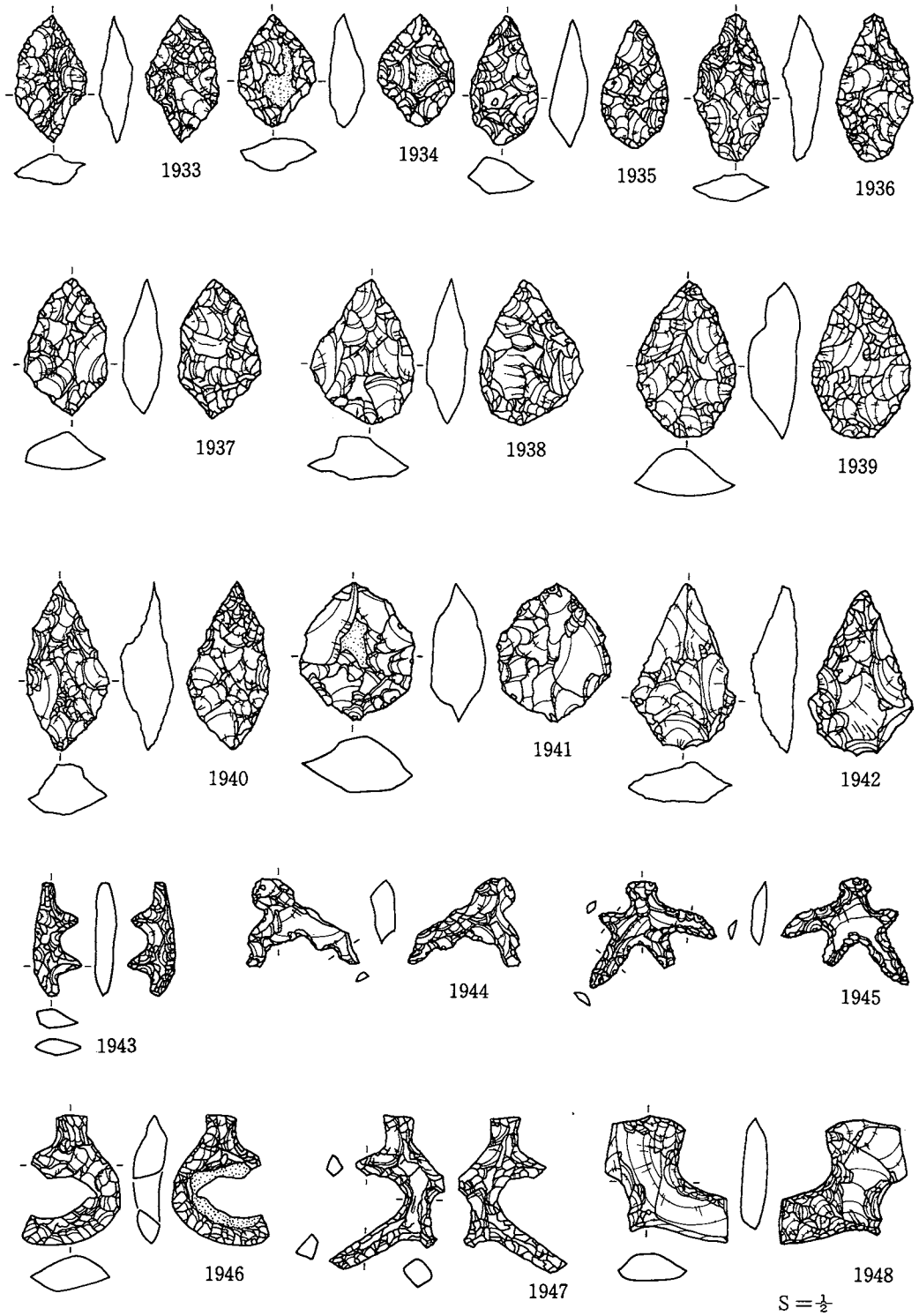
第174圖 遺物包含層出土遺物（石器）4



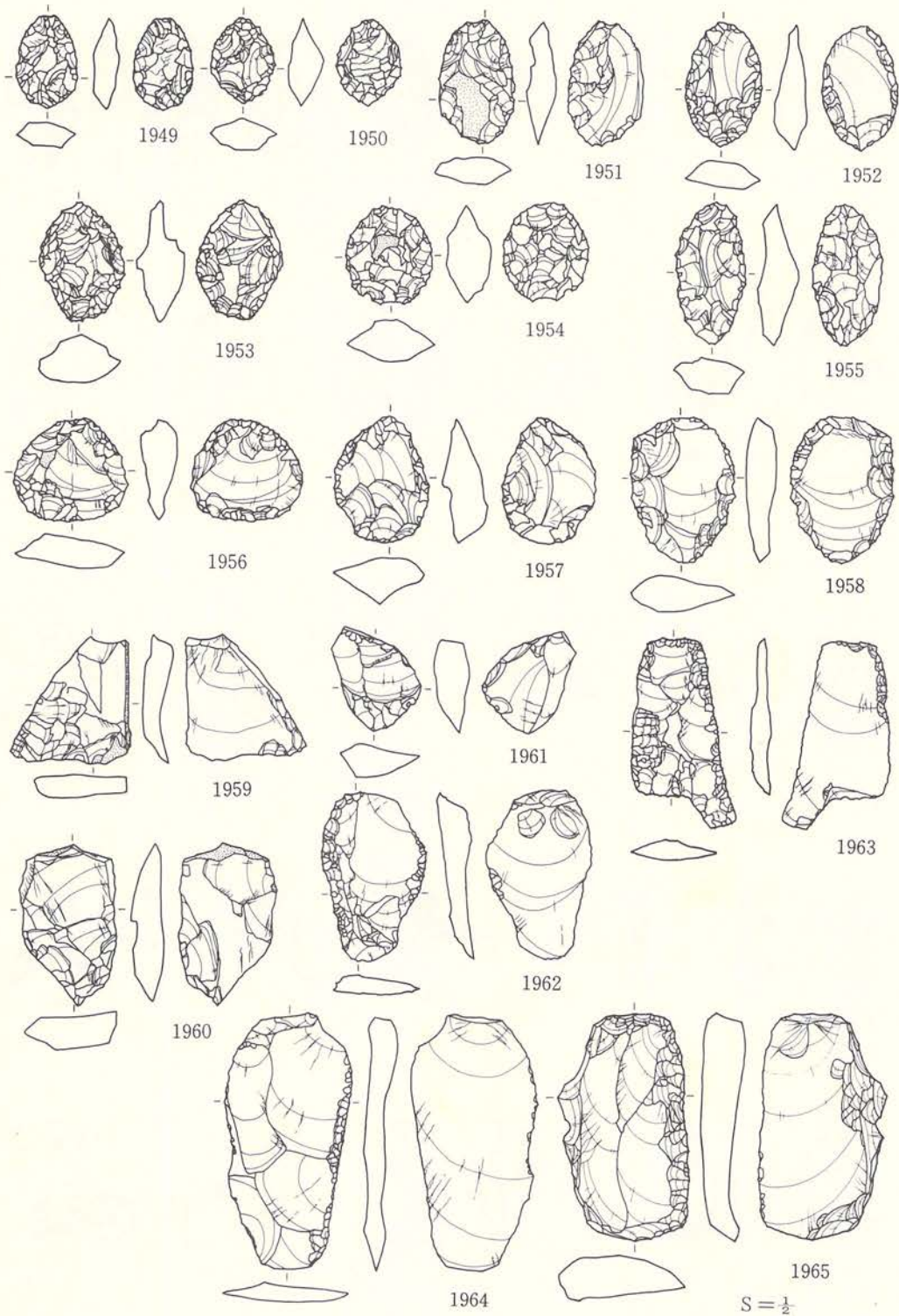
第175圖 遺物包含層出土遺物（石器）5



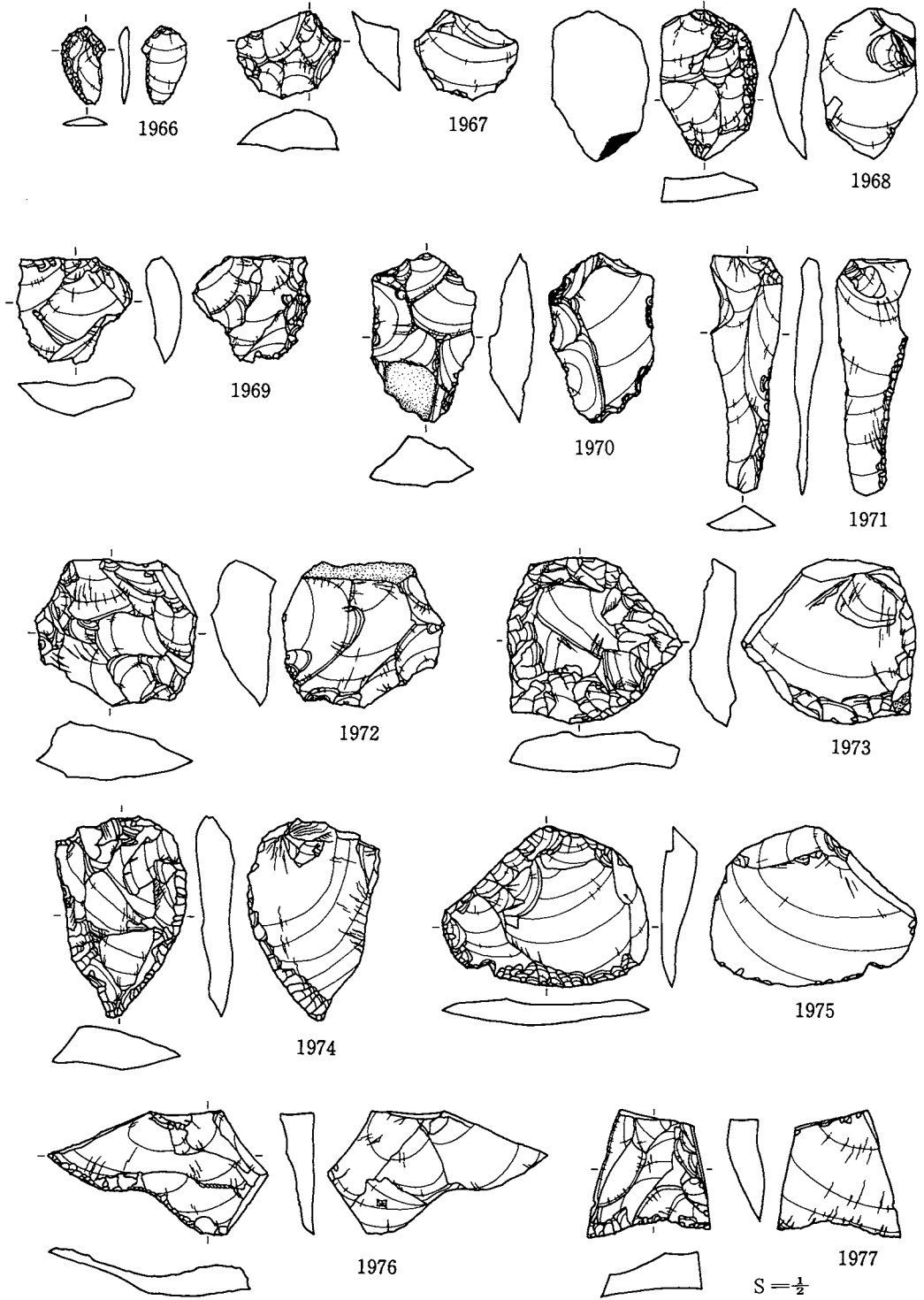
第176图 遺物包含層出土遺物（石器）6



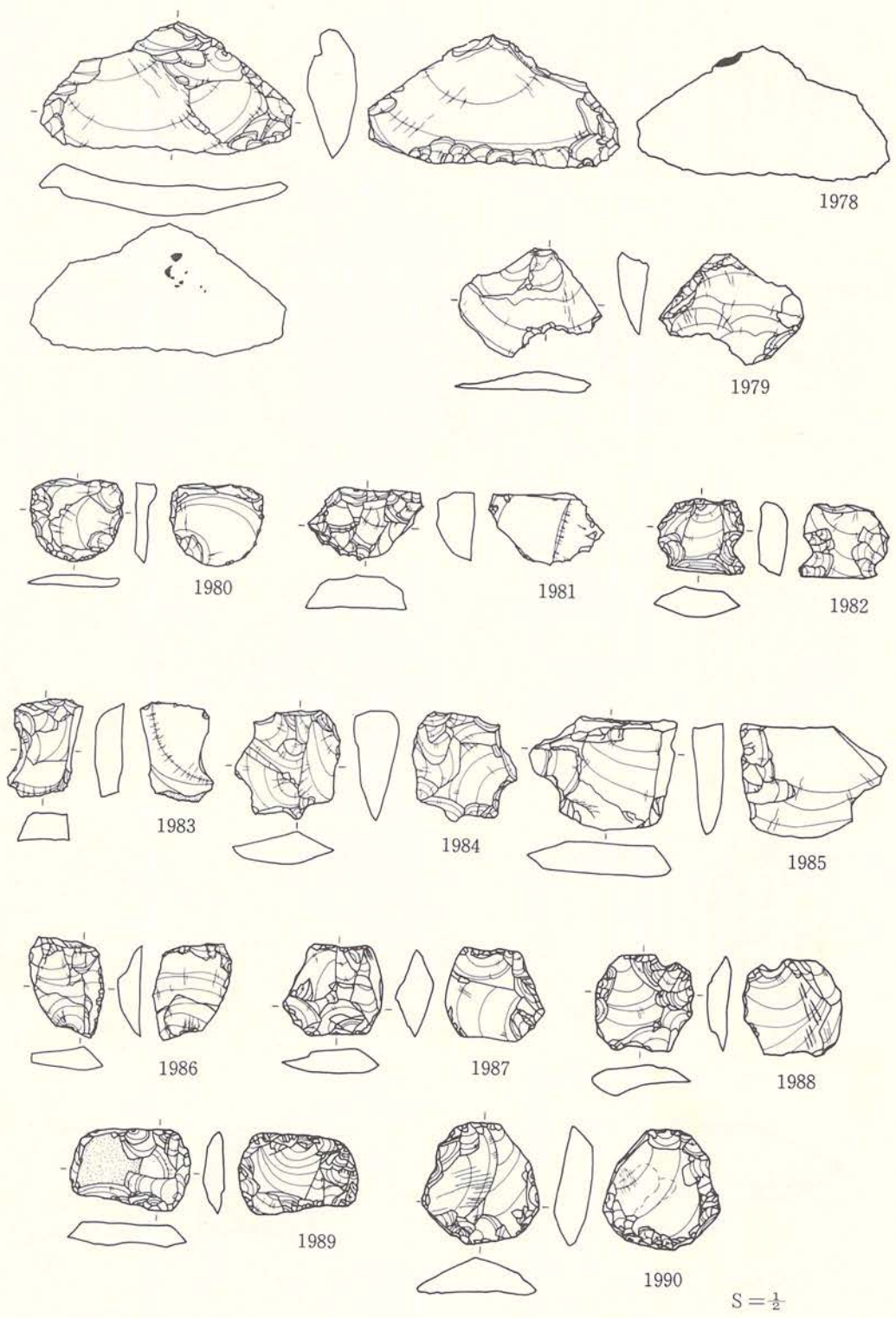
第177圖 遺物包含層出土遺物（石器）7



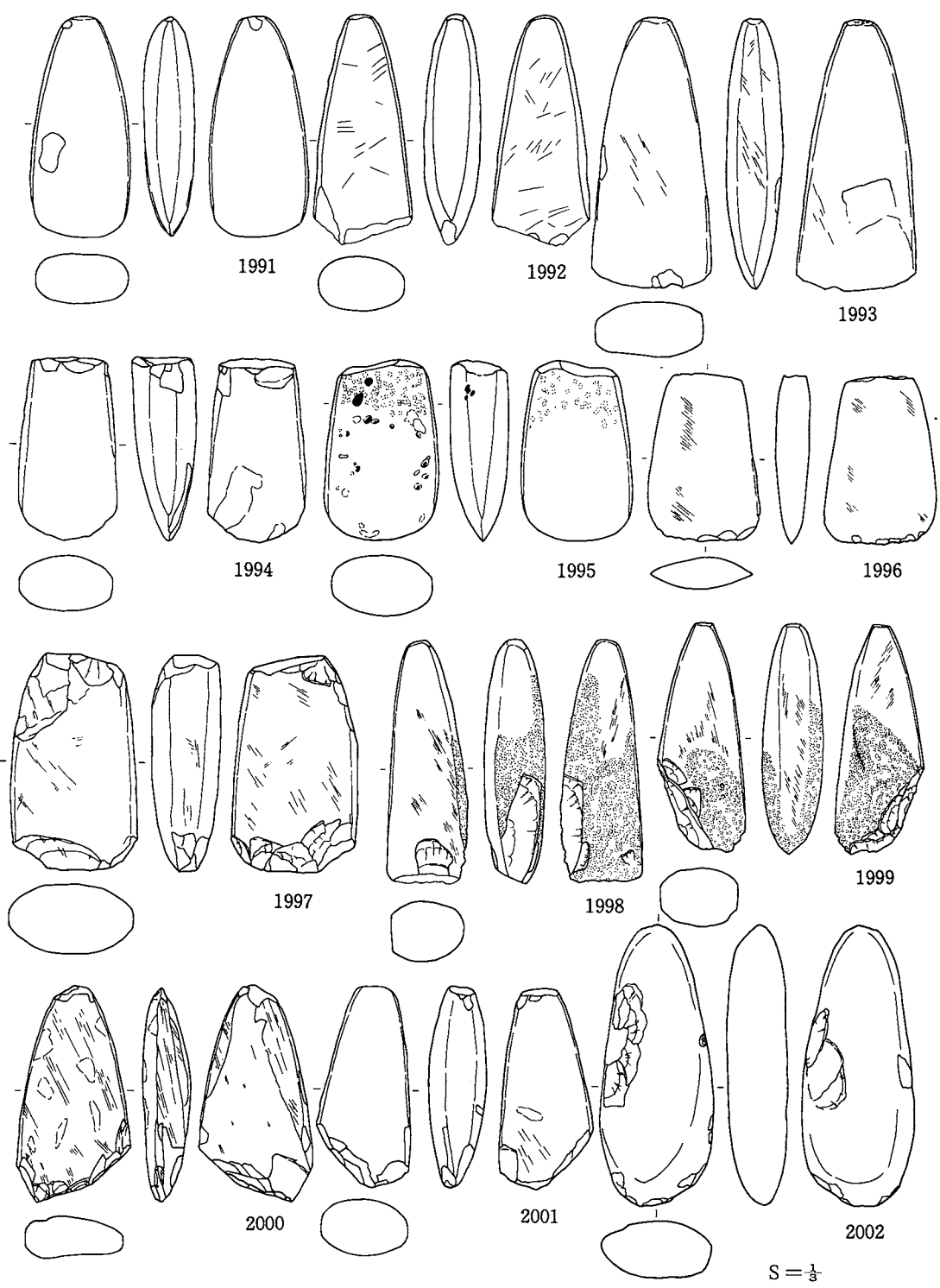
第178图 遺物包含層出土遺物（石器）8



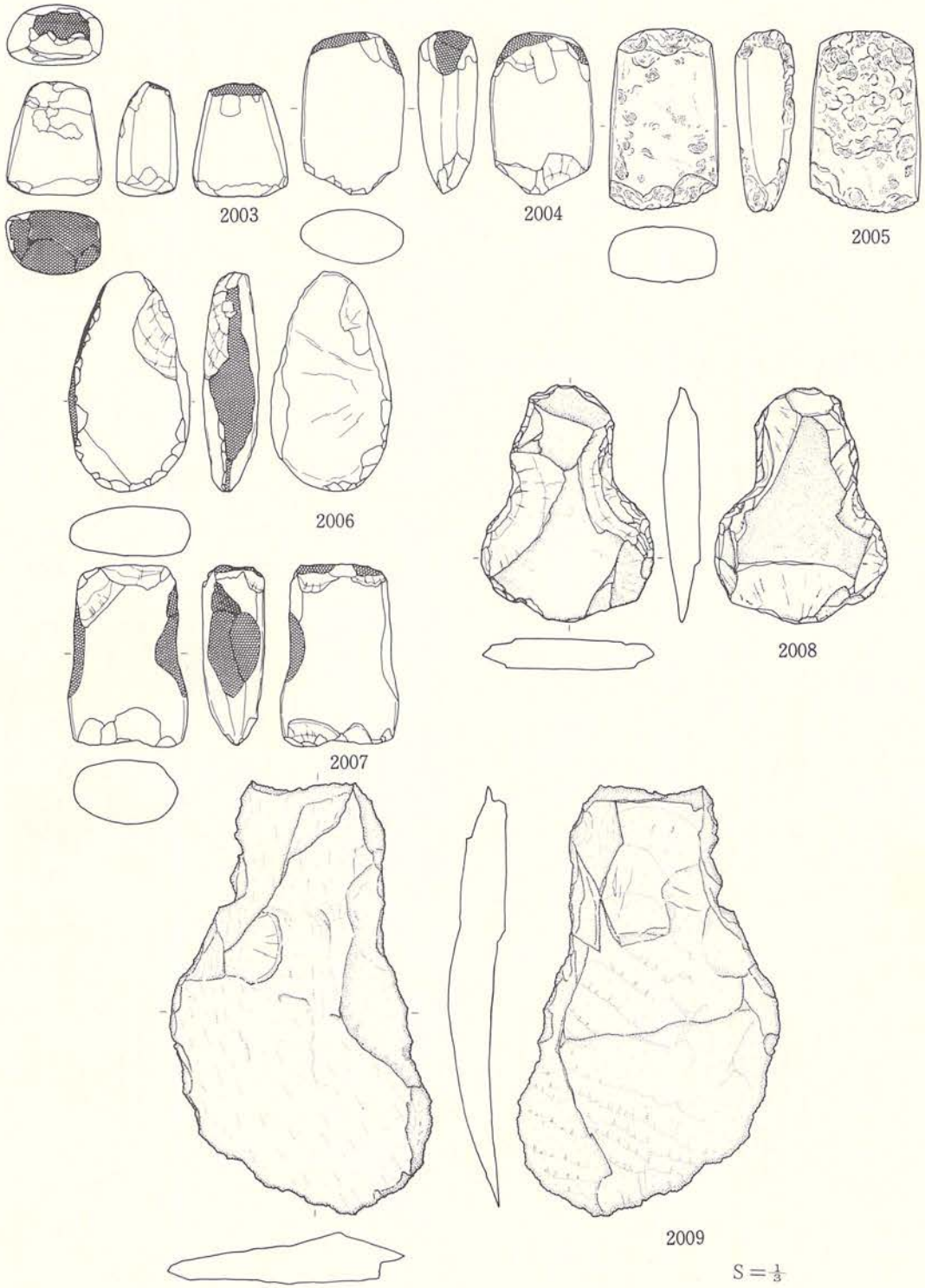
第179圖 遺物包含層出土遺物（石器）9



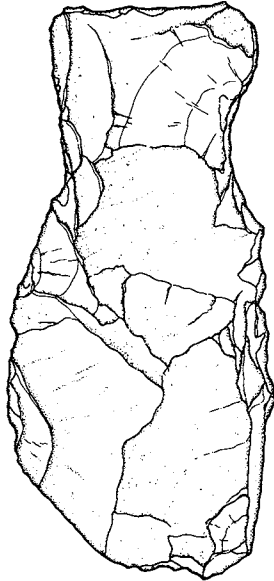
第180図 遺物包含層出土遺物（石器）10



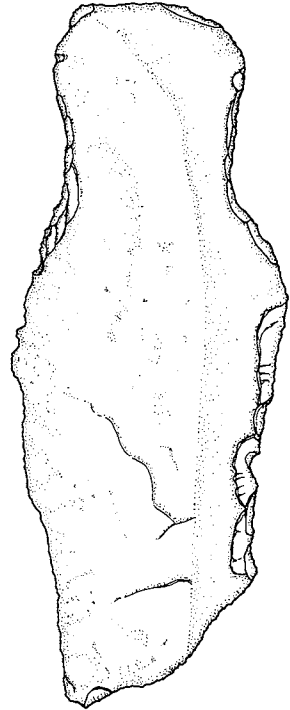
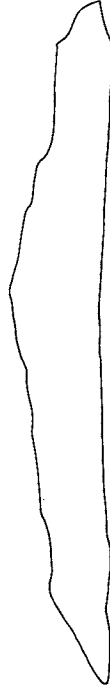
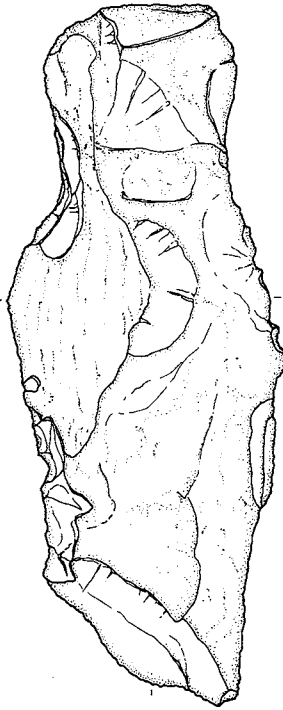
第181图 遺物包含層出土遺物（石器）11



第182図 遺物包含層出土遺物（石器）12



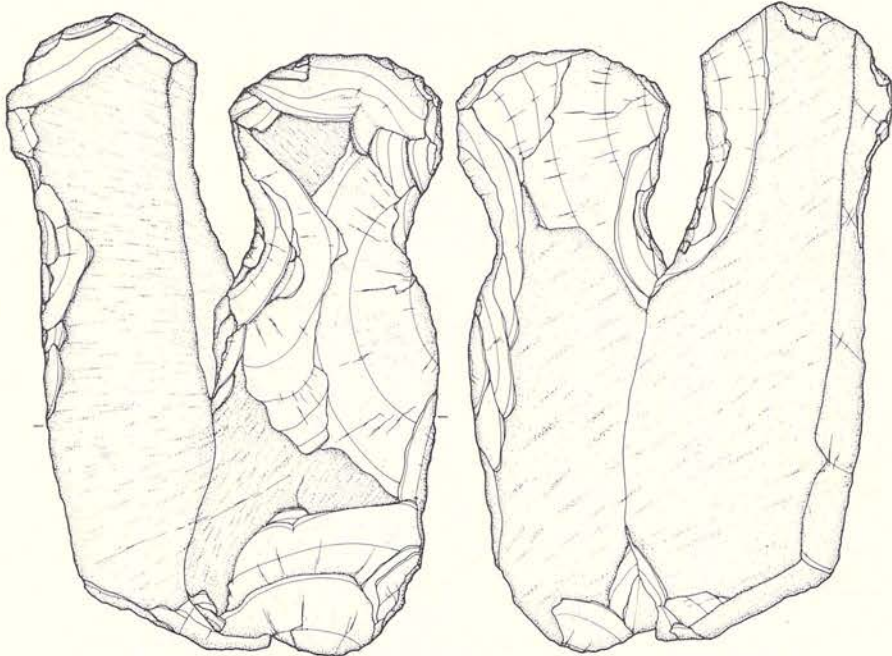
2010



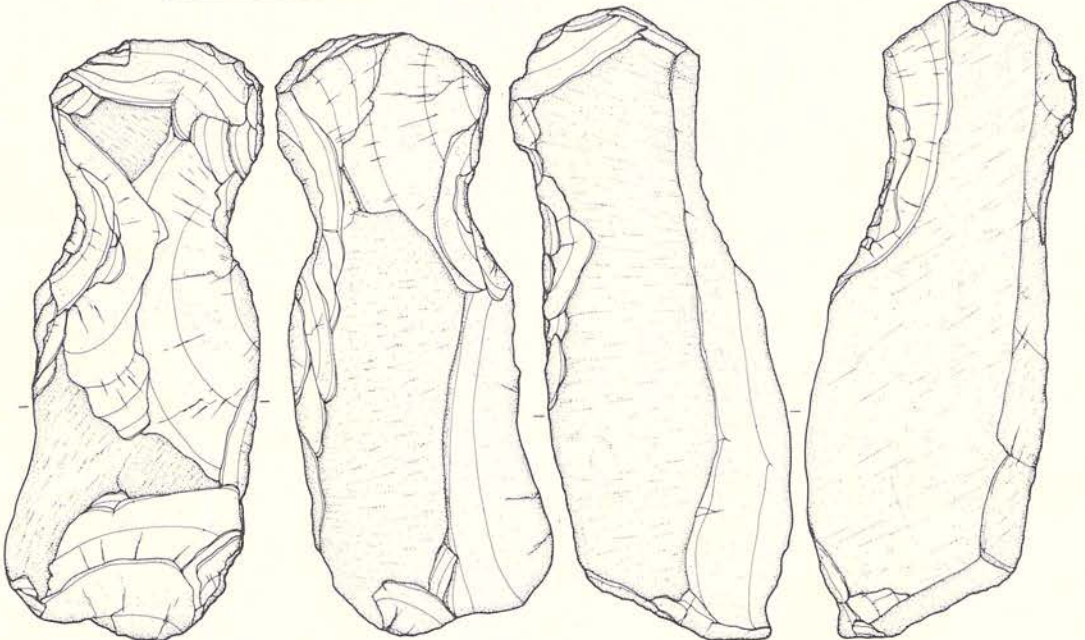
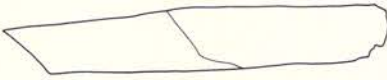
2011

S = $\frac{1}{3}$

第183図 遺物包含層出土遺物（石器）13



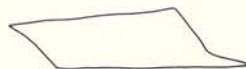
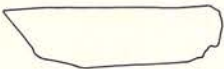
2012 · 2013



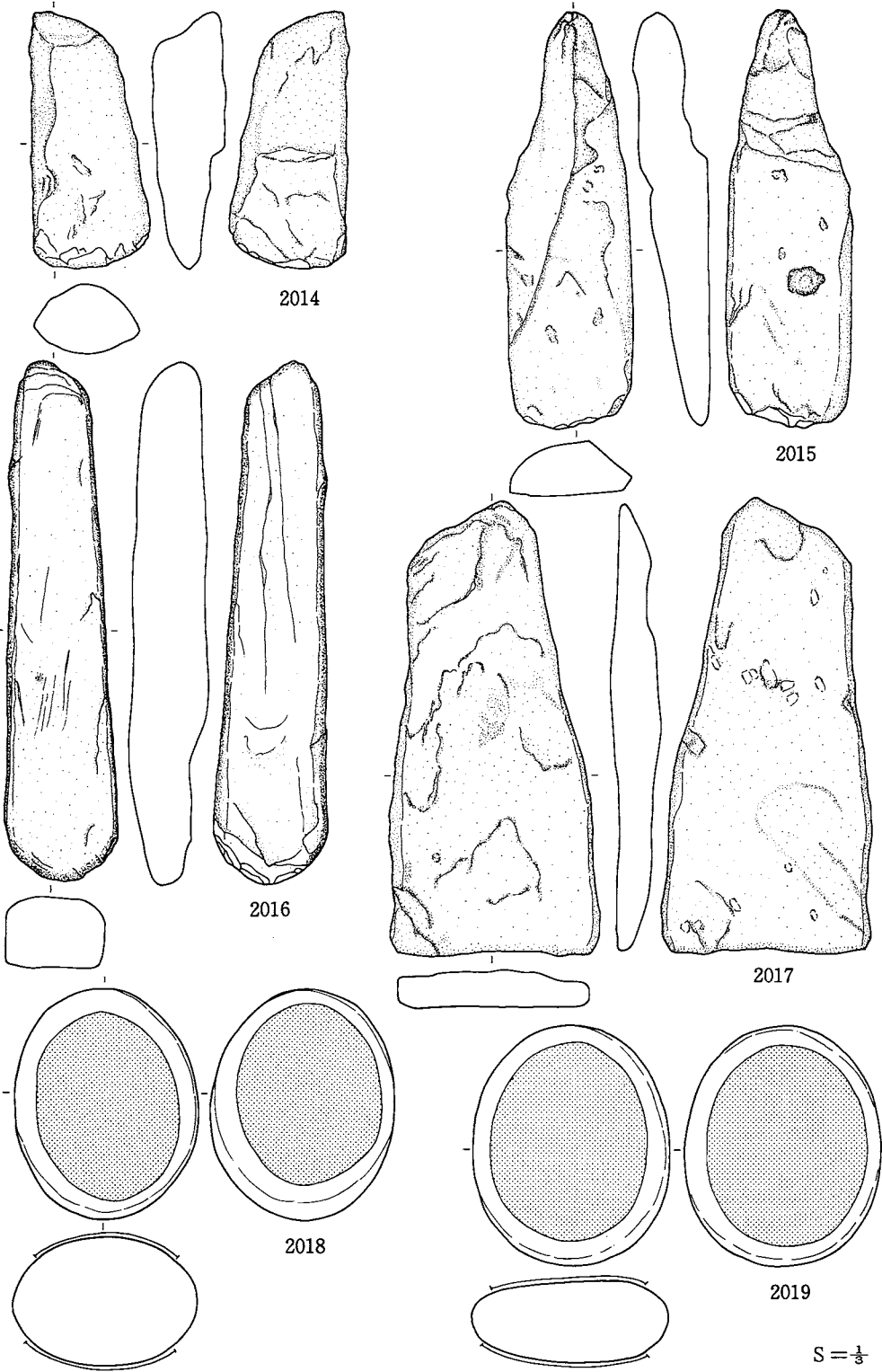
2012

2013

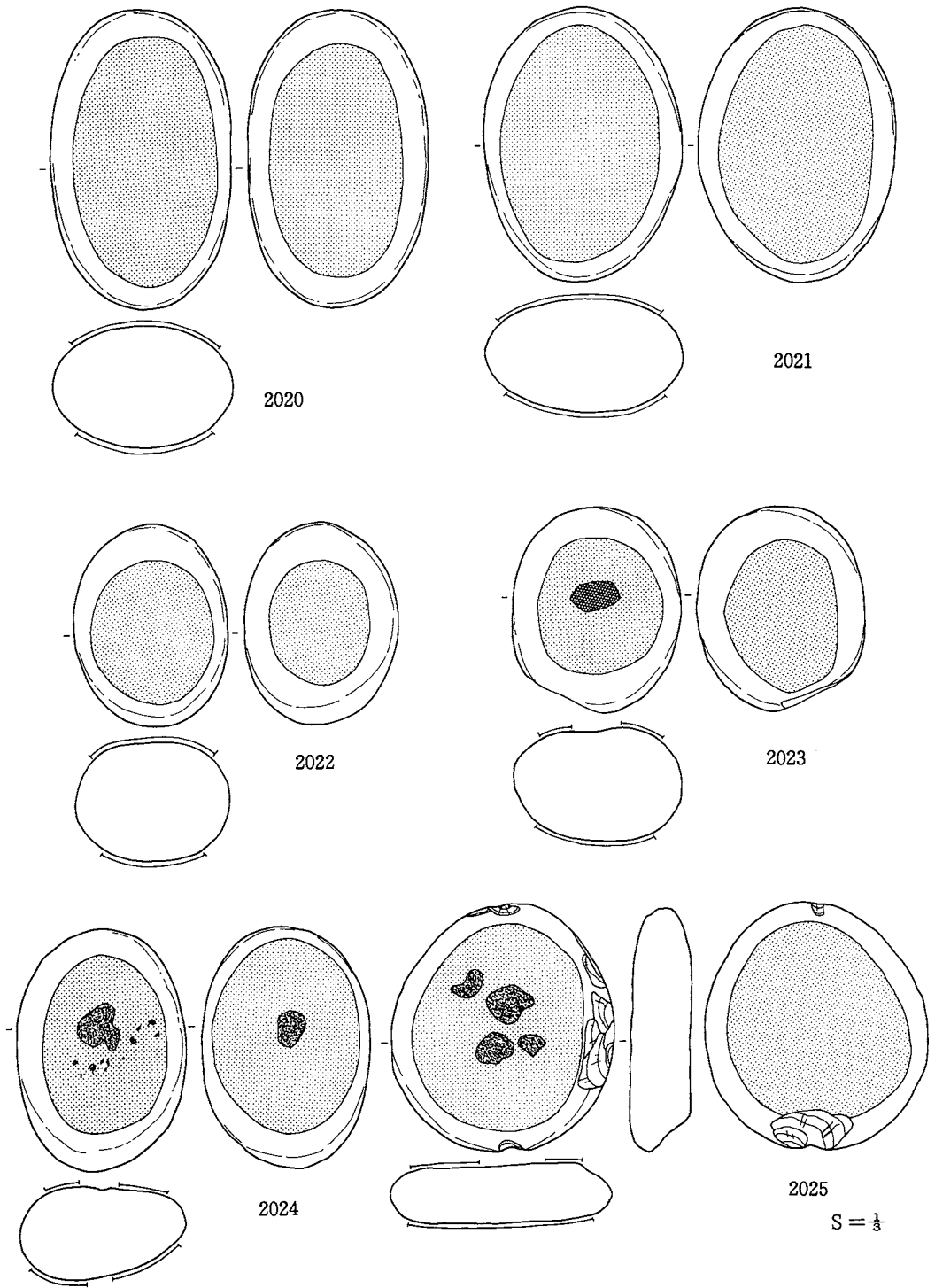
S = $\frac{1}{3}$



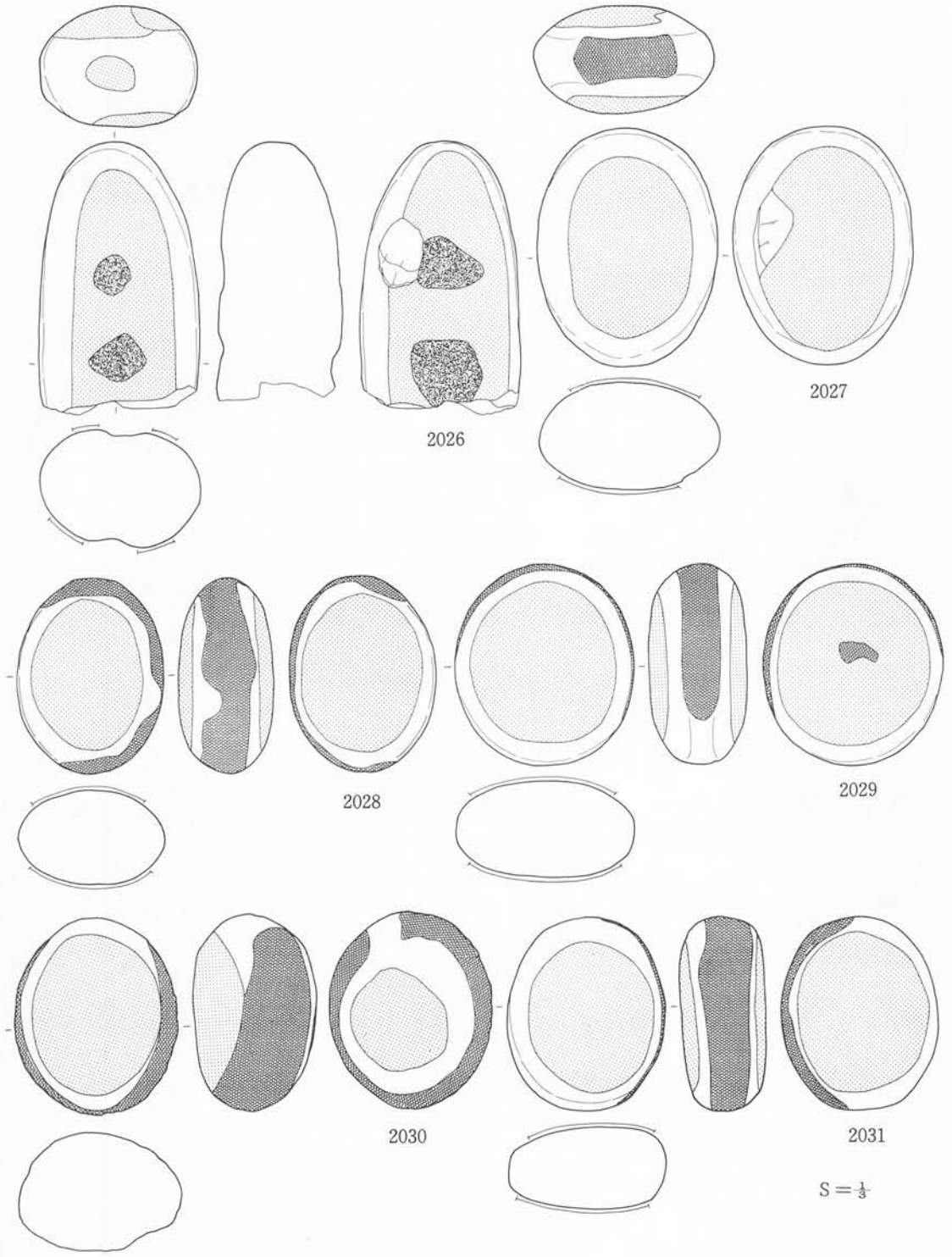
第184図 遺物包含層出土遺物（石器）14



第185図 遺物包含層出土遺物（石器）15



第186図 遺物包含層出土遺物（石器）16



2027

2026

2028

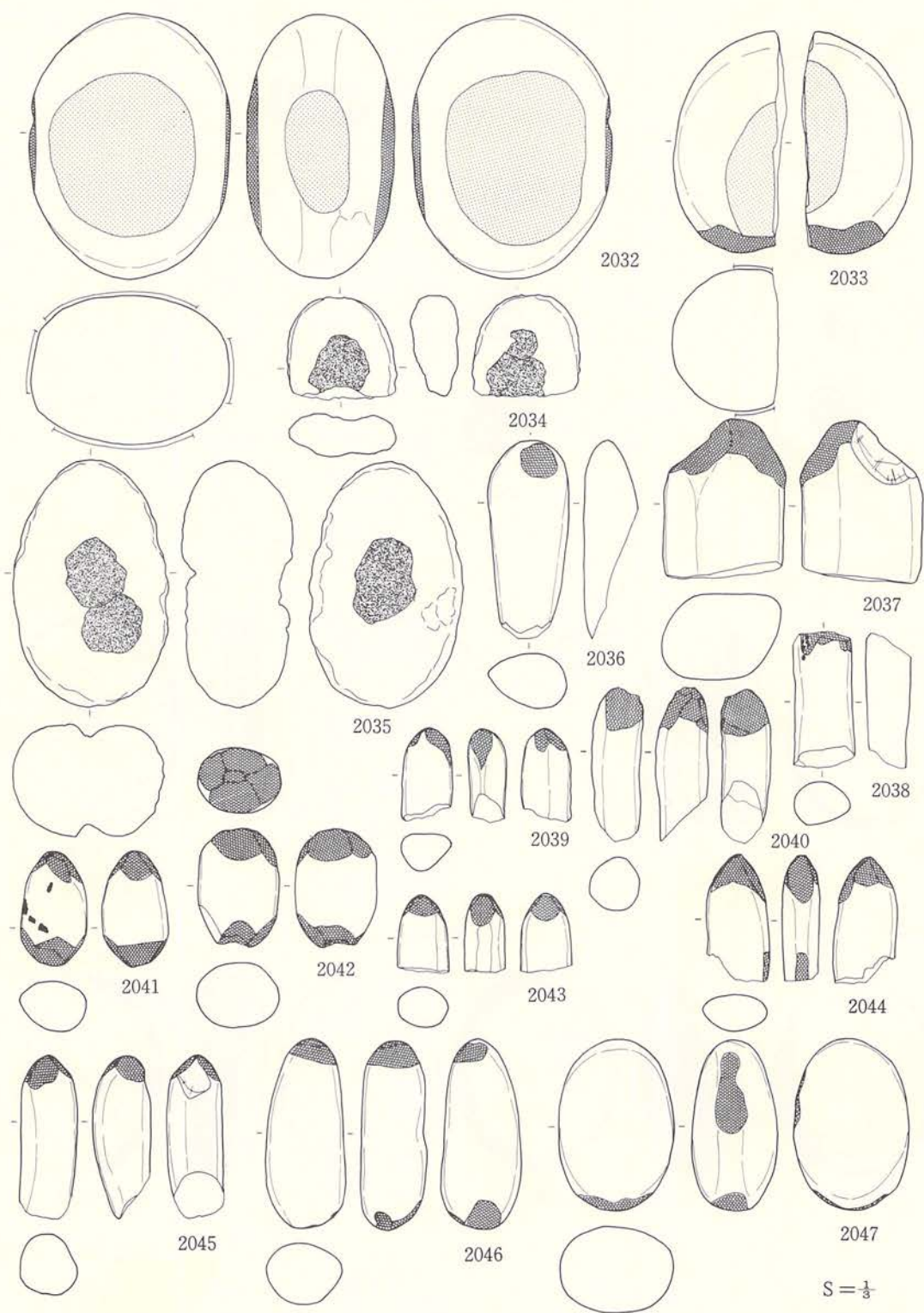
2029

2030

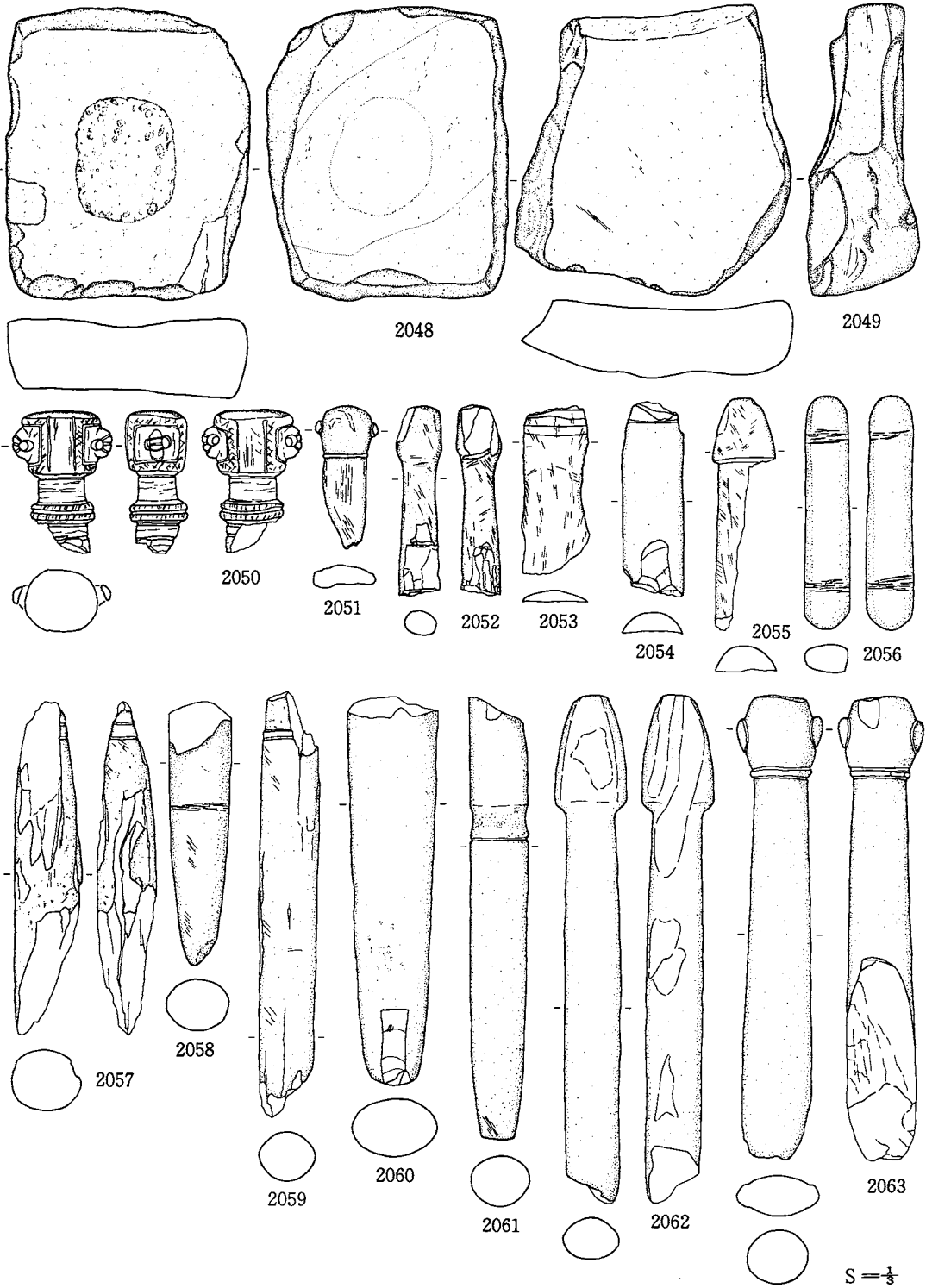
2031

S = $\frac{1}{3}$

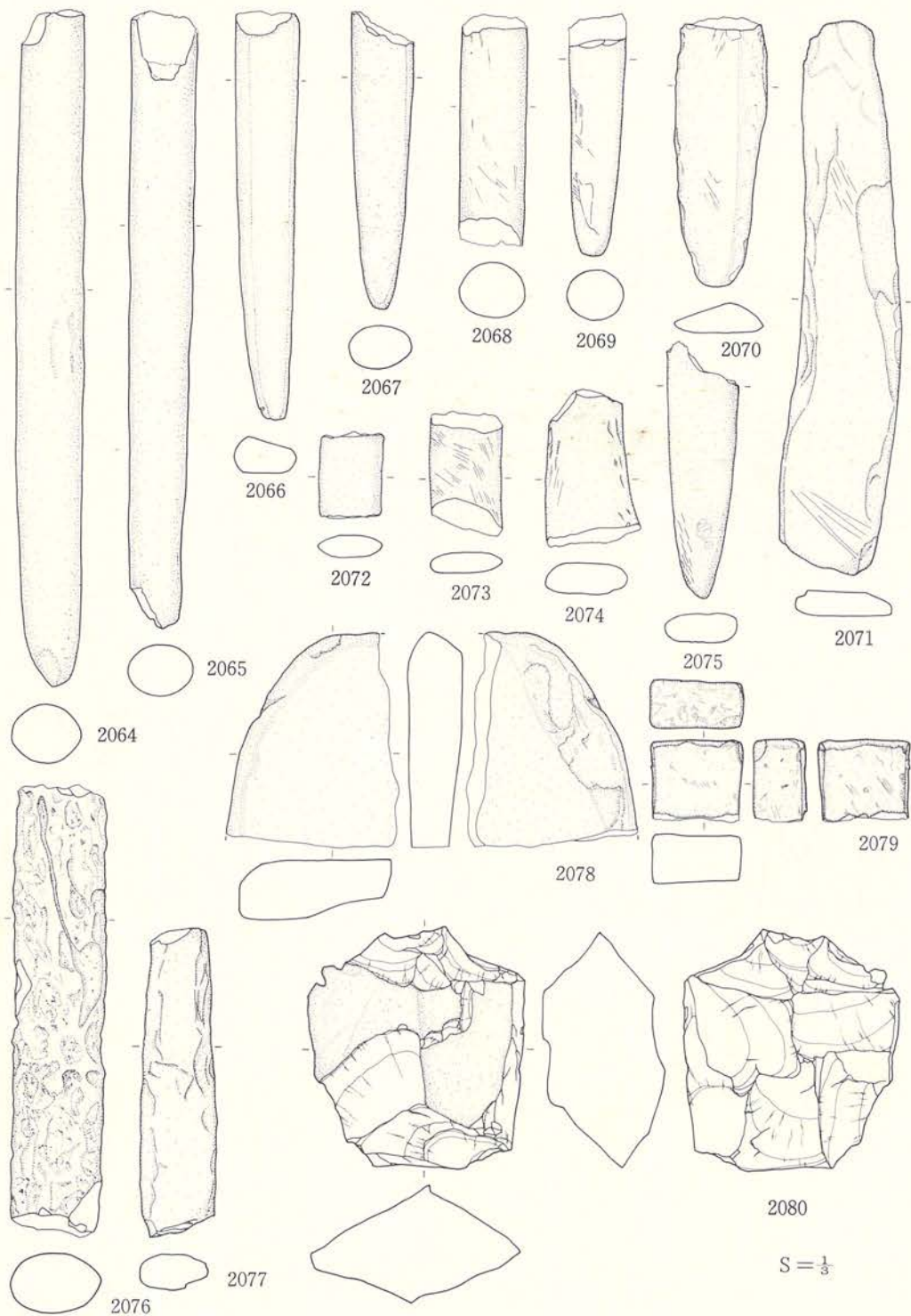
第187図 遺物包含層出土遺物（石器）17



第188図 遺物包含層出土遺物（石器）18



第189圖 遺物包含層出土遺物（石器）19

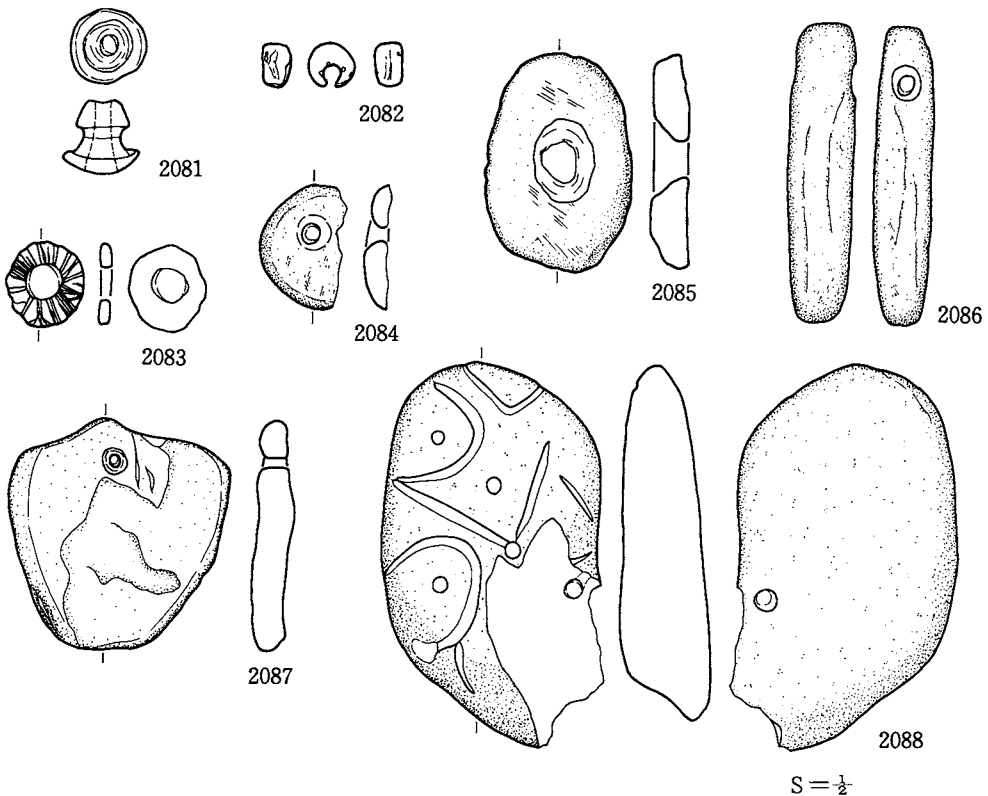


第190図 遺物包含層出土遺物（石器）20

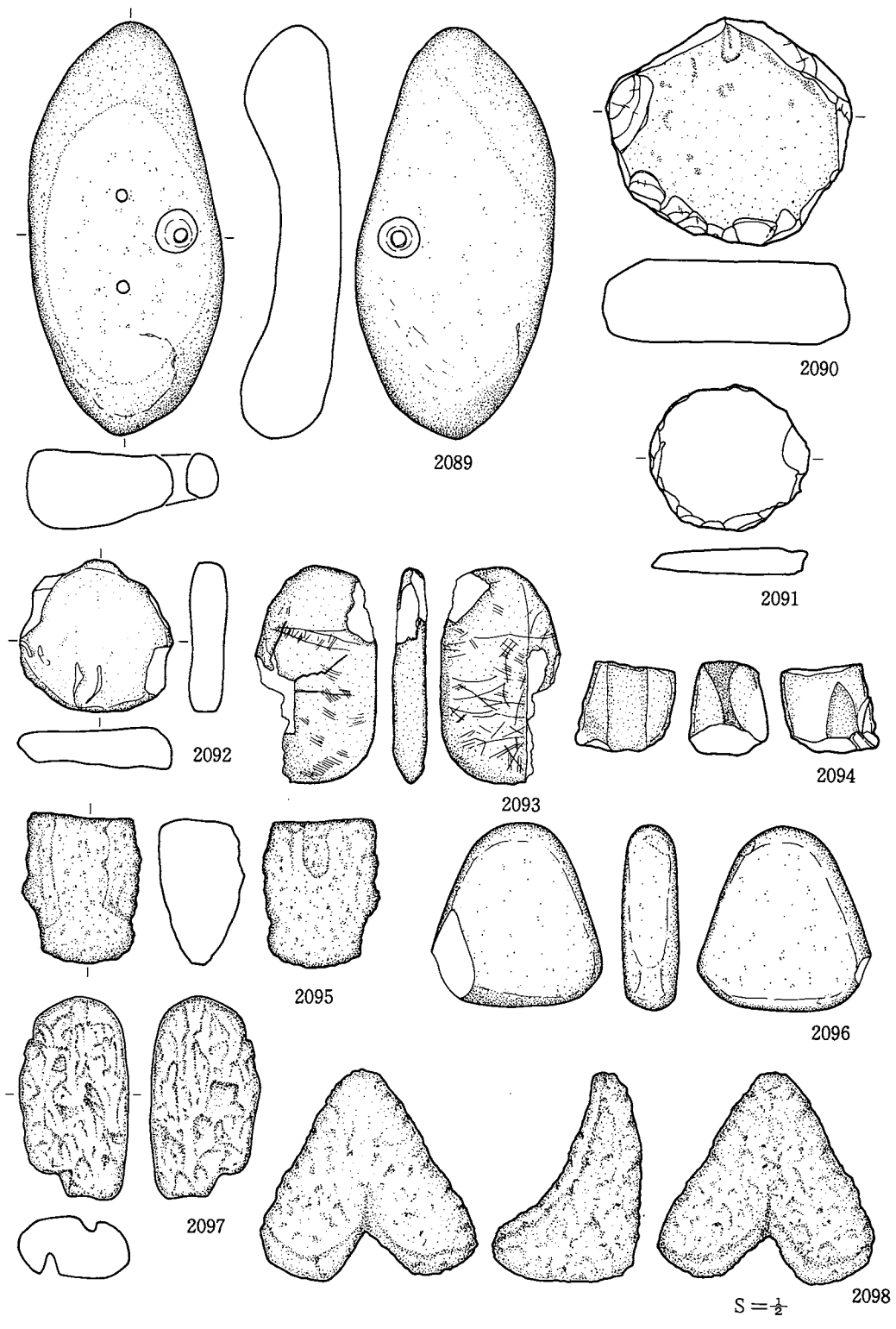
4. 石製品 (第191図～第192図・2081～2098)

包含層から19点が出土している。2081は全面に赤色塗彩された耳栓で、土製品の可能性もある。2082は小玉で、細くて雑な沈線文を持つ。2083～2089はいずれも貫通孔を有し、垂飾品と考えられる。2087は片面に放射状の線刻文が施されている。2086は棒状で全体が粗く研磨されている。2088は小円文と屈曲及び弧状の沈線文、2089は小円文が刻まれている。この他の3点は貫通孔の他には加工はない。2090・2092は石製円盤で、周囲を打ち欠いただけの成形である。2090の表面は滑らかで、石皿等からの転用品と考えられる。2093は線刻礫で、両面に微細な細線文が観察されるが、意匠は不明である。

2094～2098は用途が不明な石製品である。2094は溝状の凹みを有するが、残存部分が少なく詳細は不明である。なお、表面には赤色顔料が付着するほか、火熱を受けた痕跡が認められる。2095・2096は軽石製品で、特に顕著な加工痕は見られない。浮石の破損品であろうか。2097は両面及び側面に研磨痕を持つ三角形の礫で、磨石の可能性もある。2098は鉄鋼石を蹄状に加工したもので、内面はいくぶん滑らかである。



第191図 遺物包含層出土遺物（石製器） 1



第192図 遺物包含層出土遺物（石製器）2

5. 土製品（第193図～第201図）

土製品には土偶、土製円盤、耳飾り、垂飾品等がある。記述に当たっては出土量の多い土偶、土製円盤をまとめ、出土量の少ないものはその他の土製品として一括した。

土偶（2099～2150）

包含層からは52点が出土している。時期的には後期の土偶と晩期の土偶に分られる。

2099～2117は後期の土偶である。時期的には中葉～後葉のものが多い。2099は頭髮の一部と右足先を欠損しているが、出土時点ではほぼ成形であった。当土偶及び2102・2103は髪を結った状態を表現している。2103は顔面が突出し、仮面を表したものか。なお、胴部は中空で広がり、人面付き土器の可能性もある。2107は胴部のみが残存するが、手足の接合部から推定して座った姿勢で腕を組んでいる（子抱き姿勢）可能性がある。2117は足部だけの残存であるが、脚部が中空で膨らむことから晩期に属する可能性を持つ。なお、破損部にアスファルトの付着がみられるものが6点あるが、赤色顔料が塗彩されるのはない。2118～2150は晩期の土偶と考えられる。いずれも小破片のため、時期を明確に判断できるものは少ない。2118・2119は初頭～前葉期の土偶と考えられる。前者は頭部で、裏面はくぼみ仮面状を呈している。後者は中実の腕で、湾曲角度から前か後ろで手を合わせている可能性がある。

2120～2129は前葉期の土偶と考えられる。2120は胴部の中心に上下から突き刺し状の袂りが加えられている。2122は遮光器土偶の眼部で、顔破片の出土はこの1点だけである。

2147～2130は中葉期の土偶と考えられる。2132は胴部破片と考えられるが、土器の可能性もある。2143は胴部の中に粘土芯を持つ。2147は後葉期の土偶で、中空の右脚部である。

破損部分にアスファルトの付着が見られるものは3点あり、赤色塗彩されているものは4点ある。また、胎土中に海綿骨針を含むものが3点ある。

土製円盤（2151～2239）

包含層からは88点（総数：99）が出土している。いずれも土器破片の周囲を打ち欠くあるいは研磨して成形している。時期的には縄文時代中期～晩期までのものがあり、後期と晩期が多い。出土総数における成形別の割合は打ち欠きが26点（26.2%）、部分研磨が31点（31.3%）、全周研磨が43点（43.3%）である。また、中央部に穿孔を持つものが24点（24.2%）あり、このうち3点は未貫通である。破損が著しくないもの84点における集計値は長径最大7 cm、最小2.9 cm、平均4.4 cm、重量最大34.36 g、最小4.19 g、平均13.57 gである。

器面にアスファルトの付着が見られるものが3点、赤色顔料が付着するものが2点、胎土に海綿骨針を含むものが1点ある。

この他の土製品 (2240～2252)

上記以外の土製品を一括した。2240～2242は環状の土製品で耳飾りと考えられるが、腕輪の可能性もある。2243・2244は耳飾りで、前者は赤色塗彩されている。2245～2247は貫通孔及び小孔をもち、垂飾・装飾品であろう。2248・2249はスタンプ状の土製品で、2248は耳飾りの可能性もある。2250はスプーン状の土製品で、柄の部分のみが残存する。2251は緩く湾曲する滑らかな器面で、径3 cm大の孔を持つ。残存部分が少なく詳細は不明であるが、仮面の可能性がある。2252は水滴状の土製品であるが、文様及び穿孔は見られない。

6. 骨角器 (第202図・2253～2258)

青絞の歯が6点出土している。いずれもエナメル質部分のみが残存する。2253～2255は角鋌状を呈するもので、2254の歯根部との接点には穿孔の加工痕が僅かに残る。2256～2258は厚みのない三角形で、いずれも歯根部との境部分に径5 mm前後の穿孔を持つ。

7. 金属器 (第202図・2258～2261)

鉄釘、鉄斧、古銭が出土している。2259は鉄釘で、中世陶磁器が集中して出土した付近からの出土である。断面形は先端部から中央部が四角形であるが、頭部は薄く平坦になる。2259は鉄斧で、これも鉄釘同様陶器の集中区周辺部からの出土である。全長は7 cmと小型で、柄を装着する部分は地金の鉄板をU字に折り曲げて作っている。刃部は緩く扇形に開く。

2261はI B区のII b層からの出土した北宋銭である。元祐通寶(初鑄:1086年)の行書体で、火熱を受けている上、錆化が進んでいるため全体にだいたい傷んでいるが、元の字が明瞭なことから本銭と考えられる。

8. 自然遺物

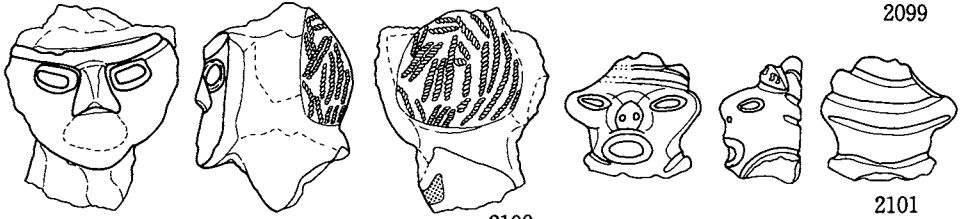
自然遺物にはアスファルトと獣骨片がある。アスファルトは塊状のものが3個出土している。しかし、2個は取り上げの際に破砕してしまった。重量は2262が2.07 g、2263が1.87 g、2264が10.74 gである。なお、遺物では土器48点、石器117点、土偶9点、土製円盤3点の合計177点にアスファルトの付着がみられた。土器の2265～2290の26点については写真を掲載している。

2265～2284は注口土器で、破損の補修と考えられる。2285～2290は底部内面に付着している。

包含層中には無数の獣骨片が含まれていた。ほとんどが焼けた小片であったが、やや大型のもの約1156.4 gを採集した。この他に鹿と猪の顎の骨が出土したが、歯を除いて粉状になっており、取り上げることはできなかった。他の骨が焼けているのに対し、これらの顎骨は生の状態での出土であった。

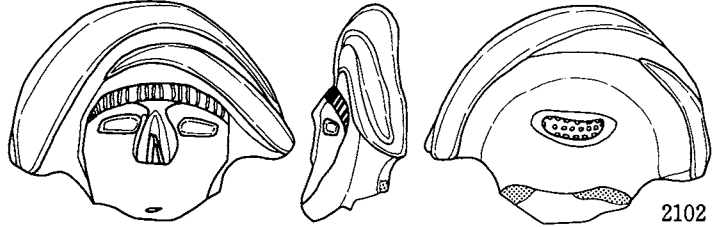


2099

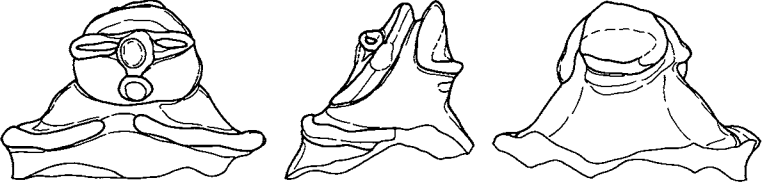


2100

2101



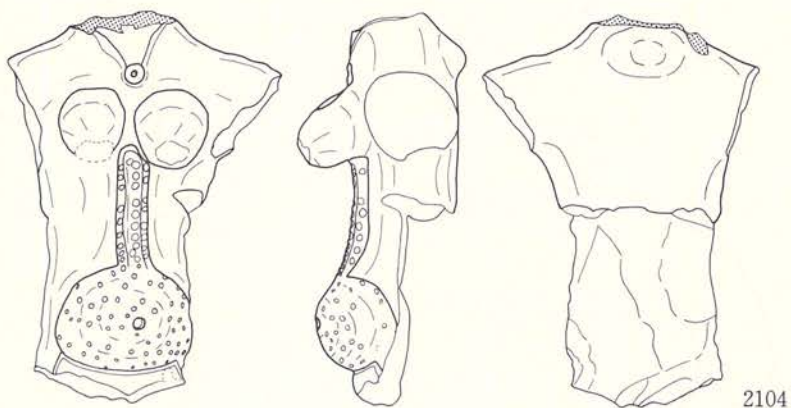
2102



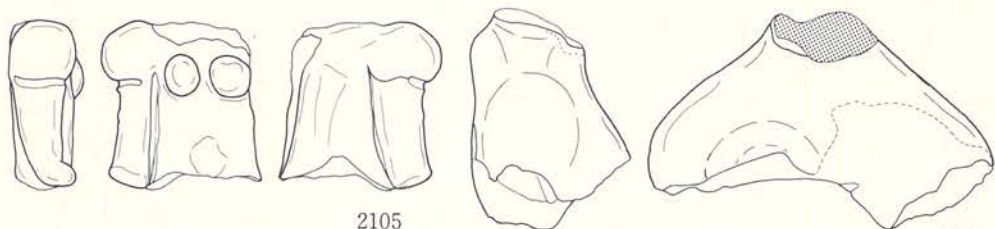
2103

S = 1/2

第193图 遺物包含層出土遺物（土偶）1

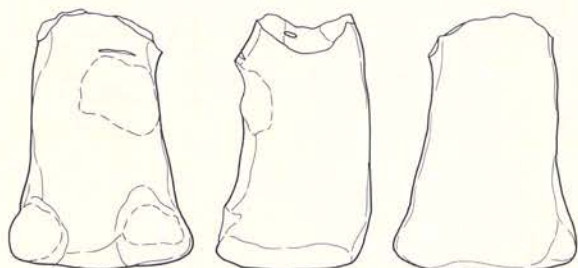


2104

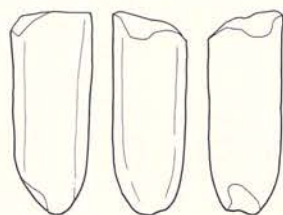


2105

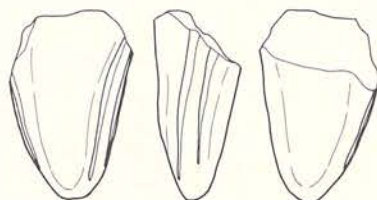
2106



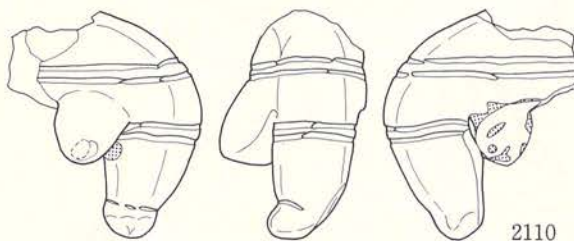
2107



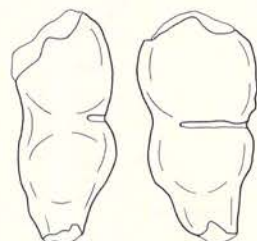
2108



2109



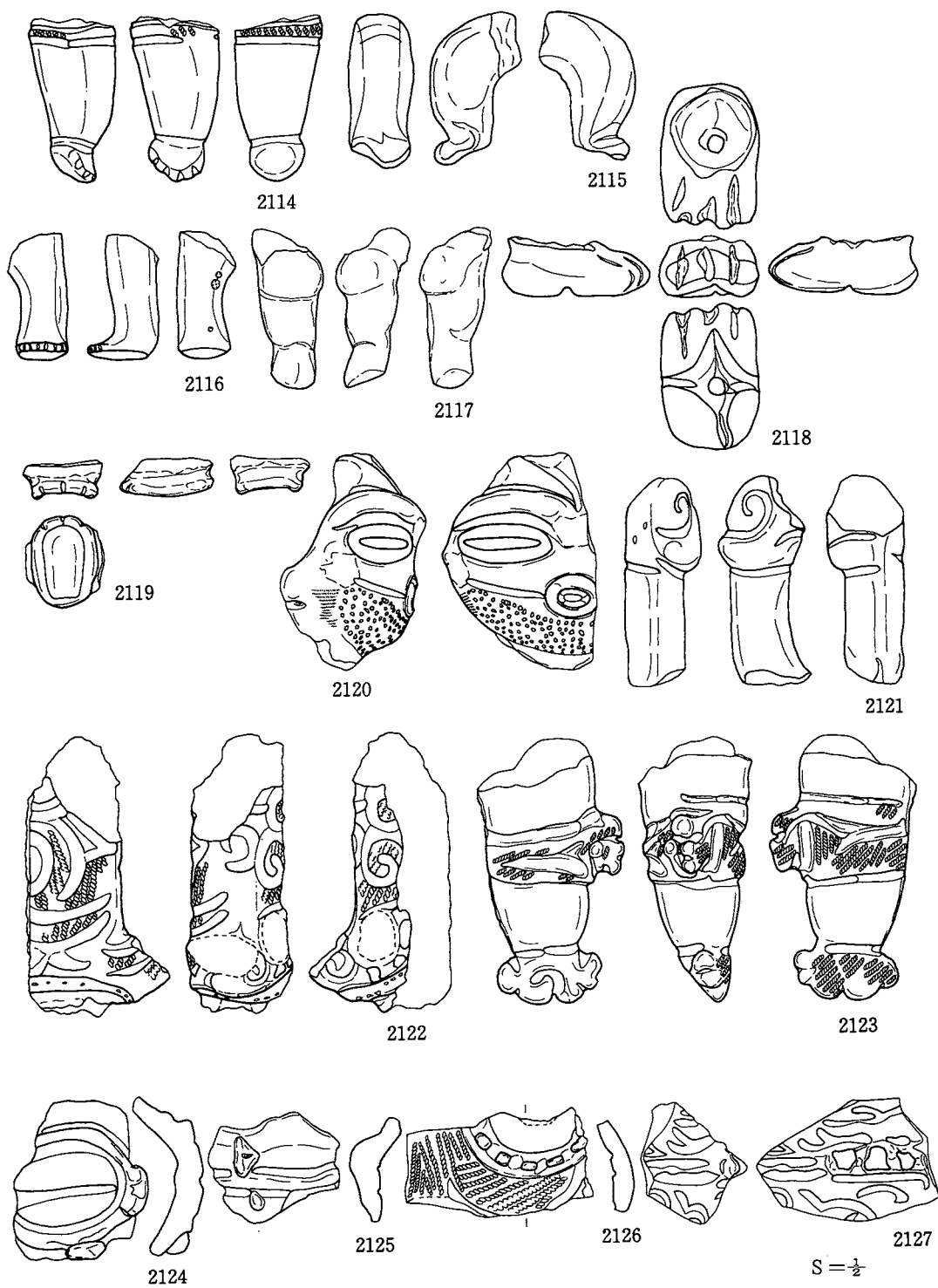
2110



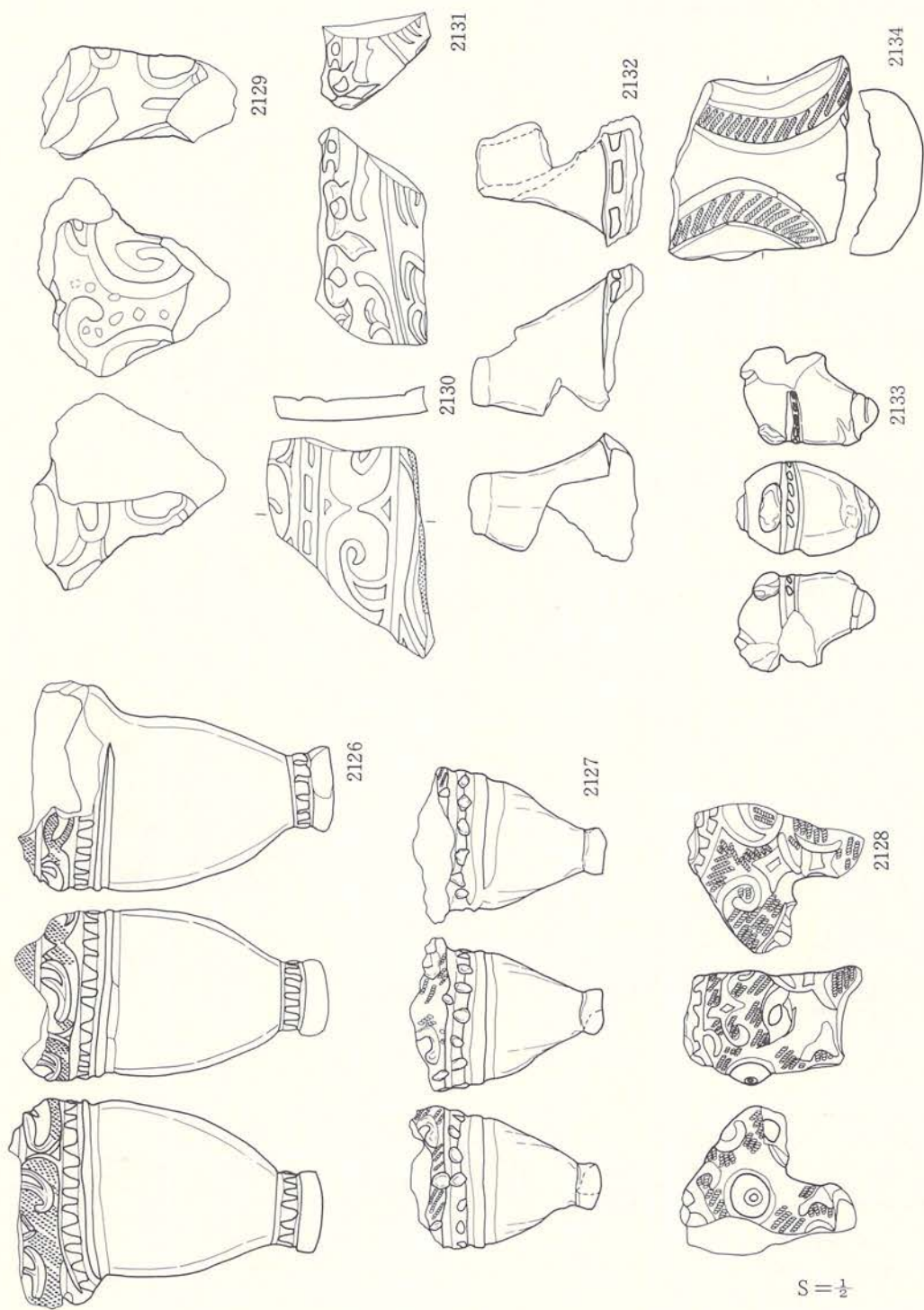
2111

S = 1/2

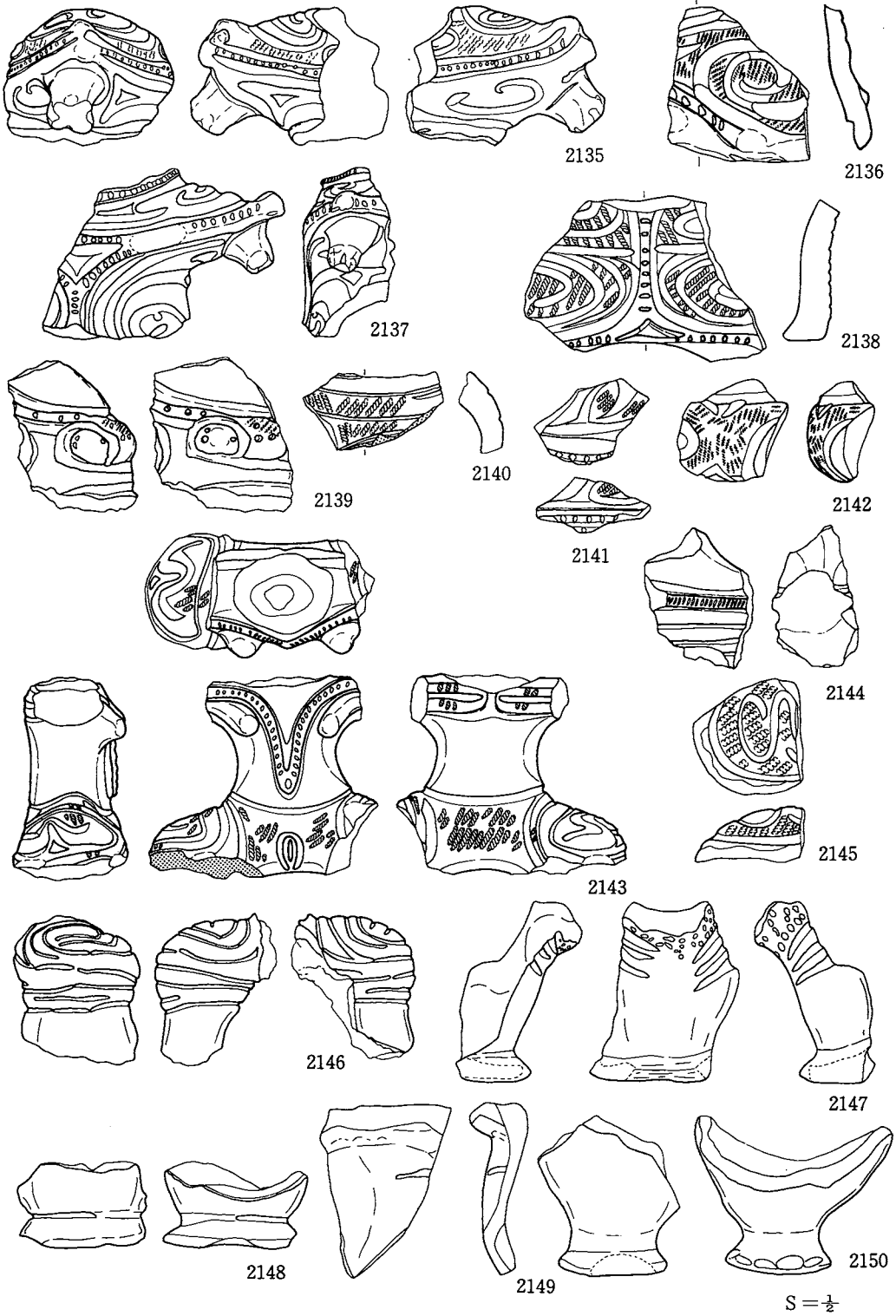
第194図 遺物包含層出土遺物(土偶) 2



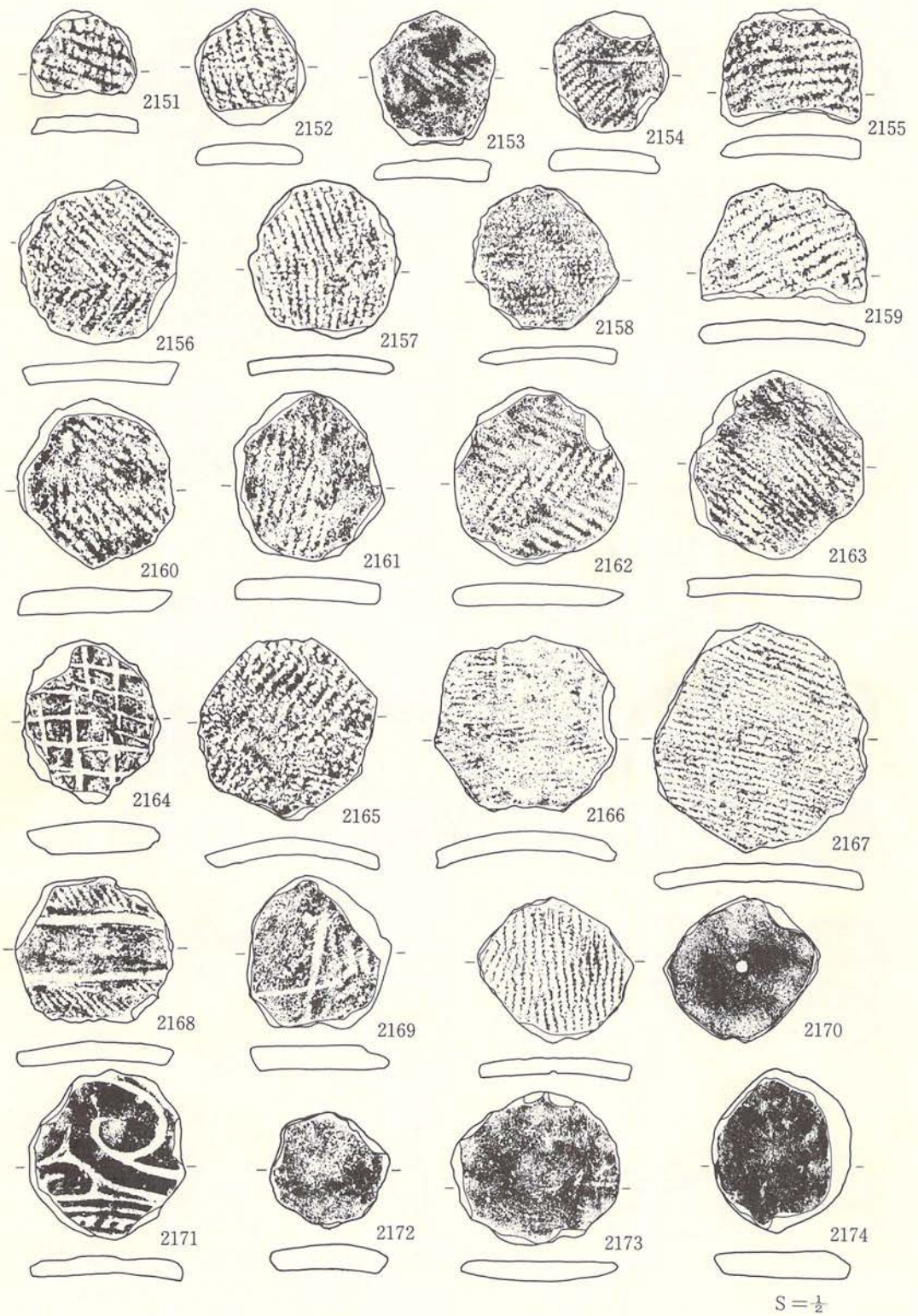
第195圖 遺物包含層出土遺物（土偶）3



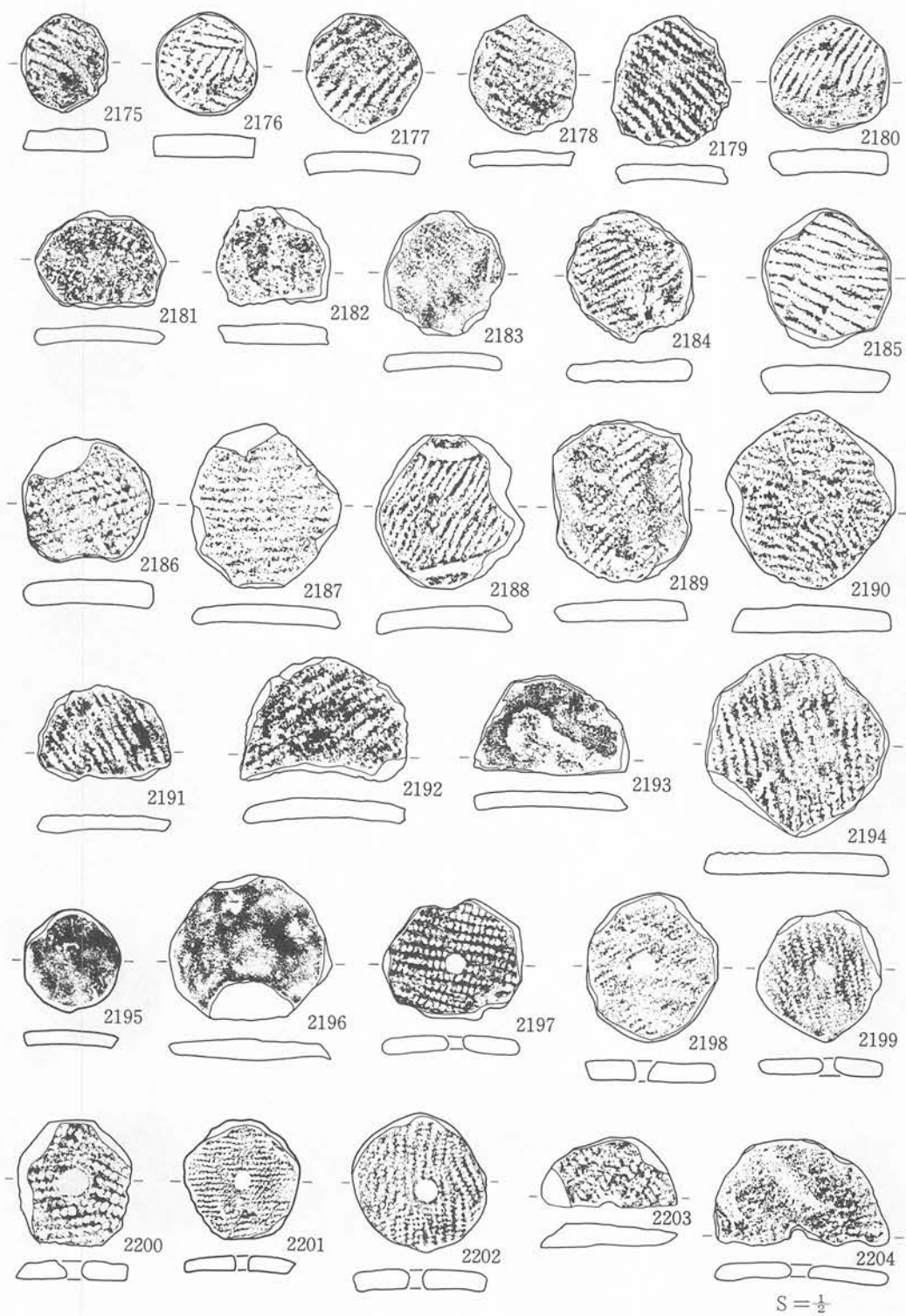
第196圖 遺物包含層出土遺物（土偶）4



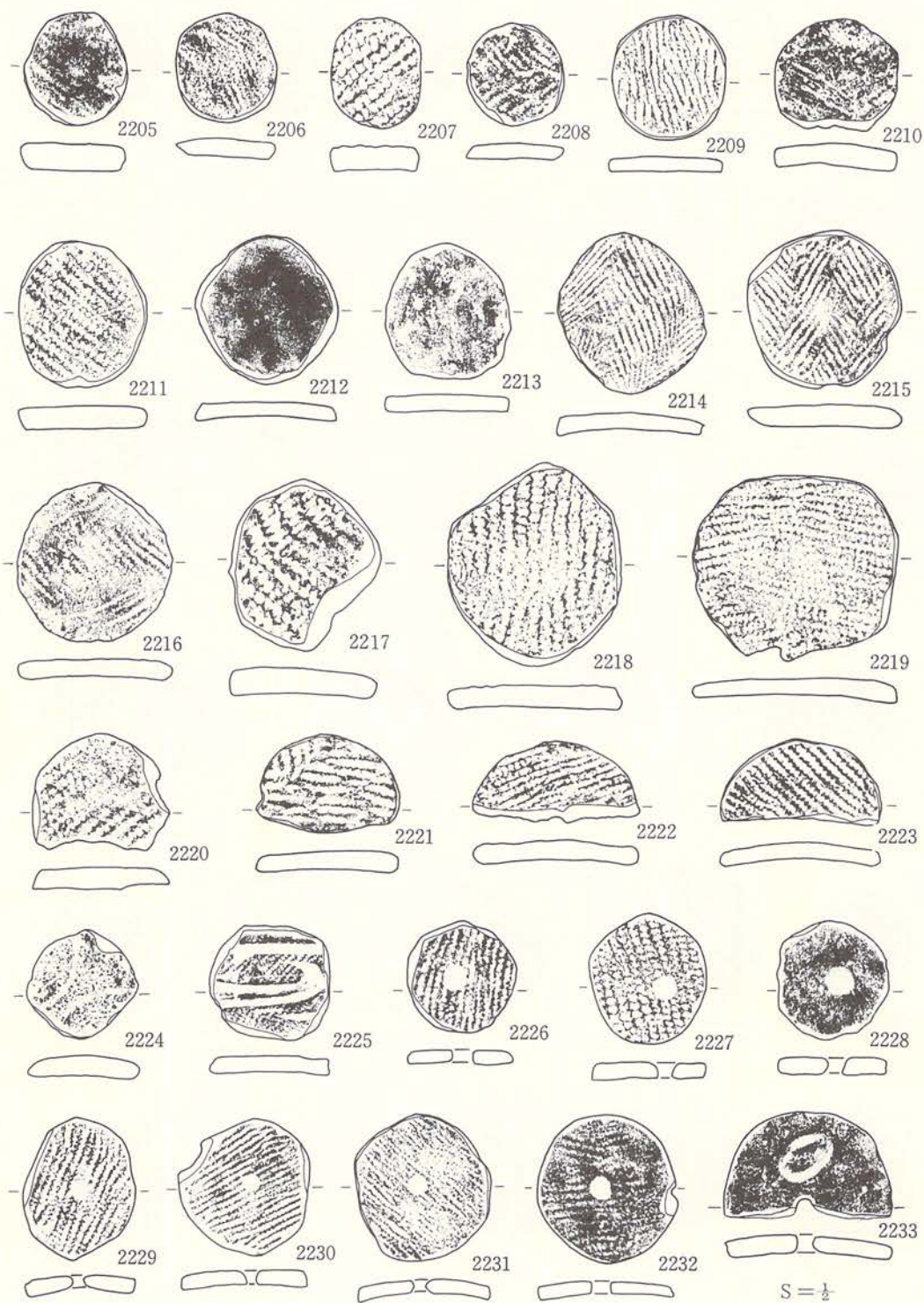
第197图 遺物包含層出土遺物（土偶）5



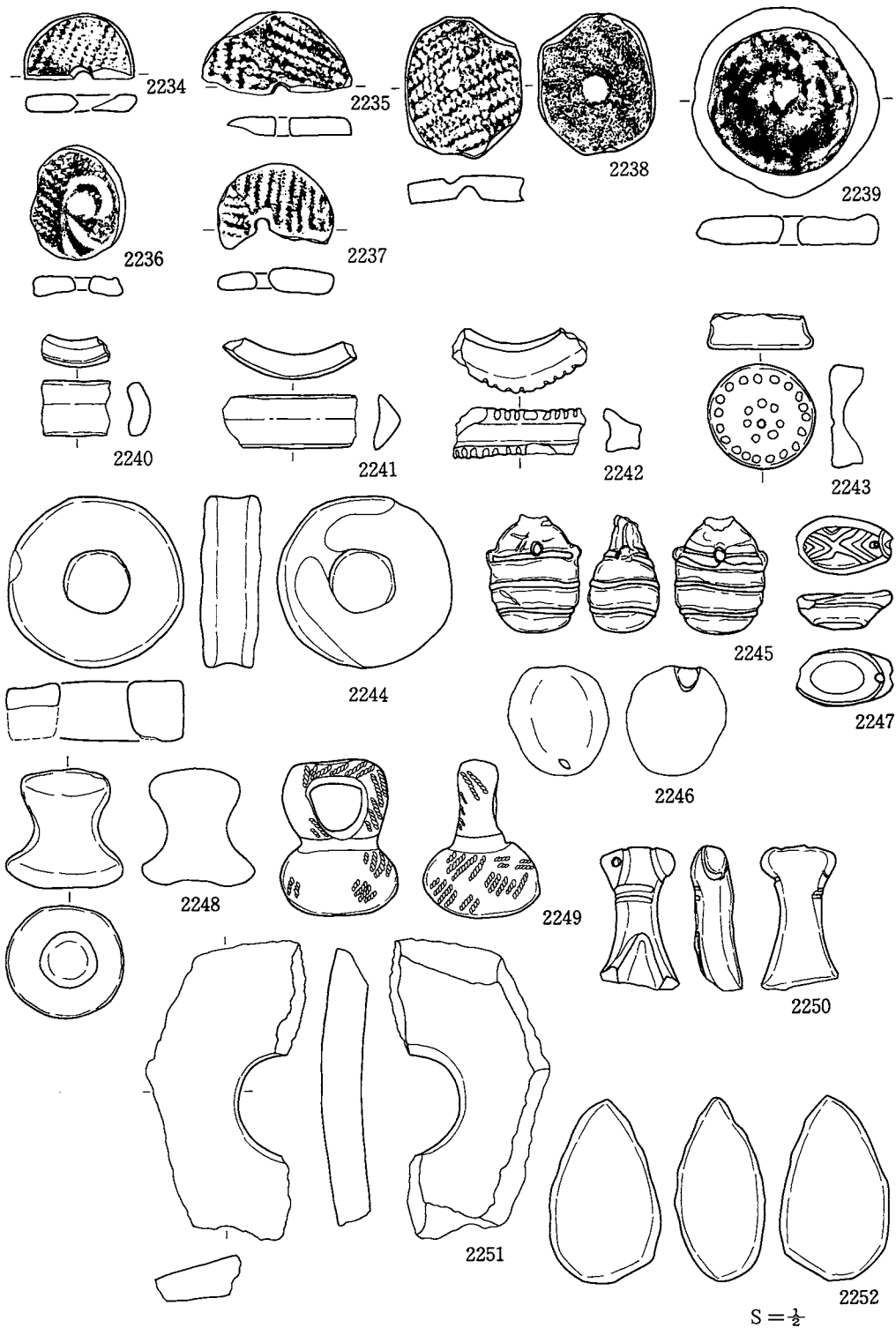
第198図 遺物包含層出土遺物(土製円盤)1



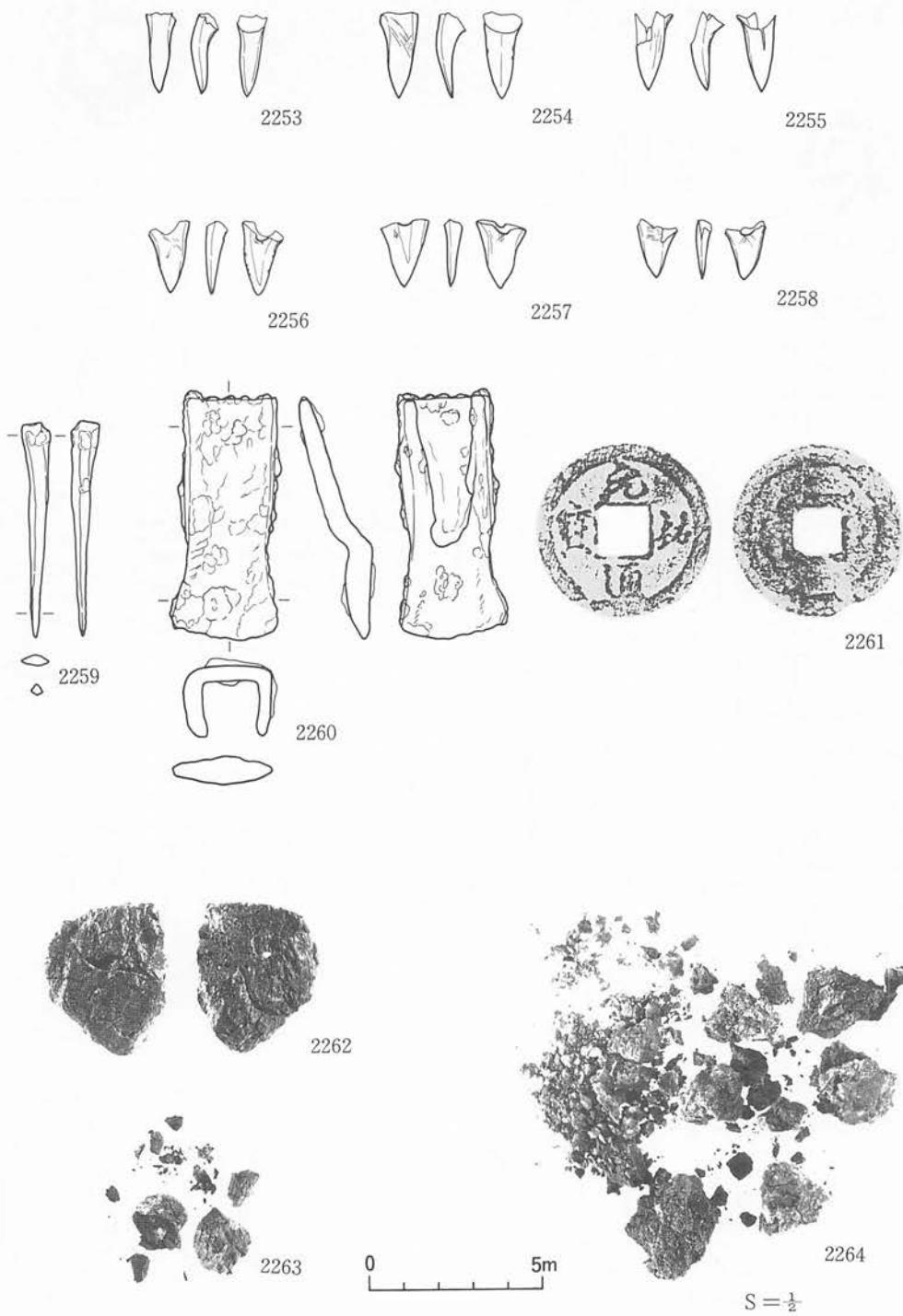
第199図 遺物包含層出土遺物（土製円盤）2



第200図 遺物包含層出土遺物（土製円盤）3



第201圖 遺物包含層出土遺物（土製円盤）4・（土製品）



第202図 遺物包含層出土遺物（骨角器・金属器・アスファルト）

土器観察表

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1	IA-1 住埋土	注口土器	胴部		胴部上端に半浮彫的な凹凸列 沈線による曲線文 外面ミガキ	IV 2 b
2	IA-1 住貼床下	注口土器	胴部		肩に突起列 半浮彫的文様 連珠文	IV 2 b
3	IA-1 住埋土下部	鉢	口縁部	LR	直線的な羊歯縄文 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
4	IA-1 住埋土下部	鉢	口縁部	RL	刻み列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
5	IA-1 住埋土	鉢	口縁部		小山形口縁 半浮彫的な文様 口縁内側にも平行沈線	IV 3
6	IA-1 住埋土	壺	口～頸		隆帯 赤色顔料付着	IV 3
7	IA-1 住貼床下	浅鉢	口～胴		無文 雑なミガキ	IV 3
8	IA-1 住埋土	浅鉢	胴～底	LR	皿? 沈線区画の磨消縄文 底面にも施文	IV 3
9	IA-1 住貼床上	深鉢	口縁部		大波状口縁(5単位?) 沈線区画の刻み列 口縁部内側肥厚	III 2
10	IA-1 住貼床下	深鉢	口～胴	LR	地文のみ	IV 6
11	IA-1 住貼床下	深鉢	胴部	RL	地文のみ	IV 6?
16	IA-2 住埋土下部	深鉢	口縁部	LR?	山形突起を伴う大波状口縁 沈線区画の充填縄文と貼瘤文	III 3 a
17	IA-2 住埋土下部	鉢	口縁部		小山形口縁 平行沈線文 半浮彫的な連珠文	IV 3
18	IA-2 住炉内	鉢	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文(入り組み帯状文)	III 4 b
19	IA-2 住埋土下部	鉢?	胴部	LR	平行沈線文	III?
20	IA-2 住炉内	深鉢?	胴部	LR	沈線区画の充填縄文と豆粒状の貼瘤文	III 3 b
21	IA-2 住埋土上部	深鉢	胴部	LR?	沈線区画の充填縄文と貼瘤文	III 3 b
22	IA-2 住埋土下部	深鉢	底部		無文	III?
23	IA-2 住埋土上部	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	IV?
24	IA-2 住埋土下部	壺	胴部		半浮彫的連珠文と突起	IV 2 b
27	IA-3 住埋土上部	深鉢	口縁部	RL	角状の突起部分 隆帯と貼瘤文 沈線区画の充填縄文	III 3 a
28	IA-3 住埋土下部	壺	口～頸	RL	沈線区画の充填縄文 沈線区画の刻み列 羽状縄文 0段多条	III 2
29	IA-3 住埋土上部	壺	口～胴		無文 くびれた部分に浅い沈線文 アスファルト	III 2
30	IA-3 住埋土上部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	III 2
31	IA-3 住埋土上部	深鉢	口～胴	RL	地文のみ	III 5
32	IA-3 住埋土下部	深鉢	胴～底	LR	地文のみ	III 5
33	IA-3 住埋土下部	深鉢	底部			III 5
36	IA-4 住埋土	深鉢	口～底		豆粒状の貼り瘤列 条痕が充填された入り組み帯状文	III 3 b
37	IA-4 住埋土下部	注口土器	注口部		雑なミガキ	III
38	IA-4 住埋土	深鉢	口縁部	LR・RL	耳たぶ状の山形突起 沈線区画の刻み列と充填縄文 0段多条	III 3 a
39	IA-4 住埋土下部	深鉢	口縁部	LR	沈線区画の充填縄文 口縁部内側肥厚	III 3 a
40	IA-4 住埋土下部	深鉢	口縁部	LR?	小山形口縁 沈線区画の充填縄文	III 3 a
41	IA-4 住埋土	深鉢	口縁部	RL	沈線区画の充填縄文 口縁部内側肥厚	III 3 a
42	IA-4 住埋土	深鉢	口縁部	LR	地文のみ 口縁部内側肥厚	III 5
43	IA-4 住埋土下部	深鉢	口～胴	RL	地文のみ	III 5
44	IA-4 住埋土	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文と豆粒状の貼瘤文	III 3 b
47	IA-5 住埋土床直	鉢?	口～胴	RL	口唇部に刻み 沈線区画磨消縄文 0段多条 羽状風	III 2
48	IA-5 住埋土下部	壺	口～頸		4単位の小突起 平行沈線文 肩部に矢羽根状沈線を持つ隆帯	III 2
49	IA-5 住埋土下部	壺	口縁部		内面に張り出す小突起 口縁部内側肥厚 沈線区画の刻み列	III 2
50	IA-5 住埋土中部	壺	口縁部		2個一対の小突起 沈線区画の刻み列 赤色塗彩	III 2
51	IA-5 住床直	鉢	口縁部	RL	刻み列 沈線区画の充填縄文 0段多条	III 2
52	IA-5 住埋土中部	台付鉢	口～胴	LR	沈線区画の刻み列と充填縄文 底部内面にも縄文帯 口縁部内側肥厚	III 2
53	IA-5 住床直	深鉢	口～胴	LR・RL	沈線区画の磨消縄文 羽状縄文 0段多条	III 2
54	IA-5 住埋土最下部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の刻み列と充填縄文?	III 2
55	IA-5 住埋土下部	深鉢	胴部	RL	沈線区画の磨消縄文 羽状縄文 0段多条	III 2
56	IA-5 住埋土下部	壺	胴部	RL	沈線区画の刻み列と充填縄文 0段多条	III 2
57	IA-5 住埋土下部	鉢	胴部	RL	沈線区画の磨消縄文 羽状縄文	III 2
58	IA-5 住埋土	鉢	口縁部	LR	沈線区画の充填縄文 口縁部内側肥厚 0段多条	III 2
59	IA-5 住床直	深鉢	胴部	RL?	沈線区画の磨消縄文	III 2
60	IA-5 住床直	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の磨消縄文 羽状縄文 0段多条	III 2
61	IA-5 住埋土下部	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	III 2
62	IA-5 住埋土下部	深鉢	口縁部		山形状の波状口縁 中央に刺突を伴う貼瘤 沈線文 刺突文	III 1
63	IA-5 住埋土最下部	深鉢	口縁部		台状の山形口縁 沈線による曲線文	III 1
64	IA-5 住埋土	深鉢	胴部	L	沈線区画の充填縄文 擦り戻し?	III 1
65	IA-5 住埋土	鉢	口縁部	LR	口縁部無文 地文のみ	III 5
66	IA-5 住床直	深鉢?	口縁部	LR・RL	地文のみ 羽状縄文 0段多条 口縁部内側肥厚	III 5
67	IA-5 住埋土下部	深鉢	口～胴	LR	地文のみ	III 5
68	IA-5 住埋土	注口土器	胴部		無文 雑なミガキ	III 2?
81	IA-6 住床面	香炉	天井部		環状の把手 頂部に刻みを有する微隆線と低い貼瘤 赤色塗彩	III 3 b
82	IA-6 住床面	壺?	口～頸	RL	沈線区画文 沈線区画された刻み列 0段多条 羽状縄文	III 2

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
83	I A-6 住埋土下部	壺	口～頸		低い台条突起 刻み列を持つ沈線区画の低い隆帯	Ⅲ 2
84	I A-6 住埋土下部	鉢?	胴～底	R L	壺? 沈線区画された小刺突列	Ⅲ 2
85	I A-6 住埋土下部	鉢?	胴～底	R L	沈線区画の磨消縄文 0段多条 羽状縄文	Ⅲ 2
86	I A-6 住埋土下部	深鉢	胴～底	R L	沈線区画の磨消縄文 0段多条	Ⅲ 2
87	I A-6 住埋土下部	鉢	口～胴	L R	山形状の小突起 沈線区画の充填縄文	Ⅲ 2
88	I A-6 住埋土下部	壺?	口～胴	R L	沈線区画の刻み列と充填縄文	Ⅲ 2
89	I A-6 住埋土下部	深鉢	口縁部	L R・R L	刻み列 沈線区画の充填縄文 口縁部肥厚 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 2
90	I A-6 住埋土下部	深鉢	口～胴	L R・R L	沈線区画の磨消(充填)縄文 羽状縄文 0段多条 口縁部肥厚	Ⅲ 3 a
91	I A-6 住埋土下部	深鉢	口～胴	L R・R L	沈線区画の刻み列と沈線文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
92	I A-6 住埋土下部	深鉢	口縁部	R L	耳たぶ状の山形突起 沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
93	I A-6 住埋土下部	深鉢	口縁部		沈線区画の磨消文様 地文は櫛歯状の細線文	Ⅲ 3 a
94	I A-6 住埋土	深鉢	口～胴	R L	沈線区画の刻み列(浮彫的表現:隆帯に刻み)	Ⅲ 3 a
95	I A-6 住埋土	深鉢	口縁部	L R・R L	耳たぶ状の山形突起 口唇部に刻み列と沈線文 沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
96	I A-6 住埋土	深鉢	口縁部		大波状口縁 沈線区画の刻み列 口縁部内側肥厚	Ⅲ 2
97	I A-6 住埋土	深鉢	口縁部	R L?	波状口縁 刻み列 沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条?	Ⅲ 2
98	I A-6 住埋土下部	深鉢	口縁部		大波状口縁 沈線区画の刻み列 口縁部内側肥厚	Ⅲ 2
99	I A-6 住埋土下部	深鉢	胴部	R L	沈線区画の刻み列 羽状縄文 0段多条 内面にスス	Ⅲ 2
100	I A-6 住埋土	深鉢	胴部	R L	沈線区画の充填縄文 沈線に沿って刻み列 0段多条	Ⅲ 2
101	I A-6 住埋土下部	深鉢?	胴部	R L	沈線区画の刺突列と充填縄文	Ⅲ 2
102	I A-6 住埋土下部	深鉢	胴部	L R・R L	沈線区画の磨消縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 2
103	I A-6 住埋土下部	深鉢	胴部	R L	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ 2
104	I A-6 住埋土下部	鉢	胴部	R L	沈線区画磨消(充填?)縄文	Ⅲ 3 a
105	I A-6 住埋土	深鉢	胴部	L R	沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
106	I A-6 住埋土下部	深鉢	胴部	L R?	沈線区画の充填縄文と豆粒状の貼瘤	Ⅲ 3 a
107	I A-6 住埋土	深鉢	胴部	L	沈線区画の充填縄文と刻みを伴う貼瘤	Ⅲ 3 a
108	I A-6 住埋土	壺	頸部		低い隆帯と貼瘤	Ⅲ 3 a
109	I A-6 住埋土下部	鉢	胴部	R L	沈線文 0段多条	Ⅲ 2?
110	I A-6 住埋土下部	注口土器	胴部	L R	沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
111	I A-6 住埋土	深鉢	口縁部		地文のみ 櫛歯状の条線文	Ⅲ 5
112	I A-6 住埋土	深鉢	口縁部	R L	地文のみ 口縁部内側肥厚 口唇部～内面は丁寧なミガキ	Ⅲ 5
113	I A-6 住埋土下部	台付鉢	底～台	L R	沈線文	Ⅲ
114	I A-6 住埋土	深鉢	底部			Ⅲ 5
115	I A-6 住埋土	深鉢	胴～底		無文	Ⅲ 5
116	I A-6 住埋土下部	深鉢	底部		底面網状痕	Ⅲ 5
150	Ⅱ A-1 住炉脇一括	注口土器	口～胴	L R	2個一対の小突起と山形突起 半浮彫的な変形工字文	Ⅳ 5
151	Ⅱ A-1 住床直	鉢?	口縁部		直線的な羊歯状文	Ⅳ 3
152	Ⅱ A-1 住床直	鉢	口縁部	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な羊歯状文と磨消縄文	Ⅳ 3
153	Ⅱ A-1 住炉脇一括	鉢	口縁部		刻み状の小山形口縁 平行沈線文 スス	Ⅳ 3
154	Ⅱ A-1 住床直	鉢?	胴部		半浮彫的な連珠文	Ⅳ 3
155	Ⅱ A-1 住床直	鉢	胴部	L R	半浮彫的な磨消縄文	Ⅳ 4
156	Ⅱ A-2 住埋土	深鉢	口～胴	L R	2個一対の小突起 直線的な羊歯状文 半浮彫的な磨消縄文	Ⅳ 3
157	Ⅱ A-2 住埋土	深鉢	胴部	L R	半浮彫的な磨消縄文と平行沈線文	Ⅳ 3
158	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	口縁部	L R・R L	3個一対の山形突起 沈線区画の刻み列と充填縄文 羽状縄文?	Ⅲ 4 a
159	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	口縁部	L R・R L	沈線区画の充填縄文 口縁部内側肥厚 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 2
160	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	口縁部		大波状口縁 刻み(刺突)列 口縁部肥厚	Ⅲ 2
161	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	口縁部	L R・R L	内側に張り出す山形突起 沈線区画の充填縄文 羽状縄文	Ⅲ 3 a
162	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	胴部	R L	沈線区画の磨消縄文(入組帯状文)とボタン状の貼瘤 スス	Ⅲ 3 a
163	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	胴部	L R・R L	沈線区画の刻み列 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 2
164	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	胴部	R L	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 2
165	Ⅱ A-2 住床面直上	深鉢	胴部	R L	沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
166	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	胴部	R L	沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
167	Ⅱ A-2 住埋土	深鉢	胴部	L R	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
168	Ⅱ A-2 住埋土上～中	壺	頸部		細い平行沈線と豆粒状の貼瘤	Ⅲ 3 b
169	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	口縁部	R L	地文のみ 0段多条	Ⅲ 5
170	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	口縁部	R L	地文のみ 0段多条	Ⅲ 5
171	Ⅱ A-2 住埋土上～中	深鉢	口縁部		低い山形口縁とB突起 三叉文 破沈線と低い貼瘤	Ⅳ 2 a
172	Ⅱ A-2 住埋土上～中	鉢	口縁部	L R	B突起 口唇部に浮彫的な文様 半浮彫的な磨消縄文	Ⅳ 4
173	Ⅱ A-2 住埋土下部	鉢?	胴～底	L R・R L	壺? 沈線区画の磨消縄文	Ⅲ 3 a
174	Ⅱ A-2 住埋土下部	注口土器	口～胴	L R・R L	沈線区画の磨消縄文(渦巻状の入組文)肩と注口に突起 羽状縄文	Ⅲ 3 a
175	Ⅱ A-3 住埋土下部	深鉢	胴部	R L	沈線区分の充填縄文 0段多条	Ⅲ 2
176	Ⅱ A-3 住埋土下部	壺	口縁部		無文 雑なミガキ 赤色塗彩?	Ⅲ
177	Ⅱ A-3 住埋土下部	深鉢	胴部	L R?	地文のみ	Ⅲ 5
178	Ⅱ A-3 住埋土下部	深鉢	胴部	L R	地文のみ	Ⅲ 2

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
179	ⅡA-4 住埋土下部	深鉢	口縁部		大波状口縁 刻み列 赤色塗彩?	Ⅲ3 a
180	ⅡA-4 住埋土下部	鉢	口縁部	LR・RL	波状口縁 沈線区画の刻み列と充填縄文 口縁部内側肥厚 0段多条	Ⅲ3 a
181	ⅡA-4 住埋土下部	深鉢	口縁部	RL	大波状口縁 沈線区画の充填縄文 口縁部内側肥厚 0段多条	Ⅲ3 a
182	ⅡA-4 住埋土下部	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文と刻み列 羽状縄文 0段多条	Ⅲ3 a
183	ⅡA-4 住埋土下部	壺	胴部		頸部との境に竹管状工具による刺突列 内外面とも丁寧なミガキ	Ⅲ2?
184	ⅡA-4 住埋土下部	深鉢	胴部	LR・RL	地文のみ 羽状縄文 0段多条	Ⅲ5
185	ⅡA-4 住埋土下部	深鉢	口縁部	LR	地文のみ 口縁部内側肥厚 0段多条	Ⅲ5
187	ⅡA-5 住床直	深鉢	口縁部	RL	波状口縁 沈線区画の充填縄文 口縁部内側肥厚 0段多条	Ⅲ2
188	ⅡA-5 住床直	深鉢	口縁部	LR・RL	頂部に突起を持つ波状口縁 沈線区画の刻み列と充填縄文 0段多条	Ⅲ2
189	ⅡA-5 住床面	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文と刺突列	Ⅲ2
190	ⅡA-5 住炉内	壺?	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 刺突列 0段多条	Ⅲ2
191	ⅡA-5 住床面	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文	Ⅲ2
192	ⅡA-5 住床直	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
193	ⅡA-5 住床直	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
194	ⅡA-5 住床直	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文	Ⅲ2
195	ⅡA-5 住床直	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文	Ⅲ2
196	ⅡA-5 住炉内	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
197	ⅡA-5 住床直	深鉢	胴部	L	沈線による曲線文 地文は網目状擦糸文	Ⅲ2
198	ⅡA-5 住床直	深鉢	口縁部	LR	地文のみ 口縁部内側肥厚	Ⅲ5
199	ⅡA-5 住床直	深鉢	口縁部	RL	地文のみ	Ⅲ5
204	ⅡA-6 住埋土上部	深鉢	口縁部		波状口縁 刻み列	Ⅲ2
205	ⅡA-6 住埋土上部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
206	ⅡA-6 住埋土下部	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文	Ⅲ2
207	ⅡA-6 住埋土下部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の充填縄文	Ⅲ2
208	ⅡA-6 住埋土下部	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
209	ⅡA-6 住埋土下部	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文	Ⅲ2
210	ⅡA-6 住埋土上部	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
211	ⅡA-6 住埋土下部	深鉢	口縁部	RL	地文のみ 0段多条	Ⅲ5
212	ⅡA-6 住埋土下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅲ5
213	I B-1 住炉脇土坑 2	壺	口～底	LR	頸部に玉抱き? 三叉文 胴部上半に沈線区画の磨消縄文	IV 1 b
214	I B-1 住炉脇土坑 2	壺	口～底	LR	頸部と胴部に三叉文 胴部上半に沈線区画の磨消縄文	IV 2 a
215	I B-1 住炉脇土坑 1	壺	口～頸	LR	頸部に沈線・破線文 0段多条	IV 1 b
216	I B-1 住炉脇	深鉢	口～胴	LR	口唇部に2個一對の突起と刻み列 平行沈線と刻み列 内外面にスス	IV 4
217	I B-1 住炉脇土坑	注口土器	胴部		半浮彫的な曲線文 ミガキ	IV 2 b
218	I B-1 住炉脇土坑 1	台付鉢	底～台	LR	台部に無文帯	IV
219	I B-1 住埋土上部	深鉢	胴～底	RL	地文のみ 0段多条	IV
220	I B-2 住埋土上部	鉢	口～底	RL	4単位の小突起 刻み列 沈線区画文 0段多条	Ⅲ2
221	I B-2 住埋土上部	深鉢?	胴～底	RL	沈線区画文	Ⅲ2
222	I B-2 住埋土上部	鉢	胴～底	RL	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
223	I B-2 住埋土上部	深鉢	口縁部	RL?	波状口縁 沈線による曲線文	Ⅲ2
224	I B-2 住埋土上部	深鉢	口縁部		波状口縁 太い刻み列	Ⅲ2
225	I B-2 住埋土	深鉢	口～胴	RL	沈線区画の充填縄文 口縁部内側肥厚 0段多条	Ⅲ2
226	I B-2 住埋土上部	深鉢	口～胴	RL	沈線区画の充填縄文 口縁部内側肥厚	Ⅲ2
227	I B-2 住埋土上部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の充填縄文	Ⅲ2
228	I B-2 住埋土上部	壺?	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
229	I B-2 住埋土上部	深鉢?	胴部	RL	沈線区画の刻み列 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
230	I B-2 住埋土上部	壺?	胴部	LR・RL	沈線区画の刻み列と充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
231	I B-2 住埋土上部	鉢?	胴部	RL	沈線区画の充填縄文と刻み列 (隆帯上) 0段多条	Ⅲ2
232	I B-2 住埋土	壺?	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
233	I B-2 住埋土上部	深鉢	口縁部	LR	地文のみ 口縁部内側肥厚	Ⅲ5
234	I B-2 住埋土上部	深鉢	口～胴	LR・RL	口縁部内側肥厚 地文のみ 羽状縄文? 0段多条?	Ⅲ5
235	I B-2 住埋土	深鉢	口～胴	RL	口縁部内側肥厚 地文のみ 0段多条	Ⅲ5
236	I B-2 住埋土上部	深鉢	胴～底	RL	地文のみ 0段多条	Ⅲ5
243	I A-1 住状埋土	深鉢	口縁部	LR	2個一對の山形突起 口唇部に刻み列 沈線区画の刻み列	Ⅲ4 a
244	I A-1 住状埋土上部	深鉢	胴部		沈線区画の磨消文様と低い貼附 地文は櫛歯状の条線文	Ⅲ3 b
245	I A-1 住状埋土	鉢?	胴部		沈線区画の刻み列 (刺突列)	Ⅲ4 a
246	I A-1 住状埋土	深鉢	胴部	LR	沈線区画の充填縄文	Ⅲ3 b
247	I A-1 住状埋土	深鉢	口縁部	LR	小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
248	I A-1 住状埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ 縷格文	Ⅲ5
251	ⅡA-1 住居状	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 (入組帯文) とボタン状突起	Ⅲ4 a
252	ⅡA-1 住居状	深鉢	胴部		地文のみ 雑な櫛歯状条線文	Ⅲ5
253	I A 8 j-1 土坑埋土	深鉢	胴～底	LR・RL	沈線区画の充填縄文と豆粒状の貼付文 羽状縄文	Ⅲ3 b
254	I A 8 j-1 土坑埋土	深鉢	口縁部	LR	貼附列 沈線区画の充填縄文	Ⅲ3 b

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
255	IA8j-1土坑埋土	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
256	IA8j-1土坑埋土	深鉢	胴部		地文のみ 櫛歯状の条線文	Ⅲ5
257	IA8j-1土坑埋土	深鉢	口縁部	L?	地文のみ	Ⅲ5
258	IA8j-1土坑埋土	深鉢	胴～底	L	地文のみ 僅かに上げ底	Ⅲ5
259	IA8j-1土坑埋土	深鉢	底部		上げ底(萐筥底状の高台) 雑なミガキ	Ⅲ5
260	IA8j-1土坑埋土	深鉢	底部		低い高台	Ⅲ5
261	IA8j-2土坑埋土	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 RLは0段多条	Ⅲ2
262	IA8j-2土坑埋土	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文	Ⅲ2
263	IA8j-2土坑埋土	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文	Ⅲ2
264	IA8j-2土坑埋土	深鉢	口縁部	LR	地文のみ	Ⅲ5
265	IIA0c土坑埋土下部	深鉢	口～胴	RL	低い小山形口縁 右下がり短沈線と平行沈線文	IV3
266	IIA0c土坑埋土下部	深鉢	口～胴	RL	低い小山形口縁 右下がり短沈線と平行沈線文	IV3
267	IIA0c土坑埋土下部	深鉢	底部		低い高台	IV
269	IIA0b土坑埋土下部	深鉢	口縁部		B突起 半浮彫的文様	IV3?
270	IIA0b土坑埋土下部	深鉢	胴部	LR・RL	刺突列 羽状縄文?	IV3?
271	IIA0b土坑埋土下部	深鉢	口縁部	LR	地文のみ	IV6
272	IIA0b土坑埋土下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ 0段多条	IV6
273	IIA0b土坑埋土下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ 内面にスス	IV6
274	IA9c-2土坑埋土	台付鉢?	台部		変形工字文 赤色塗彩	IV5
275	IA9c-2土坑埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ	IV6
276	IA9c-2土坑埋土	深鉢	胴部	RL	地文のみ 0段多条	IV6
277	IA9c-2土坑埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ	IV6
278	IIA0d-2土坑埋土	深鉢	口～胴	LR	口唇部肥厚 2個一対の突起 地文のみ	Ⅲ5?
279	IIA0d-2土坑埋土	深鉢	口縁部	LR	小山形口縁 深い沈線と刻み	IV3
280	IIA0d-2土坑埋土	壺?	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	IV1b
281	IIA0e土坑埋土	壺	口～頸	LR・RL	沈線文 羽状縄文 LRは0段多条	Ⅲ3a
282	IIA0e土坑埋土	鉢?	胴部	LR・RL	沈線区画の磨消縄文、羽状縄文、0段多条	IV3?
283	IIA0e土坑埋土	壺?	口～頸		無文 2個一対の突起を3単位に配置	Ⅲ3a
284	IIA0e土坑埋土	壺	口～頸	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 LRは0段多条	Ⅲ3a
285	IIA0e土坑埋土	深鉢	口～胴	LR	沈線区画の充填縄文? 0段多条	Ⅲ3a
286	IIA0e土坑埋土	壺	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 アスファルト	Ⅲ3a
287	IIA0e土坑埋土	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文	Ⅲ3a
288	IIA0e土坑埋土	壺	胴部		2本一組の沈線による渦巻状の入組文 ミガキ	Ⅲ3a
289	IIA0e土坑埋土	深鉢	胴部		地文のみ 櫛歯状の条線文	Ⅲ5
290	IIA0e土坑埋土	深鉢	胴部	L	地文のみ 網目状燃糸文	Ⅲ1
293	IB6c土坑埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ	Ⅲ5?
294	IB6c土坑埋土	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅲ5?
295	IB6c土坑埋土	深鉢	胴部		地文のみ 櫛歯状の条線文	Ⅲ5
296	IB6d-3土坑埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ 摩耗	IV6?
297	IB6d-3土坑埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ 摩耗	IV6?
298	IB6d-3土坑埋土	深鉢	胴部	LR?	地文のみ 摩耗	IV6?
299	IB6e-2土坑埋土	深鉢	口～胴	LR	2個一対の小突起 刻み状の小山形口縁 平行沈線文	IV3
300	IB6e-2土坑埋土	深鉢	口縁部	RL	地文のみ	IV6
301	IB6e-2土坑埋土	深鉢	胴部	LR?	沈線区分の磨消縄文	Ⅲ2
302	IB6e-2土坑埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ 0段多条	Ⅲ5?
303	IB6e-3土坑埋土	浅鉢	口縁部	LR	口唇部に沈線 口縁部肥厚 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩?	IV4
304	IB6e-3土坑埋土	注口土器	口縁部		口唇部に斜めの短沈線と刻み列	IV4?
305	IB6e-3土坑埋土	注口土器	胴部		半浮彫的文様	IV3?
306	IB6e-3土坑埋土	深鉢	胴部	LR	雑な平行沈線 0段多条?	IV3?
307	IB6e-3土坑埋土	壺?	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文?	IV
308	IB6e-3土坑埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ 0段多条	IV6?
310	IB6e-4土坑埋土	深鉢	口縁部	LR	地文のみ	IV6?
311	IB6e-4土坑埋土	深鉢	胴部	RL	地文のみ	IV6?
312	IB6e-4土坑埋土	深鉢	胴部	LR?	地文のみ	IV6?
313	IB6e-4土坑埋土	深鉢	胴部		沈線文? 摩耗	IV6?
314	IB7c-1土坑埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ 0段多条?	IV6?
315	IB7c-1土坑埋土	深鉢	胴部	LR	地文のみ 摩耗	IV6?
316	IB7c-1土坑埋土	深鉢	胴部	RL	地文のみ 0段多条	IV6?
317	IB7c-1土坑埋土	深鉢	胴部	LR	沈線文? 摩耗	IV?
318	IB8a-4土坑埋土	深鉢	口～胴	LR・RL	口縁内側肥厚 大小の突起 沈線区画の充填縄文 刻み列と小突起	Ⅲ3a
319	IB8d-1土坑埋土	鉢	口縁部	RL	山形口縁? 沈線区画の磨消縄文 口縁部肥厚 0段多条	IV1a
320	IB8d-1土坑埋土	深鉢	胴部	LR	沈線文	Ⅲ?
321	IB8d-1土坑埋土	深鉢	口～底	RL	地文のみ 0段多条	Ⅲ5?

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
322	ⅡC0f-1土坑埋土	壺?	口~胴		無文 内外面とも雑なナデ	Ⅲ?
323	ⅡC0f-1土坑埋土	注口土器	胴部		胴部上端に突起 半浮彫的文様 ミガキ	Ⅳ2b
324	ⅡC0f-1土坑埋土	壺	口~頸		口縁部内側と頸部に沈線文 赤色塗彩 ミガキ	Ⅳ2b?
325	ⅡC0f-1土坑埋土	壺?	口縁部	RL	頂部に凹みをもつ突起 沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ3a
326	ⅡC0f-1土坑埋土	壺	胴部	LR	半浮彫的文様	Ⅳ2b?
327	ⅡC0f-1土坑埋土	壺?	胴部	LR	半浮彫的な磨消縄文	Ⅳ1a
328	ⅡC0f-1土坑埋土	壺	胴部		半浮彫的な沈線文 赤色塗彩	Ⅳ5?
330	ⅡC0g-2土坑埋土	壺	胴部		直線的な羊歯状文と突起 平行沈線文 (いずれも半浮彫的表現)	Ⅳ3
331	ⅡC0g-2土坑埋土	深鉢	胴部	LR	沈線区画の充填縄文	Ⅲ3a?
332	ⅡC0g-2土坑埋土	深鉢	胴部	LR	沈線区画の充填縄文	Ⅲ3a?
333	ⅡC0g-2土坑埋土	深鉢	口縁部	LR	地文のみ	Ⅳ6
334	ⅡC2g-1土坑埋土	深鉢	口縁部	RL	2個一対の小突起 深い沈線による連珠文 内外面にスス	Ⅳ3
335	ⅡC2g-1土坑埋土	鉢	口縁部	LR	三叉文系文様	Ⅳ1b
336	ⅡC2g-1土坑埋土	鉢	口縁部		小山形口縁 羊歯状文	Ⅳ2b
337	ⅡC2g-1土坑埋土	深鉢	口縁部	RL	平行沈線文	Ⅳ3?
338	ⅡC2g-1土坑埋土	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	Ⅳ2b
339	ⅡC2g-1土坑埋土	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	Ⅳ1b
340	ⅡC2g-1土坑埋土	深鉢	口縁部	LR	頂部に凹みをもつ台状突起 三叉文系文様と平行沈線文 補修孔	Ⅳ1a
341	ⅡC2g-1土坑埋土	深鉢	口縁部	LR・RL	地文のみ 羽状縄文	Ⅳ6
343	ⅡC3f-1土坑埋土	深鉢	口~底	LR	小山形口縁 低いB突起 羊歯状文	Ⅳ2b
344	ⅡC3f-1土坑埋土	深鉢	口~底	LR	小山形口縁 5単位の低い突起 沈線と刻みによる羊歯状文?	Ⅳ2b
345	ⅠA8j埋設土器	深鉢	口~底	LR	小山形口縁 2個一対のB突起 肩部に沈線とB突起	Ⅳ3
346	ⅠA9g-1埋設土器	深鉢	口~底	LR	地文のみ 3/1を欠損	Ⅳ6
347	ⅠA9g-2埋設土器	深鉢	口~胴	LR	2個一対のB突起 地文のみ 3/1を欠損	Ⅳ6?
349	ⅠA9g-3埋設土器	深鉢	胴~底	RL	地文のみ 不整な縦格文 胴部上半を欠損	Ⅳ6
350	ⅡA0d埋設土器	深鉢	口~底	LR	地文のみ	Ⅳ6
351	ⅡA0d埋設土器内	鉢	口~胴	LR	小波状口縁と山形突起 三叉文と沈線区画の磨消縄文	Ⅳ2a
352	ⅡA0d埋設土器	注口土器	口~胴	LR	口唇部と胴部上端に浮彫的突起列 半浮彫的磨消縄文 0段多条	Ⅳ3
353	ⅡA0d埋設土器	注口土器	口~頸		浮彫的陰刻文 平行沈線と短沈線 外面ミガキ	Ⅳ2b
354	ⅡA0d埋設土器	壺?	口縁部	RL	地文のみ 口縁部無文	Ⅳ3?
355	ⅡA0e埋設土器	深鉢	胴~底	LR	胴部上半を欠損 地文のみ 底部穿孔 0段多条	Ⅳ6
356	ⅡA0e埋設土器	深鉢	胴~底	LR	地文のみ	Ⅳ6
358	ⅡA0f-1埋設土器	深鉢	口~底	LR	地文のみ	Ⅳ6
365	ⅡA0f-2埋設土器	深鉢	口~底	LR	小山形口縁 沈線文	Ⅳ4?
366	ⅠB5e埋設土器	深鉢	口~胴	RL	胴部~底部 3/1を欠損 地文のみ	Ⅳ6
367	ⅠB5e埋設土器	深鉢	胴~底	LR	地文のみ 羽状縄文	Ⅳ6
368	ⅠB5f埋設土器	深鉢	口~底	LR	地文のみ 3/1を欠損	Ⅳ6
369	ⅠB5f埋設土器	深鉢	口~胴	LR	地文のみ	Ⅳ6
370	ⅠB5i-1埋設土器	深鉢	口~底	LR	地文のみ	Ⅳ6
371	ⅠB5i-2埋設土器	深鉢	口~底	RL	口縁部 3/1を欠損 低い山形口縁 沈線による入り組三叉文	Ⅳ1b
372	ⅠB5j埋設土器	深鉢	胴~底	LR	地文のみ	Ⅳ6
373	ⅠB6d埋設土器	深鉢	口~底	LR	羊歯状文風の山形口縁 ? 単位の小突起 沈線区画の連珠文	Ⅳ3
374	ⅠB6e-1埋設土器	深鉢	口~底	RL	刻み状の小山形口縁	Ⅳ4
376	ⅠB6e-2埋設土器	深鉢	口~底	RL	地文のみ	Ⅳ6
377	ⅠB6e-3埋設土器	深鉢	口~底	LR	口縁部 2/1を欠損 羊歯状文と平行沈線文 低いB突起	Ⅳ2b
378	ⅠB6f-1埋設土器	深鉢	口~底	LR	地文のみ	Ⅳ6
382	ⅠB6f-2埋設土器	深鉢	口~底	LR	羊歯状文と平行沈線文 B突起列	Ⅳ2b
383	ⅠB7c埋設土器	深鉢	口~底	LR	地文のみ 補修孔	Ⅳ6
384	ⅠB7c埋設土器内	鉢	口~底		無文 内外面とも丁寧なミガキ	Ⅳ6
385	ⅠB7d-1埋設土器	深鉢	口~底	LR	地文のみ 3/1を欠損	Ⅳ6
386	ⅠB7d-2埋設土器	深鉢	口~底	LR	口縁部上端を欠損 口縁部に沈線文 底部穿孔	Ⅳ3
387	ⅠB7e埋設土器	深鉢	胴~底	RL	地文のみ	Ⅳ6
388	ⅠB8c埋設土器	深鉢	口~底	LR	胴部上端 2/1を欠損 地文のみ	Ⅳ6
389	ⅠC7d埋設土器	深鉢	胴~底	LR	地文のみ 底部穿孔?	Ⅳ6
390	ⅠC7e埋設土器	深鉢	口~胴	LR	沈線による三叉文系文様 一部磨消 底部は同一個体か?	Ⅳ1b
391	ⅠC7e埋設土器	深鉢	胴~底	LR	No.390と同一個体?	Ⅳ1b?
392	ⅠC8e埋設土器	深鉢	口~底	LR	地文のみ	Ⅳ6
393	ⅠC8f-1埋設土器	深鉢	口~胴	LR	地文のみ 3/1を欠損	Ⅳ6
394	ⅠC8f-2埋設土器	深鉢	口~底	RL	地文のみ	Ⅳ6
395	ⅠC8f-2埋設土器	深鉢	口~胴	RL	小山形口縁 沈線による三叉文系文様と平行沈線	Ⅳ2a
396	ⅠC8f-3埋設土器	深鉢	胴~底	LR・RL	地文のみ 羽状縄文 底部穿孔	Ⅳ6
397	ⅠC9e埋設土器	深鉢	口~底	LR	小山形口縁 直線的な羊歯状文 8単位のB突起 連珠文	Ⅳ3
399	ⅡC0f埋設土器	深鉢	胴~底	RL	地文のみ	Ⅳ6

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
400	ⅡC1g埋設土器	深鉢	胴部	RL	胴部のみ残存 地文のみ	Ⅳ6
401	ⅠA8j集石内	深鉢	口縁部	LR	頂部が凹心台状突起 沈線区画の充填縄文 口縁部肥厚 0段多条	Ⅲ3a
402	ⅠA8j集石内	深鉢	口縁部	RL	突起? 沈線区画の充填縄文 口縁部内側肥厚	Ⅲ3a
403	ⅠA8j集石内	深鉢	口縁部	L	半浮彫的な充填縄文と貼瘤	Ⅲ3a
404	ⅠA8j集石内	深鉢	胴部	LR	沈線文と縄文をもつ張付け	Ⅲ3a
405	ⅠA8j集石内	深鉢	胴部	LR	沈線区画の充填縄文と貼瘤	Ⅲ3a
406	ⅠA8j集石内	深鉢	口縁部	LR・RL	地文のみ 口縁部内側肥厚 羽状縄文 0段多条	Ⅲ3a
407	ⅠA8j集石内	深鉢	胴部		細い沈線による曲線文	Ⅲ3a?
413	ⅠB7d集石	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ3a
414	ⅠB7d集石	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ3a
415	ⅠB7d集石	深鉢	口縁部	LR・RL	地文のみ 口縁部内側肥厚 羽状縄文 0段多条	Ⅲ5
416	ⅠB7d集石	深鉢	胴~底	LR	地文のみ	Ⅲ5
418	ⅡA1gV層	深鉢	口縁部	RL	口唇部に原体による刻み 0段多条 胎土に繊維(少) 裏面擦痕?	I1
419	ⅡA0fⅢ層中部	深鉢	口~胴	LR	不整な小波状口縁 地文のみ 口唇部にも施文 胎土に繊維	I1
420	ⅡA0jV層	深鉢	口縁部	RL	地文のみ 胎土に繊維 裏面に擦痕?	I1
421	ⅡA1gV層	深鉢	口縁部	LR	指頭圧痕による低い波状口縁 地文のみ 胎土に繊維	I1
422	ⅠB8dⅢ層	深鉢	口~胴	LR	原体圧痕文 胎土に繊維	I1
423	ⅠB5iⅢ層	深鉢	胴部	LR・RL	地文のみ 羽状縄文 胎土に繊維 0段多条	I1
424	ⅡA0jV層	深鉢	胴部	R	地文のみ 擦糸文? 胎土に繊維	I1
425	ⅡA0jV層	深鉢	胴部	LR	地文のみ 胎土に繊維 金雲母 0段多条	I1
426	ⅠB8eⅢ層	深鉢	口~胴	LR?	地文のみ 胎土に繊維	I1
427	ⅠB6fⅢ層	深鉢	口~胴	RL	地文のみ 胎土に繊維	I1
428	ⅡA1gV層	深鉢	胴部	RL	地文のみ 羽状縄文 0段多条 胎土に繊維(少)	I1
429	ⅠB8cⅢ層	深鉢	胴部	LR	地文のみ 胎土に繊維	I1
430	ⅡA1gV層	深鉢	胴部		地文のみ 所謂ビッチリ縄文 胎土に繊維 裏面に擦痕?	I1
431	ⅡC1gⅢ層下部	深鉢	胴部	R	地文のみ 網目状擦糸文 胎土に繊維(少)	I2
432	ⅡC1gⅢ層下部	深鉢	胴部	R	地文のみ 網目状擦糸文 胎土に繊維(少)	I2
433	ⅡC1gⅢ層下部	深鉢	胴部	R	地文のみ 網目状擦糸文 胎土に繊維(少)	I2
434	ⅡC1gⅢ層下部	深鉢	胴部	R	地文のみ 網目状擦糸文 胎土に繊維(少)	I2
435	ⅡC1gⅢ層下部	深鉢	胴部	R	地文のみ 網目状擦糸文 胎土に繊維(少)	I2
436	ⅠC9eⅢ層	深鉢	胴部		地文のみ S字状連鎖沈文 胎土に繊維(少)	I2
437	ⅠC9eⅢ層	深鉢	胴部		地文のみ S字状連鎖沈文 胎土に繊維(少)	I2
438	ⅡC1fⅢ層下部	深鉢	胴部		地文のみ S字状連鎖沈文 胎土に繊維(少)	I2
439	ⅠB9aⅢ層	深鉢	胴部		地文のみ S字状連鎖沈文 胎土に繊維(少)	I2
440	ⅠC9eⅢ層	深鉢	胴部		地文のみ S字状連鎖沈文 胎土に繊維(少)	I2
441	ⅠC9eⅢ層	深鉢	胴部		地文のみ S字状連鎖沈文 胎土に繊維(少)	I2
442	ⅠC9eⅢ層	深鉢	胴部		地文のみ 葦瓦状擦糸文 胎土に繊維(少)	I2
443	ⅠA9hⅢ層	深鉢			橋状の突起部分 太い沈線による渦巻文	Ⅱ1
444	ⅡC0gⅢ層下部	深鉢	口縁部	RLR	隆沈線による渦巻文	Ⅱ1
445	ⅠB7bⅢ層	深鉢	胴部	LR	隆沈線による曲線文	Ⅱ1
446	ⅠB8cⅢ層下部	深鉢	口縁部	RLR	波状口縁 半浮彫的磨消縄文	Ⅱ2
447	ⅠB8cⅢ層下部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	Ⅱ2
448	ⅠB9aⅢ層	深鉢	胴部	RLR	沈線区画の磨消縄文	Ⅱ2
449	ⅠB8eⅢ層中部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	Ⅱ2
450	ⅠB9bⅢ層下部	深鉢	胴部	RLR	沈線区画の磨消縄文	Ⅱ2
451	ⅡC1fⅢ層下部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の充填縄文	Ⅱ3
452	ⅡA0iⅢ層最下部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	Ⅱ3
453	ⅠA9jⅢ層下部	深鉢	胴部	RL?	沈線区画の磨消(充填)縄文 摩耗	Ⅱ3
454	ⅡA0hⅢ層中部	深鉢	胴部		沈線区画の磨消縄文?	Ⅱ3
455	ⅡA0iⅢ層最下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅱ4
456	ⅡA0iⅢ層最下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅱ4
457	ⅡA0iⅢ層最下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅱ4
458	ⅡA0iⅢ層最下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅱ4
459	ⅡA0iⅢ層最下部	深鉢	胴部	LR	地文のみ	Ⅱ4
460	ⅡA0iⅢ層下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅱ4
461	ⅡA0iⅢ層下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅱ4
462	ⅡA0iⅢ層下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅱ4
463	ⅡA0iⅢ層下部	深鉢	胴部	RL	地文のみ	Ⅱ4
464	ⅠB9cⅢ層	深鉢	胴部	RLR	地文のみ	Ⅱ4
465	ⅠB9cⅢ層	深鉢	胴部	RLR	地文のみ	Ⅱ4
466	ⅠB区0層	深鉢	口縁部		突起部分 沈線文をもつ橋状把手 刺突を伴う太い隆帯	Ⅲ1
467	ⅡA0hⅢ層中部	深鉢	口縁部		液状?口縁 橋状把手と深い刺突文	Ⅲ1
468	ⅠB8cⅢ層	深鉢	口縁部		頂部に刻みをもつ山形口縁 沈線による曲線文	Ⅲ1

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
469	ⅠA9 i Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	LR	山形口縁 刺突を伴う隆帯 沈線による曲線文 0段多条	Ⅲ1
470	ⅡA0 g Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L	波状口縁? 円形刺突列を伴う隆帯	Ⅲ1
471	ⅡA0 f Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	RL	折り返し口縁 沈線文	Ⅲ1
472	ⅡA0 j Ⅲ層下部	深鉢	口縁部	LR	沈線による曲線文	Ⅲ1
473	ⅠC9 e Ⅲ層	深鉢	口～胴		沈線文 原体不明	Ⅲ1
474	ⅠB7 f Ⅲ層下部	深鉢	胴部	LR	沈線による曲線文とボタン状の貼り付け文	Ⅲ1
475	ⅡC3 f Ⅲ層下部	深鉢	胴部		沈線文と円形の刺突連鎖状の隆帯	Ⅲ1
476	ⅡA0 f Ⅲ層中部	深鉢	胴部	L?	沈線区画の充填縄文 外面にスス	Ⅲ1
477	ⅡA0 i Ⅲ層中部	深鉢	胴部	LR	沈線区画の磨消(充填)縄文 0段多条	Ⅲ1
478	ⅡA0 h Ⅲ層下部	深鉢	胴部	RL	沈線による曲線文	Ⅲ1
479	ⅡA0 f Ⅲ層	深鉢	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文?	Ⅲ1
480	ⅠB9 b～c Ⅲ層	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ1
481	ⅡA0 g Ⅲ層最下部	深鉢	胴部	LR	沈線による渦巻曲線文	Ⅲ1
482	ⅠA9 j Ⅲ層最下部	深鉢	胴部	L	沈線による曲線文 地文は撚糸文	Ⅲ1
483	ⅠA9 j Ⅲ層最下部	深鉢	胴部	L	沈線文 地文は撚糸文	Ⅲ1
484	ⅠA9 h Ⅲ層中部	深鉢	胴部	L	地文のみ 網目状撚糸文	Ⅲ1
485	ⅡA0 i Ⅲ層	深鉢	胴部	L	地文のみ 網目状撚糸文	Ⅲ1
486	ⅡA0 g Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	RL	大波状口縁 口縁部肥厚 沈線区画の刻み列と充填縄文 0段多条	Ⅲ2
487	ⅠA9 h Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	LR・RL	大波状口縁 内側肥厚 沈線区画の刻み列 羽状縄文 0段多条 補修孔	Ⅲ2
488	ⅠA9 g Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	LR・RL	大波状口縁 口縁部内側肥厚 沈線区画の刻み列と充填縄文 0段多条	Ⅲ2
489	ⅠA9 h Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR・RL	突起 口縁部肥厚 口唇部に刻み 沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
490	ⅡA0 g Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	LR・RL	大波状口縁 口縁部肥厚 刻み列 沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
491	ⅠA9 j Ⅲ層最下部	深鉢	口縁部	RL	大波状口縁 口縁部肥厚 上端に刻み 沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
492	ⅡA0 e Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	RL	波状口縁 口縁部内側肥厚 沈線区画の刻み列と充填縄文 0段多条	Ⅲ2
493	ⅠA8 j Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	口縁部先端に刺突列 口縁部内側肥厚 沈線文 0段多条	Ⅲ2
494	ⅠB9 b Ⅲ層下部	深鉢	口縁部	LR・RL	液状口縁 口縁部内側肥厚 沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
495	ⅠA9 i Ⅲ層	深鉢	口縁部	LR・RL	液状口縁 口縁部内側肥厚 沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
496	ⅡA0 d Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	LR	頂部に突起をもつ山形(波状)口縁 沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
497	ⅡA0 j Ⅲ層中部	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の刻み列と充填縄文 貼瘤 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
498	ⅡA0 f Ⅲ層	深鉢	胴部	LR・RL	刻み列 沈線区画の磨消縄文 羽状縄文 0段多条内面にスス	Ⅲ2
499	ⅡA0 g Ⅲ層中～下部	壺	胴部	RL	沈線区画の刻み列と充填縄文	Ⅲ2
500	ⅡA0 h Ⅲ層中部	深鉢	胴部	LR・RL	刻みを伴う低い隆帯 沈線区画の磨消縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
501	ⅠA9 j Ⅲ層最下部	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の刻み列と充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
502	ⅡA0 g Ⅲ層	深鉢	胴部	LR	沈線区画の磨消(充填)縄文(入組帯状文?)	Ⅲ2
503	ⅠB区0層	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填縄文	Ⅲ2
504	ⅠB9 c Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	沈線区画の磨消(充填?)縄文 外面にスス	Ⅲ2
505	ⅡA0 i Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	RL	沈線区画の磨消縄文 0段多条	Ⅲ2
506	ⅠA9 j Ⅲ層最下部	深鉢	口～胴	RL	口唇部内側肥厚(隆帯状) 沈線区画の充填(磨消)縄文 0段多条	Ⅲ2
507	ⅠA9 j Ⅲ層最下部	深鉢	胴部	RL	沈線区画の充填(磨消)縄文 0段多条	Ⅲ2
508	ⅡA-0 g Ⅲ層中～下部	深鉢	胴～底	RL	沈線区画の磨消縄文	Ⅲ2
509	ⅠA9 h Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR・RL	沈線区画の磨消(充填)縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
510	ⅡA0 g Ⅲ層中～下部	深鉢	胴部	LR・RL	沈線区画の磨消(充填)縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
511	ⅡA0 i Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	LR・RL	刻み列を伴う低い隆帯とこれに区画された充填縄文 0段多条	Ⅲ2
512	ⅠB8 d Ⅲ層	深鉢	口縁部	LR・RL	大波状口縁 沈線区画の刻み列と充填縄文 羽状縄文	Ⅲ2
513	ⅠA9 j Ⅲ層	深鉢	口縁部	LR・RL	刻みを伴う沈線による磨消縄文 口縁部内側肥厚 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
514	ⅡA0 i Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	LR・RL	刻みを伴う沈線文 口縁部内側肥厚 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
515	ⅡA0 g Ⅲ層中～下部	鉢?	口縁部	LR・RL	口縁部内側肥厚 沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ2
516	ⅠA9 j Ⅲ層	鉢	口～胴	RL	沈線区画の磨消縄文 縄文帯に沈線 0段多条	Ⅲ2
517	ⅠB7 d Ⅲ層	深鉢	口縁部	LR	沈線区画の刻み列 口縁部内側肥厚 縄文地に沈線文 0段多条	Ⅲ2
518	ⅡA0 i Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	LR	縄文地に太い沈線による格子目文	Ⅲ2
519	ⅡA1 e Ⅲ層上部	深鉢	口～胴		小山形突起 沈線文	Ⅲ2
520	ⅠA9 j Ⅲ層	鉢	胴部	RL?	平行沈線と弧状の区画沈線 沈線文 アスファルト	Ⅲ2
521	ⅠB9 a Ⅲ層中部	深鉢	胴部	LR	縄文地に格子状の沈線文	Ⅲ2
522	ⅡA0 f Ⅲ層下部	深鉢	胴部	RL	縄文地に斜めの沈線 0段多条	Ⅲ2
523	ⅡA0 f Ⅲ層	深鉢	胴部	L	沈線区画の充填縄文? 地文は網目状撚糸文	Ⅲ2
524	ⅠA8 j Ⅲ層	深鉢	胴部		沈線区画の充填縄文 歯歯状の状線文 赤色塗彩	Ⅲ2
525	ⅠA9 j Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	RL	平行沈線と刻み列沈線区画の磨消縄文 0段多条	Ⅲ2
526	ⅡA0 g Ⅲ層中部	深鉢	口～胴		沈線区画の刻み列(低い隆帯) 口縁部内側肥厚	Ⅲ2
527	ⅡA0 h Ⅲ層中部	深鉢	口縁部		平行沈線と刻み列 口唇部内側肥厚	Ⅲ2
528	ⅡA0 i Ⅲ層最下部	壺?	頸～胴	RL	沈線区画の刻み列 沈線区画の磨消(充填)縄文 口縁部は再利用	Ⅲ2
529	ⅠB9 c Ⅲ層中部	鉢	口～胴	RL	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
530	ⅠB9 c Ⅲ層中部	鉢	口～胴	RL	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ2
531	ⅠB9 b Ⅲ層	鉢	口～底		刻みを伴う低い隆帯 沈線文 底部ややげ底	Ⅲ2

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
532	II A 0 b Ⅲ層	鉢	口縁部		沈線区画の刻み(細沈線)列 ミガキ	Ⅲ 2
533	I A 9 e Ⅲ層下部	鉢	口～胴		沈線区画の刻み列 沈線による曲線文 ミガキ	Ⅲ 2
534	I A 9 e Ⅲ層下部	鉢	胴部		沈線区画の刻み列 沈線による曲線文 ミガキ	Ⅲ 2
535	II C 0 g Ⅲ層	鉢	胴部	R L	沈線区画の刻み列 縄文地に太い沈線文 0段多条	Ⅲ 2
536	II A 0 f Ⅲ層中部	鉢?	胴～底		沈線区画の刻み列帯による曲線文 底面やや上げ底 ミガキ	Ⅲ 2
537	II A 0 e Ⅲ層中～下部	鉢	胴～底	L R	沈線区画の充填縄文	Ⅲ 2
538	I B 9 a Ⅲ層中部	鉢	口～底	L R	沈線による曲線文 口縁部・底部無文	Ⅲ 2
539	II A 0 h Ⅲ層中部	台付鉢	口～台	L R	貫通孔を持つ台状突起 刻み 沈線文と沈線区画の刺突列	Ⅲ 2
540	II A 0 i Ⅲ層中部	注口土器	胴部		頂部に刻み列を持つ低い隆帯と沈線文 外面ミガキ	Ⅲ 2
541	II A 0 e Ⅲ層中部	注口土器	胴部		香炉? 沈線区画の刻み列帯による曲線文と貼瘤 赤色塗彩	Ⅲ 2
542	II A 0 h Ⅲ層中部	注口土器	胴部		香炉? 沈線区画の刻み列帯による曲線文 突起 アスファルト	Ⅲ 2
543	I B 9 c Ⅲ層	注口土器	胴部		香炉? 刻み列を伴う低い隆帯 把手部?に刻み	Ⅲ 2
544	I B 8 d Ⅲ層	注口土器	胴部		矢羽根状短沈線を持つ隆帯と突起 平行沈線文	Ⅲ 2
545	I B 8 e Ⅲ層上～中部	注口土器	胴～底		沈線文 貼付文	Ⅲ 2
546	I A 9 i 0層	壺	胴部	R L	沈線区画の磨消(充填)縄文 0段多条	Ⅲ 2
547	I B 9 c Ⅲ層	壺?	口～胴	L R・R L	沈線区画の磨消縄文 羽状縄文 0段多条 赤色塗彩	Ⅲ 2
548	I A 9 j Ⅲ層中部	壺	口～頸	R L	地文のみ 0段多条	Ⅲ 2
549	I B 9 b Ⅲ層中部	壺	胴～底	R L	沈線区画の磨消縄文 0段多条 内面にアスファルト	Ⅲ 2
550	I B 9 b Ⅲ層	香炉?	胴部		刻み列を伴う低い隆帯 注口部?に刻み	Ⅲ 2
551	II A 0 g Ⅲ層	深鉢	口縁部	R L?	5単位の大波状口縁 口縁内側壁厚 上端に縄文帯	Ⅲ 3 a
552	II A 0 g Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R・R L	浮彫的菱飾の突起 口縁部内側壁厚 隆帯と貼瘤 充填縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
553	II C 0 g Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R・R L	貼り瘤を持つ大型の山形突起 沈線区画の充填縄文 L Rは0段多条	Ⅲ 3 a
554	II A 0 d Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	L R?	山形突起部分 沈線区画の充填縄文と豆粒状貼瘤 裏面は突起と把手	Ⅲ 3 a
555	I A 9 h Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R・R L	大小の突起をもつ波状口縁 沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
556	I B 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R・R L	大小の突起を伴う波状口縁沈線区画の充填縄文 0段多条 内面ス	Ⅲ 3 a
557	II A 0 j Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R・R L	大波状口縁 内側壁厚 台状突起列? 沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
558	I A 9 i Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	R L?	突起部分 鉢巻状の隆帯と貼瘤 口縁部内側壁厚 沈線文	Ⅲ 3 a
559	I B 9 b Ⅲ層中部	香炉?	天井部		蓋? 突起の頂部? 頂部に貫通孔を持つ突起 雑なミガキ	Ⅲ 3 a
560	I A 9 j Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R・R L	台状突起 沈線区画の充填縄文 羽状縄文	Ⅲ 3 a
561	II A 0 g Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	大小の台状突起 口縁部内側壁厚 沈線区画の充填縄文 赤色塗彩	Ⅲ 3 a
562	I B 9 a Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R・R L	2個一対の小突起 沈線区画の充填縄文 羽状縄文 内面にスス付着	Ⅲ 3 a
563	II A 0 h Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R・R L	2個一対の小突起 沈線区画の入組文(充填縄文) 羽状縄文	Ⅲ 3 a
564	I B 9 a Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R・R L	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
565	II A 0 f Ⅲ層	壺	胴部	L R・R L	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
566	II A 0 j Ⅲ層	深鉢?	胴部	L R	沈線区画の充填縄文 0段多条?	Ⅲ 3 a
567	I A 9 j Ⅲ層中部	深鉢	胴部	L R・R L	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
568	I B 6 f Ⅲ層	壺?	胴部	L R	沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
569	I B 9 b Ⅲ層中部	壺	胴部	L R	沈線区画の充填縄文と貼瘤	Ⅲ 3 a
570	I B 6 j Ⅲ層	深鉢	胴部	L R・R L	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
571	II A 0 g Ⅲ層中～下部	壺?	胴部	L R・R L	沈線区画の磨消(充填)縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
572	II A 0 h Ⅲ層	深鉢	胴～底	L	沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
573	I A 9 b Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	大小3個一対の台状突起 沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
574	II A 0 h Ⅲ層中部②	深鉢	口～胴	L R・R L	3個一対?の台状突起 口縁部壁厚 沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
575	I B 8 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	中央に抉りをもつ台状突起 沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
576	II A 0 g Ⅲ層中～下部	鉢	口～胴	L R・R L	沈線区画の磨消(充填)縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
577	I A 9 i Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R・R L	2個一対の山形突起 沈線区画の充填縄文 羽状縄文	Ⅲ 3 a
578	II A 0 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	頂部に刻みをもつ突起 沈線区画の充填縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
579	II A 0 i Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R・R L	2個一対の台状突起 沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
580	II A 0 d Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	R L	頂部に刻みをもつ山形突起 沈線区画の充填縄文とボタン状の貼瘤	Ⅲ 3 a
581	I B 9 a Ⅲ層下部	深鉢	口縁部	R L	頂部が凹む突起列? 沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
582	II A 0 d Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小波状口縁 弧状沈線と円形の小刺突 磨消帯	Ⅲ 3 a
583	I B 7 e Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	R L	緩い小波状口縁 沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
584	II A 0 g Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R・R L	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
585	I A 9 j Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	沈線区画の充填縄文	Ⅲ 3 a
586	II A 0 g Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R・R L	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	Ⅲ 3 a
587	II A 0 g Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R・R L	沈線区画の充填縄文 貼瘤 羽状縄文 R Lは0段多条	Ⅲ 3 a
588	I B 7 e Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R	平行沈線を伴う縄文帯 口縁部内側壁厚 低い橋状把手	Ⅲ 3 a
589	II A 0 g Ⅲ層中～下部	深鉢	胴部	L R・R L	沈線区画の磨消(充填)縄文 羽状縄文 0段多条 アスファルト	Ⅲ 3 a
590	II A 0 f Ⅲ層下部	深鉢	胴部	L R・R L	沈線区画の充填縄文 0段多条 アスファルト	Ⅲ 3 a
591	II A 0 f Ⅲ層下部	深鉢	胴部	L R・R L	沈線区画の充填縄文 0段多条 アスファルト	Ⅲ 3 a
592	II A 0 f Ⅲ層上部	深鉢	口～底		沈線区画の磨消縄文様 櫛歯状条線による曲線文	Ⅲ 3 a
593	II A 0 f Ⅲ層下部	深鉢	胴部		沈線区画の磨消縄文様 櫛歯状の沈線文 内面にスス	Ⅲ 3 a
594	I A 9 i Ⅲ層	壺?	胴部		沈線束による曲線文	Ⅲ 3 a

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
595	IIA0f III層	深鉢	胴部		沈線区画の磨消文様 櫛歯状の沈線文	III 3 a
596	IA9i III層中部	深鉢	胴部		沈線区画の磨消文様 地文は櫛歯状の条線文	III 3 a
597	IB9c III層上部	壺?	口~胴		櫛歯状の条線による曲線文	III 3 a
598	IB8c III層中部	深鉢	口~胴		櫛歯状の条線文による曲線文	III 3 a
599	IB9b III層中部	深鉢	口~胴	L	沈線区画の充填縄文 口縁部に縦長の張り付け文 内面にスス	III 3 a
600	IB8b III層下部	深鉢	口~胴	LR・RL	2個一対の台状突起 沈線区画の充填縄文 羽状縄文	III 3 a
601	IA9j III層下部	深鉢	口~底	LR・RL	大小の突起 沈線区画の入組文(充填縄文)と乳首・ボタン状貼付文	III 3 a
602	IB9e III層中部	深鉢	胴部		沈線区画の磨消文様(入組帯状文) 地文は櫛歯状の条線文	III 3 a
603	IIA0e III層中部	鉢	口~底		波状口縁 波頭部に刺突 細い沈線と貼付文 沈線区画の刻み列	III 3 a
604	IIA0i III層上部	台付鉢	胴~台		沈線画の細い刻み列	III 3 a
605	IIA0h III層中部	深鉢?	胴部		壺? 細い沈線束による文様	III 3 a
606	IA9j III層中部	高坏	口~底	L	6単位の台状突起 沈線区画の充填縄文	III 3 a
607	IIA0f III層中部	高坏	口~底	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	III 3 a
608	IA9j III層中~下部	台付鉢	口~胴	L	沈線区画の充填縄文 台部か?	III 3 a
609	IB9b III層中部	台付皿	口~底	RL?	高坏? 2個一対の山形突起による波状口縁 地文のみ	III 3 a
610	IIA0f III層	台付鉢	口~台	LR	山形突起 沈線区画文 台部に円形の透かし文	III 3 a
611	IB9a III層中部	壺	口~底	LR	沈線区画の充填縄文	III 3 a
612	IIA0i III層中部	壺	口~頸	LR・RL	山形突起 沈線区画の充填(磨消)縄文 アスファルト	III 3 a
613	IIA0h III層中部	壺?	口~頸	LR・RL	頂部が凹む小突起 口縁内側肥厚 充填縄文 0段多条 アスファルト	III 3 a
614	IIA0g III層	壺?	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条	III 3 a
615	IIA0f III層最上部	壺	胴部	LR	半浮彫的な磨消縄文 0段多条?	III 3 a
616	IIA0f III層中部	壺	頸~胴	LR・RL	沈線区画の入組文(充填縄文) 突起状の貼付文 羽状縄文	III 3 a
617	IB8b III層下部	壺	胴~底	RL?	沈線区画の入組文(充填縄文) ボタン状貼付文	III 3 a
618	IIA0j III層	壺	胴部	LR	沈線区画の充填縄文 アスファルト	III 3 a
619	IIA0g III層中~下部	壺?	口縁部		口唇部に刻みと小突起 沈線区画された細い刻み列 ミガキ	III 3 a
620	IB8b III層下部①	注口土器	口~底	LR	台状突起 沈線区画の充填縄文と貼付文 注口部にアスファルト	III 3 a
621	IIA0i III層中部	注口土器	胴部	LR・RL	沈線区画の充填縄文 羽状縄文 0段多条?	III 3 a
622	IC9f III層	壺	胴部		沈線による曲線文と低い貼瘤	III 3 a
623	IB8e III層上~中部	注口土器	胴部		沈線による曲線文	III 3 a
624	IA9h III層中部	注口土器	口~底		細い沈線による曲線文と突起状貼付文	III 3 a
625	IIA0g III層中部	壺?	胴部		両側に沈線を伴う微隆起線による曲線文 焼成前の穿孔	III 3 a
626	IIA0g III層	壺?	胴部		沈線区画の微隆起線による曲線文 ミガキ	III 3 a
627	IIA0g III層	壺	胴部		沈線区画の微隆起線による曲線文 ミガキ	III 3 a
628	IB9e III層	壺?	胴部		微隆起線と小さな貼瘤	III 3 a
629	IIA0d III層	壺?	胴部		香炉? 沈線束による曲線文と貼瘤	III 3 a
630	IIA0j III層	注口土器	胴部		沈線束による曲線文 注口破損部にアスファルト	III 3 a
631	IIA0g III層	香炉	天井部		細い沈線による曲線文と貼り瘤 赤色塗彩	III 3 a
632	IB9a III層中部	深鉢	口~胴	LR・RL	大波状口縁 口縁部内側肥厚 沈線区画の充填縄文と貼り瘤	III 3 b
633	IA9j III層下部	深鉢	口~胴	RL	頂部に突起をもつ山形口縁 内側肥厚 沈線区画の充填縄文と貼瘤	III 3 b
634	IA9j III層	深鉢	口縁部	RL	山形口縁 口縁内側肥厚 沈線区画の充填縄文と貼瘤 円形の小刺突	III 3 b
635	IB9a III層	深鉢	口縁部	LR	角状の突起 沈線区画の充填縄文と貼瘤 口縁部内側肥厚 0段多条	III 3 b
636	IB9a III層	深鉢	口~胴	LR・RL	先端が角状となる突起 沈線区画の充填縄文と貼瘤 内面スス	III 3 b
637	IA9i III層中部	深鉢	口~胴	RL	小山形口縁 沈線区画の充填縄文と貼瘤列	III 3 b
638	IB7e III層下部	深鉢	口~底	LR	山形口縁 沈線区画 充填縄文と貼瘤	III 3 b
639	IA9h III層	深鉢	口~胴	LR	沈線区画の充填縄文と貼瘤 アスファルト	III 3 b
640	IIA0e III層	深鉢	口~胴	LR	沈線区画の充填縄文と貼瘤	III 3 b
641	IIA0e III層	深鉢	口~胴	LR	沈線区画の充填縄文と貼瘤	III 3 b
642	IIA0g III層中部	深鉢	口~胴	RL	口唇部に小突起(貼瘤)列 沈線区画の充填縄文と貼瘤	III 3 b
643	IIA1g III層中部	深鉢	口縁部	LR	波状口縁? 沈線区画の貼瘤列と充填縄文 口縁部内側肥厚	III 3 b
644	IIA0g III層中部	壺	胴部	LR	半浮彫的な充填縄文 貼瘤	III 3 b
645	IB9a III層	壺?	胴部	RL	半浮彫的な充填縄文と貼瘤 羽状縄文 0段多条	III 3 b
646	IA9j III層	深鉢	胴部	LR	沈線区画の充填縄文と低い貼瘤?	III 3 b
647	IB9a III層中部	壺?	口~頸		沈線区画の刻み列 雑な沈線文と貼瘤	III 3 b
648	IA9j III層	壺	頸~胴		細い沈線と隆帯による曲線文と貼瘤 雑なミガキ	III 3 b
649	IIA0j III層中部	深鉢	口~胴	RL	大波状口縁 口縁部内側肥厚 沈線区画の充填縄文と貼付文	III 3 b
650	IIA0j III層中部	深鉢	口~胴	RL	大波状口縁 No.649と同一個体	III 3 b
651	IIA0h III層中部	深鉢	口~胴	LR	沈線区画の磨消(充填)縄文(入組帯状文)と貼瘤 口縁部肥厚	III 3 b
652	IIA0g III層	深鉢	胴部	LR	沈線区画の磨消(充填)縄文(入組帯状文)と貼瘤列	III 3 b
653	IB8b III層下部	深鉢	口~胴		口唇部に突起列 沈線による入組帯状文 雑なミガキ	III 3 b
654	IIA0g III層中部	深鉢	口~胴		2個一対の突起と小突起 沈線による入組文と豆粒状の貼付 補修孔	III 3 b
655	IIA0e III層	深鉢	口~胴		沈線区画の磨消文様と突起 地文は櫛歯状の条線文	III 3 b
656	IIA0g III層中~下部	壺?	胴部		沈線束による文様と貼瘤 ミガキ	III 3 b
657	IIA0e III層	深鉢	口~胴		突起 口縁部内側肥厚 沈線区画の磨消文様と貼瘤 沈線文	III 3 b

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
658	II A 0 g III層中～下部	壺	胴部		微隆起線と小貼瘤による曲線文 細沈線による矢羽根状文 赤色塗彩	III 3 b
659	I A 9 i III層	深鉢	胴部	L ?	沈線区画の充填縄文と貼瘤 縄文地に沈線による格子文様	III 3 b
660	II A 0 j III層	深鉢	口～胴	L ?	小突起沈線区画の充填縄文 貼瘤 縄文帯に格子状の沈線文	III 3 b
661	I A 8 j III層	深鉢	胴～底		沈線文と豆粒状の貼付文	III 3 b
662	I C 9 f III層	壺	胴～底	L R	沈線区画の充填縄文と貼り瘤文	III 3 b
663	I A 9 j III層	壺	胴部	L R	沈線文と大小の貼瘤	III 3 b
664	II A 0 j III層中部	壺	胴部	R L	沈線区画の充填縄文と貼瘤 0段多条	III 3 b
665	II A 0 g III層	壺?	胴部	L R	沈線区画の磨消(充填)縄文と貼瘤	III 3 b
666	II A 0 g III層下部	注口土器	胴部	L R	沈線区画の充填縄文と豆粒状貼付文 注口破損部にアスファルト	III 3 b
667	I B 9 c III層中部	注口土器	口～底	L R ?	頸部に山形把手 沈線区画の充填縄文と貼付 注口部にアスファルト	III 3 b
668	I B 9 b III層中部	壺	胴～底	L R ?	半浮彫的な充填縄文帯と豆粒状の貼り瘤文	III 3 b
669	I B 9 a III層	壺	口～頸	L R ?	貼り瘤を伴う雑な充填縄文帯	III 3 b
670	I B 8 b III層下部	壺	口～胴		半浮彫的縄文帯(隆帯)と貼り瘤文	III 3 b
671	I B 9 a III層中～下部	壺	口～頸		低い隆帯と貼り瘤文	III 3 b
672	I A 8 j III層	深鉢	口～胴		沈線区画の低い隆帯?と貼瘤	III 3 b
673	II A 0 h III層中部	壺	胴部		沈線と突起を伴う低い隆帯ボタン状の張り付け文	III 3 b
674	I A 8 j III層	壺?	頸部?		2本一対の細い隆帯と貼瘤	III 3 b
675	I A 9 g III層	注口土器	胴部		半浮彫的文様と貼瘤 注口破損部にアスファルト	III 3 b
676	I A 8 j III層	壺	頸～胴		2本一組の隆帯と貼瘤 突起(貼瘤)列	III 3 b
677	I B 8 a III層	壺?	胴部		注口土器?半浮彫的な隆帯による曲線文と貼瘤 雑なミガキ	III 3 b
678	I B 9 b III層	壺	頸～底		刺突文・微隆起線と大小の貼り瘤文 注口破損部にアスファルト充填	III 3 b
679	II A 0 f III層	注口土器	口～底		細い沈線による曲線文と豆粒状の貼付文	III 3 b
680	I A 9 h III層中部	壺	胴部		細い沈線による曲線文と小貼瘤	III 3 b
681	II A 0 g III層	深鉢	胴部		沈線による入組帯状文(充填縄文?)と貼瘤	III 3 b
682	I A 9 h III層中部	壺?	胴部		沈線による曲線文と貼瘤	III 3 b
683	I A 9 j III層	壺?	胴部		沈線による曲線文と低い貼瘤	III 3 b
684	II A 0 h III層下部	鉢	口～底		無文 内外面ともミガキ 貫通孔を持つ4個の把手(吊り手)	III 3 b
685	I B 8 e III層中部	台付鉢	胴～台		無文 雑なナデ 台部に3個の貫通孔	III 3 b
686	II A 0 g III層中部	台付鉢	胴～底		台部上端に貼瘤列 雑なミガキ	III 3 b
687	I B 8 b III層下部②	壺	口～底		無文 雑なミガキ	III 3 b
688	I B 9 b III層中部	香炉	胴部		隆帯と沈線 豆粒状の小突起 透かし文様	III 3 b
689	I B 9 a III層	深鉢	口縁部	L R ?	頂部に凹みをもつ緩い山形口縁 口唇部に刻み 沈線区画の刻み列	III 4 a
690	II A 0 d III層中部	香炉?	胴部		沈線区画の刻み列 2個一対の突起と貼瘤 雑なミガキ	III 4 a
691	II A 0 f III層	深鉢	胴部		口唇部に刻み 細い沈線と刻み列による曲線文	III 4 a
692	II A 0 f III層中部	深鉢	口～胴		口唇部に刻みと貼瘤 細い沈線と刻み列による曲線文 小貼瘤	III 4 a
693	I B 9 a III層	深鉢	口縁部	L R ?	頂部に凹みをもつ緩い山形口縁 口唇部に刻み 沈線区画の刻み列	III 4 a
694	I A 9 i III層中部	深鉢	口縁部		沈線区画された突き起こし状の刺突列 外面にスス	III 4 a
695	I A 9 i 0層	深鉢	胴部		沈線区画の刻み列による文様	III 4 a
696	I A 9 j III層	深鉢	口～胴		雑な沈線文様	III 4 a
697	II A 0 g III層中部	深鉢	口縁部	L R	頂部が台状となる山形口縁 突き起こしによる刻みと瘤	III 4 a
698	I A 9 i III層	深鉢	口縁部		口唇部に刺突 平行沈線と刺突列 補修孔	III 4 a
699	I A 9 i III層中部	深鉢	胴部		突き起こし状の刺突列 沈線による格子目文	III 4 a
700	I A 8 h III層下部	深鉢	口～胴		2個?一対の小突起 沈線文と不整な連続刺突文	III 4 a
701	I A 9 j III層中部	深鉢	口～底		大波状口縁 波頭部と口縁部に突起 短沈線が充填された入組帯状文	III 4 a
702	I B 6 h III層下部	深鉢	口～胴	L R	頂部に刻みの山形突起と台状突起 沈線区画の刻み列と充填縄文	III 4 a
703	II A 0 d III層	深鉢	口～胴	L R	沈線区画の刻み列と充填縄文(入組帯状文)	III 4 a
704	I A 9 i III層中部	深鉢	口～胴	R L	沈線区画の充填縄文	III 4 a
705	II A 0 d III層中部	深鉢	胴部	R L	沈線区画の深い刺突(刻み)列 沈線区画の充填縄文	III 4 a
706	I C 9 e III層	深鉢	口～胴	L R	波状口縁 沈線区画の磨消縄文	III 4 b
707	I A 9 j III層	深鉢	口～胴	R L	緩い小波状口縁 沈線区画の入組文(磨消縄文)	III 4 b
708	I A 9 h III層中部	深鉢	口～胴	R L	頂部に刻みをもつ山形突起 沈線区画の充填縄文(入組帯状文)	III 4 b
709	II A 0 f III層上部	深鉢	口～胴	L R	台状突起 半浮彫的な磨消縄文(入組帯状文?) 補修口	III 4 b
710	II A 0 i III層上部	深鉢	口～胴	R L	沈線区画の磨消縄文(入組帯状文)	III 4 b
711	I A 9 h III層中部	深鉢	口～胴	R L	台状突起 沈線(押し引き状)による入組文(充填縄文)	III 4 b
712	I A 9 j III層	深鉢	口～胴	L R	上部が肥厚する台状突起 沈線区画の磨消(充填)縄文 0段多条	III 4 b
713	II A 0 f III層中部	深鉢	胴部	R L	沈線区画の磨消(充填)縄文(入組帯状文) 低い貼瘤 0段多条?	III 4 b
714	II A 0 e III層	深鉢	胴部	R L	沈線区画の磨消縄文(入組帯状文)	III 4 b
715	I B 9 b～c III層	深鉢?	胴部	L R	沈線区画の磨消(充填)縄文 0段多条	III 4 b
716	II A 0 g III層	深鉢	胴部	L R	沈線区画の磨消(充填)縄文 0段多条	III 4 b
717	I A 9 g III層中部	深鉢	口～底	L R	大小の突起 沈線区画の入組文 刻みを持つ隆帯とボタン状貼付文	III 4 b
718	II A 0 d III層中部	深鉢	口～底	L R	6単位?の台状突起 沈線による入組文 刻み状の短沈線と充填縄文	III 4 b
719	II A 0 g III層中部	深鉢	口～胴	R L	台状突起と状突起 沈線区画の条線と磨消縄文(入組帯状文)	III 4 b
720	I B 7 e III層	深鉢	口～胴		頂部が凹む台状突起 沈線区画の刻み(歯状文)	III 4 b

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
721	IA9i Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L	刺突と凹みをもつ台状突起 沈線区画の充填文様 原体圧痕 0段多条	Ⅲ4b
722	IB9b～c Ⅲ層	注口土器	胴～底		無文 外面丁寧なミガキ	Ⅲ4b
723	IIA0i Ⅲ層中部	注口土器	胴部		無文 雑なミガキ 注口下部に突起	Ⅲ4b
724	IA9i Ⅲ層中部	壺?	胴～底		沈線による曲線文	Ⅲ4b
725	IIA0g Ⅲ層中部	壺?	胴～底		無文 雑なミガキ 底部に小さな高台	Ⅲ4b
726	IIA0d Ⅲ層中部	壺	口～胴		無文 雑なミガキ	Ⅲ4b?
727	IA9g Ⅲ層下部	壺	口～底		頭部と底部に沈線 雑なミガキ	Ⅲ4b?
728	IIA0e Ⅲ層中部	浅鉢	口～胴		無文 雑なミガキとケズリ	Ⅲ4b?
729	IIA0h Ⅲ層中部②	鉢	口～底		無文 粗いミガキ	Ⅲ4b?
730	IIA0e Ⅲ層下部	鉢	口～胴		無文 内外面とも雑なミガキ	Ⅲ4b?
731	IIA0f Ⅲ層下部	鉢	口～底		無文 粗いケズリとミガキ	Ⅲ4b?
732	IB8b Ⅲ層下部	鉢	口～底		無文 雑なミガキ	Ⅲ4b?
733	IA9j Ⅲ層	深鉢	口～胴	L	地文のみ	Ⅲ5
734	IIA0f Ⅲ層中部	台付鉢	口～底	LR	低い突起 地文のみ	Ⅲ5
735	IIA0f Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	LR	口縁部に細い縦沈線(刻み)	Ⅲ5
736	IIA0f Ⅲ層中部	深鉢	胴～底	LR	胴部下端に平行沈線 胴部下端及び底面は丁寧なミガキ	Ⅲ5
737	IA8j Ⅲ層	深鉢	口～底	RL	地文のみ	Ⅲ5
738	IIA0f Ⅲ層	深鉢	口～胴		無文 雑なミガキ	Ⅲ5
739	IIA0i Ⅲ層	深鉢	口～胴		無文	Ⅲ5
740	IB8b Ⅲ層	深鉢	口～胴		無文 雑なナデ	Ⅲ5
741	IIA0e Ⅲ層下部	深鉢?	胴～底		雑な平行沈線文	Ⅲ5
742	IIA0f Ⅲ層中部	深鉢	口～胴		櫛歯状条線文による曲線文	Ⅲ5
743	IB9a Ⅲ層中部	深鉢	口～胴		地文のみ 櫛歯状の条線文	Ⅲ5
744	IA9h Ⅲ層	深鉢	胴部		櫛歯状の条線文による文様	Ⅲ5
745	IIA0j Ⅲ層	深鉢	口～胴		櫛歯状の条線文	Ⅲ5
746	IB8d Ⅲ層	深鉢	口～胴		地文のみ 櫛歯状条線文	Ⅲ5
747	IC9e Ⅲ層上部	深鉢	口縁部	LR?	台状突起 沈線区画の充填? 縄文	IV1a
748	IB8e Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	LR	台状突起 沈線区画の磨消(充填) 縄文	IV1a
749	IC9e Ⅲ層	深鉢	口縁部	LR	波状口縁 口縁部肥厚 沈線区画の充填縄文 0段多条	IV1a
750	IB区0層	深鉢	口～胴	RL	太い沈線による半浮彫的文様	IV1a
751	IB8e Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	LR	2個一對の山形突起(4単位?) 沈線区画の充填縄文	IV1a
752	IC8e Ⅲ層中部	深鉢	口縁部	LR?	山形突起 沈線区画の磨消縄文	IV1a
753	IIA0h Ⅲ層中部	深鉢?	口縁部	LR	山形突起部分 沈線区画の磨消縄文 焼成前の穿孔 補修孔	IV1a
754	IA8j Ⅲ層	深鉢	口～胴	RL	上部が肥厚する山形突起 沈線区画の充填縄文 0段多条	IV1a
755	IB7d Ⅲ層	深鉢	口縁部	LR	山形口縁 深い沈線による充填縄文(入組帯状文)	IV1a
756	IA9e Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	台状突起? 沈線区画の磨消縄文(入組帯状文)	IV1a
757	IIA0g Ⅲ層中～下部	深鉢	口縁部	RL	低い小波状口縁 沈線区画の磨消縄文(入組帯状文?) 補修孔	IV1a
758	IB8d Ⅲ層下部	深鉢	口縁部	RL	低い小波状口縁 沈線区画の磨消縄文? 未貫通の補修孔	IV1a
759	IB8b Ⅲ層	深鉢	口縁部	RL	2個一對の小山形突起 半浮彫的な充填縄文(入組帯状文) 0段多条	IV1a
760	IIA0f Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	RL	刻み状の山形口縁 弧状沈線(三叉文系文様?)と平行沈線	IV1a
761	IIA0f Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR?	沈線区画の磨消縄文(入組帯状文)	IV1a
762	IB6i Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR?	沈線区画の充填縄文 0段多条	IV1a
763	IB8d Ⅲ層下部	深鉢	口縁部	LR	低い小波状口縁 沈線区画の磨消縄文(入組帯状文)	IV1a
764	IC9e Ⅲ層	深鉢	口縁部	LR	沈線区画の磨消縄文	IV1a
765	IB8e Ⅲ層	深鉢	口縁部		太い沈線による三叉文系文様	IV1a
766	IB6j Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	低い小波状口縁 沈線による渦巻状入組文	IV1a
767	IB9a Ⅲ層下部	深鉢	口縁部	RL	沈線区画の磨消縄文 0段多条	IV1a
768	IB8f Ⅲ層	鉢	口～胴	LR	小波状口縁? 沈線による三叉文系文様	IV1a
769	IB8e Ⅲ層	深鉢	口～胴	RL	小波状口縁 弧状短沈線 平行沈線と曲線文	IV1a
770	IB8e Ⅲ層	深鉢	口～胴	RL	山形口縁 弧状沈線と磨消帯 沈線による円文・三角文	IV1a
771	IB6e Ⅲ層	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文と貼瘤 赤色塗彩	IV1a
772	IB9d Ⅲ層	注口土器	口～胴		三叉文系の曲線文 丁寧なミガキ	IV1a
773	IC9e Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	沈線区画の磨消縄文 0段多条	IV1b
774	IB8e Ⅲ層	深鉢	口縁部	RL	沈線区画の充填(磨消) 縄文	IV1b
775	IB8e Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR・RL	沈線区画の入組文(磨消縄文) 羽状縄文	IV1b
776	IB9c Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	LR	低い波状口縁と山形突起 太い沈線による三叉文と平行沈線文	IV1b
777	IB6i Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	緩い小波状口縁とB突起 三叉文と平行沈線文	IV1b
778	IB6i Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	山形突起(4単位) 三叉文と平行沈線文	IV1b
779	II C2f Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	LR	小波状口縁 三叉文と平行沈線文	IV1b
780	IC8g Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	LR	太い沈線による三叉文と平行沈線文	IV1b
781	IC9e Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR・RL	B突起による山形口縁 三叉文と平行沈線文 羽状縄文	IV1b
782	IB6i Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	LR	小山形口縁 三叉文と平行沈線文	IV1b
783	IB6i Ⅲ層	鉢	口～胴	LR	小波状口縁 太い沈線による入り組み三叉文と平行沈線文	IV1b

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
784	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～底	L R	低い山形口縁 沈線による三叉文と平行沈線文	IV 1 b
785	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～底	L R	状突起による小山形口縁 半浮彫的な三叉文 平行沈線文	IV 1 b
786	I B 8 d Ⅲ層下部	鉢	口～底	L R	刻み状の低い山形口縁と山形突起 三叉文系文様と平行沈線文	IV 1 b
787	I B 8 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R・R L	小山形口縁とB突起 三叉文と平行沈線文 羽状縄文	IV 1 b
788	I B 8 d Ⅲ層	鉢	口～底	L R	小山形口縁とB突起 沈線による三叉文と平行沈線文	IV 1 b
789	I B 6 h Ⅲ層	鉢	口～底	L R	連続するB突起による小山形口縁 沈線による三叉文系文様	IV 1 b
790	I B 6 j Ⅲ層	鉢	口～底	L R	低い山形口縁 沈線による三叉文と平行沈線文	IV 1 b
791	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～底	L R	低い山形口縁 沈線による半浮彫的な三叉文系文様と平行沈線文	IV 1 b
792	I B 8 d Ⅲ層	鉢	口～底	L R	低い山形口縁 三叉文系文様 胴部下端から底面ミガキ	IV 1 b
793	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	低い山形口縁と山形突起 三叉文系文様と平行沈線文	IV 1 b
794	I B 8 c Ⅲ層	浅鉢	口～胴	L R	連続刺突による小波状口縁 沈線による半浮彫的文様	IV 1 b
795	I C 9 f Ⅲ層	鉢	口～底	L R	3個一対の突起による山形口縁 三叉文と平行沈線文	IV 1 b
796	I B 8 e Ⅲ層	浅鉢	口～底	L R	低い山形口縁とB突起 三叉文をなす平行沈線 突起頂面に三叉文	IV 1 b
797	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～底	L R	沈線による三叉文系文様	IV 1 b
798	I B 6 i Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	L R	2個一対の小突起 小波状口縁 三叉文と平行沈線文 内面にスス	IV 1 b
799	II C 4 g Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R	B突起?列 半浮彫的な三叉文系文様と平行沈線文	IV 1 b
800	I B 8 d Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	山形突起と小波状口縁 三叉文と平行沈線	IV 1 b
801	I B 8 d Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R・R L	B突起と低い小波状口縁 三叉文系文様と平行沈線 羽状縄文	IV 1 b
802	I B 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	山形突起と小波状口縁 三叉文と平行沈線	IV 1 b
803	II C 2 g Ⅲ層	鉢	口縁部		山形突起と小波状口縁 半浮彫的な三叉文系文様 ミガキ	IV 1 b
804	I B 9 b Ⅲ層中部	深鉢	口～胴		緩い山形突起と刻み状の小波状口縁 三叉文と平行沈線 内面にスス	IV 1 b
805	I B 8 d Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	頂部に刻みをもつ山形突起 刻み状の山形口縁 三叉文 0段多条	IV 1 b
806	I B 6 i Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R	山形突起と小波状口縁 三叉文と平行沈線文 補修孔	IV 1 b
807	I B 6 h Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	2個一対の小突起 低い小波状口縁 三叉文と平行沈線	IV 1 b
808	I B 8 f Ⅲ層最下部	深鉢	口～胴	L R	波状口縁 太い沈線による三叉文と平行沈線 0段多条	IV 1 b
809	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	B突起?列 三叉文系文様	IV 1 b
810	I C 9 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	山形口縁 三叉文系文様と平行沈線	IV 1 b
811	I C 8 e Ⅲ層下部	小波状口縁	口縁部		半浮彫的な三叉文系文様	IV 1 b
812	I B 6 j Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小波状口縁 三叉文と平行沈線文	IV 1 b
813	I B 8 b Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小山形口縁 三叉文と平行沈線	IV 1 b
814	I B 9 b～c Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	低い小波状口縁 沈線による三叉文系文様	IV 1 b
815	I B 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	小波状口縁 三叉文と平行沈線 0段多条	IV 1 b
816	I B 6 i Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R	小波状口縁 三叉文と平行沈線	IV 1 b
817	I B 5 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	三叉文 0段多条 補修孔	IV 1 b
818	I A 9 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	低い小波状口縁 玉抱き三叉文	IV 1 b
819	I C 7 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	小波状口縁 太い沈線による三叉文系文様 0段多条	IV 1 b
820	I B 8 e Ⅲ層上部	鉢	口～胴	L R	刻み状の小山形口縁 玉抱き三叉文と平行沈線	IV 1 b
821	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	山形突起と刻み状の小山形口縁 三叉文	IV 1 b
822	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	小山形口縁 三叉文と平行沈線 0段多条 外面にスス	IV 1 b
823	I B 8 e Ⅲ層上部	鉢	口縁部	L R	小波状口縁 三叉文と平行沈線	IV 1 b
824	II C 4 g Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	B突起と刻み状の小波状口縁 三叉文系文様と平行沈線 赤色焼彩?	IV 1 b
825	I B 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小山形口縁 三叉文と平行沈線文 0段多条	IV 1 b
826	II A 0 g Ⅲ層	鉢	口縁部		小山形突起 三叉文系文様 ミガキ	IV 1 b
827	I B 8 c Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L	小波状口縁 玉抱き三叉文と平行沈線	IV 1 b
828	II A 0 g Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R	入組三叉文と平行沈線 0段多条	IV 1 b
829	I B 7 e Ⅲ層	深鉢	口縁部		低い小波状口縁 三叉文系文様	IV 1 b
830	II A 0 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	平行沈線と三叉文?系文様	IV 1 b
831	I B 8 d Ⅲ層下部	台付鉢	胴部	L R	三叉文系文様	IV 1 b
832	II C 2 g Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	山形口縁 半浮彫的な三叉文系文様と磨消縄文	IV 1 b
833	I B 7 c Ⅲ層	鉢	口縁部		B突起と小山形口縁 三叉文と破線状短沈線	IV 1 b
834	I C 9 e Ⅲ層	台付鉢	口～胴	L R	B突起 半浮彫的な三叉文系文様	IV 1 b
835	II A 0 i Ⅲ層中部	鉢	口～胴		小波状口縁 三叉文系文様 ミガキ	IV 1 b
836	II A 0 f Ⅲ層中部	台付鉢?	口～胴	L R	頂部に刻みをもつ山形突起 小山形口縁 三叉文系文様	IV 1 b
837	I B 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小波状口縁 弧状沈線と三叉文系文様	IV 1 b
838	I B 9 b Ⅲ層中部	深鉢	口縁部		小波状口縁 波状沈線と三叉文系文様	IV 1 b
839	I B 6 i Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R	小波状口縁 三叉文と平行沈線	IV 1 b
840	I B 7 f Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R	小波状口縁 弧状沈線と平行沈線文 0段多条	IV 1 b
841	I B 6 i Ⅲ層	深鉢	口～底	L R	低い小波状口縁 弧状沈線と三叉文 平行沈線	IV 1 b
842	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R・R L	低い台状の山形口縁 雑な沈線文様 羽状縄文	IV 1 b
843	I B 7 c Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小波状口縁 弧状沈線と三叉文	IV 1 b
844	I B 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	小波状口縁 弧状沈線と三叉文 0段多条	IV 1 b
845	II A 0 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	弧状沈線文 0段多条	IV 1 b
846	I B 6 i Ⅲ層最下部	深鉢	口縁部		緩い波状口縁 弧状沈線と平行沈線	IV 1 b

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
847	IIA0fⅢ層	鉢	口～胴	RL	沈線区画の磨消細文	IV1b
848	IB9bⅢ層中部	台付鉢	底～台		沈線による浮彫的に三叉文	IV1b
849	IB9dⅢ層中部	壺	口～頸	LR	頸部下端に三叉文	IV1b
850	IB8eⅢ層最下部	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消細文	IV1b
851	IB8eⅢ層最下部	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消細文	IV1b
852	IB8eⅢ層	注口土器	胴～底		注口部に沈線による三叉文 全体にミガキ	IV1b
853	IC8eⅢ層上部No.5	注口土器	胴～底		全体に丁寧なミガキ 注口付け根に三叉文	IV1b
854	IIA0gⅢ層上部	注口土器	頸～底		平行沈線文 注口付け根に三叉文 外面丁寧なミガキ	IV1b
855	IA9iⅢ層中部	注口土器	胴～底		沈線による半浮彫的三叉文系文様 丁寧なミガキ	IV1b
856	IB9b～cⅢ層	注口土器	口～底		沈線文 全体にミガキ	IV1b
857	IB9cⅢ層	注口土器	口～底		半浮彫的三叉文系文様 外面丁寧なミガキ	IV1b
858	IB6iⅢ層下部	注口土器	頸～底		頸部に平行沈線文 沈線による半浮彫的文様 全面丁寧なミガキ	IV1b
859	IB7eⅢ層	注口土器	口～底		正面に大振りなB突起 沈線による三叉文系文様	IV1b
860	IB8eⅢ層中部	注口土器	胴部		沈線による曲線文 丁寧なミガキ	IV1b
861	IIA0iⅢ層中部	注口土器	胴部		沈線による曲線文 注口付け根に三叉文 外面ミガキ	IV1b
862	IIA0jⅢ層	注口土器	胴部		沈線による曲線文 注口付け根に三叉文 外面ミガキ	IV1b
863	IA9hⅢ層	注口土器	口縁部		正面に低い山形突起 沈線による三叉文系文様 内外面ともミガキ	IV1b
864	IB8dⅢ層	注口土器	口縁部		山形の高まり 三叉文 ミガキ	IV1b
865	IB8eⅢ層	注口土器	口縁部		緩い波状口縁と山形口縁 三叉文 内外面ミガキ	IV1b
866	IC9eⅢ層	香炉	胴部		半浮彫的な文様と透かし文 雑なミガキ	IV1b
867	IB7fⅢ層	深鉢	口縁部		山形口縁と低い小波状口縁 三叉文系文様	IV2a
868	IC2fⅢ層下部	深鉢	口～胴	LR	角状突起と小山形口縁 三叉文系文様と平行沈線 外面にスス	IV2a
869	IB7fⅢ層	深鉢	口縁部		B突起列 三叉文系文様 (粗型の羊歯状文?)	IV2a
870	IB6dⅢ層	深鉢	口～胴	LR	小波状口縁 連珠文	IV2a
871	IB7eⅢ層	深鉢	口～胴	LR	B突起列 三叉文と平行沈線 沈線区画の刺突列	IV2a
872	IC2gⅢ層	台付鉢?	口～胴	LR	山形突起 沈線による三叉文系文様	IV2a
873	IB8dⅢ層	鉢	口～胴	LR	5単位の波状口縁 沈線による三叉文 沈線区画の磨消細文	IV2a
874	IB8fⅢ層	浅鉢	口～底	LR	緩い小波状口縁 三叉文と平行沈線文 沈線区画の磨消細文	IV2a
875	IC9fⅢ層下部	鉢	口～胴	LR	B突起列玉抱き三叉文 三叉文系文様と磨消細文?	IV2a
876	IC0fⅢ層	鉢	胴部	LR	半浮彫的な羊歯状文と磨消細文	IV2a
877	IA9hⅢ層中部	深鉢	胴部	LR	半浮彫的な磨消細文	IV2a
878	IC8eⅢ層	鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起列と半浮彫的な文様 磨消細文	IV2a
879	IB6iⅢ層	鉢	口～胴	LR	B突起列 半浮彫的な文様	IV2a
880	IB6fⅢ層上部	鉢	口～胴	RL	半浮彫的な文様と貼瘤 沈線区画の磨消細文	IV2a
881	IB6jⅢ層	鉢	口～胴	LR?	B突起列 半浮彫的な文様	IV2a
882	IB8dⅢ層	深鉢	口～胴	LR	B突起列 半浮彫的な文様 破線状沈線と低い突起	IV2a
883	IIA0eⅢ層	鉢	口～胴	LR	B突起による山形口縁 太い沈線による三叉文と半浮彫的な文様	IV2a
884	IIA0eⅢ層中部	鉢	口～胴		B突起 三叉文系文様と破線状沈線 ミガキ	IV2a
885	IB8dⅢ層上～中部	浅鉢	口～底	LR	小山形口縁と山形突起 沈線による三叉文系文様	IV2a
886	IC2gⅢ層	鉢	口～胴		山形突起と刻み状の小山形口縁 半浮彫的な三叉文系文様 ミガキ	IV2a
887	IB5iⅢ層	深鉢	口～胴	LR?	山形突起 三叉文	IV2a
888	IB6iⅢ層	鉢	口～胴	LR?	山形突起? 三叉文 一部磨消細文?	IV2a
889	IB8eⅢ層	鉢	口～胴	LR	山形突起 三叉文と破線状沈線	IV2a
890	IIA0eⅢ層	鉢	口～胴		B突起列 三叉文と半浮彫的な文様 ミガキ	IV2a
891	IB8eⅢ層	鉢	口～胴		B突起列 連珠文と小貼瘤を伴う沈線文 三叉文	IV2a
892	IC2gⅢ層	鉢	口～胴	RL	B突起列 三叉文系文様と平行沈線	IV2a
893	IB6jⅢ層	鉢	口縁部		B突起と小山形口縁 半浮彫的な文様	IV2a
894	IC2fⅢ層下部	鉢	口～胴	LR	B突起?列 半浮彫的な渦巻系文様と平行沈線	IV2a
895	IC9fⅢ層	鉢	口縁部		三角形の透かし文をもつ浮彫的な突起 三叉文系文様	IV2a
896	IB8cⅢ層	鉢	口～胴	LR	小波状口縁 弧状沈線による波形文(入組文) 三叉文 内面スス付着	IV2a
897	IB6jⅢ層	鉢	口縁部		注口土器? 山形突起 半浮彫的な文様	IV2a
898	IB6hⅢ層最下部	深鉢	口～胴		小波状口縁 三叉文と破線状沈線 ミガキ	IV2a
899	IB8dⅢ層	深鉢	口縁部		弧状沈線と三叉文系文様 ミガキ	IV2a
900	IC2gⅢ層	鉢	口～胴		刻み状の小波状口縁 半浮彫的な沈線文 ミガキ	IV2a
901	IIA0eⅢ層中～下部	壺	口～底	LR	頸部に三叉文 胴部は沈線区画の磨消細文	IV2a
902	IB8eⅢ層最下部	壺	口～胴	LR	山形突起 頸部に三叉文 平行沈線と沈線区画の磨消細文	IV2a
903	IC4gⅢ層下部	壺	口～胴		沈線による三叉文と曲線文 外面ミガキ	IV2a
904	IIA0iⅢ層中部	壺	口～胴		沈線による三叉文系文様	IV2a
905	IC2gⅢ層	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消細文	IV2a
906	IIA0hⅢ層中部	壺	胴部	RL?	半浮彫的な磨消細文 摩耗	IV2a
907	IB8cⅢ層	注口土器	口～底		瘤状の突起 沈線による半浮彫的な文様 外面ミガキ	IV2a
908	IB8eⅢ層中部	注口土器	口～頸		小山形突起 沈線による楕円文・菱形文(浅い浮彫) 破線文 ミガキ	IV2a
909	IB8cⅢ層	注口土器	口縁部		鉢? 低い山形突起と小波状口縁? 半浮彫的な文様	IV2a

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
910	II C 1 f III層	注口土器	口縁部		鉢? 低い小波状口縁 半浮彫的な文様 破線状の沈線文 ミガキ	IV 2 a
911	IA 9 i III層	注口土器	胸部		沈線による浮彫的文様 半浮彫的な文様 丁寧なミガキ	IV 2 a
912	IB 8 e III層中部	注口土器	胸部		半浮彫的文様 ミガキ	IV 2 a
913	II C 4 g III層中部	注口土器	胴~底		半浮彫的文様	IV 2 a
914	IB 6 e III層中~下部	深鉢	口~胴	L R	小山形口縁 B突起 羊歯状文と平行沈線文	IV 2 b
915	II A 0 f III層中部	深鉢	口~胴	R L	小山形口縁 羊歯状文と平行沈線文	IV 2 b
916	IB 8 e III層	深鉢	口~胴	L R	羊歯状文と平行沈線文 Bの小突起	IV 2 b
917	IA 9 h III層	深鉢	口~胴	L R・R L	小波状口縁 2~3個一對のB突起 浮彫的表現の入組文 羽状縄文	IV 2 b
918	II A 0 e III層上部	深鉢	口~胴	L R	小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
919	II A 0 h III層下部	深鉢	口縁部		半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
920	IB 6 h III層下部	深鉢	口~胴	L R	B突起列 半浮彫的な連珠文と羊歯状文	IV 2 b
921	IB 8 e III層中部	深鉢	口~胴	L R	2個一對の突起列 太い沈線による連珠文と平行沈線	IV 2 b
922	IB 8 e III層最下部	深鉢	口~胴	L R	B突起?列 半浮彫的な羊歯状文と平行沈線	IV 2 b
923	IB 5 e III層	深鉢	口~胴	L R	2個一對の小突起 小山形口縁 羊歯状文	IV 2 b
924	6 トレ黒色土下部	鉢	口縁部		B突起列 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
925	II A 0 g III層中部	深鉢	口~胴	L R	小突起列 半浮彫的な羊歯状文 赤色塗彩	IV 2 b
926	II A 0 f III層中部	鉢	口縁部		B突起 半浮彫的な文様 ミガキ	IV 2 b
927	IB 8 e III層	深鉢	口~胴		連珠文と羊歯状文 胸部ミガキ?	IV 2 b
928	IB 6 h III層下部	深鉢	口縁部	L R	低い山形口縁 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
929	IB 7 d III層	深鉢	口縁部		B突起?列 羊歯状文	IV 2 b
930	IB 6 i III層	鉢	口~胴		B突起列 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
931	IB 8 e III層上部	深鉢	口~胴	R L	B突起列 平行沈線と刺突列	IV 2 b
932	IB 8 c III層	深鉢	口縁部	L R	刻み状の小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
933	II A 0 f III層	深鉢	口~胴	L R	刻み状の小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
934	IA 9 i III層	深鉢	口~胴	L R	半浮彫的な小突起と羊歯状文 内外面にスス	IV 2 b
935	IB 7 b III層	深鉢	口~胴	L R	小波状口縁 半浮彫的な羊歯状文と平行沈線文 0段多条 外面にスス	IV 2 b
936	IC 8 e III層	深鉢	口縁部		半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
937	IC 9 g III層	鉢	口~底	L R	突起状の小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
938	II C 3 g III層	鉢	口~胴	L R	B突起の小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文 内面にスス	IV 2 b
939	II C 4 g III層下部	鉢	口~胴	L R	B突起と刻み状の小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文 0段多条	IV 2 b
940	IA 9 h III層中部	深鉢	口~胴	L R	刻み状の小山形口縁 直線的な羊歯状文	IV 2 b
941	IC 8 f III層	鉢	口~胴	L R	B突起?列 半浮彫的な羊歯状文 内面にスス	IV 2 b
942	IC 8 e III層	鉢	口~胴	L R	口唇部に刻み 半浮彫的な羊歯状文系文様?	IV 2 b
943	II C 0 g III層	鉢	口~胴	L R	B突起?列 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
944	IB 8 f III層	鉢	口縁部	L R	半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
945	IA 9 f III層	深鉢	口~胴	R L	半浮彫的な突起列と羊歯状文 内外面にスス	IV 2 b
946	II C 2 f III層下部	鉢	口~胴	L R	細い沈線による羊歯状文と磨消縄文	IV 2 b
947	IA 9 h III層中部	鉢	口~胴	L R	小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文と磨消縄文 赤色塗彩?	IV 2 b
948	II A 0 g III層中~下部	鉢	口~胴	L R	半浮彫的な突起列と直線的な羊歯状文	IV 2 b
949	IA 9 i III層	深鉢	口~胴	L R	半浮彫的な小突起列と羊歯状文	IV 2 b
950	IC 9 f III層	鉢	口~胴	L R	鋸歯状の小山形口縁 平行沈線文と直線的な羊歯状文	IV 2 b
951	IB 6 h III層下部	鉢	口~胴	L R・R L	刻み状の小山形口縁 直線的な羊歯状文と刺突列 外面にスス付着	IV 2 b
952	II A 0 f III層中部	深鉢?	口縁部		緩い波状口縁? 半浮彫的な羊歯状文 ミガキ タール状物質付着	IV 2 b
953	II A 0 h III層中部	鉢	口~胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な文様	IV 2 b
954	IB 7 d III層上部	鉢	口~胴	R L	小突起 浮彫的な文様(連珠文)	IV 2 b
955	IA 9 h III層中部	鉢	口~胴		沈線による羊歯状文? ミガキ	IV 2 b
956	IC 9 e III層下部	鉢	口縁部		浮彫的な連珠文(貼釦列?) 半浮彫的な文様	IV 2 b
957	IB 6 d III層	深鉢	口~胴	L R	小波状口縁 刻み列と連珠文	IV 2 b
958	IB 8 e III層中部	鉢	口~底	L R	突起状の小山形口縁 平行沈線と刻み状の刺突文 一部羽状風	IV 2 b
959	IB 8 d III層	鉢	口~胴	L R	刻み状の連珠文 平行沈線文と直線状の羊歯状文	IV 2 b
960	IC 9 e III層上部	鉢	口~底	L R	小山形口縁とB突起直線的な羊歯状文(連珠文?) 底部ミガキ	IV 2 b
961	IB 8 d III層中部	鉢	口~胴	L R	B突起列 平行沈線と刻み列(連珠文)	IV 2 b
962	IB 7 e III層中部	鉢	口~胴	L R	連珠文	IV 2 b
963	IB 7 e III層中部	鉢	口~胴	L R	小山形口縁 連珠文 0段多条	IV 2 b
964	IA 8 j III層	鉢	口~胴	L R	連珠文と小突起沈線区画の磨消縄文	IV 2 b
965	II C 2 g III層	鉢	口~胴	L R	半浮彫的な連珠文と磨消縄文	IV 2 b
966	IC 9 f III層	鉢	口~胴	L R	連珠文と半浮彫的な磨消縄文	IV 2 b
967	IB 8 c III層	深鉢	口~胴	L R	2個一對の小突起と小山形口縁 刻み列 連珠文 0段多条	IV 2 b
968	II A 0 f III層上部	深鉢	口縁部	L R	B突起と小山形口縁 平行沈線と刻み状の連珠文	IV 2 b
969	IB 8 e III層下部	鉢	口~胴	L R	刻み状の小山形口縁 半浮彫的な文様 沈線区画の磨消縄文	IV 2 b
970	IB 8 d III層中部	鉢	口~胴		2個一對のB突起 半浮彫的な文様 ミガキ	IV 2 b
971	IA 9 j III層上部	深鉢	口~胴	L R	口唇部に小突起 沈線文と突起 0段多条	IV 2 b
972	IB 6 j III層	鉢	口~底	L R	小山形口縁 山形を囲む弧状沈線と平行沈線文	IV 2 b

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
973	I B 8 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	低い波状口縁 弧状沈線と平行沈線文	IV 2 b
974	I B 7 e Ⅲ層最上部	深鉢	口～胴	L R	半浮彫的な連珠文と羊歯状文 磨消縄文 口縁内側に連珠文	IV 2 b
975	I B 6 j Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	連続のB突起による小山形口縁 直線的な羊歯状文(浮彫的) スス	IV 2 b
976	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	B突起列 半浮彫的な羊歯状文と平行沈線 0段多条 内面にスス	IV 2 b
977	I B 6 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	2個一対の小突起 刻み状の小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
978	II C 3 g Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	L R	小突起列 口縁内側に沈線 半浮彫的な連珠文と羊歯状文 内面スス	IV 2 b
979	I A 9 h Ⅲ層	深鉢	口～胴		小山形口縁 破綻状の沈線文 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
980	I B 8 c Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	2個一対のB突起 小山形口縁 直線的な羊歯状文	IV 2 b
981	I C 9 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	B突起列 半浮彫的な羊歯状文と連珠文 0段多条 内面にスス	IV 2 b
982	I B 8 f Ⅲ層	鉢	口～胴		2個一対のB突起と小波状口縁 羊歯状文と連珠文	IV 2 b
983	I B 7 f Ⅲ層	深鉢	口～胴		2個一対のB突起と小山形口縁 半浮彫的な羊歯状文と連珠文	IV 2 b
984	I B 8 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	刻み状の小山形口縁とB突起 浮彫的羊歯状文と平行沈線 補修孔	IV 2 b
985	I C 8 f Ⅲ層	鉢	口～底	L R	2個一対のB突起 羊歯状文と平行沈線文	IV 2 b
986	II A 0 d Ⅲ層	深鉢	口～胴		小山形口縁 口縁部内側に沈線 半浮彫的な連珠文と羊歯状文	IV 2 b
987	I B 6 e Ⅲ層	鉢	口縁部		B突起列 半浮彫的な連珠文と羊歯状文	IV 2 b
988	I B 6 h Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R	B突起列と刻み状の小山形口縁 内側に沈線 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
989	I B 8 b Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	2個一対のB突起 小山形口縁 半浮彫的な連珠文と羊歯状文	IV 2 b
990	I B 6 h Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R	B突起列 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
991	II A 0 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	B突起と刻み状の小山形口縁 刻み列と半浮彫的三叉文系文様	IV 2 b
992	II A 0 g Ⅲ層	鉢	口～胴		小山形口縁 平行沈線と破綻文 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
993	I B 7 d Ⅲ層上部	鉢	口～胴		小波状口縁 半浮彫的な文様(羊歯状文・連珠文) 内外面にスス	IV 2 b
994	II A 0 g Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	小突起と刻み状の小山形口縁 直線的な羊歯状文	IV 2 b
995	II A 9 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小山形口縁 2個一対のB突起 羊歯状文と平行沈線文	IV 2 b
996	II A 0 f Ⅲ層中部	鉢	口～胴		小山形突起半浮彫的な連珠文と羊歯状文	IV 2 b
997	I B 8 e Ⅲ層	鉢?	口～胴	L R	壺? 口縁部に半浮彫的な文様 連珠文	IV 2 b
998	I B 6 e Ⅲ層最下部	鉢	口～胴	L R	突起列 連珠文と平行沈線	IV 2 b
999	I C 9 e Ⅲ層	壺	口～胴	L R	口縁内側に沈線 平行沈線 沈線区画の刻み列と磨消縄文 0段多条	IV 2 b
1000	II A 0 f Ⅲ層下部	深鉢	胴部	L R	半浮彫的な羊歯状文と磨消縄文	IV 2 b
1001	I A 区0層	壺	口～胴	L	小突起と小山形口縁 半浮彫的な文様	IV 2 b
1002	I B 8 e Ⅲ層中部	壺?	胴～底	R L	沈線による半浮彫的文様 平行沈線文	IV 2 b
1003	I A 9 i Ⅲ層	浅鉢	口～底	L R	台付鉢? 半浮彫的な羊歯状文と連珠文 0段多条	IV 2 b
1004	II A 0 e Ⅲ層中部	鉢?	口～胴		壺? B突起 口縁部内側に沈線 半浮彫的な連珠文と羊歯状文	IV 2 b
1005	II C 0 e Ⅲ層	浅鉢	胴～底		半浮彫的な文様(連珠文と羊歯状文?)	IV 2 b
1006	I B 9 d Ⅲ層	鉢?	口～胴		半浮彫的文様 ミガキ	IV 2 b
1007	II A 0 e Ⅲ層	鉢	口縁部		注口土器? 半浮彫的文様 ミガキ	IV 2 b
1008	II A 0 i Ⅲ層	深鉢	口～胴		頂部に凹みをもつ小突起 口唇部に刺突 刺突列と沈線による曲線文	IV 2 b
1009	I B 6 d Ⅲ層	鉢?	口縁部	L R	注口土器? 2個一対のB突起 連珠文と平行沈線	IV 2 b
1010	I A 9 j Ⅲ層	鉢	胴～底		連珠文 ミガキ	IV 2 b
1011	II A 0 h Ⅲ層中部	浅鉢?	胴部	L R	半浮彫的な連珠文	IV 2 b
1012	II A 0 j Ⅲ層下部	鉢	口～胴		連珠文と半浮彫的文様 ミガキ	IV 2 b
1013	II A 0 e Ⅲ層下部	鉢	口～底	L R	複数のB突起 沈線による半浮彫的文様と連珠文・平行沈線	IV 2 b
1014	II C 0 g Ⅲ層	鉢	口～底		沈線による半浮彫的文様 外面ミガキ	IV 2 b
1015	II A 0 g Ⅲ層	鉢	口～胴		連珠文と半浮彫的文様	IV 2 b
1016	I A 9 j Ⅲ層集石周辺	鉢?	口～胴	L R	浮彫的B突起 沈線と透かしによる三叉文 沈線区画の刺突列	IV 2 b
1017	II C 0 g Ⅲ層	台付鉢	口～底	L R	B突起 半浮彫的な羊歯状文と連珠文 沈線区画の磨消縄文	IV 2 b
1018	I A 9 i Ⅲ層	台付鉢	口～胴	L R	半浮彫的な連珠文と羊歯状文	IV 2 b
1019	I B 9 e Ⅲ層下部	台付鉢	口～台	L R ?	小山形口縁 羊歯状文と連珠文	IV 2 b
1020	I A 8 j Ⅲ層	台付鉢	口～底	R L	小山形口縁 2個一対のB突起 羊歯状文と平行沈線文	IV 2 b
1021	I B 6 e Ⅲ層下部	台付鉢	口～台		刻み状の小山形口縁 沈線区画の刻み(連珠文)	IV 2 b
1022	II A 0 e Ⅲ層中部	台付鉢	口～底	L R	刻み状の小山形口縁 B突起 連続刻み文(連珠文)と平行沈線文	IV 2 b
1023	I C 9 e Ⅲ層	台付鉢	胴～台	R L	連珠文 台部に透かし文	IV 2 b
1024	II A 0 e Ⅲ層	台付鉢	台部	L R	沈線区画の磨消(充填)縄文 沈線区画の刻み列	IV 2 b
1025	I B 7 d Ⅲ層	台付鉢	胴～台	L R	沈線区画の刺突列 沈線と透かしによる三叉文系文様	IV 2 b
1026	I B 6 i Ⅲ層	台付鉢	底～台	L R	連珠文 沈線による曲線文と三叉文状の透かし文	IV 2 b
1027	I A 9 i Ⅲ層中部	台付鉢	台部	L R	刻み 沈線による半浮彫的文様	IV 2 b
1028	II A 0 i Ⅲ層	台付鉢	底～台	L R	沈線文と円形・山形の透かし文	IV 2 b
1029	II A 0 e Ⅲ層中部	台付鉢	胴～台	L R	平行沈線文 三叉文と円形の透かし文	IV 2 b
1030	II A 0 e Ⅲ層中部	皿	口～底		山形突起 浮彫的文様 内外面とも丁寧なミガキ	IV 2 b
1031	I B 8 c Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	壺? 2個一対のB突起 半浮彫的羊歯状文 平行沈線文	IV 2 b
1032	I B 6 e Ⅲ層	壺	頸～胴	L R	半浮彫的な連珠文と羊歯状文 平行沈線文	IV 2 b
1033	I A 9 g Ⅲ層	鉢?	口～胴		注口土器? 波状口縁? 半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
1034	I B 8 e Ⅲ層	鉢	胴部		半浮彫的な羊歯状文	IV 2 b
1035	II A 0 g Ⅲ層上部	壺	頸～胴	L R	沈線による半浮彫的文様 三叉文系文様と羊歯状文系文様 連珠文	IV 2 b

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1036	II A 1 d Ⅲ層	壺	口～胴	L R	頸部と胴部に沈線区画の連珠文 沈線区画の磨消縄文	IV 2 b
1037	IA 9 e Ⅲ層上部	壺	口～頸	L R	2個一対のB突起 半浮彫的な文様と突起	IV 2 b
1038	IC 9 f Ⅲ層中部	壺	胴部	L R	半浮彫的な連珠文と磨消縄文	IV 2 b
1039	IA 0 f Ⅲ層上部	壺	頸～胴	L R	頸部下端に突起と三叉文系文様 半浮彫的な磨消縄文 0段多条?	IV 2 b
1040	IC 9 e Ⅲ層	壺	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文	IV 2 b
1041	IA 9 h Ⅲ層中部	壺?	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文 平行沈線文	IV 2 b
1042	II A 0 h Ⅲ層中部	壺	胴部	L R	半浮彫的な磨消縄文	IV 2 b
1043	IA 9 j Ⅲ層	深鉢	胴部	R L	破線状沈線と半浮彫的な磨消縄文? 0段多条	IV 2 b
1044	IB 6 e Ⅲ層	壺	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文 赤色塗彩	IV 2 b
1045	IC 9 f Ⅲ層	壺	胴部		ミニチュア 沈線による曲線文 内外面に赤色顔料付着	IV 2 b
1046	II A 0 d Ⅲ層	注口土器	口～底		正面に4個のB突起 浮彫的表現の羊歯状文	IV 2 b
1047	II C 2 f Ⅲ層下部	注口土器	口～頸		半浮彫的な文様 2個一対のB突起	IV 2 b
1048	II A 0 h Ⅲ層中部	注口土器	口縁部		半浮彫的な文様	IV 2 b
1049	IA 9 j Ⅲ層下部	注口土器	口縁部		浮彫的な突起 半浮彫的な文様 ミガキ	IV 2 b
1050	IA 9 j Ⅲ層	注口土器	口縁部		口唇部に浅い刻み 浮彫的な文様	IV 2 b
1051	II A 0 h Ⅲ層中部	注口土器	口～胴		浮彫的な山形突起 半浮彫的な文様	IV 2 b
1052	IB 8 d Ⅲ層	注口土器	口～頸		半浮彫的な文様 ミガキ	IV 2 b
1053	IB 6 i Ⅲ層	注口土器	胴部		半浮彫的な文様	IV 2 b
1054	IB 7 d Ⅲ層	注口土器	肩～底		半浮彫的な文様 注口破損部にアスファルト	IV 2 b
1055	II C 0 g Ⅲ層	注口土器	肩～胴		半浮彫的な羊歯状文と連珠文 ミガキ	IV 2 b
1056	IB 7 d Ⅲ層中～下部	注口土器	胴部		浮彫的な文様 2個一対の小突起と連珠文	IV 2 b
1057	IA 9 h Ⅲ層中部	注口土器	肩部		半浮彫的な文様 円形の小孔(透かし) 浮彫的な突起列 赤色塗彩	IV 2 b
1058	IB 9 a Ⅲ層中部	注口土器	頸～胴		半浮彫的な文様 貼膚 ミガキ	IV 2 b
1059	IB 8 e Ⅲ層中部	注口土器	口～底		半浮彫的な文様 外面ミガキ	IV 2 b
1060	IB 9 d Ⅲ層	香炉?	天井部		太い沈線による三叉文系文様 外面丁寧なミガキ	IV 2 b
1061	II A 0 h Ⅲ層	皿	口～底	L R	浮彫的な突起列 直線の羊歯状文・半浮彫的な磨消縄文・連珠文	IV 3
1062	IC 9 f Ⅲ層	浅鉢	口～胴	L R	口唇部に浮彫的な突起列 沈線区画の磨消縄文 胴部下端面にも沈線	IV 3
1063	IA 9 f Ⅲ層中部	浅鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 沈線区画による半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1064	IA 9 g Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	半浮彫的な突起列と磨消縄文	IV 3
1065	II A 0 e Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 口唇部内側に刻みと小突起 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1066	II A 0 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1067	IA 9 f Ⅲ層	浅鉢	口～底	L R	2個一対の浮彫的な小山形口縁 沈線区画の浮彫的な磨消縄文	IV 3
1068	IA 9 g Ⅲ層	皿?	口～底	L R	浅鉢? 口唇部に浮彫的な突起列 浮彫的な磨消縄文	IV 3
1069	IC 9 f Ⅲ層下部	浅鉢	口～底		口唇部に沈線 半浮彫的な文様 胴部内面に隆帯 赤色塗彩 補修孔	IV 3
1070	II A 0 e Ⅲ層	鉢	口縁部	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩	IV 3
1071	IB 6 i Ⅲ層	浅鉢	口～底	L R	口唇部に浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 底面に施文	IV 3
1072	II A 0 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩	IV 3
1073	IB 7 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1074	IA 9 f Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 口縁内側肥厚 半浮彫的な連珠文と磨消縄文	IV 3
1075	IB 7 b Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に浮彫的な突起と刻み 口縁内側肥厚 連珠文と磨消縄文	IV 3
1076	IB 6 i Ⅲ層下部	浅鉢	口～胴	L R	口唇部に浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1077	II C 4 g Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 0段多条	IV 3
1078	II A 0 d Ⅲ層	浅鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 0段多条 海綿骨針を含む	IV 3
1079	II A 0 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 0段多条	IV 3
1080	II A 0 e Ⅲ層中部	浅鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 口縁部内側に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1081	II A 0 e Ⅳ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1082	IA 9 i Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 口唇部内側に刻みと小突起 磨消縄文 赤色塗彩	IV 3
1083	IB 7 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 口縁部内側に刻みを伴う隆帯 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1084	IB 6 i Ⅲ層	鉢	口～胴		口唇部に浮彫的な突起列 半浮彫的な文様	IV 3
1085	IB 7 e Ⅲ層中部	浅鉢?	口～胴	L R	口唇部に浮彫的な突起列 連珠文と半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1086	IA 9 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 口唇部内側に刻み列 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1087	IA 9 f Ⅲ層	鉢?	口～胴	L R	半浮彫的な突起列 口縁部内外面に連珠文 平行沈線	IV 3
1088	IC 9 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	2個一対のB突起 口縁部内側に連珠文と沈線 連珠文と磨消縄文	IV 3
1089	IA 9 g Ⅲ層上部	鉢	口～胴	L R	口唇部に沈線 半浮彫的な直線的な羊歯状文? と磨消縄文	IV 3
1090	II A 0 d Ⅲ層下部	台付?皿	口～胴	L R	浮彫的な小山形口縁 連続するB突起 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1091	IC 9 f Ⅲ層	浅鉢	口～胴	L R	口唇部に浮彫的な突起列 沈線区画の磨消縄文と平行沈線文	IV 3
1092	II A 0 f Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1093	IB 8 c Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1094	II C 0 g Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 口縁部内側に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1095	IC 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 胴部内面に平行沈線	IV 3
1096	II A 0 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 胴部内面に沈線	IV 3
1097	IA 9 h Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	浮彫的な突起列 口唇部に刻みと小突起 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1098	IA 9 f Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 胴部内面に沈線	IV 3

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1099	ⅡA0hⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩 0段多条	IV 3
1100	ⅠA9fⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 0段多条	IV 3
1101	ⅠB6dⅢ層	浅鉢	口～胴	LR	口唇部に浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩	IV 3
1102	ⅠB6iⅢ層	鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起列 平行沈線と沈線区画の磨消縄文	IV 3
1103	ⅡA0bⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起列と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1104	ⅠA9dⅢ層	鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1105	ⅠA9eⅢ層	鉢	口～胴	LR	口唇部に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1106	ⅡA0jⅢ層下部	鉢	口～胴	LR	口唇部沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1107	ⅡA0hⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	口唇部に沈線 半浮彫的な磨消縄文 胴部内面に沈線	IV 3
1108	ⅠA9eⅢ層	鉢	口～胴	LR	口唇部に刻みと沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1109	ⅠC9eⅢ層	浅鉢	口～胴	LR	2個一対の突起 沈線区画の刺突文(連珠文)と磨消縄文 内側に沈線	IV 3
1110	ⅠB6hⅢ層下部	鉢	口～胴	LR	A突起 口唇部に半浮彫的文様 内側に沈線 磨消縄文 0段多条	IV 3
1111	ⅠC9fⅢ層	鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1112	ⅡA0fⅢ層	鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1113	ⅠC9eⅢ層下部	鉢	口～胴	RL	半浮彫的な連珠文と磨消縄文 0段多条	IV 3
1114	ⅠA9jⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	口唇部上端に刻み(連珠文) 半浮彫的な磨消縄文 0段多条	IV 3
1115	ⅠA9gⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	刻み 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1116	ⅡA0fⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	口唇部に沈線 半浮彫的な磨消縄文 胴部内面に沈線	IV 3
1117	ⅠB7eⅢ層	鉢	口～胴	LR	浮彫的な磨消縄文 0段多条	IV 3
1118	ⅡA0eⅢ層下部	鉢	口～胴	LR	半浮彫的な文様 内外面赤色塗彩 ミガキ	IV 3
1119	ⅠA9fⅢ層	皿	口～底	LR	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 摩耗	IV 3
1120	ⅡA0gⅢ層	鉢	胴～底	LR	半浮彫的な磨消縄文 底面に凹文	IV 3
1121	ⅡA0dⅢ層中部	浅鉢	胴～底	LR	半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩?	IV 3
1122	ⅠB7dⅢ層	鉢	胴～底	RL	沈線区画の磨消縄文 0段多条	IV 3
1123	ⅡA0dⅢ層	浅鉢	胴～底	LR	半浮彫的な磨消縄文 底面内側に浅い沈線	IV 3
1124	ⅠA9eⅢ層	鉢?	胴～底	LR	半浮彫的な磨消縄文 0段多条	IV 3
1125	ⅡA0fⅢ層	浅鉢	胴部～底	LR	半浮彫的な磨消縄文 底面にも施文 内外面赤色塗彩?	IV 3
1126	ⅠB8eⅢ層上部	皿	底部	LR	浅鉢? 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1127	ⅡA0hⅢ層	皿?	底部	RL	半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1128	ⅠA9jⅢ層上部	浅鉢?	胴～底	RL	皿? 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1129	ⅡA0dⅢ層	皿	底部	RL	沈線区画の半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1130	ⅠC9eⅢ層下部	皿?	底部	LR	浅鉢? 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1131	ⅠA9fⅢ層	皿?	底部	LR	楕円形 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1132	ⅡA0dⅢ層中部	高坏	台部		太い沈線による三叉文系文様 丁寧なミガキ 内外面とも赤色塗彩	IV 3
1133	ⅠB8bⅢ層下部	深鉢	口～胴	LR	右下がり短沈線による刻み 直線的な半歯状文 磨消縄文	IV 3
1134	ⅠB6eⅢ層	深鉢	口～底	LR	浮彫的な突起列 平行沈線と刻み列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1135	ⅠC9eⅢ層上部	深鉢	口～胴	LR	2個一対の突起による山形口縁 刻み列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1136	ⅡA0dⅢ層上部	鉢?	口～胴	LR	小山形口縁 半浮彫的な平行沈線と刺突文 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1137	ⅡA0dⅢ層上部	鉢	口～底	LR	浮彫的な突起による小山形口縁 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1138	ⅡA0eⅢ層	鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起列 口縁部内側に浅い沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1139	ⅠB6eⅢ層	鉢	口～胴	LR	小突起と刻み状の小山形口縁 直線的な半歯状文? 磨消縄文	IV 3
1140	ⅡC0eⅢ層上部	鉢	口～胴	LR	小突起と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1141	ⅡA0aⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	刻み列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1142	ⅠB8bⅢ層	鉢	口～胴	LR	沈線区画の刻み列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1143	ⅡA0dⅢ層	鉢	口～胴	LR	連珠文と半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1144	ⅡA0gⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	連珠文と半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1145	ⅠA9jⅢ層中部	深鉢	口～胴	LR	低い突起列 直線的な半歯状文と磨消縄文 補修孔	IV 3
1146	ⅡC1fⅢ層下部	鉢	口～胴	LR	口唇部に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1147	ⅡA0fⅢ層下部	深鉢	胴部	LR	半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1148	ⅡA0fⅢ層	鉢	口～胴	LR	突起状の山形口縁とA突起 平行沈線と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1149	ⅠA9fⅢ層	壺	口～胴	LR	外に張り出す突起列 平行沈線と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1150	ⅡA0fⅢ層中部	壺	口～胴		浮彫的な突起と刻み 口縁内側に沈線平行沈線と刻み	IV 3
1151	ⅡA0fⅢ層中部	鉢	口～胴	LR	口縁部に2個一対の突起列 平行沈線と刻み 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1152	ⅠC8fⅢ層上部	鉢	口～胴	LR	半浮彫的な突起列とA突起 直線的な半歯状文?と磨消縄文	IV 3
1153	ⅠB6jⅢ層	深鉢	口～胴	LR	浮彫的な突起列 平行沈線と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1154	ⅠA9fⅢ層	鉢	口～胴	LR	小山形口縁 口縁部内側に沈線 平行沈線と刻み 磨消縄文 内面ス	IV 3
1155	ⅡA0dⅢ層	鉢	口～胴	LR	半浮彫的な小突起列 口縁部内側に沈線 平行沈線と刻み 磨消縄文	IV 3
1156	ⅡA0dⅢ層	鉢	口～胴	LR	半浮彫的な突起列 口縁部内側に沈線 平行沈線と刻み 磨消縄文 ス	IV 3
1157	ⅡA0fⅢ層	壺	口～胴	LR	口唇部と口縁部内側に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1158	ⅠA9fⅢ層	壺	口～胴	LR	半浮彫的な磨消縄文 口縁部内側に沈線	IV 3
1159	ⅡA0fⅢ層	台付鉢	台部	RL	半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1160	ⅡA0gⅢ層中	鉢	口～胴	LR	右下がり短沈線 刻み 沈線区画による半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1161	ⅠB5hⅢ層下部	鉢	口～胴	LR	B突起列 口唇部に沈線 直線的な半歯状文と半浮彫的な磨消縄文	IV 3

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1162	II A 0 e Ⅱ層	深鉢	口～胴	L R	小山形口縁 平行沈線と刻み(直線的な羊歯状文?) 磨消細文	IV 3
1163	IA 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	小波状口縁 口縁内側に沈線 平行沈線と刻み 磨消細文 内面スス	IV 3
1164	IB 5 h Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	B突起列 内側に沈線 直線的な羊歯状文 磨消細文 内面にスス	IV 3
1165	II A 0 d Ⅱ層	深鉢	口～胴	L R	2個一対の突起列 口縁部内側に沈線 刺突列と突起 磨消細文	IV 3
1166	IA 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	突起列 口縁内側に沈線 平行沈線と刺突列 半浮彫的な磨消細文	IV 3
1167	IA 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	B突起?列 口縁内側に沈線 平行沈線と刻み 半浮彫的な磨消細文	IV 3
1168	IA 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	小突起 平行沈線と刻み(直線的な羊歯状文?) 半浮彫的な磨消細文	IV 3
1169	IB 6 h Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R	小突起と刻み状の小山形口縁 直線的な羊歯状文 磨消細文	IV 3
1170	IB 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	2個一対の小突起と刻み 内側沈線 刻み列 磨消細文 内外面にスス	IV 3
1171	IB 7 d Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小突起と刻み 直線的な羊歯状文と半浮彫的な磨消細文 内外面にスス	IV 3
1172	IC 9 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	内側肥厚の小波状口縁 直線的な羊歯状文?と半浮彫的な磨消細文	IV 3
1173	II A 0 e Ⅱ層中部	鉢	口～胴	L R	連珠文と直線的な羊歯状文 半浮彫的な磨消細文 0段多条	IV 3
1174	IB 6 i Ⅲ層最下部	深鉢	胴部		平行沈線と入組文風の三叉文系文様(北陸・中屋敷系土器?)	IV 3
1175	II A 0 d Ⅲ層上部	深鉢	口～底	L R	小山形口縁 直線的な羊歯状文とB突起 平行沈線文 内外面にスス	IV 3
1176	II A 0 g Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列と刻み 直線的な羊歯状文と平行沈線	IV 3
1177	IA 9 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	半浮彫的な突起列 平行沈線と刻み(直線的な羊歯状文?)	IV 3
1178	IA 9 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	刻みをもつ小突起列(小山形口縁) 平行沈線と刻み(細線)列	IV 3
1179	IA 9 f Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	小山形口縁 直線的な羊歯状文と平行沈線 0段多条	IV 3
1180	IB 8 c Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	小山形口縁 直線的な羊歯状文と平行沈線	IV 3
1181	IB 8 c Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R	刻み状の突起列 連珠文と平行沈線	IV 3
1182	IB 8 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	連珠文と平行沈線(直線的な羊歯状文?) 円形の小刺突	IV 3
1183	II A 0 i Ⅲ層上部	鉢	口～胴	L R	小突起列 平行沈線と刻み(直線的な羊歯状文?)	IV 3
1184	II B 0 a Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	突起状の小山形口縁 直線的な羊歯状文?	IV 3
1185	IB 8 c Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	突起列 平行沈線と直線的な羊歯状文 赤色塗彩?	IV 3
1186	IA 8 j Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起 半浮彫的な表現の直線的な羊歯状文	IV 3
1187	IA 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	2個一対の突起列 直線的な羊歯状文と平行沈線 内外面にスス	IV 3
1188	IB区0層	鉢	口～胴	L R	B突起と刻み 直線的な羊歯状文と平行沈線 0段多条	IV 3
1189	IA 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	B突起と小山形口縁 平行沈線と刻み(直線的な羊歯状文?) スス	IV 3
1190	IB 7 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	小山形口縁 直線的な羊歯状文 内面にスス	IV 3
1191	IB 6 h Ⅲ層最下部	深鉢	口～胴	L R	口唇部に浮彫的な文様 直線的な羊歯状文と平行沈線 小突起	IV 3
1192	II A 0 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 平行沈線と刻み列 2個一対の突起 外面にスス	IV 3
1193	II A 0 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	小山形口縁 平行沈線と刻み? 小突起	IV 3
1194	II A 0 d Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R	小山形口縁 連珠文 補修孔	IV 3
1195	II C 4 g Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	小山形口縁 半浮彫的な連珠文と平行沈線	IV 3
1196	IB 7 c Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	B突起 雑な連珠文と平行沈線	IV 3
1197	II A 0 d Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	山形口縁 弧状・平行沈線と刻み状の刺突文 口縁にスス	IV 3
1198	II A 0 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	B突起列 口縁内側に沈線 平行沈線と刺突文 内外面にスス	IV 3
1199	IA 9 f Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R	小波状口縁 半浮彫的な連珠文と平行沈線	IV 3
1200	IC 8 e Ⅲ層	鉢	口～底	R L	口唇部に刻み 細い沈線文 底面にも沈線	IV 3
1201	IB 8 d Ⅲ層	深鉢	口～底	L R・R L	口唇部に半浮彫的な文様 沈線区画の刻み列と平行沈線 合海綿骨針	IV 3
1202	IA 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R・R L	低い波状口縁 平行沈線と細い刻み 羽状細文 補修孔	IV 3
1203	II C 3 g Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	L R・R L	小波状口縁 平行沈線と刻み列 羽状細文	IV 3
1204	IA 9 h Ⅲ層中部	鉢	口～底	L R	3個一対の小突起による山形口縁 平行沈線文	IV 3
1205	IA 9 g Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み 右下がりの区画沈線 平行沈線文 内外面にスス付着	IV 3
1206	IA 9 f Ⅲ層下部	鉢	口～底	L R	小山形口縁 平行沈線文	IV 3
1207	II A 0 g Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	低い小波状口縁 平行沈線 0段多条	IV 3
1208	IB 8 e Ⅲ層	深鉢	口～底	L R	緩い山形口縁 口縁部沈線区画で無文	IV 3
1209	IC 8 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R・R L	刻み状の小山形口縁 平行沈線文 羽状細文	IV 3
1210	IC 8 e Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R・R L	刻み状の小山形口縁 平行沈線文 羽状細文	IV 3
1211	II A 0 e Ⅲ層中部	鉢	口～底		刻み状の小山形口縁 細い沈線文様	IV 3
1212	IC 8 e Ⅲ層	深鉢	口～底	L R	刻み状の小山形口縁 平行沈線文	IV 3
1213	IC 8 e Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	L R	刻み状の鋸歯状口縁 平行沈線文 口縁部内外面にスス付着	IV 3
1214	IC 8 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	壺? 口唇部に刻み 口縁部内側に沈線 平行沈線	IV 3
1215	IC 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部と口縁部内側に沈線 A突起と小突起 沈線文 2種類の原体	IV 3
1216	II A 0 f Ⅲ層	台付鉢	口～台	L R	連続するB突起による小山形口縁 平行沈線文	IV 3
1217	II C 1 g Ⅲ層	台付鉢	口～底	L R	刻み状の山形口縁 平行沈線文	IV 3
1218	IB 6 e Ⅲ層	台付鉢	胴～台	L R	雑な沈線文	IV 3
1219	IB区Ⅲ層	台付鉢	胴～台	L R	地文のみ 台部無文	IV 3
1220	IA 9 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	2個一対の山形突起 右下り短沈線と平行沈線 刻み状の連続刺突文	IV 3
1221	IB 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	B突起 弧状沈線と平行沈線 0段多条	IV 3
1222	IA 9 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	小山形口縁 弧状沈線文 外面にスス	IV 3
1223	IA 9 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小山形口縁 右下がり短沈線 平行沈線文と連珠文	IV 3
1224	IC 9 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	小波状口縁 直線的な羊歯状文(連珠文?) 平行沈線文 0段多条?	IV 3

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1225	I B 6 i Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	RL	刻み状の小山形口縁 弧状沈線文と平行沈線文	IV 3
1226	II A 0 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	RL	小波状口縁 弧状・平行短沈線と平行沈線文	IV 3
1227	II A 0 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	刻み状と小山形口縁 刺突状の弧状沈線と平行沈線文	IV 3
1228	I A 9 h Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	RL	小山形口縁 右下がり横走短沈線と平行沈線文	IV 3
1229	II A 0 d Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	小山形口縁 右下がり短沈線（弧状沈線）と平行沈線	IV 3
1230	II A 0 e～c Ⅲ層	深鉢	口～胴	RL	小山形口縁 右下がり短沈線（弧状沈線）と平行沈線	IV 3
1231	I C 8 e Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	LR	刻み状の小山形口縁 2個一対の山形突起 平行沈線文	IV 3
1232	II A 0 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	小山形口縁 平行沈線文	IV 3
1233	I C 8 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR・RL	刻み状の小山形口縁 平行沈線文 羽状縄文	IV 3
1234	I B 7 c Ⅲ層	鉢	口～底	LR	平行沈線	IV 3
1235	I B 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	口唇部に刻み 平行沈線 内外面にスス	IV 3
1236	II C 0 g Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	雑な沈線文 外面にスス	IV 3
1237	I C 9 f Ⅲ層	壺	口～胴	LR	浮彫的な突起と沈線 半浮彫的な連珠文と磨消縄文 突起	IV 3
1238	I C 9 e Ⅲ層上部	壺	口～胴	LR	4単位のB突起 沈線区画の刻み列と磨消縄文	IV 3
1239	I C 9 f Ⅲ層	壺?	胴～底	LR	鉢? 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1240	I A 9 e Ⅲ層上部	壺	口～底		2個一対の低い突起(4単位) 連珠文と小突起 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1241	II C 0 g Ⅲ層	壺	口～胴	LR	浮彫的な突起列 半浮彫的な羊歯状文と磨消縄文	IV 3
1242	I B 区 0 層	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文 赤色塗彩 0段多条	IV 3
1243	I B 9 c Ⅲ層中部	壺	胴部	LR	半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1244	I B 8 c Ⅲ層	壺?	胴部	LR	半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1245	I B 6 f Ⅲ層	壺	胴部	LR	半浮彫的な磨消縄文 0段多条	IV 3
1246	II A 0 d Ⅲ層	壺	胴部	LR	連珠文 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1247	I C 9 e Ⅲ層	壺	胴部		半浮彫的な文様 赤色塗彩 ミガキ	IV 3
1248	II A 0 f Ⅲ層	壺	口～底		浮彫的文様 隆帯と小突起 赤色塗彩	IV 3
1249	I B 8 c Ⅲ層	壺	胴～底	LR	沈線による半浮彫的な磨消縄文 平行沈線文	IV 3
1250	I C 8 e Ⅲ層	壺	頸～胴		胴部上端に浮彫的な突起列 刻み列 半浮彫的な文様 赤色塗彩	IV 3
1251	II A 0 g Ⅲ層中部	壺	口～頸		太い隆帯による波状・台状突起	IV 3
1252	I A 9 f Ⅲ層	壺	口～頸		正面に浮彫的な突起	IV 3
1253	I A 9 j Ⅲ層中部	壺	口～胴	LR	浮彫的な突起 平行沈線文	IV 3
1254	I C 8 e Ⅲ層上部	壺	口～底	LR・RL	口唇部に沈線 頸部に平行沈線 胴部に穿孔? 羽状縄文	IV 3
1255	I C 8 e Ⅲ層	壺	口～胴	LR	頸部に平行沈線文	IV 3
1256	I C 8 e Ⅲ層	壺	口～胴	RL	頸部下端に沈線 口縁部～頸部無文	IV 3
1257	II A 0 h Ⅲ層中部	壺	口～胴	LR	口縁部無文 地文のみ	IV 3
1258	I A 9 i Ⅲ層	壺	口～胴	LR	地文のみ 口縁部～頸部無文	IV 3
1259	II A 0 f Ⅲ層	壺	口～底	L	口縁部～頸部無文 地文のみ	IV 3
1260	I A 9 h Ⅲ層中部	壺	口～底	LR?	豆粒状の貼付文 口縁部無文 赤色塗彩	IV 3
1261	I C 8 e Ⅲ層中部	壺	胴～底	LR	鉢? 地文のみ 口縁部無文	IV 3
1262	I A 9 i Ⅲ層	壺	口～胴		沈線区画の刺突列 ミガキ	IV 3
1263	I C 9 e Ⅲ層上部	壺	頸～胴		2個一対の小突起が付く隆帯による文様 赤色塗彩	IV 3
1264	I C 9 e Ⅲ層上部	壺	頸～胴		細い隆帯と浮彫的な突起 雑なミガキ 赤色塗彩	IV 3
1265	II A 0 e Ⅲ層下部	壺	頸～胴		無文 全体にミガキ 頸部にスス付着	IV 3
1266	I C 9 f Ⅲ層	壺	口～底		無文 丁寧なミガキ	IV 3
1267	I B 8 d Ⅲ層中部	壺	口～底		無文 全面丁寧なミガキ 低い4脚 胴部に穿孔?	IV 3
1268	I A 9 e Ⅲ層	壺	口～胴		内外面とも丁寧なミガキ 口縁部と頸部に沈線 内外面とも赤色塗彩	IV 3
1269	I B 8 d Ⅲ層中部	壺	口～底		無文 全体に丁寧なミガキ 胴部に穿孔?	IV 3
1270	I A 9 j Ⅲ層	壺	口～胴		2個一対の小突起 無文 頸部に不明瞭な沈線? ミガキ	IV 3
1271	I B 9 a Ⅲ層中部	壺	口～胴		無文 丁寧なミガキ 赤色塗彩	IV 3
1272	I C 8 e Ⅲ層中部	壺?	胴～底		底面に凹文 低い四脚 外面ミガキ 赤色塗彩	IV 3
1273	I C 9 e Ⅲ層	壺	胴～底		無文 雑なミガキ	IV 1 b
1274	II C 4 g Ⅲ層	注口土器	口～胴	LR	口縁部と胴部上端に浮彫的な突起列 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1275	II A 0 d Ⅲ層	注口土器	口～胴		無文 内外面とも雑なミガキ	IV 3
1276	II A 0 e Ⅲ層中部	注口土器	口～肩	LR	半浮彫的な突起列 半浮彫的な連珠文と磨消縄文	IV 3
1277	I A 9 j Ⅲ層中部	注口土器	口～胴	LR?	口唇部と胴部上端に浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩	IV 3
1278	I A 9 g Ⅲ層上部	注口土器	口～肩	LR	浮彫的な突起と刻み 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩	IV 3
1279	II A 0 e Ⅲ層	注口土器	口縁部	LR	口唇部に浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1280	II A 0 e Ⅲ層	注口土器	口～肩	LR	半浮彫的な突起列と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1281	I B 6 f Ⅲ層	注口土器	口縁部	LR	口縁部に浮彫的な突起と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1282	II C 0 g Ⅲ層	注口土器	口～肩	LR	浮彫的な突起列 半浮彫的な連珠文と磨消縄文	IV 3
1283	I B 6 j Ⅲ層下部	注口土器	口～頸	LR	口唇部に半浮彫的な文様と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1284	II A 0 h Ⅲ層中部	注口土器	胴部	LR	小突起を伴う隆帯 貫通孔をもつ突起 磨消縄文 赤色塗彩	IV 3
1285	I A 9 f Ⅲ層	注口土器	肩～胴	LR	半浮彫的な磨消縄文と突起	IV 3
1286	I A 0 e Ⅲ層	注口土器	胴部	LR	胴部上端に浮彫的な刺突列 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1287	I B 6 f Ⅲ層	注口土器	胴部	LR	胴部上端に浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1288	I A 9 g Ⅲ層中部	注口土器	肩～胴	L R	胴部上端に半浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1289	Ⅱ A 0 d Ⅲ層	注口土器	肩～胴	L R	胴部上端に浮彫的な突起列と刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 3
1290	I A 9 g Ⅲ層	注口土器	胴部	L R	胴部上端に浮彫的な突起列 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1291	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	注口土器	胴～底	L R	肩部に刻みと小山形の連続 沈線区画の磨消縄文	IV 3
1292	Ⅱ A 0 e Ⅲ層	注口土器	胴部	L R	胴部上端に浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 外面にスス	IV 3
1293	I B 7 d Ⅲ層	注口土器	胴部		平行沈線と連珠文 浮彫的曲線文 胴部中央に浮彫的突起列	IV 3
1294	I A 9 g Ⅲ層	注口土器	肩～胴		連珠文と半浮彫的な文様 胴部上端に浮彫的な突起と刺突列 ミガキ	IV 3
1295	I C 8 e Ⅲ層下部	香炉	胴～台	L R	浮彫的な突起列と文様 台部に透かし文 赤色塗彩	IV 3
1296	Ⅱ A 0 e Ⅲ層中部	香炉?	胴部	L R	2個一対の浮彫的な突起とB突起 連珠文	IV 4
1297	I B 8 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 胴部内面に沈線?	IV 4
1298	Ⅱ A 0 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1299	I A 9 g Ⅲ層上部	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 口縁内側に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1300	I C 8 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	半浮彫的な突起列 口唇部内側に刻み 磨消縄文 胴部内面に縄文帯	IV 4
1301	I B 9 a Ⅲ層	鉢	口～底	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 底部上げ底?	IV 4
1302	I A 9 i Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列と刻み 磨消縄文 内側に縄文帯 補修孔 含海綿骨針	IV 4
1303	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 沈線区画の磨消縄文 胴部内面に縄文帯 外面スス	IV 4
1304	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1305	Ⅱ A 0 i Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列 沈線区画の磨消縄文 胴部内面に縄文帯 0段多条	IV 4
1306	I B 7 0 Ⅲ層	鉢	口～胴	L R ?	大小の突起 口唇部に沈線 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1307	I A 9 f Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R	浮彫的な突起列と外に張り出す突起 刺突列 磨消縄文 内外面スス	IV 4
1308	I C 8 f Ⅲ層	浅鉢	口～底	L R	山形突起 平行沈線と曲線文 胴部下端～底部はミガキ	IV 4
1309	I C 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	2個一対の突起 口唇部と口縁内側に沈線 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1310	I C 8 e Ⅲ層上部	浅鉢	口～胴	L R	大小の突起による波状口縁 口唇部に刻み 磨消縄文 内面に縄文帯	IV 4
1311	I C 8 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	2個一対の突起による山形口縁 口唇部に刻み 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1312	I C 8 e Ⅲ層	浅鉢	口～胴	R L	2個一対の突起 口唇部に刻み 沈線区画の磨消縄文 口縁内側沈線	IV 4
1313	I C 9 e Ⅲ層	浅鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み A・B突起 沈線区画の磨消縄文 口縁内側に沈線	IV 4
1314	I B 9 a Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	口唇部に沈線と刻み A突起 内側に沈線 沈線区画の磨消?縄文	IV 4
1315	I B 7 0 Ⅲ層	鉢	口縁部	L R	A突起 口唇部に沈線と波状の浮彫 平行沈線 赤色塗彩	IV 4
1316	I B 8 h Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	A突起と外に張り出すB突起 口唇部に刻みと沈線 磨消縄文 0段多条	IV 4
1317	I B 6 i Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み・内側に沈線 B突起 平行沈線と沈線区画の磨消縄文	IV 4
1318	I C 8 e Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R	小突起と刻み 口縁内側に沈線 低い隆帯と半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1319	I B 8 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻みと沈線 口縁内側に沈線 B突起 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1320	I B 8 d Ⅲ層中部	浅鉢	口～底	L R	2個一対の突起 口唇部に刻みと沈線 内側沈線 磨消縄文?	IV 4
1321	I B 8 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻みと沈線 低いA突起 口縁内側に段 磨消縄文 外面スス	IV 4
1322	I B 8 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部内削ぎ 浮彫的な突起と文様 連珠文と沈線区画の磨消縄文	IV 4
1323	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻みと沈線 頂部が凹む小突起 磨消縄文 内面にも縄文帯	IV 4
1324	I B 5 h Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に半浮彫的な文様 半浮彫的な磨消縄文 内面に縄文帯 補修孔	IV 4
1325	I C 9 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1326	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L ?	口唇部に刻み 突起? 口縁部と胴部内面に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1327	I B 8 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み 口縁部内側に沈線 沈線区画の磨消縄文 0段多条?	IV 4
1328	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	低い突起と刻み状の小波状口縁 口縁内側に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1329	I C 9 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	小突起と刻み 口縁部内側に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1330	I A 9 g Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部(口縁部上端)に刻み 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1331	Ⅱ A 0 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	刺突列と平行沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1332	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	2個一対の小突起 口唇部と口縁内側に沈線 平行沈線と磨消縄文	IV 4
1333	I C 8 f Ⅲ層上部	鉢	口～胴	L R	口唇部と口縁内側に沈線 A突起と小突起 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1334	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	2個一対の小突起と小波状口縁 口縁内側沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1335	Ⅱ A 0 c Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R	口唇部肥厚 上端に沈線 沈線区画の磨消縄文 内外面赤色塗彩?	IV 4
1336	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	口唇部に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1337	I C 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部と口縁内側に沈線 2個一対の小突起 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1338	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に破線状の沈線 半浮彫的な磨消縄文 胴部内面に縄文帯	IV 4
1339	I B 8 d Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	口唇部に沈線 半浮彫的な磨消(充填)縄文	IV 4
1340	Ⅱ A 0 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1341	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	2個一対の小突起と刻み 口縁部内側に沈線 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1342	I B 8 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み 口縁内側に沈線 沈線区画の磨消縄文(変形工字文)	IV 4
1343	I A 9 g Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	沈線区画の刻み列 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1344	I C 8 d Ⅲ層	浅鉢	口～底	L R	沈線と突起と伴う隆帯 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1345	I C 7 d Ⅲ層下部	浅鉢	口～底	L R	沈線とB突起を伴う低い隆帯 沈線による曲線文	IV 4
1346	I A 9 e Ⅲ層上部	鉢	口～胴	L R	B突起と刻み 口縁内側に沈線 沈線と突起を伴う隆帯 磨消縄文	IV 4
1347	I C 8 e Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R	口縁部内側に沈線 突起と沈線を伴う隆帯 磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1348	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	山形口縁 口唇部と口縁内側に沈線 沈線と突起を伴う隆帯 磨消縄文	IV 4
1349	Ⅱ A 0 h Ⅲ層	浅鉢	胴～底	L R	半浮彫的な磨消縄文 底面内側に段 内外面赤色塗彩	IV 4
1350	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	鉢	口～底	L R・R L	刻みと刺突文 平行沈線文 羽状縄文	IV 4

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1351	I C 8 e Ⅲ層下部	壺	□～底	L R	□唇部に刻み 平行沈線と刺突状の刻み 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1352	I C 9 e Ⅲ層	鉢	□～底	L R	□唇部に浮彫状の小突起 沈線区画の連珠文と磨消縄文	IV 4
1353	II A 0 f Ⅲ層	深鉢	□～底	L R	大小の突起 沈線区画の刻み列(連珠文) 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1354	I C 8 f Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻みとB突起 沈線区画の刺突文と磨消縄文	IV 4
1355	I C 8 e Ⅲ層下部	鉢	□～胴	L R	□唇部に沈線と刻み 平行沈線と刺突列 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1356	I B 6 j Ⅲ層	鉢	□～底	L R	平行沈線と刻み 沈線区画の磨消縄文と平行沈線 底面ミガキ	IV 4
1357	I C 9 e Ⅲ層	深鉢	□～胴	L R	浮彫的な突起による小山形口縁 小突起 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1358	I C 8 d Ⅲ層上部	鉢	□～胴	L R	□唇部～口縁部に浮彫的突起列 平行沈線と刻み 磨消縄文	IV 4
1359	I C 9 f Ⅲ層	深鉢	□～胴	L R	浮彫的な突起列 沈線区画の刺突列 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1360	I A 9 e Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	突起列 口縁内側沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1361	I C 9 e Ⅲ層上部	深鉢	□～胴	L R	浮彫的な突起列 半浮彫的な磨消縄文 内外面にスス	IV 4
1362	I C 9 e Ⅲ層	鉢	□～胴	R L	浮彫的な小突起列 半浮彫的な磨消縄文 外面にスス	IV 4
1363	I B 8 d Ⅲ層上部	鉢	□～胴	R L	□唇部と口縁内側に沈線 A突起とB突起 磨消縄文 0段多条	IV 4
1364	I C 8 e Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	刻みと大小の突起列 刻み列と小突起 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1365	I A 9 g Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	浮彫的な突起列 平行沈線と突起 半浮彫的な磨消縄文 0段多条?	IV 4
1366	I B 7 f Ⅲ層	深鉢	□～胴	L R	A・B突起列 沈線区画の刻み列 沈線区画文	IV 4
1367	I C 8 e Ⅲ層中部	鉢	□～胴	L R	刻み状の小山形口縁と4単位の突起 磨消縄文 内面にスス付着	IV 4
1368	I C 8 e Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	刻み状の小山形口縁 3個一対の突起 刺突列 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1369	I C 8 f Ⅲ層上部	台付鉢	□～台	L R	山形突起(8単位)とA突起(4単位) 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1370	I C 8 e Ⅲ層中部	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 沈線区画の刻み列	IV 4
1371	I C 8 e Ⅲ層中部	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 口縁部内側に沈線 突起と沈線を伴う隆帯 磨消縄文	IV 4
1372	I C 7 e Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 口縁部内側に沈線 沈線区画の磨消縄文 0段多条	IV 4
1373	I C 9 e Ⅲ層上部	深鉢	□～胴	L	2個一対の突起による山形口縁 刻み列 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1374	I C 8 e Ⅲ層中部	鉢	□～胴	L R	小山形口縁 口縁内側に沈線 半浮彫的な連珠文と磨消縄文 内スス	IV 4
1375	II 0 f Ⅲ層	深鉢	□～胴	L R	小波状口縁 半浮彫的な磨消縄文 外面にスス	IV 4
1376	I C 8 e Ⅲ層上部	鉢	□～胴	L R	□唇部に沈線 浮彫的な突起 半浮彫的な文様 赤色塗彩	IV 4
1377	I A 9 g Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に浅い刻み 平行沈線と沈線区画の半浮彫的磨消縄文	IV 4
1378	I C 8 e Ⅲ層最下部	鉢	□～胴	L R	2個一対の小突起と刻み 平行沈線と沈線区画の磨消縄文 内外スス	IV 4
1379	I C 8 d Ⅲ層下部	鉢	□～胴	R L	□唇部に刻み 口縁部内側に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1380	I C 8 e Ⅲ層上部	鉢	□～胴	L R	小突起 □唇部に刻みと沈線 口縁内側に沈線 磨消縄文 補修孔	IV 4
1381	I B 8 e Ⅲ層	深鉢	□～胴	L R	□唇部に沈線と刻み 突起? 沈線区画の充填縄文 0段多条	IV 4
1382	I B 6 h Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に沈線と刻み 内側に沈線 平行沈線と沈線区画の磨消縄文	IV 4
1383	II A 1 g Ⅲ層中部	鉢	□～胴	L R	2個一対の小突起 連珠文? 半浮彫的な磨消縄文 内面にスス	IV 4
1384	I B 6 i Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	刻み状の小山形口縁 沈線区画の磨消縄文 内外面にスス	IV 4
1385	II A 0 f Ⅲ層中部	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 刻みを伴う隆帯 半浮彫的な磨消縄文 内面にスス	IV 4
1386	I C 8 f Ⅲ層中部	鉢	□～底	L R	□唇部に刻み B突起 浮彫的沈線 沈線区画の磨消縄文 補修孔	IV 4
1387	I B 8 e Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	B突起 □唇部に刻み内側に沈線 沈線区画の磨消縄文?	IV 4
1388	I B 8 d Ⅲ層中部	鉢	□～胴	R L	□唇部に刻み 刻みと刺突を伴う低い隆帯 磨消縄文 0段多条 スス	IV 4
1389	I C 9 f Ⅲ層	鉢	□～胴	R L	□唇部に刻みとB突起 平行沈線文と沈線区画の磨消縄文	IV 4
1390	I B 8 d Ⅲ層最下部	深鉢	□～胴	L R	□唇部にB突起と刻み 内側沈線 平行沈線と小突起 磨消縄文	IV 4
1391	I B 8 c Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻みと小突起 平行沈線文と沈線区画の磨消縄文 内外スス	IV 4
1392	I B 8 e Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	B突起 □唇部に刻み 内側に沈線 2個一対の小突起と磨消縄文	IV 4
1393	I B 8 f Ⅲ層	深鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 内側に沈線 浮彫的文様をもつ角状突起 磨消縄文	IV 4
1394	I A 9 j Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 口縁内側に沈線 磨消縄文と小突起 0段多条 内スス	IV 4
1395	I C 8 d Ⅲ層	鉢	□～胴	R L	□唇部に刻み 口縁内側に沈線 突起を伴う低い隆帯 磨消縄文 スス	IV 4
1396	I B 8 e Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	B突起 □唇部に刻み 内側沈線 小突起と沈線を伴う隆帯 磨消縄文	IV 4
1397	I C 8 e Ⅲ層下部	鉢	□～胴	L R	小突起と刻み 口縁内側に沈線 突起を伴う隆帯 半浮彫的磨消縄文	IV 4
1398	I B 8 e Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻みと沈線 B突起 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1399	I B 9 a Ⅲ層上部	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 沈線と突起を伴う低い隆帯 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1400	I B 5 j Ⅲ層	鉢	□～胴	L R ?	□唇部に刻み 口縁部内側に沈線 突起と沈線を伴う隆帯 磨消縄文	IV 4
1401	I B 9 a Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 2個一対の突起 口縁内側に沈線 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1402	II C 2 g Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部内側に沈線 突起? 沈線と突起を伴う隆帯 磨消縄文 内スス	IV 4
1403	I C 8 f Ⅲ層上部	鉢	□～胴	L R	口縁部内側に沈線 突起と沈線を伴う隆帯 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1404	I B 8 c Ⅲ層	深鉢	□～胴	L R	B突起と刻み列 突起と沈線を伴う低い隆帯 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1405	I B 8 f 0 Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 口縁部内側に沈線 小突起を伴う隆帯 磨消縄文	IV 4
1406	I A 9 f Ⅲ層中部	鉢	□～胴	L R	小突起 □唇部に刻み 口縁内側に沈線 小突起と伴う隆帯 磨消縄文	IV 4
1407	I C 9 f Ⅲ層	深鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 口縁部内側に平行沈線 平行沈線と突起 磨消縄文	IV 4
1408	I C 9 f Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	小突起と刻み 口縁内側に沈線 沈線と小突起を伴う隆帯 磨消縄文	IV 4
1409	I B 7 d Ⅲ層上部	鉢	□～胴	L R	2個一対の突起と刻み列 沈線区画の磨消縄文(変形工字文)	IV 4
1410	I B 8 a Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	沈線と突起を伴う低い隆帯 口縁内側に沈線 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1411	I C 9 f Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	□唇部に刻み 口縁内側に沈線 突起と沈線を伴う隆帯 磨消縄文	IV 4
1412	I B 6 c Ⅲ層	鉢	□～胴	L R	沈線と突起を伴う低い隆帯 口縁内側に沈線 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1413	I A 9 j Ⅲ層最下部	鉢	□～胴	L R	小突起 刻みと沈線・突起を伴う隆帯 磨消縄文 内外にスス	IV 4

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1414	I B 9 a Ⅲ層上部	口～胴	L		口唇部に刻み 頂部に刻みをもつ低い隆帯 沈線による変形工字文	IV 4
1415	I B 7 e Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	口唇部に刻みと沈線 太い沈線による変形工字文 磨消縄文 外面ス	IV 4
1416	I C 9 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み半浮彫的な沈線文 突起? 0段多条	IV 4
1417	I C 8 e Ⅲ層上部	鉢	口～胴		口唇部に刻み 沈線による曲線文	IV 4
1418	I C 8 e Ⅲ層下部	鉢	口～胴		B突起?と刻み 半浮彫的な渦巻系文様 外面にス	IV 4
1419	I A 9 i Ⅲ層細分	深鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み 山形突起 沈線による屈曲文 平行沈線文	IV 4
1420	Ⅱ C 0 f Ⅲ層	鉢	胴部	L R	連続文と磨消?縄文	IV 4
1421	I B 8 c Ⅲ層	深鉢	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文	IV 4
1422	I B 5 f Ⅲ層	深鉢?	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文	IV 4
1423	I B 8 e Ⅲ層最下部	台付鉢	胴～台	L R	沈線による曲線文	IV 4
1424	I B 6 i Ⅲ層	鉢	口～底	L R	口唇部に沈線と刻み 刻み列と平行沈線文 補修孔	IV 4
1425	I C 9 f Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	L R・R L	小波状口縁 口縁部内側に沈線 刻み列と平行沈線 内外面にス	IV 4
1426	I B 5 j Ⅲ層	鉢	口～底	L R	大小の山形突起 平行沈線と刺突列	IV 4
1427	I B 9 c Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	波状口縁 内側に沈線 平行沈線と刺突列 内外面にス	IV 4
1428	I C 8 f Ⅲ層	鉢	口～底	L R	2個一対のB突起 口唇部に刻み 平行沈線と連続刺突文	IV 4
1429	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～底	L R	8単位の山形突起 口唇部に刻み 平行沈線と刺突状の刻み列	IV 4
1430	I C 8 e Ⅲ層中部	深鉢	口～底	L R	口唇部に刻み 8単位の山形突起 平行沈線文 口縁内側に沈線	IV 4
1431	I B 8 e Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R・R L	A・B突起 口唇部に刻み 口縁内側に沈線 刻み列 内面にス	IV 4
1432	I C 8 e Ⅲ層中部	深鉢	口～底	R L	口唇部に刻みと小突起 平行沈線と刺突列 胴部上端にも小突起	IV 4
1433	I C 8 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	口唇部に刻みと低い突起 平行沈線文刺突列	IV 4
1434	I B 7 e Ⅲ層上～中部	鉢?	口～胴	L R?	刻み状の小山形口縁 平行沈線と連続刻み文	IV 4
1435	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	口唇部に沈線と刻み A突起とB突起 平行沈線と刻み列 補修孔	IV 4
1436	I A 9 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R・R L	小突起と刻み状の小山形口縁 沈線区画の刻み列 含海綿骨針	IV 4
1437	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R・R L	口唇部に刻みと沈線 A突起と小突起 平行沈線と刻み列 内外ス	IV 4
1438	Ⅱ A 0 i Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	L R	凹みをもつ山形突起と刻み 口縁内側に沈線 平行沈線と刺突列	IV 4
1439	I C 8 e Ⅲ層最下部	鉢	口～胴	L R	2個一対の小突起 口唇部に刻みと沈線 平行沈線と刻み列	IV 4
1440	I C 8 e Ⅲ層最下部	鉢	口～胴	R L	口唇部に刻みと沈線 2個一対の浮彫的小突起 平行沈線と刻み列	IV 4
1441	I B 8 d Ⅲ層	深鉢	口～底	R L	2個一対の小突起と刻み 口唇部に刻みと沈線 平行沈線と刻み列	IV 4
1442	I B 6 i Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	小山形口縁 沈線区画の刻み列と平行沈線文 胎土に海綿骨針	IV 4
1443	I A 9 h Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	R L	口唇部に刻みと小突起 口縁部内側に沈線 平行沈線	IV 4
1444	I C 7 d Ⅲ層上部	鉢	口～底	L R	口唇部に刻み 平行沈線文と刺突列 口縁内側に沈線	IV 4
1445	I C 8 e Ⅲ層最下部	鉢	口～底	L R・R L	口唇部に刻み 上端部に沈線 平行沈線と刺突列 羽状縄文	IV 4
1446	I C 9 e Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R・R L	口唇部に刻み平行沈文と刺突列 口縁内側に沈線 羽状縄文	IV 4
1447	I C 9 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	刻み状の小山形口縁 平行沈線文と刺突列	IV 4
1448	I C 8 e Ⅲ層中部	深鉢	口～底	L R	口唇部に刻み 平行沈線と刺突列 口縁内側に沈線	IV 4
1449	I C 8 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	R L	口唇部に刻み 平行沈線と刻み列	IV 4
1450	I C 8 e Ⅲ層	深鉢	口～底	L R	口唇部に刻み 平行沈線と刻み状の刺突列 口縁内側に沈線	IV 4
1451	I C 8 e Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み平行沈文と刺突列 口唇内側に沈線 内面にス付着	IV 4
1452	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R・R L	口唇部に刻み 平行沈線文と刻み状の刺突列 口縁内側に沈線	IV 4
1453	I B 6 j Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み 平行沈線と刻み列	IV 4
1454	I C 9 f Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み 平行沈線と刺突列	IV 4
1455	I B 6 j Ⅲ層	鉢	口～胴	L R・R L	口唇部に刻み列 平行沈線と連続刺突文(刻み列) 羽状縄文	IV 4
1456	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	口唇部に浅い刻み 平行沈線と刺突文 胴部上端にB突起 補修孔	IV 4
1457	I C 8 e Ⅲ層下部	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻みと沈線 平行沈線と刻み列	IV 4
1458	I B 8 c Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み 内側に沈線 平行沈線と刺突列 内面にス	IV 4
1459	I C 8 e Ⅲ層中部	鉢	口～胴	R L	口唇部に刻みと沈線 平行沈線と刻み列	IV 4
1460	I C 9 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	刻み状の小山形口縁 平行沈線と刺突列	IV 4
1461	I A 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に沈線と刻み 平行沈線と刺突(刻み)列 外面にス	IV 4
1462	I B 5 j Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	刻み状の小山形口縁 沈線と刻み列 口縁内側に沈線 小突起	IV 4
1463	Ⅱ A 0 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻みと平行沈線と刻み列 内面にス	IV 4
1464	I C 9 e Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	口唇部に刻みと沈線 平行沈線と刻み列 0段多条	IV 4
1465	I C 9 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻みと沈線 細線的な刻み列と平行沈線	IV 4
1466	I C 8 d Ⅲ層	鉢	口～胴	L R	口唇部に刻み 口縁部内側に沈線 細線状の刻みと平行沈線	IV 4
1467	I B 8 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	口唇部に刻みと沈線 平行沈線と刺突列	IV 4
1468	I C 8 e Ⅲ層中部	深鉢	口～底	L R	2個一対の小突起(4単位) 口唇部に刻み 平行沈線文	IV 4
1469	I C 8 e Ⅲ層下部	深鉢	口～胴	L R	山形突起 口唇部に刻み 平行沈線文	IV 4
1470	I C 8 e Ⅲ層No.1	鉢	口～底	L R	口唇部に刻み 4単位の小突起 平行沈線文	IV 4
1471	I B 5 g Ⅲ層最下部	深鉢	口～胴	L R	頂部に沈線をもつA突起と小突起 口唇に刻み 口縁内外面に沈線	IV 4
1472	I A 9 f Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	L R	半浮彫的な突起と刻み 平行沈線 内外面にス	IV 4
1473	I B 7 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	L R	2個一対の小突起 口唇部に刻みと沈線 内外面にス	IV 4
1474	I B 9 b～c Ⅲ層	鉢	口～胴	R L	小突起と刻み 口縁内側に沈線 平行沈線	IV 4
1475	I B 7 e Ⅲ層	深鉢	口縁部	L R・R L	山形突起 口唇に沈線と刻み 小突起 平行沈線と刺突列 内外面ス	IV 4
1476	I B 8 c Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	A突起と外に張り出すB突起 口唇に沈線と刻み 平行沈線と刺突列	IV 4

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1477	IA9jⅢ層最下部	深鉢	口～胴	LR	小突起 口唇部に刻みと沈線 平行沈線	IV4
1478	IB7eⅢ層	鉢	口～胴		2個一對の小突起と刻み列 太い沈線文と突起	IV4
1479	IB8dⅢ層	深鉢	口～胴	LR・RL	口唇部に沈線と刻み 2個一對の突起 刻み列 羽状縄文 内外面ス	IV4
1480	IB9dⅢ層	鉢	口～胴	LR	山形口縁 口唇部と口縁内側に沈線 平行沈線 内外面にス	IV4
1481	IIA1eⅢ層上部	鉢	口～胴	LR?	口縁部内側に沈線 平行沈線と磨消縄文?	IV4
1482	II C0eⅢ層	深鉢	口～胴	LR	口唇部に刻み 口縁部内側に沈線 平行沈線と貼瘤的突起 内面ス	IV4
1483	IC8fⅢ層上部	鉢	口～胴	LR・RL	A突起 口唇部に刻み 沈線文 羽状縄文	IV4
1484	IB8eⅢ層	深鉢	口～胴	LR	口唇部に刻み 半浮彫的な平行沈線と小突起	IV4
1485	IB9cⅢ層上部	深鉢	口～胴	LR	刻み状の小山形口縁 平行沈線と縦長の貼り付け文	IV4
1486	IB5jⅢ層	深鉢	口～胴	LR・RL	沈線を伴うA突起 波状口縁 内側沈線 沈線文と刻み列 内外にス	IV4
1487	IB8dⅢ層	鉢	口～胴	LR	口唇部と口縁内側に沈線 A突起と山形突起 刺突列 0段多条	IV4
1488	IA9iⅢ層	鉢	口～胴	LR	口唇部に刻み 口縁部内側に沈線 沈線文(変形工字文?)	IV4
1489	IB8dⅢ層	鉢	口～胴	LR	頂部に沈線を伴うA突起 口縁内側に沈線 沈線文 内面にス	IV4
1490	IA9iⅢ層上～中部	鉢	口～胴	RL?	山形口縁 口唇部と口縁部内側に沈線 沈線文と刻み 磨消縄文?	IV4
1491	IC8eⅢ層下部	鉢	口～胴	LR	A突起 山形口縁 口縁部内側に沈線 沈線文と刺突列	IV4
1492	II C1gⅢ層下部	鉢	口～胴	RL	山形口縁 口唇部と口縁部内側に沈線 刺突列と平行沈線 外面ス	IV4
1493	IB7eⅢ層	深鉢	口～胴	LR	山形突起 口唇部に沈線・刻み列・小突起 平行沈線と刺突列	IV4
1494	IA9hⅢ層中部	鉢	口～胴		口縁部内側に沈線 沈線文と刺突列 赤色塗彩	IV4
1495	IA8iⅢ層	深鉢	口縁部	LR	小山形口縁 沈線による曲線文	IV4
1496	IB8eⅢ層	深鉢	口～胴	RL	口唇部に刻み 平行沈線文	IV4
1497	IB8eⅢ層中部	深鉢	口～胴	LR	口唇部に刻み 平行沈線	IV4
1498	IC8eⅢ層下部	鉢	口～胴	LR	口唇部に刻みと沈線 平行沈線 0段多条	IV4
1499	IB5jⅢ層	深鉢	口～胴	LR	口唇部に刻みと沈線 平行沈線	IV4
1500	IB8eⅢ層下部	深鉢	口～胴	LR	刻み状小山形口縁 平行沈線 外面にス	IV4
1501	IB5iⅢ層	深鉢	口～胴	LR	山形口縁 口唇部に刻み 平行沈線と曲線文	IV4
1502	IB8cⅢ層	深鉢	口～胴	RL	口唇部に刻み 平行沈線	IV4
1503	IB9aⅢ層	鉢	口～胴	RL	口唇部に刻み 口縁部内側に沈線 平行沈線	IV4
1504	IC7eⅢ層	鉢	口～胴	LR	口唇部に刻み 平行沈線 内部にアスファルト	IV4
1505	IIA0eⅢ層	鉢	口～胴	LR	口唇部に刻み 平行沈線文 口縁部内外面にス付着	IV4
1506	IC8fⅢ層	深鉢	口～底	LR	小波状口縁 平行沈線文	IV4
1507	IC8eⅢ層Na2	鉢	口～底	LR	口唇部に刻み 口縁部無文 0段多条	IV4
1508	IB9cⅢ層上部	鉢	口～胴	LR	突起状の山形口縁 口縁部無文	IV4
1509	IIA0fⅢ層中部	深鉢	口～胴	LR	小山形口縁 平行沈線と刻み状の短沈線による浮彫的文様 補修孔	IV4
1510	C区Ⅲ層	深鉢	口縁部		口唇部に浮彫的な突起列 平行沈線文	IV4
1511	IC9eⅢ層上部	深鉢	口～胴	LR	B突起(7単位?) 平行沈線文	IV4
1512	IA9eⅢ層	深鉢	口～胴	LR	小山形口縁 平行沈線文	IV4
1513	IIA0fⅢ層	深鉢	口～胴	RL	小山形口縁 平行沈線文	IV4
1514	IIA0fⅢ層中部	深鉢	口～胴	LR	切り込み状の小山形口縁 細い平行沈線文	IV4
1515	IC8e-2埋設土器	深鉢	口～底	RL	鋸歯状の小山形口縁 地文のみ	IV4
1516	IB7eⅢ層	深鉢	口～底	LR	貼付け状の小山形口縁 細い平行沈線文	IV4
1517	IB6aⅢ層	深鉢	口～底	LR	刻み状の小山形口縁 平行沈線文 未完の補修孔 内面にス	IV4
1518	IB6eⅢ層	深鉢	口～胴	RL・RL	刻み状の小山形口縁 平行沈線文 羽状縄文 IV群5類?	IV4?
1519	IB8cⅢ層下部	深鉢	口～底	RL	口唇部に刻み 平行沈線文 口縁内側にも沈線	IV4
1520	IB6fⅢ層	深鉢	口～胴	LR	刻み状の小山形口縁 平行沈線文	IV4
1521	IC8eⅢ層下部	深鉢	口～胴	LR	小波状口縁 地文のみ 口縁部無文	IV4
1522	IC8dⅢ層下部	深鉢	口～胴	LR	小山形口縁 平行沈線文	IV4
1523	IC8dⅢ層下部	深鉢	口～胴	LR	小山形口縁 地文のみ 口縁部無文	IV4
1524	IIA0gⅢ層	深鉢	口～胴	LR	小波状口縁 口縁部無文 地文のみ	IV4
1525	IB5eⅢ層	深鉢	口～胴	LR	貼り付け状の小山形口縁 口縁部無文	IV4
1526	IC9fⅢ層	深鉢	口～胴	LR	小山形口縁 地文のみ 口縁部無文	IV4
1527	IB6fⅢ層	深鉢	口～胴	L	刻み状の小山形口縁 口縁部無文 地文のみ	IV4
1528	IIA0eⅢ層中部	壺	口～頸	LR?	内・外側に張り出す突起 外面にス	IV4
1529	IC8eⅢ層	胴部	胴部	RL	沈線区画の磨消縄文 平行沈線文	IV4
1530	IB8dⅢ層	壺	胴部	RL	沈線区画の磨消縄文 0段多条	IV4
1531	IC8eⅢ層	壺	胴部	LR	沈線区画の刻み列 縄文地に沈線による曲線文	IV4
1532	IB8aⅢ層上部	壺	胴部		太い沈線による変形工字文	IV4
1533	IC8dⅢ層上部	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文? 縄文地に曲線文	IV4
1534	IC8dⅢ層上部	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文 赤色塗彩	IV4
1535	IC8dⅢ層上部	壺	胴部	RL	沈線区画の磨消縄文 0段多条	IV4
1536	IB8dⅢ層	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	IV4
1537	IC9fⅢ層下部	壺	胴部	LR	細い沈線による磨消縄文 0段多条	IV4
1538	IC8eⅢ層下部	壺	頸～胴	LR	沈線による区画文様 一部磨消	IV4
1539	IB8dⅢ層	壺	胴部	LR	平行沈線と区画的曲線文	IV4

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1540	I C 9 e Ⅲ層	壺	胴～底	L R	細い沈線による曲線文	IV 4
1541	I B 8 e Ⅲ層	壺	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文	IV 4
1542	I C 8 e Ⅲ層下部	壺	口～胴	L R	口唇部に刻み 口縁部内側に沈線 沈線による区画文様	IV 4
1543	I C 8 d Ⅲ層上部	壺	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文	IV 4
1544	I A 9 j Ⅲ層	壺	胴部	L R ?	沈線区画の磨消縄文(変形工字文)	IV 4
1545	I A 8 i Ⅲ層	壺	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文(変形工字文)	IV 4
1546	I B 区 0 層	壺	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文(変形工字文)	IV 4
1547	I B 7 e Ⅲ層	壺?	胴部	L R	沈線区画の磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1548	I C 8 d Ⅲ層	壺	胴部		細い沈線による変形工字文 ミガキ	IV 4
1549	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	壺	頸～胴		頸部に隆帯 半浮彫的な文様 ミガキ 赤色塗彩	IV 4
1550	I C 8 e Ⅲ層上部	壺	胴部		半浮彫的な沈線文と刻み列 赤色塗彩	IV 4
1551	I C 8 e Ⅲ層	壺	口～胴		ミニチュア 縦の沈線文	IV 4
1552	I C 8 e Ⅲ層下部	壺	口～底	L R	刻み状の右下がり短沈線 平行沈線と刻み 口縁内側にも沈線	IV 4
1553	I C 9 e Ⅲ層	壺	口～底	L R	B突起 平行沈線とB突起	IV 4
1554	Ⅱ C 4 g Ⅲ層	壺	口～底		頸部に5単位の把手 平行沈線文	IV 4
1555	I C 8 e Ⅲ層	注口土器	口～底	R L	口唇部に刻みとB突起(4単位) 沈線区画の磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1556	I C 8 e Ⅲ層上部	注口土器	口～胴	L R	口縁部と胴部上端に浮彫的突起列と刻み 磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1557	I C 8 d Ⅲ層	注口土器	口～底	L R	口唇部に突起と刻み 胴部上端に浮彫的突起列 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1558	I C 8 f Ⅲ層	注口土器	口～胴	L R・R L	口縁部と胴部上端に浮彫的突起列 沈線区画の磨消縄文	IV 4
1559	I C 8 e Ⅲ層	注口土器	口～胴	L R	口唇部と胴部上端に突起列と刻み 磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1560	I C 8 e Ⅲ層下部	注口土器	口～胴	L R	口唇部に刻み 浮彫的磨消縄文 胴部上端に浮彫的突起列 赤色塗彩	IV 4
1561	I A 9 j Ⅲ層	注口土器	口～頸	L R	鉢? 口唇部と口縁内側に沈線 半浮彫的な突起と刻み 磨消縄文	IV 4
1562	I C 8 e Ⅲ層	注口土器	肩～底	L R	胴部上端に浮彫的な突起列と刻み 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1563	I C 8 e Ⅲ層	注口土器	胴～底	R L	胴部上端に突起と刻み列半浮彫的な磨消縄文 0段多条	IV 4
1564	Ⅱ C 0 f Ⅲ層下部	注口土器	胴部	L R	胴部上端に突起と刻み列 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1565	I C 8 e Ⅲ層	注口土器	胴部	L R	胴部上端に浮彫的な突起と刻み列 半浮彫的な磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1566	I C 8 f Ⅲ層上部	注口土器	胴部	R L	胴部上端に刻みと小突起 半浮彫的な磨消縄文	IV 4
1567	I C 7 e Ⅲ層	注口土器	胴部	R L	胴部上端に突起と刻み列 沈線区画の磨消縄文 含海綿骨針?	IV 4
1568	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	注口土器	口～胴		ミニチュア 口唇部と胴部上端に小突起と刻み列 赤色塗彩	IV 4
1569	I B 9 a Ⅲ層上部	注口土器	口～胴	L R	口縁部及び胴部上端に2個一対の小突起と刻み 沈線文	IV 4
1570	I B 8 d Ⅲ層中部	香炉	口～台	L R	刻みを持つ隆帯と突起 沈線による磨消縄文 赤色塗彩	IV 4
1571	I A 9 h Ⅲ層	香炉	天井部		刻みを持つ低い隆帯と沈線文 突起と透かし	IV 4
1572	I C 8 e Ⅲ層	香炉	天井部		頂部に刻みを持つ隆帯 耳状の把手	IV 4
1573	I B 8 d Ⅲ層	浅鉢?	口～胴	R L	大小の突起 隆帯による三角文 平行沈線と押し引き状刺突列	IV 5
1574	I C 8 e Ⅲ層最下部	鉢	口～胴	L R ?	角状突起と刻み 小突起と刻みを伴う隆帯 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1575	I B 7 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R ?	A突起と2個一対の小突起 内側に沈線 刺突列と変形工字文	IV 5
1576	I A 8 i Ⅲ層	鉢	口～胴		沈線文をもつ大型突起 口唇に刻み 口縁内側に沈線 隆帯と沈線文	IV 5
1577	Ⅱ C 0 f Ⅲ層	鉢	口～胴		浮彫的装飾の突起と刻み 突起と沈線を伴う隆帯 変形工字文	IV 5
1578	I B 9 a Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R ?	頂部に溝をもつ把手(吊り手) 沈線文 内面にスス	IV 5
1579	I B 9 b Ⅲ層	鉢	口～胴		山形口縁 口唇部と口縁内側に沈線 半浮彫的な平行文(隆帯)	IV 5
1580	Ⅱ A 0 i Ⅲ層中部	浅鉢?	口～胴	L R	台付鉢? 角状突起?と小突起 口縁内側沈線 変形工字文 0段多条	IV 5
1581	I A 9 j Ⅲ層下部	浅鉢	口～胴		2個一対の小突起 口縁内側に沈線 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1582	I A 8 j Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	口縁部内側に沈線 沈線と突起を伴う低い隆帯 磨消縄文 赤色塗彩	IV 5
1583	Ⅱ A 0 g Ⅲ層	鉢	口～胴		口縁部内側に沈線 平行沈線(変形工字文?) ミガキ	IV 5
1584	I B 6 j Ⅲ層	浅鉢?	口～胴		沈線文 赤色塗彩	IV 5
1585	I B 9 b～c Ⅲ層	鉢?	胴部		底部? 半浮彫的な平行沈線文 ミガキ	IV 5
1586	I B 6 d Ⅲ層	鉢	口～胴		口唇部に浅い刻み 太い沈線による変形工字文	IV 5
1587	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴	L R ?	山形口縁 口唇部と口縁内側に沈線 半浮彫的な変形工字文と磨消縄文	IV 5
1588	I C 8 e Ⅲ層上部	鉢	口～胴	L R ?	口唇部に刻み 2個一対の小突起 太い沈線による変形工字文と突起	IV 5
1589	I A 8 i Ⅲ層	鉢	口～胴		口縁部内側に沈線 半浮彫的な変形工字文 ミガキ	IV 5
1590	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴		口縁部内側に沈線 半浮彫的な変形工字文 ミガキ	IV 5
1591	I A 9 i Ⅲ層下部	浅鉢?	口～胴	L R ?	B突起 口唇部に浅い刻み 沈線による浮彫的な変形工字文	IV 5
1592	I B 8 d Ⅲ層中部	鉢	口～胴	L R	口縁内側に沈線 突起と沈線を伴う低い隆帯 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1593	I A 9 h Ⅲ層中部	鉢	口～底		A突起(1)とB突起(4?) 沈線による変形工字文 低い4脚	IV 5
1594	I C 8 e Ⅲ層	鉢?	口～胴	L R ?	小突起 口唇部と口縁内側に沈線 半浮彫的な変形工字文と磨消縄文	IV 5
1595	I C 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴		小突起2個 口縁部内側に沈線 半浮彫的な変形工字文 赤色塗彩?	IV 5
1596	Ⅱ A 0 e Ⅲ層	浅鉢?	口～胴		2個一対の突起 口縁内側に沈線 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1597	I B 8 c Ⅲ層	鉢	口～胴		口縁部内側に沈線 太い沈線による変形工字文	IV 5
1598	I A 9 f Ⅲ層	鉢?	口縁部		山形口縁? 口唇部と口縁内側に沈線 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1599	I B 9 a Ⅲ層上部	鉢	口～胴	L R	小突起 口唇部に刻み 口縁内側に沈線 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1600	I B 7 e Ⅲ層	鉢	口縁部		2個一対?の小突起 口縁部内側に沈線 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1601	I A 9 i Ⅲ層上部	鉢	口～胴		頂部が凹む台状突起 口唇部と口縁内側に沈線 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1602	I B 9 a Ⅲ層	鉢	口～胴		山形突起 口唇部と口縁部内側に沈線 半浮彫的な変形工字文	IV 5

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1603	I A 9 e Ⅲ層	鉢?	胴部		半浮彫的な変形工字文 ミガキ	IV 5
1604	I B 5 j Ⅲ層	深鉢	胴~底		太い沈線による変形工字文 低い4脚	IV 5
1605	I C 8 d Ⅲ層下部	鉢	口~胴	L R	山形突起 口唇部に破線と平行沈線文 口縁内側に沈線	IV 5
1606	I B 9 c Ⅲ層	鉢	口~胴	L R	頂部に沈線を伴うA突起 口縁内側に沈線 平行沈線文	IV 5
1607	I B 8 e Ⅲ層中部	壺	口~胴		深鉢? 山形突起 口唇部に刻み 沈線区画の刻み列 口縁内側に沈線	IV 5
1608	I C 8 e Ⅲ層	深鉢	口~底	R L	大小の突起 口唇部に沈線 沈線区画の刻み列 口縁内側に沈線	IV 5
1609	I B 8 d Ⅲ層	鉢	口~胴	L R	頂部に沈線をもつA突起と小突起 内側沈線 押し引き状の刺突列	IV 5
1610	I B 8 c Ⅲ層	鉢	口~胴		山形突起と小突起 口唇に沈線 口縁内外面に沈線 赤色塗彩 補修孔	IV 5
1611	II A 0 f Ⅲ層	深鉢?	口~胴		2個一対の小山形突起口唇部と口縁内側に沈線 小突起を伴う隆帯	IV 5
1612	I A 9 h Ⅲ層	鉢	口~胴		口縁部内側に沈線 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1613	I A 9 h Ⅲ層下部	鉢	口~胴	L R	A突起と山形突起 口唇部と口縁部内側に沈線 沈線文	IV 5
1614	I A 9 b Ⅲ層	鉢	口~胴		口縁部上端に刻みと小突起を伴う隆帯 内側に沈線 深い平行沈線	IV 5
1615	I C 9 f Ⅲ層	鉢	口~胴	L R	刻みと小突起 口縁内側に沈線 沈線と突起を伴う隆帯 磨消縄文	IV 5
1616	I A 9 h Ⅲ層中部	鉢	口~胴		頂部に凹みをもつ突起 小山形口縁 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1617	I A 9 j Ⅲ層中部	鉢	口~胴		口唇部に刻み 突起と沈線を伴う低い隆帯 半浮彫的な変形工字文	IV 5
1618	I B 7 e Ⅲ層	鉢	口~胴	L R	浮彫的文様をもつ突起 口唇部に刻みと突起 内側沈線 変形工字文	IV 5
1619	I C 8 d Ⅲ層	鉢	口~胴		口唇部に刻み 口縁部内側に沈線 半浮彫的な沈線文 内外面にス	IV 5
1620	I A 9 h Ⅲ層中部	鉢	口~胴	R L ?	口縁部内側に沈線 沈線区画の磨消縄文? (変形工字文) 摩耗	IV 5
1621	I B 9 a Ⅲ層	鉢	口縁部	L R	口縁内側に沈線 変形工字文	IV 5
1622	I A 9 h Ⅲ層中部	鉢	胴部	L R	半浮彫的な変形工字文 ミガキ	IV 5
1623	I C 8 d Ⅲ層上部	台付鉢	台部		深い平行沈線文 一部工字文 円形の透し文 底面に円文 赤色塗彩?	IV 5
1624	II A 0 h Ⅲ層中部	台付鉢	台部		深い沈線による平行文と小突起 円孔を伴う変形工字文 ミガキ	IV 5
1625	I B 7 c Ⅲ層中部	台付鉢	台部		深い平行沈線と小突起を伴う変形工字文	IV 5
1626	II A 0 h Ⅲ層中部	台付鉢	台部		深い平行沈線と小突起を伴う変形工字文	IV 5
1627	I C 8 e Ⅲ層	壺	胴部		大小の突起 (各4単位) 口縁内側に沈線文 外面丁寧なミガキ	IV 5
1628	I B 9 d Ⅲ層	壺	口~頸		浮彫的な突起 口縁内側に沈線 外面ミガキ	IV 5
1629	I B 7 d Ⅲ層	壺	口~頸		浮彫的な大小の突起 平行沈線文 外面ミガキ	IV 5
1630	I C 8 d Ⅲ層	壺	口~頸		低い隆帯と破線状沈線 口縁内側に沈線 外面ミガキ	IV 5
1631	I A 9 h Ⅲ層上部	壺	口~頸		太い沈線文と突起 (半浮彫的表現) 口縁部内側に平行沈線	IV 5
1632	I A 9 j Ⅲ層	壺	口~頸		小突起を伴う細い隆帯 口縁部内側に沈線 ミガキ	IV 5
1633	I A 9 i Ⅲ層	壺	口~頸		口唇部に沈線 山形突起 焼成前の穿孔による2小孔 隆帯 ミガキ	IV 5
1634	I B 8 e Ⅲ層下部	壺	胴部		平行沈線文 破線文と小突起	IV 5
1635	I B 6 e Ⅲ層	壺	胴部		深い沈線による変形工字文 外面ミガキ	IV 5
1636	I B 8 e Ⅲ層中部	壺	胴部	L R	頸部下端に平行沈線文 0段多条?	IV 5
1637	I C 8 e Ⅲ層中部	壺	胴部	L R	胴部上端に沈線文	IV 5
1638	I C 8 e Ⅲ層上部	壺	胴部	L R	半浮彫的な磨消縄文 (変形工字文)	IV 5
1639	I A 9 h Ⅲ層	壺	胴部	L R ?	沈線区画の磨消縄文 (変形工字文)	IV 5
1640	I A 9 h Ⅲ層	壺	胴部		半浮彫的な変形工字文 ミガキ	IV 5
1641	I A 9 h Ⅲ層	壺	胴部		半浮彫的な変形工字文 ミガキ	IV 5
1642	I B 8 e Ⅲ層	壺?	胴部		太い沈線による変形工字文	IV 5
1643	I A 9 e Ⅲ層	壺	胴部		半浮彫的な変形工字文	IV 5
1644	I B 6 j Ⅲ層	壺	胴部		半浮彫的な変形工字文	IV 5
1645	I B 6 g Ⅲ層	壺	胴部		押し引き状の浅い刺突列 変形工字文	IV 5
1646	I A 9 h Ⅲ層中部	壺	胴部		刻み列と変形工字文	IV 5
1647	I A 9 h Ⅲ層	壺	胴部		半浮彫的な変形工字文 ミガキ	IV 5
1648	I A 9 h Ⅲ層	壺	胴部		半浮彫的 (浮彫的) な変形工字文? ミガキ 赤色塗彩	IV 5
1649	I A 9 h Ⅲ層	壺	胴部		半浮彫的な変形工字文 ミガキ	IV 5
1650	I A 9 h Ⅲ層	壺	胴部		細い沈線による変形工字文 ミガキ	IV 5
1651	I A 9 j Ⅲ層上部	鉢	胴部		細い沈線による変形工字文 ミガキ	IV 5
1652	I B 8 e Ⅲ層	壺	頸~胴		半浮彫的な沈線文	IV 5
1653	I B 9 b~c Ⅲ層	壺	胴部	L R	平行沈線 ミガキ	IV 5
1654	I A 9 i Ⅲ層上~中部	壺?	胴部		浮彫的文様 沈線文 ミガキ	IV 5
1655	I B 9 a Ⅲ層	壺	胴部		半浮彫的平行文 沈線による曲線文	IV 5
1656	I B 9 a Ⅲ層上部	壺	胴部		沈線による曲線文No.1655と同一個体	IV 5
1657	II A 0 e Ⅲ層	注口土器	肩~胴		半浮彫的な変形工字文 頂部に刻みを伴う低い隆帯 ミガキ	IV 5
1658	I B 7 e Ⅲ層最上部	注口土器	胴部		深い沈線による変形工字文 刻みを伴う細い隆帯と突起	IV 5
1659	II A 0 d Ⅲ層中部	注口土器	肩~胴		半浮彫的な変形工字文 頂部に刻みと小突起を伴う隆帯	IV 5
1660	I C 8 e Ⅲ層	壺	胴~底	L R	地文のみ	IV 6
1661	I A 9 i Ⅲ層中部	深鉢	口~底	L R	地文のみ	IV 6
1662	I B 8 e Ⅲ層	深鉢	口~胴	R L	地文のみ	IV 6
1663	I B 8 f Ⅲ層中部②	深鉢	胴~底	L R・R L	地文のみ 羽状縄文 埋設土器?	IV 6
1664	I B 8 b Ⅲ層	深鉢	口~胴	L	地文のみ 無節	IV 6
1665	II A 9 b Ⅲ層中部	深鉢	口~胴	L R・R L	口縁上端僅かに肥厚 羽状縄文 L Rは0段多条	IV 6

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1666	I B 8 d Ⅲ層中～下部	深鉢	口～胴	LR・RL	地文のみ 雑な羽状縄文 補修孔 埋設土器?	IV 6
1667	II A 0 d Ⅲ層	深鉢	口～胴	RL	地文のみ	IV 6
1668	II A 0 d Ⅲ層	深鉢	口～底	LR	低い小波状口縁 口縁部無文 地文のみ	IV 6
1669	I A 9 h Ⅲ層中～下部	深鉢	口～底		地文のみ	IV 6
1670	I B 8 e Ⅲ層	深鉢	口～底	LR	地文のみ 不整な縦絡文 補修孔 埋設土器?	IV 6
1671	I B 8 e Ⅲ層	深鉢	口～底	LR	地文のみ 埋設土器?	IV 6
1672	I B 6 f Ⅲ層	深鉢	口～底		地文のみ 埋設土器?	IV 6
1673	II A 1 f Ⅲ層中部	深鉢	口～底	LR	口縁内側僅かに肥厚 地文のみ	IV 6
1674	II C 4 g Ⅲ層中部	深鉢	口～底	LR	地文のみ	IV 6
1675	I B 7 d Ⅲ層	深鉢	口～底	LR	地文のみ 補修孔	IV 6
1676	II A 0 d Ⅲ層	深鉢	口～底	LR	地文のみ 補修孔	IV 6
1677	I C 9 e Ⅲ層	深鉢	胴～底	LR	地文のみ	IV 6
1678	II A 0 d Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	RL	口縁部僅かに肥厚 地文のみ 0段多条	IV 6
1679	I C 9 e Ⅲ層上部	深鉢	口～胴	LR	地文のみ	IV 6
1680	II A 0 f Ⅲ層中部	深鉢	口～胴	LR	地文のみ	IV 6
1681	I B 8 e Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	地文のみ	IV 6
1682	II A 0 h Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR	地文のみ	IV 6
1683	II A 0 d Ⅲ層	深鉢	口～底	LR	小山形(波状?)口縁 地文のみ	IV 6
1684	I B 6 e Ⅳ層	深鉢	口～胴	LR	地文のみ 補修孔	IV 6
1685	I A 1 d Ⅲ層	深鉢	口～胴	RL	鋸歯状の小山形口縁 地文のみ	IV 6
1686	I B 8 e Ⅲ層	深鉢	口～底	RL・RL	地文のみ 羽状縄文	IV 6
1687	I A 9 i Ⅲ層	深鉢	口～底	LR?	2個一対の小突起 地文のみ 不整な縦絡文	IV 6
1688	I C 9 f Ⅲ層	深鉢	口～胴	LR・RL	地文のみ 口縁部LR 胴部RL	IV 6
1689	I B 8 c Ⅲ層	深鉢	胴～底	LR	地文のみ 底部穿孔 埋設土器?	IV 6
1690	I C 8 f Ⅲ層	深鉢	胴～底	LR・RL	地文のみ 羽状縄文	IV 6
1691	I B 5 j Ⅲ層	深鉢	胴～底	RL	地文のみ 埋設土器?	IV 6
1692	II A 0 g Ⅲ層上部	深鉢	胴～底	LR	地文のみ	IV 6
1693	I A 9 e Ⅲ層	深鉢	胴～底	LR	地文のみ	IV 6
1694	I B 6 f Ⅲ層	深鉢	胴～底		底部穿孔 埋設土器?	IV 6
1695	II A 0 h Ⅲ層中部	深鉢	胴～底		無文	IV 6
1696	I A 8 j Ⅲ層	深鉢	胴～底	RL	地文のみ 内外面にアスファルト付着	IV 6
1697	I A 9 j Ⅲ層下部	深鉢	胴～底	RL	地文のみ アスファルト付着	IV 6
1698	I C 8 e Ⅲ層	台付鉢	口～台	R	口唇部に細かい刻み 平行沈線文 赤色塗彩? IV群3・4類?	IV 6?
1699	I B 8 e～f Ⅲ層下部	台付鉢	口～底	LR	地文のみ 内外面にスス付着 IV群3・4類?	IV 6?
1700	I B 8 e Ⅲ層	鉢	口～胴		平行沈線文 内外面ともミガキ IV群3・4類?	IV 6?
1701	I C 9 f Ⅲ層	鉢	口～胴		無文 内外面とも丁寧なミガキ 補修孔 IV群3・4類?	IV 6?
1702	I B 6 e Ⅲ層	浅鉢	口～底		平行沈線文 口縁内側に沈線 低い四脚 雑なミガキ IV群3・4類?	IV 6?
1703	II A 0 h Ⅲ層(雨裂)	鉢	口～底		沈線文 IV群3・4類	IV 6?
1704	II A 0 h Ⅲ層中部	浅鉢	口～底		無文 全体に雑なミガキ	IV 6
1705	II A 0 e Ⅲ層中部	鉢	口～底		無文 雑なミガキとケズリ 低い4脚	IV 6
1706	I B 9 b Ⅲ層中部	壺	胴部		沈線文	IV 6
1707	I B 9 c Ⅲ層上部	浅鉢	口～胴	LR?	高坏? 波状口縁 波頭部に刻み 変形工字文 口縁内側に沈線	V 1
1708	I B 9 a Ⅲ層	鉢	口～胴		2個一対?の突起 口唇部に沈線 口縁内側に沈線 変形工字文	V 1
1709	I B 8 c Ⅲ層上部	浅鉢	口～胴	LR	高坏? 深い平行沈線 口縁内側に沈線 内面ミガキ	V 1
1710	I B 8 b Ⅲ層	鉢	口～胴	L?	平行沈線 口縁内側に沈線 地文施文の上をミガキ	V 1
1711	I B 8 b Ⅲ層上部	鉢	口～胴	LR	口縁部内面に沈線 平行沈線 ミガキ	V 1
1712	I B 8 b Ⅲ層	鉢?	口～胴		口縁部内側に沈線 平行沈線 ミガキ	V 1
1713	II A 0 d Ⅲ層	高坏?	口～胴		深い平行沈線 口縁部内側に沈線	V 1
1714	I A 9 i Ⅲ層中部	鉢?	口縁部		口縁部内側に沈線 平行沈線 ミガキ	V 1
1715	I A 8 j Ⅲ層	鉢?	口縁部		高坏? 口縁部内側に沈線 平行沈線文 ミガキ	V 1
1716	I B 8 c Ⅲ層	鉢?	口縁部		平行沈線文 口縁部内側に沈線	V 1
1717	I B 9 c Ⅲ層上部	鉢	口～胴	RL	地文のみ 縄文 0段多条	V 1
1718	II A 0 d Ⅲ層	壺	胴部	RL	沈線区画の充填縄文? 破線状の沈線文	V 1
1719	I B 5 h Ⅲ層上部	壺	胴部	LR	沈線区画の磨消縄文	V 1
1720	I B 9 c Ⅲ層中部	壺	胴部		平行沈線 ミガキ	V 1
1721	I B 9 a Ⅲ層	壺	口～胴	LR	口唇部に沈線 袂り状の小突起? 頸部に雑な沈線	V 1
1722	I A 8 i Ⅲ層	壺	口～胴	LR	地文のみ 口縁部無文 0段多条	V 1
1723	I A 9 h Ⅲ層中～下部	壺	口～胴	LR	口縁部は雑なミガキで無文 地文のみ 内外面にスス付着	V 1
1724	I B 9 d Ⅲ層上部	壺	口～胴	LR	口唇部に沈線 中央に凹みをもつ突起 頸部に沈線 外面にスス	V 1
1725	I B 8 d Ⅲ層	壺	口～胴	LR	2個一対の山形突起 頸部に沈線 0段多条 内外面にスス	V 1
1726	I A 9 i Ⅲ層焼土周辺	壺	口～底	LR	頸部に沈線 口縁部無文 底面網代痕 内外面にスス付着	V 1
1727	II A 0 g Ⅲ層最下部	深鉢	胴～底	RL	地文のみ 底面に網代痕	V 1
1728	I A 9 j Ⅲ層	壺	口縁部	RL	交互刺突文 縄文 口唇部にも施文 0段多条	V 2

図版番号	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴	分類
1729	I B 9 a Ⅲ層上部	甕	口縁部	R L	雑な交互刺突文 縄文 0段多条 口唇部にも施文	V 2
1730	I B 9 a Ⅲ層上部	甕	口縁部	R L	交互刺突文 縄文 口唇部にも施文 0段多条	V 2
1731	I A 9 i Ⅲ層上~中部	甕	口縁部		雑な交互刺突文	V 2
1732	I A 9 i Ⅲ層	甕	口縁部	L R ?	雑な交互刺突文 縄文 口唇部にも施文 0段多条	V 2
1733	I A 9 i Ⅲ層中部	甕	口~胴	L R	原体圧痕をもつ低い突起 原体圧痕文と沈線文 0段多条	V 2
1734	I B 8 a Ⅲ層	壺?	胴部	R L	半截竹管状工具による沈線文 縄文 0段多条	V 2
1735	I B 8 d Ⅲ層上部	甕	胴部		沈線による曲線文	V 2
1736	I B 9 e Ⅲ層中部	甕	胴部	L	沈線による曲線文 捺糸文	V 2
1737	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	R L	沈線文 縄文? ミガキ 0段多条	V 2
1738	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	R L ?	沈線による曲線文 縄文? 0段多条	V 2
1739	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	R L	沈線による曲線文 縄文? 0段多条	V 2
1740	I B 7 e Ⅲ層上部	甕	胴部		沈線による曲線文	V 2
1741	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	胴部	L	沈線による曲線文 地文は不整な捺糸文	V 2
1742	I A 8 i Ⅲ層	甕	胴部	R L	沈線文 縄文 0段多条	V 2
1743	I A 9 i Ⅲ層中部	甕?	胴部	R L	細い沈線文 縄文	V 2
1744	I B 7 d Ⅲ層	甕	口~胴	R L	地文のみ 縄文 口唇部にも施文 0段多条	V 2
1745	I B 8 d Ⅲ層	甕	口縁部	R L	地文のみ 縄文 口唇部にも施文 0段多条	V 2
1746	I B 8 d Ⅲ層中部	甕	口縁部	R L	地文のみ 縄文? 0段多条	V 2
1747	I B 8 d Ⅲ層	甕	口縁部	R ?	地文のみ 縄文 口唇部にも施文 0段多条	V 2
1748	I B 7 e Ⅲ層	甕	口縁部	R L	地文のみ 0段多条	V 2
1749	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	口~胴	R L	地文のみ 縄文 口唇部にも施文 0段多条 2種類の原体?	V 2
1750	I B 9 c Ⅲ層	甕	口縁部	R L	原体圧痕をもつ小突起 地文のみ 縄文 口唇部施文	V 2
1751	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 縄文 0段多条 2種類の原体?	V 2
1752	I B 9 c Ⅲ層	甕	胴部	R L	地文のみ 縄文? 0段多条	V 2
1753	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	R L	地文のみ 縄文 一部縞縄文	V 2
1754	I B 7 d Ⅲ層上部	甕	胴部	R	地文のみ 縄文 一部縞縄文 0段多条	V 2
1755	I B 区0層	甕	胴部	R L	地文のみ 縄文? 0段多条	V 2
1756	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 縄文 0段多条	V 2
1757	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	R L ?	地文のみ 縄文? 0段多条	V 2
1758	I B 8 b Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 縄文 0段多条	V 2
1759	I B 8 d Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 縄文 0段多条	V 2
1760	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	胴~底	R L	地文のみ 縄文 0段多条	V 2
1761	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 縄文 0段多条	V 2
1762	I B 8 b Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 縄文 0段多条	V 2
1763	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	L・R L	地文のみ 不整な捺糸文と縄文?	V 2
1764	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	R	地文のみ 縄文 0段多条	V 2
1765	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	L	地文のみ 不整な捺糸文 0段多条	V 2
1766	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	L	地文のみ 不整な捺糸文 0段多条	V 2
1767	I A 9 e Ⅲ層	甕	胴部	R	地文のみ 不整な捺糸文 0段多条	V 2
1768	I B 8 d Ⅲ層中部	甕	胴部	R L ?	地文のみ 縄文? 0段多条	V 2
1769	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴部	L	地文のみ 不整な捺糸文 0段多条	V 2
1770	I B 8 d Ⅲ層上部	甕	胴部	L・R	地文のみ不整な捺糸文? 羽状に施文 0段多条	V 2
1771	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 0段多条 一部無文帯? Na1772と同一個体	V 2
1772	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 0段多条 一部無文帯?	V 2
1773	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 0段多条 施文後ナデ? Na1774と同一個体	V 2
1774	I B 9 c Ⅲ層上部	甕	胴部	R L	地文のみ 0段多条 施文後ナデ?	V 2
1775	I B 9 c Ⅲ層上部	壺?	胴~底	L	甕? 地文のみ 粗い捺糸文	V 2
1776	I A 8 j Ⅲ層	甕	胴~底	R・R L	地文のみ 不整な捺糸文?と縄文	V 2
1777	I B 8 d Ⅲ層	甕	胴~底	R L	地文のみ 0段多条	V 2
1778	I B 区0層	甕	底部	R	地文のみ 不整な捺糸文 0段多条	V 2
1779	I A 8 i Ⅲ層	鉢	胴部	R L	山形口縁 刻みを伴う隆帯 沈線区画の縞縄文と刺突列 0段多条	VI
1780	I B 8 a Ⅲ層	鉢	胴部	R L	沈線区画された縞縄文 0段多条	VI
1781	I B 8 a Ⅲ層	鉢	口~胴	R L	縞縄文 0段多条 内面にス	VI

陶器観察表

図版番号	出土地点	器種	部位	文様の特徴
1782	I A 9 j Ⅲ層	甕	口~底	胎土：白色の砂粒及び黒色のガラス質粒を含む。色調：外面は暗赤褐色～赤黒色、内面は赤灰色～暗赤褐色、断面は褐灰色。胴部上半に自然釉。調整：口縁部はロクロ（ヨコ）ナデ?、胴部はヘラケズリ、内面はヨコナデ。

1783	IIA0i Ⅲ層上部	甕	口～頸	胎土：白色の砂粒を含む。色調：外面は赤褐色～緑灰色（自然釉）、内面は灰赤色、断面は灰褐色。調整：外面は釉のため不明、内面はヨコナデ。
1784	IIA0j Ⅲ層上部	甕	口～胴	胎土：細かい砂質。色調：内外面及び断面とも灰色。調整：口縁部は内外面ともクロコナデ、胴部外面はヨコナデとヘラケズリ、内面はヨコナデ。
1785	IIA0j Ⅲ層上部	甕	頸部	胎土：細かい砂質に白色の砂粒を含む。色調：内外面及び断面とも灰色。調整：外面はヨコナデに細かい沈線、内面はヨコナデ。
1786	IIA0i Ⅲ層上部	甕	胴部	胎土：白色の砂粒を含む。色調：内外面及び断面とも暗赤褐色。外面に自然釉。調整：内外面とも雑なヨコナデ。外面には平行文の印。
1787	IIA0j Ⅲ層上部	鉢	口～胴	胎土：白色の砂粒を含む。色調：外面は暗赤褐色～黄褐色、内面は赤灰色～暗灰色。調整：口縁部は内外面ともクロコナデ。胴部外面はケズリ、内面はナデ。
1788	IIA0j Ⅲ層上部	鉢	口～胴	1787と同一個体。
1789	IIA0j Ⅲ層上部	鉢	口～胴	1787・1788と同一個体。
1790	IIA0j Ⅲ層上部	鉢	胴部	胎土：白色の砂粒を含む。色調：外面は明赤褐色、内面は黒赤褐色、断面も同じ。調整：外面はヨコナデ、内面はナデ。
1791	IB9a Ⅲ層上部	片口鉢	胴～台	胎土：白色の砂粒を含む。色調：内外面及び断面とも灰色。調整：内面はナデ、外面はヘラケズリ。内面は使用のためか滑らか。
1792	IIA0f Ⅲ層中部	片口鉢	口～胴	胎土：白色の砂粒を含む。色調：内外面及び断面とも灰色。調整：内面はナデ、外面はクロコナデ。内面は使用のためか滑らか。1793と同一個体？
1793	IC9e Ⅱb層	天目茶碗	胴～底	胎土：緻密でやや軟質。色調（露胎部）：淡赤褐色、断面は白灰色。外面胴部と内面に鉄釉、胴部下端に化粧釉。写真のみ掲載。
1794	IIA0h 土坑埋土	碗？	胴部	内面に灰色の釉 火熱を受け変質 写真のみ掲載

石器観察表

図版NO	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
13	IA-1 住埋土	石鏃	IA1	2	1.55	3.5	8.05	粘板岩	破損品
14	IA-1 住埋土	不定形石器	IIa1	3.6	3.3	1	6.44	チャート質粘板岩	直刃
15	IA-1 住埋土下部	磨石		8.8	8.15	7.5	730	花崗閃緑岩	両面 1側面
26	IA-2 住埋土下部	Uフレ	I	2.8	3.3	1	6.2	チャート質粘板岩	
35	IA-3 住埋土下部	尖頭器	I?	3.6	2.1	0.8	5.56	粘板岩	
45	IA-4 住埋土上部	石鏃	IC	3.2	1.5	0.5	1.31	粘板岩	破損品 アスファルト
46	IA-4 住埋土上部	Uフレ	I	5.5	5.3	1.6	41.78	粘板岩	ノッチ状
69	IA-5 住埋土下部	石鏃	IIb1	2.3	1.5	0.3	0.41	チャート質凝灰岩	破損品
70	IA-5 住埋土	石匙	AI	5	2.25	8.05	7.15	粘板岩	直刃+尖頭
71	IA-5 住埋土下部	石鏃	Ic	6.1	1.1	0.7	4.15	粘板岩	
72	IA-5 住埋土	尖頭器	II	4.6	2.9	1.4	18.97	チャート質粘板岩	
73	IA-5 住埋土下部	尖頭器	II	4.7	3.2	1.2	14.34	粘板岩	
74	IA-5 住床直	不定形石器	IIa2	2.75	1.9	0.75	3.85	赤色凝灰岩	尖頭器？ 破損品
75	IA-5 住埋土下部	不定形石器	IIa2	2.7	2.7	1	6.45	粘板岩	円刃 破損品？
76	IA-5 住床直	不定形石器	IIb	2.5	1.8	0.5	0.86	粘板岩	直刃+凹刃
77	IA-5 住埋土下部	Rフレ	I	2.8	3.5	0.5	4.64	粘板岩	
78	IA-5 住床直	不定形石器	IIa2	2.3	2.5	0.8	4.31	粘板岩	円刃？
79	IA-5 住埋土	磨製石斧		9.3	5	2.25	149.07	粘板岩	破損品 再加工？
117	IA-6 住埋土	石鏃	IA2	2	1.1	0.3	0.44	チャート	
118	IA-6 住埋土	石鏃	IA2	2.7	1.7	0.45	1.51	粘板岩	
119	IA-6 住埋土下部	石鏃	IA2	2.8	1.6	0.7	1.84	粘板岩	
120	IA-6 住埋土下部	石鏃	IA2	2	1.1	0.4	0.61	赤色凝灰岩	破損品 アスファルト
121	IA-6 住埋土下部	石鏃	IIb1	2	1.35	0.35	0.89	チャート質凝灰岩	破損品
122	IA-6 住埋土下部	石鏃	V	1.7	1.2	0.7	0.76	チャート	破損品 形態不明
123	IA-6 住埋土下部	石匙	CV	5.3	4.2	1.25	1.24	チャート質凝灰岩	直刃
124	IA-6 住埋土下部	石鏃	Ib	4	1.65	0.6	1.81	凝灰質粘板岩	
125	IA-6 住床面	石鏃	Ib	4.55	1.55	0.45	1.54	凝灰質粘板岩	
126	IA-6 住埋土下部	石鏃	IIa?	4.4	1.4	1.2	4.05	粘板岩	
127	IA-6 住埋土下部	石鏃	III	3	1.3	0.9	2.96	チャート	
128	IA-6 住埋土下部	尖頭器	II	2.3	1.9	1	3.87	粘板岩	破損品？
129	IA-6 住床面	尖頭器	I	3.6	2.45	0.9	7.14	粘板岩	
130	IA-6 住埋土下部	尖頭器	I	4.1	2.7	1.1	9.57	粘板岩	
131	IA-6 住埋土下部	尖頭器	II	3.45	2.6	1.5	3.46	チャート	
132	IA-6 住埋土下部	不定形石器	I?	5	3	1	16.15	チャート質凝灰岩	雑な整形
133	IA-6 住埋土下部	不定形石器	I	3.6	2.6	1	7.06	赤色凝灰岩	
134	IA-6 住埋土	不定形石器	I	2.9	2.2	0.8	3.65	粘板岩	

図版NO	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
135	I A-6 住埋土下部	不定形石器	II a 1	5.4	3.6	1.1	22.26	チャート	凸刃
136	I A-6 住埋土下部	不定形石器	II a 1	4.3	3.9	1.6	23.55	粘板岩	直刃
137	I A-6 住埋土下部	不定形石器	II a 3	3.4	2.2	0.5	3.41	チャート	直刃+凸刃
138	I A-6 住埋土下部	不定形石器	II a 1	3.4	4	0.9	13.21	粘板岩	凸刃? 鋸歯状
139	I A-6 住埋土下部	不定形石器	II a 3	3.2	3.8	1	14	粘板岩	直刃+凸刃
140	I A-6 住埋土下部	不定形石器	II a 2	1.5	2.4	0.7	3.05	チャート質凝灰岩	円刃? 破損品
141	I A-6 住埋土下部	不定形石器		2.6	2.4	0.7	5.49	赤色凝灰岩	破損品 形態不明
142	I A-6 住埋土下部	Rフレ	I	5.1	5.5	1.4	31.85	粘板岩	
143	I A-6 住埋土下部	Rフレ	II	4.2	1.6	0.7	4.78	粘板岩	
144	I A-6 住埋土下部	Uフレ	II	3.2	1.35	0.8	8.6	チャート	
145	I A-6 住埋土下部	Uフレ	IV	3.2	3.4	1.1	9.36	粘板岩	アスファルト 顕著な使用痕無し
146	I A-6 住埋土	磨製石斧		(7.3)	(5.1)	(2.1)	108.6	粘板岩	破損品 アスファルト
147	I A-6 住床面	磨石		10	6.55	5.5	555	安山岩	両面
148	I A-6 住床面	凹石		12.9	7.6	3.1	510	花崗閃緑岩	両面 石皿?
186	II A-4 住埋土下部	石匙	C I	2.1	4.1	0.4	3.25	粘板岩	ツマミ欠損 横? 直刃+凸刃+尖頭
200	II A-5 住床面	石鏃	I A 1	1.7	1.3	0.35	0.45	粘板岩	
201	II A-5 住床面	石鏃	V	1.5	1	0.2	0.29	チャート	破損品 形態不明
202	II A-5 住床面	石鏃	I A 2	3.2	1.3	0.5	1.28	粘板岩	
203	II A-5 住床面	Uフレ	I	2.1	3.3	0.8	5.24	粘板岩	ノッチ状
237	I B-2 住埋土	石匙	B I	4.2	5.8	1.3	20.4	チャート質細粒凝灰岩	直刃+尖頭
238	I B-2 住埋土	Rフレ	I	4.2	3.9	0.8	11.15	粘板岩	
249	I A-1 住状埋土下部	石匙	A III	7.6	5.5	1.3	34.25	粘板岩	凸刃+凸刃
250	I A-1 住状埋土下部	不定形石器	II a 2	2.4	2	0.5	1.71	チャート質粘板岩	直刃+凸刃
268	II A 0 c 土坑埋土	石鏃	II B 3	2.2	1.6	0.3	0.87	凝灰岩質粘板岩	
291	II A 0 e 土坑埋土	石匙	A II	6.75	2.35	9.5	10.2	チャート質粘板岩	直刃+凸刃+尖頭
292	II A 0 f-1 土坑埋土	不定形石器	II a 2	3.65	5.45	0.8	11.9	チャート質凝灰岩	凸刃+凹刃 アスファルト
309	I B 6 e-3 土坑埋土	石鏃	II b	3.25	1	0.65	1.87	凝灰岩質粘板岩	
329	II C 0 f-1 土坑埋土	石皿		33.1	27.7	7.8	11500	安山岩	片面使用? 赤色顔料付着
348	I A 9 g-2 埋設土器	凹石		10	5.7	2.8	240.7	安山岩	両面
357	II A 0 e 埋設土器	石鏃	I A 1	2.75	1.55	0.45	1.03	流紋岩質細粒凝灰岩	
359	II A 0 f-1 埋設土器	石鏃	I A 2	3.4	1.5	4.5	1.64	凝灰岩質粘板岩	
360	II A 0 f-1 埋設土器	石鏃	I A 2	3.1	2.1	0.7	3.16	チャート質凝灰岩	
361	II A 0 f-1 埋設土器	石鏃	III	5.3	3.3	1.3	12.5	粘板岩	
362	II A 0 f-1 埋設土器	不定形石器	II a 3	2.9	2.65	1	5.86	チャート質粘板岩	凸刃? 尖頭部有 破損品
363	II A 0 f-1 埋設土器	不定形石器		3.3	2.25	1	7.55	チャート質凝灰岩	破損品 形態不明
364	II A 0 f-1 埋設土器	Uフレ	I	3.3	3.3	1.2	10.35	チャート質粘板岩	
379	I B 6 f-1 埋設土器	石皿?		19.8	14.3	8.9	3940	花崗閃緑岩	2面 磨石?
380	I B 6 f-1 埋設土器	磨製石斧		(13.2)	(5)	(2.9)	269.66	安山岩	破損品 赤色顔料付着
381	I B 6 f-1 埋設土器	磨製石斧		6.2	4.2	2.25	90.75	安山岩	破損品 赤色顔料付着
398	I C 9 e 埋設土器	Uフレ	I	2.15	1.7	0.55	2.33	チャート質凝灰岩	
417	II C-PP17	石鏃	I A 2	1.5	1.2	0.4	0.3	チャート質凝灰岩	破損品 形態不明
1795	II A 0 g III層最下部	石鏃	I A 1	1.55	1.1	0.25	0.38	粘板岩	
1796	I A 9 i III層下部	石鏃	I A 1	2.1	1.15	0.3	0.44	粘板岩	
1797	II A 0 f III層上部	石鏃	I A 1	2.5	1.3	0.35	0.78	粘板岩	アスファルト
1798	II A 0 i III層下部	石鏃	I A 1	3.1	1.3	0.35	1	粘板岩	アスファルト
1799	II A 0 g III層中部	石鏃	I A 1	3.25	1.3	0.45	1.44	凝灰岩質粘板岩	破損品
1800	II A 0 j III層中部	石鏃	I A 1	3.7	1.5	0.25	0.99	粘板岩	アスファルト
1801	II A 0 i III層下部	石鏃	I A 1	3.1	1.35	0.35	1.04	凝灰岩質粘板岩	アスファルト
1802	II A 0 f III層上部	石鏃	I A 1	2.75	1.5	0.55	1.34	流紋岩質細粒凝灰岩	アスファルト
1803	II A 0 h III層	石鏃	I A 1	3.35	1.6	0.55	2.38	粘板岩	破損品
1804	II A 0 g III層	石鏃	I A 1	4.5	2.2	0.55	4.12	粘板岩	アスファルト
1805	II A 0 f III層中部	石鏃	I A 2	1.75	1.1	0.4	0.39	チャート	アスファルト
1806	I B 9 a III層中部	石鏃	I A 2	2.3	1.1	0.4	0.7	チャート	アスファルト
1807	II A 0 e III層上部	石鏃	I A 2	2	1.05	0.3	0.32	粘板岩	
1808	II A 0 f III層中部	石鏃	I A 2	2.4	1.3	0.35	0.65	粘板岩	アスファルト
1809	II A 0 e III層	石鏃	I A 2	2.4	1.4	0.3	0.61	チャート質粘板岩	基部変色
1810	I B 8 f III層	石鏃	I A 2	2.9	1.6	0.4	0.93	粘板岩	破損品 アスファルト
1811	I B 7 c III層	石鏃	I A 2	3.05	1.7	0.4	1.11	粘板岩	
1812	I A 9 h III層中部	石鏃	I A 2	3	1.6	0.5	1.79	凝灰岩質チャート	アスファルト
1813	0層	石鏃	I A 2	2.9	1.4	0.35	0.78	粘板岩	
1814	II A 0 e III層中部	石鏃	I A 2	2.8	1.45	0.45	1.16	チャート質粘板岩	アスファルト
1815	II A 0 g III層中部	石鏃	I A 2	2.6	1.3	0.2	0.6	チャート	アスファルト

図版No	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
1816	I B 8 d Ⅲ層中部	石鏃	I A 2	3.3	1.6	0.5	1.48	凝灰岩質チャート	
1817	I B 8 e Ⅲ層	石鏃	I A 2	4.2	1.1	0.4	1.45	凝灰質粘板岩	アスファルト
1818	Ⅱ A 0 f Ⅳ層中部	石鏃	I A 2	4.15	2.1	0.4	2.34	粘板岩	
1819	Ⅱ A 9 i Ⅲ層中部	石鏃	I A 2	5.5	1.55	0.45	2.66	チャート質粘板岩	
1820	I A 9 h Ⅲ層上部	石鏃	I A 3	2.95	1.7	0.3	0.76	チャート	破損品
1821	I A 9 e Ⅲ層	石鏃	I A 3	3.1	1.8	0.4	1.16	粘板岩	
1822	I A 9 e Ⅳ層上部	石鏃	I A 4	2.3	0.8	0.5	0.66	凝灰質粘板岩	破損品
1823	Ⅱ A 0 g Ⅲ層	石鏃	I A 4	2.4	1	0.5	0.69	凝灰岩質粘板岩	
1824	I A 9 h Ⅲ層中部	石鏃	I A 4	2.7	1.1	0.4	0.9	粘板岩	破損品 基部摩耗石鏃?
1825	I A 9 f Ⅲ層	石鏃	I A 4	2.7	0.9	0.45	0.92	粘板岩	破損品
1826	I B 7 e Ⅱ層	石鏃	I A 4	2.1	0.8	0.4	0.4	凝灰岩質粘板岩	アスファルト
1827	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石鏃	I B	1.9	1.5	0.3	0.62	赤色凝灰岩	
1828	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石鏃	I B	2.7	1.4	0.5	1.65	凝灰質粘板岩	
1829	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石鏃	I B	3.7	1.6	0.4	2.7	粘板岩	
1830	I A 8 h Ⅲ層	石鏃	I C	2.3	1.4	0.5	1.01	チャート質凝灰岩	破損品 アスファルト
1831	Ⅱ A 0 e Ⅲ層中部	石鏃	I C	2.9	1.7	3.5	1.41	チャート質粘板岩	破損品
1832	I B 6 h Ⅲ層上部	石鏃	I C	4.8	1.8	0.4	2.47	チャート質粘板岩	破損品 アスファルト
1833	I B 9 a Ⅲ層中部	石鏃	I C	3.5	1.6	0.4	1.45	チャート質粘板岩	破損品
1834	I A 9 i Ⅲ層中部	石鏃	I C	3.2	1.7	0.4	1.42	チャート質粘板岩	破損品
1835	Ⅱ A 0 g Ⅲ層	石鏃	I C	3.2	1.1	0.6	1.44	凝灰質粘板岩	アスファルト
1836	Ⅱ A 0 d Ⅲ層中部	石鏃	I C	1.7	1	3.5	0.45	チャート	破損品 アスファルト
1837	I A 9 i Ⅲ層下部	石鏃	I C	1.8	1	0.2	0.36	赤色凝灰岩	破損品 アスファルト
1838	Ⅱ B 0 f Ⅲ層中部	石鏃	I C	2.2	1.4	0.4	0.66	凝灰岩質粘板岩	破損品 アスファルト
1839	Ⅱ A 0 e Ⅲ層中部	石鏃	I C	2.4	1.2	0.4	0.64	凝灰岩質粘板岩	破損品 アスファルト
1840	Ⅱ A 1 g Ⅲ層中部	石鏃	Ⅱ A	2.4	1.2	0.4	0.84	粘板岩	破損品
1841	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	石鏃	Ⅱ A	3.4	1.7	0.5	2.31	粘板岩	破損品
1842	I A 9 h Ⅲ層中部	石鏃	Ⅱ A	3	1.5	0.5	2.1	チャート質粘板岩	
1843	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石鏃	Ⅱ A	2.7	1.9	0.5	1.96	粘板岩	
1844	I C 8 f Ⅲ層中部	石鏃	Ⅱ B 1	1.3	0.9	0.3	0.42	赤色凝灰岩	破損品
1845	I B 8 d Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 1	1.3	1.3	0.2	0.42	赤色凝灰岩	
1846	I C 9 e Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 1	1.7	1.2	0.3	0.6	赤色凝灰岩	
1847	I B 8 e Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 1	1.9	1.1	0.2	0.41	チャート	
1848	Ⅱ A 0 i Ⅲ層最下部	石鏃	Ⅱ B 1	2	0.9	0.3	0.5	赤色凝灰岩	破損品
1849	Ⅱ A 0 e Ⅲ層下部	石鏃	Ⅱ B 2	2.3	1.2	0.35	1.05	チャート質粘板岩	
1850	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	石鏃	Ⅱ B 2	2.5	0.95	0.3	0.8	チャート質粘板岩	
1851	Ⅱ C 2 g Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 2	2.5	1	0.4	0.86	凝灰岩質粘板岩	
1852	Ⅱ A 0 e Ⅲ層上部	石鏃	Ⅱ B 2	2.2	1.2	0.4	0.55	チャート質粘板岩	
1853	I B 8 e Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 2	2.2	1.2	0.3	0.61	凝灰質粘板岩	
1854	Ⅱ A 0 h Ⅲ層最下部	石鏃	Ⅱ B 2	1.65	1	0.4	0.36	流紋岩質細粒凝灰岩	
1855	I B 8 e Ⅲ層中部	石鏃	Ⅱ B 2	1.8	1.1	0.35	0.74	チャート質粘板岩	アスファルト
1856	Ⅱ C 0 e Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 2	4.1	1.3	0.5	1.96	凝灰質粘板岩	破損品
1857	I C 7 e Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 3	1.95	1.15	0.3	1.41	凝灰岩質粘板岩	破損品
1858	I B 9 a Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 3	2.2	1.4	0.35	0.8	凝灰岩質粘板岩	破損品
1859	I A 9 f Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 3	2.1	1.9	0.3	0.82	凝灰質粘板岩	
1860	I A 9 e Ⅲ層	石鏃	Ⅱ B 3	3	1.7	0.35	1.6	流紋岩質細粒凝灰岩	
1861	Ⅱ A 0 g Ⅱ層上部	石鏃	Ⅱ B 3	2.9	1.75	0.3	1.41	凝灰岩質粘板岩	
1862	I B 8 e Ⅲ層中部	石鏃	Ⅱ B 3	3.75	2.3	0.6	3.89	チャート質粘板岩	大型
1863	I B 8 c Ⅲ層中部	石鏃	Ⅱ B 3	3.8	1	0.4	2.11	凝灰質粘板岩	
1864	I B 6 i Ⅲ層上部	石鏃	Ⅱ B 3	2.9	2	0.35	1.99	凝灰岩質粘板岩	
1865	Ⅱ A 0 g Ⅲ層	石鏃	Ⅱ C	3	1.2	0.5	1.16	粘板岩	破損品
1866	Ⅱ A 0 h Ⅲ層	石鏃	Ⅱ C	3.7	1.3	0.45	2	凝灰岩質粘板岩	破損品
1867	I B 8 d Ⅲ層	石鏃	Ⅲ	3.35	1	0.5	1.21	粘板岩	破損品 アスファルト
1868	0層	石鏃	Ⅲ	3.6	1	0.45	1.75	凝灰岩質チャート	
1869	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	石鏃	Ⅲ	2.3	0.7	0.3	0.5	赤色凝灰岩	破損品
1870	I B 9 b Ⅲ層下部	石鏃	Ⅳ	2.5	0.9	0.35	0.4	チャート質凝灰岩	異形鏃?
1871	I B 8 c Ⅲ層	石鏃	Ⅳ	2.5	2.05	0.4	0.89	チャート質粘板岩	三又鏃
1872	I B 6 e Ⅴ層	石鏃	Ⅴ	1.65	1.05	0.3	0.42	凝灰質粘板岩	破損品 形態不明
1873	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	石匙	A I	9.1	4	1	31.19	チャート質粘板岩	アスファルト 凸刃+凸刃+尖頭
1874	Ⅱ A 0 i Ⅲ層	石匙	A I	5.8	2.3	0.65	6.76	チャート質凝灰岩	柳葉状 凸刃+凸刃+尖頭
1875	Ⅱ A 0 c Ⅲ層中部	石匙	A I	4.8	2.2	0.7	7.4	チャート質粘板岩	直刃+凸刃+尖頭
1876	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	石匙	A I	3.25	2	0.55	2.6	黒曜石	凸刃+凸刃+尖頭
1877	Ⅱ A 0 i Ⅲ層下部	石匙	A I	5.3	2	0.3	4.32	チャート質凝灰岩	柳葉状 凸刃+凸刃+尖頭
1878	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石匙	A II	5.3	2.8	0.8	11.65	粘板岩	直刃+凸刃

図版NO	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
1879	I A 9 j Ⅲ層下部	石匙	A Ⅱ	6.1	1.2	0.6	5	チャート質粘板岩	直刃+直刃+尖頭
1880	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	石匙	A Ⅱ	6	2.1	0.6	5.5	粘板岩	凸刃+凹刃
1881	Ⅱ A 0 j Ⅲ層上部	石匙	A Ⅱ	5.35	3.7	0.85	13.78	チャート質粘板岩	直刃+直刃+尖頭
1882	Ⅱ A 0 j Ⅲ層中部	石匙	A Ⅱ	6.2	3.75	1.1	23.91	チャート質粘板岩	アスファルト 直刃+凸刃+尖頭
1883	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石匙	A Ⅳ	5	1.6	0.4	4.4	チャート質凝灰岩	破損品 両面と片面 直刃+直刃?
1884	Ⅱ A 0 f Ⅲ層下部	石匙	A Ⅲ	6	3.8	1	2.06	チャート質粘板岩	直刃+尖頭
1885	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石匙	B Ⅰ	2.7	5.4	0.5	5.69	チャート質粘板岩	凹刃+尖頭
1886	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	石匙	B Ⅰ	3.15	6.85	0.7	10.81	チャート質粘板岩	アスファルト 直刃+尖頭
1887	I B 8 e Ⅲ層中部	石匙	B Ⅰ	4.8	1.4	7	36.84	チャート質細粒凝灰岩	直刃
1888	I C 8 e Ⅲ層	石匙	B Ⅰ	2.5	2.7	0.5	2.35	チャート質細粒凝灰岩	アスファルト 凸刃
1889	I B 8 d Ⅲ層	石匙	B Ⅰ	3.4	4.2	0.7	2.8	チャート質粘板岩	凸刃+尖頭
1890	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石匙	B Ⅰ	3.25	0.85	4.8	9.52	チャート	直刃
1891	I A 9 i Ⅲ層上部	石匙	B Ⅰ	4.2	6.9	1.2	19.65	チャート質細粒凝灰岩	アスファルト 凸刃
1892	Ⅱ A 1 g Ⅲ層中部	石匙	B Ⅰ	5.9	8.5	1.1	47.36	チャート質細粒凝灰岩	直刃
1893	Ⅱ A 0 i Ⅲ層下部	石匙	B Ⅱ	3.4	3.6	0.9	8.09	粘板岩	直刃
1894	I B 8 e Ⅲ層中部	石匙	B Ⅱ	3.9	6.8	0.75	25.37	チャート	アスファルト 製品の再利用 凸刃
1895	I A 9 h Ⅲ層中部	石匙	B Ⅲ	4	5.1	1.1	14.26	チャート質粘板岩	直刃+尖頭
1896	Ⅱ C 0 f Ⅲ層	石匙	B Ⅱ	4.4	6.5	0.6	16.29	チャート質粘板岩	凹刃
1897	I C 8 e Ⅰ層	石匙	B Ⅱ	3.6	6.7	0.5	9.23	チャート質粘板岩	凸刃
1898	Ⅱ A 0 i Ⅲ層上部	石匙	B Ⅱ	3.95	6.65	0.7	18.59	チャート質粘板岩	直刃
1899	I A 9 Ⅲ層	石匙	B Ⅱ	3.35	3.75	0.5	4.65	チャート質粘板岩	直刃+尖頭
1900	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石匙	C Ⅰ	2.6	7.1	0.9	14.75	チャート質粘板岩	アスファルト 直刃+凸刃
1901	Ⅱ A 0 e Ⅲ層下部	石匙	C Ⅱ	5.8	3.7	0.4	10.26	チャート質細粒凝灰岩	凸刃
1902	I B 6 j Ⅲ層	石匙	C Ⅰ	3.6	6.9	1.1	32.56	チャート	凸刃+尖頭
1903	I B 5 f Ⅲ層下部	石匙	C Ⅰ	4.7	4.4	1.1	25.75	粘板岩	凸刃+凸刃
1904	I A 8 h Ⅲ層	石錐	I a	4.1	1.3	0.3	0.96	チャート質粘板岩	
1905	I C 8 e Ⅲ層上部	石錐	I a	4.65	1.7	0.9	3.7	チャート	
1906	Ⅱ C 4 g Ⅲ層下部	石錐	I a	4.1	1.5	0.5	1.94	チャート質粘板岩	
1907	I B 8 e Ⅲ層中部	石錐	I a	3.6	2.45	0.55	2.44	粘板岩	
1908	I B 9 b Ⅲ層中部	石錐	I a	5.1	2.8	0.9	0.93	凝灰質粘板岩	
1909	I B 8 e Ⅲ層	石錐	I b	2	1.6	0.4	1.26	凝灰質粘板岩	
1910	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	石錐	Ⅱ a	2.7	0.7	0.6	1.05	チャート	
1911	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	石錐	Ⅱ a	4	0.7	5.5	1.17	硬質泥岩	
1912	I B 8 f Ⅲ層下部	石錐	Ⅱ a	3.2	7	5	0.99	凝灰質粘板岩	アスファルト
1913	I B 9 b Ⅲ層中部	石錐	Ⅱ a	4	1	0.7	2.95	粘板岩	両端使用?
1914	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石錐	Ⅱ b	3.9	0.9	0.5	1.11	凝灰質粘板岩	
1915	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	石錐	Ⅱ b	3.6	0.7	0.5	1.22	チャート質粘板岩	
1916	Ⅱ A 0 i Ⅲ層中部	石錐	Ⅱ b	5	0.95	0.7	2.35	粘板岩	
1917	Ⅱ A 0 j Ⅲ層中部	石錐	Ⅱ c	5.3	0.75	0.4	1.28	チャート質粘板岩	アスファルト
1918	Ⅱ A 1 i Ⅲ層最下部	石錐	Ⅱ c	6.5	1.1	0.65	4.78	粘板岩	
1919	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	石錐	Ⅱ c	4.5	1.1	0.7	3.86	粘板岩	
1920	Ⅱ A 0 e Ⅲ層中部	石錐	Ⅲ	1.9	1.15	0.4	0.76	チャート	
1921	I B 8 e Ⅲ層	石錐	Ⅲ	2.45	1.05	0.4	0.79	チャート質粘板岩	
1922	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石錐	Ⅲ	2.9	1.9	0.9	2.84	チャート質粘板岩	
1923	Ⅱ A 0 e Ⅲ層	石錐	Ⅲ	3	1.5	0.7	2.74	チャート質粘板岩	
1924	I A 8 h Ⅲ層中部	石錐	Ⅳ	2.85	2.1	0.6	3.56	チャート	
1925	I A 8 h Ⅲ層	石錐	Ⅳ	2.85	2.1	1.05	4.16	チャート	破損品
1926	I B 8 e Ⅲ層中部	石錐	Ⅳ?	2.5	3.1	0.8	4.45	チャート質粘板岩	破損品
1927	I B 8 e Ⅲ層中部	石錐	Ⅳ	3.7	2.55	0.6	6.5	凝灰質粘板岩	
1928	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	尖頭器	I	3.5	1.7	0.6	2.6	粘板岩	石錐?
1929	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	尖頭器	I	3.1	2.3	0.7	3.95	粘板岩	
1930	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	尖頭器	I	3.2	2.3	0.7	4.3	チャート質凝灰岩	
1931	Ⅱ A 0 c Ⅲ層	尖頭器	I	3.7	2.4	0.6	4.11	粘板岩	
1932	I B 8 f Ⅲ層	尖頭器	I	4.3	2.1	0.7	4.76	粘板岩	石錐?
1933	I B 8 e Ⅲ層	尖頭器	Ⅱ	3.8	2.15	0.9	5.75	チャート質凝灰岩	
1934	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	尖頭器	Ⅱ	3.4	2.3	0.95	6.68	赤色凝灰岩	
1935	I B 9 a Ⅲ層	尖頭器	Ⅱ	3.8	2	1	6.36	粘板岩	
1936	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	尖頭器	Ⅱ	4.4	2.25	1.25	8.6	粘板岩	石錐?
1937	I A 9 h Ⅲ層上部	尖頭器	Ⅱ	4.1	2.5	1.1	8.98	粘板岩	
1938	Ⅱ A 0 i Ⅲ層最下部	尖頭器	Ⅱ	4.4	3.1	1.3	12.71	粘板岩	
1939	Ⅱ A 0 d Ⅲ層中部	尖頭器	Ⅱ	4.65	3	1.4	16.03	チャート質粘板岩	
1940	I C 4 g Ⅲ層中部	尖頭器	Ⅱ	5.05	2.45	1.5	13.7	赤紫色凝灰岩	
1941	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	尖頭器	Ⅱ	4.2	3.5	1.65	19.14	粘板岩	

図版NO	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
1942	I A 8 i Ⅲ層	尖頭器	Ⅱ	4.95	3.15	1.4	17.5	チャート質粘板岩	アスファルト
1943	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	異形石器		3.4	1.4	0.7	2	粘板岩	破損品
1944	Ⅱ A 0 j Ⅲ層	異形石器		2.65	3.4	0.7	3.21	チャート質粘板岩	
1945	I B 9 b Ⅲ層下部	異形石器		3.1	3.8	0.45	2.68	チャート質凝灰岩	
1946	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	異形石器		3.9	2.4	1	7.52	チャート	
1947	Ⅱ A 0 d Ⅲ層下部	異形石器		3.8	0.8	0.7	6.22	チャート質凝灰岩	
1948	Ⅱ A 1 g Ⅲ層中部	異形石器		3.8	3.75	0.8	9.53	チャート質凝灰岩	破損品
1949	Ⅱ A 0 h Ⅲ層下部	不定形石器	I	2.7	1.8	0.7	3.73	赤色凝灰岩	
1950	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	I	2.6	2	1	4.1	チャート質凝灰岩	
1951	Ⅱ A 0 h Ⅲ層最下部	不定形石器	I	3.7	2.35	0.9	7.65	粘板岩	
1952	Ⅱ A 0 i Ⅲ層中部	不定形石器	I	3.8	2.3	1	1.99	粘板岩	
1953	Ⅱ A 0 e Ⅲ層	不定形石器	I	3.6	2.7	1.4	10.7	チャート質凝灰岩	
1954	I A 9 h Ⅲ層下部	不定形石器	I	2.9	2.6	1.3	3.42	チャート質凝灰岩	
1955	I B 8 c Ⅲ層	不定形石器	I	4.3	2.2	1.1	9.15	粘板岩	
1956	Ⅱ A 0 i Ⅲ層中部	不定形石器	I	3.1	3.4	1.1	0.98	粘板岩	
1957	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	I	3.8	2.9	1.3	1.51	粘板岩	
1958	Ⅱ A 0 f Ⅲ層下部	不定形石器	I	4.4	3.2	1.1	18.94	粘板岩	
1959	I B 9 b Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ b	3.8	2.9	0.9	12.45	粘板岩	直刃×2
1960	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ b	4.9	2.8	0.9	15.65	粘板岩	直刃×2
1961	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ a 2	3.2	2.8	1.05	8.08	チャート質凝灰岩	直刃 刃部鈍角
1962	Ⅱ A 1 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 2	5.1	3.2	0.9	14.12	粘板岩	直刃×2
1963	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 3	5.75	3.25	0.6	7.79	チャート質粘板岩	直刃+凸刃
1964	I B 9 a Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 2	7.8	3.85	0.8	26.1	粘板岩	直刃+凸刃
1965	I B 9 a Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 1	6.9	3.95	1.2	39.94	チャート質粘板岩	直刃×2
1966	I B 8 d Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ a 1	2.3	1.3	0.3	0.71	粘板岩	凸刃
1967	Ⅱ A 0 h Ⅲ層上部	不定形石器	Ⅱ a 1	2.65	3.1	1.2	8.18	チャート質凝灰岩	凸刃(円刃) 刃部鈍角
1968	I B 9 a Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 1	4.5	2.9	1.05	14.96	粘板岩	凸刃 刃部鈍角 アスファルト
1969	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 1	3.2	3.5	0.9	11.54	チャート質粘板岩	凸刃 刃部鈍角
1970	Ⅱ A 0 g Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ a 2	5.1	3.2	1.3	18.9	粘板岩	凸刃 鋸歯状
1971	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 2	7.05	2.2	0.75	8.37	粘板岩	凹刃+直刃
1972	I B 9 c Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 1	4.5	4.9	1.8	42.2	粘板岩	凸刃 大きな剥離で鋸歯状
1973	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ b	4.9	5.2	1.2	36.06	粘板岩	凸刃×2
1974	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ b	5.9	3.8	1	27.54	粘板岩	凸刃×2
1975	I B 5 h Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ a 1	4.8	6.15	1	26.11	粘板岩	凸刃
1976	Ⅱ A 0 e Ⅲ層下部	不定形石器	Ⅱ a 1	3.75	6.65	1	13.7	粘板岩	凹刃
1977	I B 0 層	不定形石器	Ⅱ a 1	3.85	3.7	1.1	15.35	粘板岩	破損品 凹刃
1978	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 2	4	7.8	1.45	35.49	粘板岩	凹刃 アスファルト
1979	Ⅱ C 0 層	不定形石器	Ⅱ a 1	3.35	4.45	0.95	8.49	チャート質粘板岩	凹刃 鋸歯状 ノッチ的
1980	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 3	2.5	2.85	0.6	4.11	粘板岩	破損品? 凸刃(円刃)
1981	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ a 2	2.2	3.6	1.1	8.8	チャート質粘板岩	凸刃 刃部鈍角
1982	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ c	2.25	2.7	0.9	6.53	粘板岩	破損品
1983	I B 8 d Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ c	3.1	2.2	0.8	7.26	粘板岩	
1984	I B 6 e Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ c	3.3	3.2	1.4	10.69	赤色凝灰岩	
1985	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅱ c	3.4	4.4	0.9	17.48	粘板岩	
1986	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅲ	2.8	2.2	0.6	4.45	粘板岩	破損品の再利用? 凸刃有り
1987	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅲ	2.7	3	1	7.97	チャート質凝灰岩	刃部一對
1988	I A 9 i Ⅲ層	不定形石器	Ⅲ	2.85	3	0.8	7.26	チャート質凝灰岩	刃部一對
1989	Ⅱ C 0 f Ⅲ層上部	不定形石器	Ⅲ	2.5	3.65	0.65	8.53	粘板岩	刃部一對
1990	I B 9 c Ⅲ層中部	不定形石器	Ⅲ	3.7	3.6	1.05	14.95	チャート質凝灰岩	刃部一對
1991	Ⅱ C 2 g Ⅲ層	磨製石斧		10.2	4.6	2.3	178.75	凝灰岩	3破片の接合 赤色顔料付着
1992	I B 5 g Ⅲ層	磨製石斧		10.6	4.5	2.5	175.16	凝灰岩	破損品
1993	Ⅱ C 3 f Ⅲ層下部	磨製石斧		12.5	5.5	2.5	258.7	凝灰岩	最加工品 基端部にアスファルト
1994	I B 7 d Ⅲ層上部	磨製石斧		8.4	4.3	2.7	168.47	安山岩	破損品 基端部再加工?
1995	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	磨製石斧		8.3	5.1	2.7	207.11	安山岩	破損品 基端部再加工 アスファルト
1996	I B 9 d Ⅲ層	磨製石斧		7.7	5.15	1.5	65.06	凝灰岩	再加工品? アスファルト
1997	I C 9 f Ⅲ層	磨製石斧		10	5.8	3.2	289.86	凝灰岩	破損品 再加工の未製品
1998	Ⅱ A 0 c Ⅲ層	磨製石斧		11.3	3.7	2.7	197.66	安山岩	破損品 再加工の未製品
1999	I A 9 j Ⅲ層中部	磨製石斧		10.6	4.1	2.7	160.19	安山岩	破損品 再加工の未製品
2000	I B 8 e Ⅲ層	磨製石斧		9.3	4.6	2	149.28	粘板岩	破損品 再加工の未製品
2001	Ⅱ A 0 d Ⅲ層上部	磨製石斧		9.3	4	2.6	153.49	安山岩	破損品 再加工の未製品
2002	Ⅱ C 0 f Ⅲ層	磨製石斧		13	5.25	2.7	278.37	安山岩	破損品 再加工の未製品
2003	I B 8 d Ⅲ層中部	磨製石斧		5.3	4.5	2.9	113.58	安山岩	破損品 敲石へ転用
2004	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	磨製石斧		6.3	4.7	2.4	145.52	安山岩	破損品 敲石へ転用

図版NO	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
2005	I A 9 j Ⅲ層	磨製石斧		8.4	5	2.5	201.09	安山岩	破損品 敲石へ転用
2006	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	磨製石斧?		10	5.6	2.3	180.25	粘板岩	破損品 再加工の未製品? 敲石?
2007	I A 9 f Ⅲ層	磨製石斧		8.3	5.5	2.9	211.06	凝灰岩	破損品 敲石へ転用
2008	I B 8 e Ⅲ層中部	石鍬		10.85	7.9	1.7	164.1	玄武岩	
2009	I B 8 e Ⅲ層中部	石鍬		20	12.1	2.25	500	凝灰岩	
2010	I B 8 e Ⅲ層中部	石鍬		2.3	10.5	4.2	945	凝灰岩	
2011	I B 8 e Ⅲ層中部	石鍬		28.2	11.05	3.7	1130	凝灰岩	
2012	I B 8 e Ⅲ層中部	石鍬		25.6	17.4	2.5	1530	凝灰岩	
2013	I B 8 e Ⅲ層中部	石鍬		25.5	11	2.2	770	凝灰岩	
2014	I B 8 d Ⅲ層	撥形石斧		11.3	4.7	3.1	228.06	凝灰岩	破損品? 棒状
2015	I A 9 i Ⅲ層中部	撥形石斧		18.3	5.4	2.3	320	長石ヒン岩	
2016	Ⅱ A 0 g Ⅲ層下部	撥形石斧		24	4.4	3.1	650	粘板岩	棒状 刃部以外は無加工 使用痕顯著
2017	Ⅱ A 1 g Ⅳ層下部	撥形石斧		19.8	8.5	1.6	520	凝灰岩	ほとんど無加工
2018	I B 6 h Ⅲ層下部	磨石		10.3	8.2	5.8	780	閃緑岩	両面
2019	Ⅱ C 0 g Ⅲ層下部	磨石		10.7	8.7	3.6	540	安山岩	両面
2020	Ⅱ A 0 i Ⅲ層上部	磨石		13.4	8.2	5.5	970	安山岩	両面
2021	Ⅱ C 0 g Ⅲ層	磨石		12.4	8.9	5.15	820	凝灰質砂岩	両面 両端
2022	I C 8 f Ⅲ層上部	磨石		9.1	6.9	5.4	550	安山岩	両面 赤色顔料付着
2023	I B 0 層	磨石		9.25	7.5	5.15	550	安山岩	両面 凹石(両面)と複合
2024	I B 6 c Ⅲ層	磨石		10.9	7.6	4.3	515	デイサイト	両面 凹石と複合 焼 アスファルト
2025	I B 7 d Ⅲ層	磨石		11.3	9.95	2.7	425	凝灰岩	凹石(片)と複合 石雑に転用
2026	Ⅱ A 0 h Ⅲ層	磨石		12.8	7.6	5.8	850	安山岩	両面 片端 凹石(両面)と複合 焼
2027	I B 7 f Ⅲ層	磨石		11.2	9	5.15	735	デイサイト	両面 敲石(両端)と複合
2028	I C 8 e Ⅲ層下部	磨石		9.2	6.9	4.5	430	安山岩	両面 敲石(側縁)と複合
2029	Ⅱ A 0 g Ⅲ層	磨石		9.5	8.5	4.6	610	安山岩	両面 側縁 凹石(両面)と複合
2030	I A 9 h Ⅲ層	磨石		9.3	7.6	5.65	585	安山岩	両面 側縁 側縁部は敲石?
2031	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	磨石		9.1	7.3	4	450	安山岩	両面 側縁 側縁部は敲石?
2032	I B 8 e Ⅲ層	磨石		12.3	9.3	6.9	1220	長石ヒン岩	両面 両側面 焼 赤色顔料付着
2033	I C 7 d Ⅲ層上部	敲石		10.5	4.9	6.5	525	凝灰岩	片端 磨石(両面)と複合 破損品
2034	Ⅱ A 0 j Ⅲ層	凹石		4.6	5.05	2.2	59.96	安山岩(溶岩)	両面 破損品
2035	Ⅱ A 0 e Ⅲ層上部	凹石		11.35	6.95	5.2	580	デイサイト	両面 磨石と複合? 赤色顔料付着
2036	Ⅱ A 0 i Ⅲ層上部	敲石		9.1	3.7	2.1	100.09	凝灰岩	両端? 破損品
2037	I B 8 e Ⅲ層	敲石		7.3	5.6	4	301.3	凝灰岩	先端 破損品
2038	Ⅱ A 0 i Ⅲ層	敲石		6.2	2.6	2	65.94	凝灰岩	破損品 両端 アスファルト
2039	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	敲石		4.35	2.35	1.8	25.41	安山岩	先端部 破損品
2040	Ⅱ A 0 e Ⅲ層中部	敲石		7.2	2.2	2.4	59.68	凝灰岩	先端部 破損品
2041	I B 9 b Ⅲ層中部	敲石		5.3	3.1	2.3	51.73	ホルンフェルス(粘)	両端 アスファルト
2042	I B 8 c Ⅲ層上部	敲石		5.4	3.8	3	99.62	安山岩	両端 機能部分以外に擦痕
2043	I B 8 d Ⅲ層	敲石		3.65	2.35	1.9	26.98	安山岩	先端部 側縁部 破損品
2044	0層	敲石		5.8	2.9	1.7	47.08	安山岩	片側縁 先端 破損品
2045	I A 1 d Ⅲ層	敲石		7.5	2.7	2.8	83.99	凝灰岩	両端 片端破損
2046	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	敲石		8.8	3.7	2.8	149.3	凝灰岩	両端
2047	Ⅱ C 0 g Ⅲ層	敲石		7.95	6.35	4	264.7	凝灰質砂岩	片端 側縁の一部 磨石と複合?
2048	I A 0 層	石皿		26.8	20.6	7.3	9500	安山岩	両面使用 片面顯著
2049	I A 9 i Ⅲ層	砥石		13.1	12.5	4.5	830	凝灰質砂岩	3面使用
2050	Ⅱ A 0 e Ⅲ層下部	石棒石剣類		6.6	4.6	2.9	76.92	粘板岩	石棒 頭文彫刻 貫通孔 赤色顔料
2051	I A 9 i Ⅲ層中部	石棒石剣類		6.65	2.95	0.95	16	粘板岩	石棒 頭部に浮彫
2052	I C 8 e Ⅲ層上部	石棒石剣類		8.78	2.1	1.1	32.68	凝灰岩	石剣
2053	0層	石棒石剣類		7.75	3.1	0.5	19.79	粘板岩	石棒 沈線文
2054	I B 8 e Ⅲ層中部	石棒石剣類		8.9	2.8	0.9	35.59	粘板岩	石棒 沈線文
2055	I B 8 e Ⅲ層	石棒石剣類		10.7	2.8	1.2	28.12	粘板岩	石棒
2056	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石棒石剣類		10.8	2.2	1.3	53	粘板岩	石棒 沈線文
2057	0層	石棒石剣類		15.3	3.1	2.7	121.51	粘板岩	石棒 沈線文
2058	Ⅱ A 0 i Ⅲ層	石棒石剣類		12.1	2.9	2.4	120.92	粘板岩	石棒 沈線文
2059	I B 8 e Ⅲ層	石棒石剣類		19.7	2.9	2.3	139.82	粘板岩	石剣 沈線文
2060	Ⅱ A 0 f Ⅲ層上部	石棒石剣類		18	4.2	2.65	315	粘板岩	石剣
2061	I A 9 h Ⅲ層中部	石棒石剣類		19.8	2.7	2.4	233.78	ホルンヘルス	石棒 股打による浅くびれ 沈線文
2062	I B Ⅲ層	石棒石剣類		23.6	3.3	2.1	234.23	ホルンヘルス	石剣 割れ口にアスファルト
2063	I B 9 d Ⅲ層中部	石棒石剣類		21.4	3.8	2	184.77	流紋岩質凝灰岩	石棒 頭部に彫刻
2064	I A 9 i Ⅲ層中部	石棒石剣類		30.2	3.1	2.6	430	ホルンヘルス	
2065	I B 8 d Ⅲ層	石棒石剣類		27.4	2.9	2.3	281.41	粘板岩	石剣
2066	Ⅱ A 0 e Ⅲ層中部	石棒石剣類		18.2	2.9	1.6	121.96	粘板岩	石刀
2067	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	石棒石剣類		13.3	2.8	2.5	91.55	粘板岩	石剣

図版NO	出土地点	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
2068	I A 9 f Ⅲ層下部	石棒石剣類		10.3	3	2.5	135.97	粘板岩	石棒 敲打による浅いくびれ
2069	II C 0 f Ⅲ層	石棒石剣類		10.8	2.5	2.2	76.07	粘板岩	石棒
2070	I A 9 i Ⅲ層中部	石棒石剣類		12.1	4.1	1.3	78.68	粘板岩	石刀
2071	I C 8 e Ⅲ層	石棒石剣類		24.6	4.3	1.1	181.05	粘板岩	石刀
2072	I A 9 i Ⅲ層中部	石棒石剣類		3.9	2.9	0.9	11.38	壑石質凝灰岩	石刀
2073	I A 9 j Ⅲ層中部	石棒石剣類		5.6	3.25	0.9	27.2	粘板岩	石刀
2074	I A 9 h Ⅲ層	石棒石剣類		7.05	4.25	1.4	65.88	粘板岩	石刀
2075	I B 0 f Ⅲ層下部	石棒石剣類		11.5	3	1.3	74.21	粘板岩	石剣
2076	I B 8 e Ⅲ層	石棒石剣類		20.15	4.3	2.7	380	ホルンヘルス	石棒
2077	I A 9 h Ⅲ層	石棒石剣類		13.4	3	1.6	121.34	粘板岩	石刀
2078	I B 7 e Ⅲ層中部	砥石?		9.5	6.7	2.2	240	安山岩(溶岩)	石皿? 両面 焼 破損品
2079	II C 2 g Ⅲ層上部	砥石		3.7	4.15	2.2	55.57	流紋岩	5面使用 破損品
2080	I A 9 j Ⅲ層中部	石核		10.9	9.8	5.3	510	粘板岩	

石製品観察表

図版	出土地点	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考	石質
80	I A-5 住床直	垂れ飾り?	3.55	2.4	0.45	5.46	両側から細い挟り 細い刻線	赤色凝灰岩
2081	I A 9 h Ⅲ層上~中部	耳栓	2	2.05	0.6	2.82	土製品? 中央に貫通孔 赤色塗彩	珪質凝灰岩
2082	I B 8 c Ⅲ層中部	小玉	1.2	1.3	0.8	1.4	一部破損 貫通孔 雑な刻線文	チャート
2083	II A 0 h Ⅲ層中部	垂れ飾り?	2.3	2.1	0.3	1.59	中央に円孔 片面に放射状の刻線文	粘板岩
2084	I A 0 g Ⅲ層下部	垂れ飾り?	3.3	2.25	0.7	4.54	破損品 約1/3が残存 穿孔 周縁部に擦痕	流紋岩質凝灰岩
2085	I B 8 a Ⅲ層	垂れ飾り?	5.9	3.9	1	33.29	片面剥落 中央に穿孔 周縁部に擦痕	粘板岩
2086	I A 9 i Ⅲ層中部	垂れ飾り	7.9	1.6	1.7	29.31	棒状 貫通孔 全面に研磨	珪質凝灰岩
2087	I A 9 j Ⅲ層	垂れ飾り	6.1	5.9	1.15	53.26	貫通孔の他には加工無し	珪質凝灰岩
2088	II A 0 j Ⅲ層	垂れ飾り	10.3	6	2.3	150.35	一部破損 片面に刻線と穿孔による文様 貫通孔	流紋岩質凝灰岩
2089	I B 6 i Ⅲ層	垂れ飾り	12.6	6	2.7	220	貫通孔 片面に穿孔 この他は無加工	流紋岩質凝灰岩
2090	I B 8 e Ⅲ層中部	円盤	7	7.6	2.55	240	周辺部を打ち欠いて成形 石皿からの転用か?	安山岩
2091	I B 9 d Ⅲ層	円盤	4.6	5	0.8	26.65	周辺部を打ち欠いて成形	玄武岩質凝灰岩
2092	II A 0 f Ⅲ層中部	円盤?	4.7	4.8	1.3	33.61	周縁部を打ち欠いただけ	凝灰岩
2093	I B 区 0 層	線刻石板	6.7	3.7	1.1	34.88	一部破損 両面に微細な線刻文様 全体に擦痕	粘板岩?
2094	II B 9 b Ⅲ層中部	不明石製品	2.8	3	2.4	12.22	破損品 くぼみと突出部 赤色顔料付着 焼痕	安山岩
2095	I B 9 b Ⅲ層中部	不明石製品	4.6	3.6	2.7	19.94	浮石? 破損品? 擦痕	安山岩(溶岩)
2096	I B 9 a Ⅲ層	不明石製品	6.2	3.4	1.95	8.7	浮石? 破損品?	壑石
2097	II A 0 e Ⅲ層中~下部	不明石製品	5.6	5.3	1.7	79.33	磨石? 一部破損 周辺部に擦痕(使用痕?) 焼痕	珪質凝灰岩
2098	II C 0 e Ⅲ層上部	不明石製品	6.45	6.7	4.5	200	形状はヒズメ状	雲母鉄鉱

土偶観察表

図版	出土地点	部位	作り	文様/特徴/付着物	備考
25	I A-2 住炉内	右脚	中実	沈線文 膝と脚にアスファルト	
239	I B-2 住埋土中部	胴~左脚	中実	頂部に刻みを持つ隆帯 刺突文と沈線文 羽状縄文 0段多条RL	10破片の接合 胴内部に磁器
240	I B-2 住埋土中部	頭	中実	目・鼻・口は隆帯によって表現 沈線文 0段多条RL	粘土芯
241	I B-2 住埋土中部	左脚	中実	沈線文 0段多条RL	No.4と接合? 粘土芯
242	I B-2 住埋土中部	右脚	中実	沈線文 0段多条RL	2破片の接合 粘土芯
2099	II A 0 f Ⅲ層中部	ほぼ完形	中実	頭髪は隆帯と突起 眉・鼻は隆帯 目・口は深い沈線 耳に貫通孔 耳飾り? 肘肥厚 脚部は表裏両面とも沈線文 背の上端に高まり	頭髪の一部と右足 先欠損
2100	I A 9 j Ⅲ層中部	頭	中実	眉・鼻・目・口?は隆帯で表現 首にアスファルト 0段多条 RL	
2101	I A 8 i Ⅲ層下部	頭	中実	額に隆帯 口は隆帯、目は沈線によって表現 沈線文	割れ口凹
2102	I A 9 i Ⅲ層中部	頭	中実	眉・鼻は隆帯で表現 後頭部に刺突文 首割れ口にアスファルト	割れ口凹
2103	I A 8 j Ⅲ層中部	頭部	中空	仮面? 頭髪は突出 目・鼻は隆帯 口は貫通孔 片に隆帯が巡る	人面付き土器?
2104	II A 0 g Ⅲ層中部	胴	中実	胸部上端にペダント? 中軸線は隆帯 下腹部強調 背中上端に高まり 刺突文と沈線文 首割れ口にアスファルト	2破片の接合
2105	I A 9 j Ⅲ層中部	胸~右腕	中実	上腕部に沈線	胴部割れ口深く凹
2106	II A 1 g Ⅲ層中部	胸	中実	背中上端に高まり 乳房欠落 首割れ口にアスファルト	胴と首の割れ口凹
2107	II A 0 f Ⅲ層中部	胴	中実	座り形 胴内部に棒状の刺突孔	首割れ口に溝状の窪み
2108	I A 9 j Ⅲ層	左脚	中実	棒状	
2109	I A 8 j Ⅲ層	脚	中実	単脚 側縁部に沈線文	
2110	II A 0 h Ⅲ層下部	胸~左腕	中実	沈線文 胸部割れ口にアスファルト	胸部割れ口深く凹
2111	I B 8 e Ⅲ層中部	左腕	中実	上腕と肘肥厚 沈線文	肩部割れ口凸

図版	出土地点	部位	作り	文様/特徴/付着物	備考
2112	I B 9 c Ⅲ層中部	右腕	中実	沈線文 5本指	
2113	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	右腕	中実	掌にひねり	
2114	I B 9 a Ⅲ層中部	左脚	中実	刻みにより指表現 6本指? 内腿にアスファルト	
2115	Ⅱ A 0 f Ⅲ層	左脚	中実	膝部肥厚	
2116	I B 8 d Ⅲ層	右足		裏面に深い四又文 4本指 裏から脚部に刺突孔	踵部は中実? 割れ口深く凹
2117	I A 9 f Ⅲ層	右足?		裏面に窪み	脚部は中空?
2118	Ⅱ A 9 f Ⅲ層	頭	中空	仮面状 目・唇・耳・眉・鼻は隆帯表現 口は貫通孔 顎に刺突 R L	
2119	I A 9 g Ⅲ層中部	右腕	中実	肘部肥厚 沈線による曲線文	
2120	Ⅱ A 0 h Ⅲ層中部	胴	中実	沈線による磨消縄文 胴内部に上下からの挟り 乳房欠落 L R	胎土に海綿骨針?
2121	I B 8 d Ⅲ層	左腕	中実	肘部に突起 半浮彫的磨消縄文 三又文 赤色塗彩 0段多条 L R	
2122	I B 6 i Ⅲ層中部	左目	中空	目は沈線によって表現 突起	
2123	I B 6 i Ⅲ層中部	首	中空	沈線文と突起 No44と同一個体?	
2124	Ⅱ C 4 g Ⅲ層	股間	中空	脚付け根に連珠文 沈線区画の磨消縄文 R L	
2125	I B 8 b Ⅲ層下部	左肩?	中空	肩に浮彫的な突起 沈線による三又文系曲線文	
2126	I B 8 e Ⅲ層下部	右脚	中空	半浮彫的な磨消縄文 沈線区画の刻み列 股間に貫通孔 L R	
2127	I A 9 i Ⅲ層	右脚	中空	沈線による磨消縄文? 平行沈線と刻み列 R L?	
2128	I A 9 i Ⅲ層中部	胸~左腕	中空	首の回りに連珠文 沈線区画の磨消縄文 R L	
2129	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	胴	中実	沈線による曲線文と刺突文 腹部は浮彫的	胎土に海綿骨針?
2130	I B 6 h Ⅲ層中部	背	中空	沈線による半浮彫的文様	
2131	I B 9 b Ⅲ層下部	左肩?	中空	肩に浮彫的な突起 沈線による曲線文	
2132	I C 9 e Ⅲ層上部	胴	中空	腰に破線沈線をもつ低い隆帯 一部口縁部の土器?	胎土に海綿骨針
2133	Ⅱ A 0 e Ⅲ層中部	左腕?	中空	肩に突起 沈線区画の浅い刺突文 赤色塗彩	
2134	I B 5 b Ⅲ層中部	股間	中空	沈線区画の磨消縄文 L R	
2135	I C 8 e Ⅲ層中部	胸~左腕	中空	頂部に刻みを持つ隆帯と沈線による曲線文 L R?	
2136	I C 8 e Ⅲ層下部	腹	中空	頂部に刻みを持つ隆帯 半浮彫的な磨消縄文 L R	
2137	I C 9 e Ⅲ層	胸~左腕	中空	頂部に刻みを持つ隆帯と沈線による渦巻曲線文 赤色塗彩	乳房欠落
2138	I B 8 d Ⅲ層	腹	中空	頂部に刻みを持つ隆帯と沈線による曲線文 L R	
2139	Ⅱ A 0 g Ⅲ層	腹?	中空	肩? 沈線区画の磨消縄文 突起 円形の小刺突 0段多条 R L	
2140	I C 8 e Ⅲ層	背?	中空	沈線文 首と胴の割れ口にアスファルト L R?	
2141	I C 8 e Ⅲ層中部	右肩	中空	頂部に刻みを持つ隆帯 半浮彫的な磨消縄文 L R	
2142	Ⅱ A 0 e Ⅲ層中部	背	中空	沈線による半浮彫的文様	
2143	I B 7 e Ⅲ層	胴	中実	頂部に刻みを持つ隆帯と沈線による曲線文 股間に刺突孔 右脚付け根にアスファルト 赤色塗彩 L R	粘土芯 首割れ口凹
2144	I A 9 i Ⅲ層	左肩	中実	頂部に刻みを持つ隆帯と低い隆帯	
2145	Ⅱ C 9 g Ⅲ層	左腰	中空	沈線による曲線文	
2146	Ⅱ A 0 g Ⅲ層中部	右腰	中空	沈線による渦巻曲線文 赤色塗彩	
2147	I A 9 h Ⅲ層上部	右脚	中空	腰に刺突文 沈線文	
2148	I A 0 g Ⅲ層	足	中空	左右不明 赤色塗彩	
2149	Ⅱ A 0 f Ⅲ層中部	左脚	中空		
2150	Ⅱ C 2 g Ⅲ層	右脚	中空		

土製円盤観察表

図版	出土地点	長径	短径	厚さ	重量	周辺の加工	原体	備考
12	I A-1 住居	6.4	5.75	0.55	19.45	打ち欠き		底部使用 円盤? ミガキ
34	I A-3 住埋土下部	4.4	4.3	0.5	13	全周研磨	L R・R L	地文のみ 羽状縄文 0段多条
149	I A-6 住埋土下部	4.8	4.65	0.65	18.5	全周研磨	L R・R L	地文のみ 羽状縄文
342	Ⅱ C 2 g-1 土坑埋土	3.3	3	0.6	7.24	部分研磨?		地文のみ 摩耗 原体不明
375	I B 6 e-1 埋設土器	4.25	4.05	0.55	10.9	打ち欠き	L R	地文のみ 縦絡文 内面にスス
408	I A 9 j 集石	2.9	2.45	0.7	6.15	全周研磨	L R・R L	充填縄文? 羽状縄文 0段多条
409	I A 9 j 集石	3	2.9	0.75	6.89	全周研磨	L R・R L	地文のみ 羽状縄文 0段多条
410	I A 9 j 集石	4.25	4	0.5	13.46	全周研磨	L R	地文のみ 羽状縄文 0段多条 2種類の原体?
411	I A 9 j 集石	4.9	4.45	0.75	17.86	部分研磨	L R・R L	磨消縄文 羽状縄文
412	I A 9 j 集石	4.9	4.8	0.7	19.75	全周研磨		無文 表面中央にアスファルト
2151	I B 7 e Ⅲ層	3.4		0.5	5.69	打ち欠き	L R・R L	破損品 地文のみ 羽状縄文? 0段多条
2152	I B 6 e Ⅲ層	3.6	3.4	0.7	9.71	打ち欠き	L R	地文のみ
2153	I B 8 e Ⅲ層上部	4.1	3.65	0.7	11.75	打ち欠き	R L	充填縄文? 0段多条
2154	I B 9 a Ⅲ層	3.75	3.6	0.7	9.95	打ち欠き	L R	地文のみ 0段多条
2155	I B 8 d Ⅲ層上部	4.4		0.6	13.23	打ち欠き	L R	破損品 0段多条?
2156	I B 6 g Ⅲ層	5	4.8	0.7	22.55	打ち欠き	L R・R L	地文のみ 羽状縄文
2157	I B 6 f Ⅲ層上部	4.9	4.6	0.5	15.96	打ち欠き	R L	地文のみ 表面に未貫通の穿孔?
2158	I C 9 e Ⅲ層下部	4.45	4.35	0.45	10.79	打ち欠き	L R	地文のみ

図版	出土地点	長径	短径	厚さ	重量	周辺の加工	原体	備考
2159	I B 6 f Ⅲ層中～下部	5.15		0.6	14.09	打ち欠き	L R	破損品 地文のみ 0段多条
2160	I B 8 b Ⅲ層	5.3	4.75	4.75	20.91	打ち欠き	L R ?	地文のみ
2161	II A 0 g Ⅲ層中部	5.3	4.5	0.7	21.69	打ち欠き	L R	地文のみ
2162	I B 6 f Ⅲ～IV層	5.5	5	0.6	19.96	打ち欠き?	R・L R	地文のみ 羽状縄文 片方無節?
2163	I B 8 e Ⅲ層上部	5.9	5.1	0.65	23.99	打ち欠き	L R	地文のみ
2164	II A 0 d Ⅲ層	5.1	4.2	0.95	21.89	打ち欠き	L	地文のみ 網目状燃糸文
2165	I C 9 f Ⅲ層	5.7	5.4	0.5	21.61	打ち欠き	L R	地文のみ 0段多条
2166	I B 7 e Ⅲ層	5.5	5.3	0.6	24.52	打ち欠き	L R ?	地文のみ 0段多条
2167	II A 0 f Ⅲ層	7	6.5	0.55	35.36	打ち欠き	L R	地文のみ
2168	I B 8 b Ⅲ層中～下部	5	4.5	0.6	16.31	打ち欠き	R L	磨消縄文 0段多条
2169	I B 7 d Ⅲ層上部	4.7	4.4	0.7	16.7	打ち欠き		磨消(充填)縄文 摩耗 原体不明
2170	I C 9 e Ⅲ層	4.75	4.55	0.5	11.11	打ち欠き	L R	地文のみ 0段多条 裏面に未貫の穿孔
2171	I A 9 g Ⅲ層下部	5.3	4.7	0.5	15.8	打ち欠き		半浮彫的な文様 赤色塗彩 胎土に海綿骨針
2172	I B 9 b Ⅲ層中部	3.6	3.6	0.8	9.72	打ち欠き		無文
2173	II A 0 g Ⅲ層下部	4.8	4.8	0.6	15.52	打ち欠き		底面使用 円盤? 無文 ミガキ
2174	II A 0 d Ⅲ層中部	5.15	4.2	0.85	21	打ち欠き		底面使用 無文
2175	I B 区 0層	3	2.6	0.7	6.76	部分研磨	L R ?	地文のみ
2176	II A 0 j Ⅲ層中部	3.1	3.1	0.7	8.79	全周研磨	L R・R L	丁寧な研磨 地文のみ 羽状縄文 0段多条 アスファルト
2177	I B 6 j Ⅲ層	3.5	3.4	0.6	6.93	部分研磨?	L R	地文のみ
2178	I B 8 e Ⅲ層	3.6	3.2	0.45	6.2	部分研磨	L R・R L	地文のみ 羽状縄文 0段多条
2179	I B 8 d Ⅲ層	3.95	3.35	0.55	9.35	部分研磨	R L	地文のみ 0段多条
2180	I A 9 j Ⅲ層中部	3.6	3.5	0.7	11.16	部分研磨	L R	充填縄文? 0段多条
2181	I B 8 c Ⅲ層	3.95	2.95	0.45	7.04	部分研磨	R L ?	地文のみ 摩耗
2182	I B 8 b Ⅲ層	3.5	2.9	0.6	8.4	部分研磨		一部破損 無文 雑なミガキ
2183	I B 8 d Ⅲ層上部	3.8	3.6	0.4	7.05	部分研磨		無文 ミガキ
2184	II C 0 g Ⅲ層	4	3.8	0.65	12.26	部分研磨	R L ?	地文のみ 0段多条?
2185	I B 5 i Ⅲ層	4.2	3.9	0.8	14.97	部分研磨?	L R・R L	地文のみ 羽状縄文? 0段多条
2186	I B 6 i Ⅲ層	3.95	3.55	0.8	15.25	部分研磨	R L	一部破損 地文のみ
2187	I B 8 b Ⅲ層	4.95	4.5	0.6	17.14	部分研磨?	R L ?	地文のみ 摩耗
2188	I B 8 a Ⅲ層	4.7	4.2	0.8	20.42	部分研磨	L	充填縄文 燃糸文
2189	I B 8 e Ⅲ層中部	4.9	4.1	0.65	16.94	部分研磨	R L	地文のみ 0段多条
2190	I A 9 i Ⅲ層中部	5.4	4.9	0.85	28.16	部分研磨	L R ?	地文のみ 0段多条
2191	II C 1 f Ⅲ層上部	4		0.55	7.06	部分研磨	R L	破損品 地文のみ 0段多条
2192	I B 8 b Ⅲ層	4.9		0.65	14.33	部分研磨?	R L ?	破損品 地文のみ 摩耗
2193	II C 0 g Ⅲ層	4.6		0.5	3.59	部分研磨		破損品 無文 ミガキ 内面赤色塗彩
2194	I C 9 e Ⅲ層	5.55	5.5	0.7	25.49	部分研磨	L R	地文のみ
2195	I B 8 c Ⅲ層上部	3.1	2.9	0.4	4.19	部分研磨		無文 ミガキ
2196	I B 9 a Ⅲ層	4.9	4.5	0.6	11.44	部分研磨?		底面使用 無文
2197	II A 0 f Ⅲ層中部	4.2	3.65	0.5	9.5	部分研磨	R L	地文のみ 有孔
2198	I C 8 f Ⅲ層上部	4.55	4	0.6	14.74	部分研磨	L R	有孔 地文のみ 0段多条
2199	I C 8 e Ⅲ層	4	3.7	0.4	8.26	部分研磨	R L	沈線文? 0段多条
2200	I B 8 d Ⅲ層	3.85	3.4	0.6	9.57	部分研磨	L R	有孔 地文のみ
2201	I B 8 d Ⅲ層	3.6	3.5	0.45	6.04	部分研磨	L R	地文のみ
2202	I C 8 e Ⅲ層	4.3	4.1	0.6	12.17	全周研磨	R L	有孔 地文のみ 0段多条
2203	I C 8 e Ⅲ層	4.1		0.7	7.58	部分研磨?	L R	破損品 有孔 地文のみ
2204	II C 3 g Ⅲ層下部	5.25		0.55	10.94	部分研磨		破損品 有孔 地文のみ 原体不明
2205	I B 8 e Ⅲ層中部	3.4	3.1	0.8	10.99	全周研磨	L R	丁寧な研磨 地文のみ
2206	II A 0 i Ⅲ層中部	3.3	3	0.55	6.71	全周研磨		地文のみ 摩耗 原体不明
2207	II A 0 f Ⅲ層中部	3.3	2.7	0.8	8.56	全周研磨	L R	楕円形 丁寧な研磨 地文のみ
2208	II A 区 Ⅲ層	3.1	2.9	0.45	5.68	全周研磨	L R・R L	地文のみ 羽状縄文 0段多条
2209	I B 9 b Ⅲ層中部	3.8	3.4	0.45	8.11	全周研磨	L R	丁寧な研磨地文のみ 0段多条
2210	II A 0 i Ⅲ層中部	3.7	3.15	0.65	11.7	全周研磨	R L ?	一部破損 地文のみ
2211	II A 0 i Ⅲ層上部	4.45	3.9	0.7	16.5	全周研磨	L R	丁寧な研磨 地文のみ 裏面にアスファルト?
2212	I B 8 e Ⅲ層	4.55	4.3	0.5	9.9	全周研磨		無文 ミガキ
2213	II A 0 g Ⅲ層中部	4.1	3.7	0.5	10.26	全周研磨		無文
2214	I B 8 e Ⅲ層中部	4.8	4.4	0.55	12.75	全周研磨	L R・R L	丁寧な研磨 地文のみ 羽状縄文 0段多条
2215	I B 9 a Ⅲ層中部	4.8	4.5	0.6	17.18	全周研磨	L R・R L	地文のみ 羽状縄文 0段多条
2216	II A 0 e Ⅲ層中部	4.7	4.65	0.6	16	全周研磨	L R・R L	地文のみ 羽状縄文 0段多条
2217	II A 0 h Ⅲ層最上部	5.2	4.2	0.8	21.22	全周研磨	R L	一部破損 地文のみ 0段多条
2218	II A 0 f Ⅲ層中部	6.1	5.2	0.75	28.7	全周研磨	L R	地文のみ
2219	I B 5 f Ⅲ層	6.15	5.5	0.6	23.51	全周研磨	L R	地文のみ
2220	I B 8 c Ⅲ層	4.15		0.7	10.96	全周研磨	R L	一部破損 地文のみ
2221	II A 0 e Ⅲ層下部	4.3	3	0.65	8.66	全周研磨	L R	地文のみ 0段多条

図版	出土地点	長径	短径	厚さ	重量	周辺の加工	原体	備考
2222	II A 0 e III層中部	5		0.6	8.7	全周研磨	L R	破損品 有孔 地文のみ
2223	IC 8 e III層	4.8		0.5	6.72	全周研磨	R L	破損品 丁寧なミガキ 有孔? 地文のみ 0段多条
2224	II C 3 g III層上部	3.3	3.3	0.6	6.4	部分研磨?	L R?	磨消縄文 摩耗
2225	II C 0 f III層	3.6	3.4	0.5	4.64	全周研磨	L R	半浮彫的な磨消縄文
2226	IC 8 e III層	3.4	3.2	0.4	5.64	全周研磨	R L	丁寧な研磨 有孔 地文のみ
2227	IB 7 c III層	4	3.4	0.5	8.72	全周研磨	L R	丁寧な研磨 有孔 地文のみ
2228	IA 9 f III層	3.6	2.8	0.5	6.95	全周研磨		丁寧な研磨 有孔 無文 ミガキ
2229	IC 8 e III層	4.3	3.3	0.5	7.58	全周研磨	L R	いびつ 有孔 地文のみ
2230	IC 9 e III層上部	4.1	3.8	0.45	8.31	全周研磨	L R	有孔 0段多条
2231	IB 7 b III層	4.45	4	0.4	8.9	全周研磨	L R	有孔 地文のみ
2232	IB 6 i III層	4.45	4.1	0.45	8.86	全周研磨	L R	丁寧な研磨 有孔 地文のみ
2233	IC 8 e III層	5.05		0.6	11.09	全周研磨		破損品 丁寧な研磨 有孔 沈線文 ミガキ
2234	IA 0 j III層上部	3.25		0.5	4.44	全周研磨	L R	破損品 有孔 地文のみ 0段多条
2235	IB 8 d III層	4.5		0.6	7.35	全周研磨	L R・R L	破損品 有孔 羽状縄文 R Lは0段多条
2236	IB 8 c III層	3.4	2.8	0.55	6.26	全周研磨	L R	磨消縄文 有孔
2237	IC 8 e III層下部	3.45		0.7	6.54	全周研磨	L R・R L	破損品 有孔 地文のみ 羽状縄文 0段多条
2238	IB 7 e III層	4.3	3.5	0.7	18.58	全周研磨	L R	両面に未貫の穿孔 地文のみ
2239	IA 9 h III層上~中部	5.7	5.5	0.8	24.18	全周研磨		底面使用 有孔 無文

土製品観察表

図版	出土地点	種類	重量	備考
2240	II A 0 e III層	耳飾り	3.07	破損品 一部のみ残存 環状 ミガキ
2241	II A 0 g III層中部	耳飾り	4.77	破損品 約1/6残存 環状 ミガキ
2242	IA 9 j III層	耳飾り	6.55	破損品 約1/6残存 環状 縁辺に刻み
2243	IA 9 h III層	耳飾り	9.04	破損品 片面剥落 竹環状工具による刺突文 赤色塗彩
2244	II A 0 f III層中部	耳飾り	43.85	破損品 片面一部剥落 環状 ミガキ
2245	II A 0 j III層中部	垂飾り	17.96	一部破損 沈潜区画された低い隆帯と小突起 ミガキ
2246	II A 0 i III層中部	垂飾り?	11.79	破損品 約1/3残存 玉条 貫通孔 ミガキ
2247	IB 8 e III層下部	装飾品	3.25	片端欠損 両端部に小孔 半浮彫的文様と沈線文 ミガキ
2248	II A 0 g III層下部	スタンプ	29.82	完形 低いくぼみ ミガキ
2249	IA 9 j III層中部	スタンプ	34.9	完形 細い把手 境に沈線 縄文 0段多条L R
2250	IB 8 e III層中部	スプーン	8.6	破損品 身部欠損 沈線文と小刺突 ミガキ 赤色塗彩?
2251	IB 6 i III層中部	土面?	48.95	破損品 一部のみ残存 眼孔部? 緩く湾曲 雑なミガキ
2252	IA 9 j III層中部	不明	36.1	完形 水滴状 雑なミガキ

骨角器観察表

図版NO	出土地点	種別	長さ	幅	厚さ	備考
2253	II A区III層	垂飾り?	2.4	0.8	0.7	エナメル質のみ残存 加工痕無し
2254	II A 0 f III層	垂飾り?	2.4	1.0	0.9	エナメル質のみ残存 加工痕無し
2255	II A区III層	垂飾り?	2.1	1.0	0.8	エナメル質のみ残存 片面に擦痕
2256	II A区III層	垂飾り	2.0	0.8	0.5	エナメル質のみ残存 径5mm前後の小孔
2257	II A区III層	垂飾り	1.9	1.3	0.5	エナメル質のみ残存 径4mm前後の小孔
2258	II A区III層	垂飾り	1.6	1.2	0.4	エナメル質のみ残存 径4mm前後の小孔

金属品観察表

図版NO	出土地点	種別	長さ	幅	厚さ	備考
2259	II A 0 i III層上部	鉄釘	6.2	0.8	0.6	先端部と身部は四角、頭部は扁平
2260	II A 0 j III層上部	鉄斧	7.0	3.2	0.7	袋部はU字形 刃部は扇形
2261	IB 6 a II b層	元祐通寶	2.5	2.5	0.1	行書体 火熱を受けている

V. まとめ

1. 遺構

今回の調査で検出された主な遺構は、縄文時代の竪穴住居跡（以下、住居跡と略す）及び住居跡状遺構17棟、土坑65基、埋設土器33基、炉・焼土遺構18基等と遺物包含層である。なお、土坑の多くは、規模や形態から墓壙と考えられる。これらの検出遺構から上鷹生遺跡の性格は、縄文時代の集落跡として位置づけられよう。さらに集落跡の構成要素面からは、住居跡群と貯蔵用土坑＝居住域、墓壙と埋設土器＝墓域としての2つの側面を持っていることが指摘できる。ここではこの2側面と遺物包含層について、若干の考察を加えまとめとしたい。

居住域の主格を構成する住居跡は、時期的に後期13棟、晩期4棟に大別される。さらに出土した遺物と重複関係から後期中葉期6棟、中葉～後葉期1棟、後葉期2棟、不明4棟、晩期前葉期1棟、前葉～中葉期2棟、後葉期1棟に細分される。

分布及び占地を見ると、いずれも調査区の西側の沢に近い区域の、急斜面の下部から緩斜面の下部にかけて集中して占地しており、多くの住居跡間で切り合いが見られる。時期が推定できたものの中で、比較的数の多い後期中葉期の分布に着目すると、調査区の中央南側（A区とB区の境界付近）に空白地帯を持ち、これを囲むような配置が窺われ、全体としては南側の緩斜面部にかけて環状を成す構成も想定できる。

時期別の形態では後期の住居跡は、硬い地山層まで掘り込んで構築されるものが多いが、晩期の3棟はいずれもⅢ層中に床面を持ち、プランもはっきりしない。これは後述する墓域としての性格と係わる要素が多く、時期による遺跡の変遷に起因しているものと考えられる。

炉の形態では後期の住居跡は地床炉のものが多い（後葉期1棟と不明〔初頭?〕1棟は石囲炉）が、晩期のものはいずれも石囲炉を持つ。斜面に立地するため全プランを検出できたものはなく、規模を明確に把握できた住居跡は2棟だけであるが、残存部からの推定では10㎡弱～15・17㎡大の規模を有するものと考えられる。明確な柱穴が検出されたものはない。

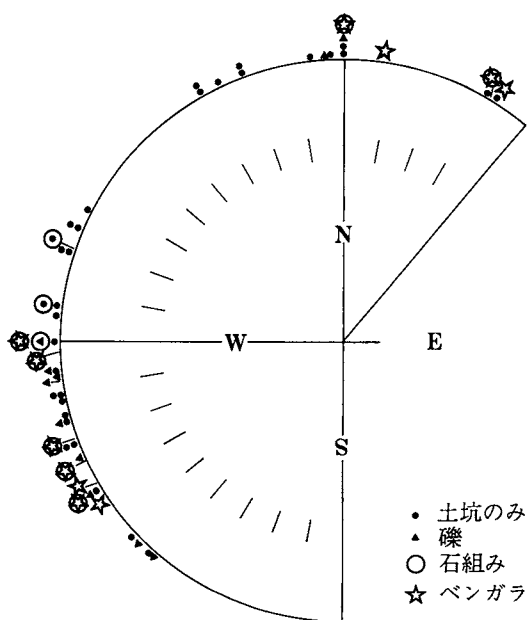
墓域は土坑墓と埋設土器から構成されている。墓壙は急斜面の中位から平坦部まで、一部希薄な区域はあるものの、調査区のほぼ全域から検出されている。また、埋設土器は、墓壙よりいくぶん斜面の下部に占地するが、全体としては同じ範囲の分布と見て良いであろう。墓壙のうち出土遺物から時期が明確に判断できるものは、晩期前葉期の1基だけであるが、埋設土器の時期と検出された層位から大半は晩期に属するものと考えられる。なお、埋設土器は晩期初頭～中葉期までの時間幅を有しており、墓壙も同様な時期幅を持つものと考えられる。

墓壙の形態には掘り方のみを有するもの（33基）、壁際に石組み・配石を有するもの（12基）、集石及び立石を伴うもの（1基）、礫を数個伴うもの（12基）があり、内部に赤色顔料の散布が

見られるもの（10基）がある。また、この他に集石遺構の下部から検出された土坑が3基ある。しかし、これらの形態の相違について、時間的変遷を明らかにできる資料は得られなかった。

第203図には軸方向の分布を示した。赤色顔料の散布位置によって頭位の推定が可能なものは10基（2基は不明）あり、これらはほぼ南北を示す1基と東偏する1基を除いて、いずれも西側に偏している。これに基づき作図に当たっては、北から西にかけて角度で分布図を作ったが、頭位が明確でない墓塚は180°反転する可能性を持つ。個々の立地から考えると、地点ごとの顕著なまとまりはなく、斜面（等高線）に沿った構築とも見ることができるが、軸方向は石組・配石を有するものは西～西南西に集中し、掘り方のみものは北及び北北西と西北西への分布が窺われる。また、礫を伴うものは石組・配石を有するものと分布を同じくしている。これら各群が時的なまとまりであるのか、集団のまとまりであるのかを判断できる積極的な材料はないが、軸方向に何らかの意識が働いている結果であろう。

埋設土器は、同市大洞貝塚や陸前高田市中沢浜貝塚の事例が示すように、死産児或いは新生児の埋葬形態と考えられる。この2遺跡の他、盛岡市萩内遺跡や上米内遺跡、水沢市杉の堂遺跡等では墓塚と埋設土器が当遺跡同様に墓域を構成しており、県内における該期の葬制の特徴と見て良いであろう。大半が粗製土器を使用しているため、個々の詳細な時期は不明なものが多いが、文様や形態から晩期初頭（大洞B2式期）～中葉（大洞C2式、一部A式？）までの時期幅を有している。埋設形態では横位が1例、倒立1例で、この他は正位に埋設されている。ただし、3例を除いて斜面の下方に傾く斜位での埋設である。これが意識的に行われたものか、土圧によるものかは不明である。



土器内に遺物を伴うものは6例あり、石鏃・石錐等の剥片石器を伴うものが2例、凹石が1例、磨石と磨製石斧が1例、浅鉢が1例、土製円盤が1例である。該期の埋設土器中に、明確に副葬品が検出された事例は、県内では当遺跡が初めてである。また、土器内に赤色顔料の散布が確認されたものが2例ある。

墓域の構成要素として、墓塚と埋設土器の他に配石・集石遺構があげられる。集石遺構の下部から検出された同形態の土坑の存在や、集石・礫を伴う墓塚の形態からもこの関係は裏付けられるが、個々の集石及び集石地帯と墓塚・埋設土器との関連は把握できなかった。

第203図 墓塚の軸方向分布図

しかし、調査区から検出された礫群は、大きな意識に基づいた人的行為であることは事実であろう。

以上、晩期の当地区は複数の土器形式に跨って、墓域としての性格を維持し続けたことがわかる。調査区内には4棟の住居跡も検出されているが、これらが全て後期の住居跡に比べて脆弱な構造であることは、本来居住域ではない地区に建てられたためと考えられる。

また、複数の住居跡から構成される居住域が発見されなかったことは、これとは別の空間に墓域が設定された事例であると共に、これが晩期の時間幅を通じて踏襲された1例と言える。

調査区のほぼ7割に当たる部分に遺物包含層が形成されている。遺物の時期と種類では縄文時代晩期土器が卓越し、包含層の大半が晩期に形成されたものと考えられる。また、形成範囲は墓域と埋設土器の分布範囲と一致している。

なお、IV章で述べたように当遺跡の遺物包含層は、他の遺跡に比べて異なった様相を呈する。第1は斜面上部に形成されていることで、第2は故意的な破壊痕を持つ土器等、儀礼的な行為が認められる遺物が出土することである。第2の解釈に付いては、墓への供献、副葬等の儀礼行為が合理的であると考えられる。しかし、周辺地区に廃棄行為に便利な低い面を有しながら、敢えて斜面上部に廃棄を行っている第1の解釈は、現象面からだけでは判断できにくい。これは調査区が極狭い範囲であることに起因する見かけ上現の象で、単なる集落の周辺部への廃棄行為である可能性もある。しかし、包含層中には小さな土器片、多量のチップが含まれており、このような日常生活における「ゴミ捨て場」としての機能と、墓域という幽明境的な空間との共有関係を考えると、廃棄行為に伴ったある種の儀礼（精神面的事象）の存在を考えざるを得ない。これは西本豊弘氏が指摘（西本：1983）するように、包含層中に多量に含まれる焼獣骨にも反映するものかも知れない。

2. 遺物

遺構内及び包含層からの出土遺物はコンテナ180箱である。このうち9割以上を土器が占める。土器の分類に当たっては従来の形式編年に準拠するよう努めたが、執筆者が各土器形式の理解が不十分のまま分類を行ったため、かなり雑駁なものとなってしまったことは否めない。反省を大にするところである。

土器の時期には縄文時代早期末～前期初頭期、前期前葉期、中期中葉～末葉期、後期初頭～末葉期、晩期初頭期～後葉期、弥生時代前期と後期があり、主体を成しているのは後期中葉～晩期後葉期である。

後期の土器は宮城県気仙沼市田柄貝塚において、分層発掘された土器群と同じ形態を有する。

出土量は中葉から後葉期のものが多く、検出された住居跡数からもこの時期が後期における隆盛期であったと考えられる。

出土量では晩期中葉期の大洞C2式が最も多く、同C1式、BC（BC2）式、B（B2）式がこれに続く。出土量の差がそのまま遺構面に反映するとは限らないが、晩期の初頭から中葉期までが当遺跡の隆盛期であろう。

弥生土器には前期の初頭期の土器と後期末葉期の土器があり、後者については他の遺跡で共判関係が認められている北海道系の土器も出土している。

中世陶器には12世紀に遡る渥美焼や、13世紀前半代の常滑焼、伊豆沼焼等が含まれている。

3. おわりに

以上、上鷹生遺跡は縄文時代後期には居住域として、晩期には墓域としての機能を持った遺跡であることが今回の調査で明かとなった。

時間及び紙数の関係で、各時期における居住域・墓域の変遷や、墓壇・埋設土器の詳細な形態分類等を行っていない。また、執筆者の能力不足から当遺跡が内包する情報の極一部しか掲載できなかった。今後より細かな分析及び他の遺跡との比較を行い、稿を改めていきたい。

山内清男博士が1930年同市大洞貝塚の調査成果を基に、従来亀ヶ岡式土器と呼ばれていた土器群を「大洞式」とし6細分したことは周知の通りであるが、この後多くの研究者によってより細かな編年が試みられている。標識遺跡の周辺部に立地する当遺跡の土器群が、幾ばくかの参考となれば幸いと考える。

<参考・引用文献>

手塚 均他(1986);「田柄貝塚」.宮城県教育委員会.

高柳圭一(1988);「仙台湾周辺の縄文時代後期末葉から晩期初頭にかけての編年動向」.古代No.85.

小田野哲憲・熊谷常正・高橋信雄(1982);「岩手の土器」.岩手県立博物館.

金子昭彦(1990);「大洞B2式の磨消縄文について(上)」.紀要X I .岩手県埋蔵文化財センター.

———(1991);「大洞B2式の磨消縄文について(中)」.紀要X II .岩手県埋蔵文化財センター.

———(1992);「大洞B2式の磨消縄文について(下)」.紀要X III .岩手県埋蔵文化財センター.

———(1995);「岩手県上鷹生遺跡における土器口縁部の突起」.紀要X V .岩手県埋蔵文化財センター.

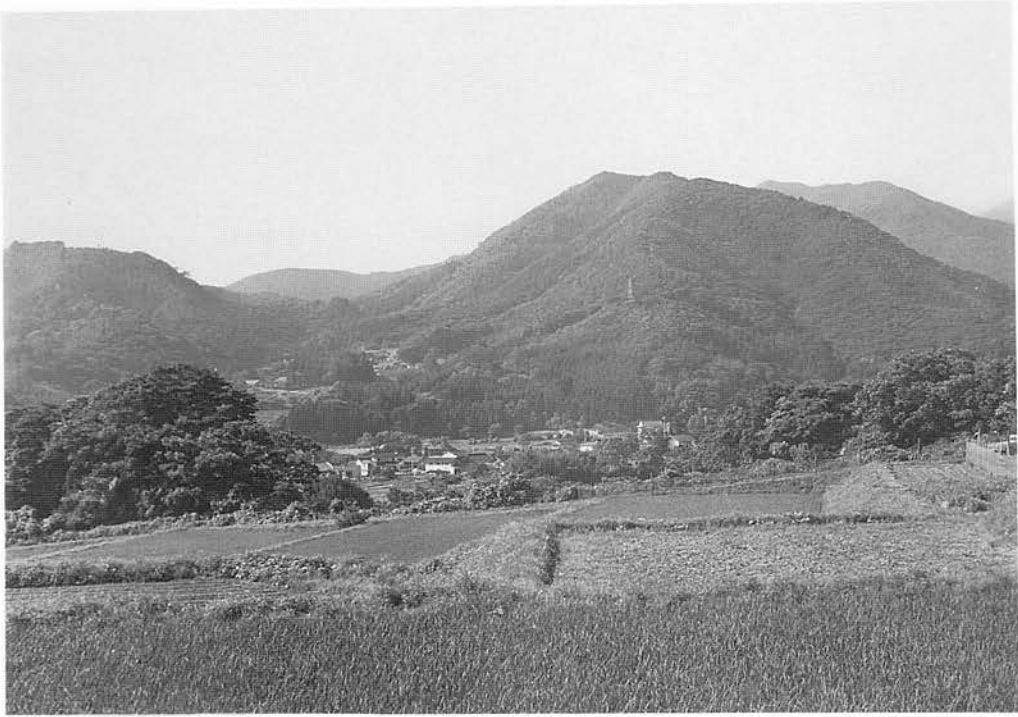
鈴木加津子(1993);「真福寺小考」.埼玉考古第30号.さいたま考古学会.

岩手県立博物館(1995);「縄文発信」.岩手県立博物館調査研究報告書第11冊.

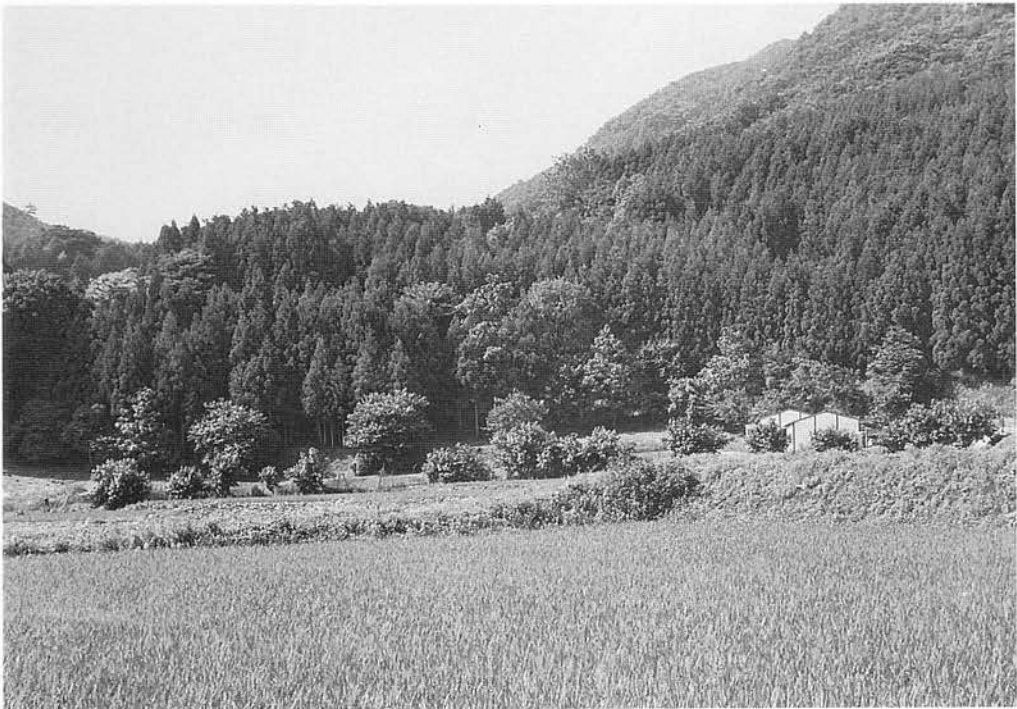
斉藤邦雄・酒井宗孝(1994);「岩手県の縄文時代葬制遺構について」.北奥古代文化第23号.

- 西本豊弘(1983);「縄文時代の動物と儀礼」.歴史公論9.No.94.
- 長谷部言人(1927);「石器時代の死産児甕葬」.人類学雑誌42-8.
- 陸前高田市教育委員会(1988);「中沢浜貝塚発掘調査概報Ⅳ」.陸前高田市文化財報告12.
- 岩手県埋蔵文化財センター;「大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書」.岩文振埋文報第225集.
- 東北歴史資料館(1979);「熊狩A窯跡発掘調査報告」.東北歴史資料館資料集Ⅰ.
- 中野晴久(1955);「常滑焼編年作業と今後の課題」.考古学ジャーナルNo.396.

写 真 图 版



遺跡遠景（南から）



遺跡近景（南から）

写真図版 1 遺跡遠景・近景



92年度調査区全景（南から）



92年度調査区近景（南から）

写真図版 2 空中写真



IC9e区土層断面



IC8e区土層断面

写真図版3 土層断面(1)

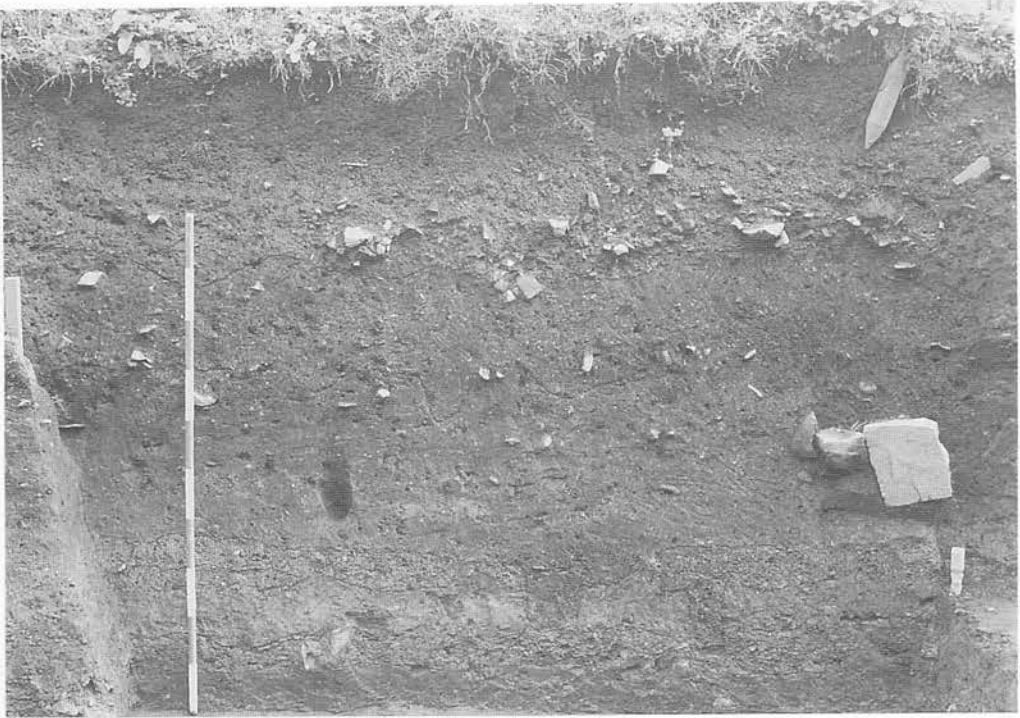


I B 9 b · c 区土層断面



II A 1 j 区土層断面

写真図版 4 土層断面 (2)

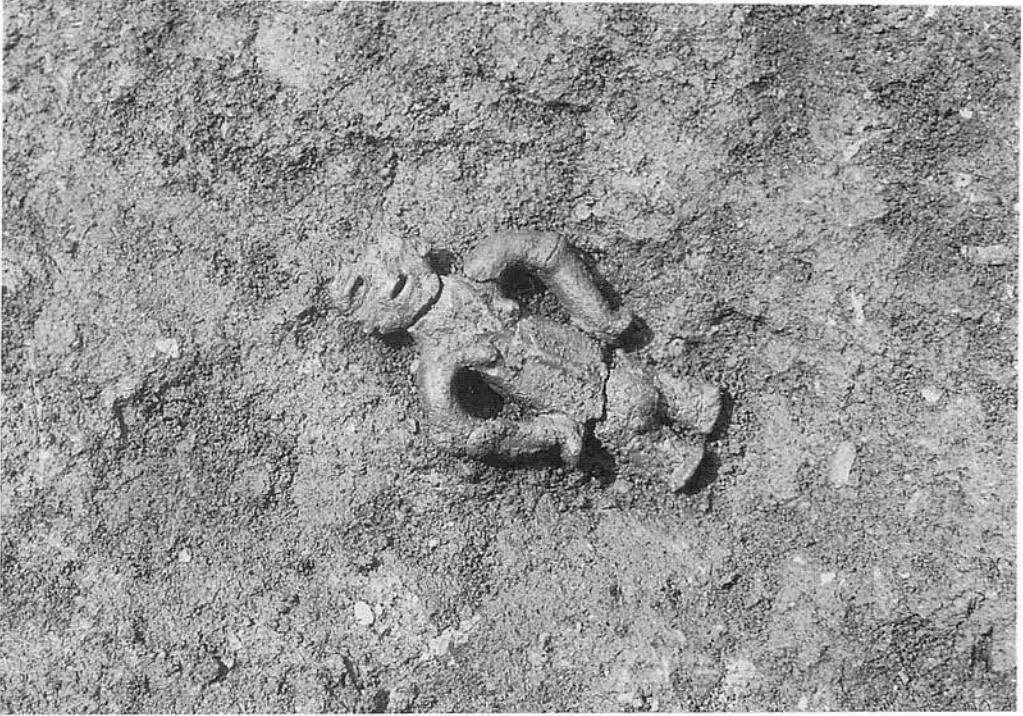


II A 1 g 区土層断面



遺物出土状況

写真図版 5 土層断面 (3) ・遺物出土状況



遺物出土状況



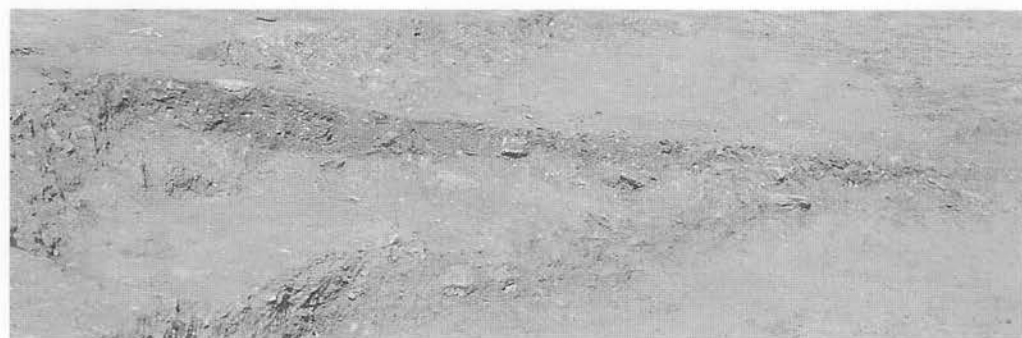
作業風景

写真図版 6 遺物出土状況・作業風景



I A-1 住居跡

平面



断面



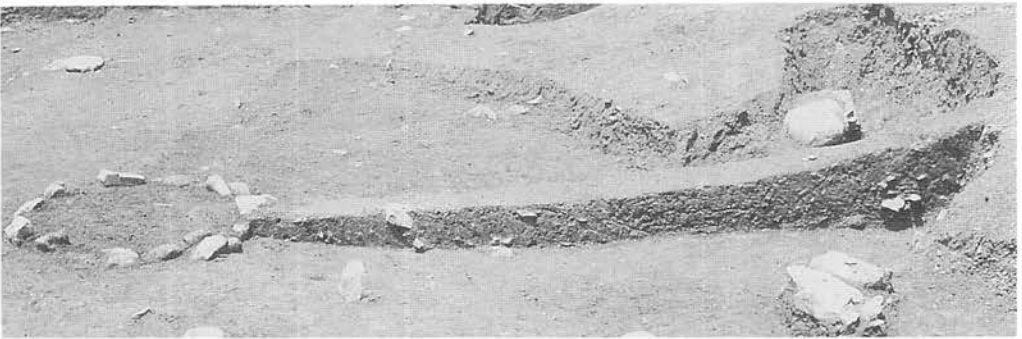
炉断面

写真図版7 I A-1 住居跡(1)

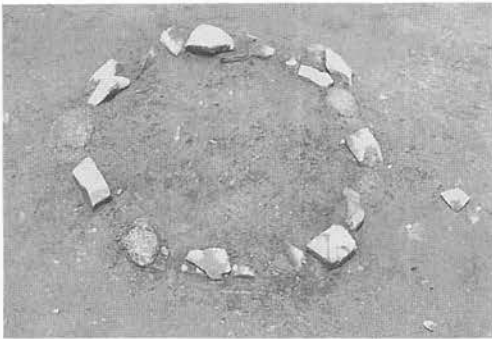


I A-2 住居跡

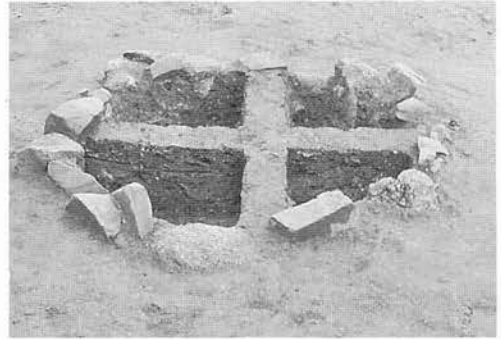
平面



断面



炉平面



断面

写真図版 8 I A-2 住居跡 (2)



I A-3 住居跡

平面



断面

写真図版9 I A-3 住居跡 (3)

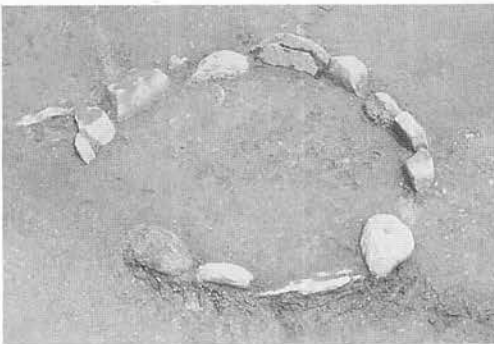


I A-4 住居跡

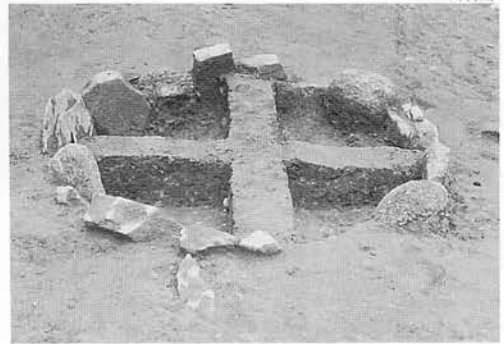
平面



断面



炉平面



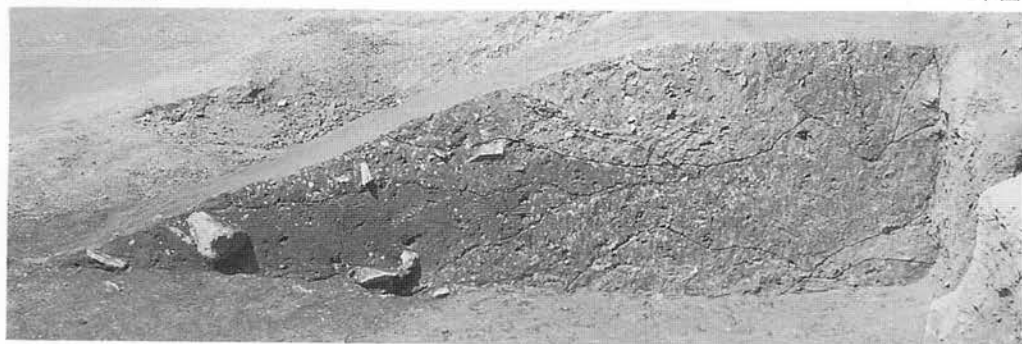
断面

写真図版10 I A-4 住居跡 (4)



I A-5 住居跡

平面



断面



炉平面



断面

写真図版11 I A-5 住居跡 (5)

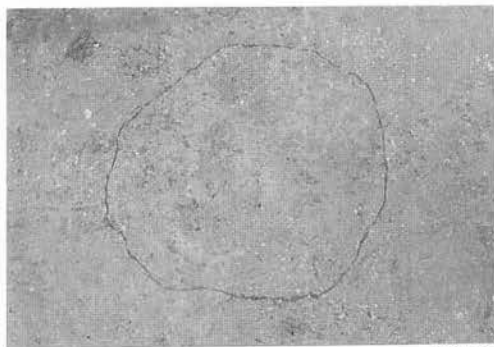


I A-6 · 7 住居跡

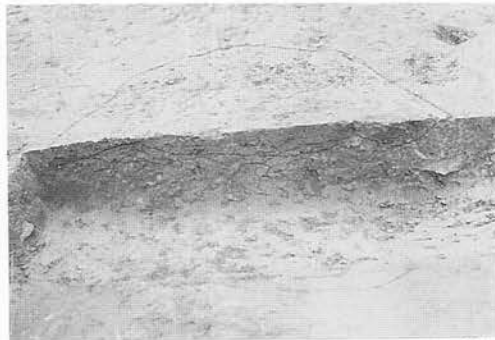
平面



断面



炉平面



断面

写真図版12 I A-6 · 7 住居跡 (6)



Ⅱ A-1 住居跡

平面



断面

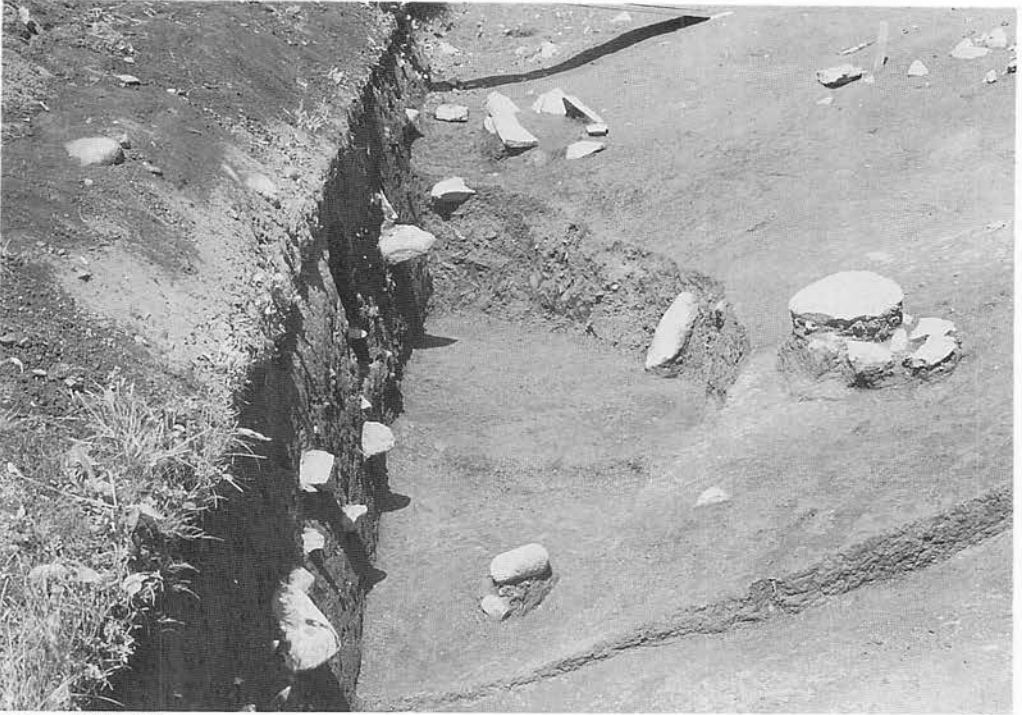


炉平面



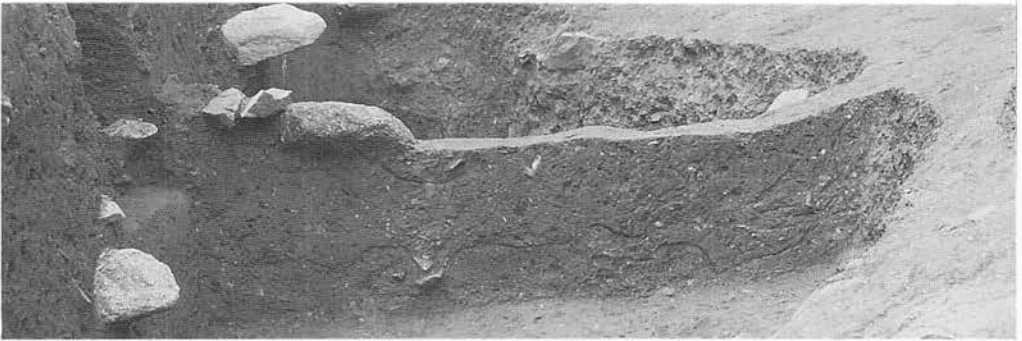
断面

写真図版13 Ⅱ A-1 住居跡 (7)

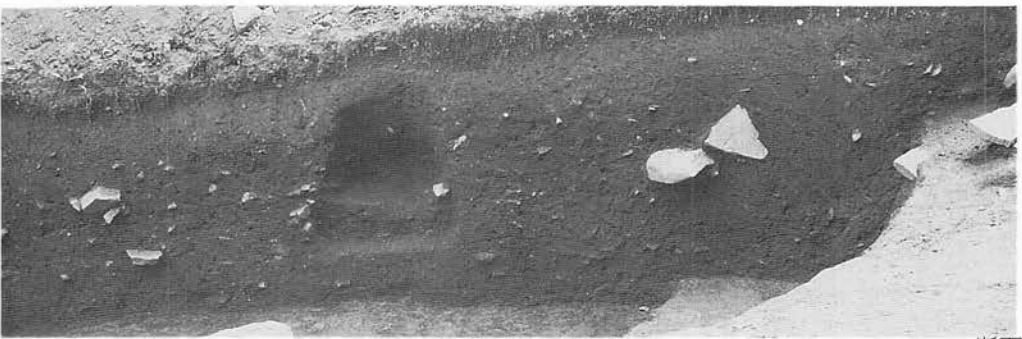


II A-2 住居跡

平面



断面



断面

写真図版14 II A-2 住居跡 (8)



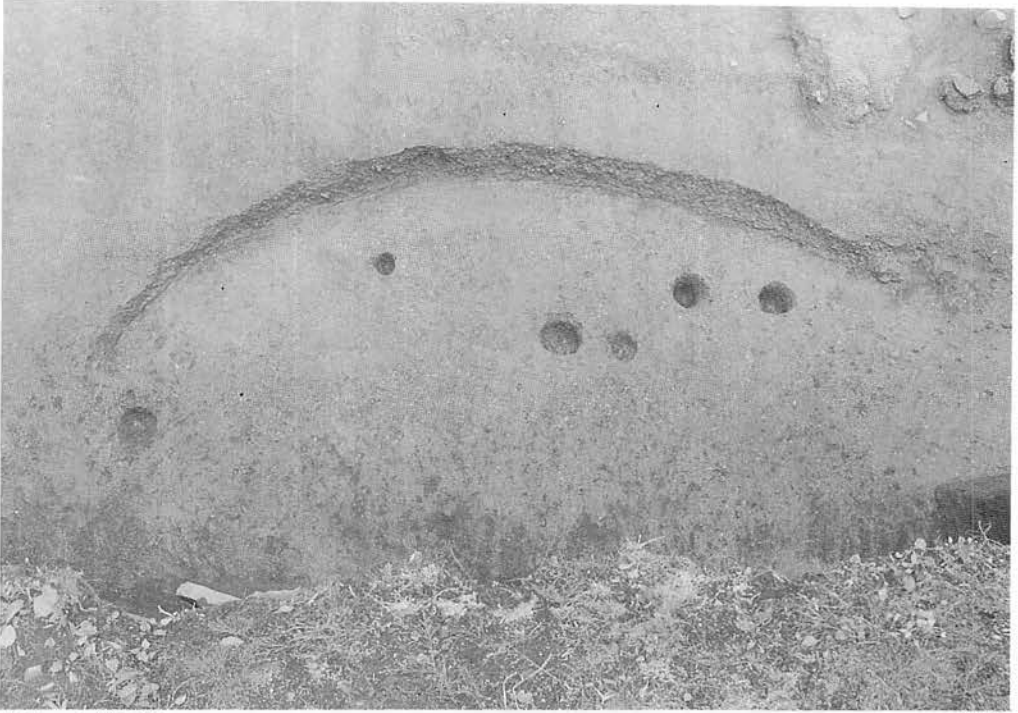
II A-3 住居跡

平面



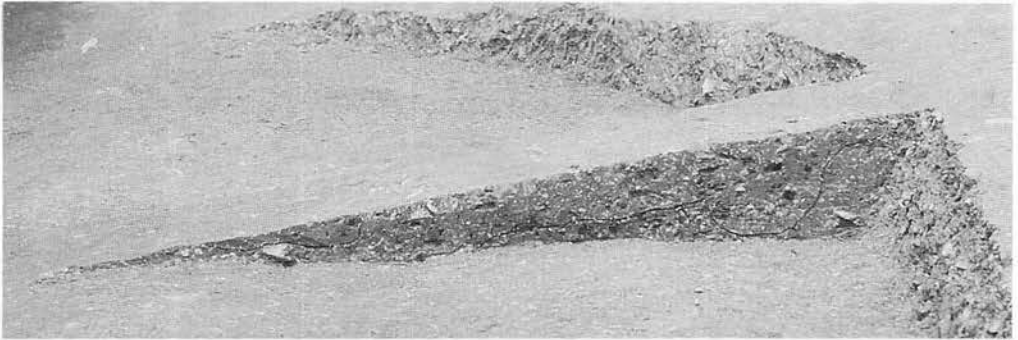
断面

写真図版15 II A-3 住居跡 (9)



II A—4 住居跡

平面



断面



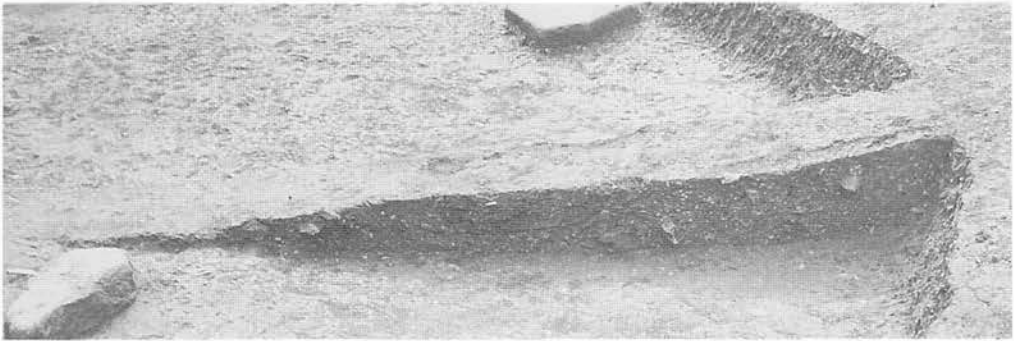
断面

写真図版16 II A—4 住居跡 (10)



II A—5 住居跡

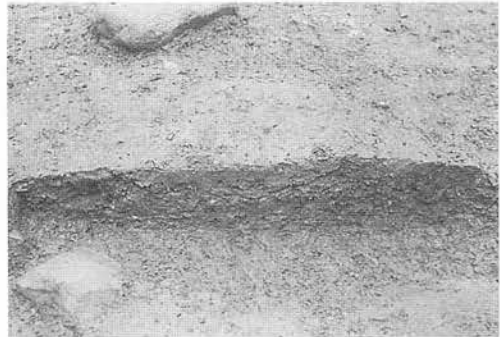
平面



断面



炉平面



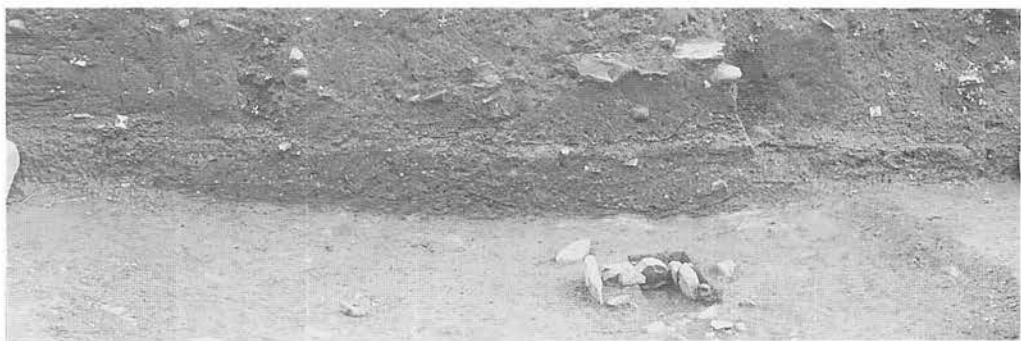
断面

写真図版17 II A—5 住居跡 (11)

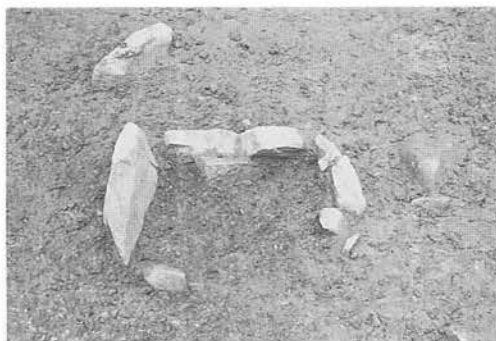


Ⅱ A—6 住居跡

平面



断面



炉平面



断面

写真図版18 Ⅱ A—6 住居跡 (12)



I B-1 住居跡

平面



断面



断面

写真図版19 I B-1 住居跡 (13)



I B-1 住居跡

断面



I B-1 住居跡

炉平面

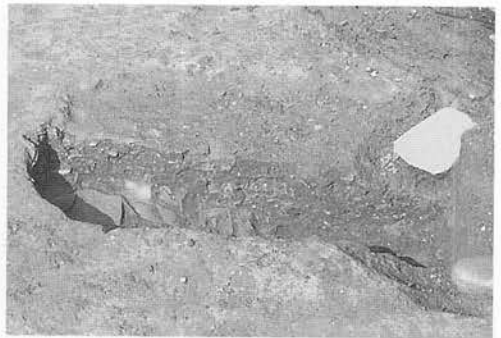


炉断面

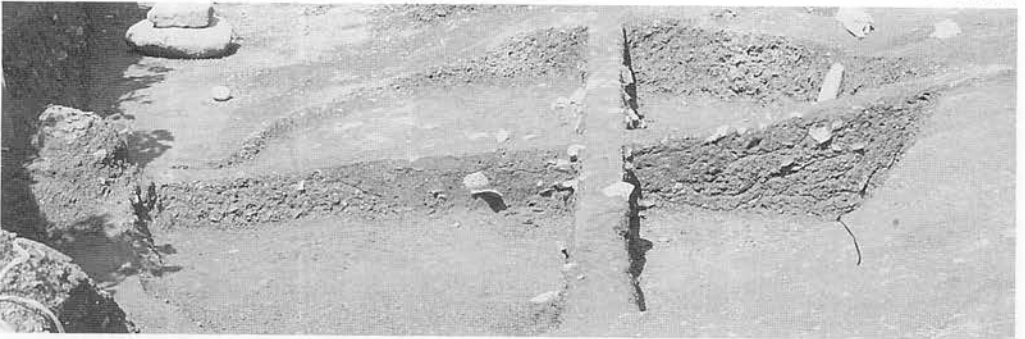


I B-1 住居跡

P 2 平面



P 2 断面



I B-2 住居跡

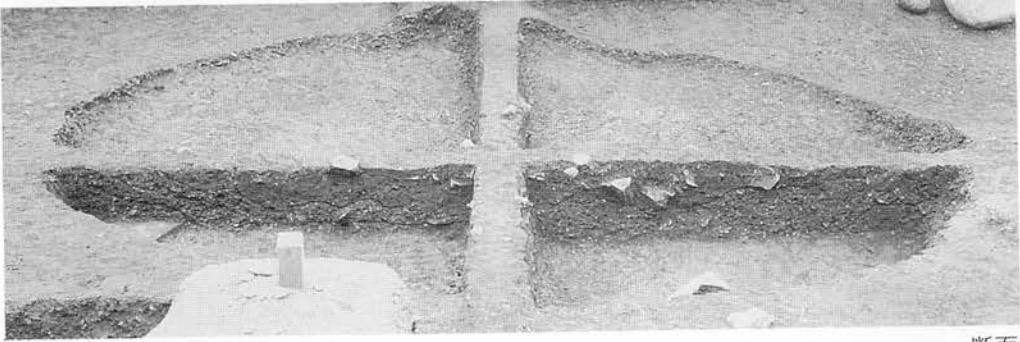
断面

写真図版20 I B-1・2 住居跡 (14)

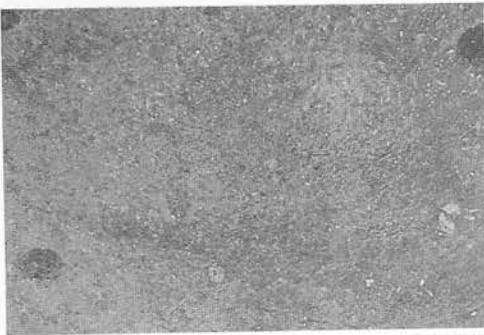


I B-2 住居跡

平面



断面



炉平面



断面

写真図版21 I B-2 住居跡 (15)



I A—1 住居跡状遺構

平面



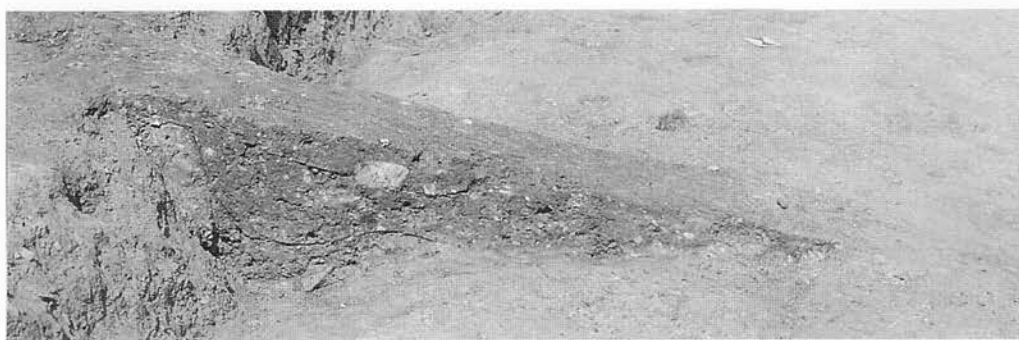
断面

写真図版22 I A—1 住居跡状遺構 (16)



Ⅱ A—1 住居跡状遺構

平面



断面



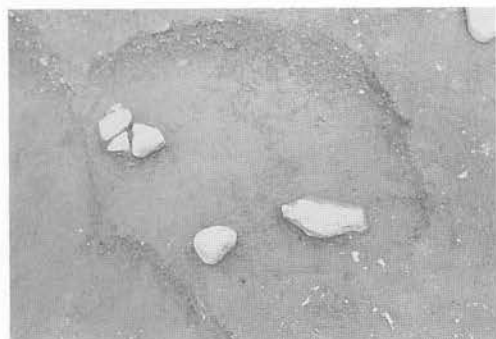
Ⅱ A—2 住居跡状遺構

平面



断面

写真図版24 Ⅱ A—2 住居跡状遺構 (18)



I A 8 j - 1 土坑

平面



断面



I A 8 j - 2 土坑

平面

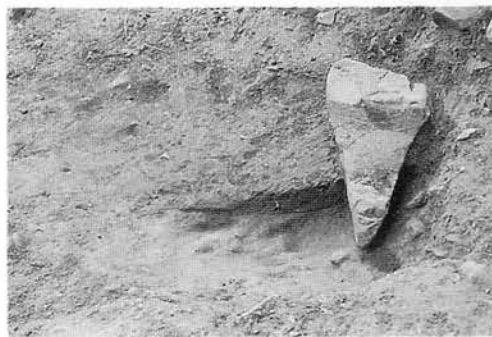


断面



I A 9 b 土坑

平面



断面



I A 9 c - 1 土坑

平面



断面

写真図版25 土坑類 (1)

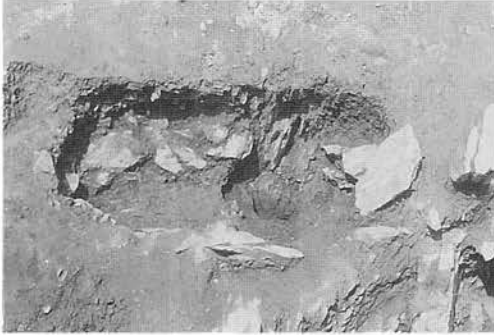


I A 9 c-2 土坑

平面



断面



I A 9 e-1 土坑

平面



断面

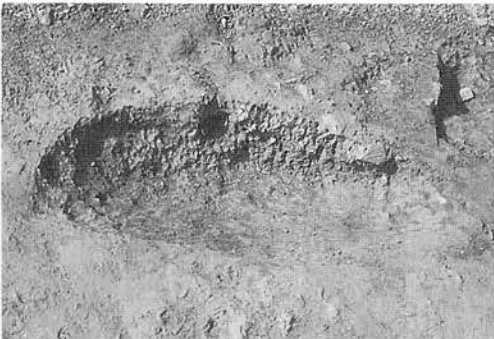


I A 9 e-2 土坑

平面



断面



I A 9 e-3 土坑

平面



断面

写真図版26 土坑類(2)



IA9e-4土坑

平面



断面



IA9f-1土坑

平面



断面



IA9f-2土坑



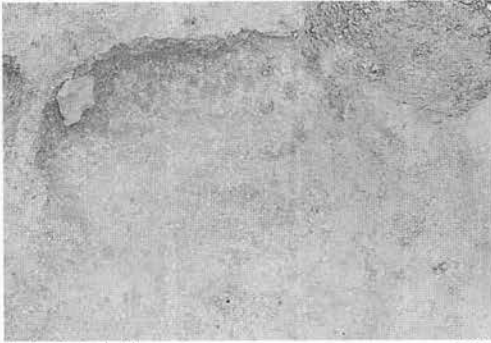
断面



IA9f-3土坑

断面

写真図版27 土坑類(3)



I A 9 g 土坑

平面



断面



II A 0 b 土坑

平面

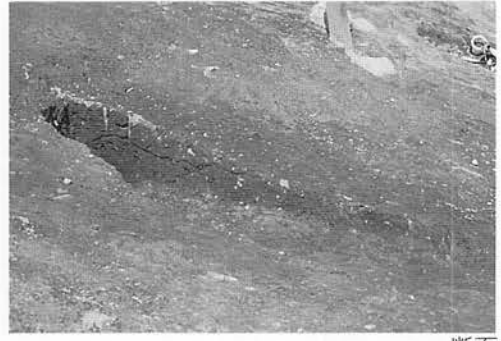


断面



II A 0 c 土坑

平面



断面



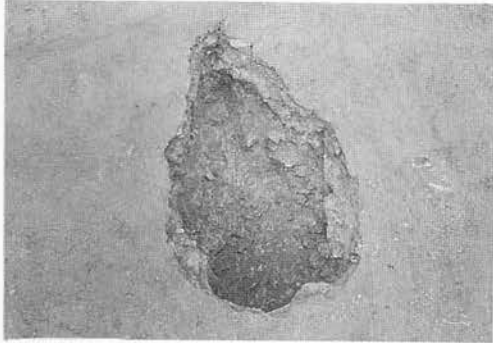
II A 0 d-1 土坑

平面



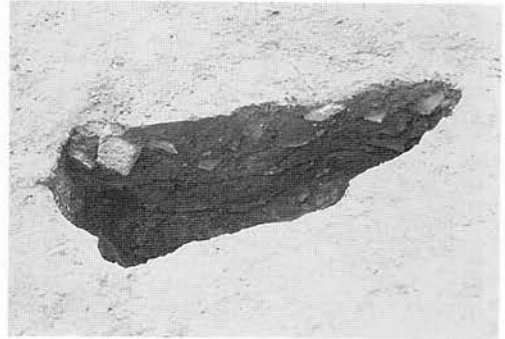
断面

写真図版28 土坑類(4)

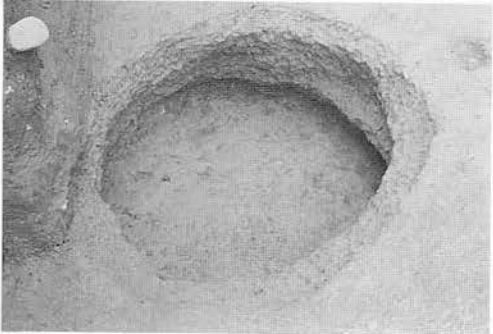


II A 0 d-2 土坑

平面

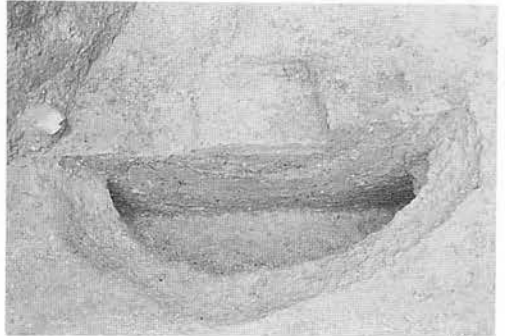


断面

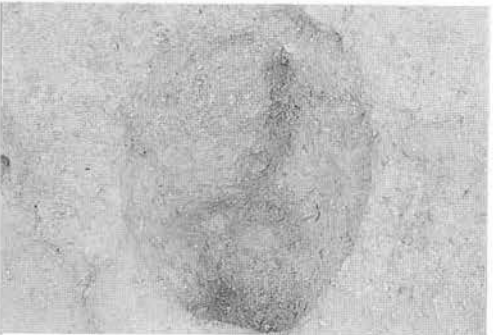


II A 0 e 土坑

平面



断面



II A 0 f-1 土坑

平面



断面



II A 0 f-2 土坑

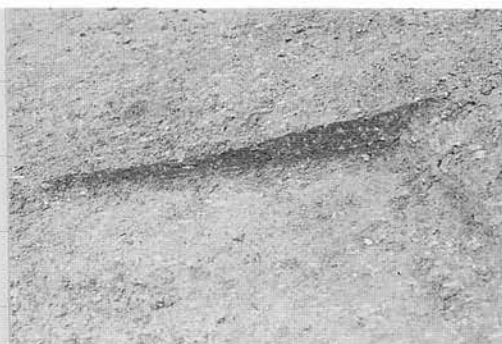
断面

写真図版29 土坑類 (5)



II A 0 g 土坑

平面



断面



I B 6 c 土坑

平面

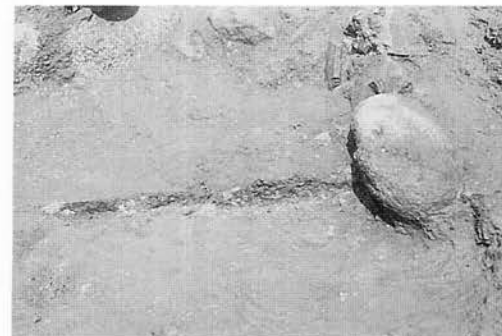


断面



I B 6 d-1 土坑

平面



断面



I B 6 d-2・3 土坑

平面



断面

写真図版30 土坑類 (6)



IB6e-1土坑

平面



断面



IB6e-2・3土坑

平面



断面



IB6e-4土坑

平面



断面



IB6f-1土坑

平面



断面

写真図版31 土坑類(7)



IB6f-2土坑

平面



断面

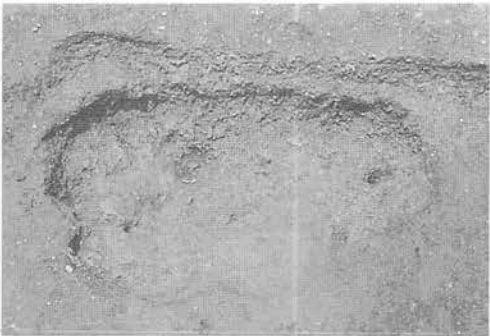


IB6f-3土坑

平面



断面

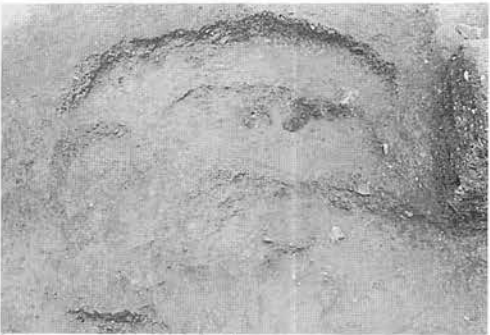


IB7a土坑

平面



断面



IB7b-1.2土坑

平面



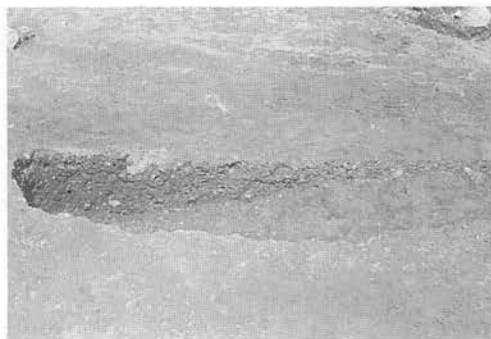
断面

写真図版32 土坑類(8)

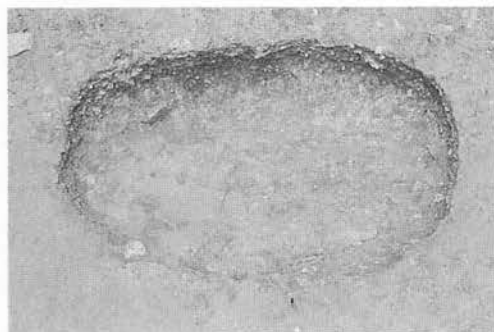


IB7c-1土坑

平面



断面



IB7c-2土坑

平面



断面



IB7c-3土坑

断面



IB7d土坑

平面



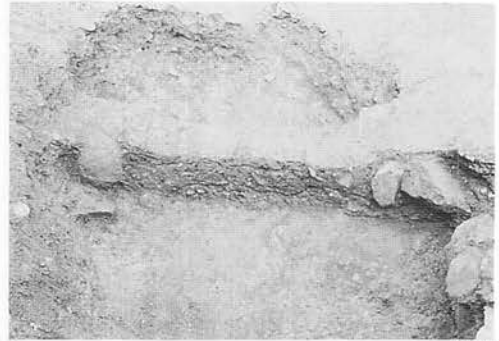
断面

写真图版33 土坑類(9)



I B 7 e 土坑

平面

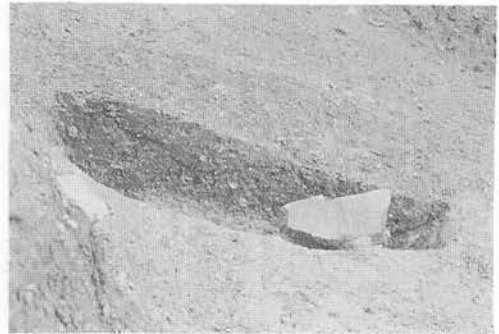


断面



I B 7 f-1 土坑

平面



断面



I B 7 f-2 土坑

平面

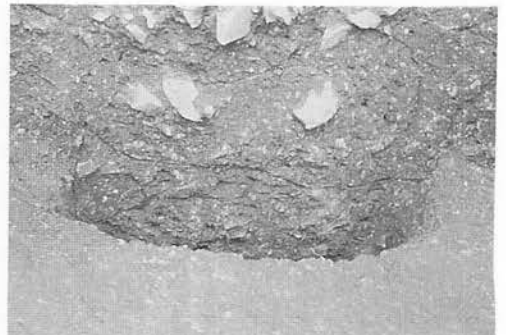


断面



I B 7 f-3 土坑

平面



断面

写真図版34 土坑類 (10)

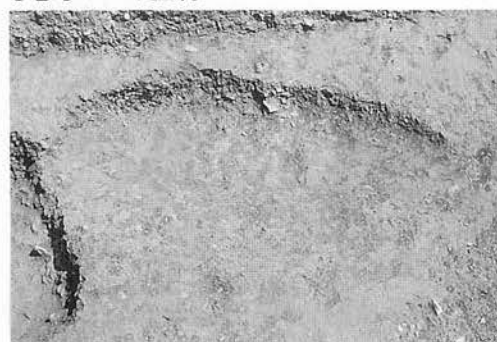


I B 8 a-1 土坑

平面



断面



I B 8 a-2 土坑

平面



断面



I B 8 a-3 土坑

平面



断面



I B 8 a-4 土坑

平面



断面

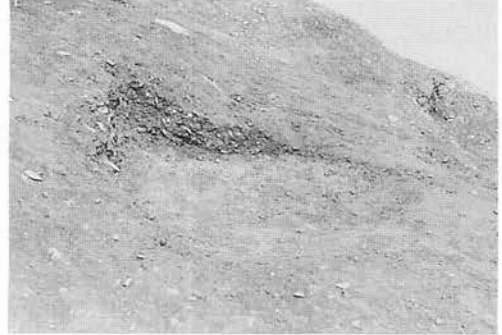
写真図版35 土坑類 (11)



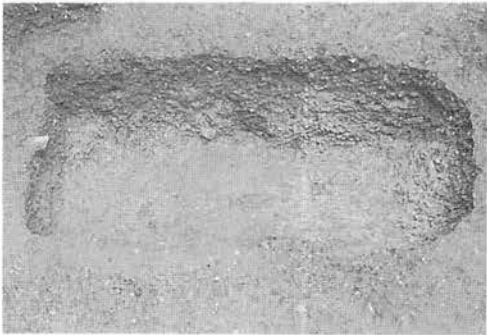
I B 8 b-1 土坑 平面



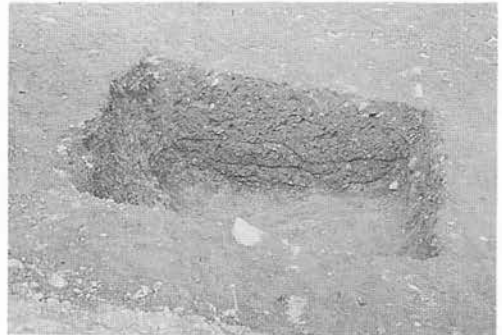
I B 8 b-2 土坑 平面



断面



I B 8 c 土坑 平面



断面



I B 8 d-1 土坑 平面



断面

写真図版36 土坑類 (12)



I B 8 d-2 土坑

平面



断面



I C 8 e 土坑

平面

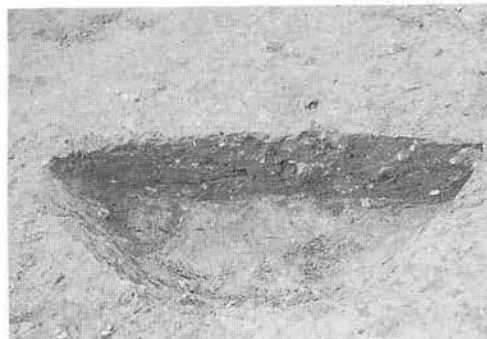


断面



I C 8 f 土坑

平面



断面



I C 9 f 土坑

平面



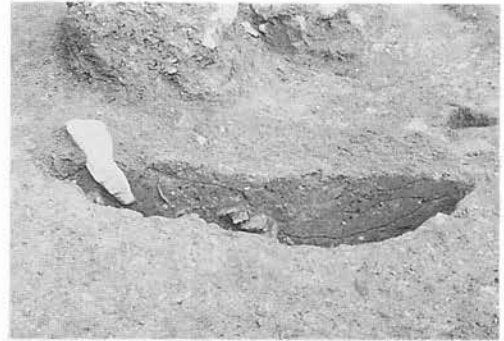
断面

写真図版37 土坑類 (13)



II C 0 f-1 土坑

平面



断面



II C 0 f-1 土坑

平面



II C 0 f-2 土坑

平面

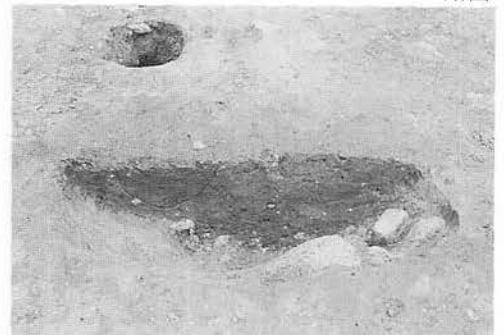


断面



II C 0 g-1 土坑

平面



断面

写真図版38 土坑類 (14)

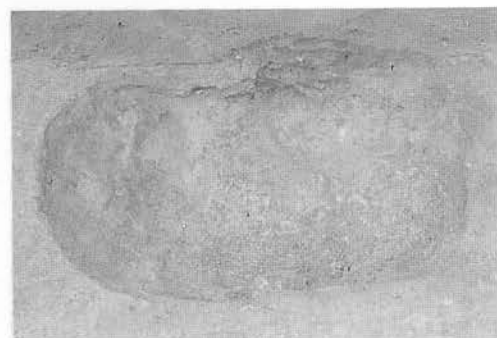


II C 0 g-2 土坑

平面

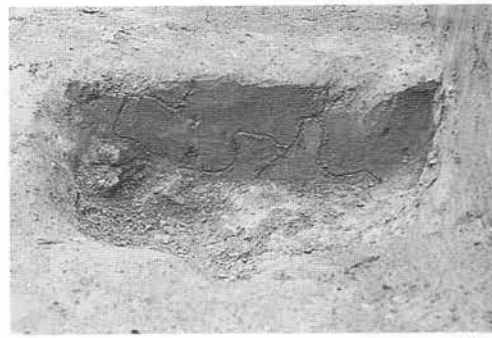


断面



II C 2 f 土坑

平面



断面



II C 2 g-1 土坑

平面



断面



II C 2 g-2 土坑

平面



断面

写真図版39 土坑類 (15)

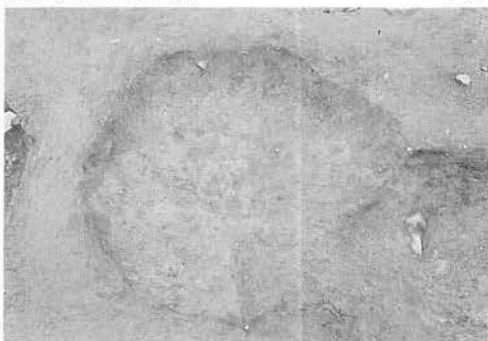


II C 3 f-1 土坑

平面

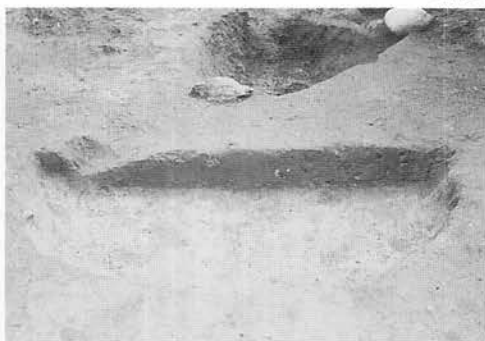


断面



II C 3 f-2 土坑

平面



断面



II C 3 f-3 土坑

平面



断面



II A 0 h 土坑

平面



断面

写真図版40 土坑類 (16)



I A 8 j 埋設土器

平面



断面



I A 9 g-1 埋設土器

断面



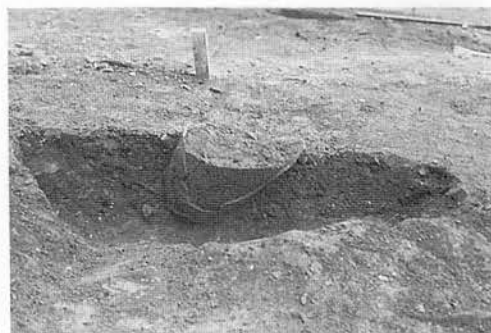
I A 9 g-2 埋設土器

断面



I A 9 g-3 埋設土器

平面



I A 9 g-3 埋設土器

断面



II A 0 d 埋設土器

断面

写真図版41 埋設土器 (1)

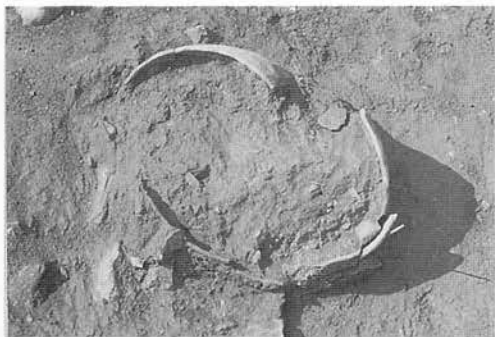


II A 0 e 埋設土器

平面



断面

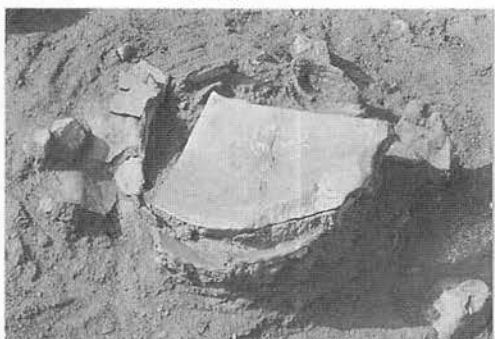


II A 0 f-1 埋設土器

平面



断面



II A 0 f-2 埋設土器

平面



断面



I B 5 e 埋設土器

断面

写真図版42 埋設土器 (2)



I B 5 f 埋設土器

平面



断面



I B 5 i - 1 埋設土器

平面

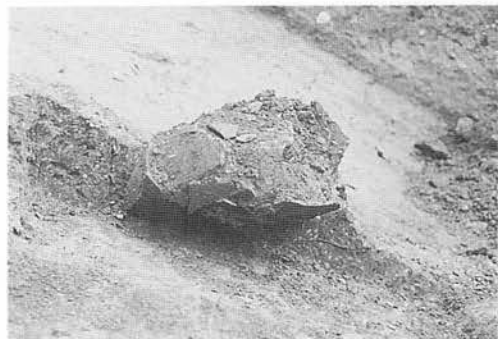


断面



I B 5 i - 2 埋設土器

平面



断面



I B 5 j 埋設土器

平面



断面

写真図版43 埋設土器 (3)



I B 6 d 埋設土器

平面



断面



I B 6 e-1 埋設土器

平面



断面

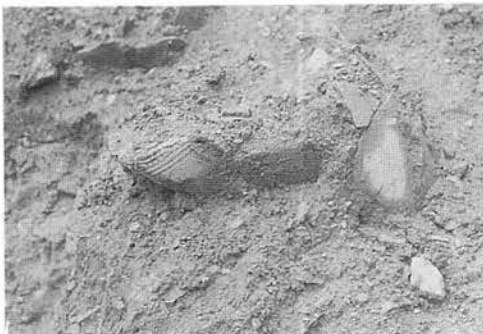


I B 6 e-2 埋設土器

平面



断面



I B 6 e-3 埋設土器

平面



断面

写真図版44 埋設土器 (4)



IB 6 f-1 埋設土器 平面



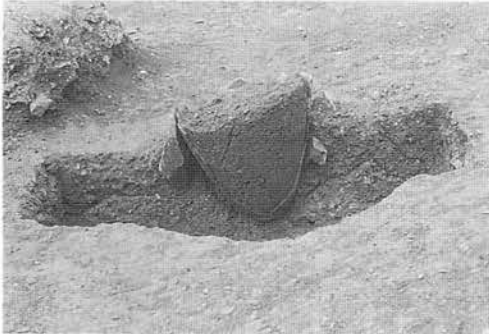
IB 6 f-1 埋設土器内石器出土 平面



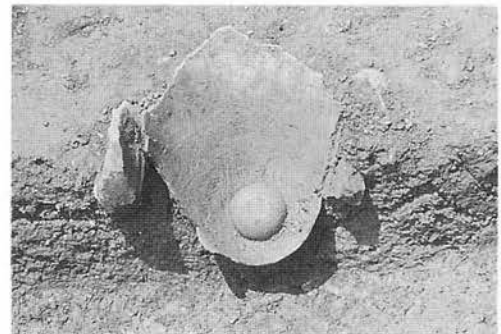
IB 6 f-2 埋設土器 平面



IB 7 c 埋設土器 平面



IB 7 c 埋設土器 断面



IB 7 c 埋設土器内土器出土 平面



IB 7 d-1 埋設土器 平面



断面

写真図版45 埋設土器 (5)



I B 7 d-2 埋設土器 平面



断面



I B 7 e 埋設土器 平面



断面



I B 8 c 埋設土器 平面



断面



I C 7 d 埋設土器 平面



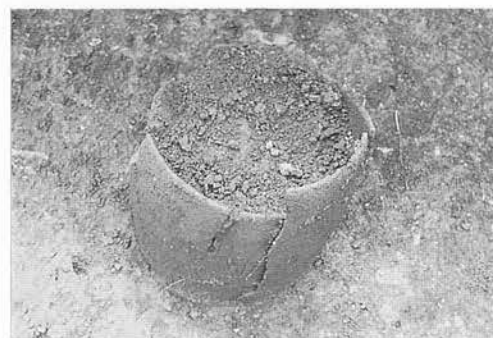
断面

写真図版46 埋設土器 (6)



IC 7 e 埋設土器

平面

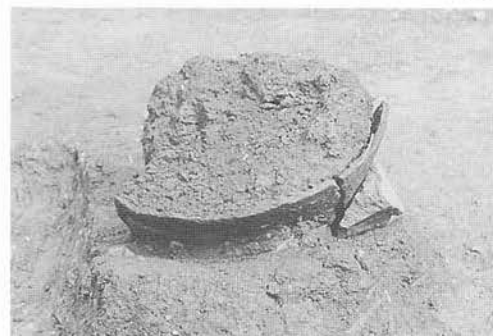


IC 8 e-1 埋設土器

平面



断面



IC 8 f-1 埋設土器

平面



IC 8 f-1 埋設土器

断面



IC 8 f-2 埋設土器

平面



IC 8 f-3 埋設土器

平面

写真図版47 埋設土器 (7)

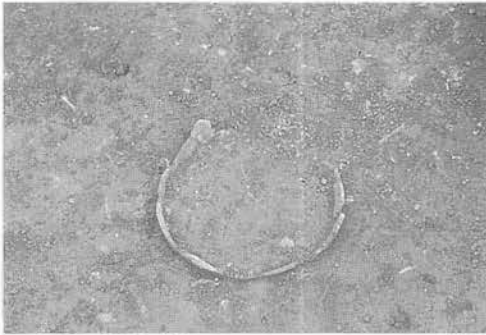


I C 9 e 埋設土器

平面



断面



II C 0 f 埋設土器

平面



断面



II C 1 g 埋設土器

平面



断面



II C 1 g 埋設土器掘り方

平面



I C 8 e-2 埋設土器

断面

写真図版48 埋設土器 (8)



II A 0 f 石围炉

平面

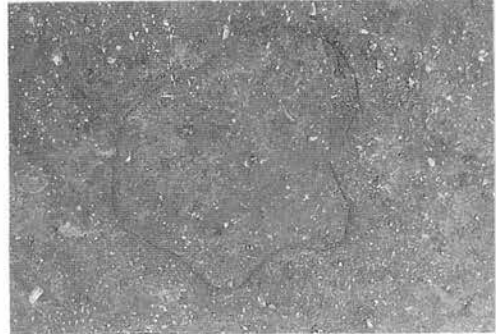


断面



I A 8 i 烧土

平面



平面

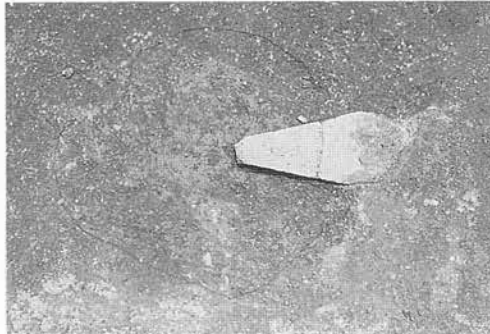


I A 9 i 烧土

平面



断面



II A 0 f 烧土

平面



断面

写真图版49 石围炉・烧土遺構 (1)



II A 1 g 烧土

平面



断面



II A 0 c 烧土

平面



II A 1 f-1 ~ 4 烧土群

平面



II A 1 f-1 烧土

断面



II A 1 f-2 烧土

断面



II A 1 f-3 烧土

断面



II A 1 f-4

断面

写真图版50 烧土遺構 (2)



I B 6 d 焼土

平面



断面



I B 6 f 焼土

平面



断面



I B 6 g 焼土

平面



I B 9 c 焼土

平面



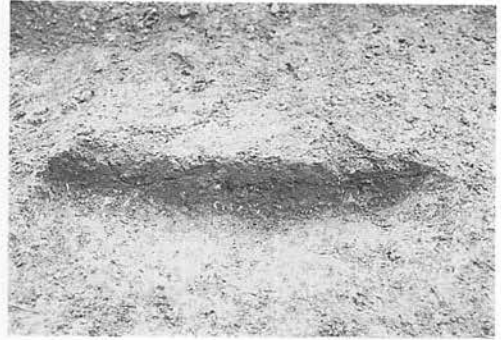
断面

写真図版51 焼土遺構 (3)



I C 8 f 烧土

平面

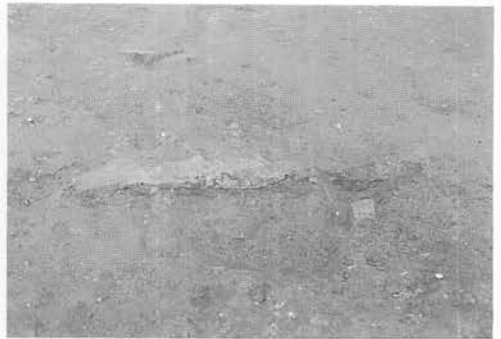


断面



II C 0 g 烧土

平面

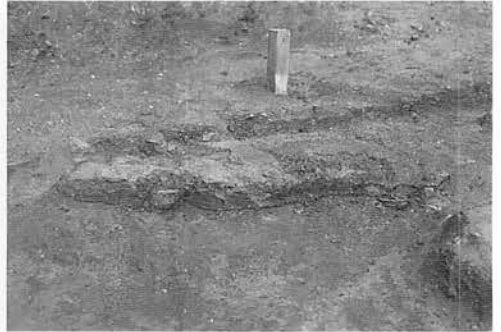


断面



II C 1 f 烧土

平面



断面



I A 8 j 集石

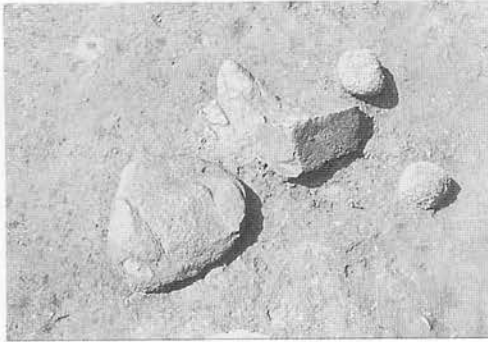
平面



I A 8 f 集石

平面

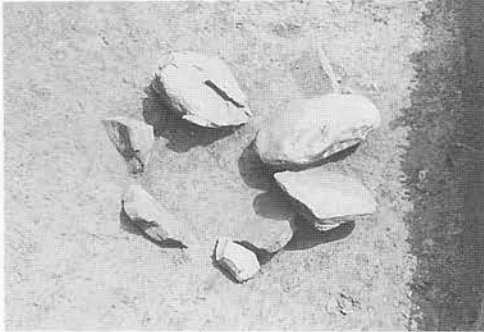
写真図版52 烧土遺構 (4) ・集石遺構 (1)



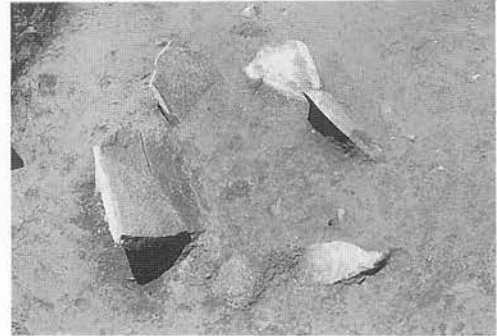
I A 9 i 集石 平面



I A 9 j 集石 平面



II A 0 c 集石 平面



II A 0 d 集石 平面



II A 0 c 集石 断面



II A 0 e-1 集石 平面



II A 1 e 集石 断面



II A 1 e 集石 下部土坑



ⅡA0d集石



ⅡA0e-2集石

ⅡA0e・f区集石

写真図版54 集石遺構(3)



II A 0 f 区集石



II A 0 g 集石

写真図版55 集石遺構(4)



I B 7 d 集石

平面



I B 7 d 集石

平面



I B 7 d 集石

断面



I B 8 b 集石

平面



I B 8 b 集石

断面



I B 8 b 集石

下部土坑



I B 8 c 集石

平面



I B 8 e 集石

平面

写真図版56 集石遺構(5)

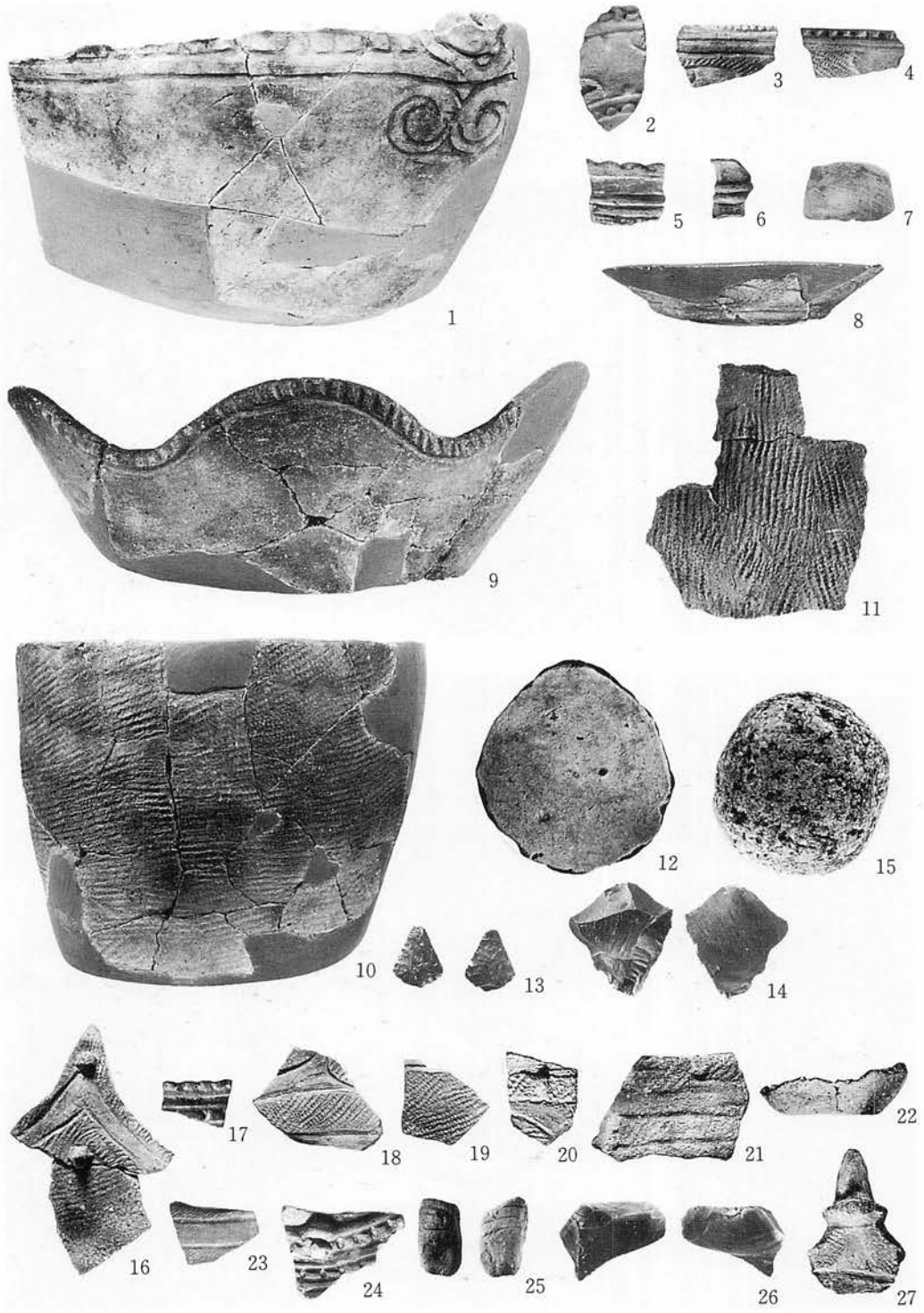


IB9 a・b 集石

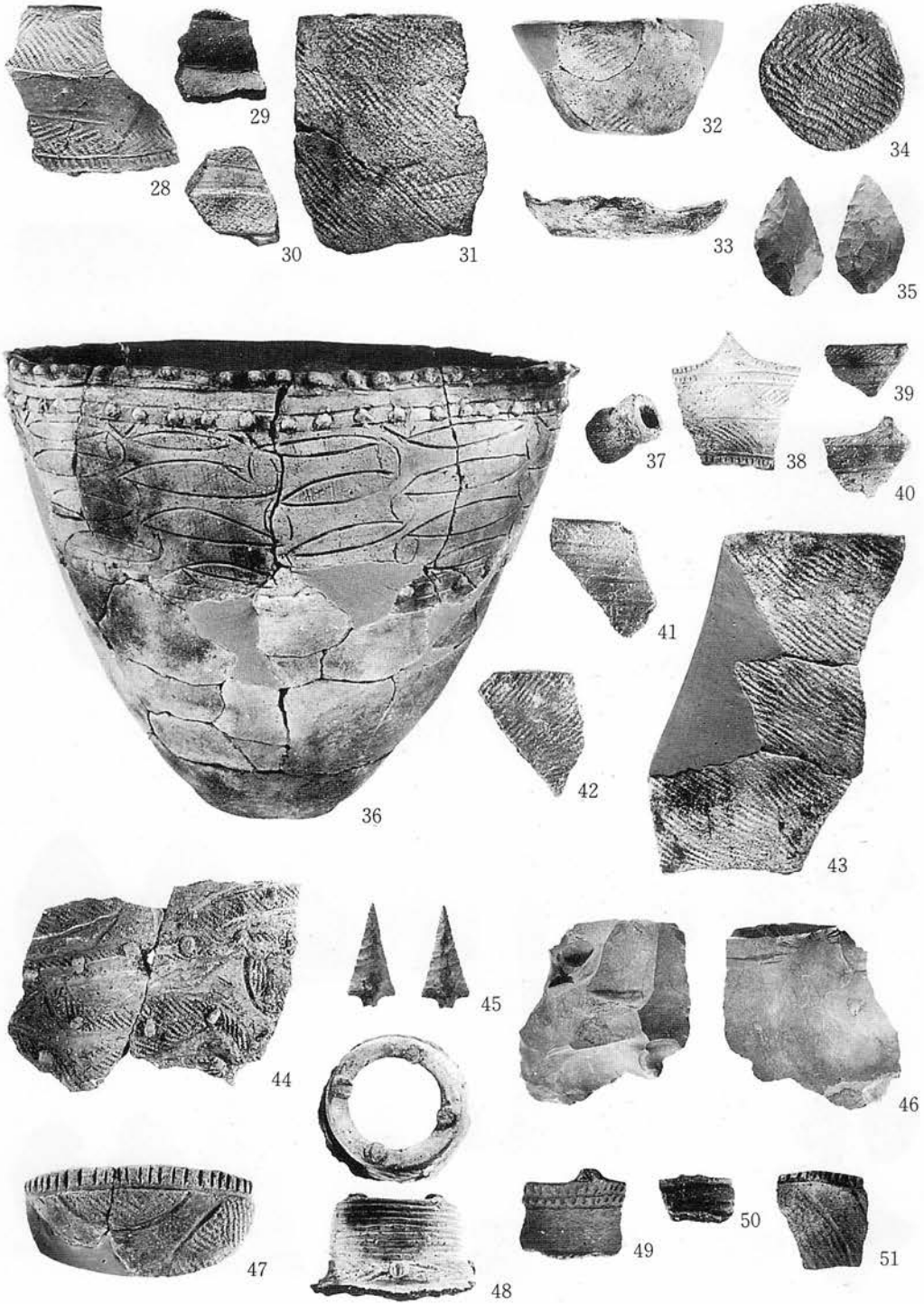


IB8 d・e 集石

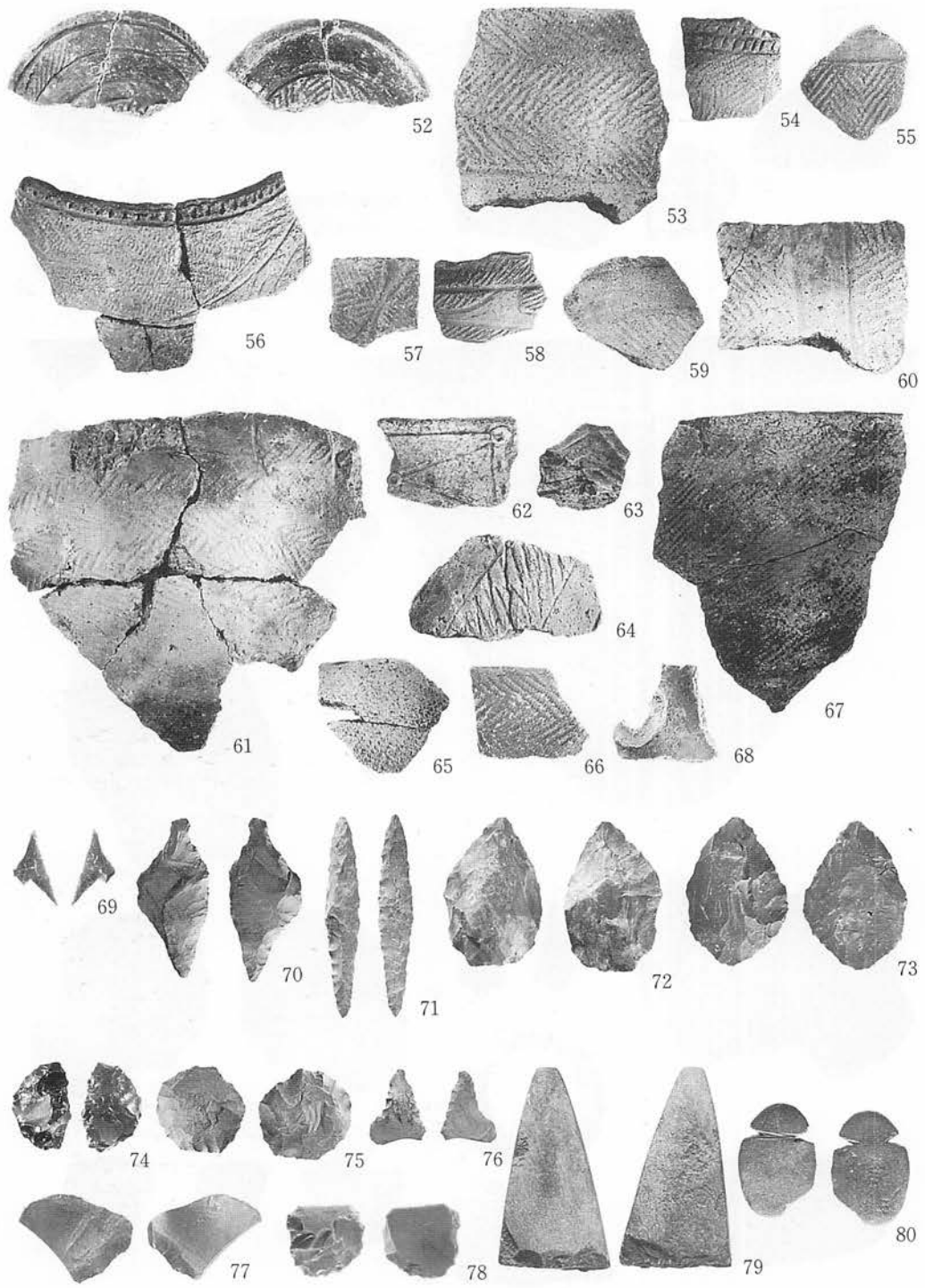
写真図版57 集石遺構(6)



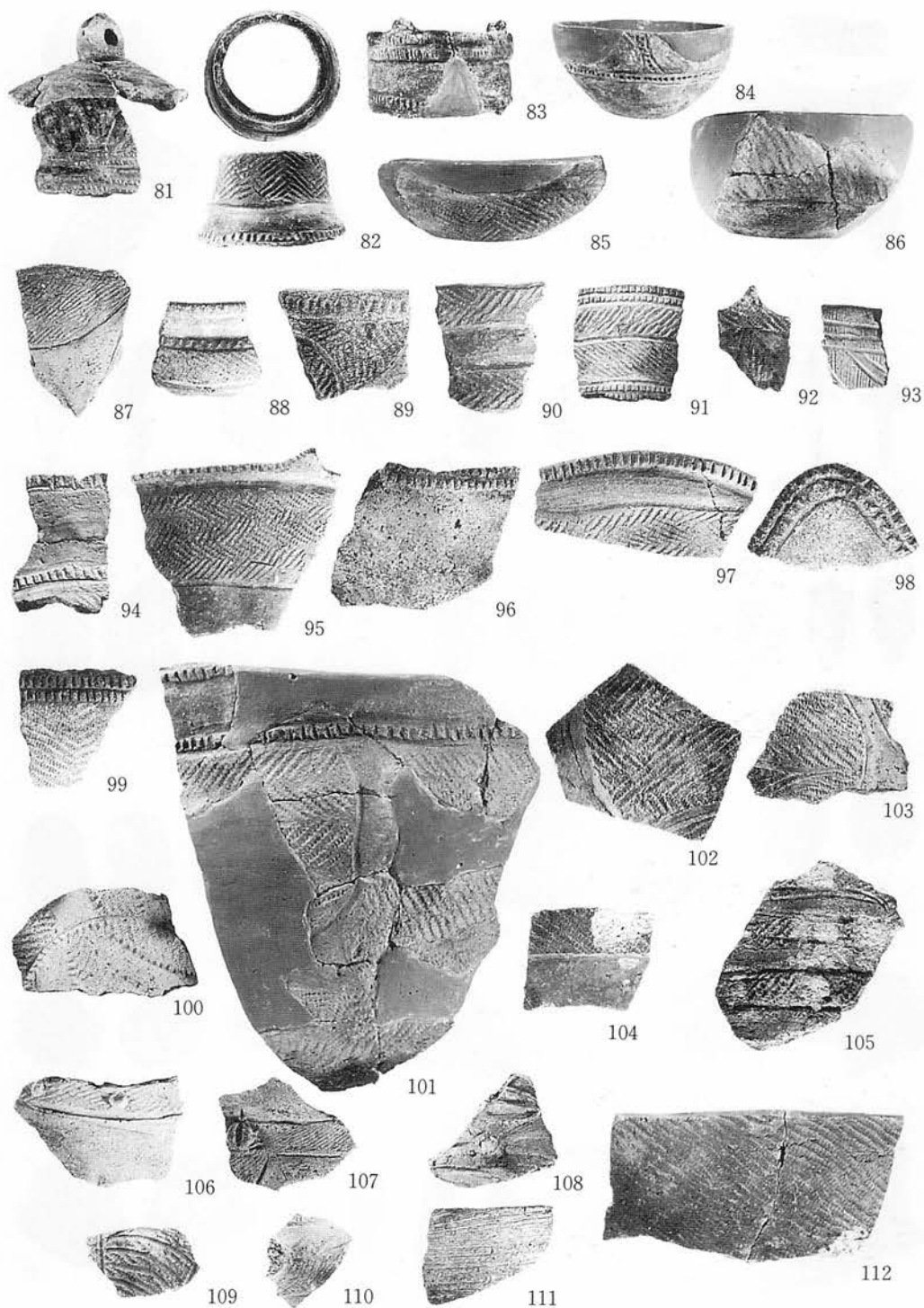
写真図版58 遺構内出土遺物 (1)



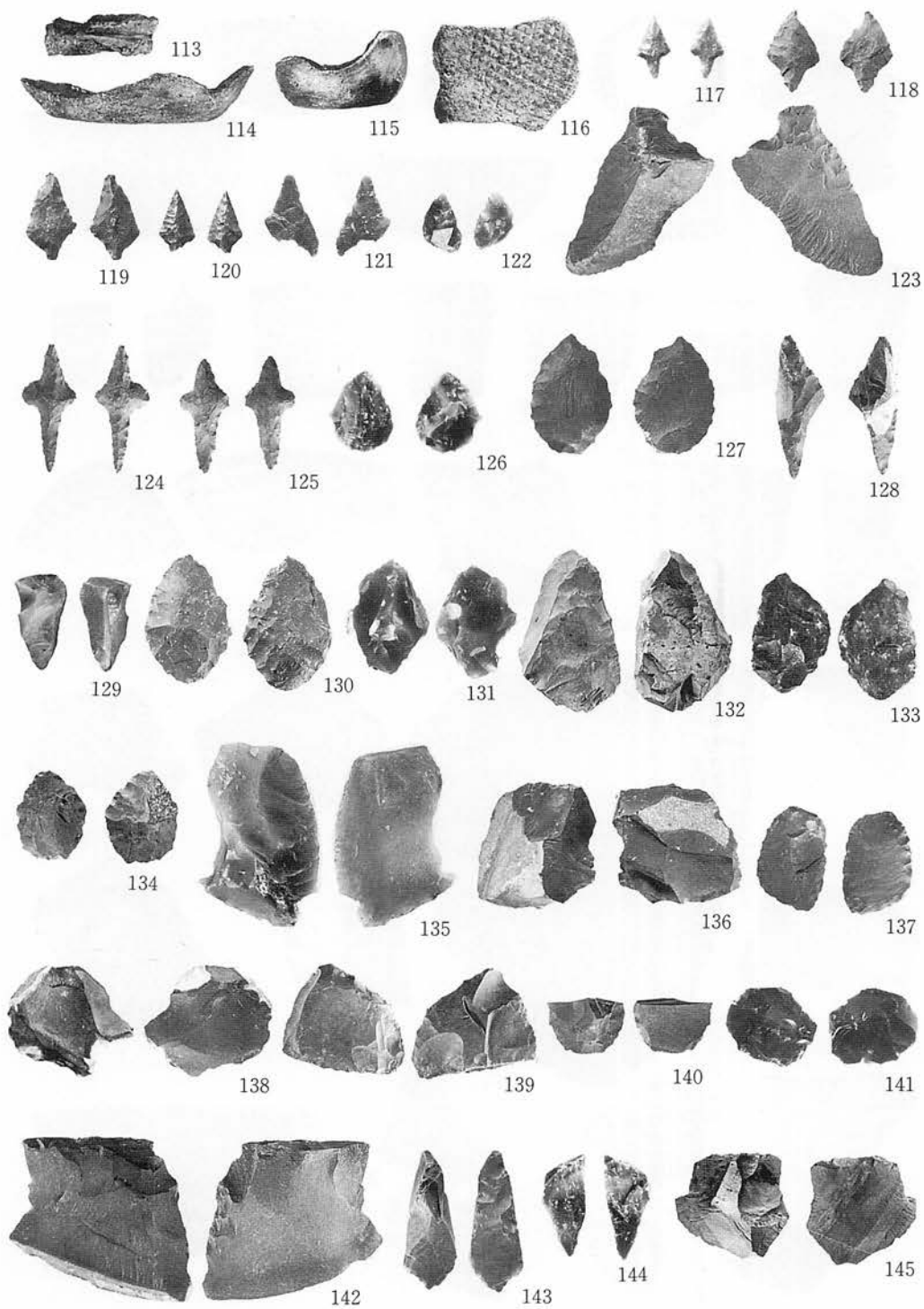
写真图版59 遺構内出土遺物(2)



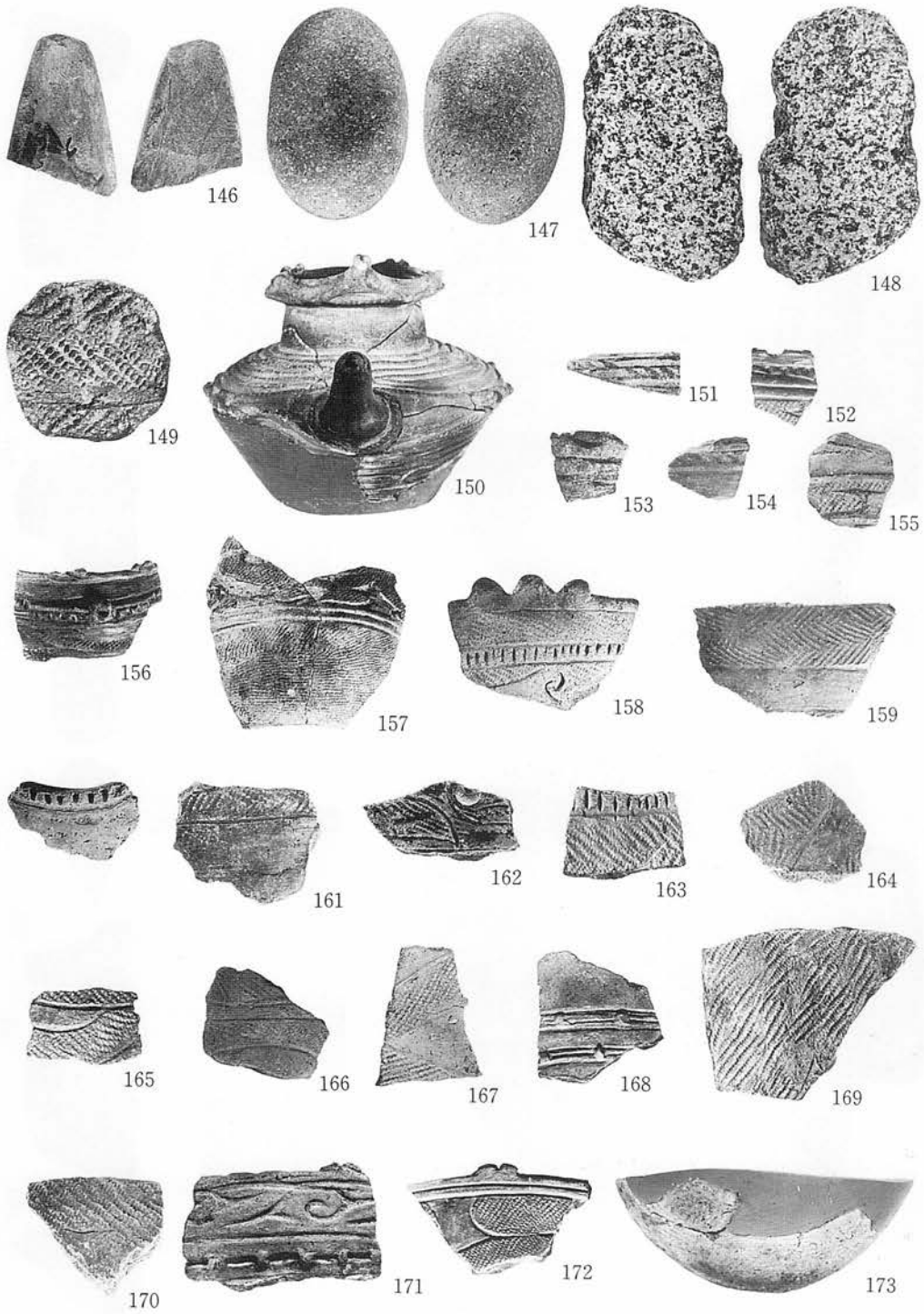
写真図版60 遺構内出土遺物 (3)



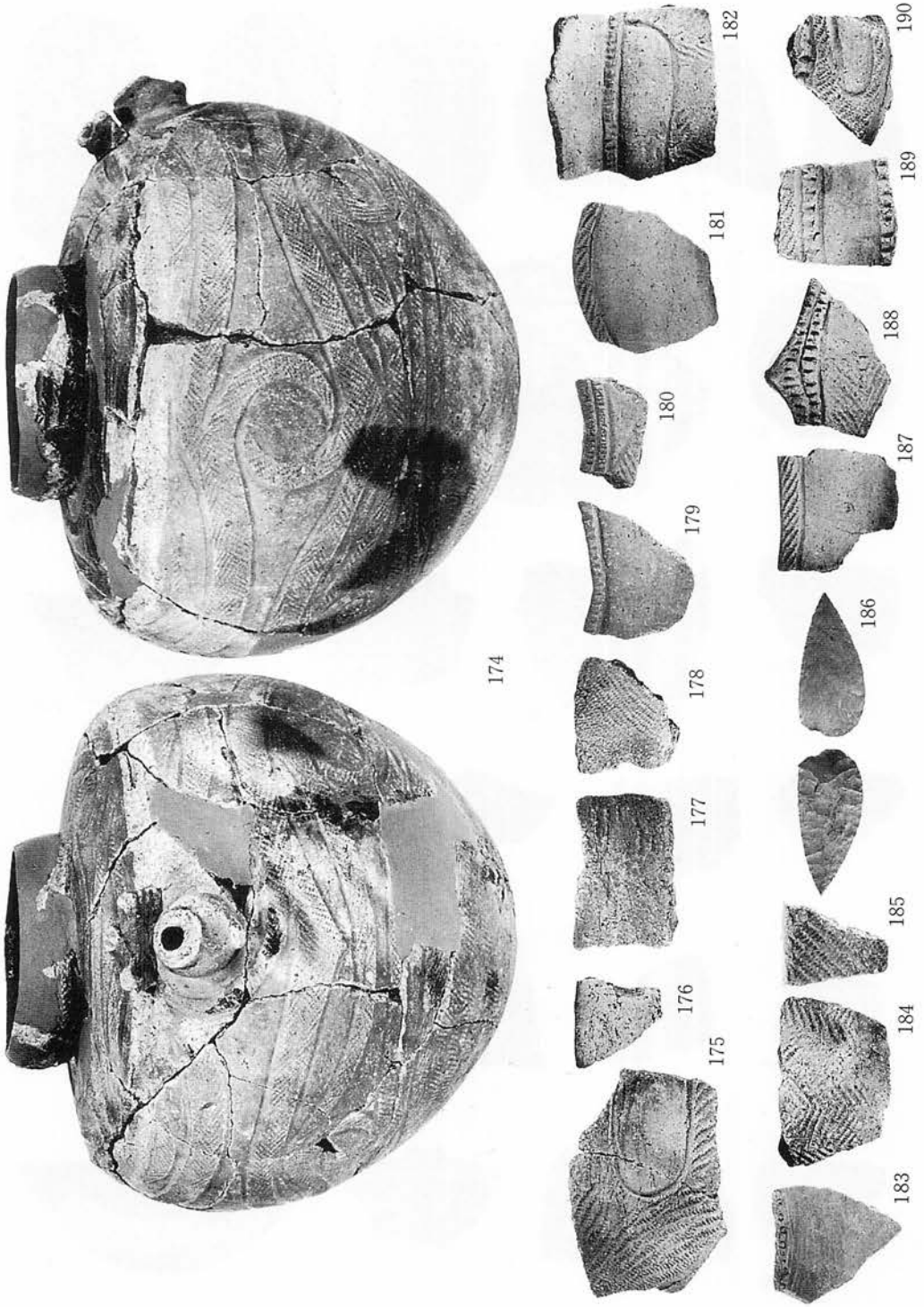
写真図版61 遺構内出土遺物（4）



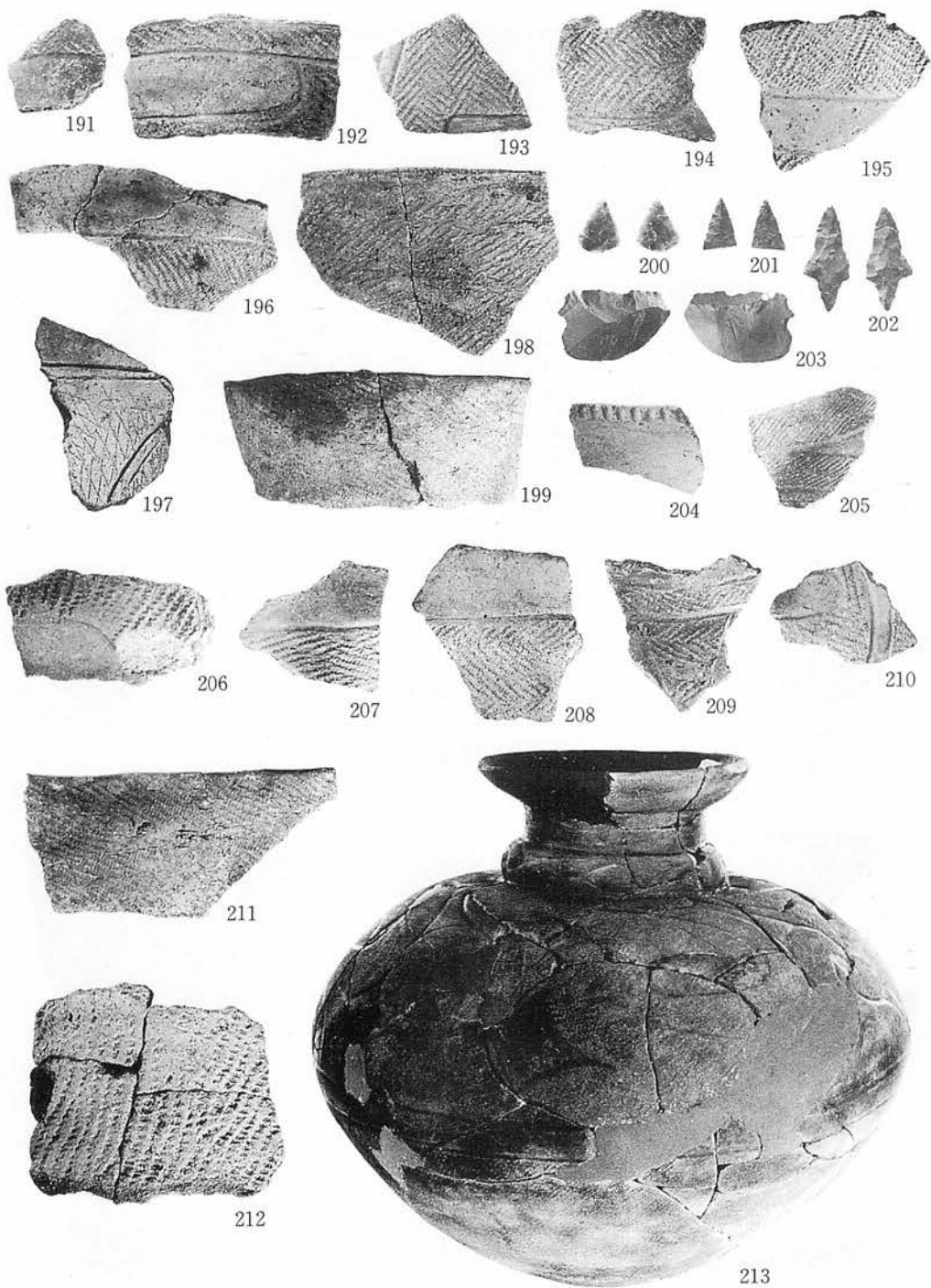
写真図版62 遺構内出土遺物（5）



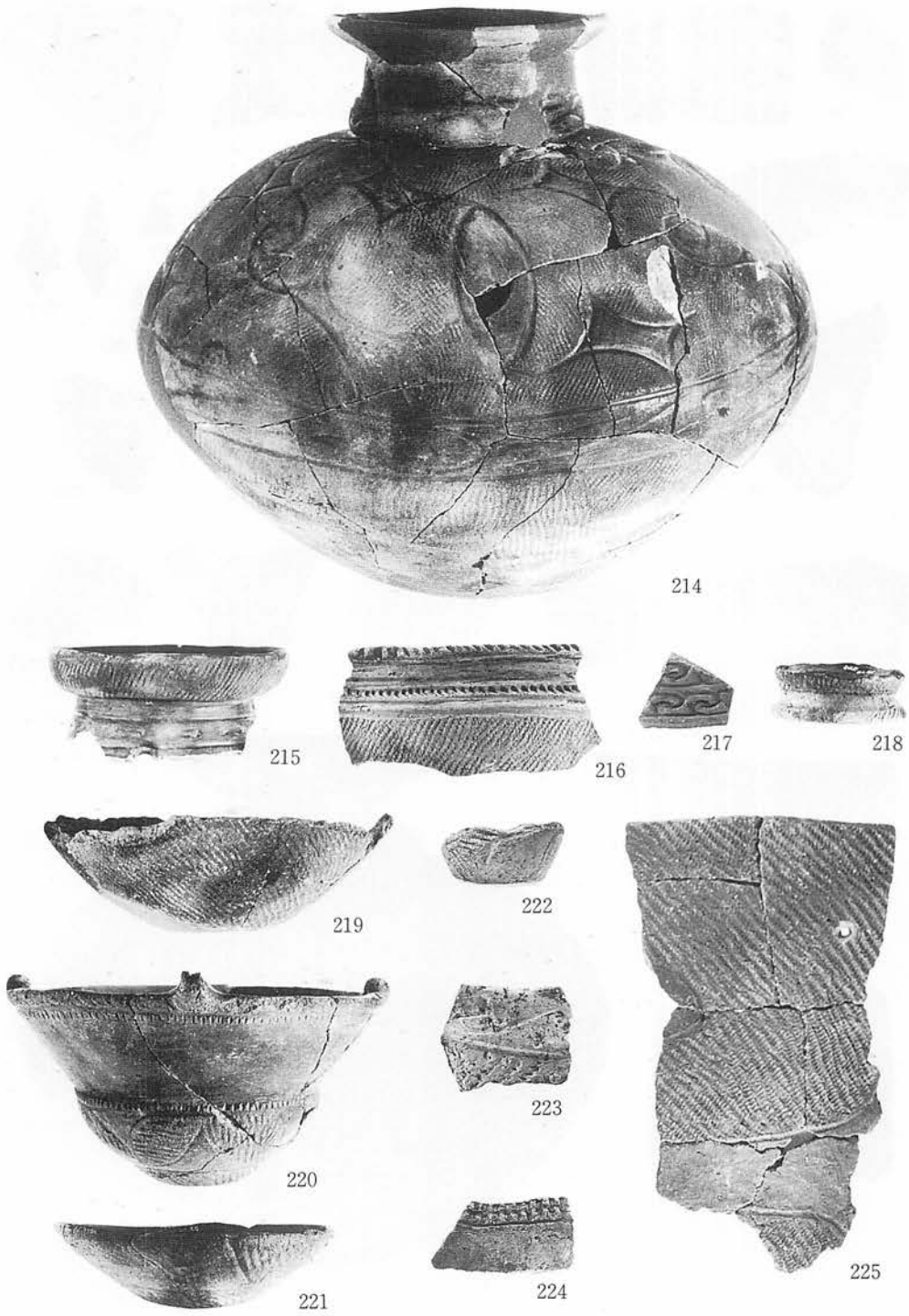
写真図版63 遺構内出土遺物(6)



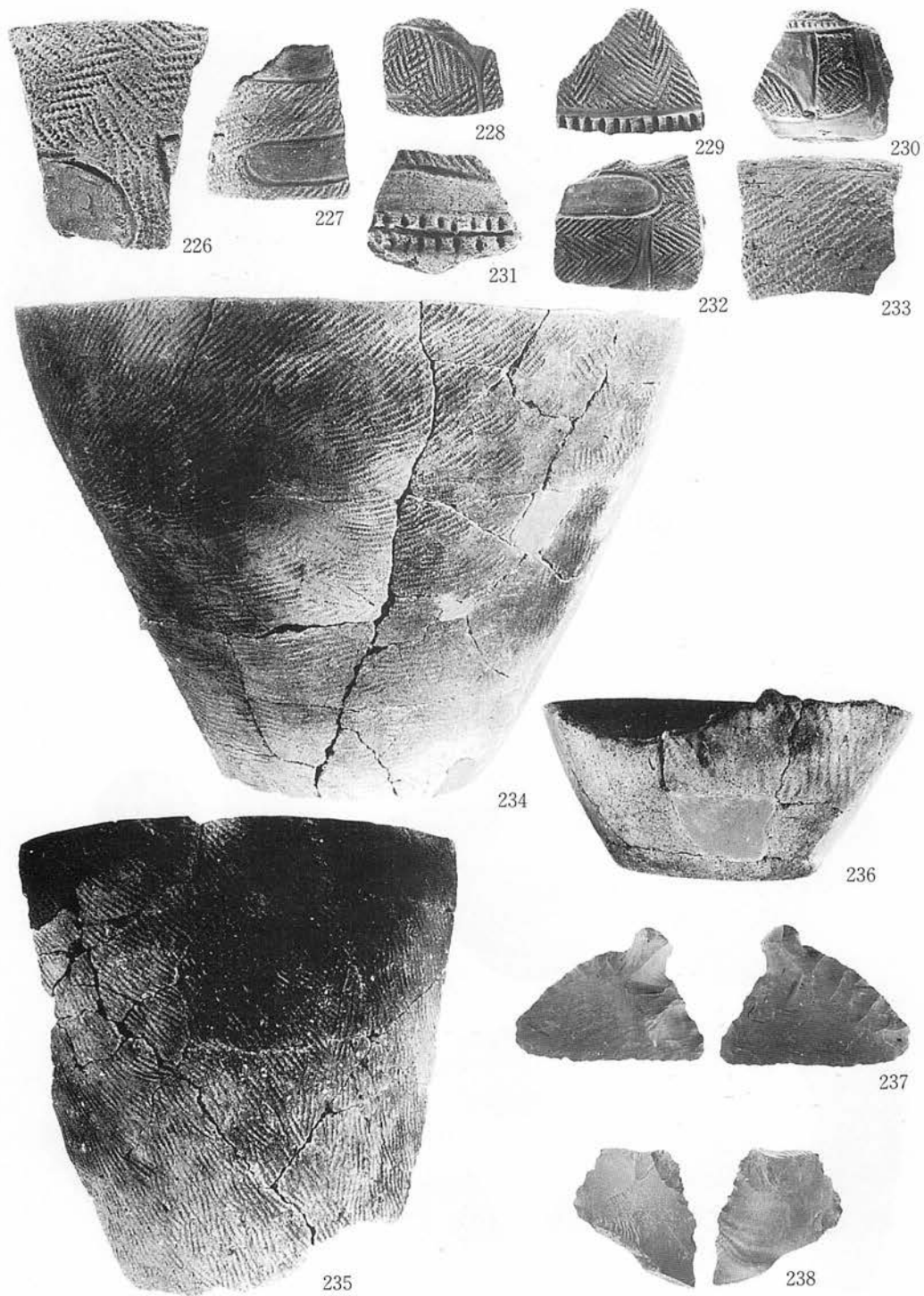
写真図版64 遺構内出土遺物 (7)



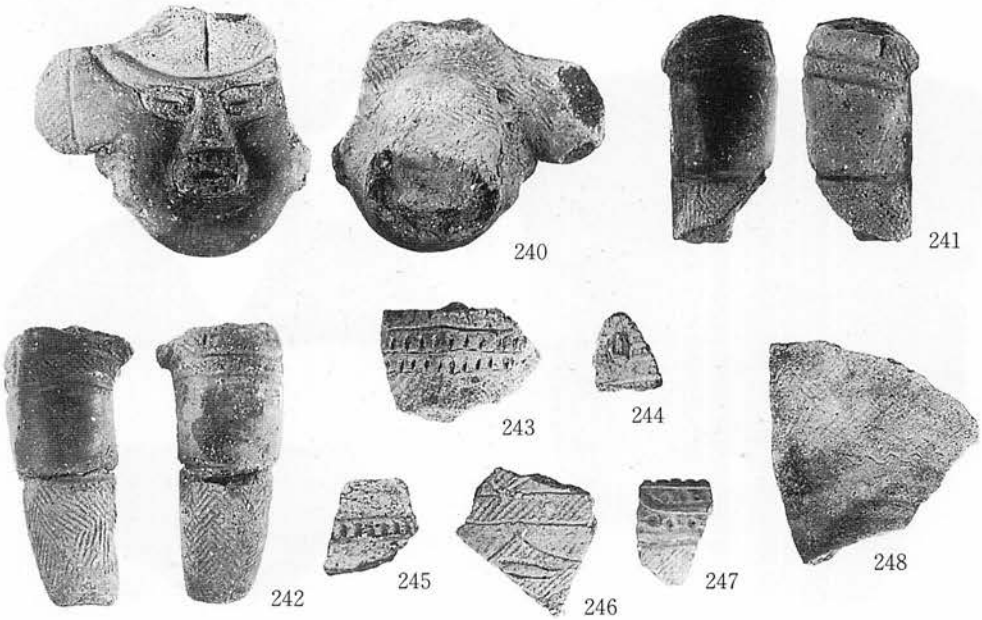
写真図版65 遺構内出土遺物(8)



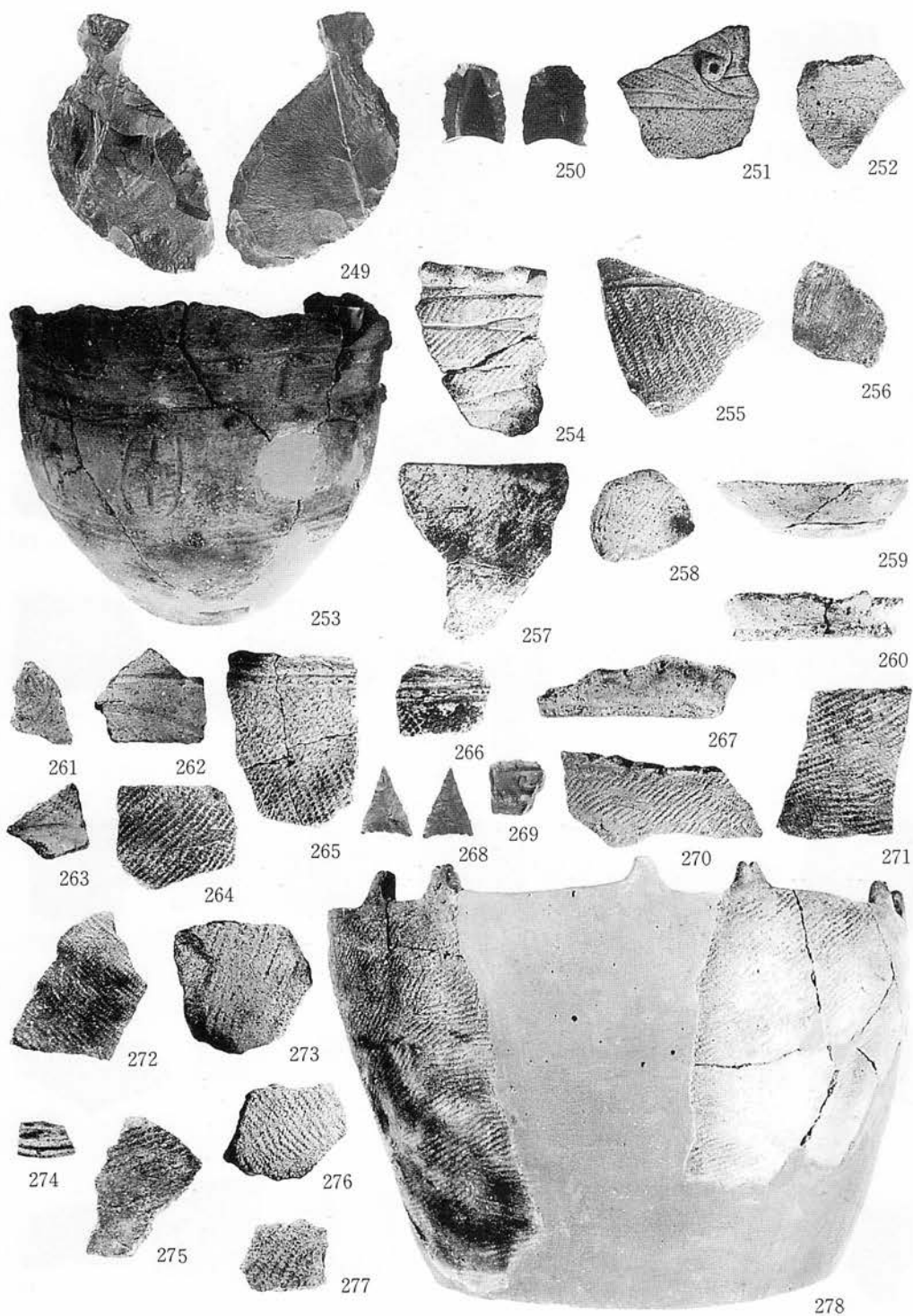
写真図版66 遺構内出土遺物（9）



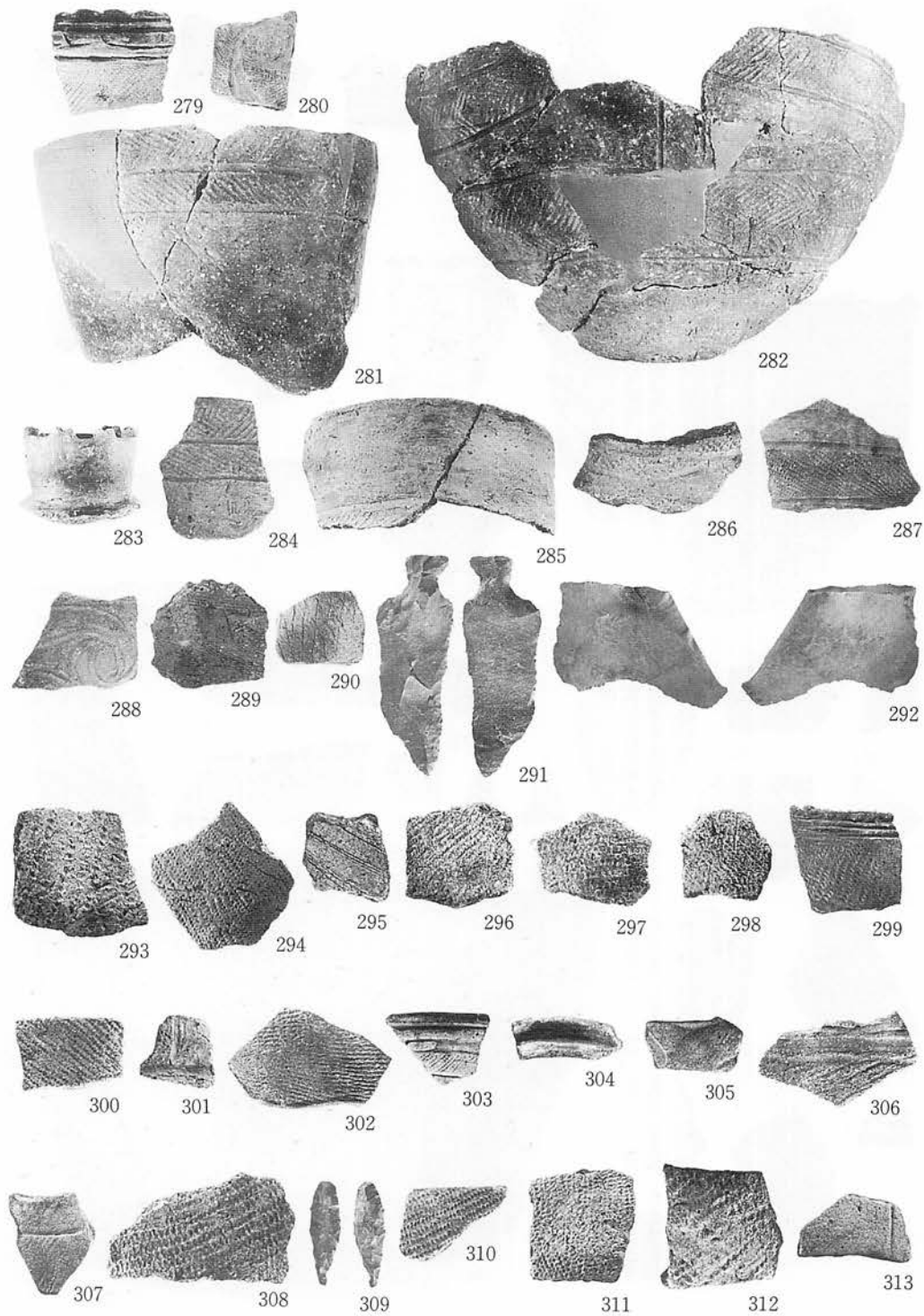
写真図版67 遺構内出土遺物 (10)



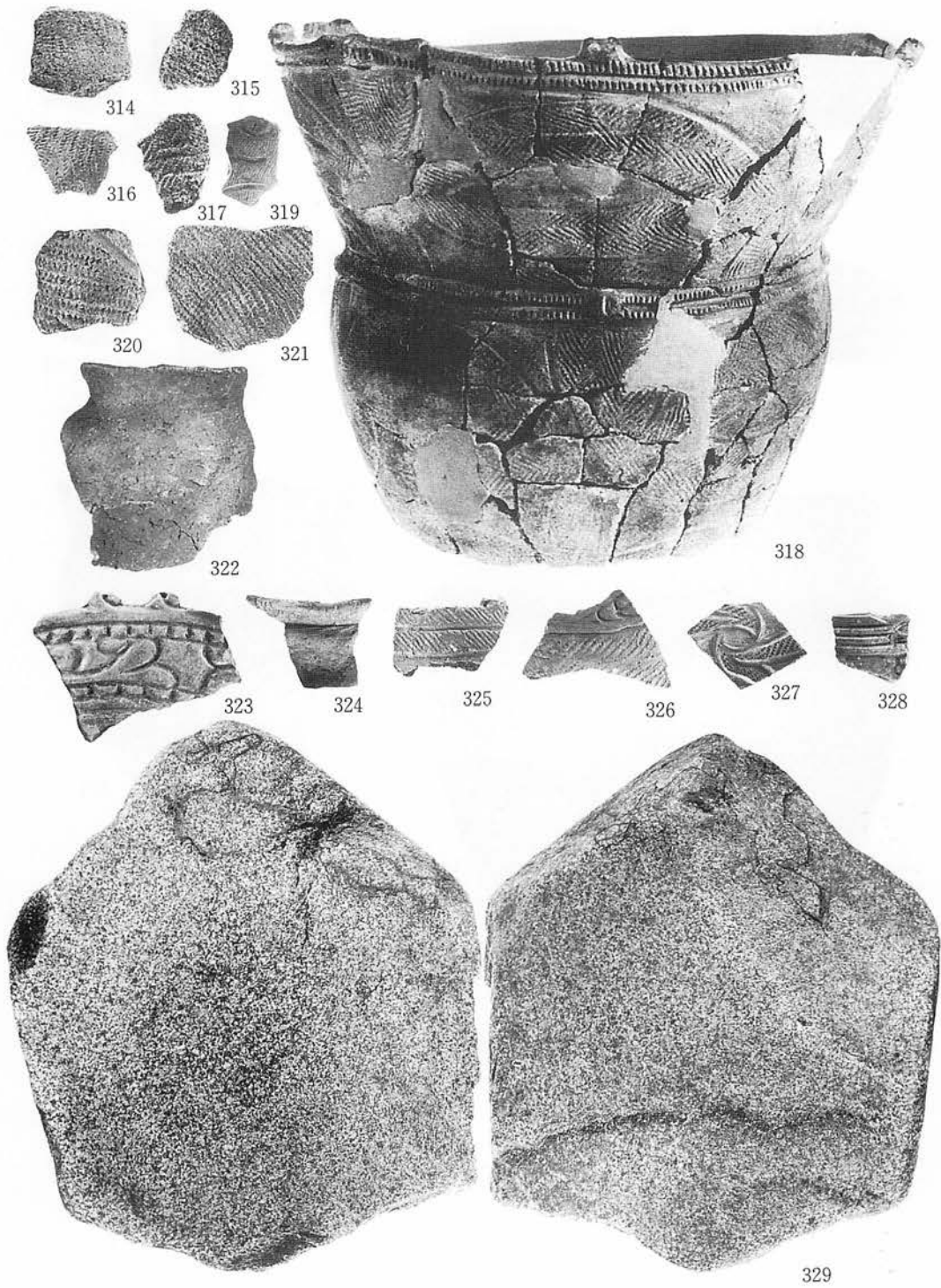
写真図版68 遺構内出土遺物 (11)



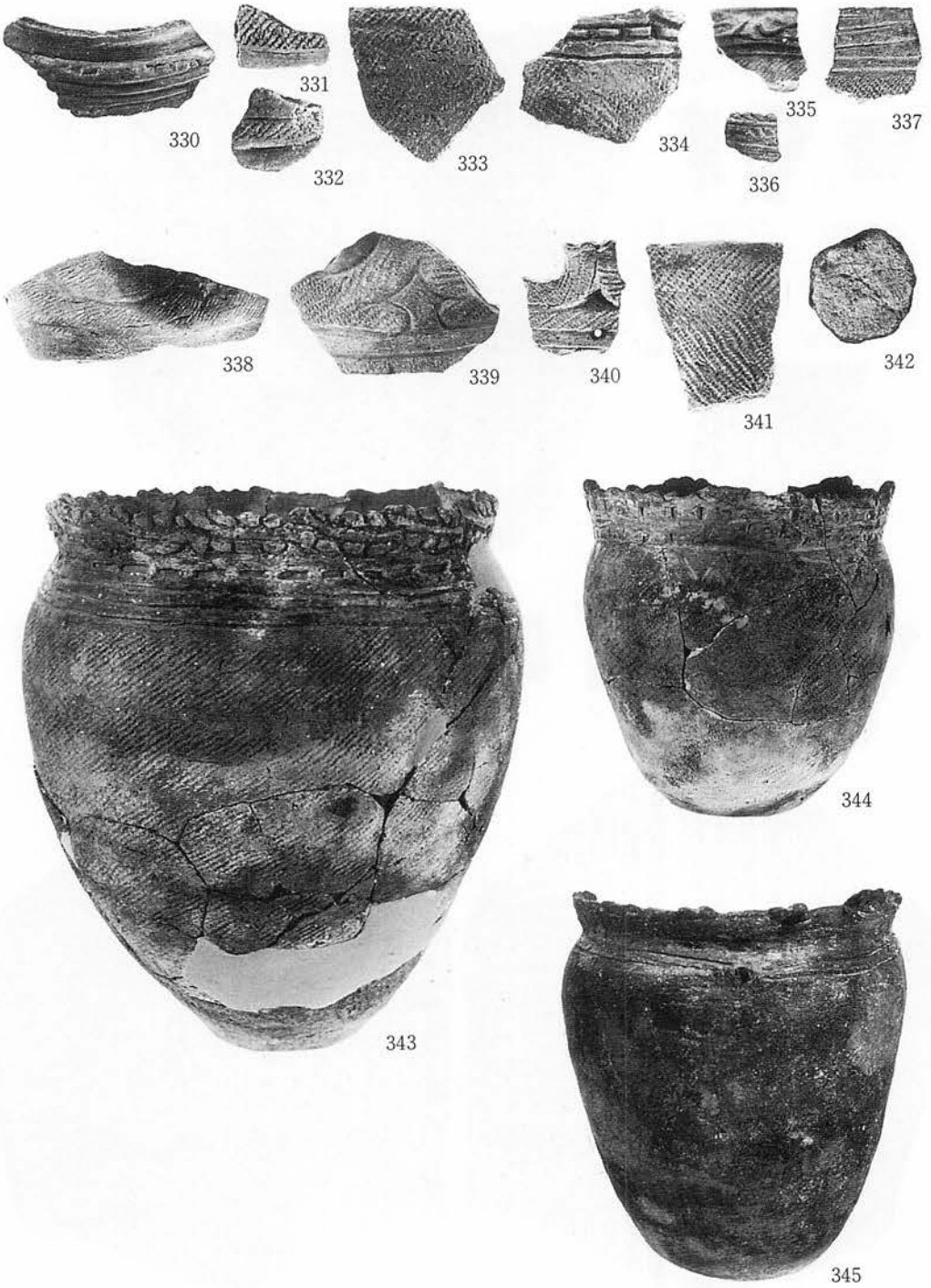
写真図版69 遺構内出土遺物 (12)



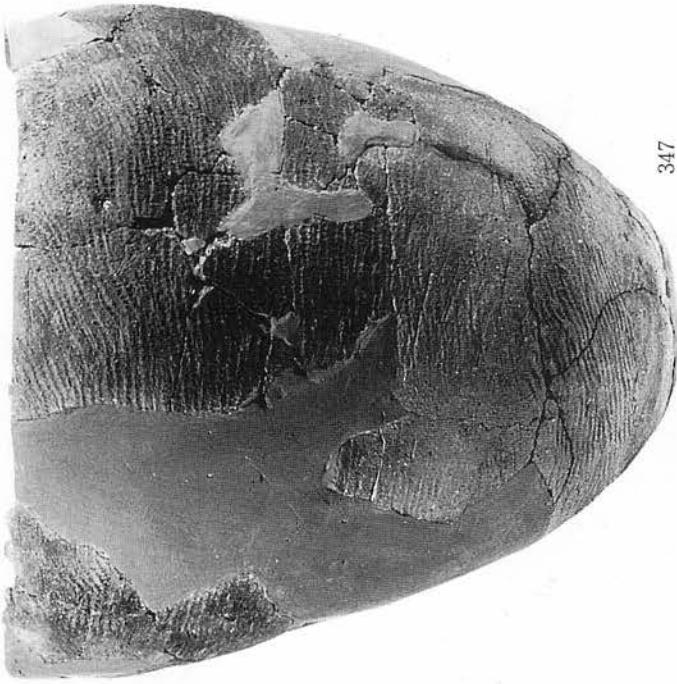
写真図版70 遺構内出土遺物 (13)



写真図版71 遺構内出土遺物 (14)



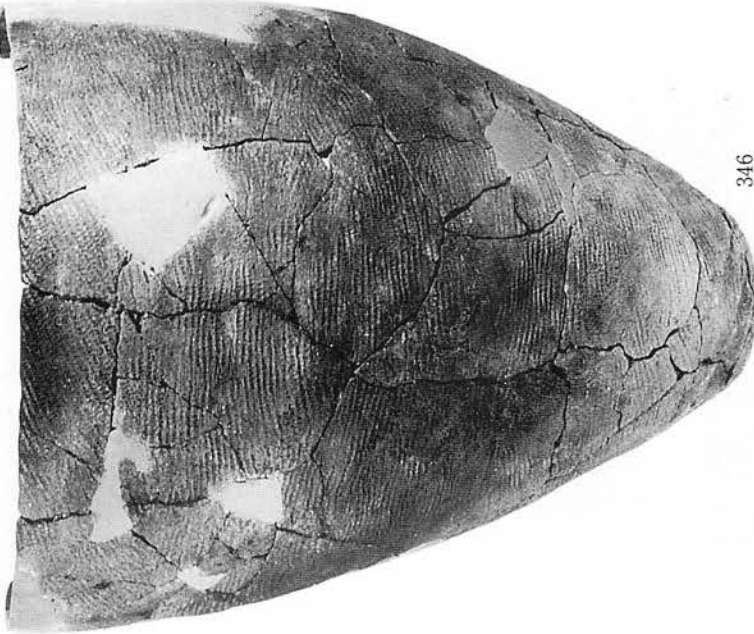
写真図版72 遺構内出土遺物 (15)



347

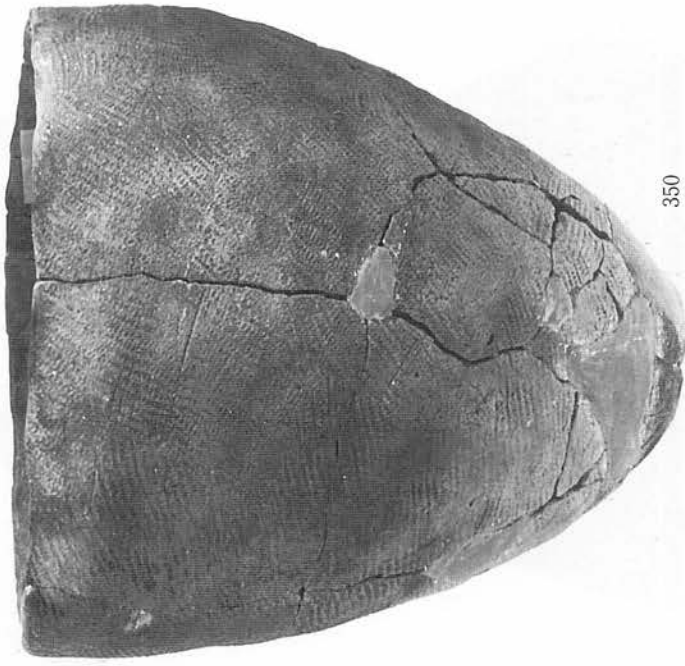


348



346

写真図版73 遺構内出土遺物 (16)



350



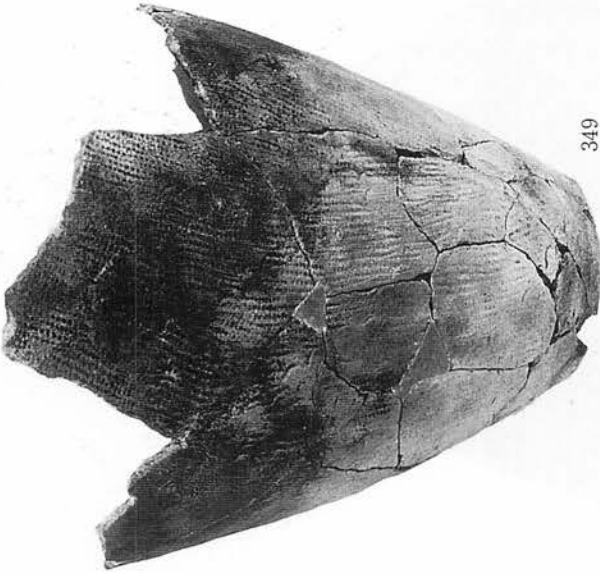
352



353



354

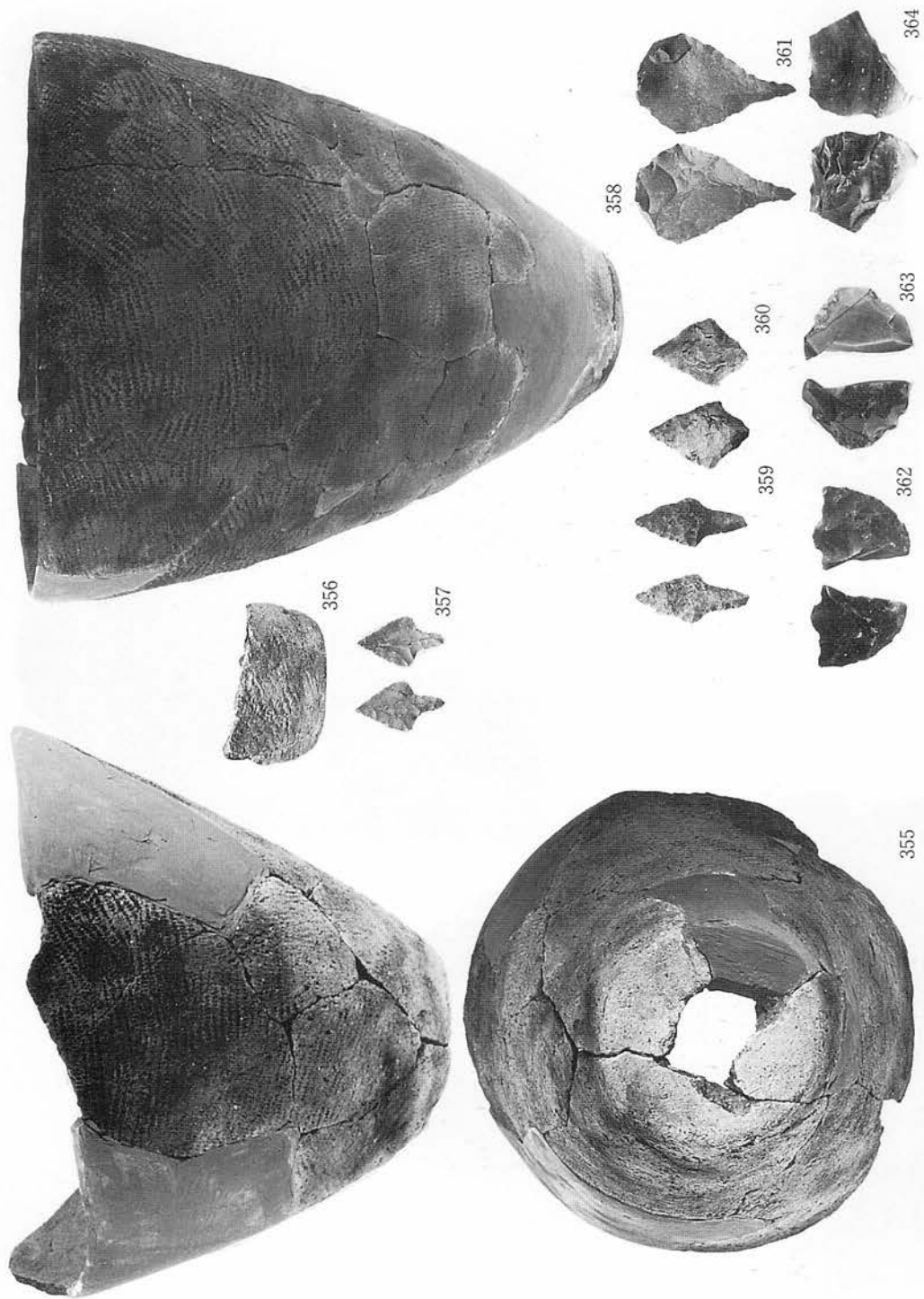


349

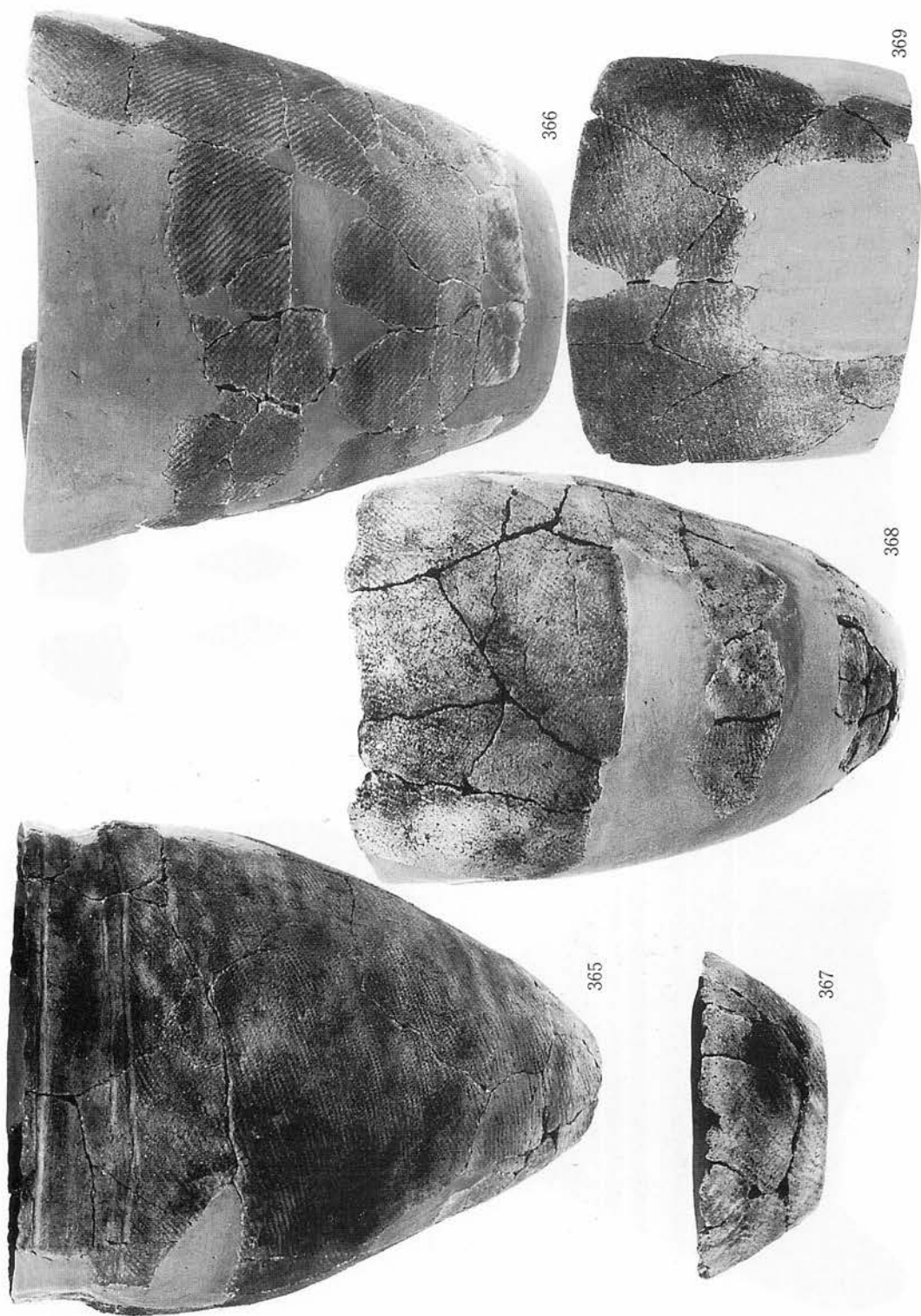


351

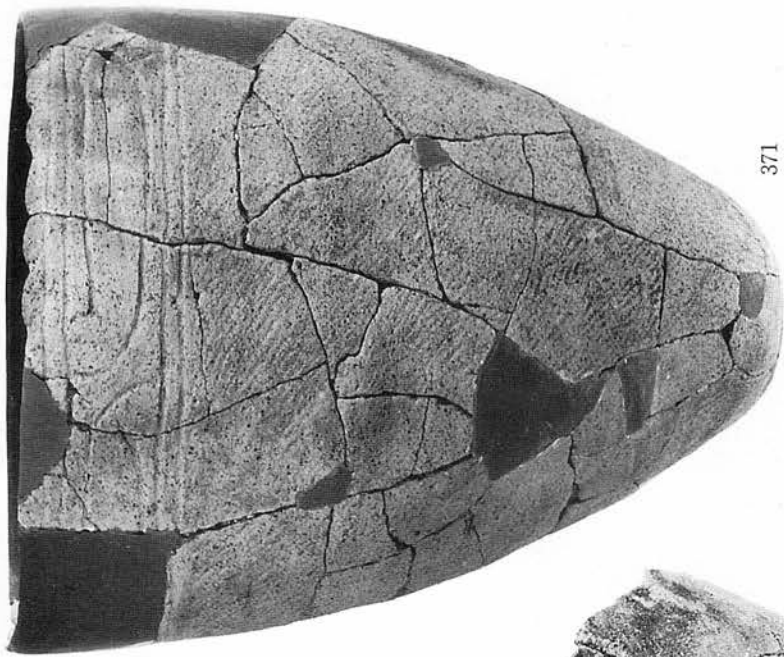
写真図版74 遺構内出土遺物 (17)



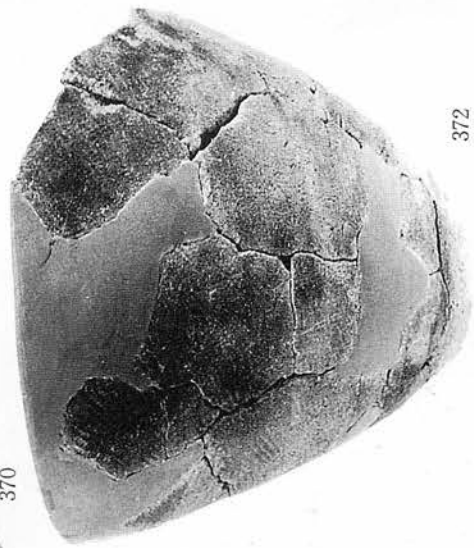
写真図版75 遺構内出土遺物 (18)



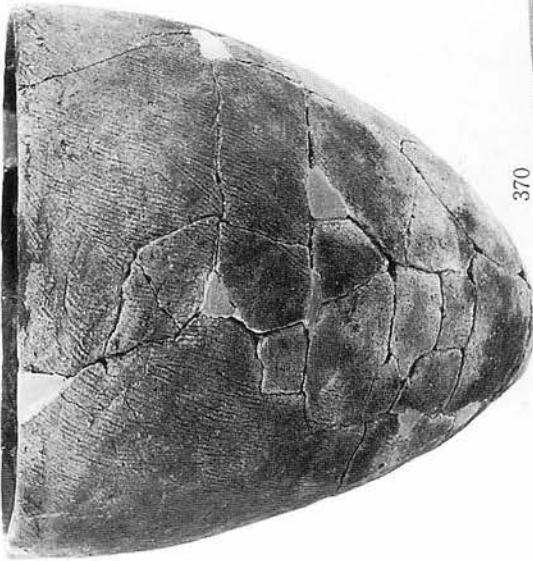
写真図版76 遺構内出土遺物 (19)



371

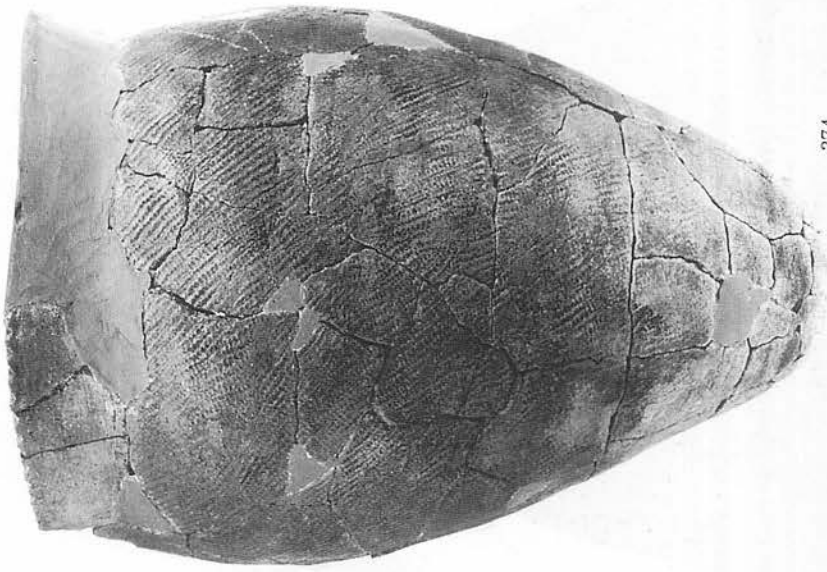


372

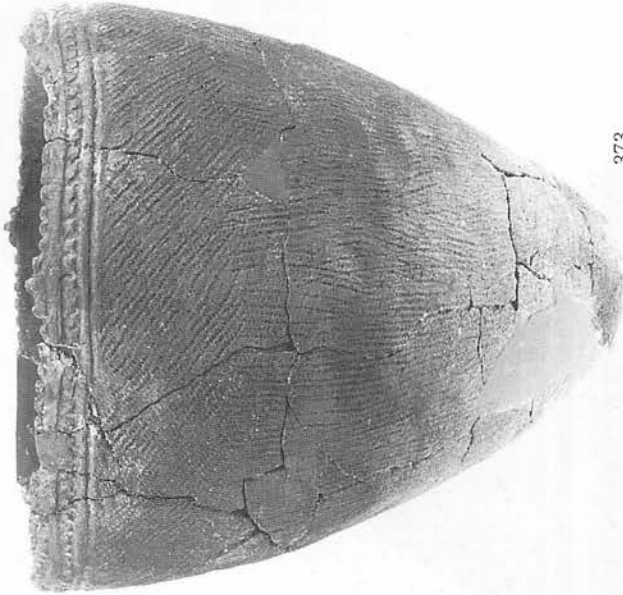


370

写真図版77 遺構内出土遺物 (20)



374

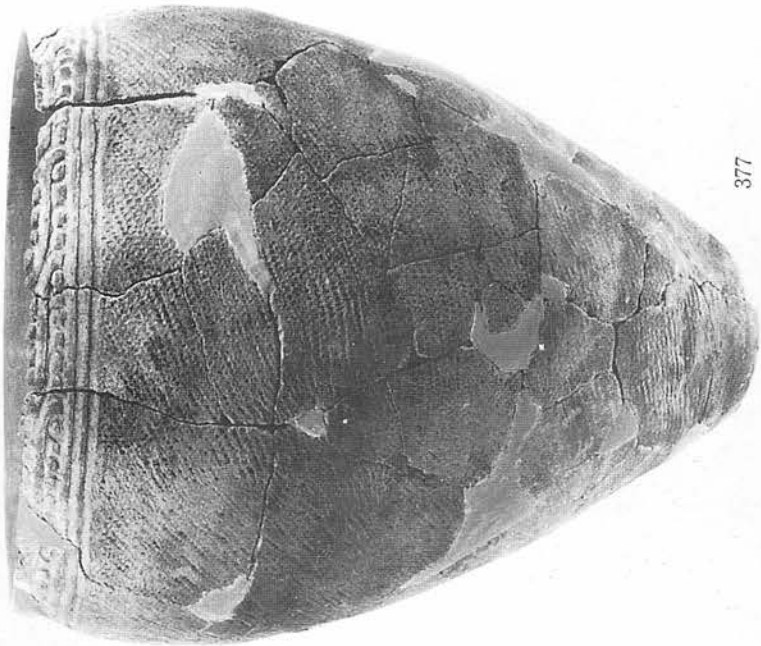


373

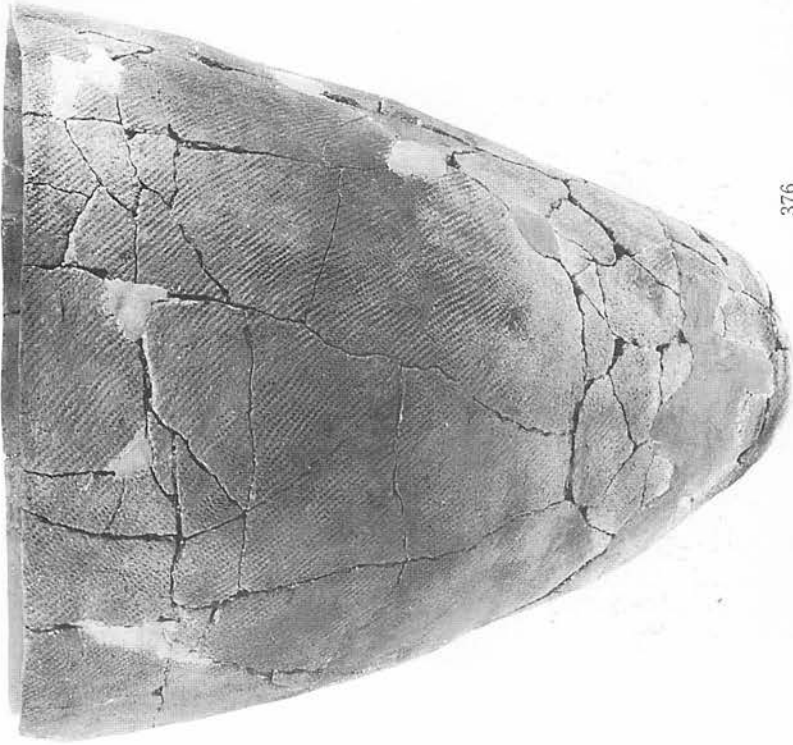


375

写真図版78 遺構内出土遺物 (21)

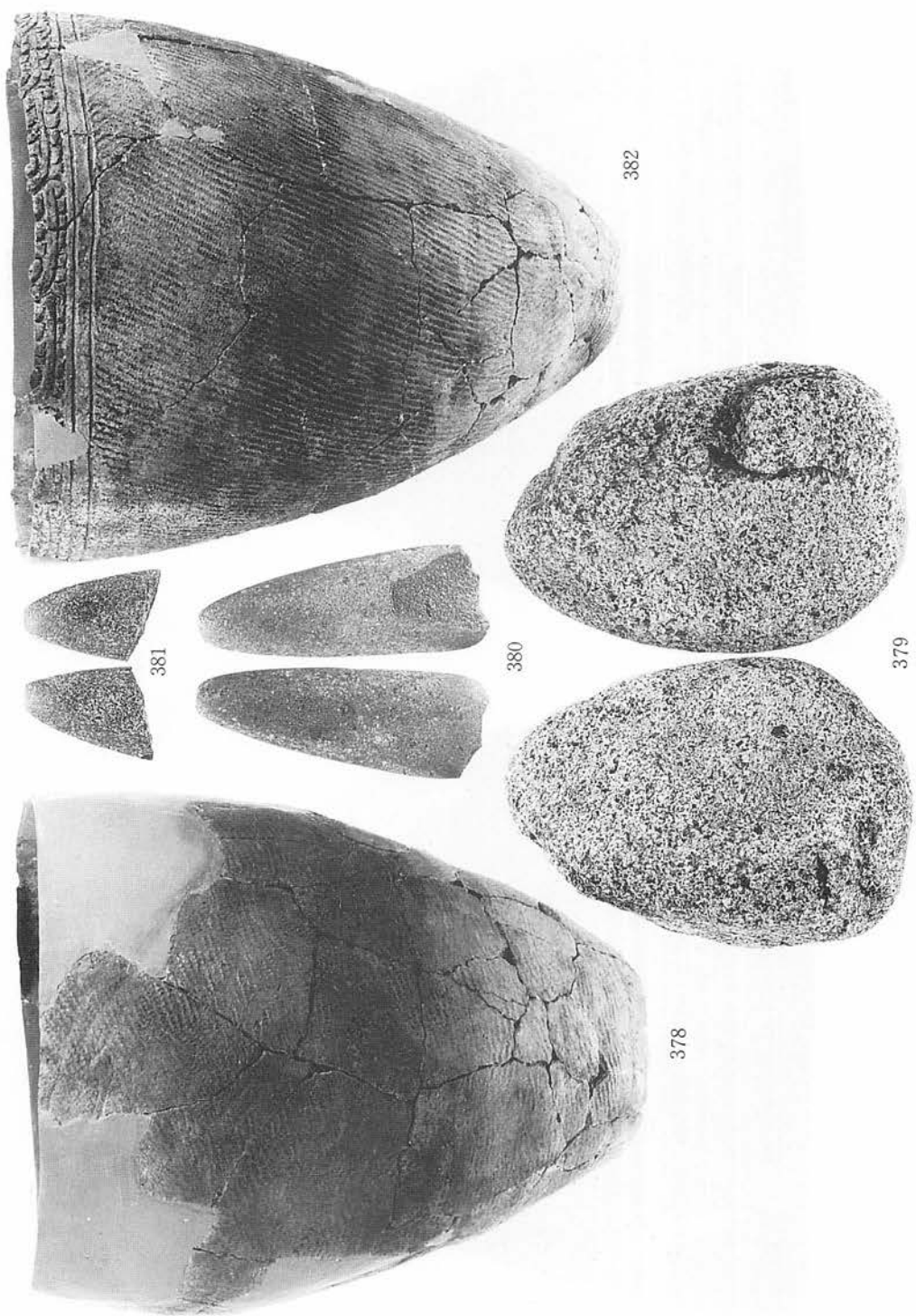


377

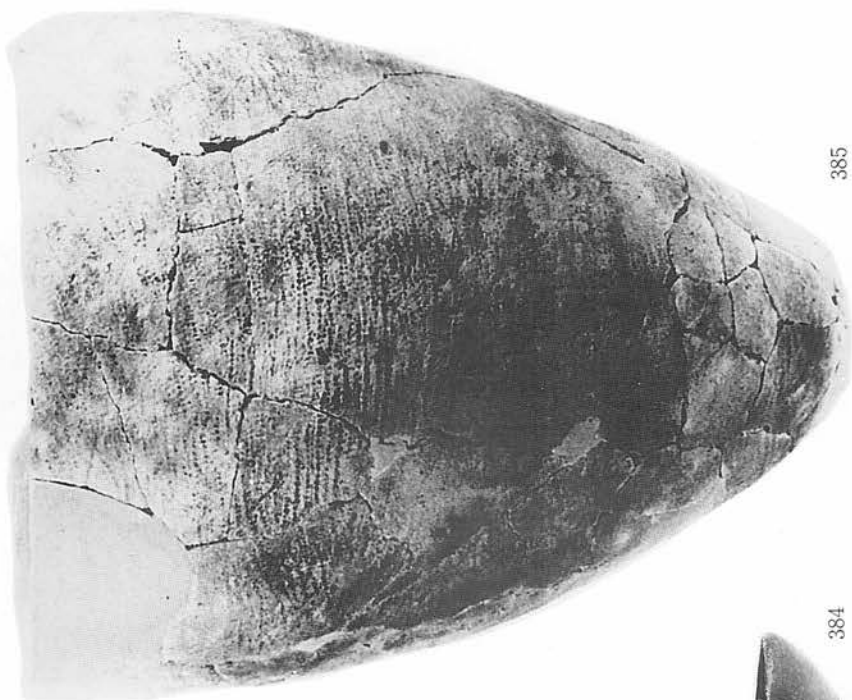


376

写真図版79 遺構内出土遺物 (22)



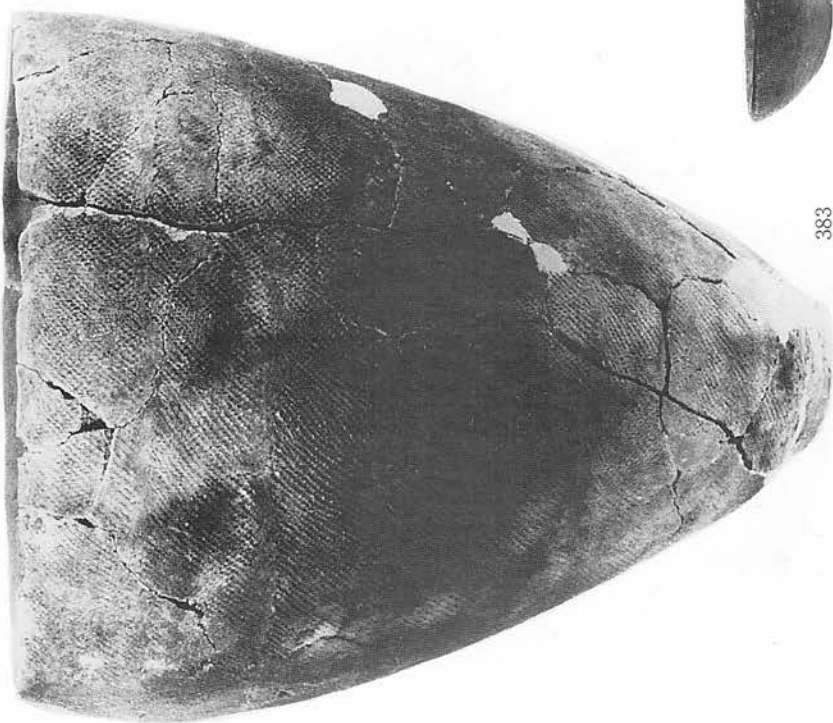
写真図版80 遺構内出土遺物 (23)



385

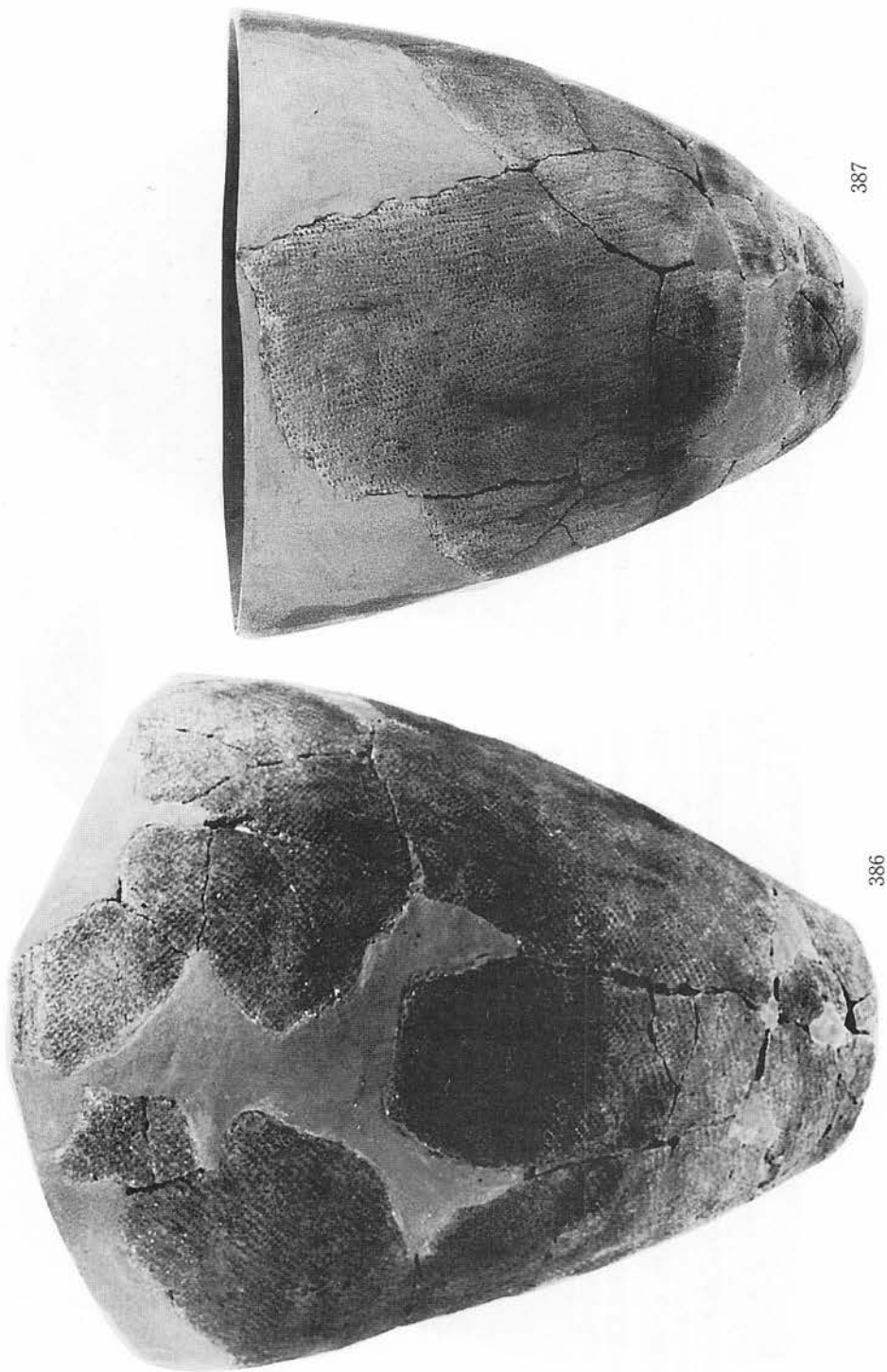


384

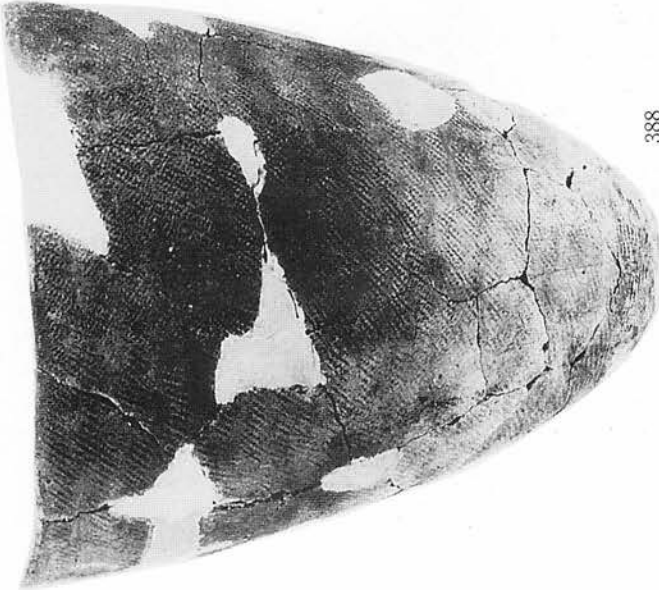
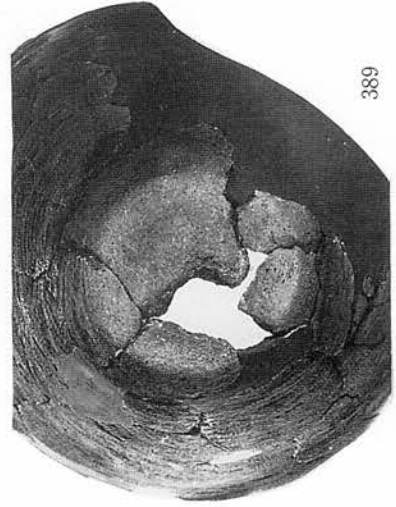


383

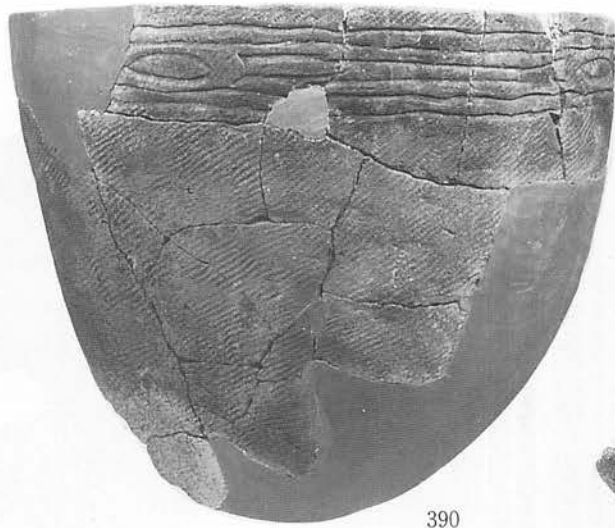
写真図版81 遺構内出土遺物 (24)



写真図版82 遺構内出土遺物 (25)



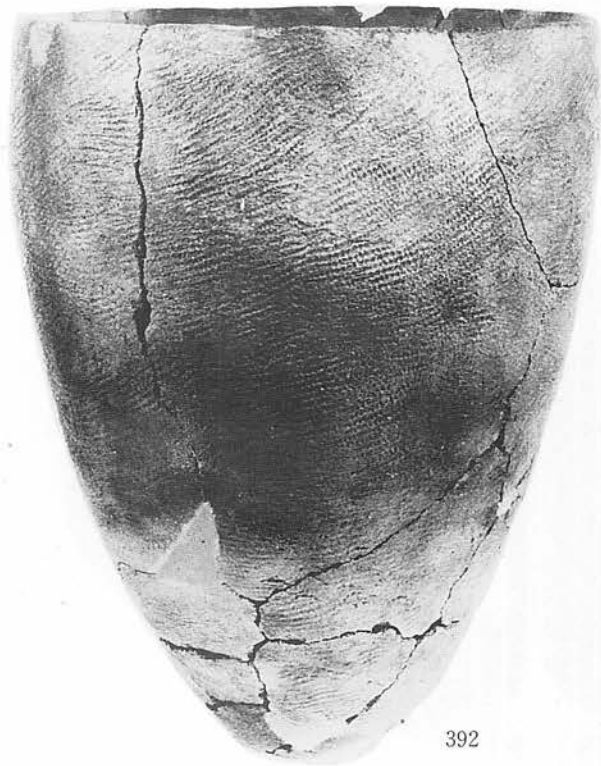
写真図版83 遺構内出土遺物 (26)



390

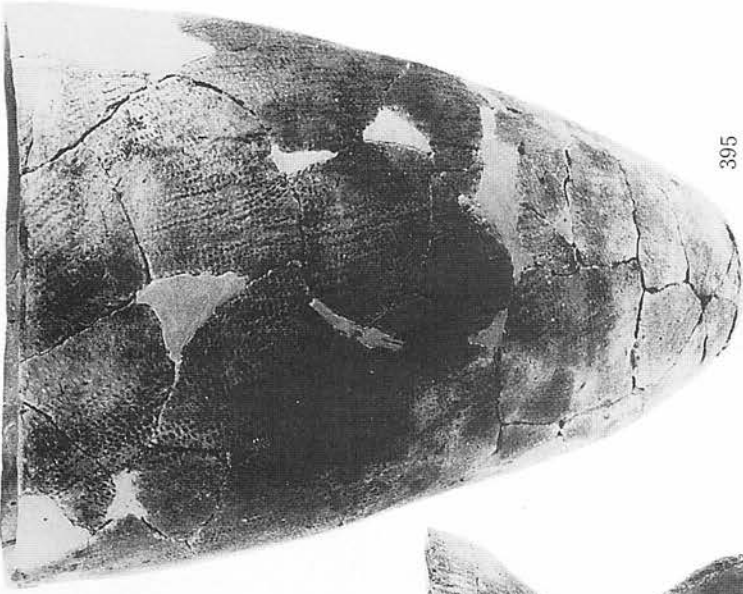


391



392

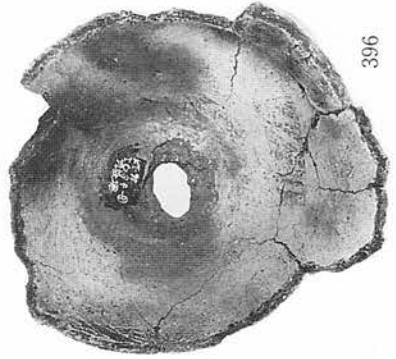
写真図版84 遺構内出土遺物 (27)



395



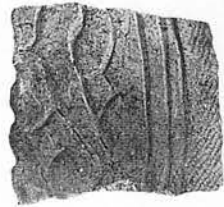
393



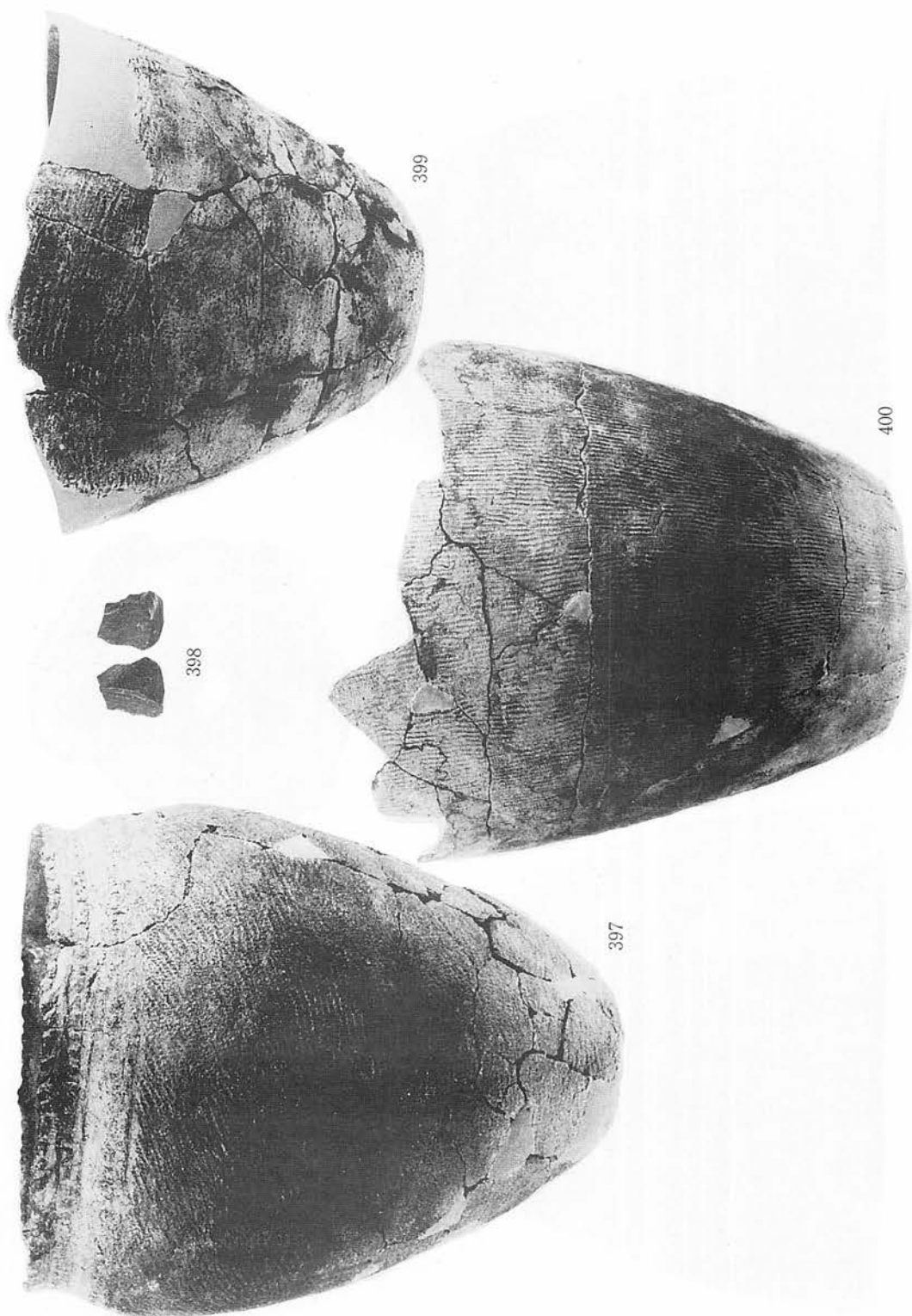
396



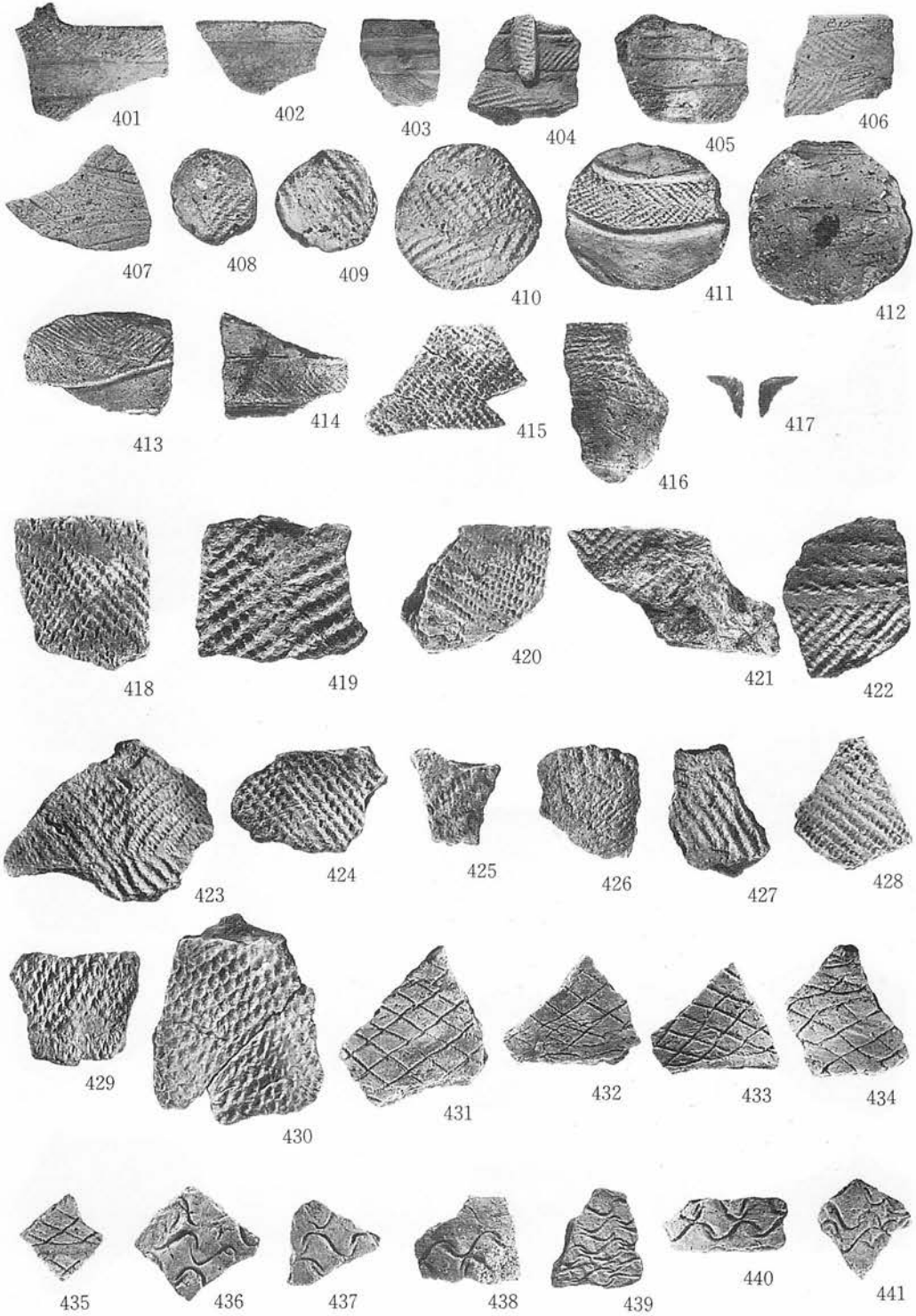
394



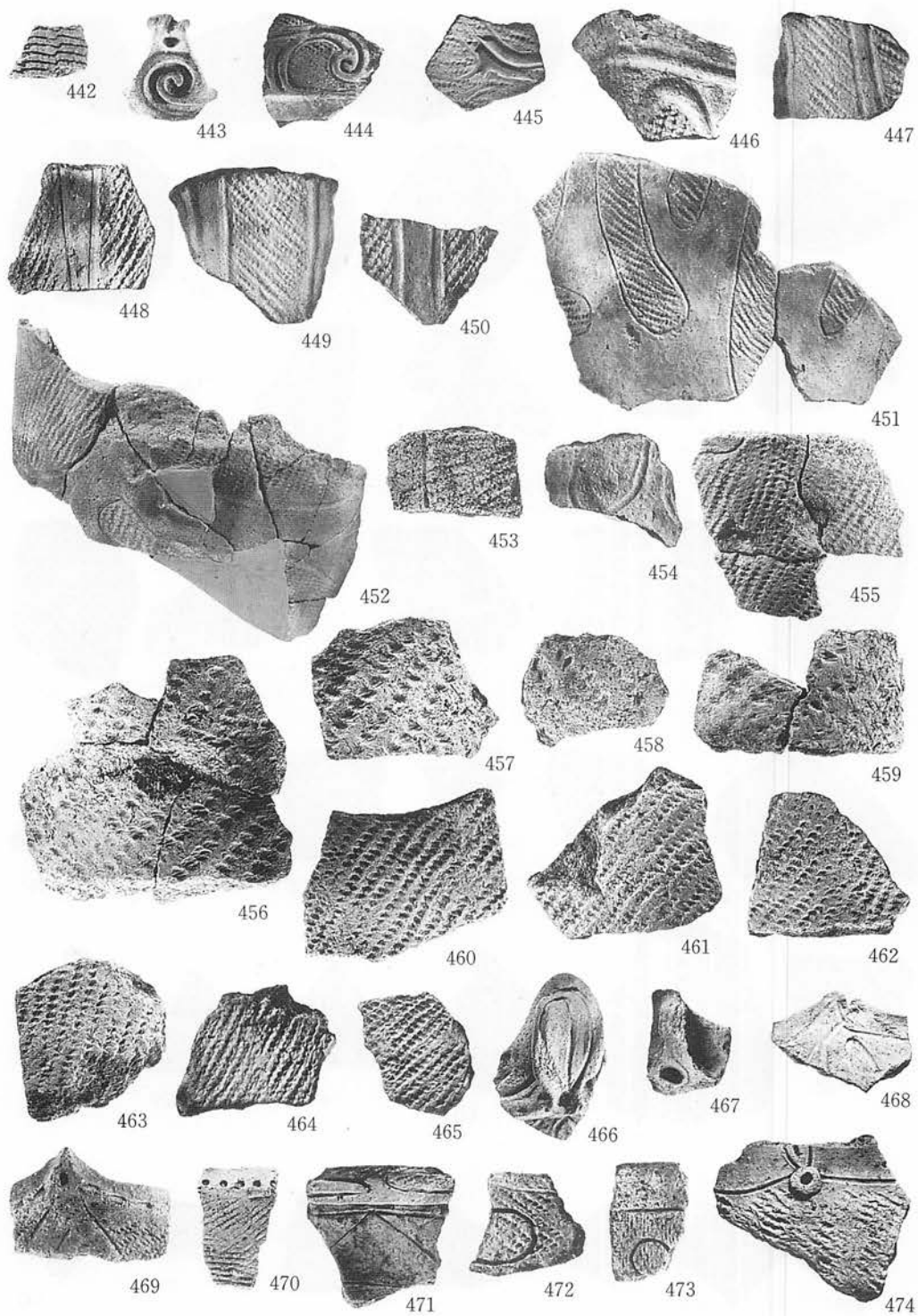
写真図版85 遺構内出土遺物 (28)



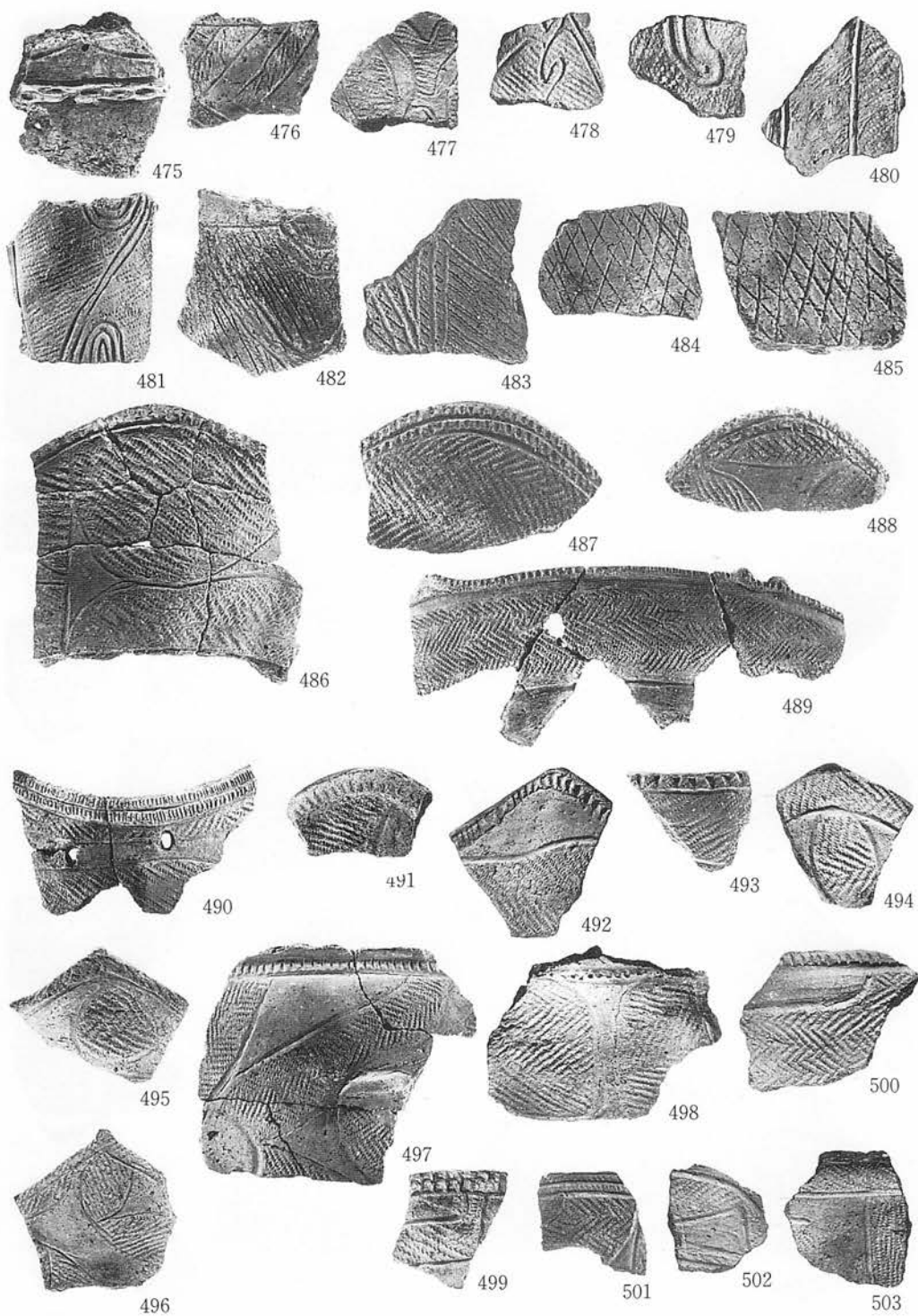
写真図版86 遺構内出土遺物 (29)



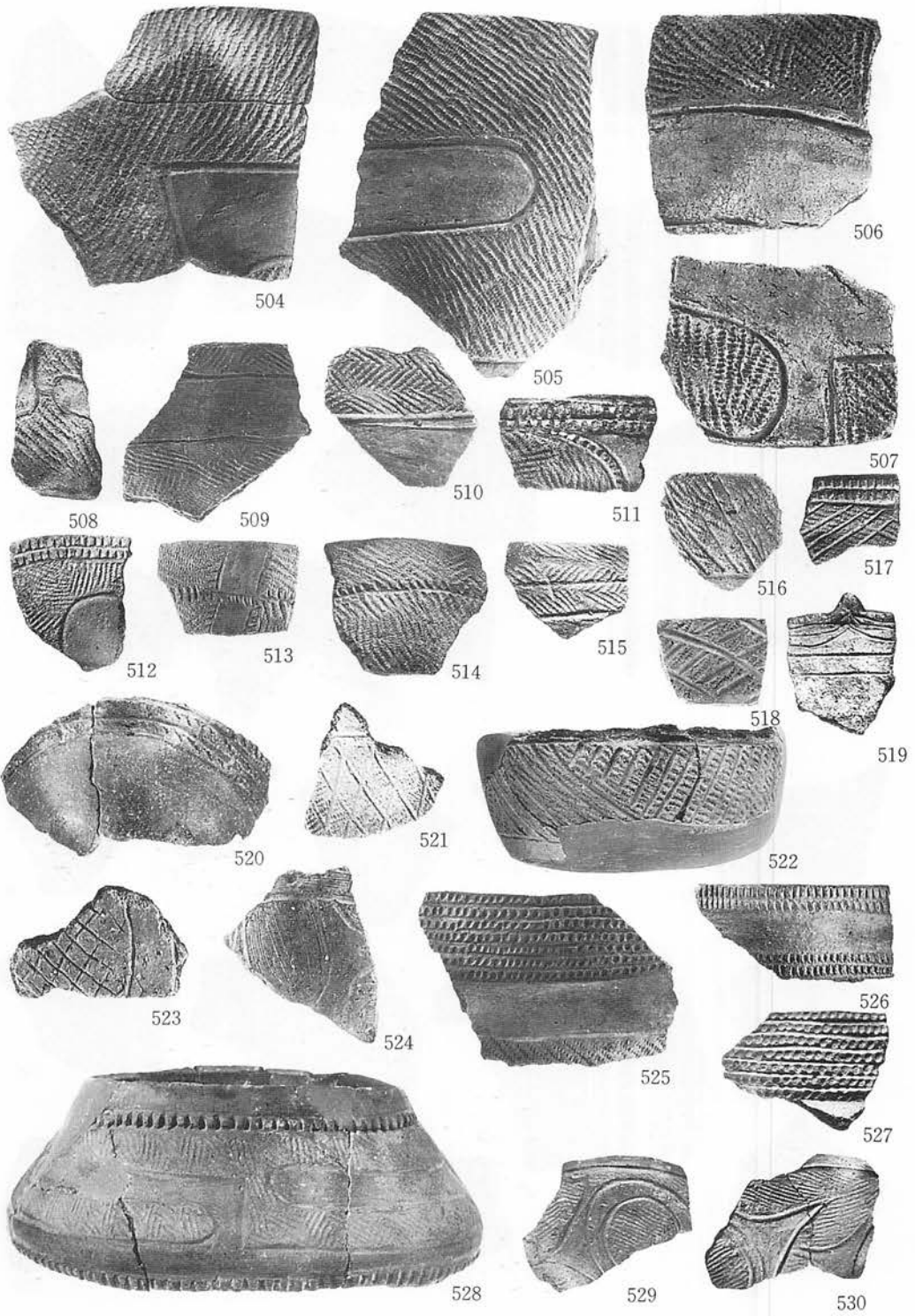
写真图版87 遺構内出土遺物 (30)・遺物包含層出土遺物 (土器) 1



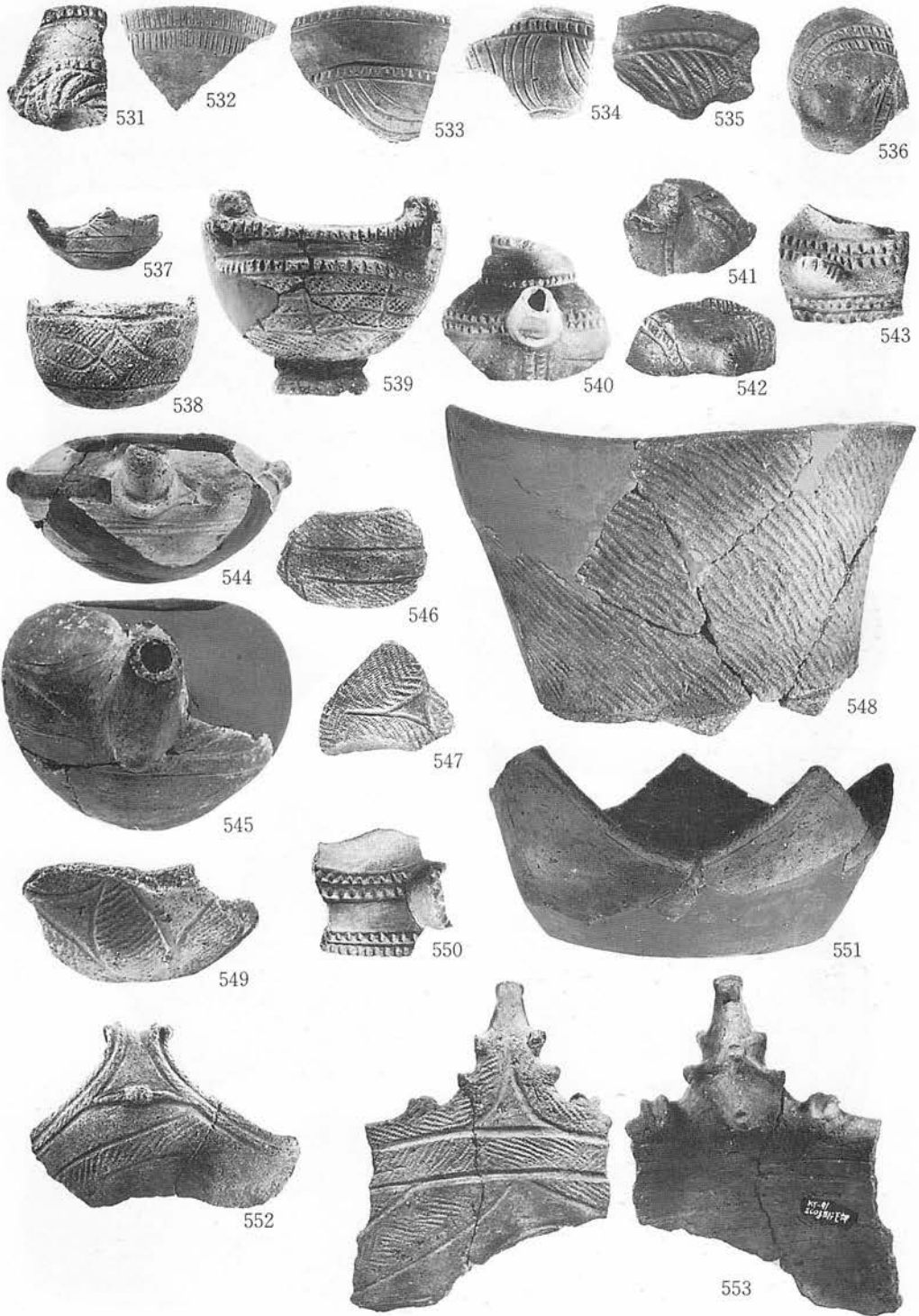
写真图版88 遺物包含層出土遺物（土器）2



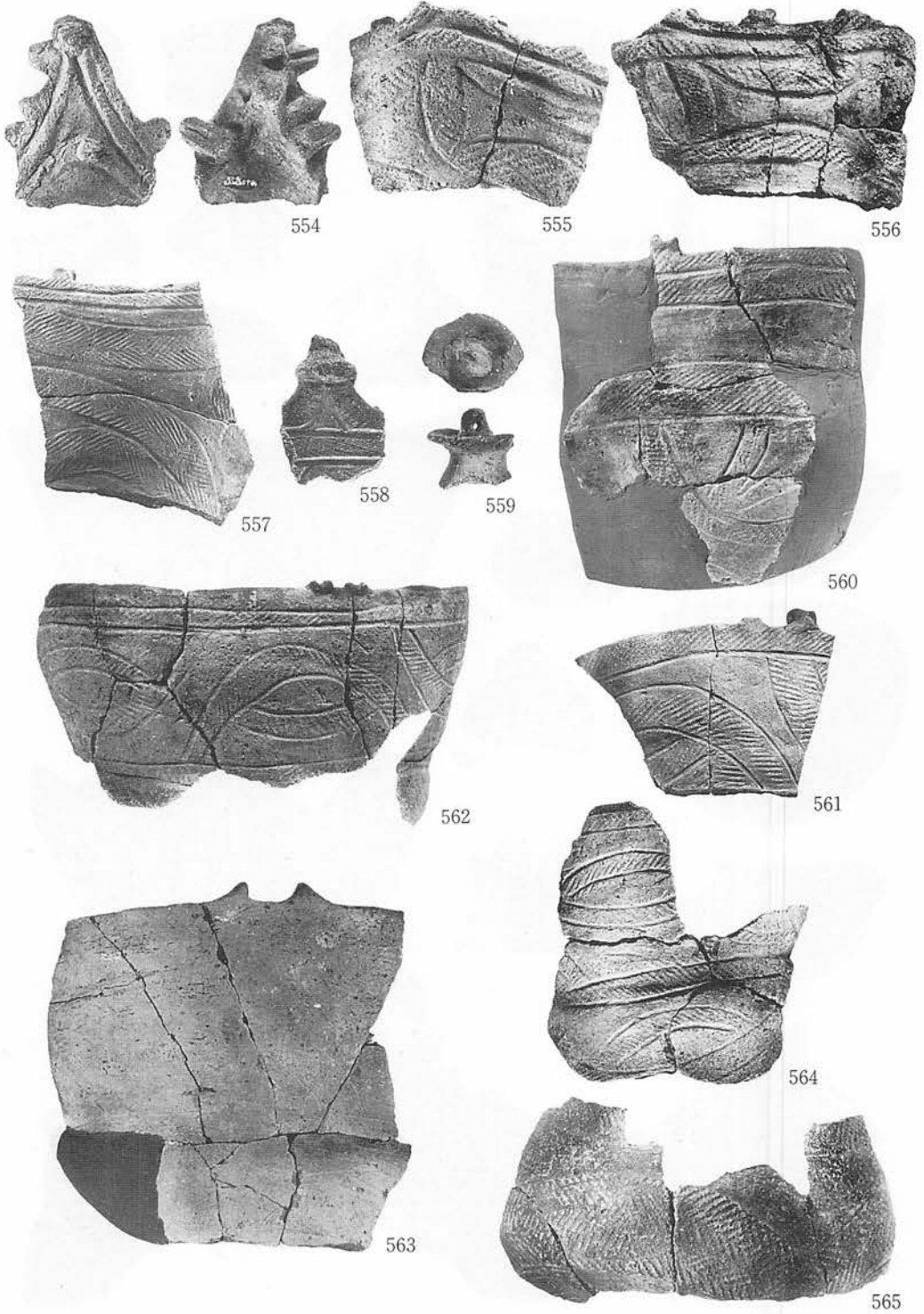
写真図版89 遺物包含層出土遺物（土器）3



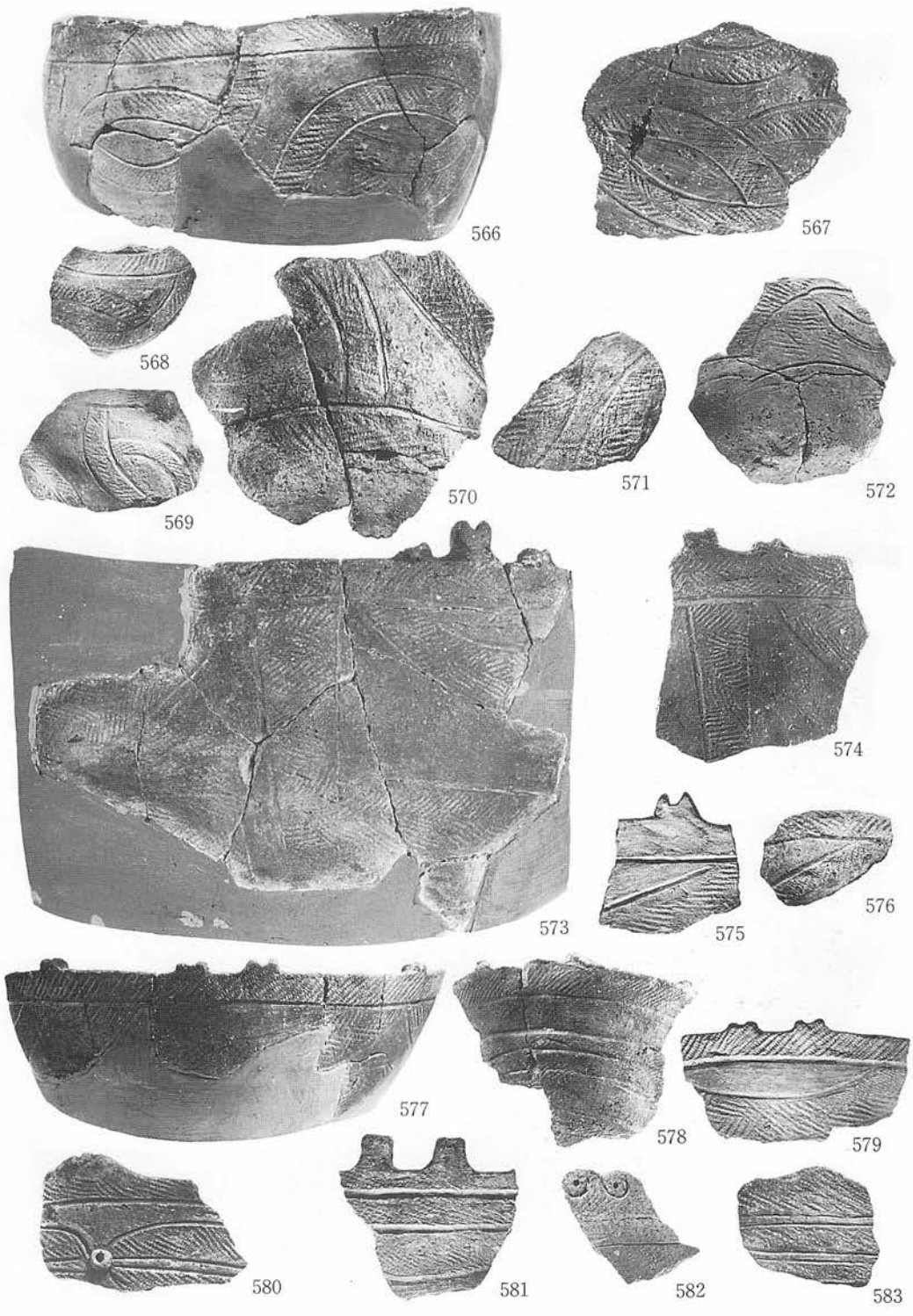
写真図版90 遺物包含層出土遺物（土器）4



写真图版91 遺物包含層出土遺物（土器）5



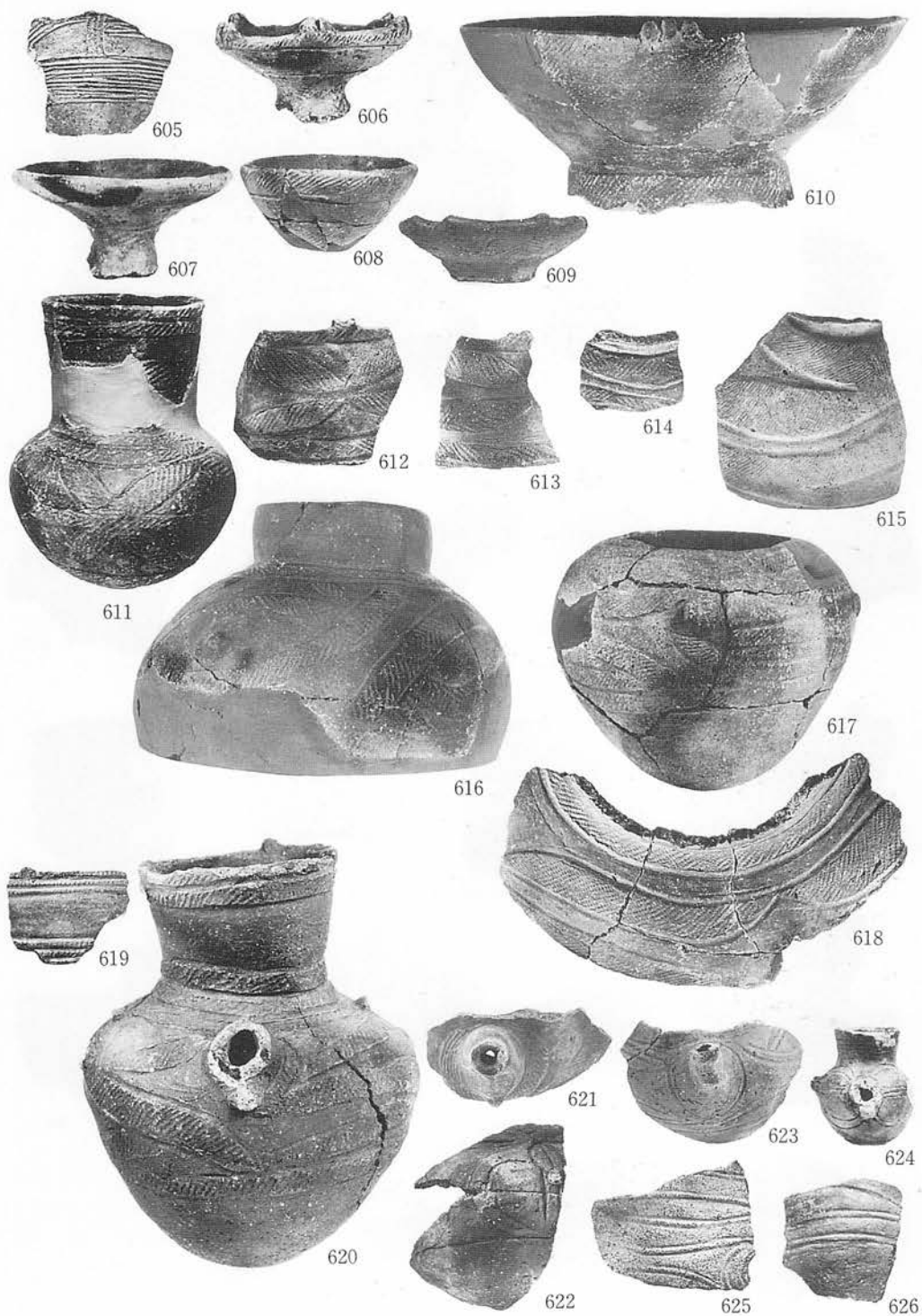
写真図版92 遺物包含層出土遺物（土器）6



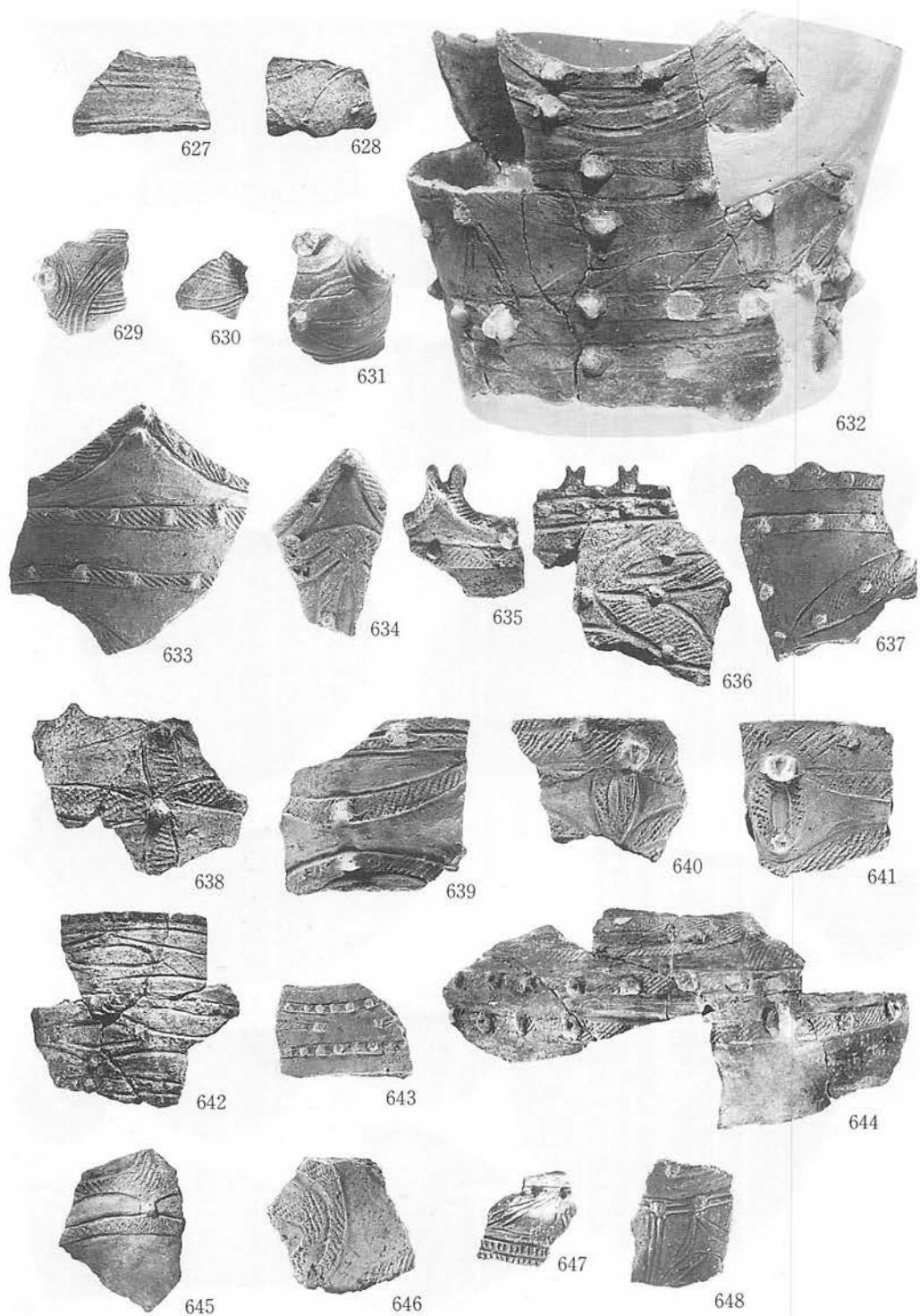
写真図版93 遺物包含層出土遺物（土器）7



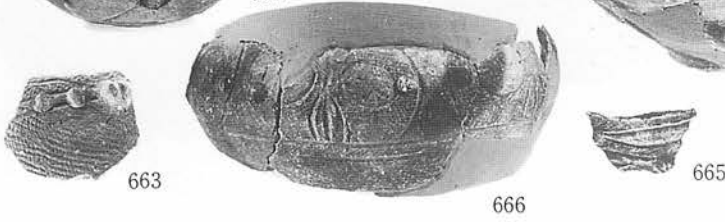
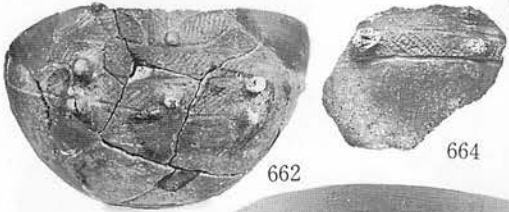
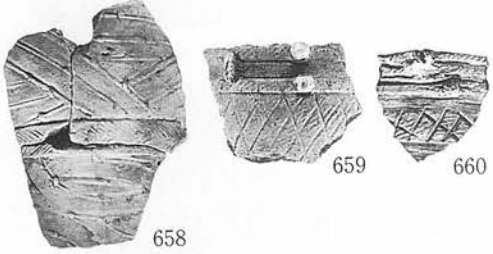
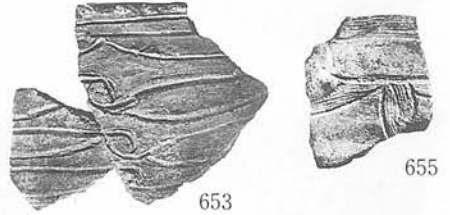
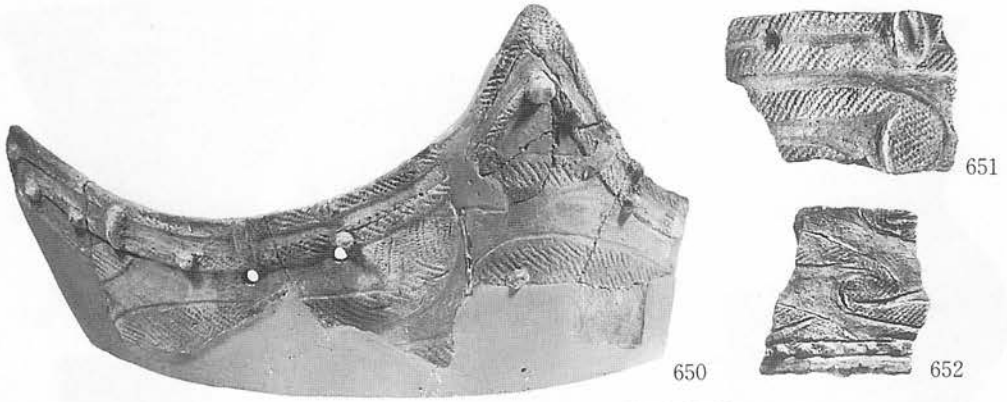
写真図版94 遺物包含層出土遺物（土器）8



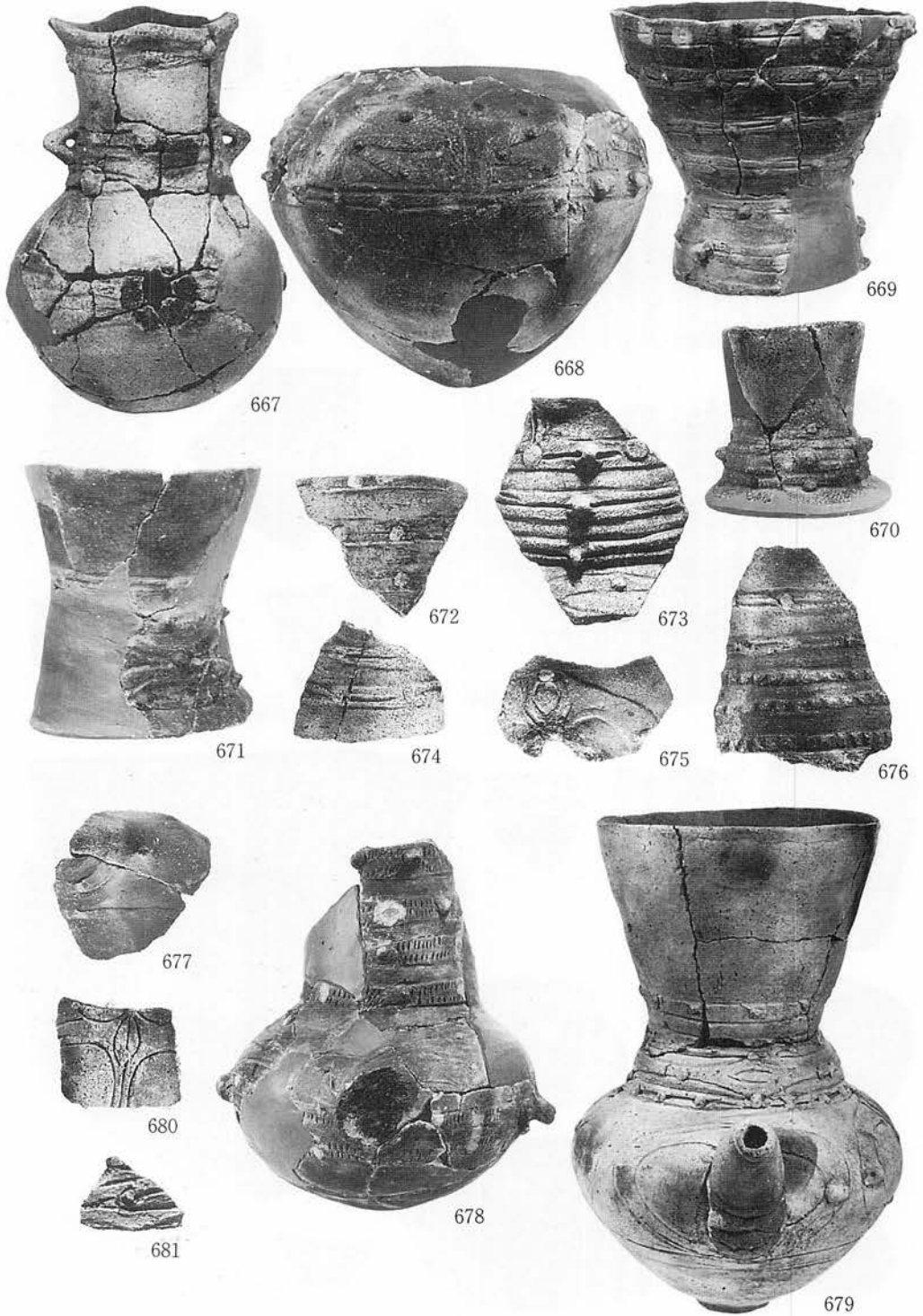
写真図版95 遺物包含層出土遺物（土器）9



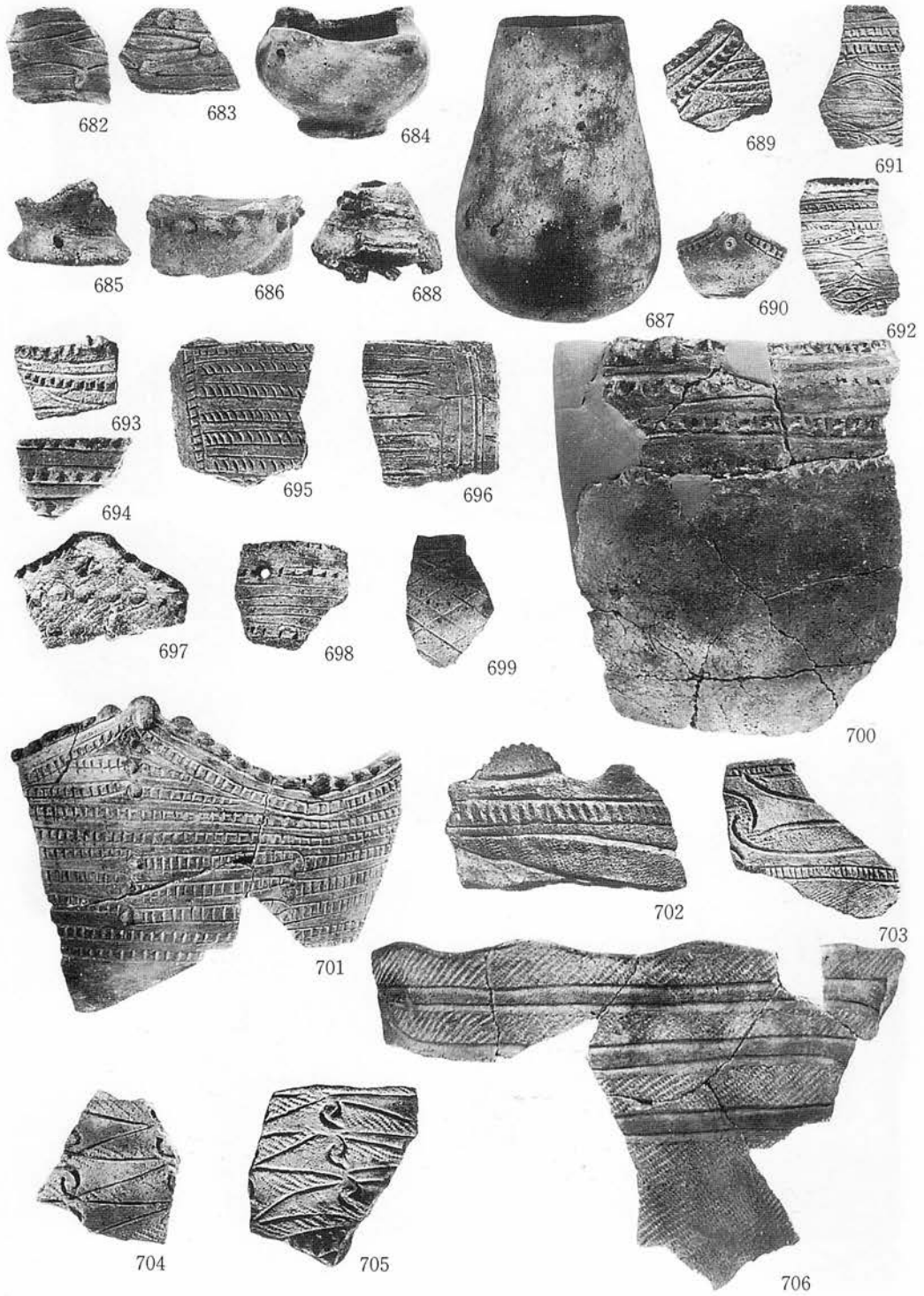
写真图版96 遺物包含層出土遺物（土器）10



写真図版97 遺物包含層出土遺物（土器）11



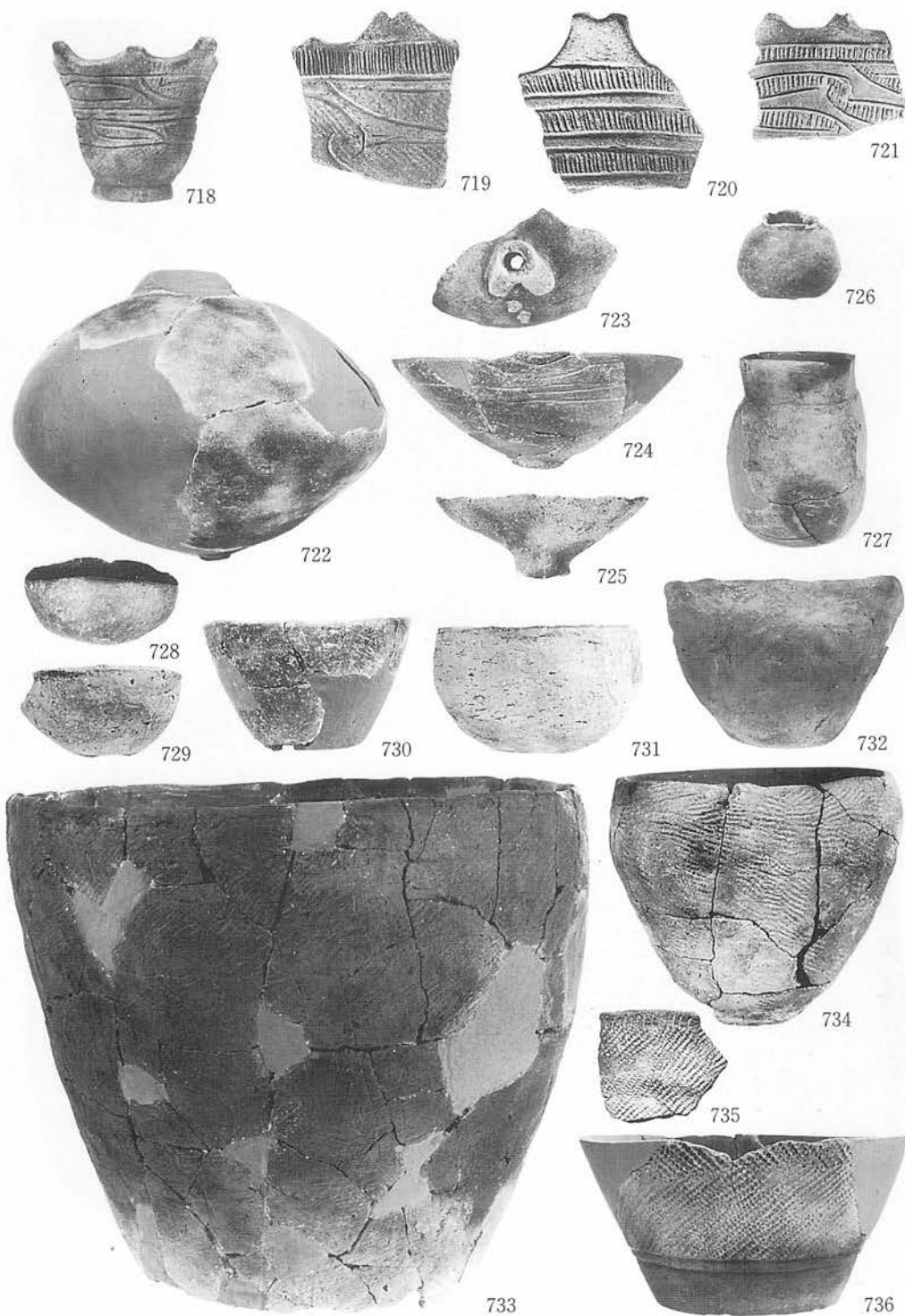
写真図版98 遺物包含層出土遺物（土器）12



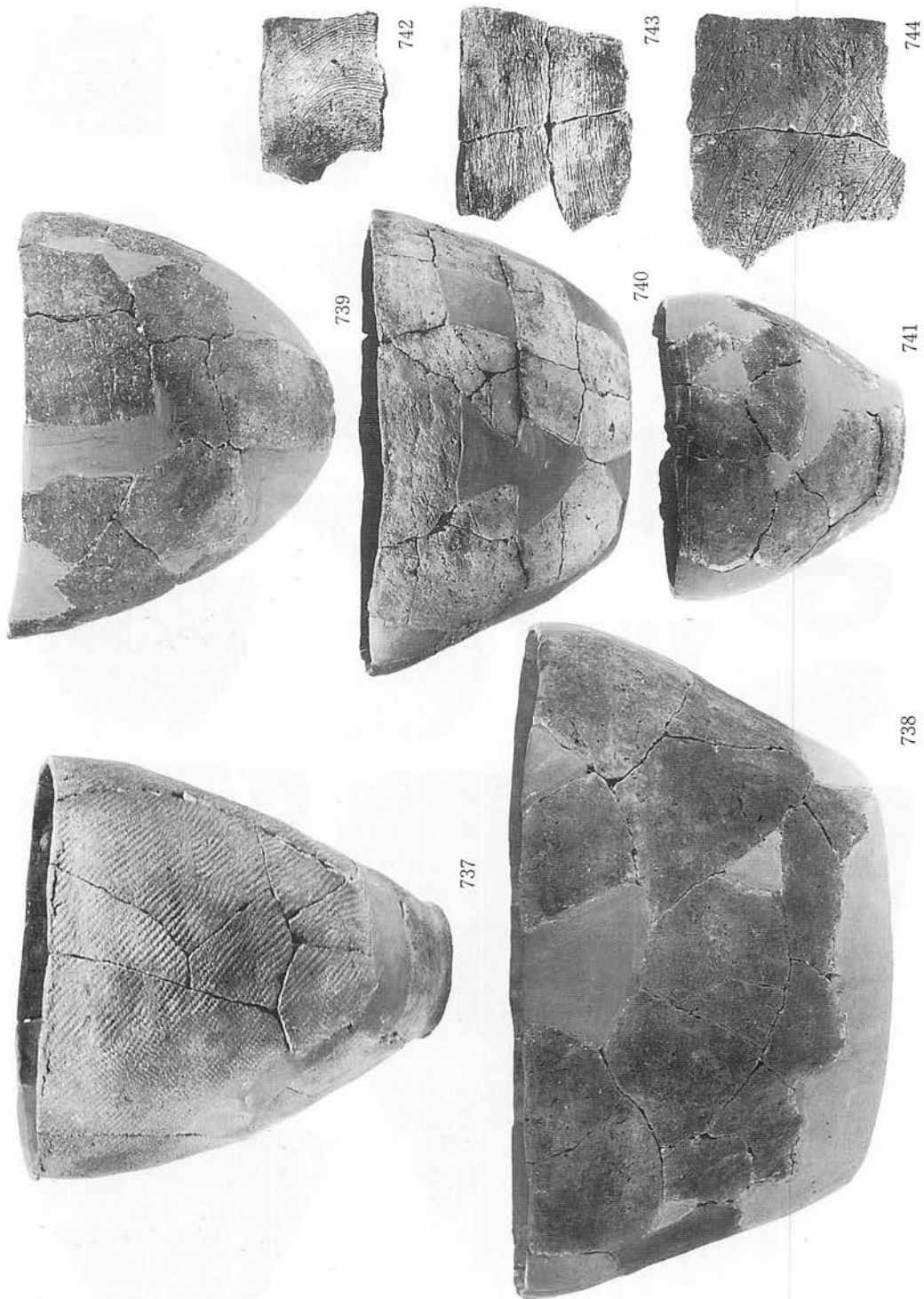
写真図版99 遺物包含層出土遺物（土器）13



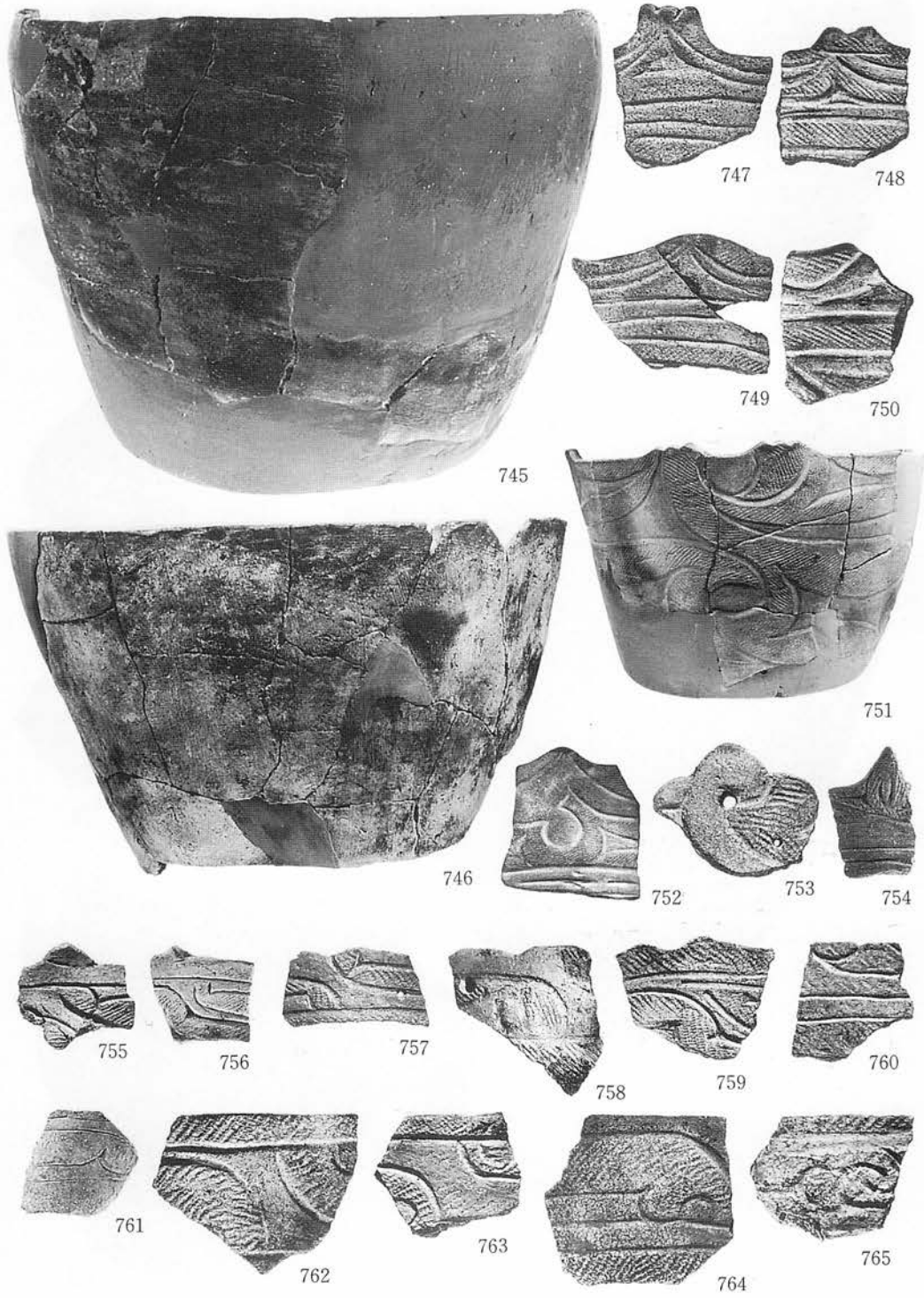
写真图版100 遺物包含層出土遺物（土器）14



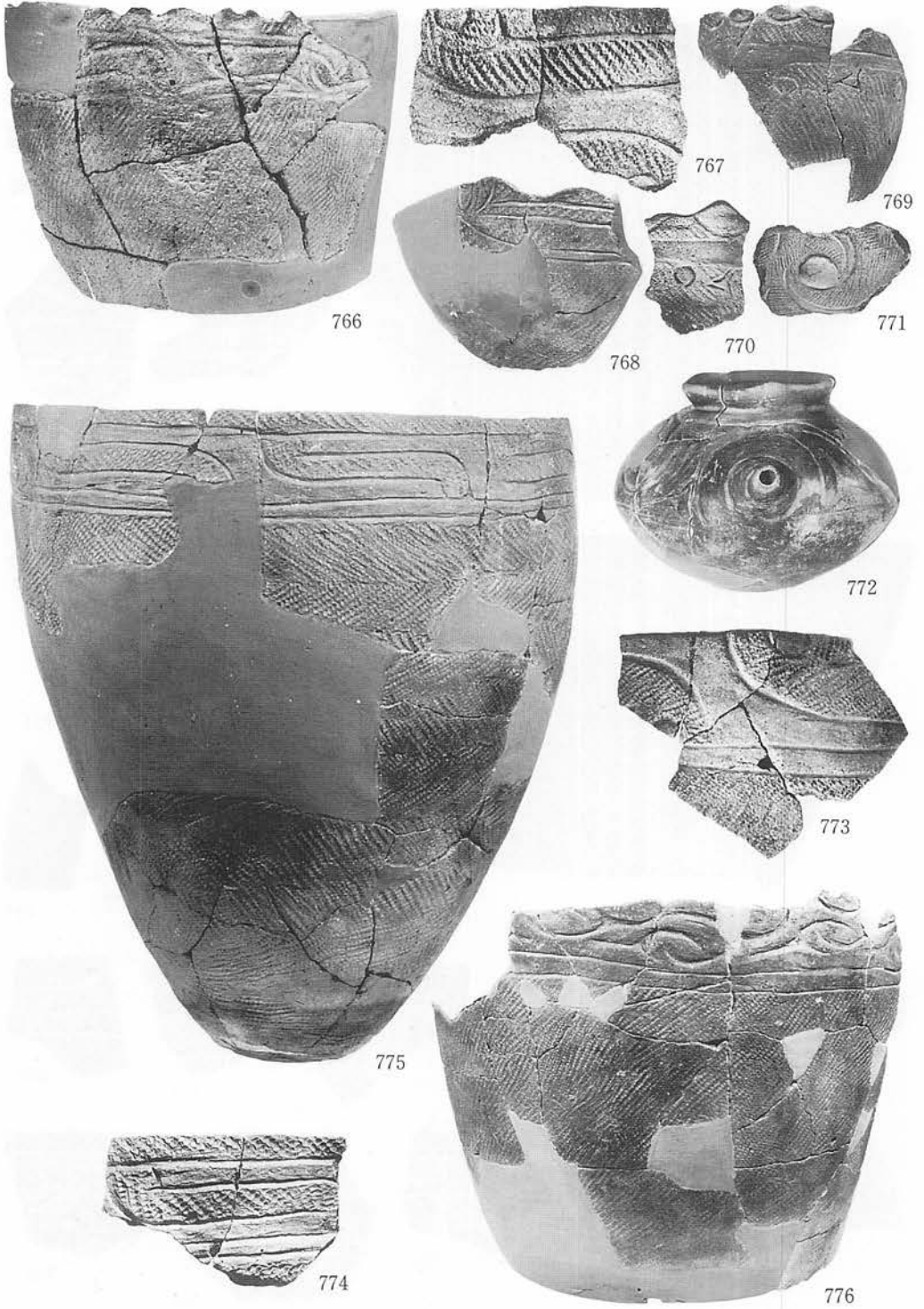
写真図版101 遺物包含層出土遺物（土器）15



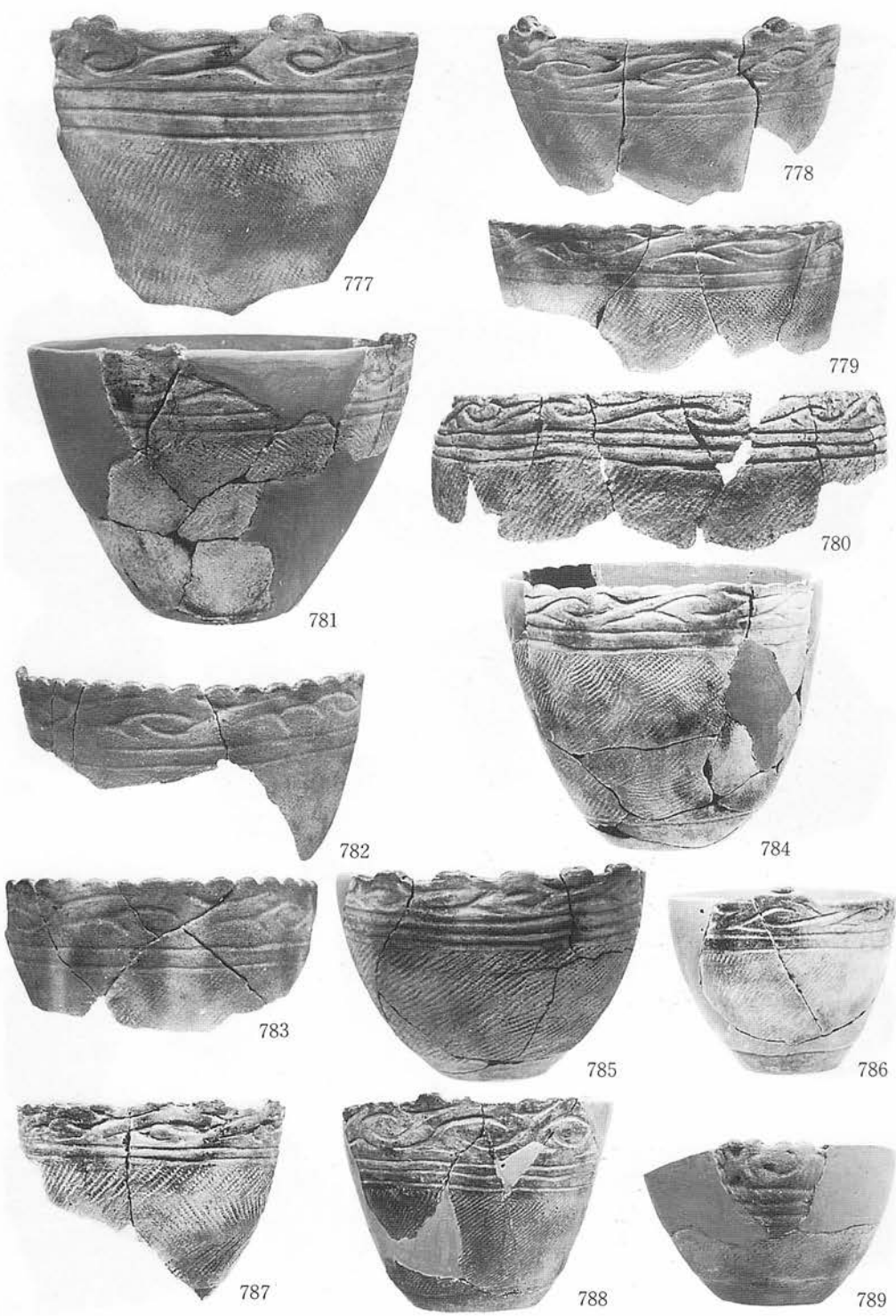
写真図版102 遺物包含層出土遺物（土器）16



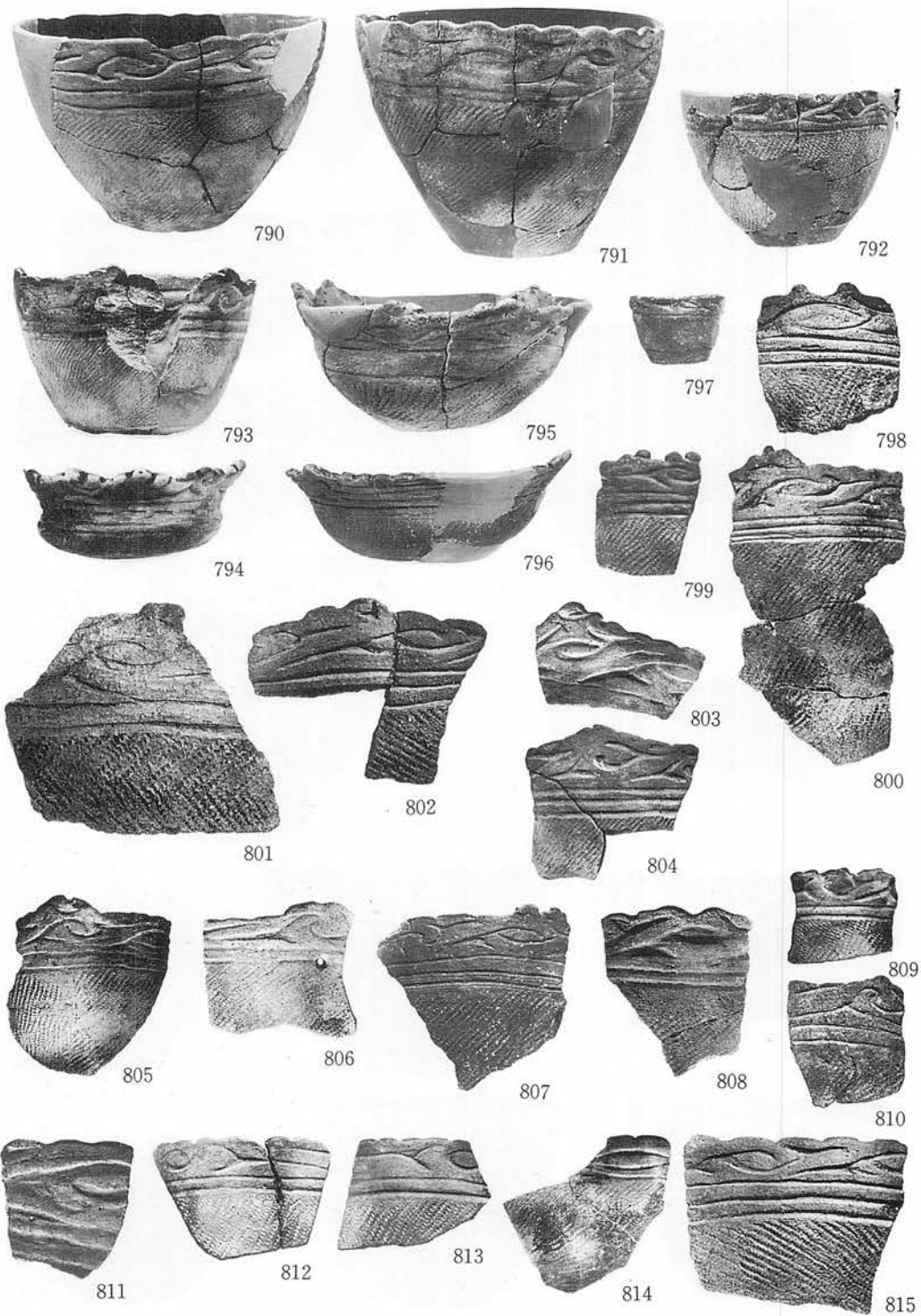
写真図版103 遺物包含層出土遺物（土器）17



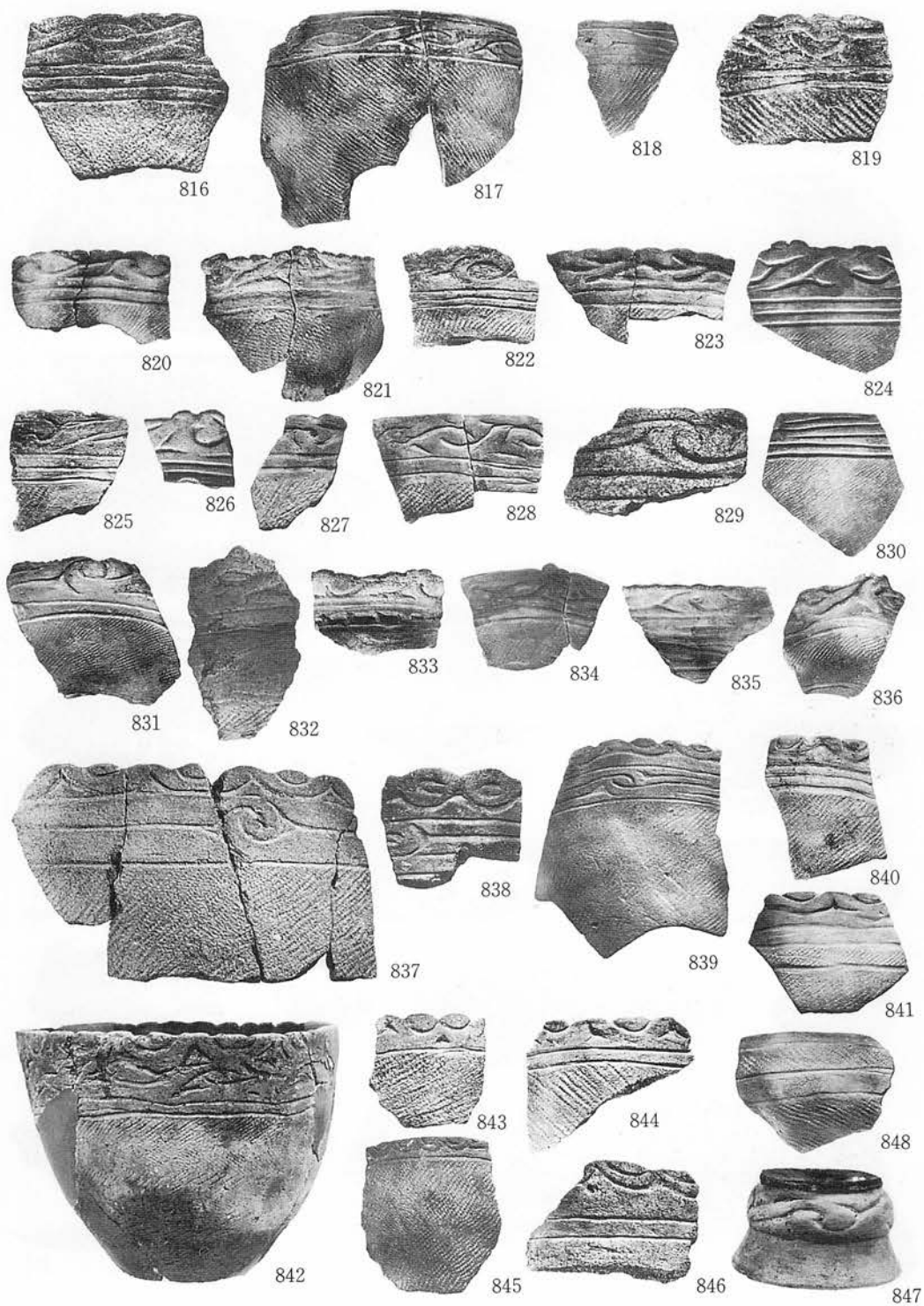
写真図版104 遺物包含層出土遺物（土器）18



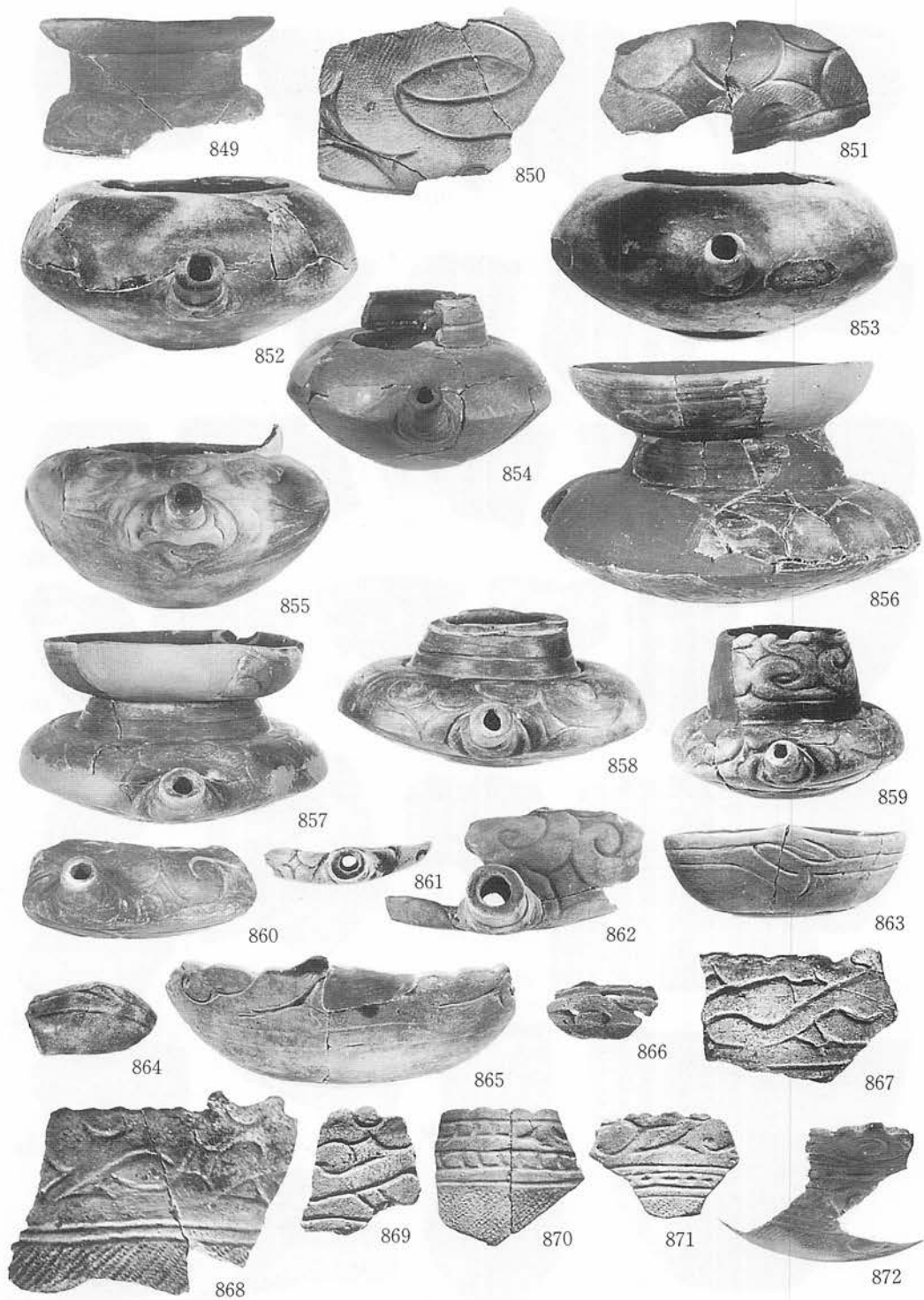
写真図版105 遺物包含層出土遺物（土器）19



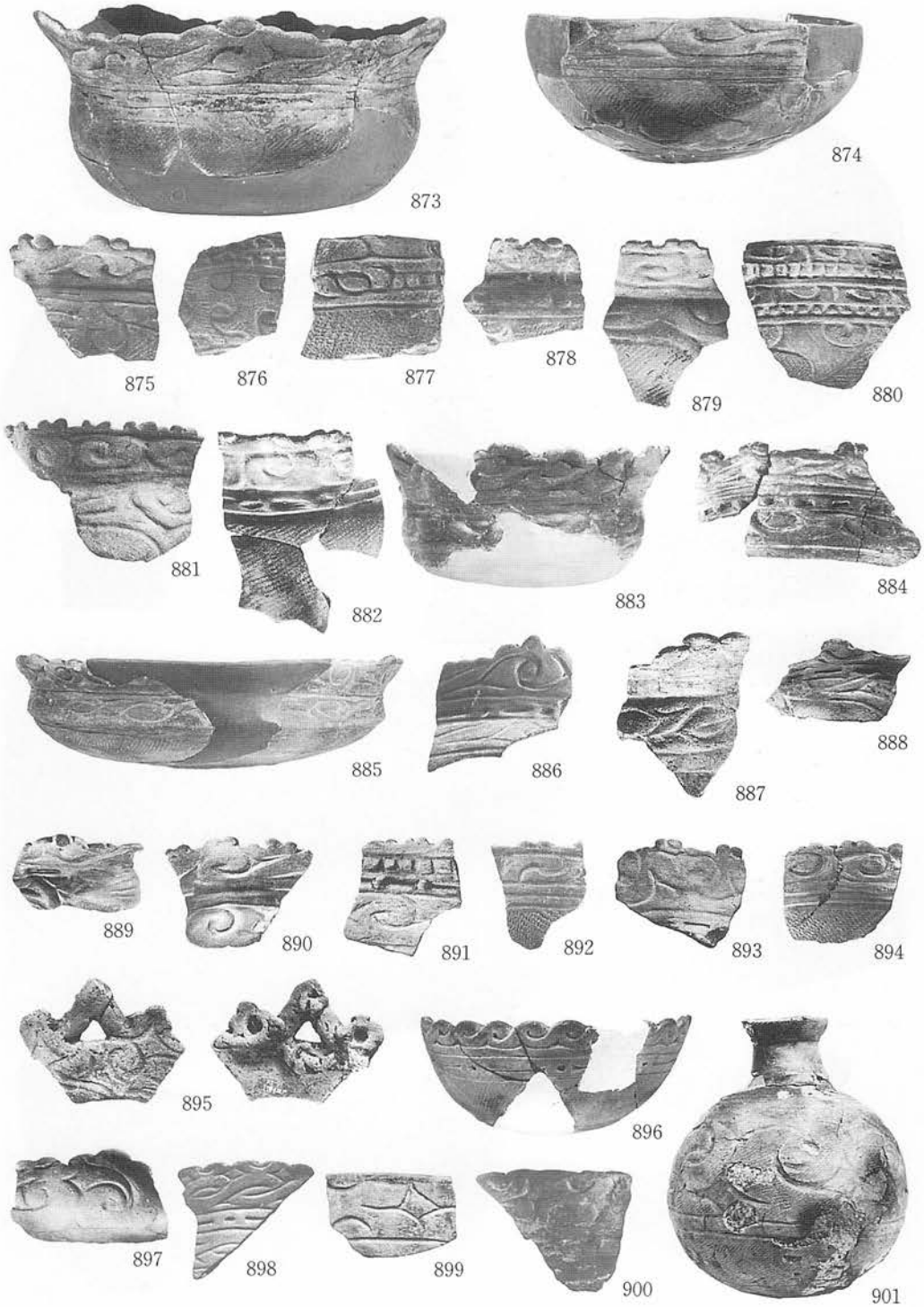
写真図版106 遺物包含層出土遺物（土器）20



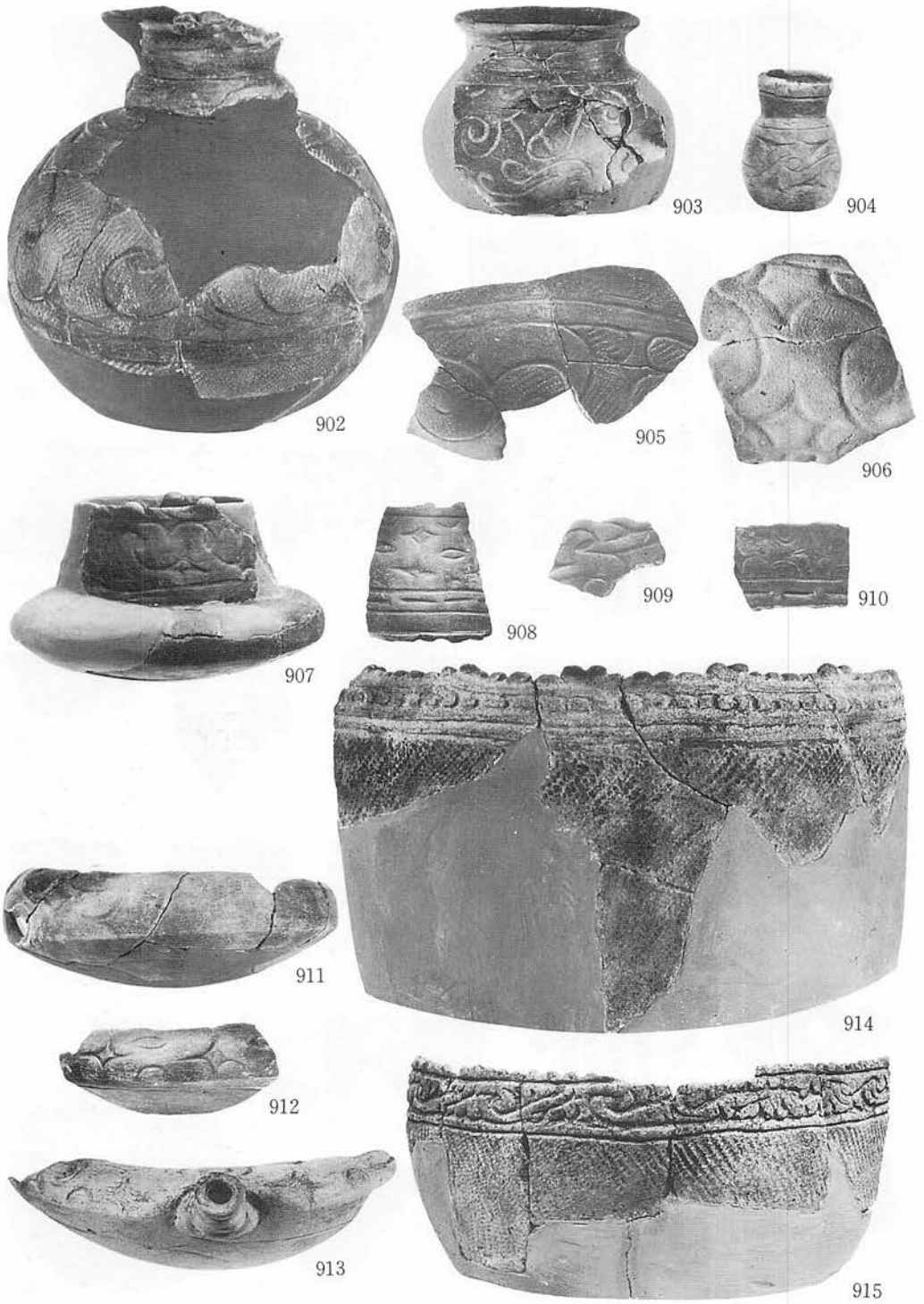
写真图版107 遺物包含層出土遺物（土器）21



写真図版108 遺物包含層出土遺物（土器）22



写真图版109 遺物包含層出土遺物（土器）23



写真図版110 遺物包含層出土遺物（土器）24



917



916



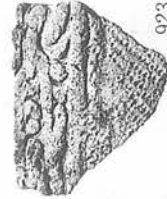
927



925



926



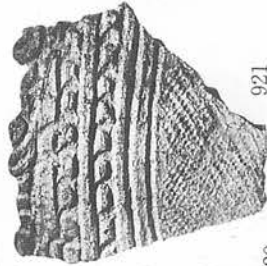
923



924



922



921

918

919

920

921

922

923

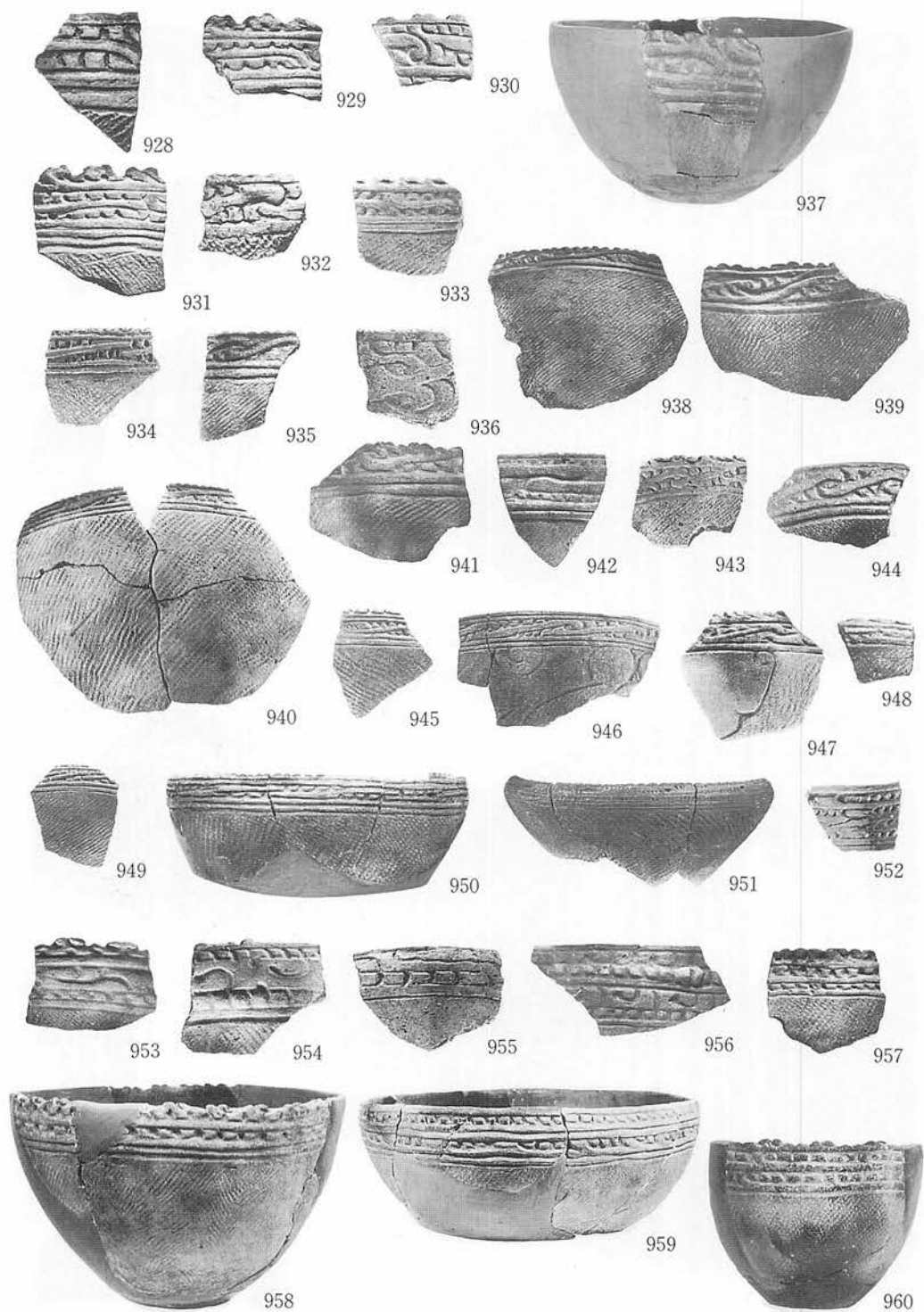
924

925

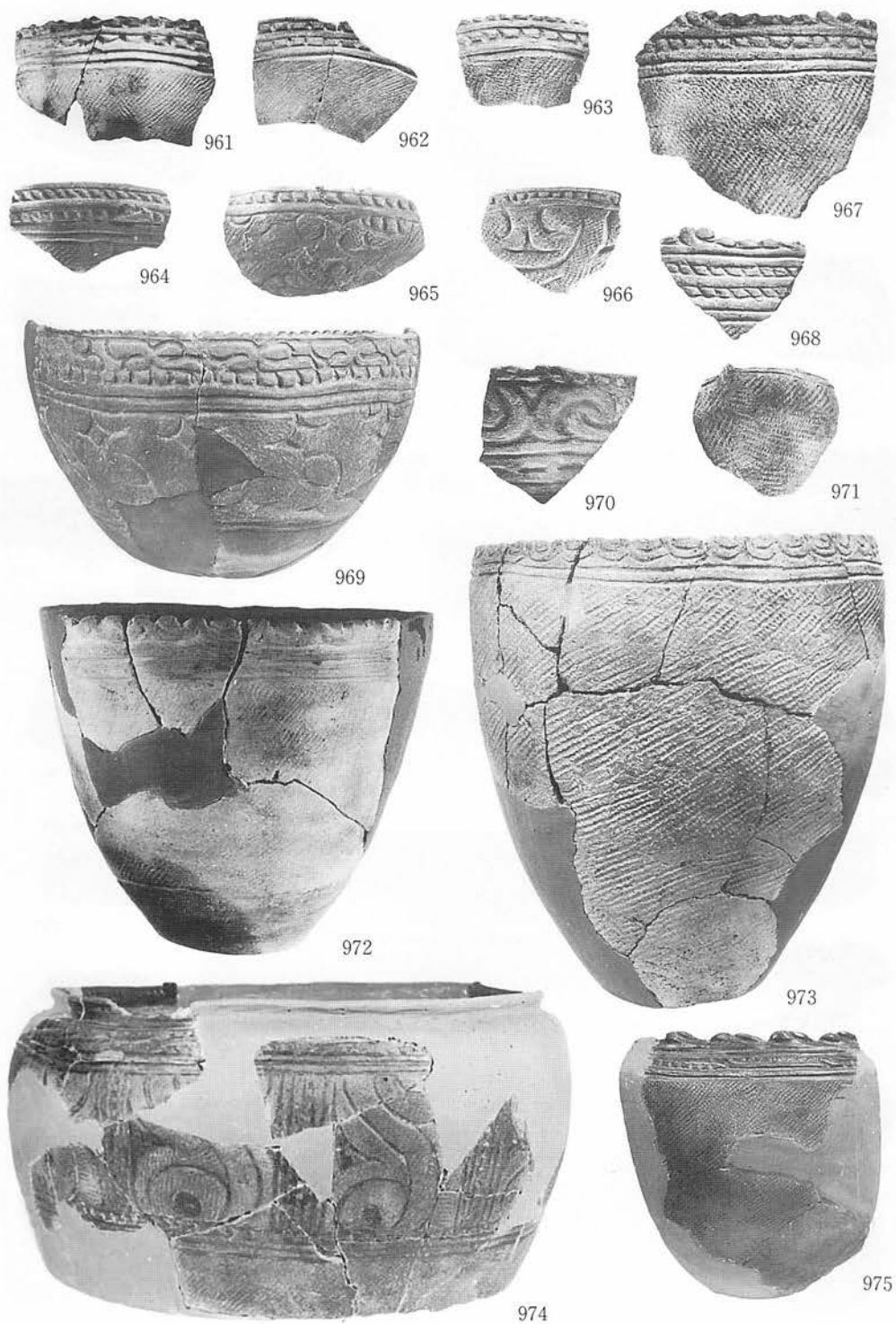
926

927

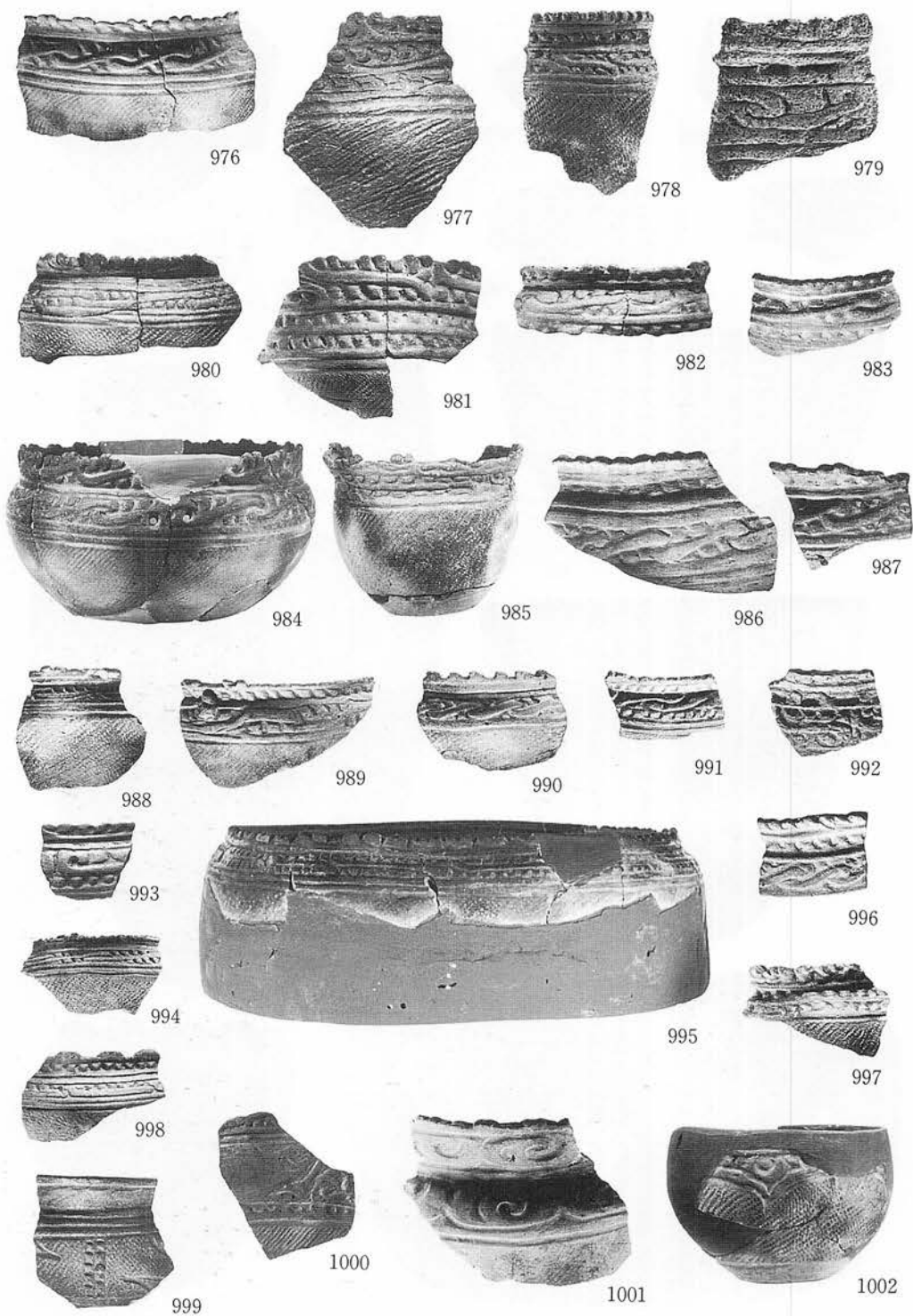
写真図版111 遺物包含層出土遺物（土器）25



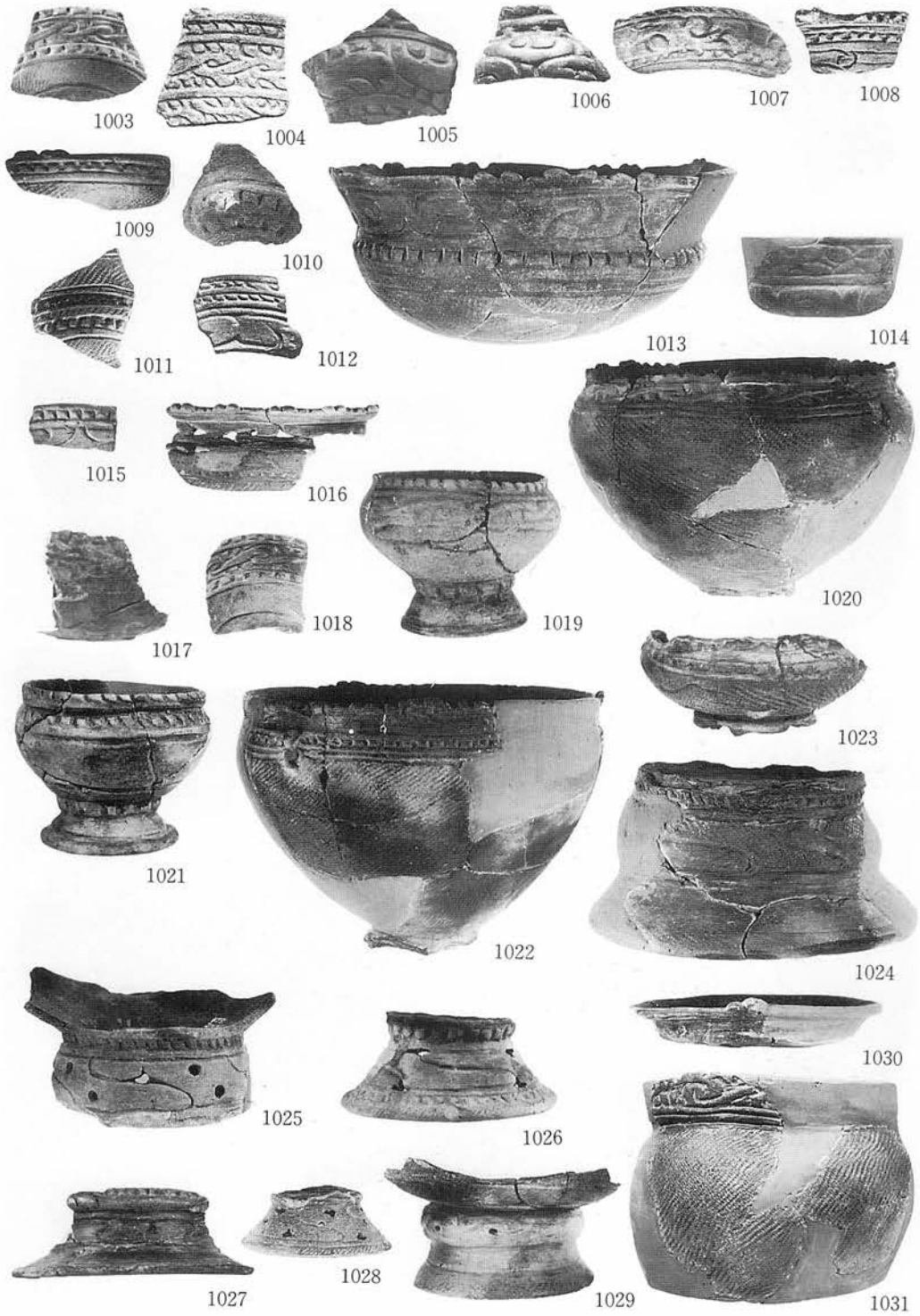
写真図版112 遺物包含層出土遺物（土器）26



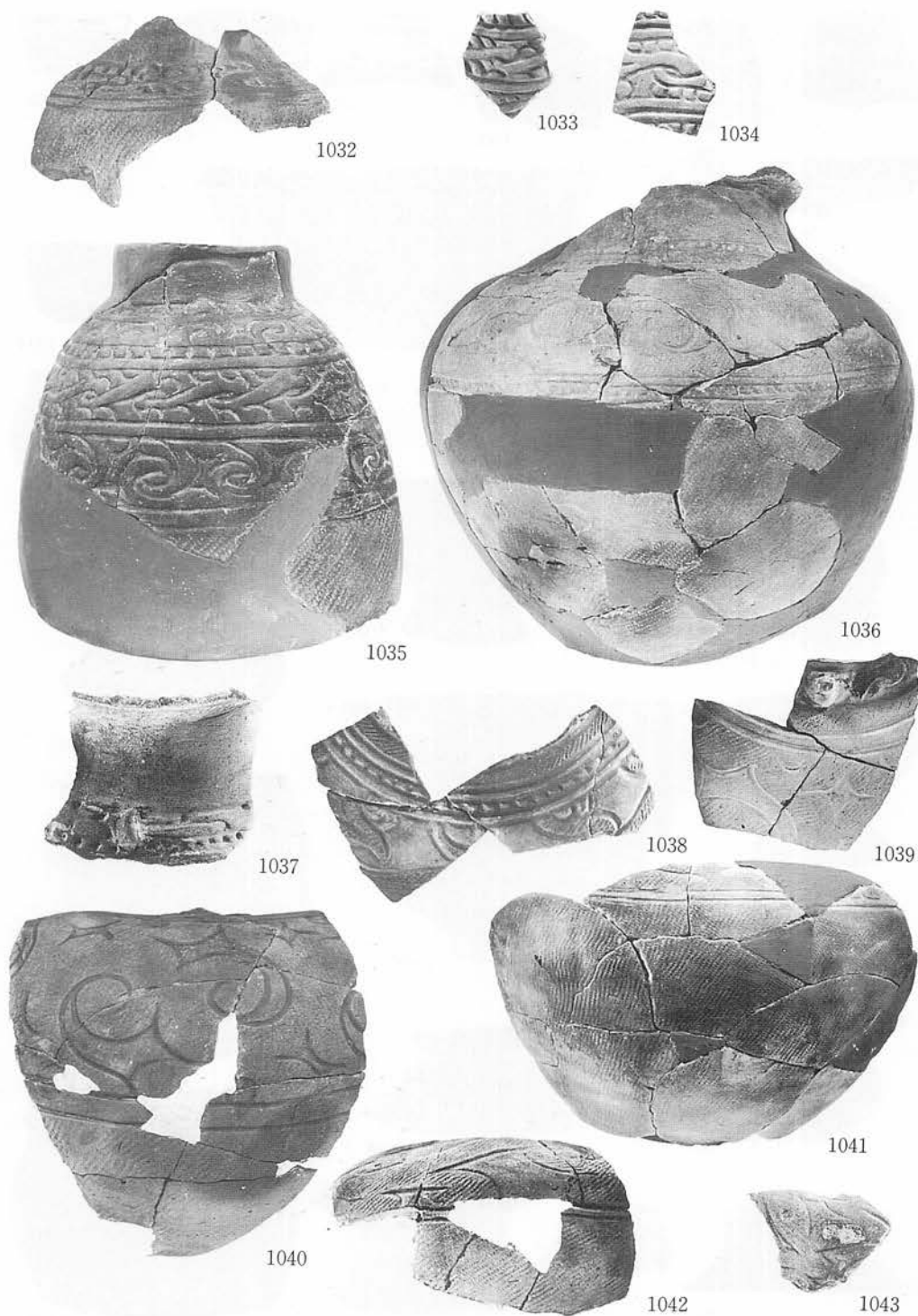
写真図版113 遺物包含層出土遺物（土器）27



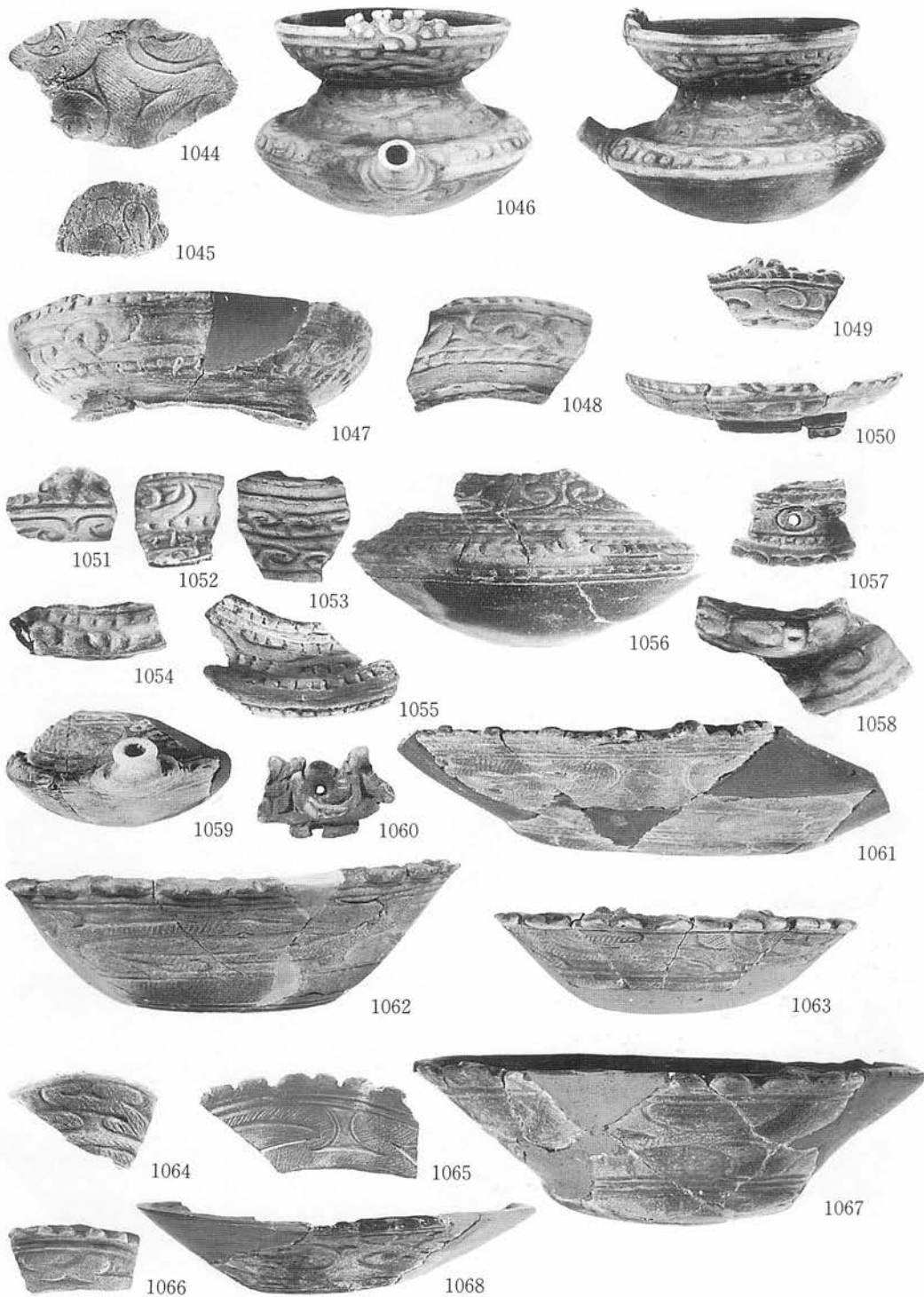
写真図版114 遺物包含層出土遺物（土器）28



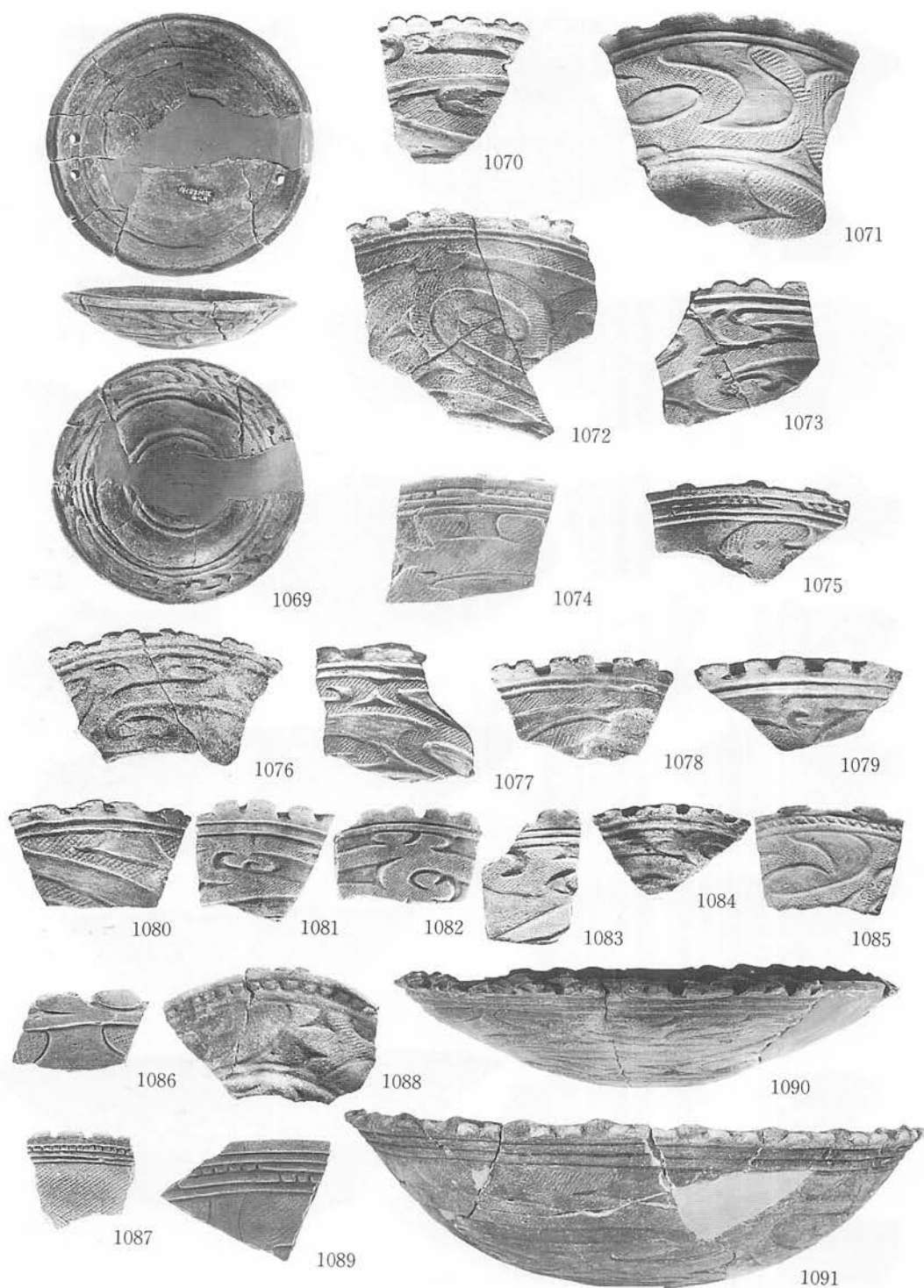
写真図版115 遺物包含層出土遺物（土器）29



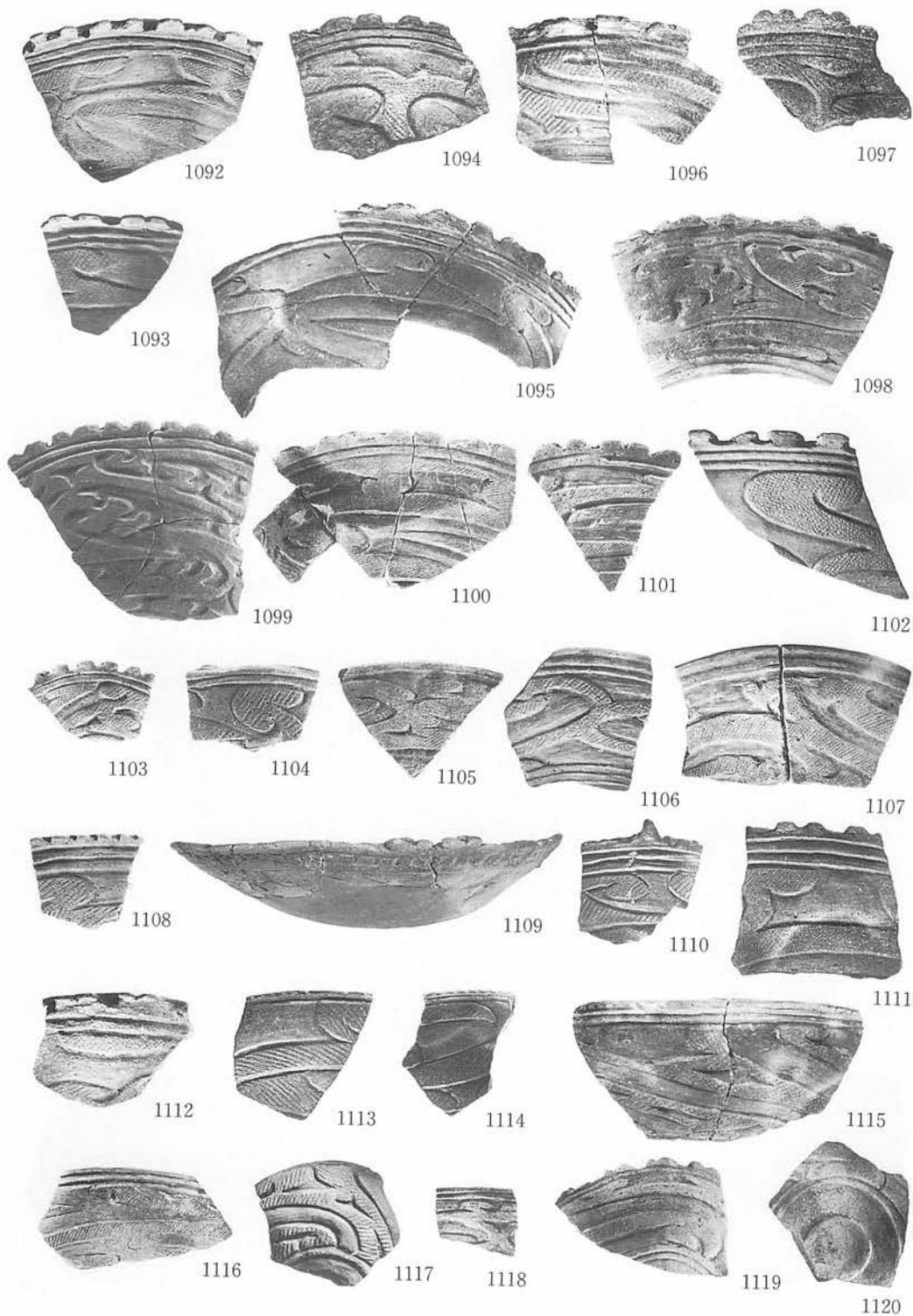
写真図版116 遺物包含層出土遺物（土器）30



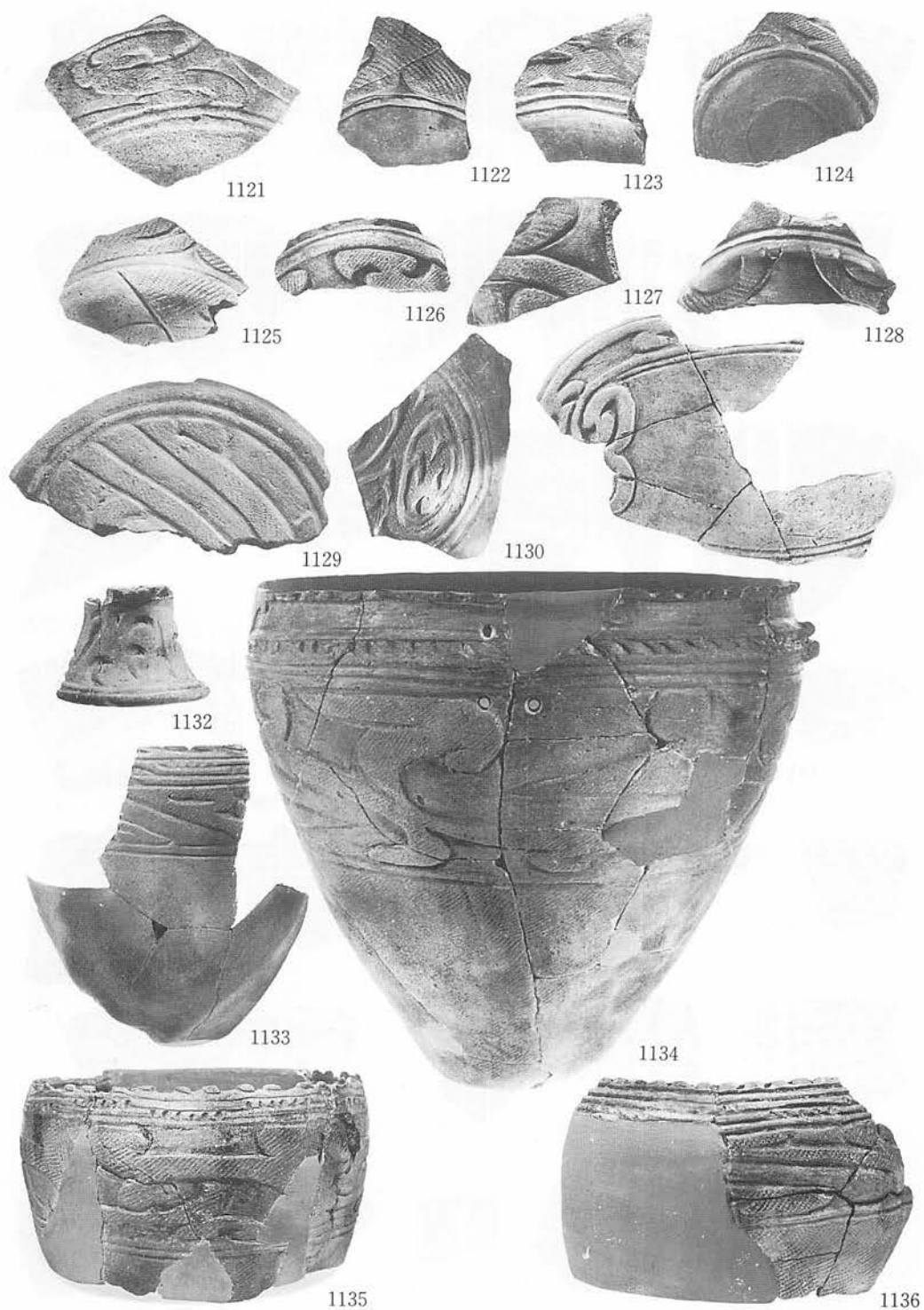
写真図版117 遺物包含層出土遺物（土器）31



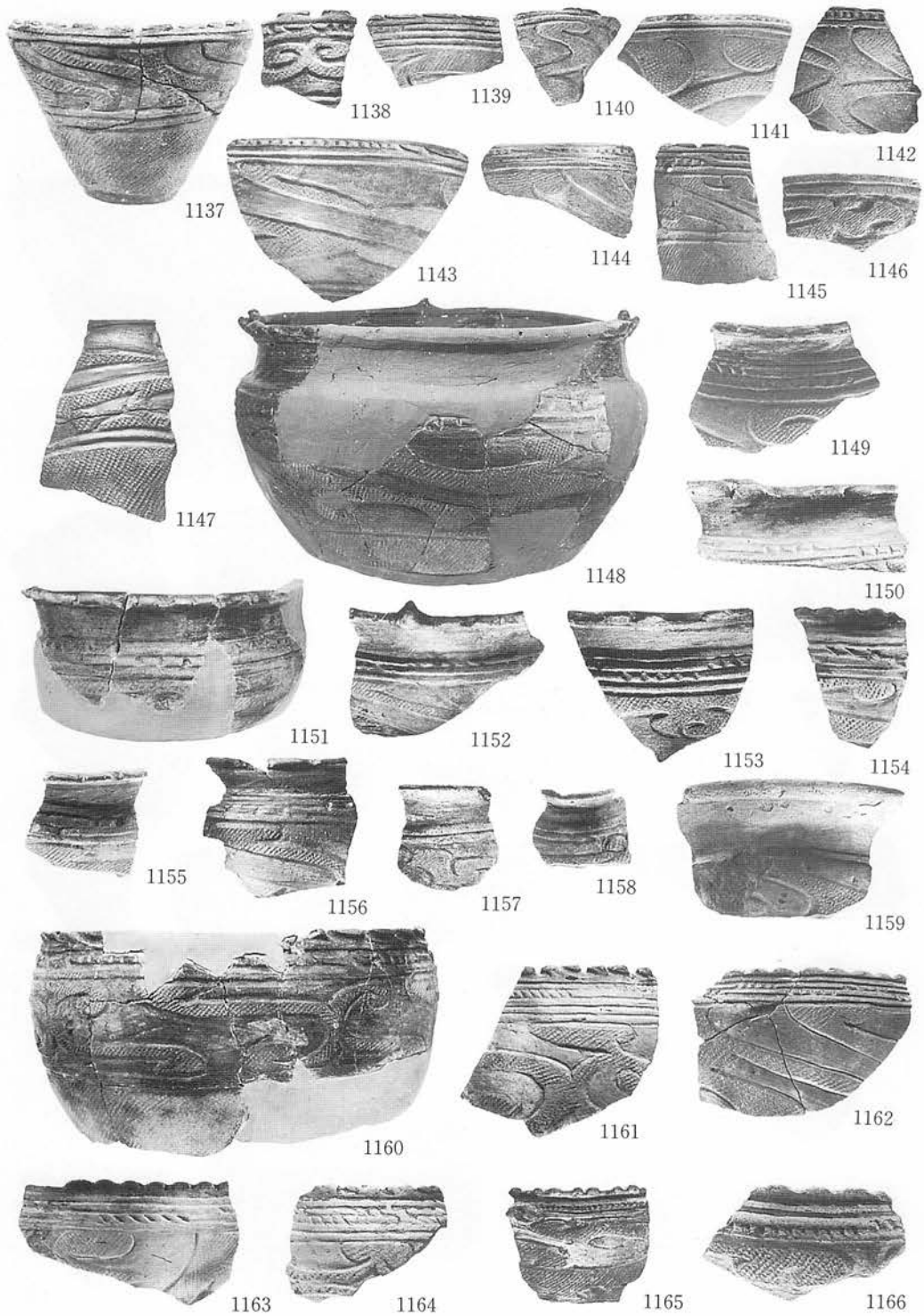
写真図版118 遺物包含層出土遺物（土器）32



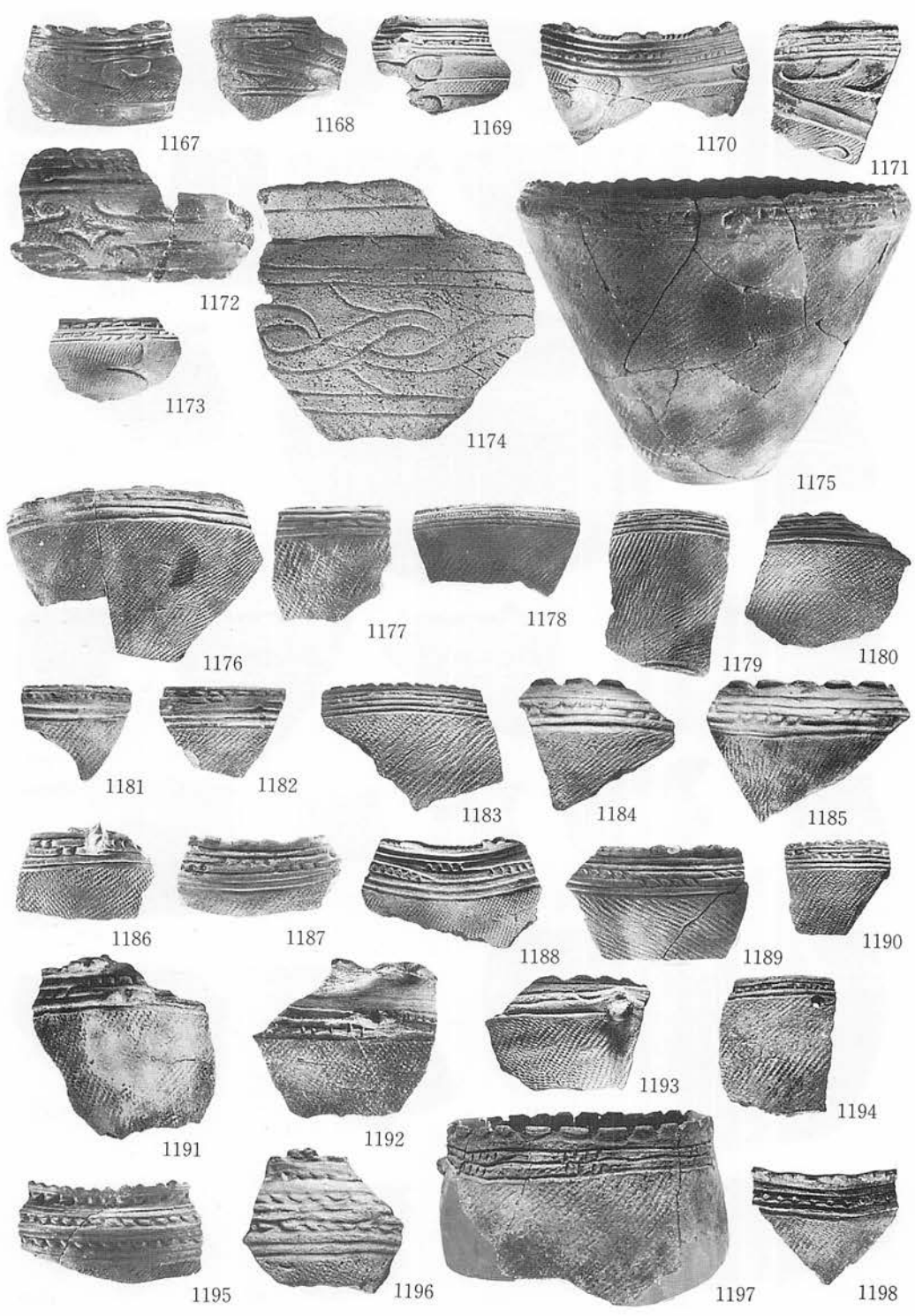
写真図版119 遺物包含層出土遺物（土器）33



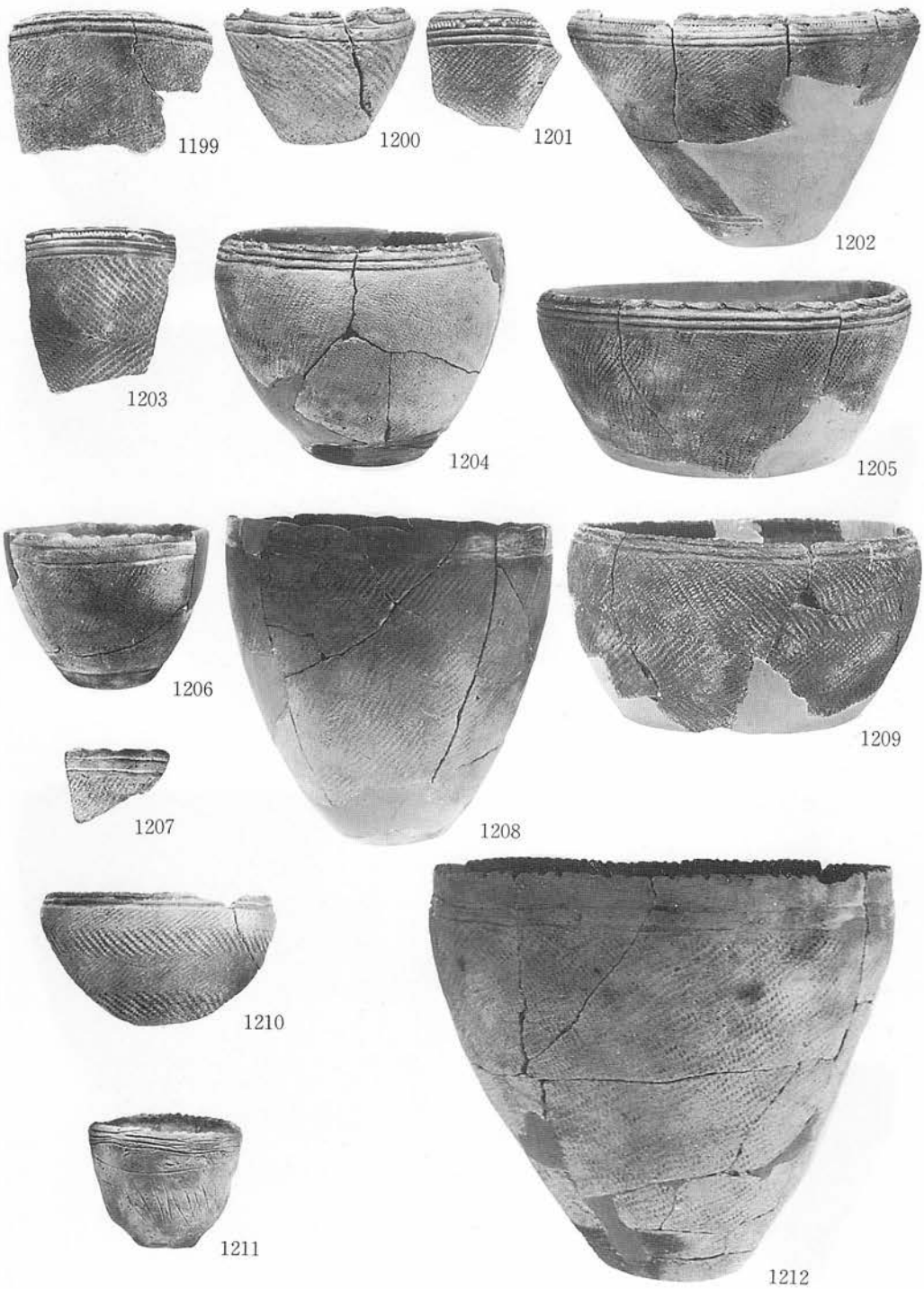
写真図版120 遺物包含層出土遺物（土器）34



写真图版121 遺物包含層出土遺物（土器）35



写真図版122 遺物包含層出土遺物（土器）36



写真図版123 遺物包含層出土遺物（土器）37



1213



1214



1216



1215



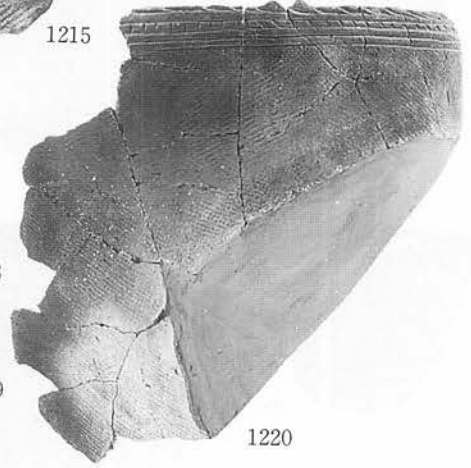
1217



1218



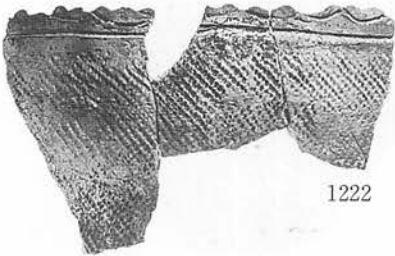
1219



1220



1221



1222



1223

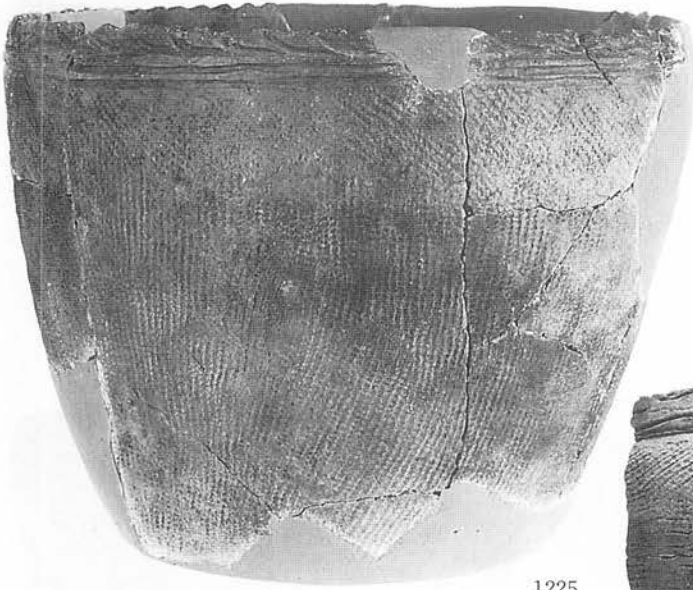
写真図版124 遺物包含層出土遺物（土器）38



1224



1226



1225

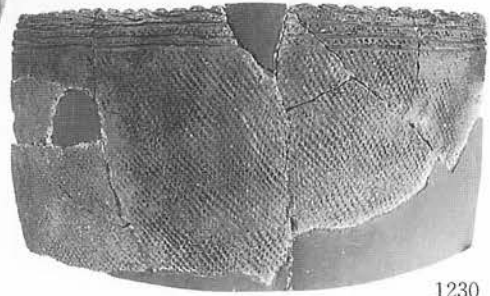


1227

写真図版125 遺物包含層出土遺物（土器）39



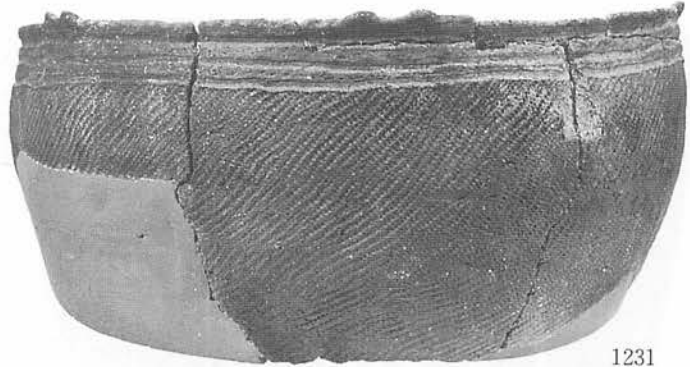
1228



1230



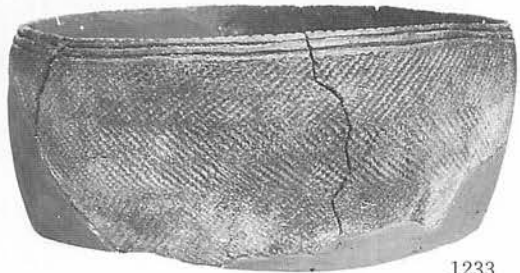
1229



1231



1232

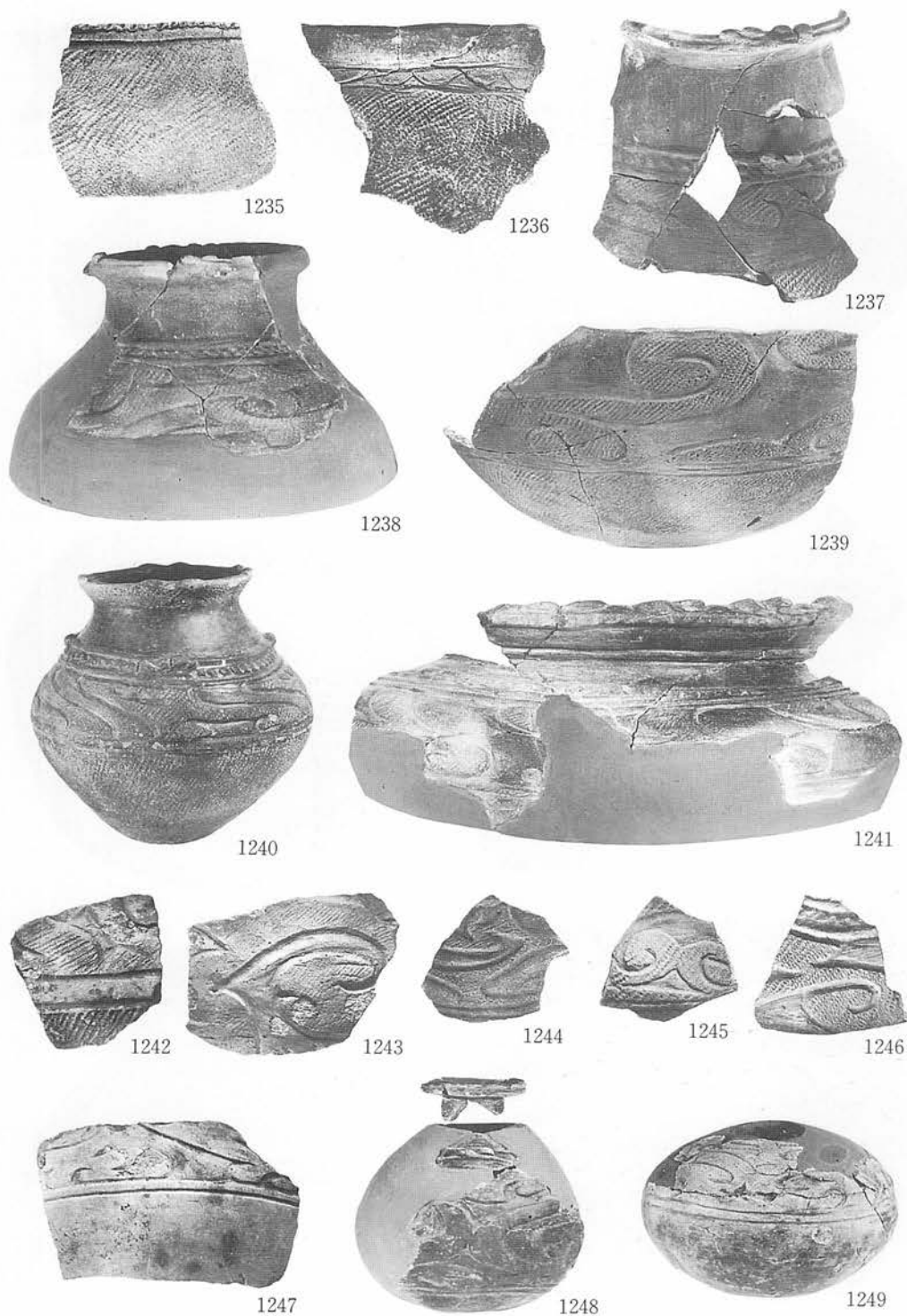


1233



1234

写真図版126 遺物包含層出土遺物（土器）40



写真図版127 遺物包含層出土遺物（土器）41



1250



1251



1252



1253



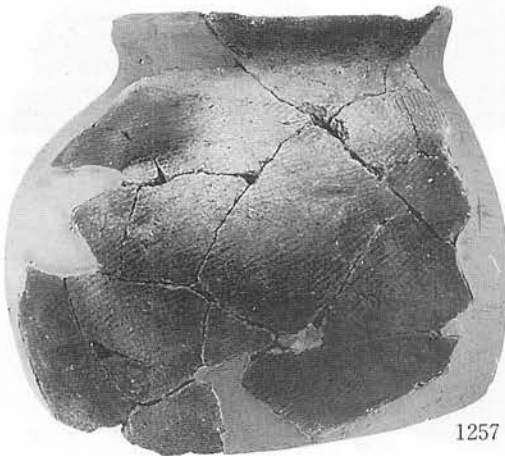
1254



1255



1256

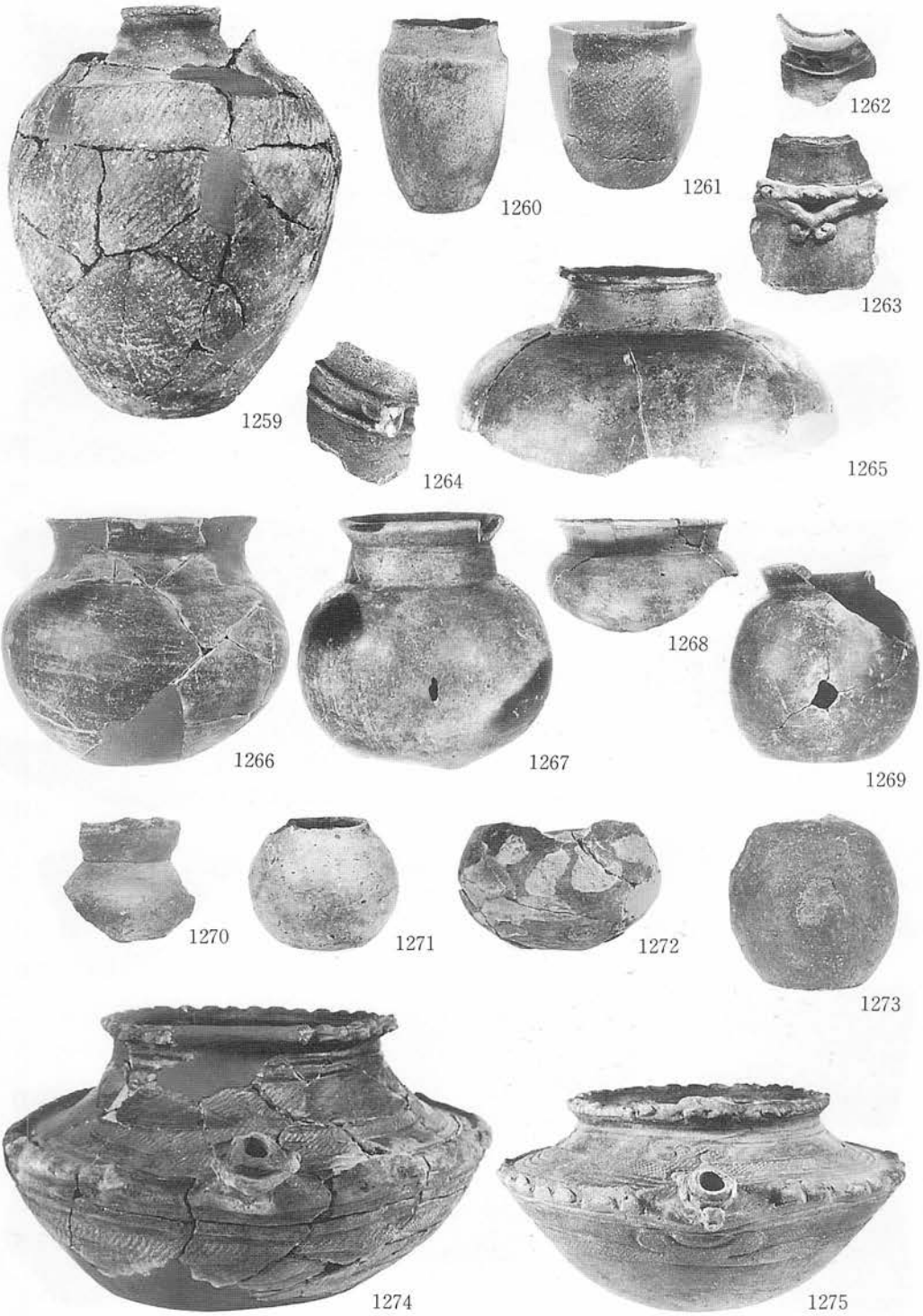


1257

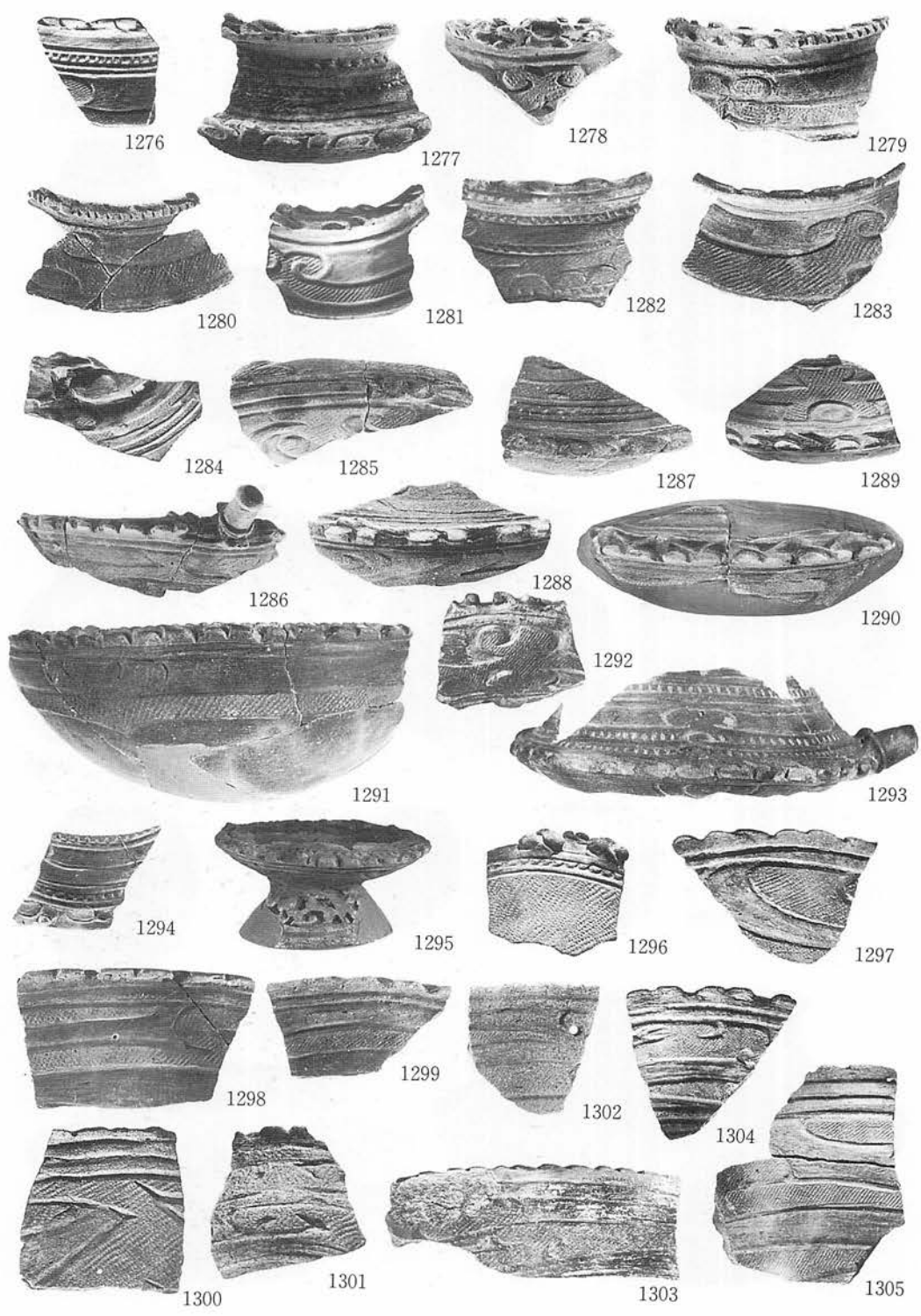


1258

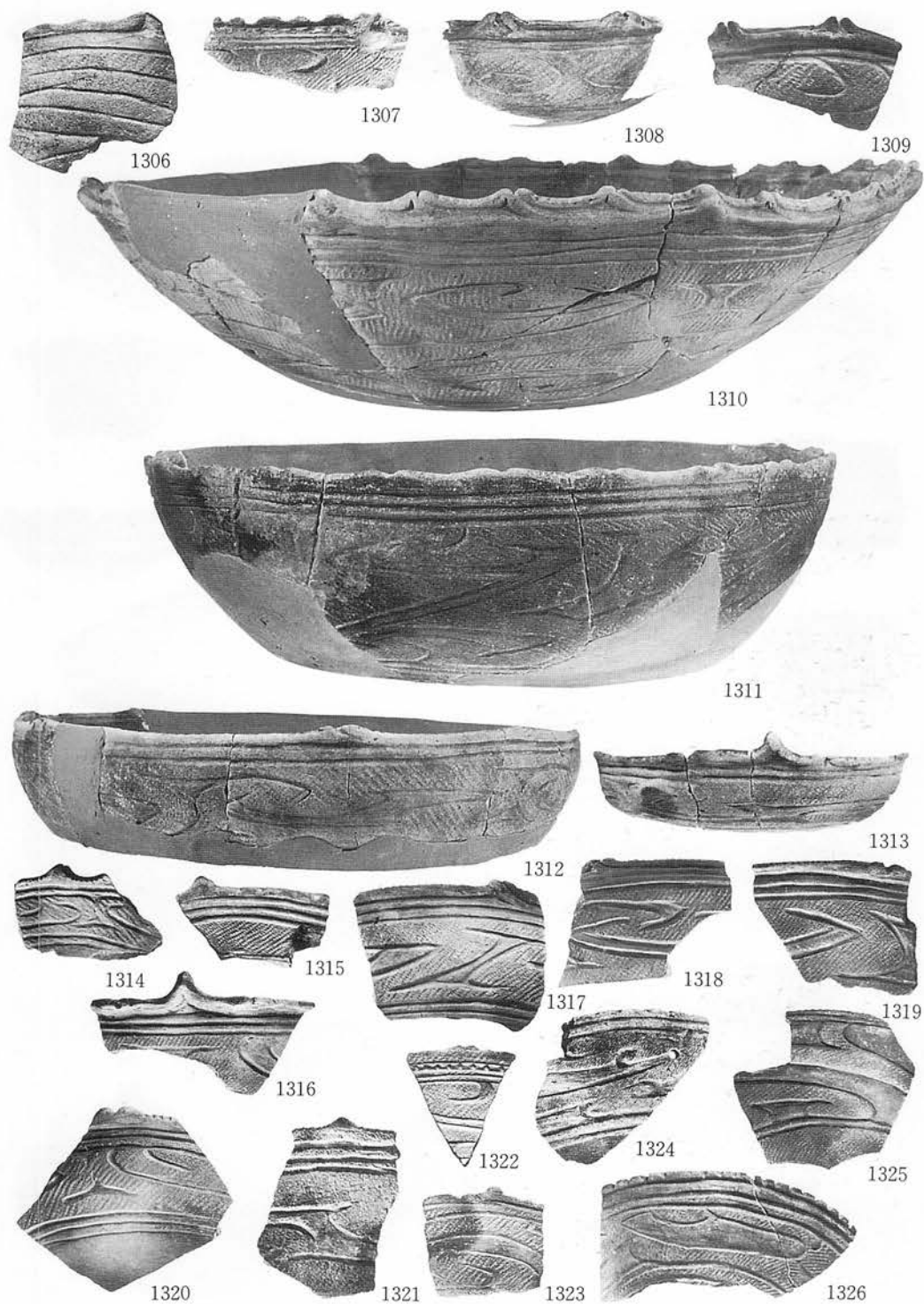
写真図版128 遺物包含層出土遺物（土器）42



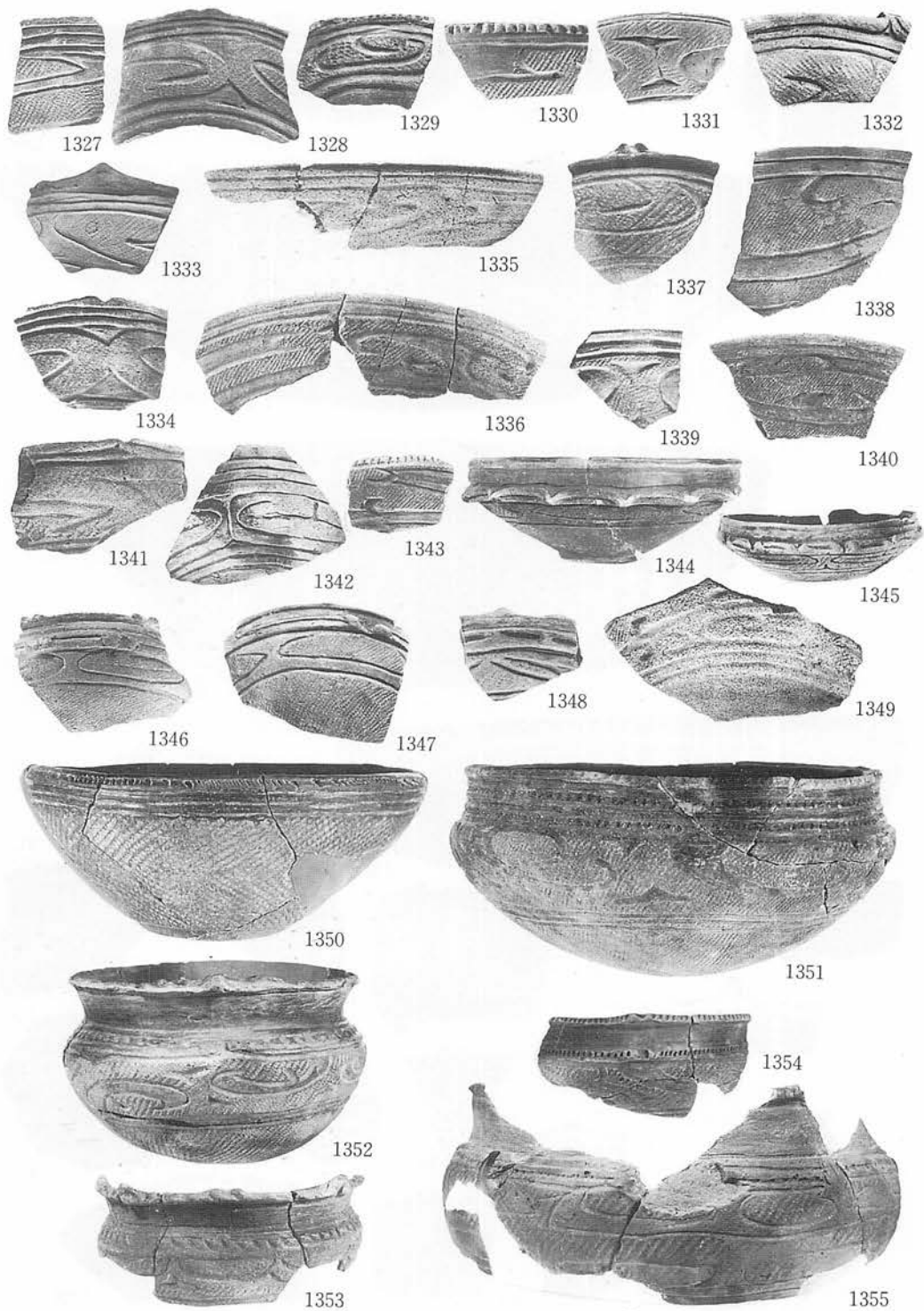
写真図版129 遺物包含層出土遺物（土器）43



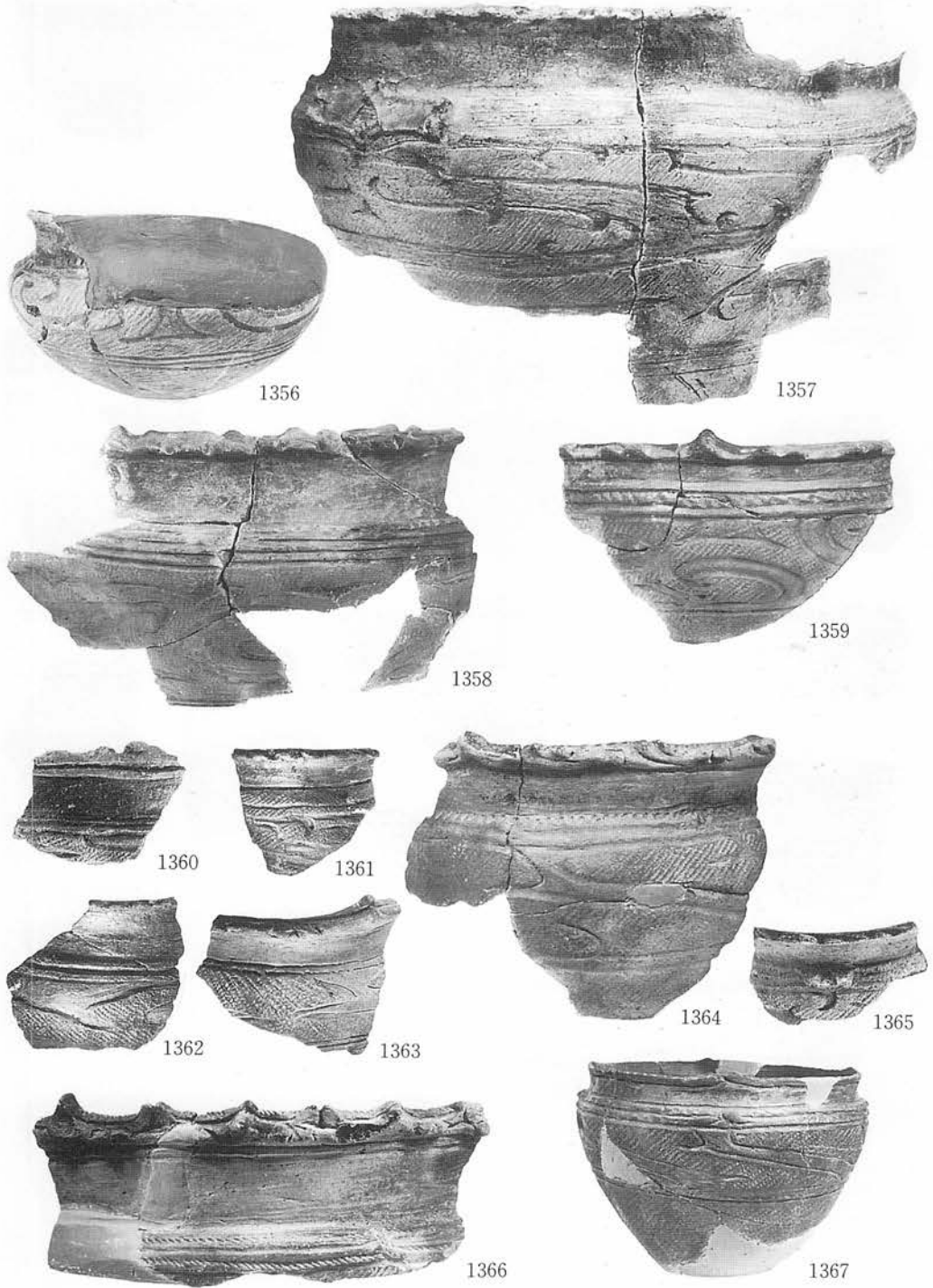
写真図版130 遺物包含層出土遺物（土器）44



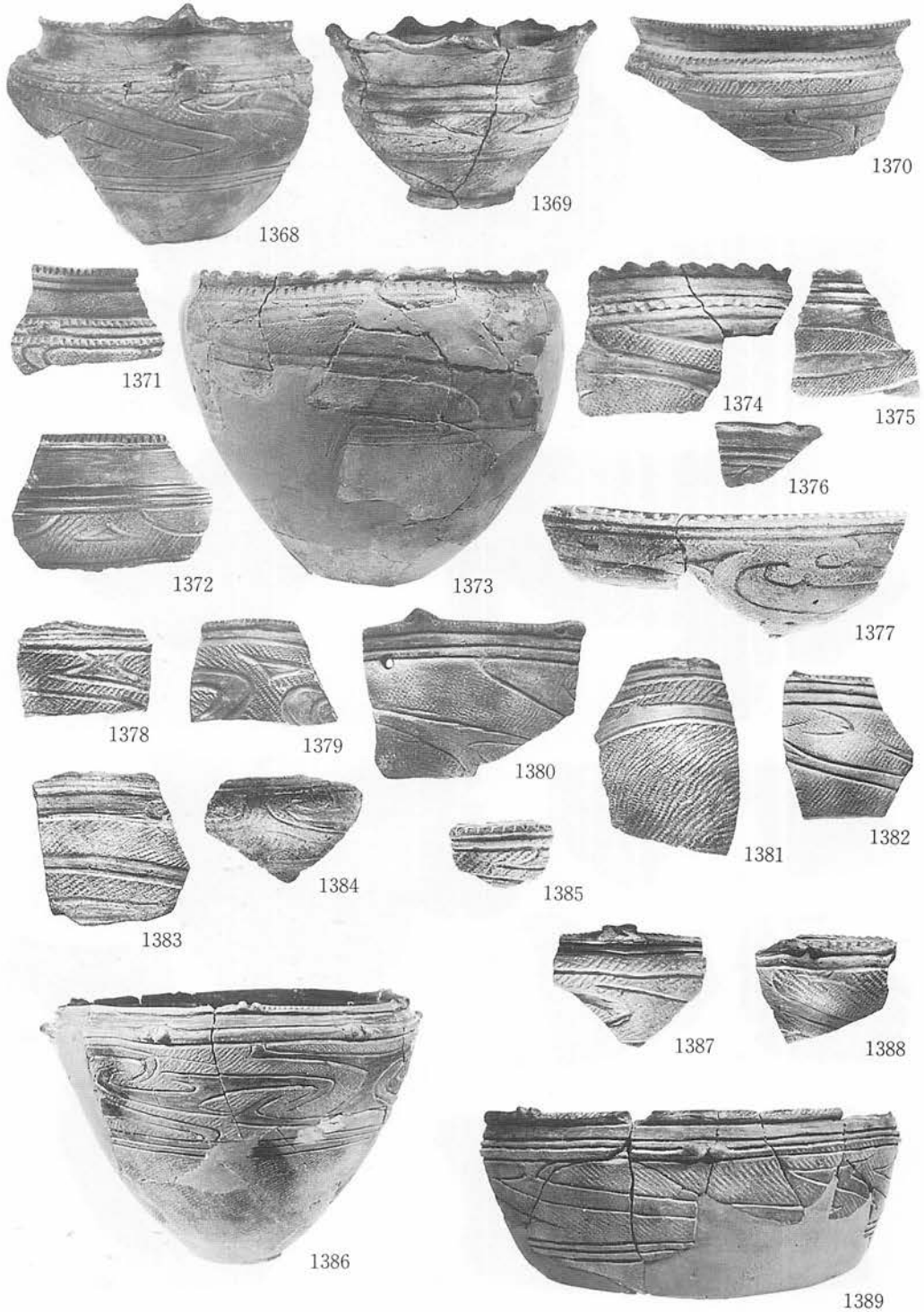
写真図版131 遺物包含層出土遺物（土器）45



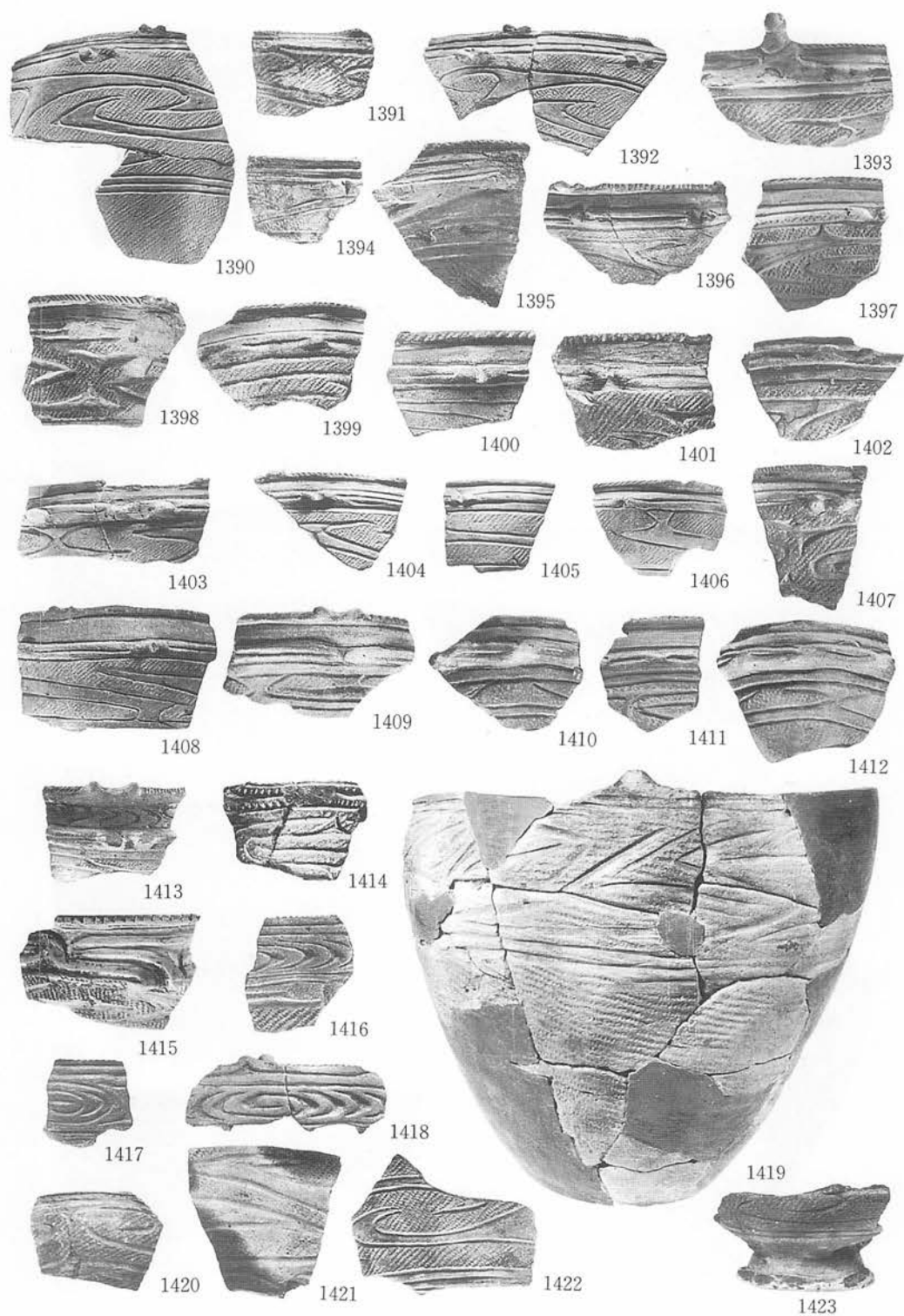
写真図版132 遺物包含層出土遺物（土器）46



写真図版133 遺物包含層出土遺物（土器）47



写真図版134 遺物包含層出土遺物（土器）48



写真図版135 遺物包含層出土遺物（土器）49



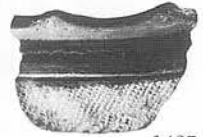
1424



1425



1426



1427



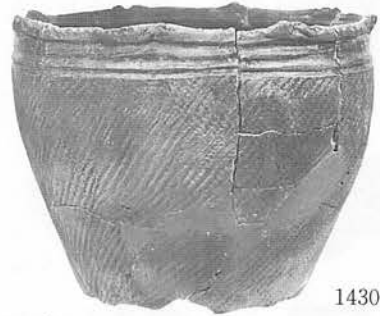
1428



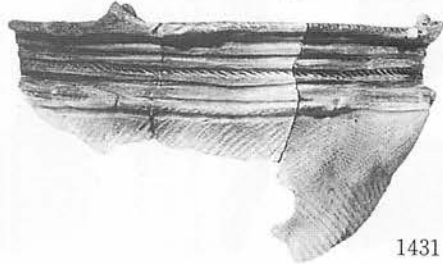
1429



1432

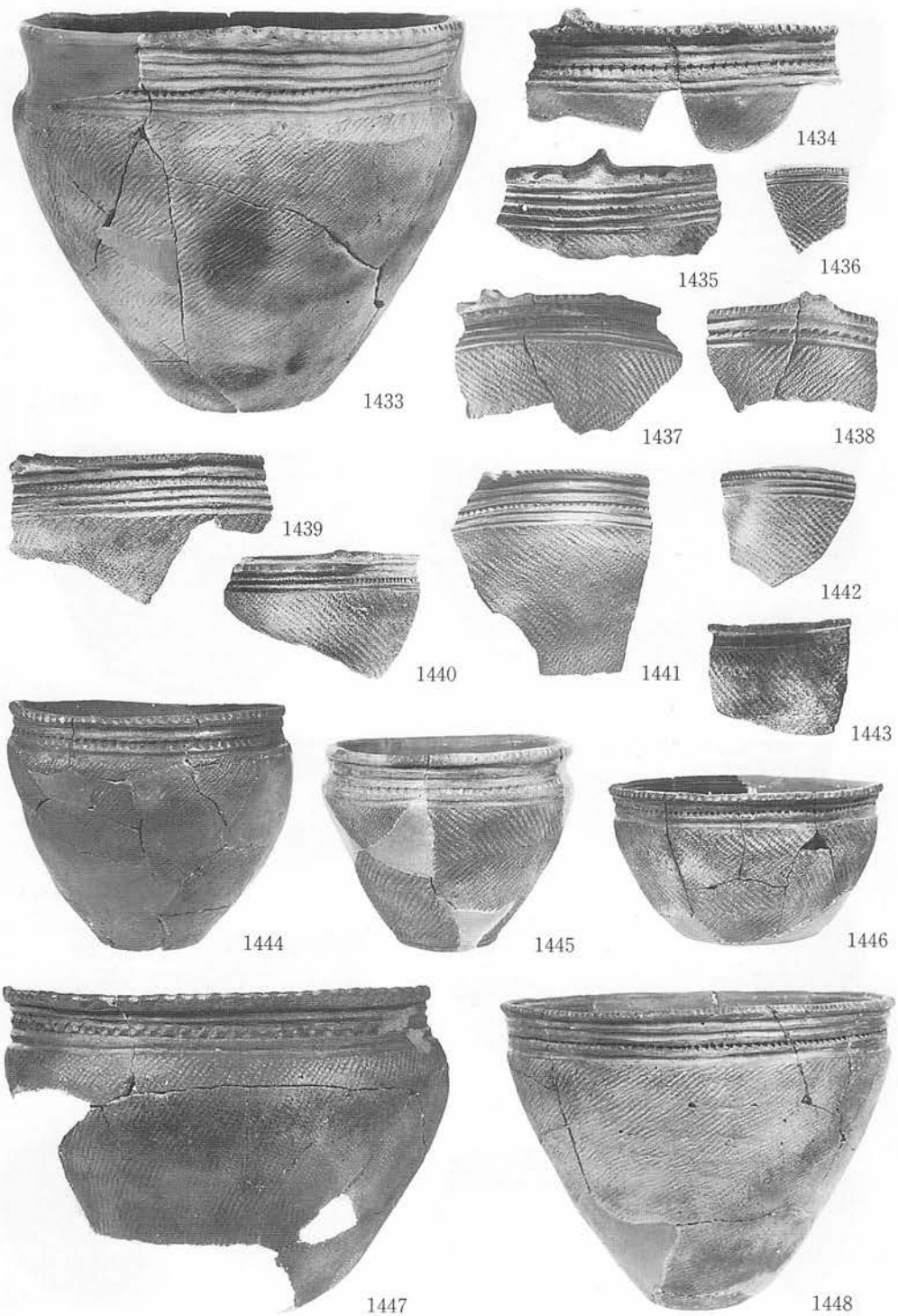


1430



1431

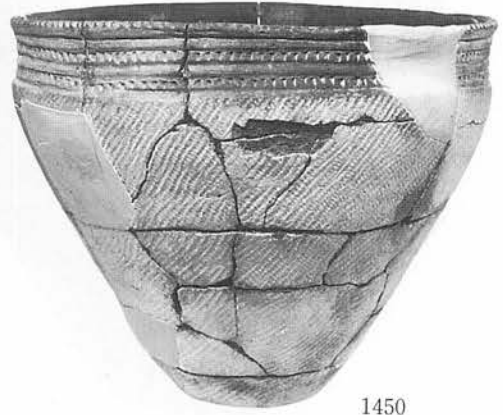
写真図版136 遺物包含層出土遺物（土器）50



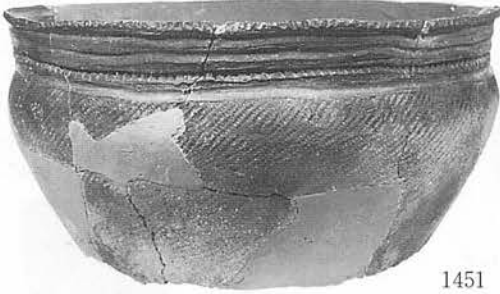
写真図版137 遺物包含層出土遺物（土器）51



1449



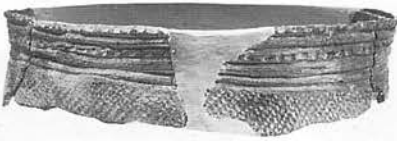
1450



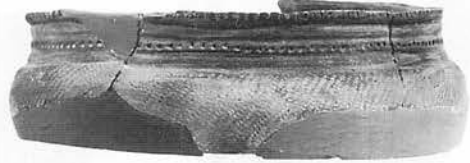
1451



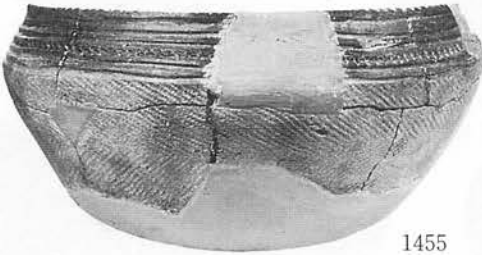
1452



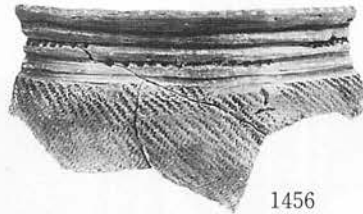
1453



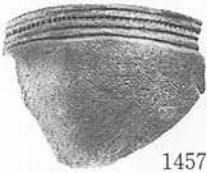
1454



1455



1456



1457



1458

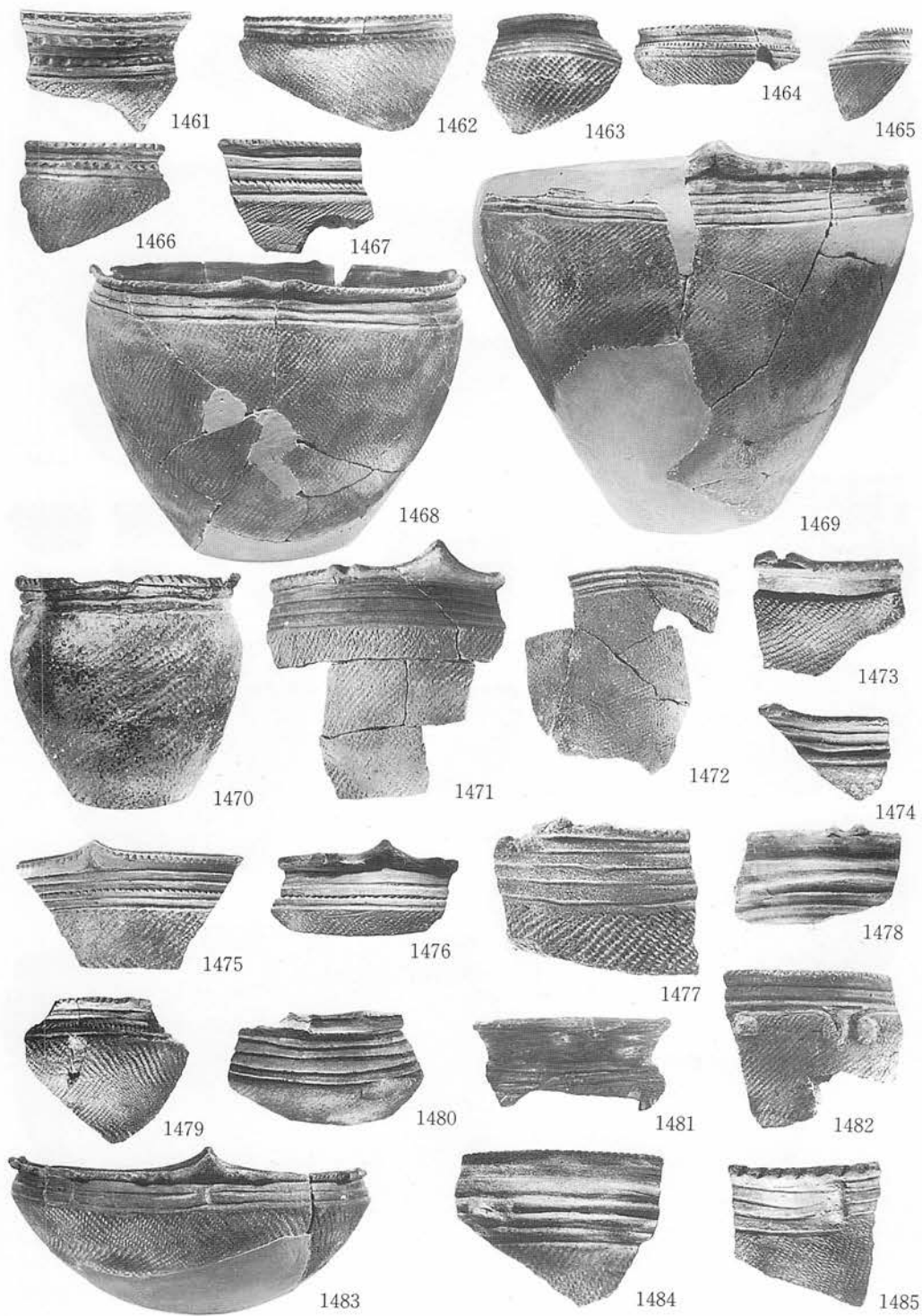


1459

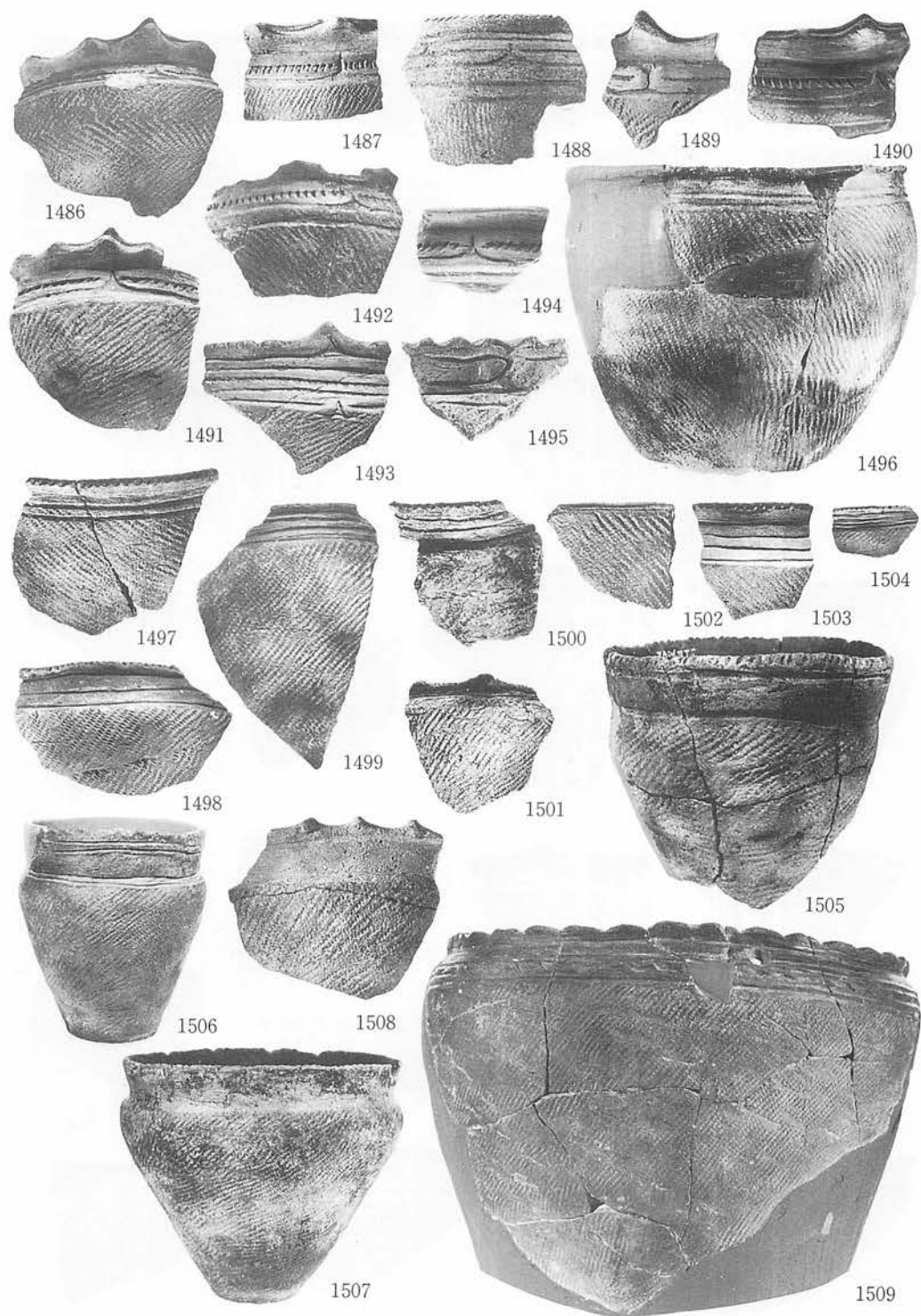


1460

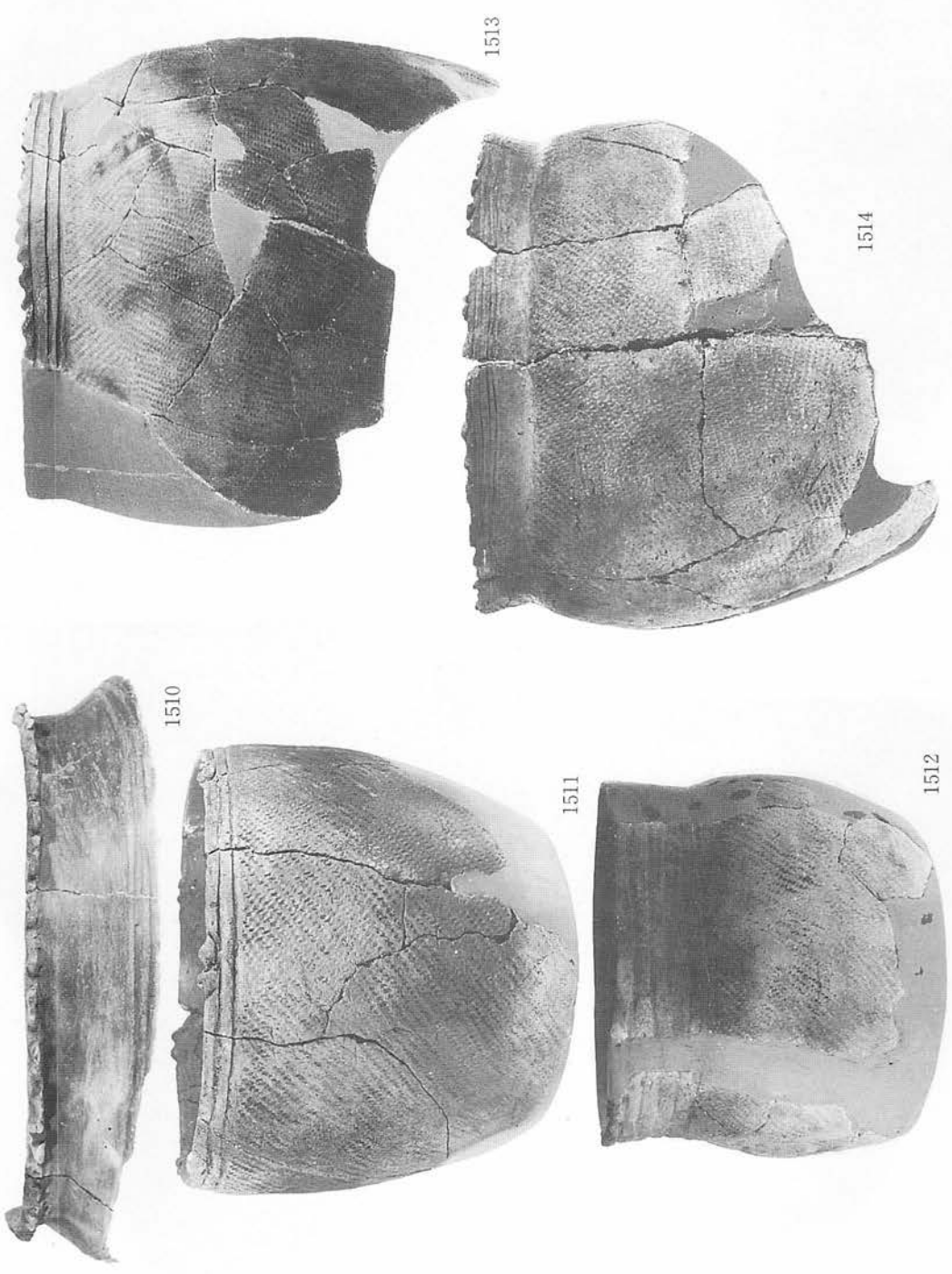
写真図版138 遺物包含層出土遺物（土器）52



写真図版139 遺物包含層出土遺物（土器）53



写真图版140 遺物包含層出土遺物（土器）54



写真図版141 遺物包含層出土遺物（土器）55



1515



1516

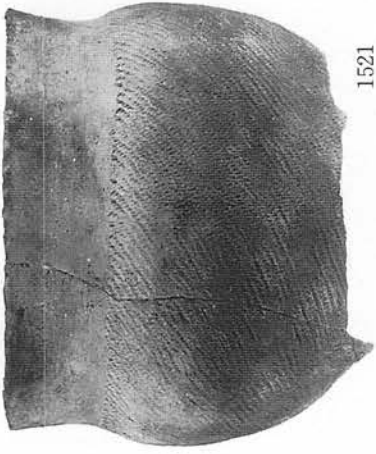


1517

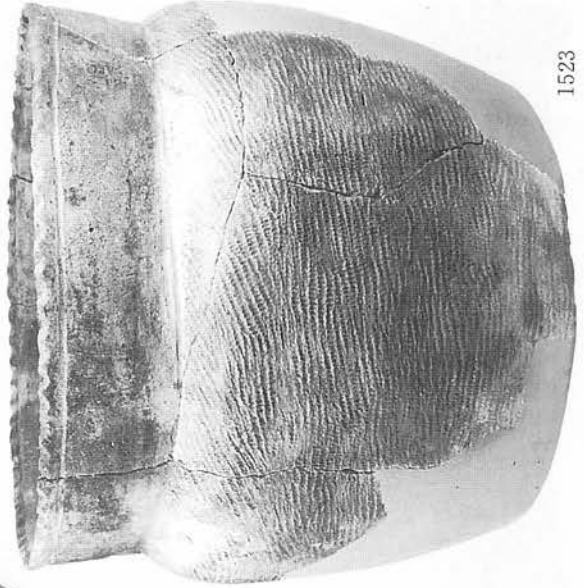


1518

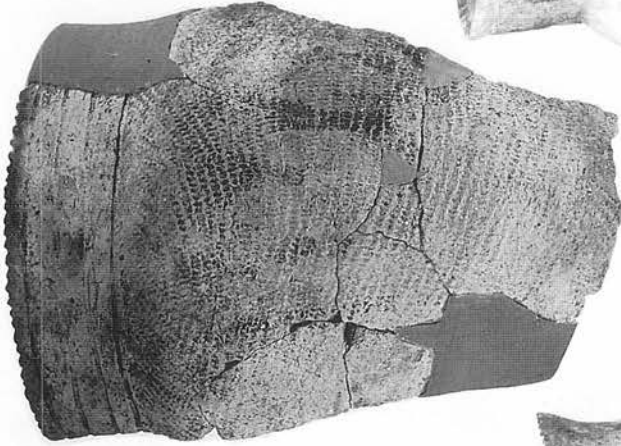
写真図版142 遺物包含層出土遺物（土器）56



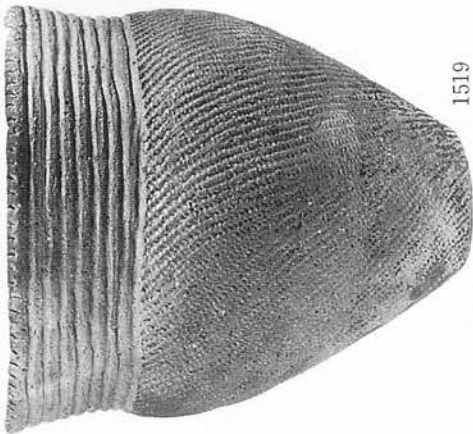
1521



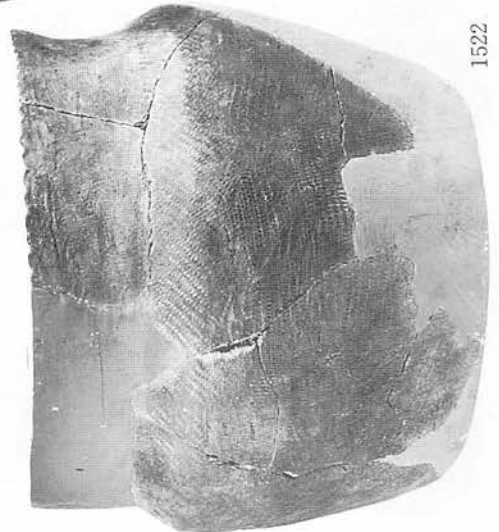
1523



1520

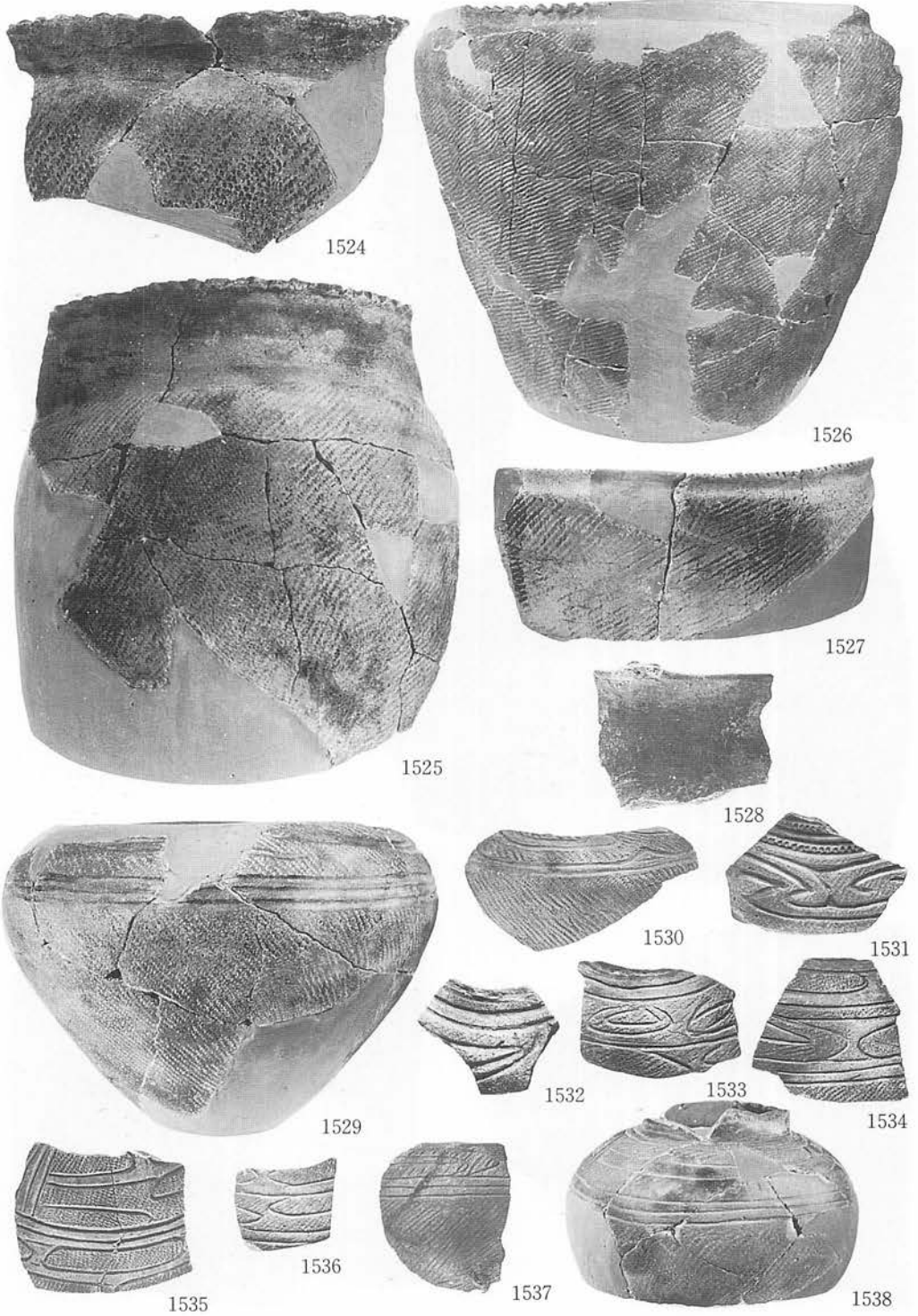


1519

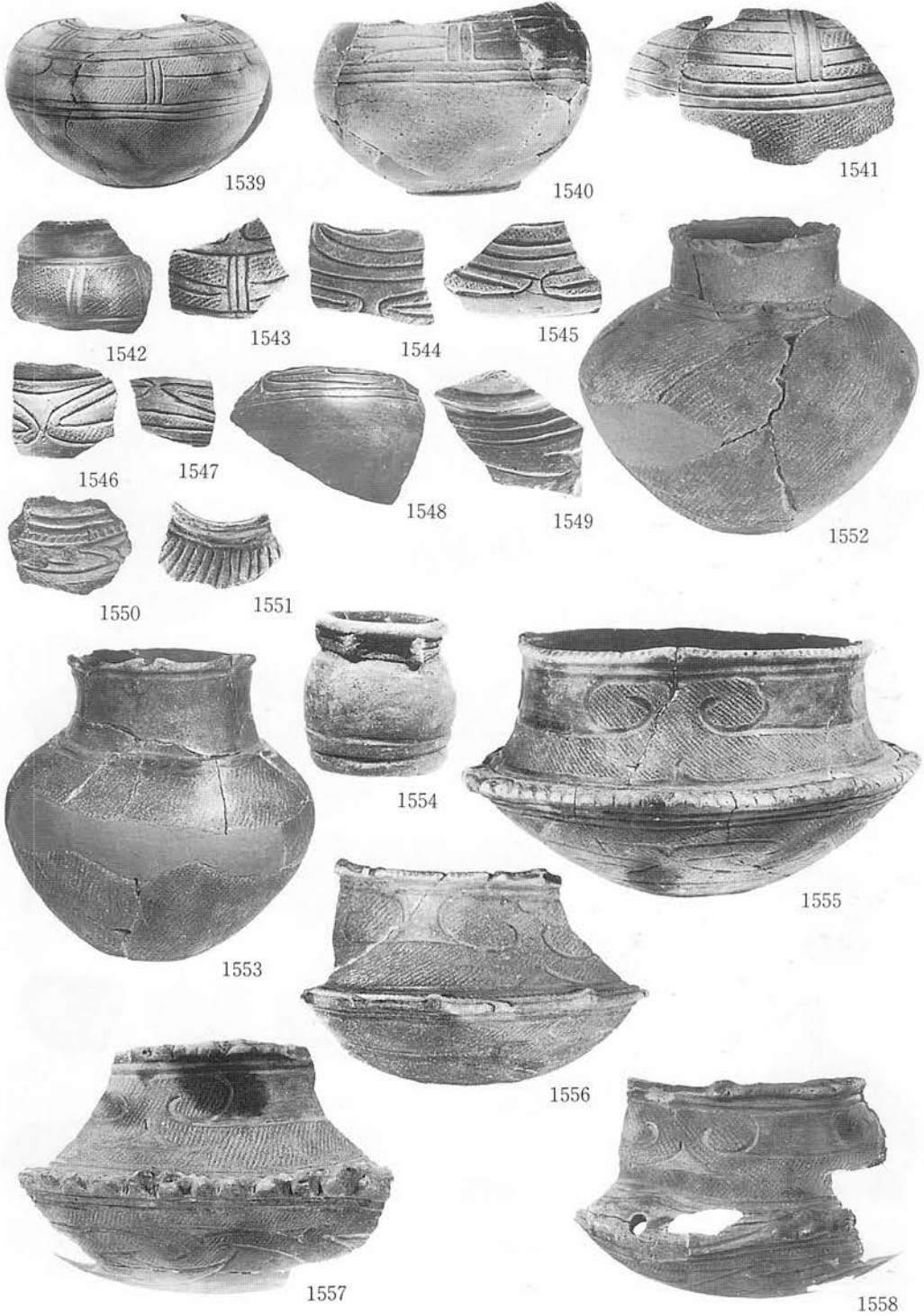


1522

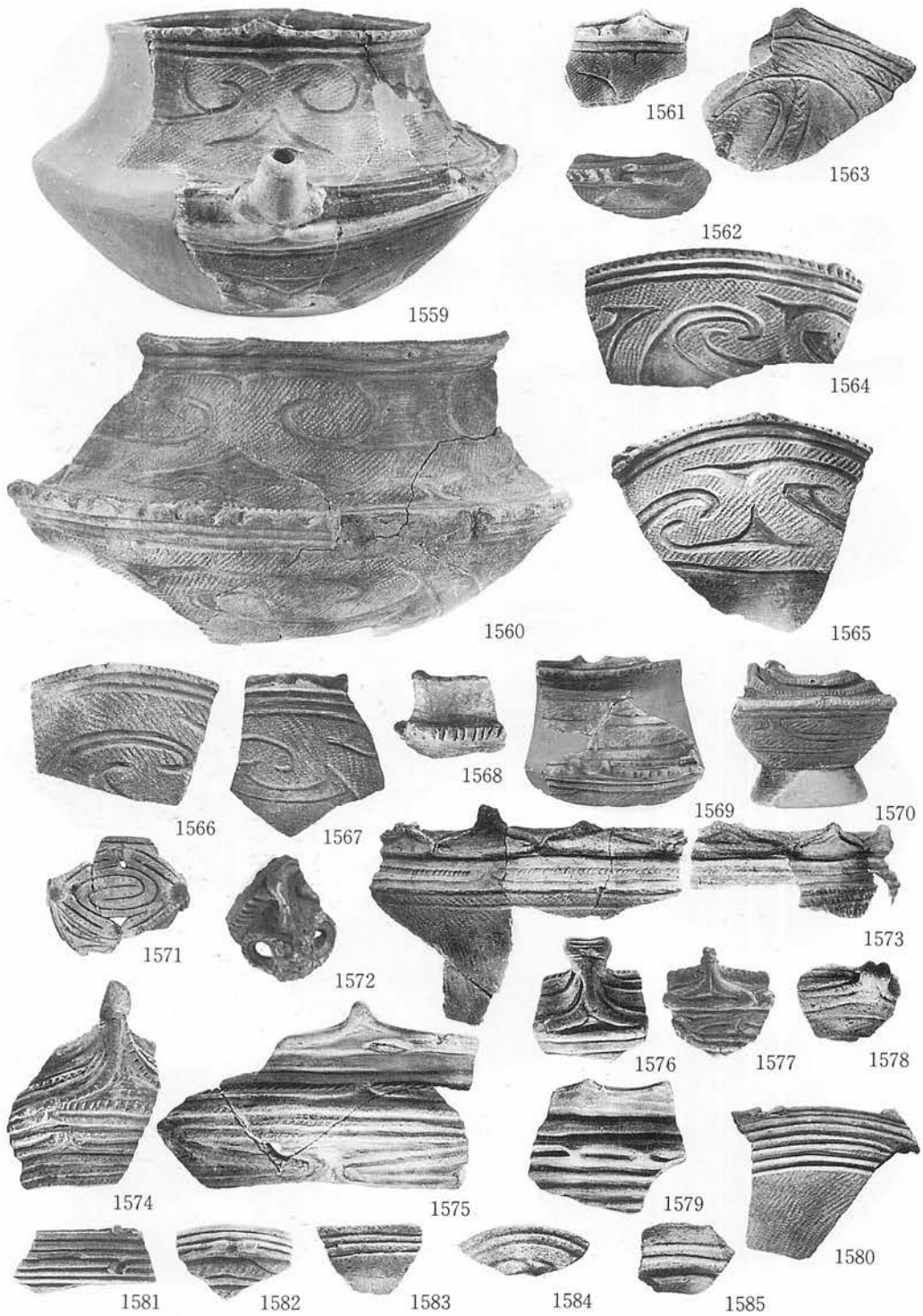
写真図版143 遺物包含層出土遺物（土器）57



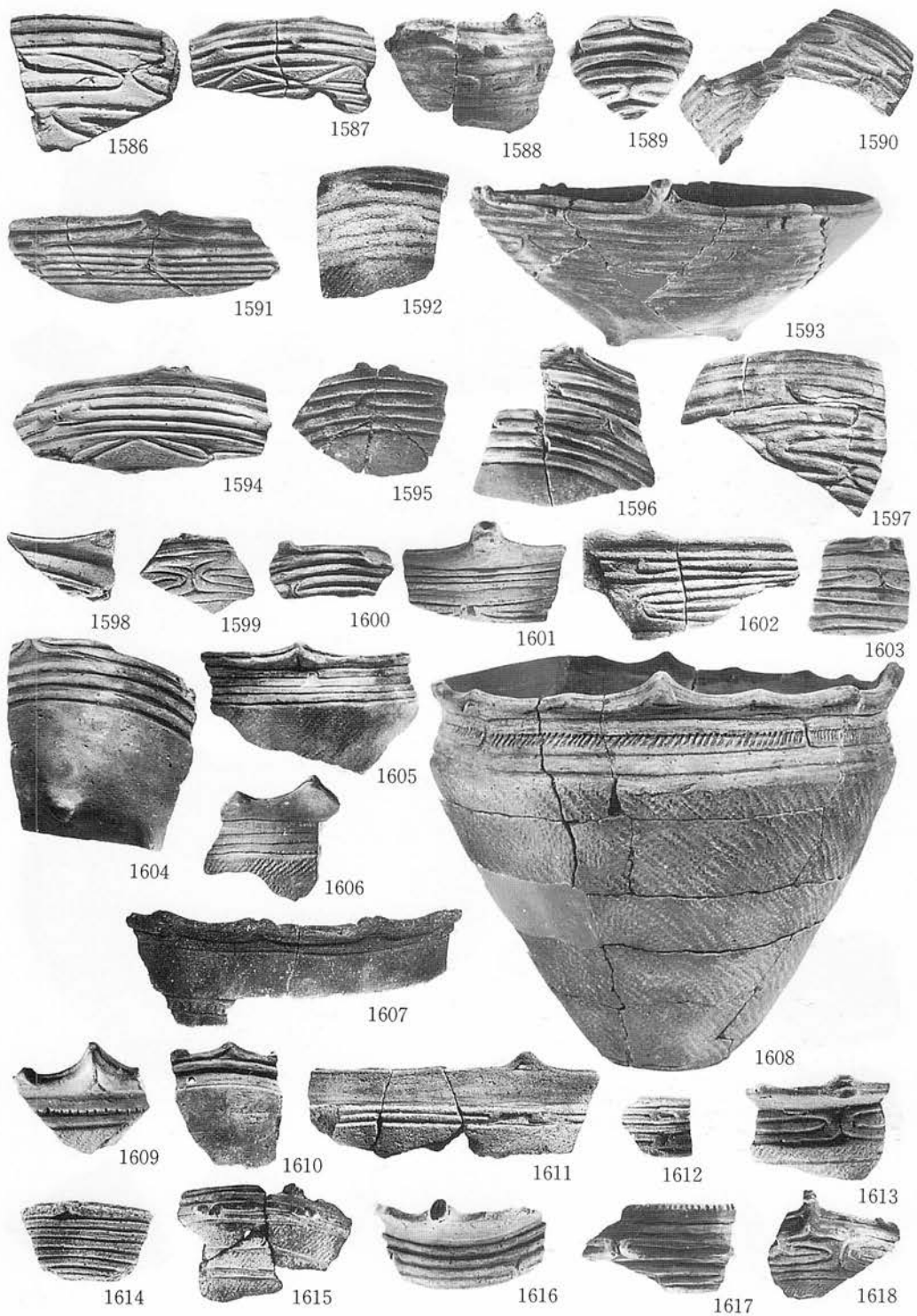
写真図版144 遺物包含層出土遺物（土器）58



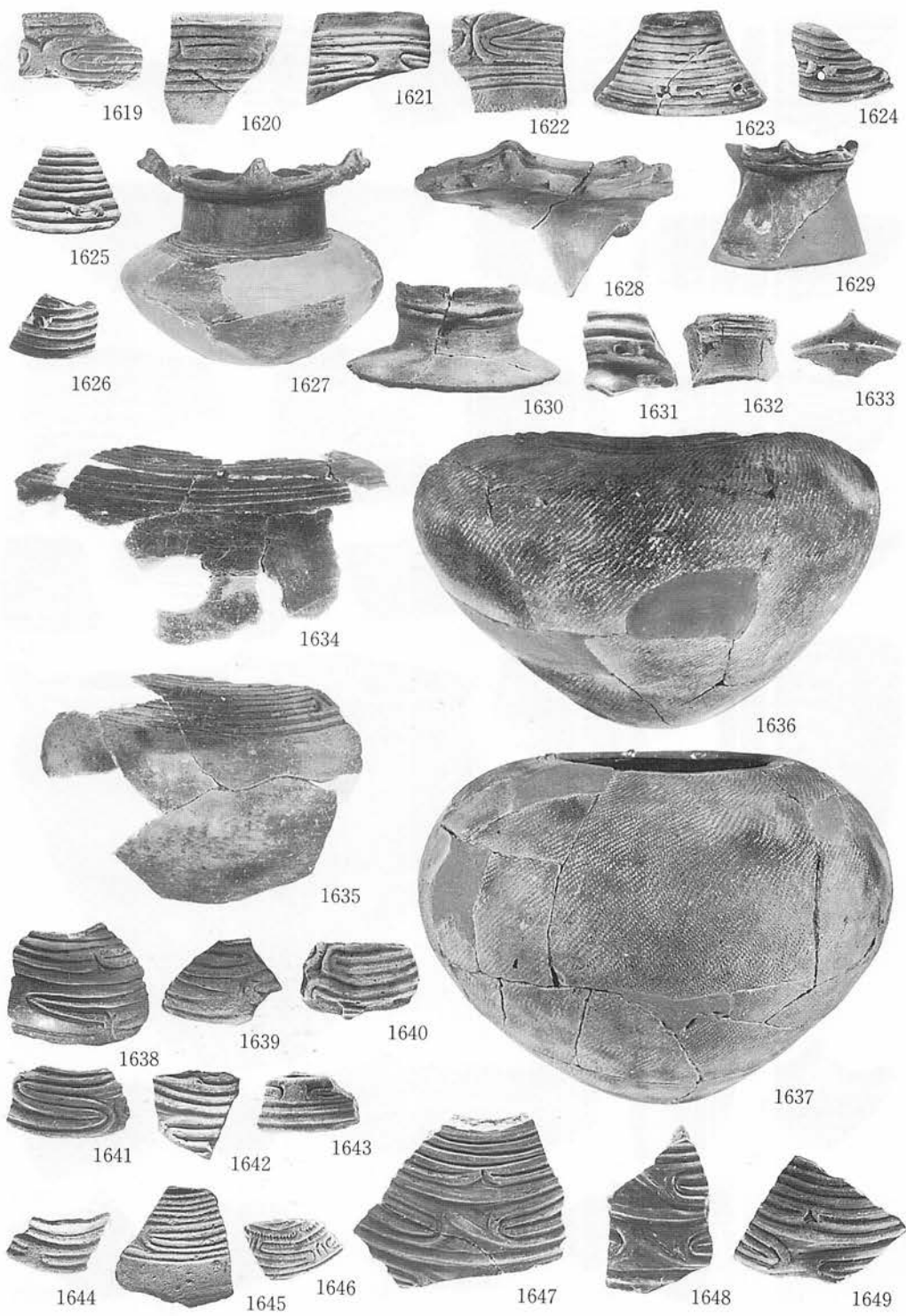
写真図版145 遺物包含層出土遺物（土器）59



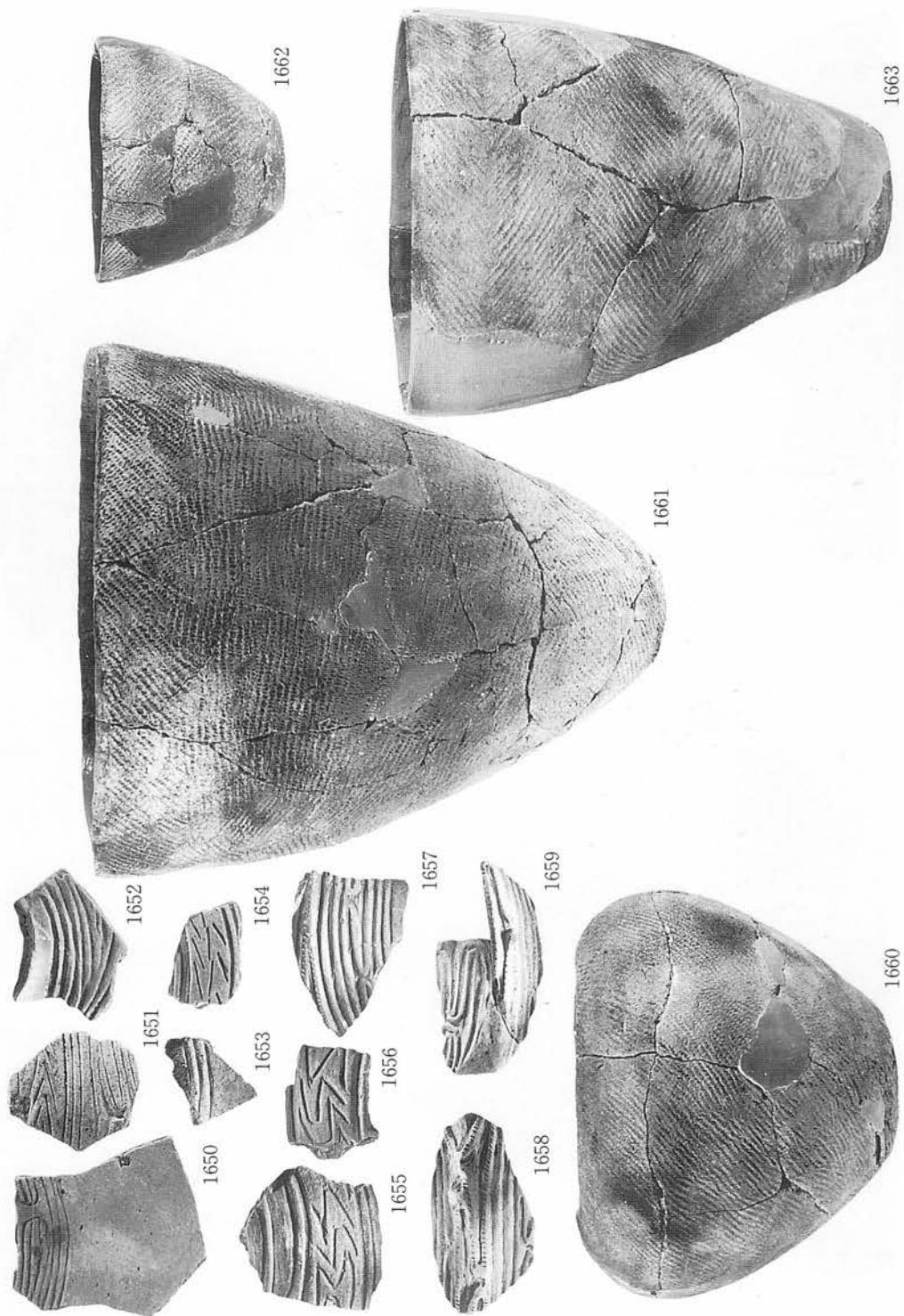
写真図版146 遺物包含層出土遺物（土器）60



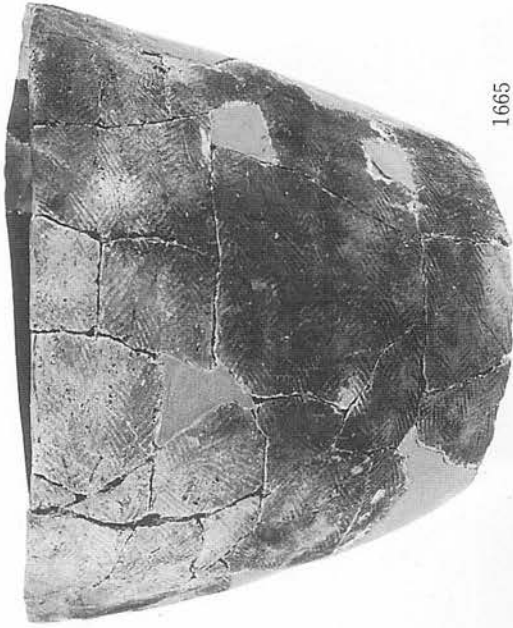
写真図版147 遺物包含層出土遺物（土器）61



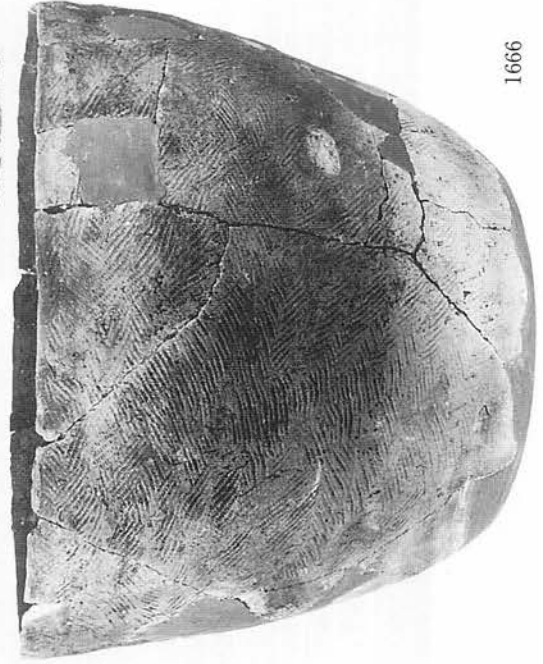
写真图版148 遺物包含層出土遺物（土器）62



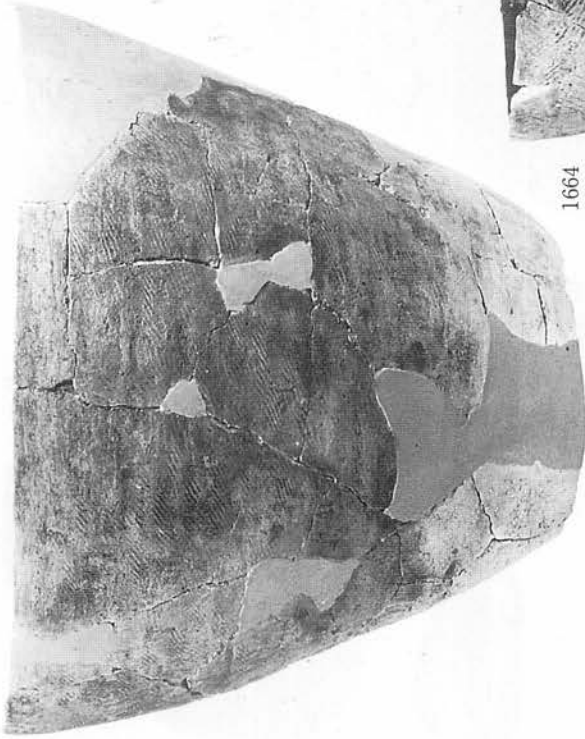
写真図版149 遺物包含層出土遺物（土器）63



1665



1666

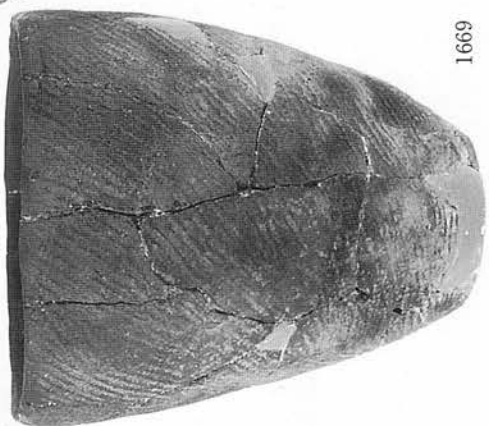


1664

写真図版150 遺物包含層出土遺物（土器）64



1670



1669



1667

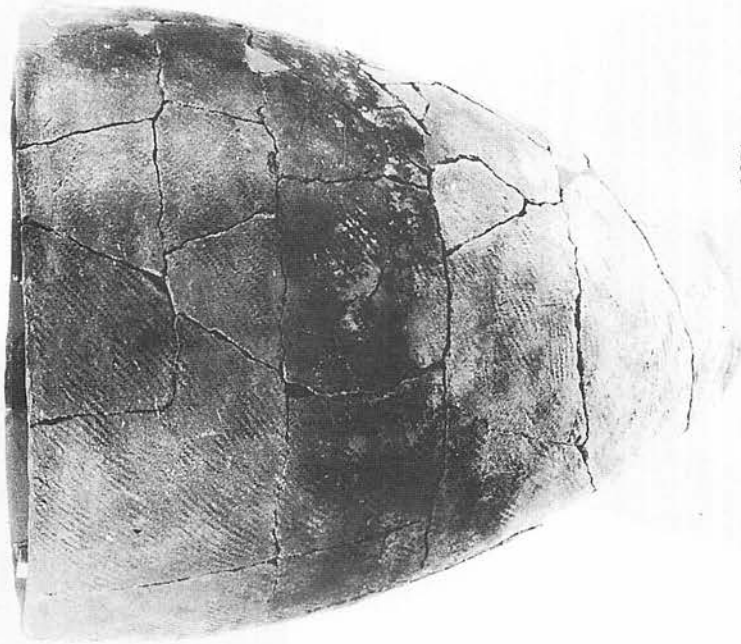


1668

写真図版151 遺物包含層出土遺物（土器）65



1672



1671

写真図版152 遺物包含層出土遺物（土器）66

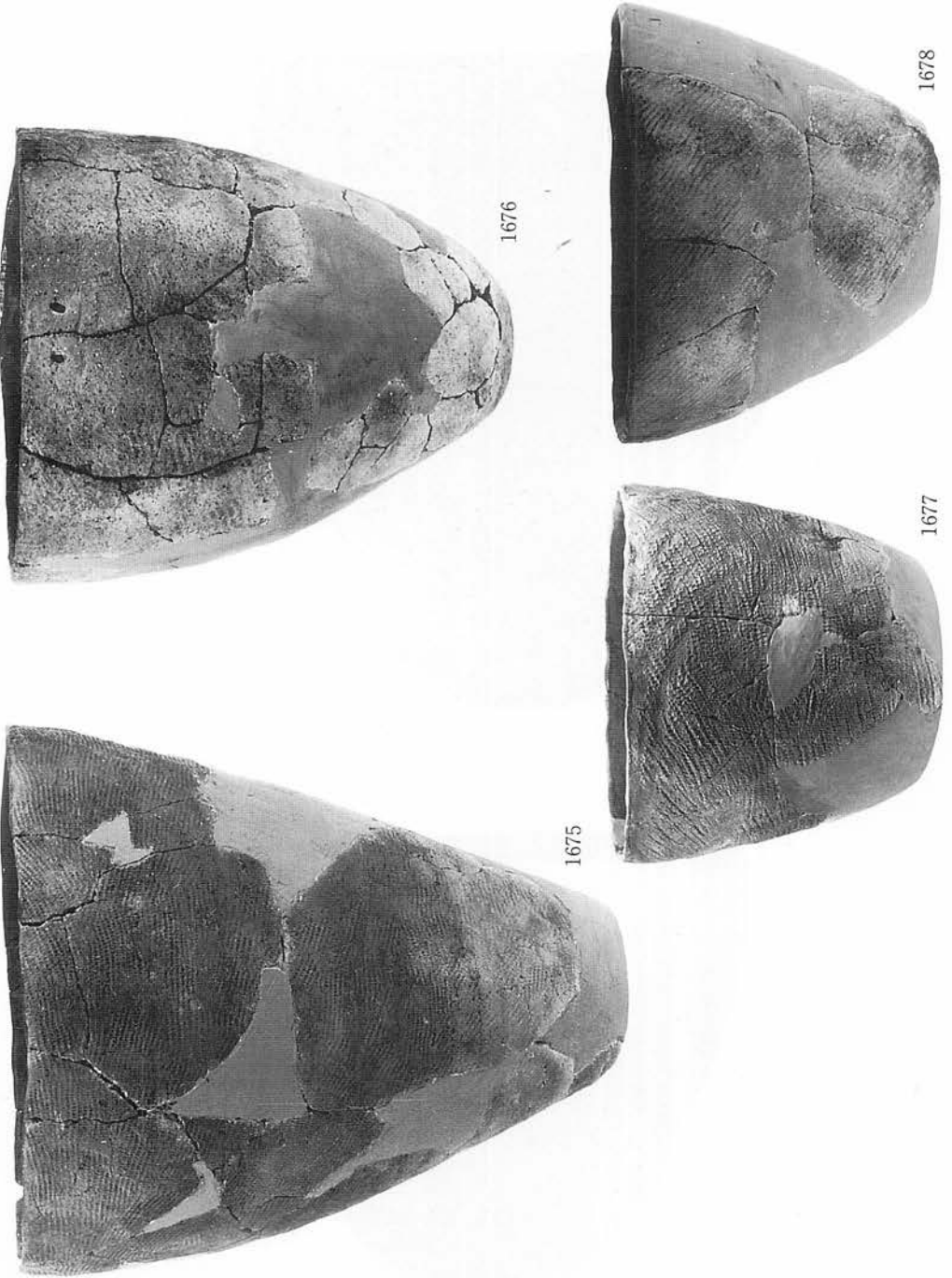


1673

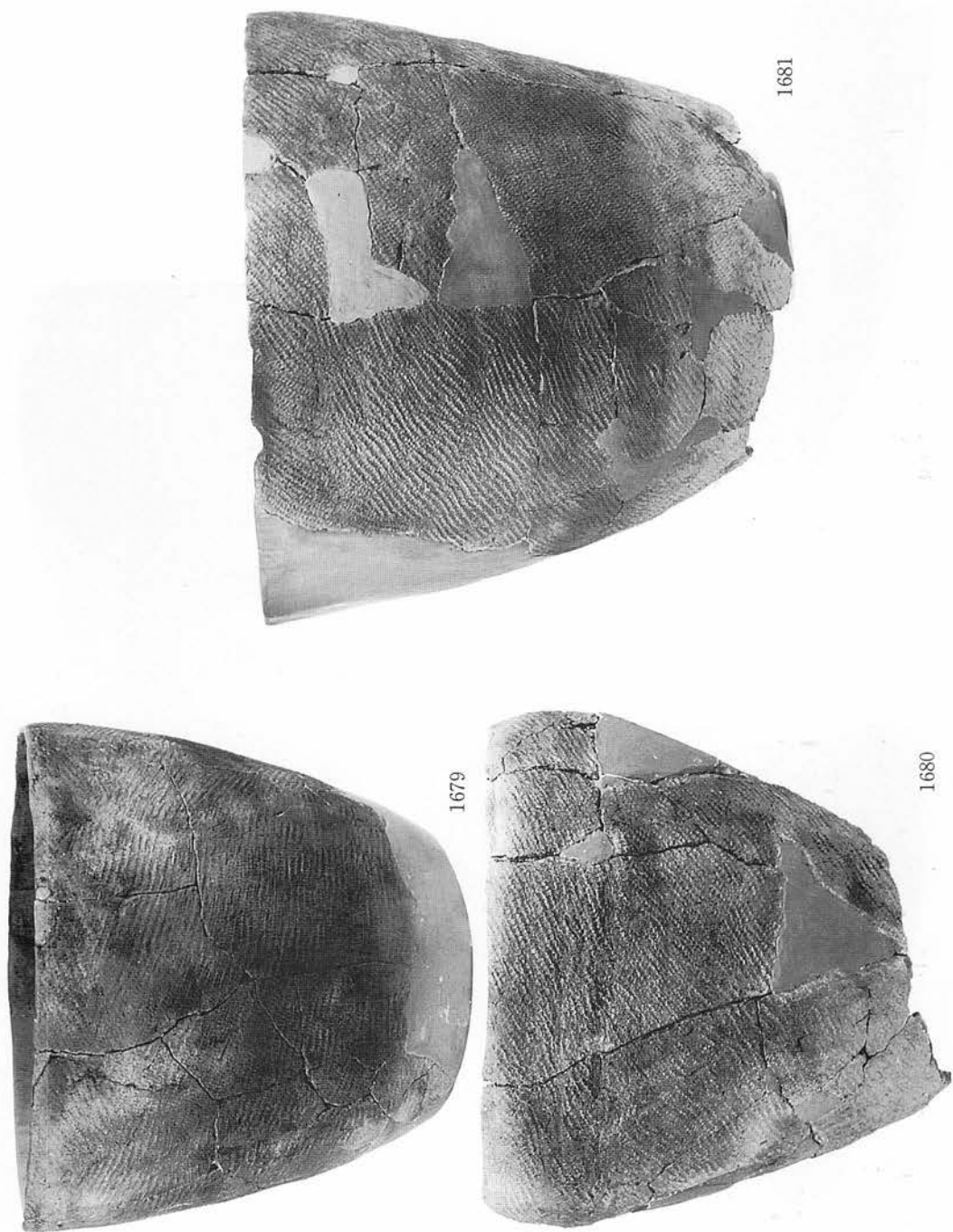


1674

写真図版153 遺物包含層出土遺物（土器）67



写真図版154 遺物包含層出土遺物（土器）68



写真図版155 遺物包含層出土遺物（土器）69



1682



1683

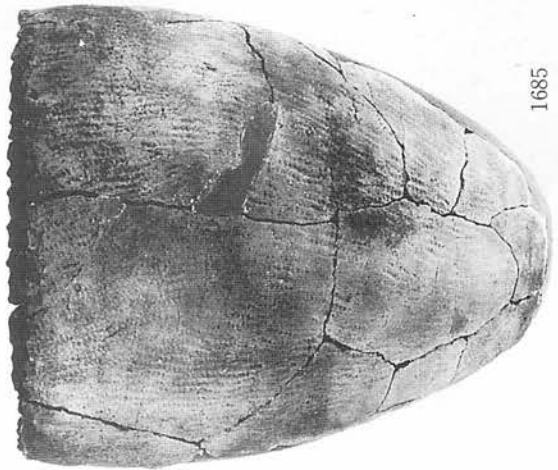


1684

写真図版156 遺物包含層出土遺物（土器）70



1686

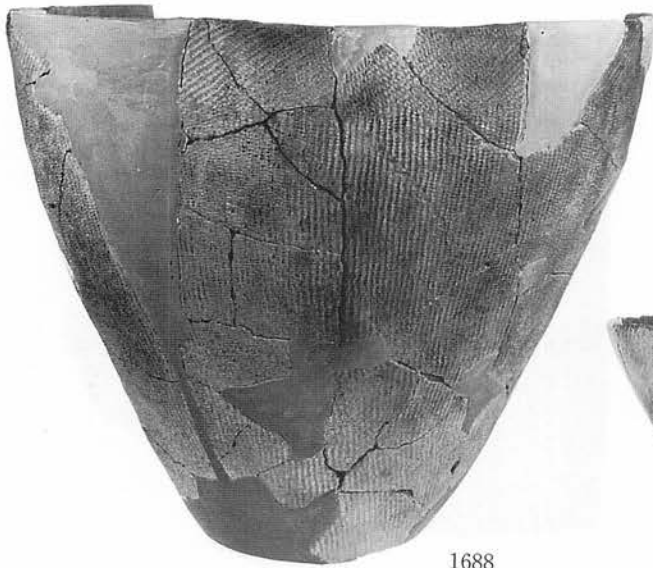


1685

写真図版157 遺物包含層出土遺物（土器）71



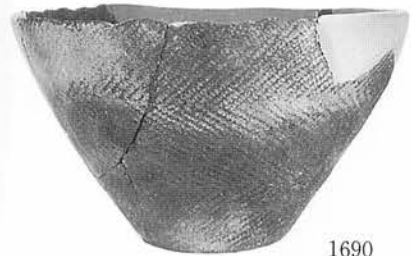
1687



1688

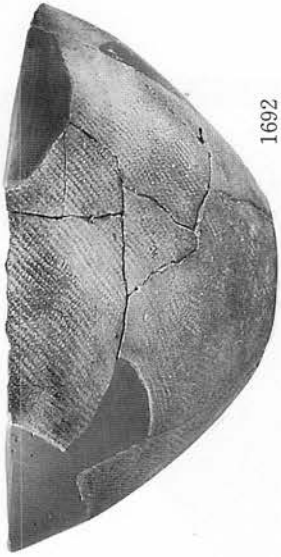


1689



1690

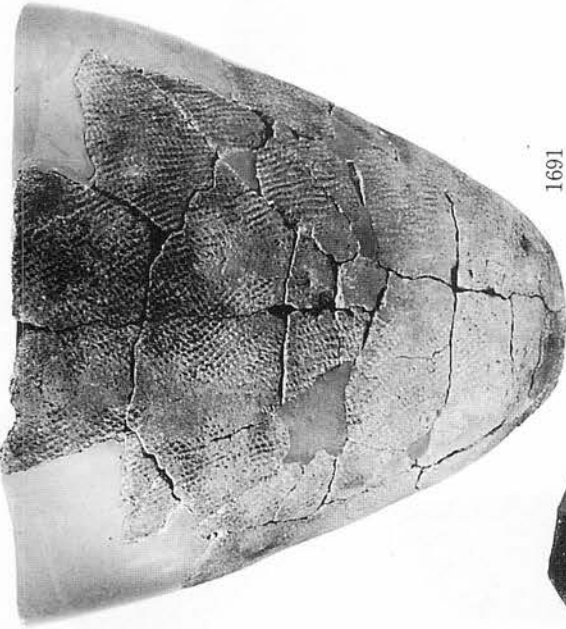
写真図版158 遺物包含層出土遺物（土器）72



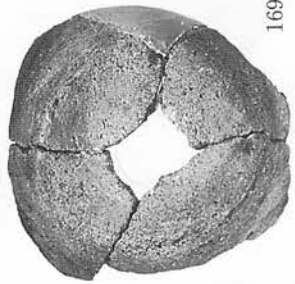
1692



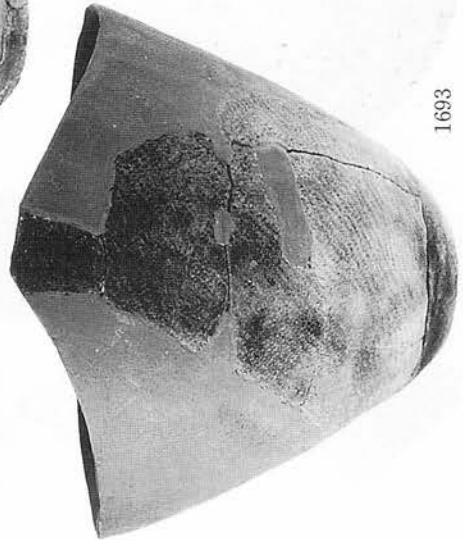
1695



1691

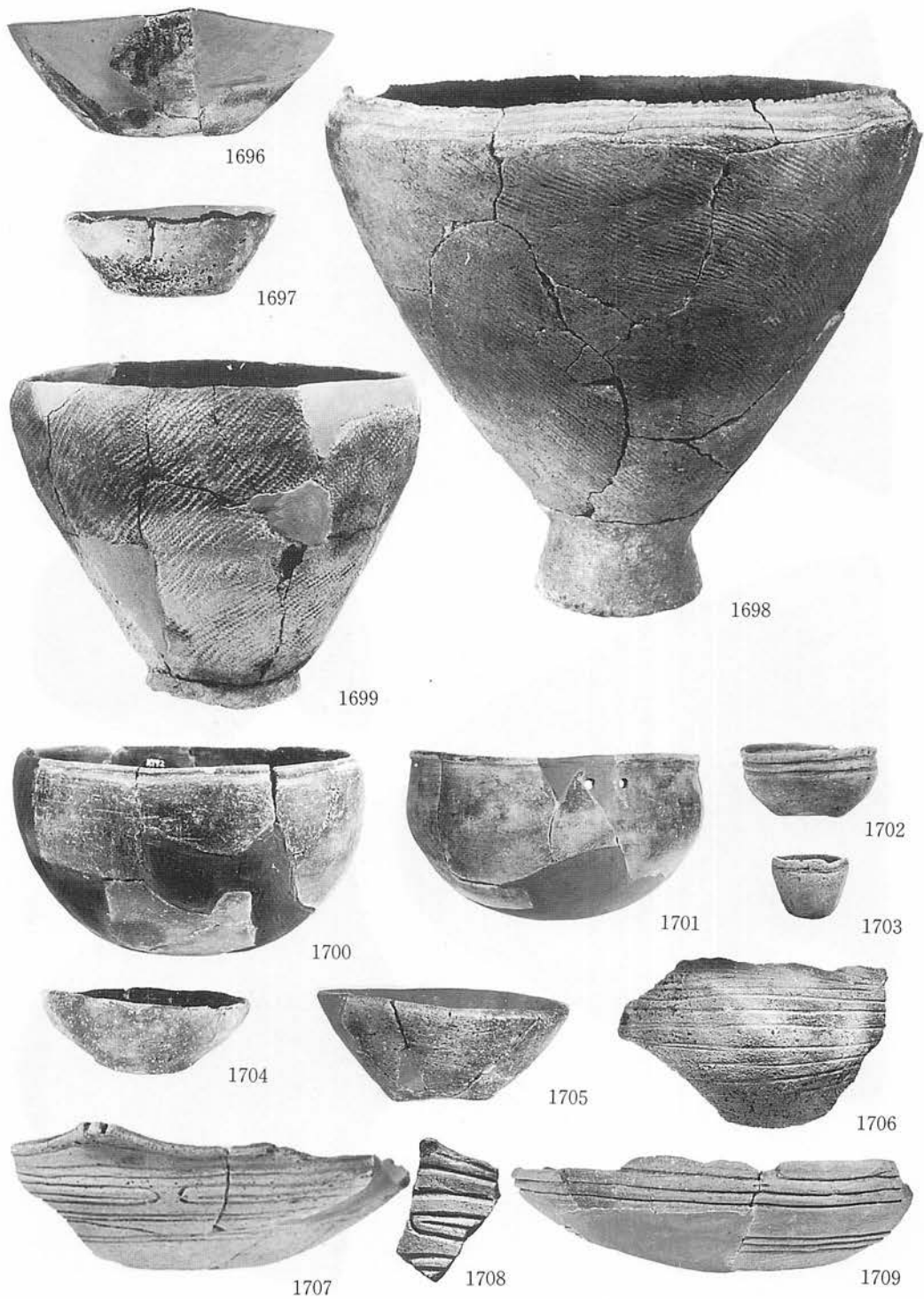


1694

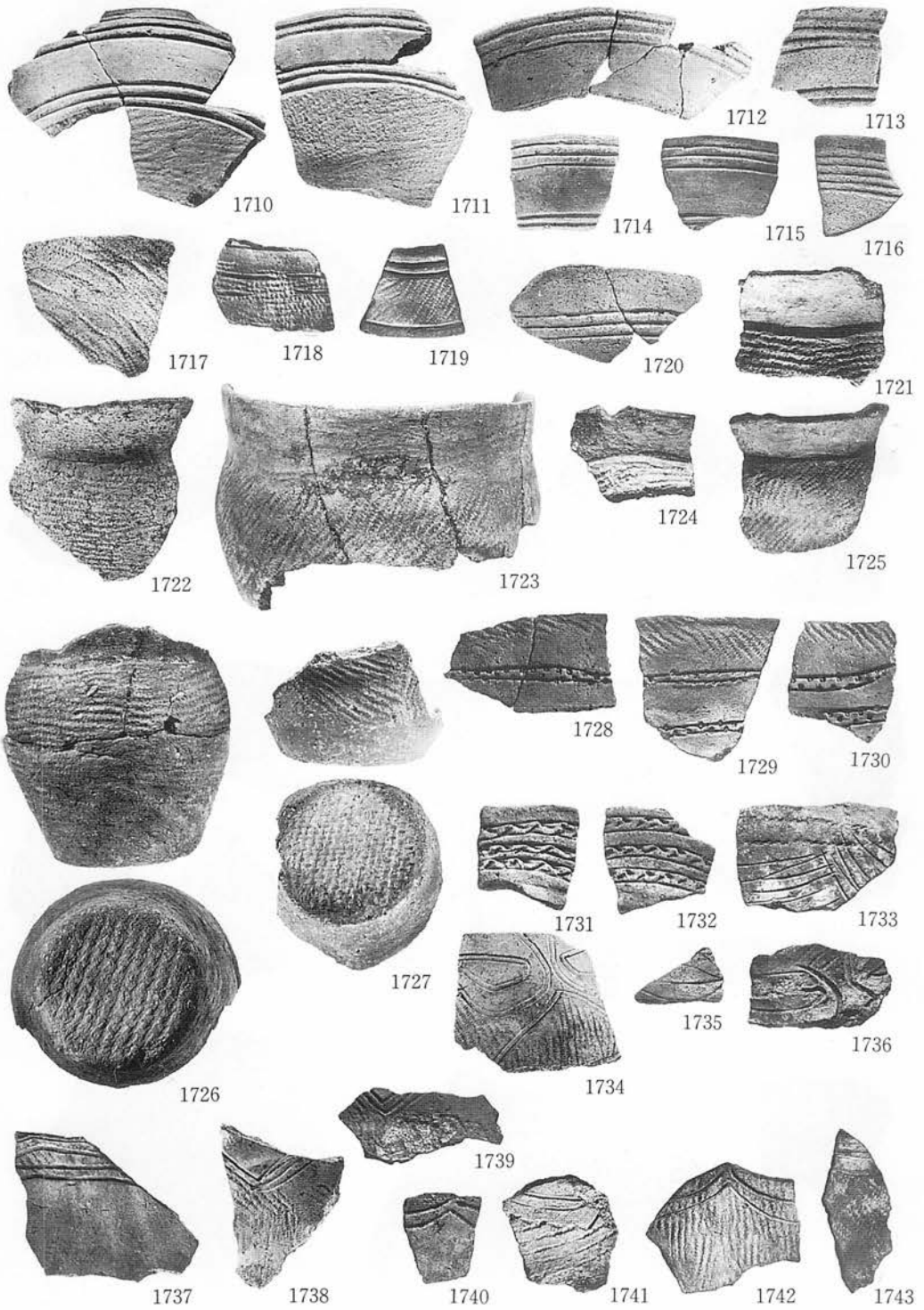


1693

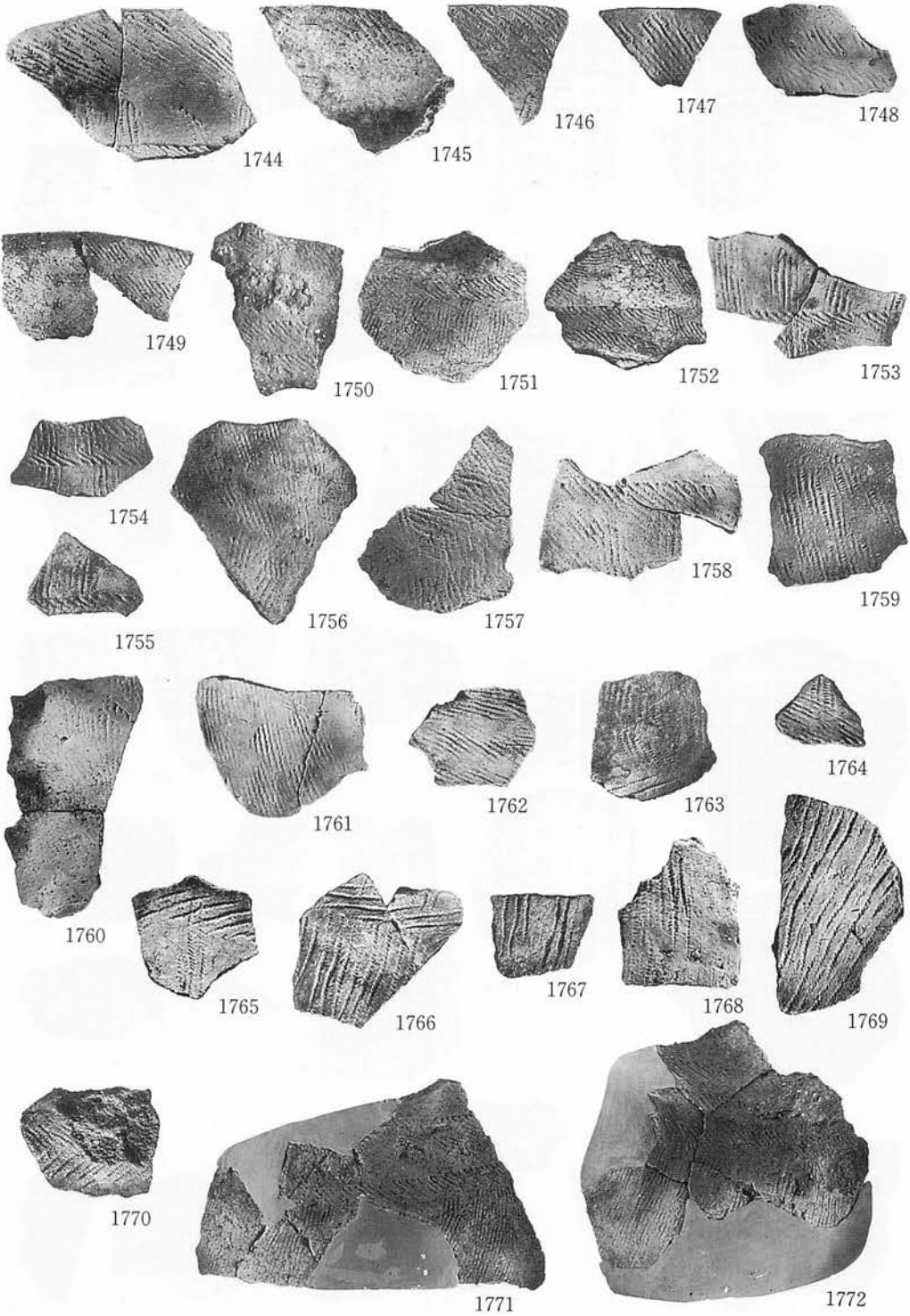
写真図版159 遺物包含層出土遺物（土器）73



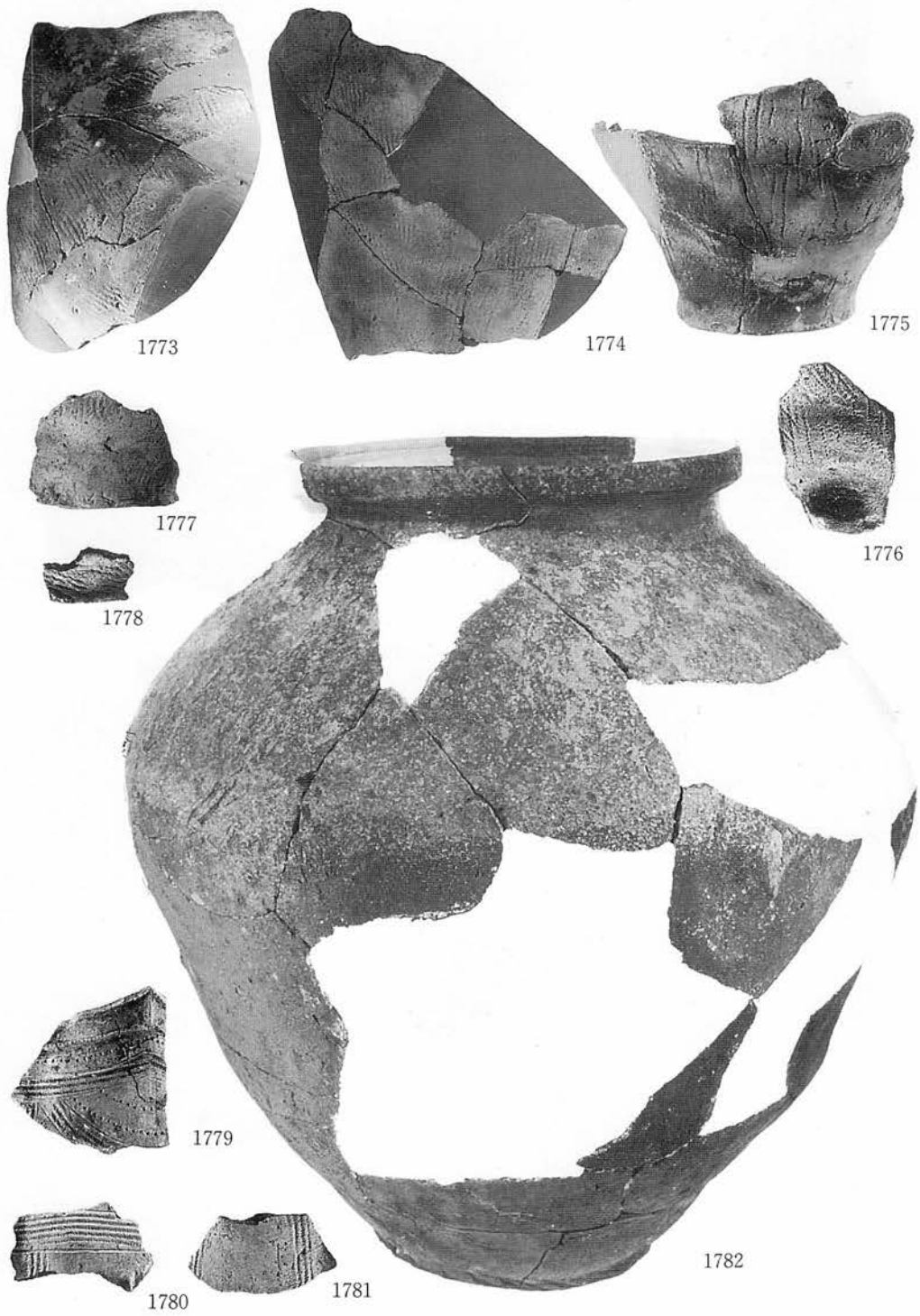
写真図版160 遺物包含層出土遺物（土器）74



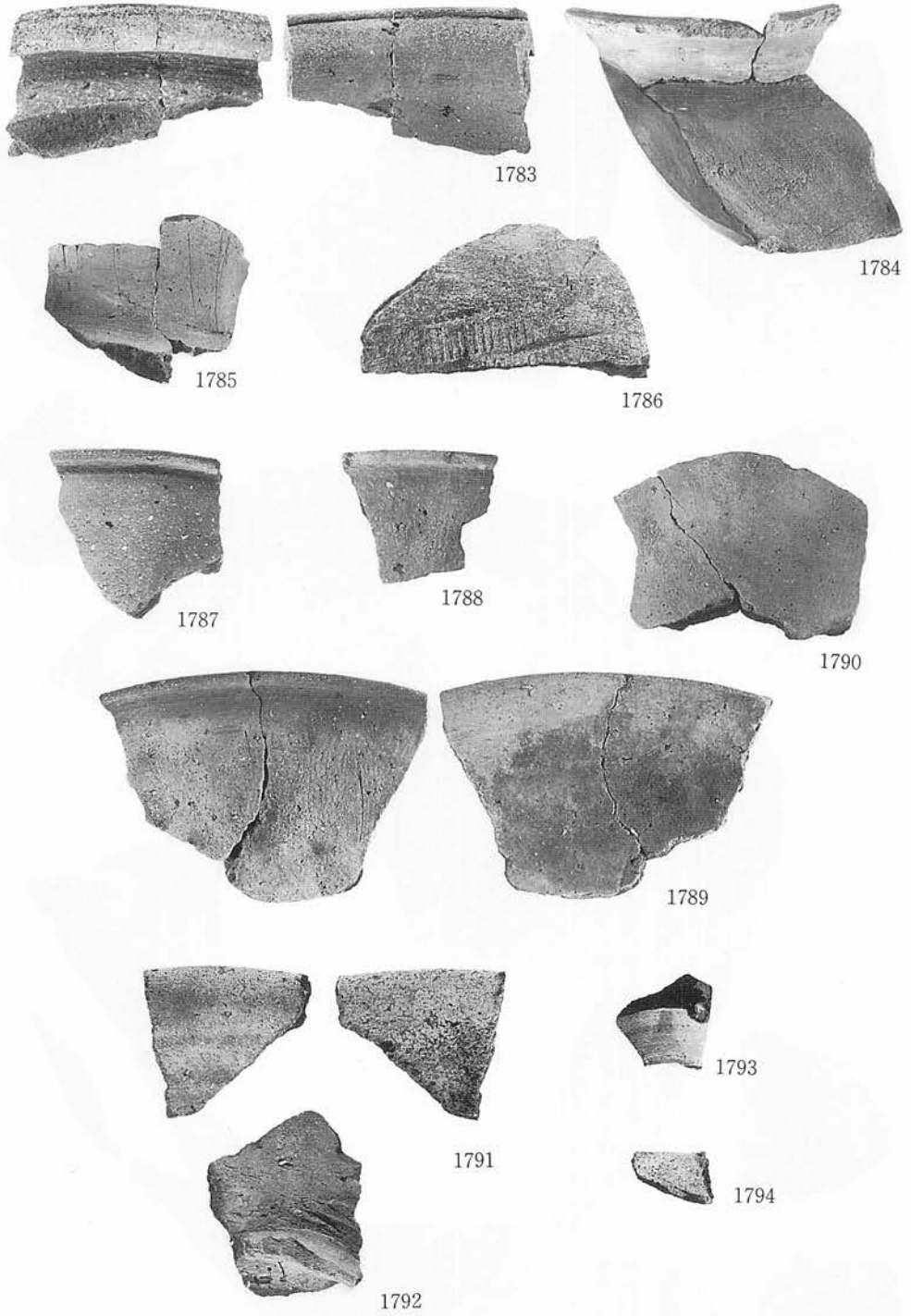
写真図版161 遺物包含層出土遺物（土器）75



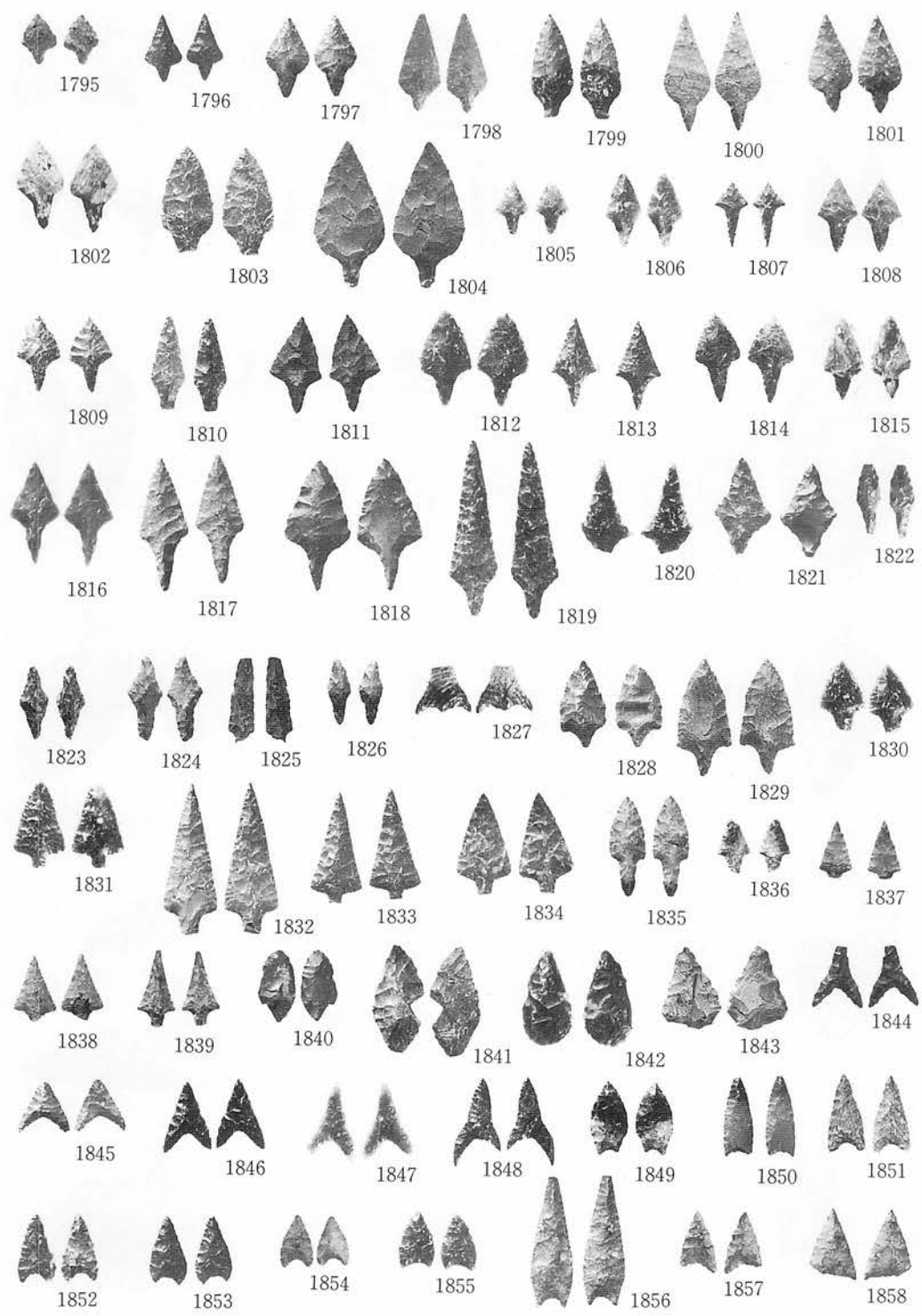
写真図版162 遺物包含層出土遺物（土器）76



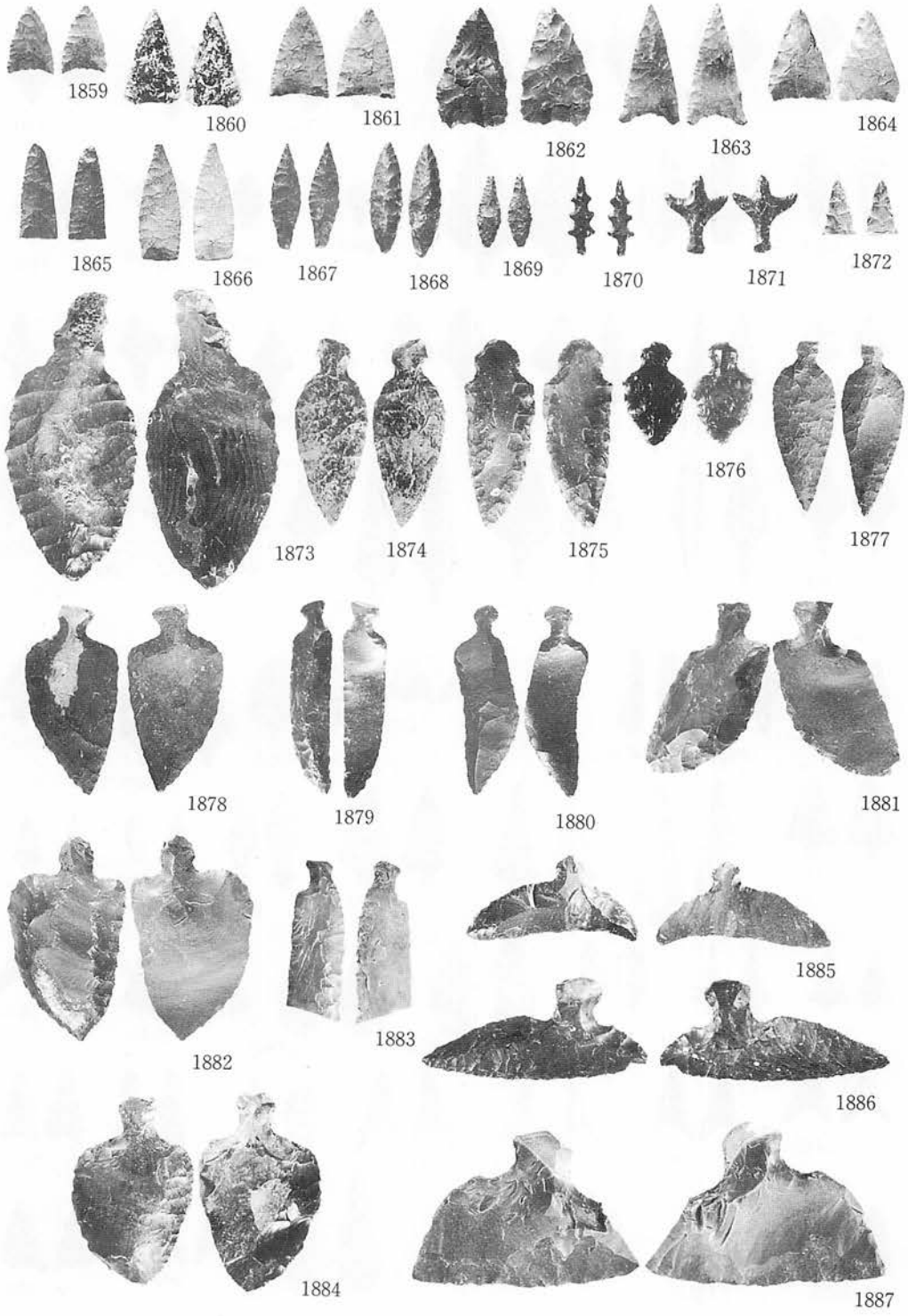
写真図版163 遺物包含層出土遺物 (土器) 77・(陶器) 1



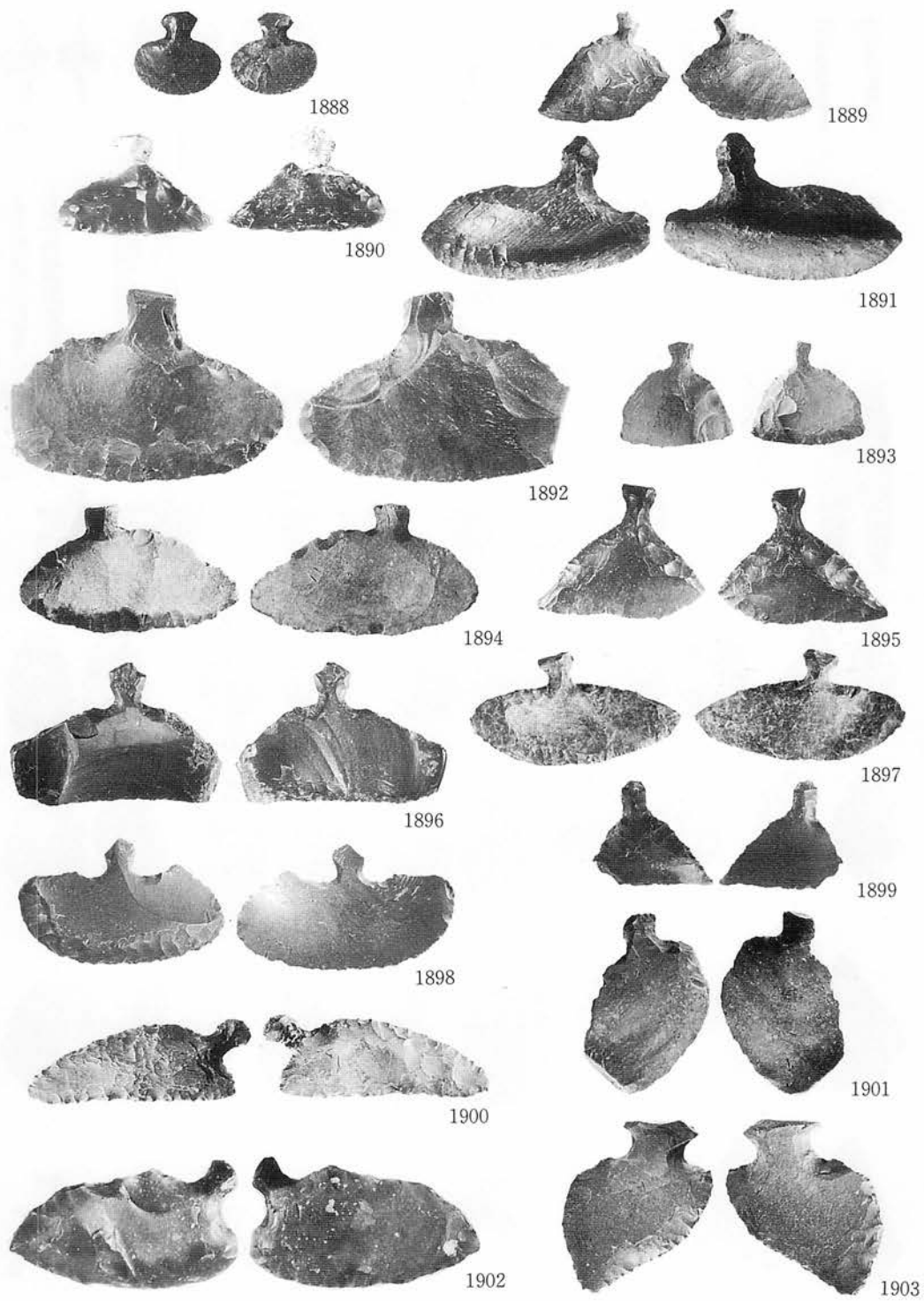
写真図版164 遺物包含層出土遺物（陶器）2



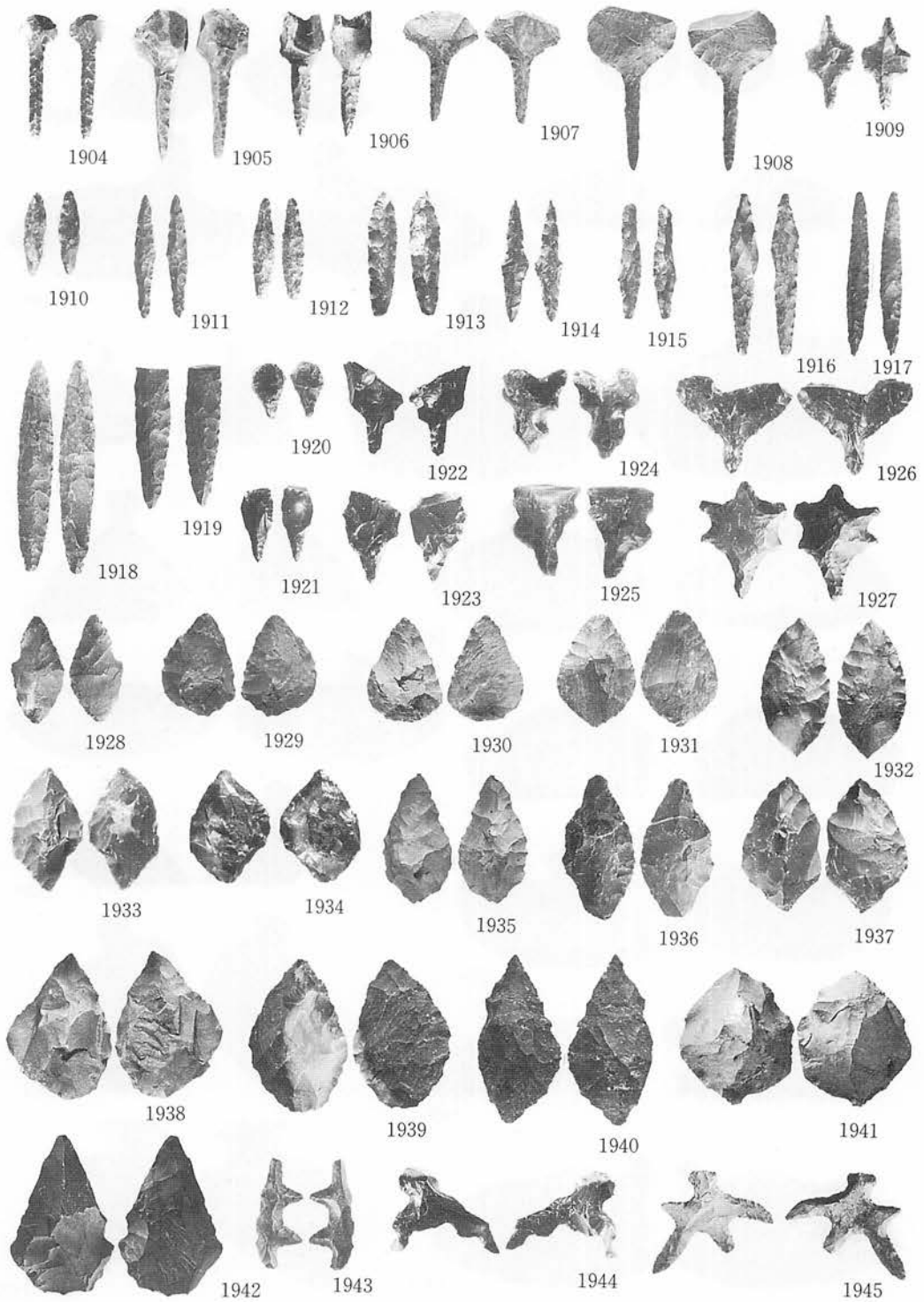
写真図版165 遺物包含層出土遺物（石器）1



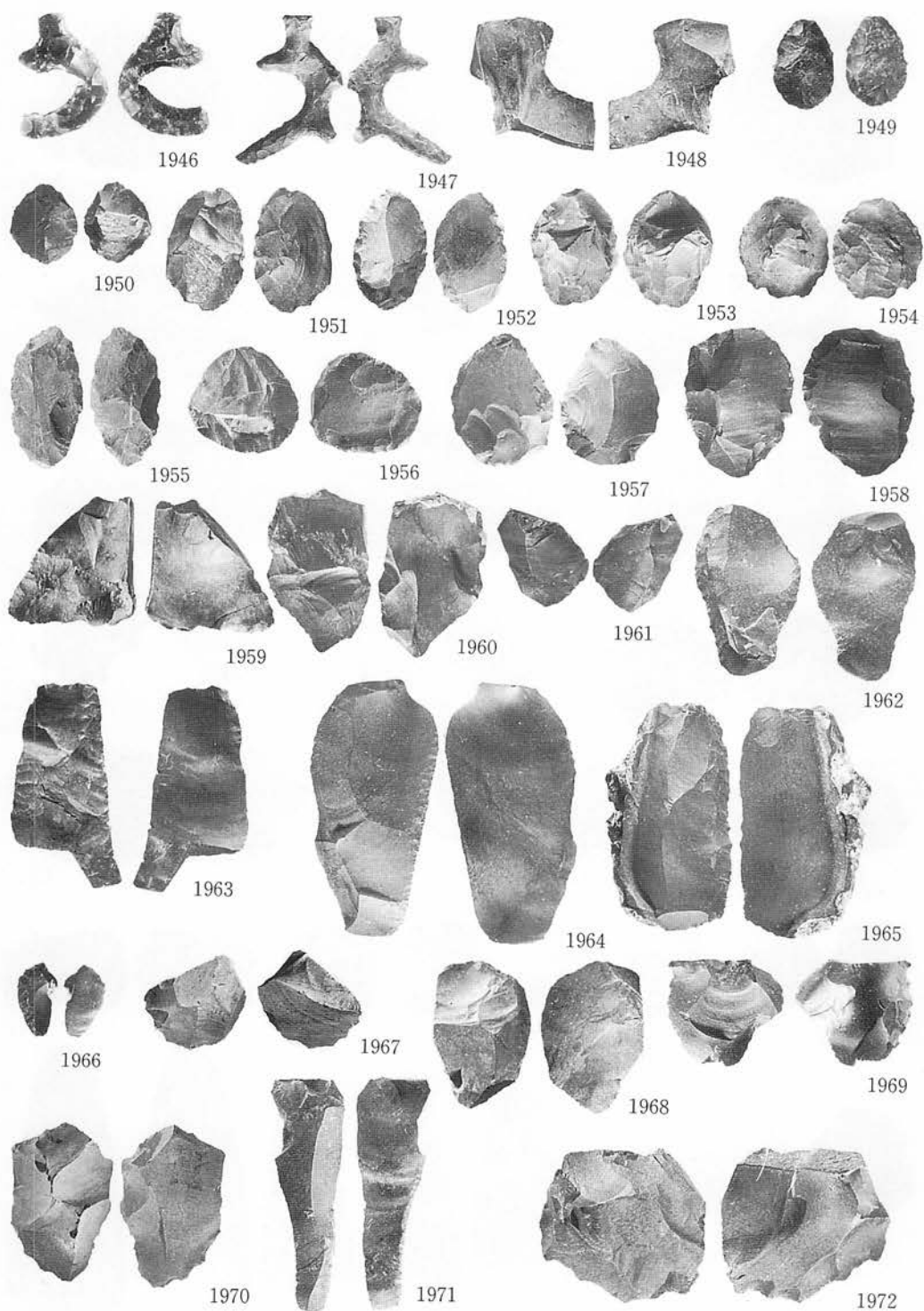
写真図版166 遺物包含層出土遺物（石器）2



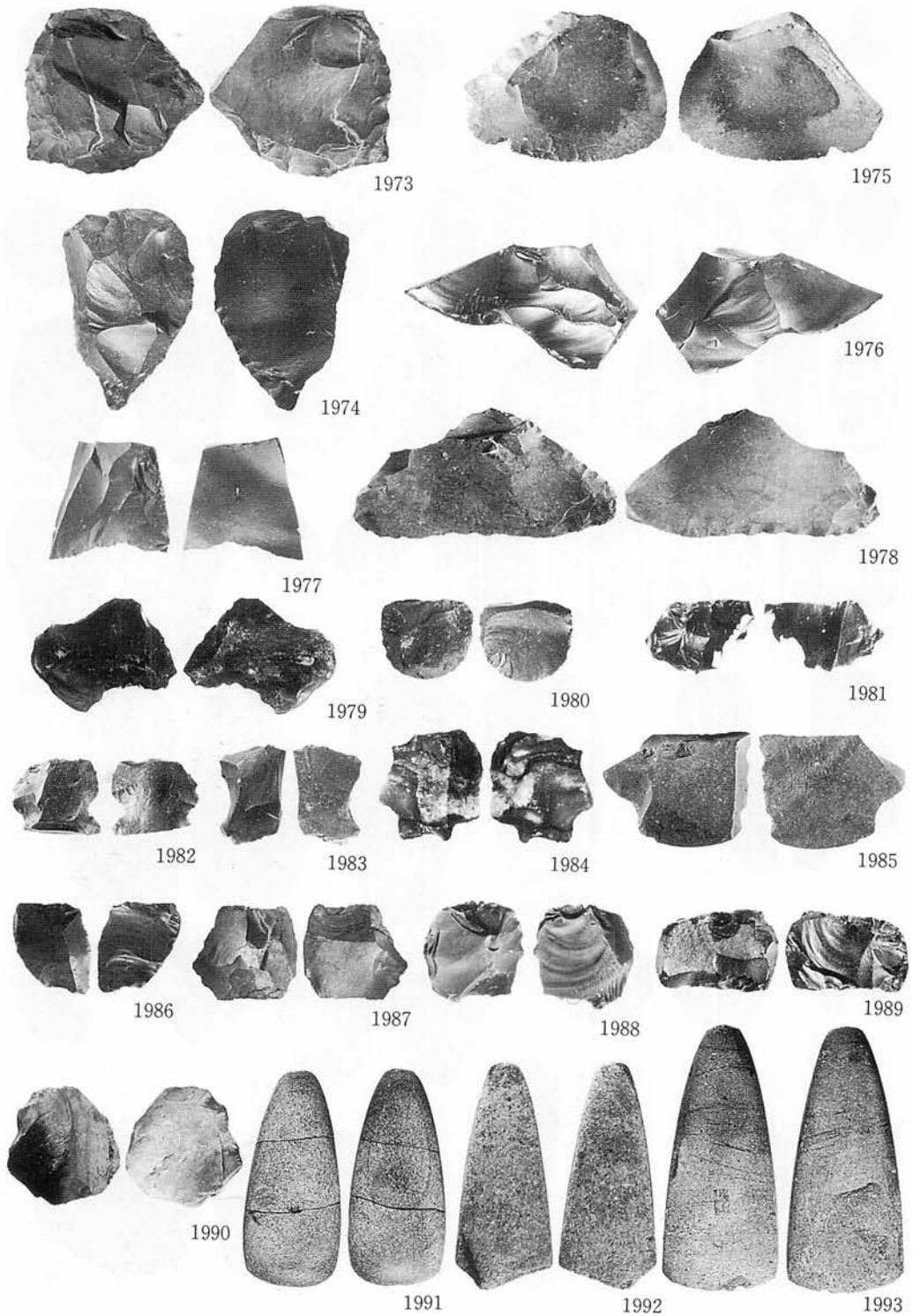
写真図版167 遺物包含層出土遺物（石器）3



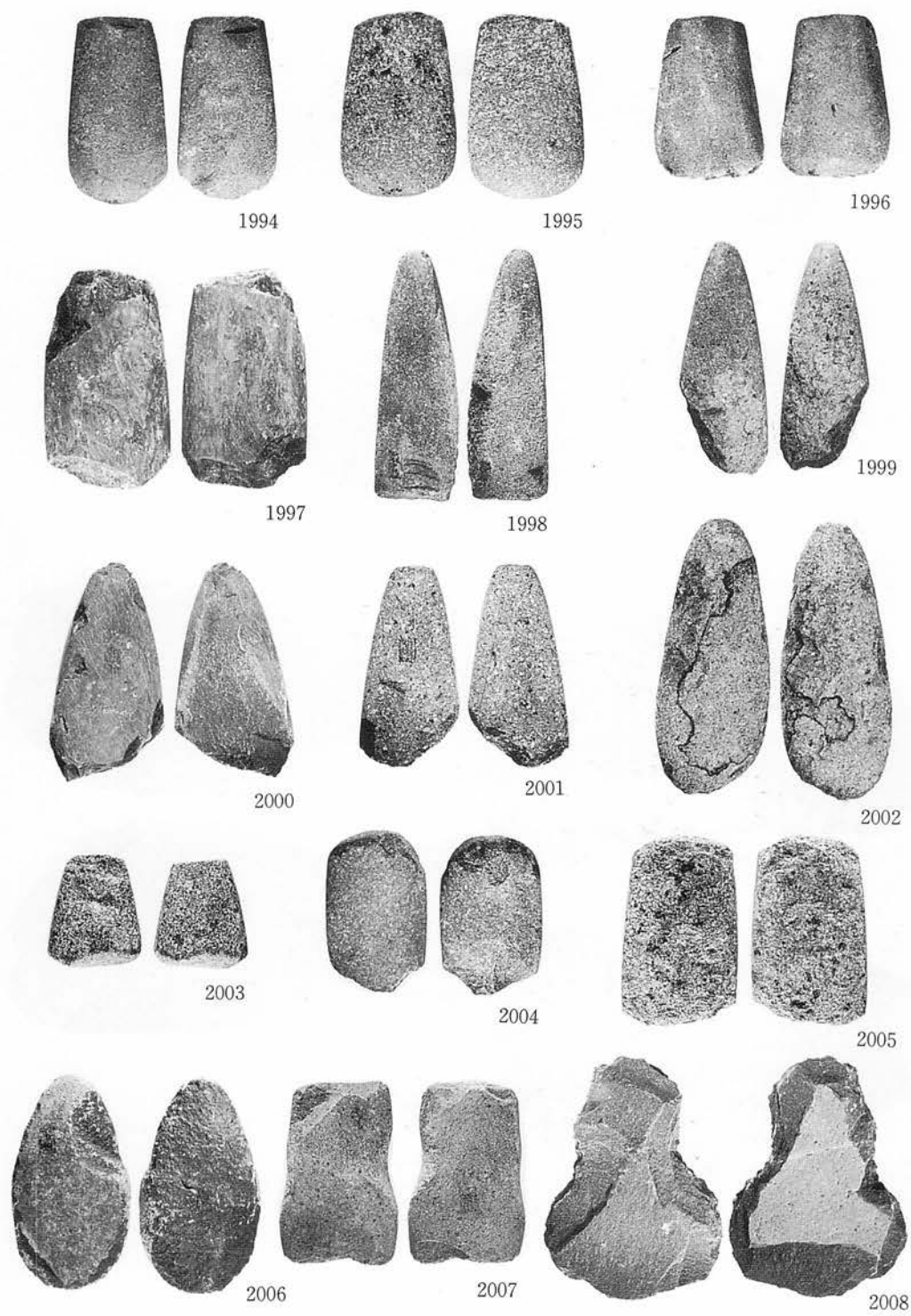
写真図版168 遺物包含層出土遺物（石器）4



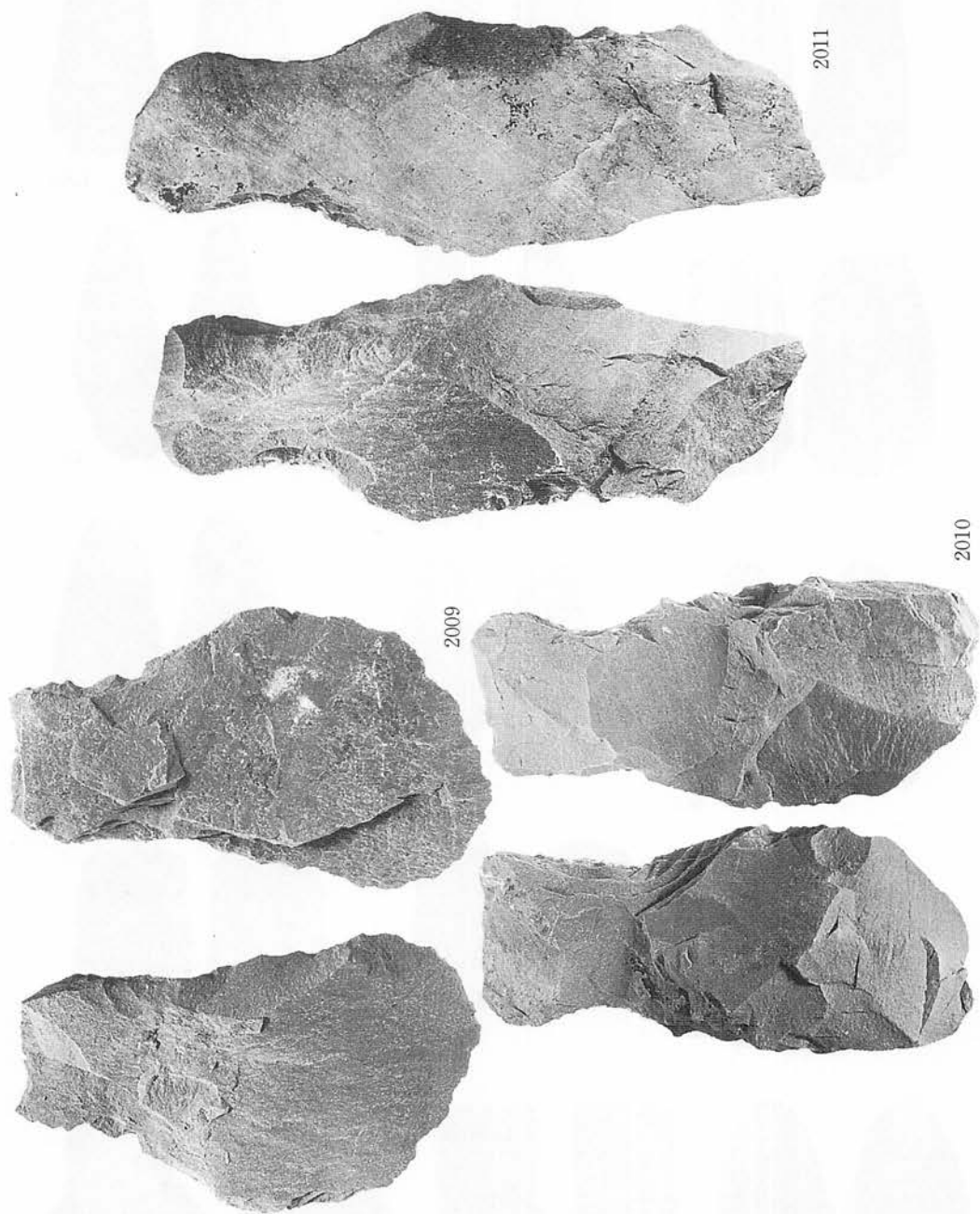
写真図版169 遺物包含層出土遺物（石器）5



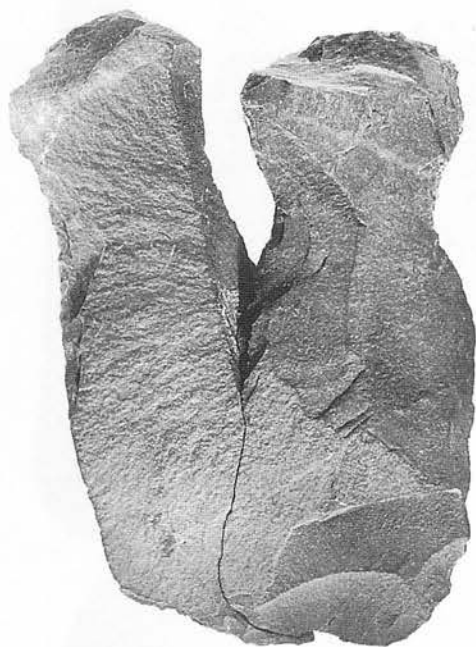
写真図版170 遺物包含層出土遺物（石器）6



写真図版171 遺物包含層出土遺物（石器）7



写真図版172 遺物包含層出土遺物（石器）8



2012・2013

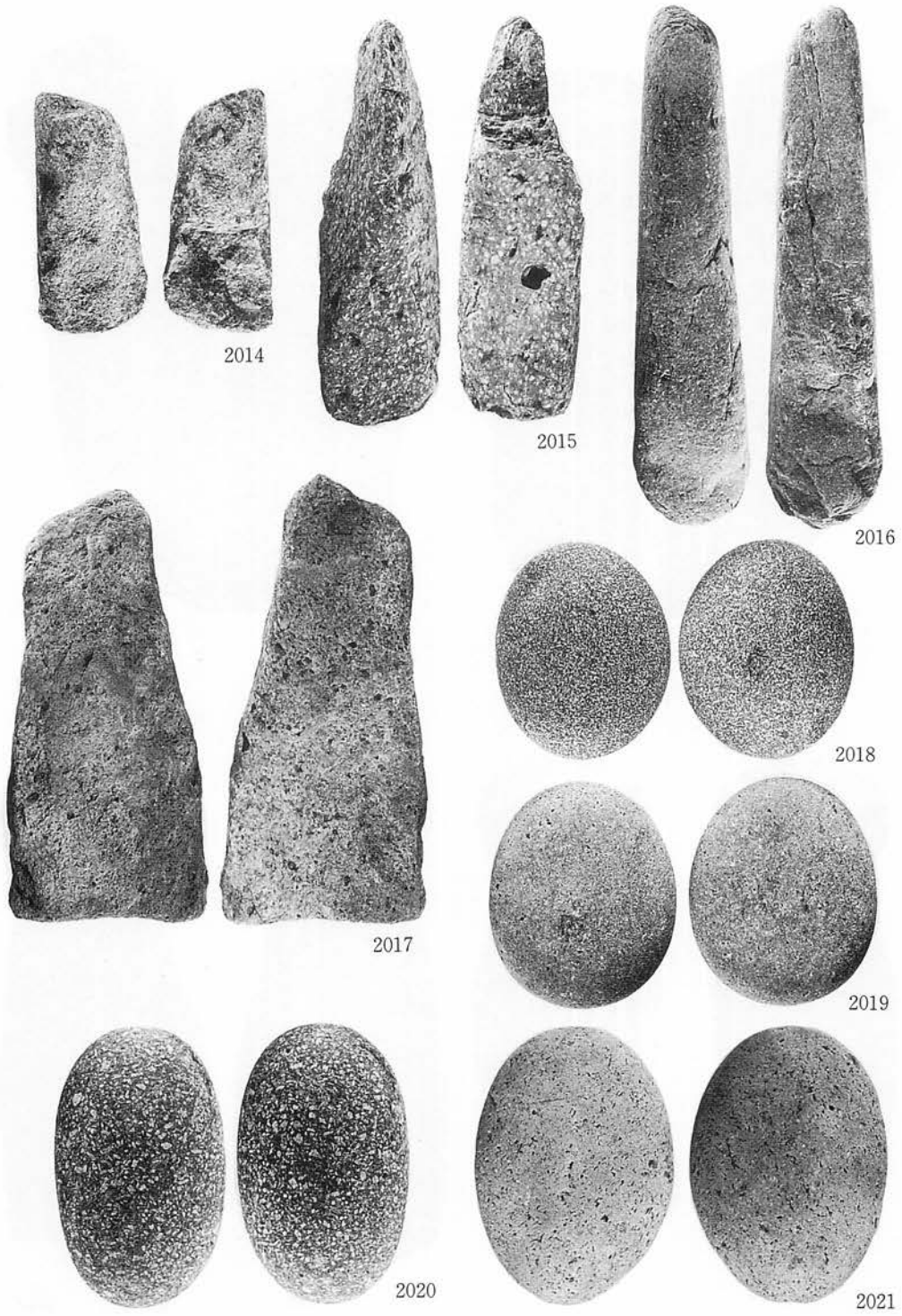


2012

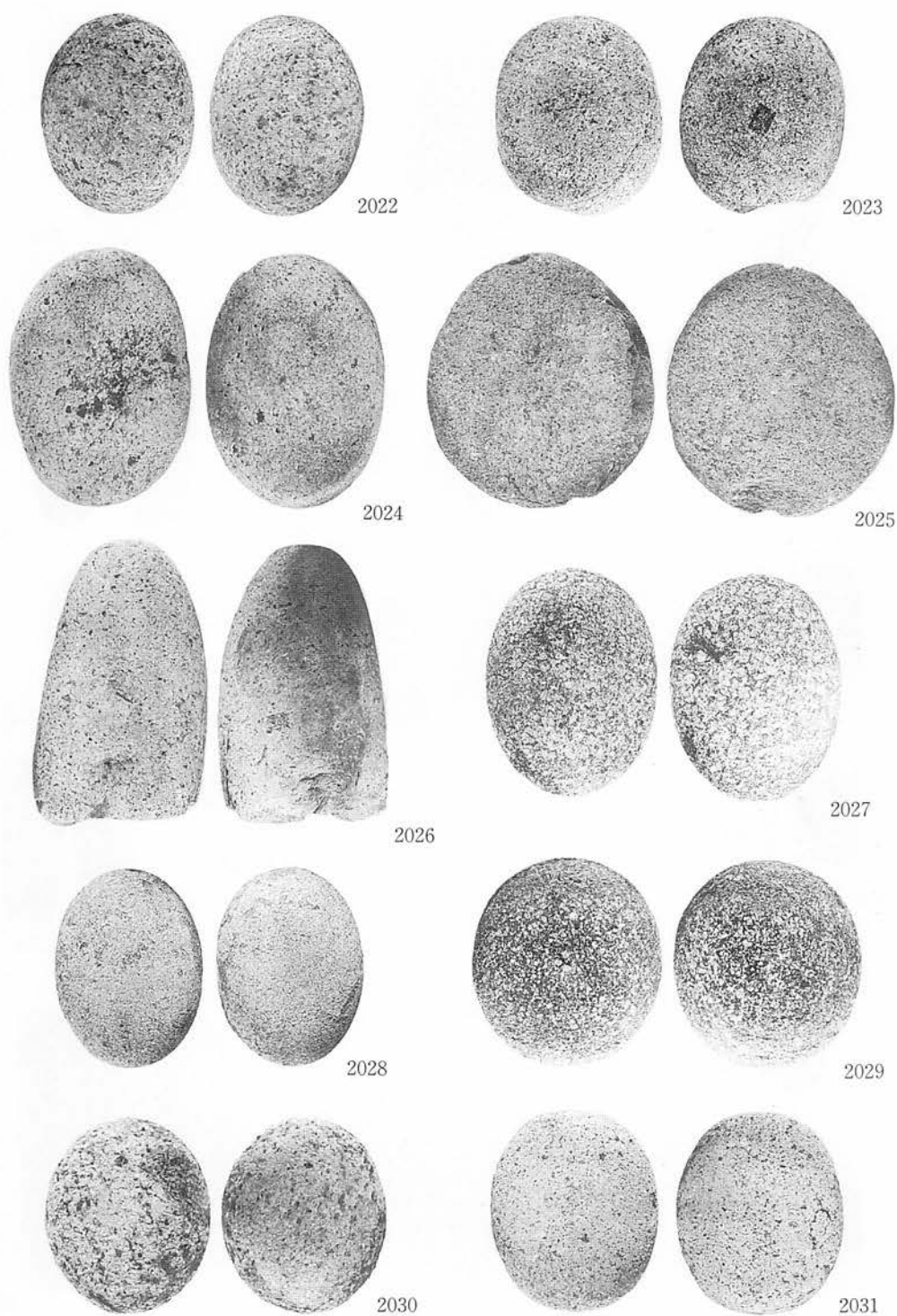


2013

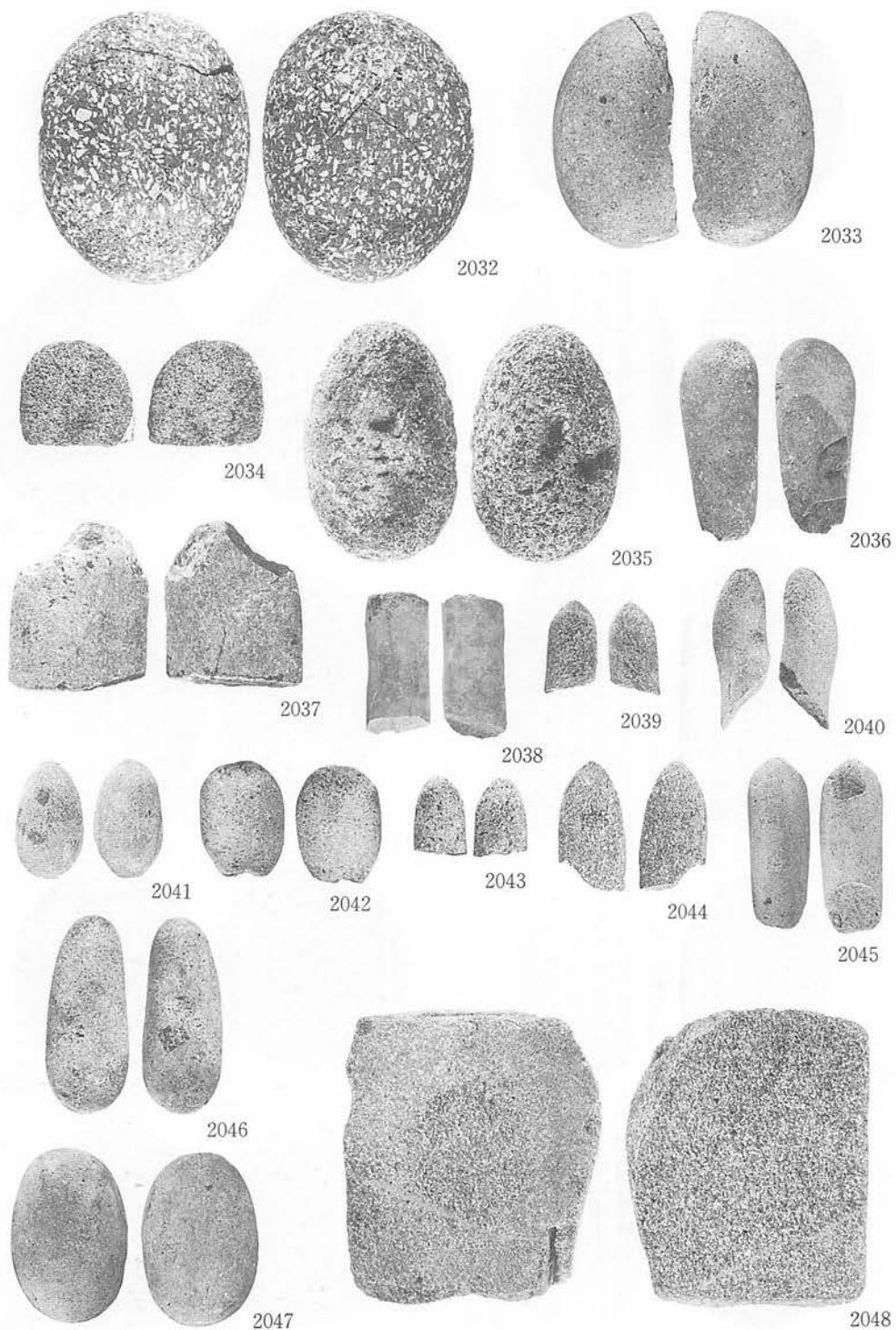
写真図版173 遺物包含層出土遺物（石器）9



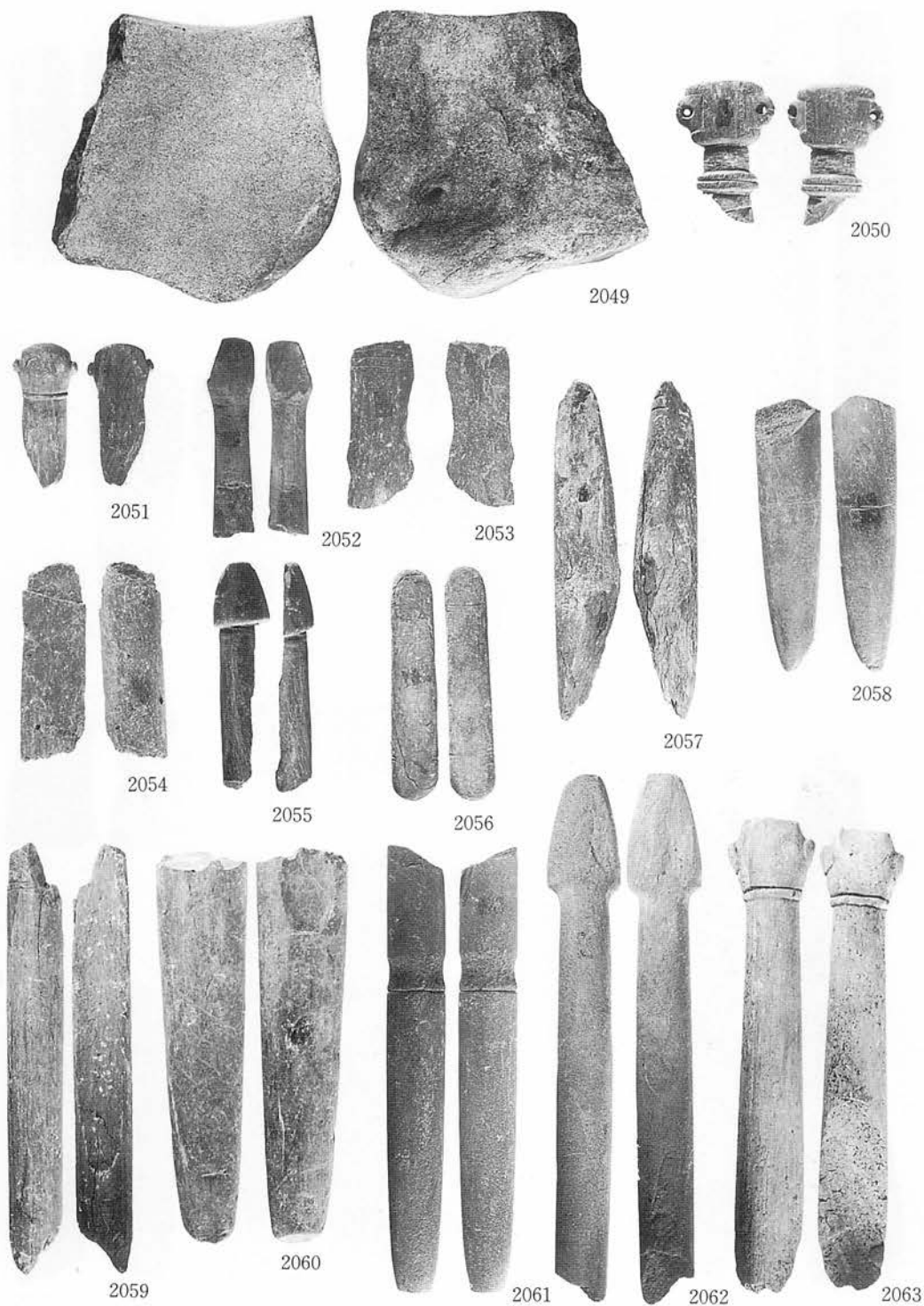
写真図版174 遺物包含層出土遺物（石器）10



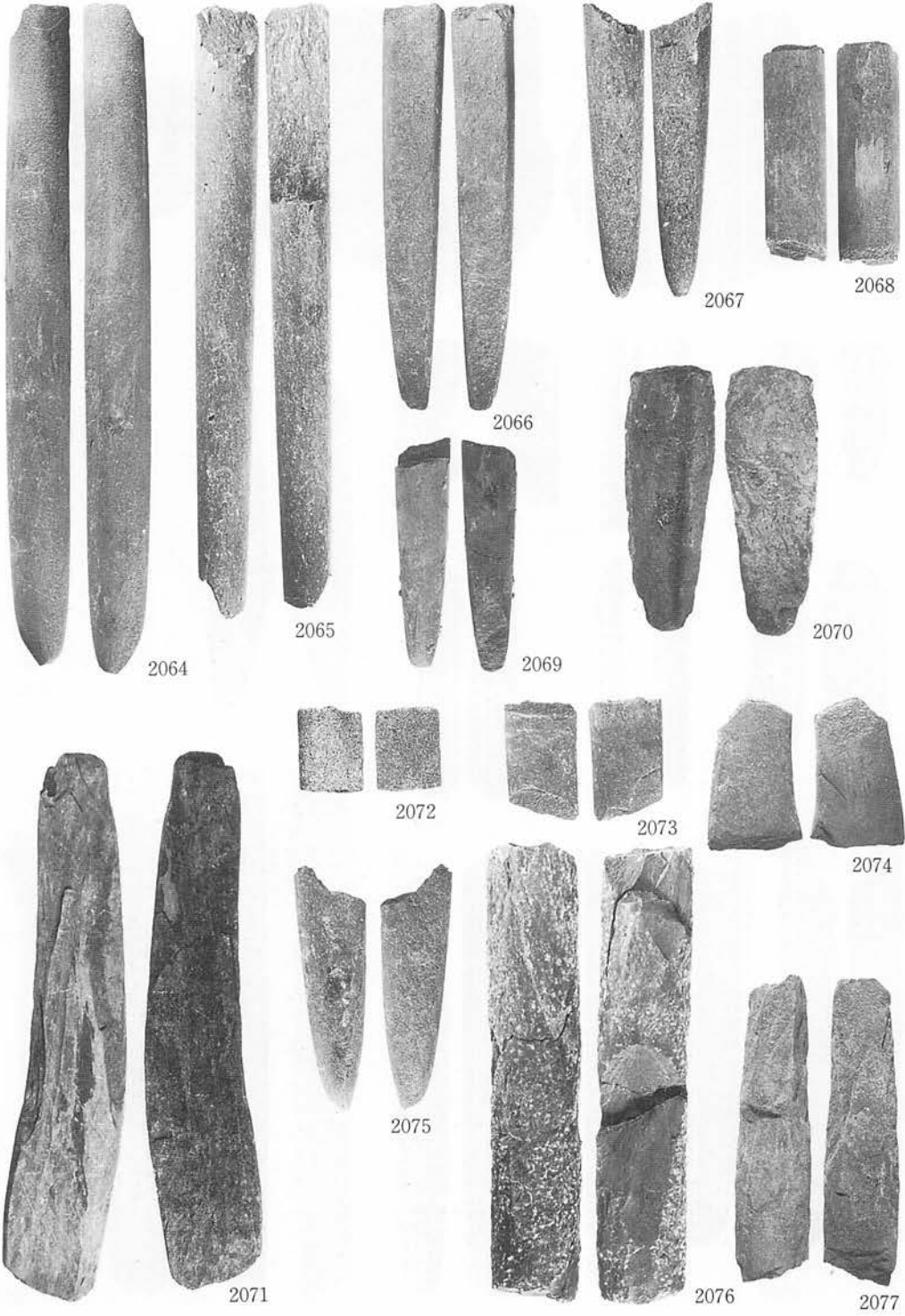
写真図版175 遺物包含層出土遺物（石器）11



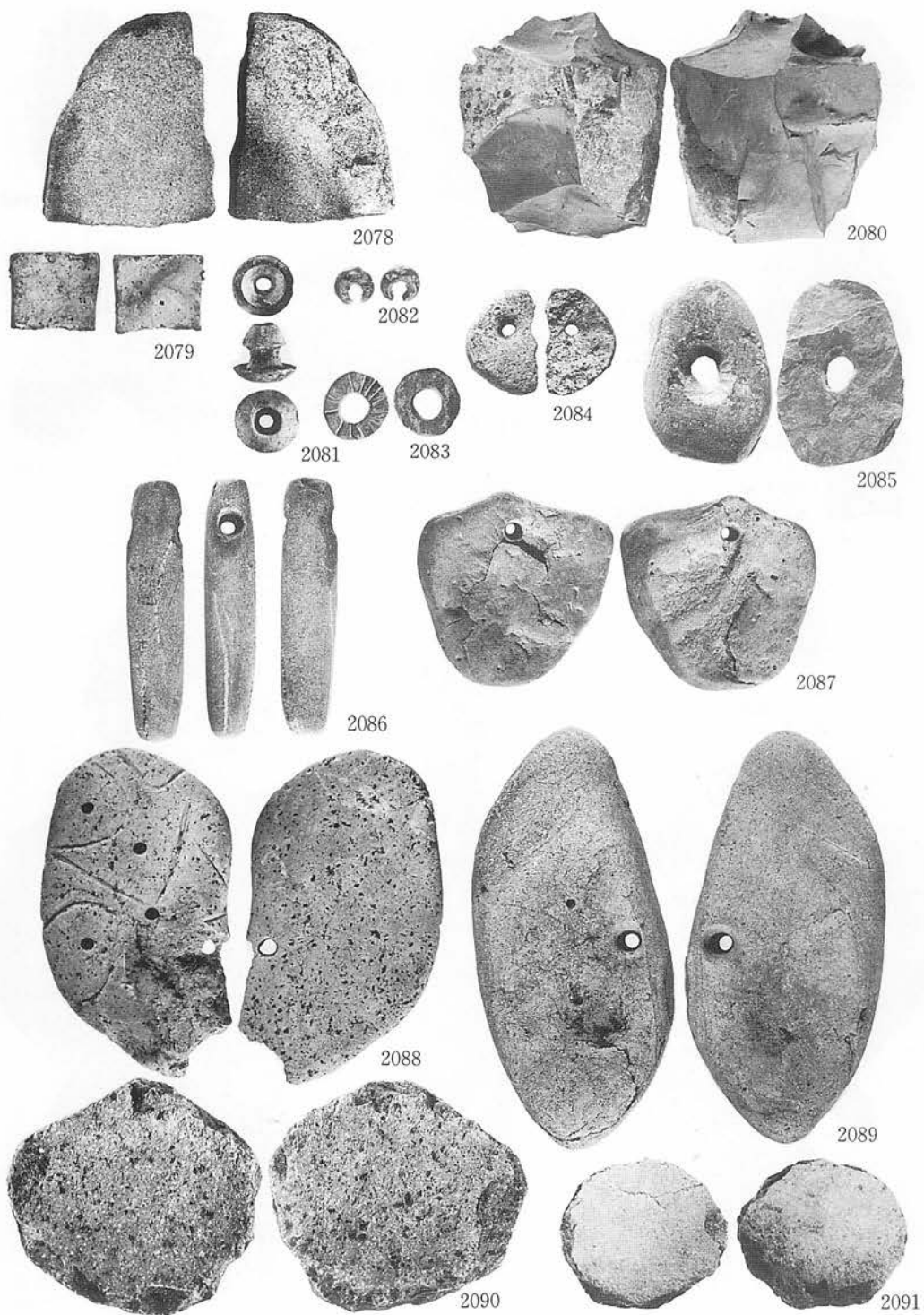
写真図版176 遺物包含層出土遺物（石器）12



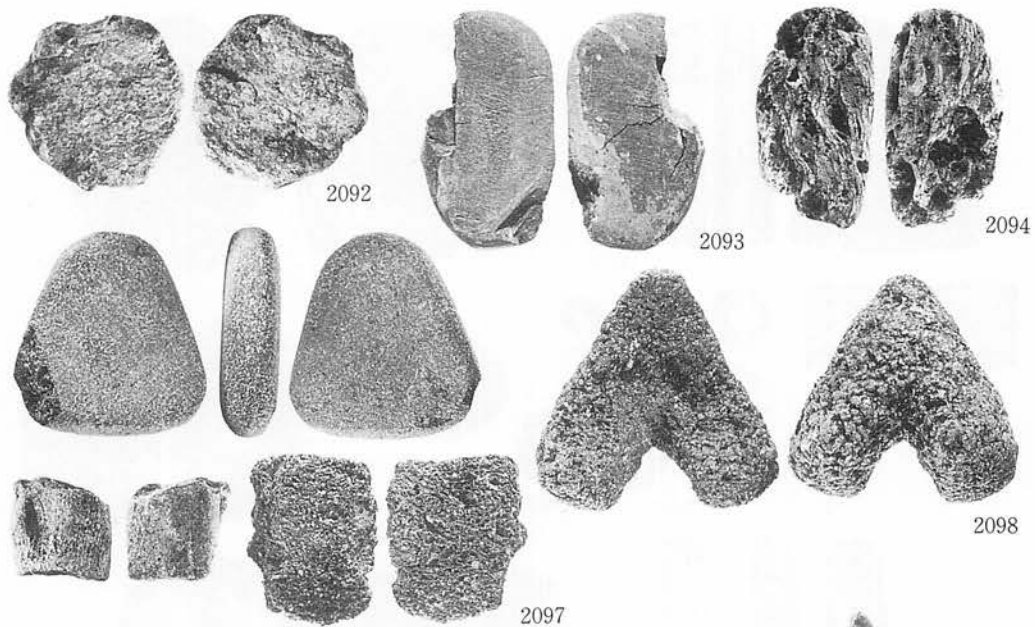
写真図版177 遺物包含層出土遺物（石器）13



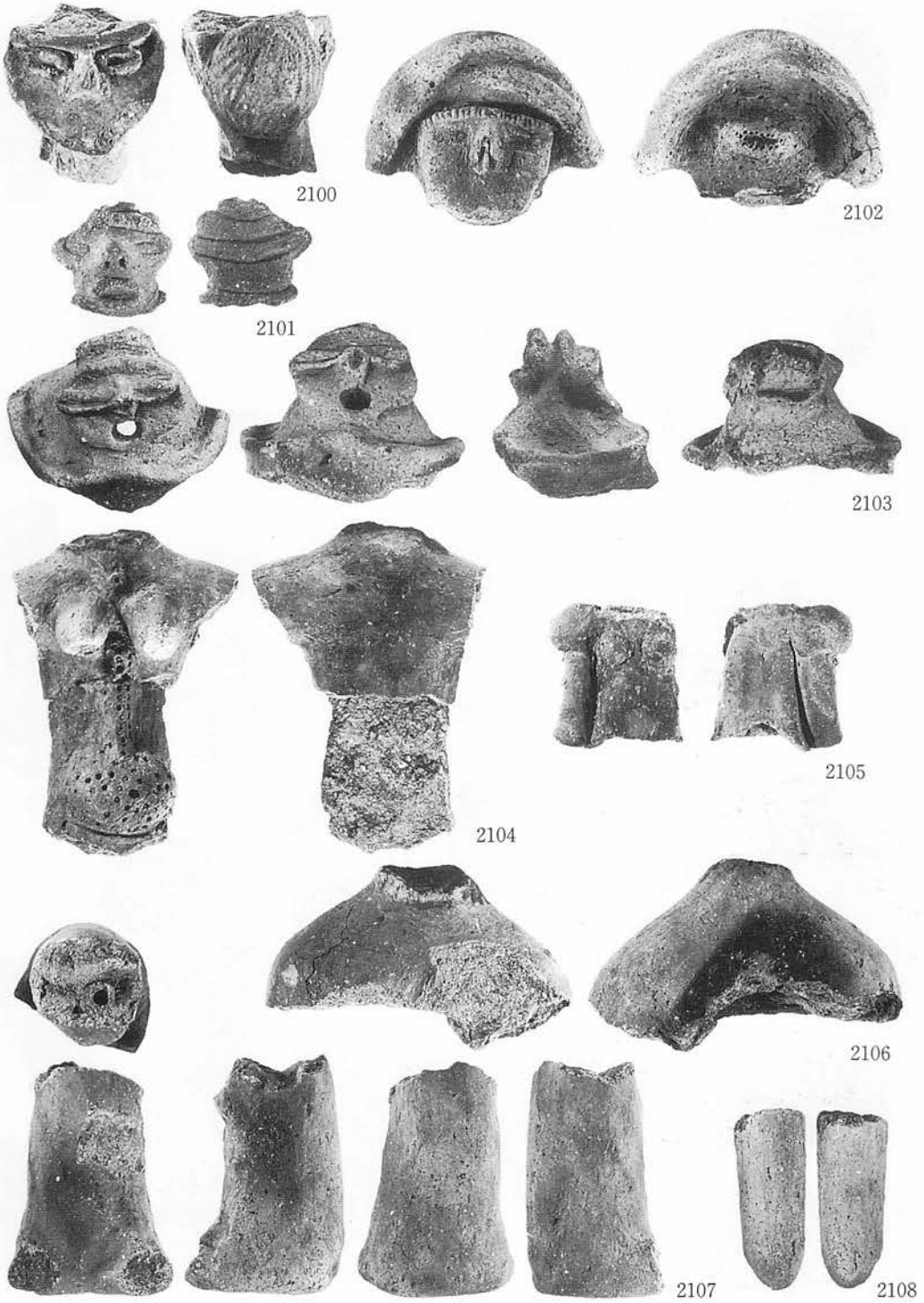
写真図版178 遺物包含層出土遺物（石器）14



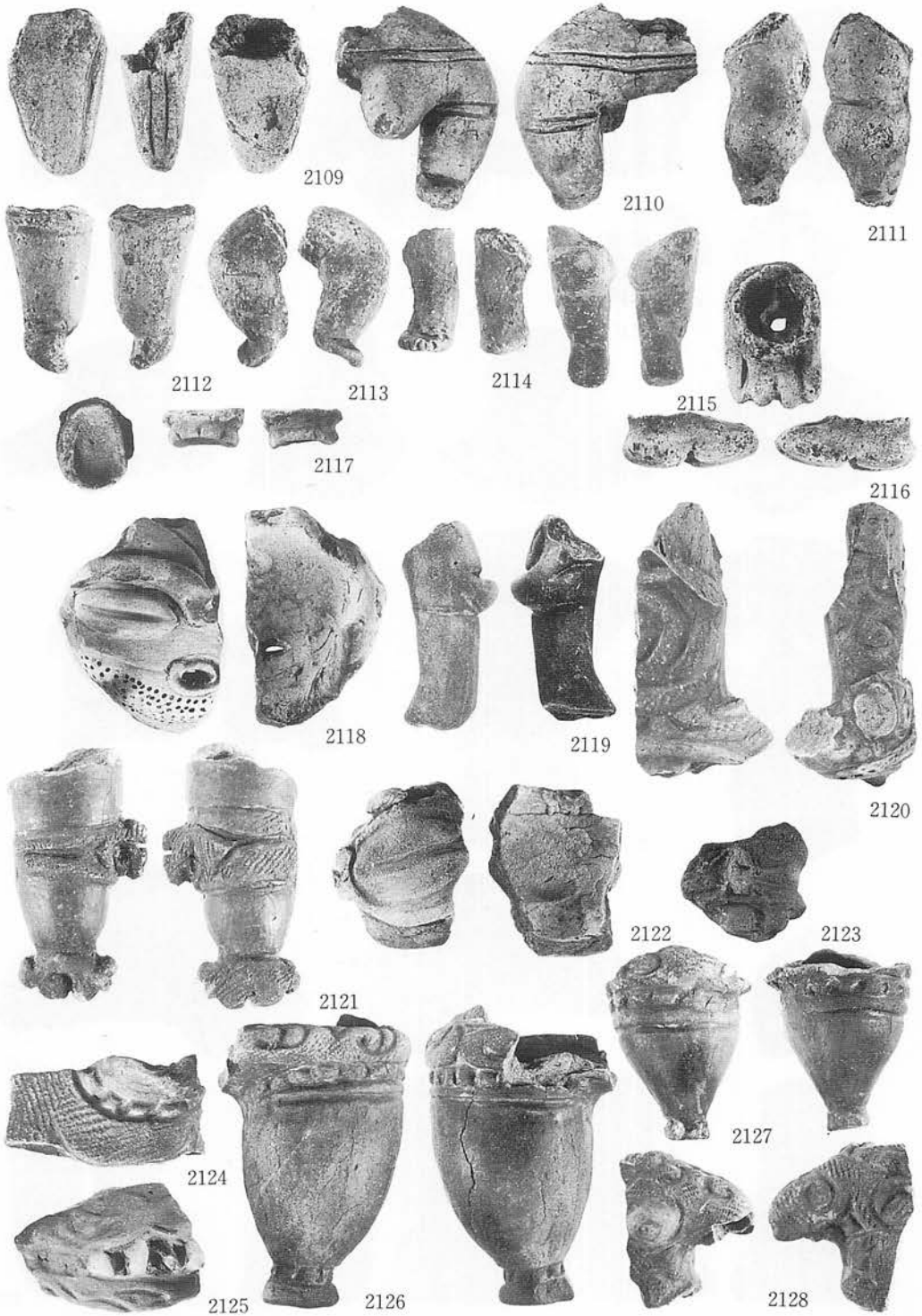
写真図版179 遺物包含層出土遺物（石器）15・（石製品）1



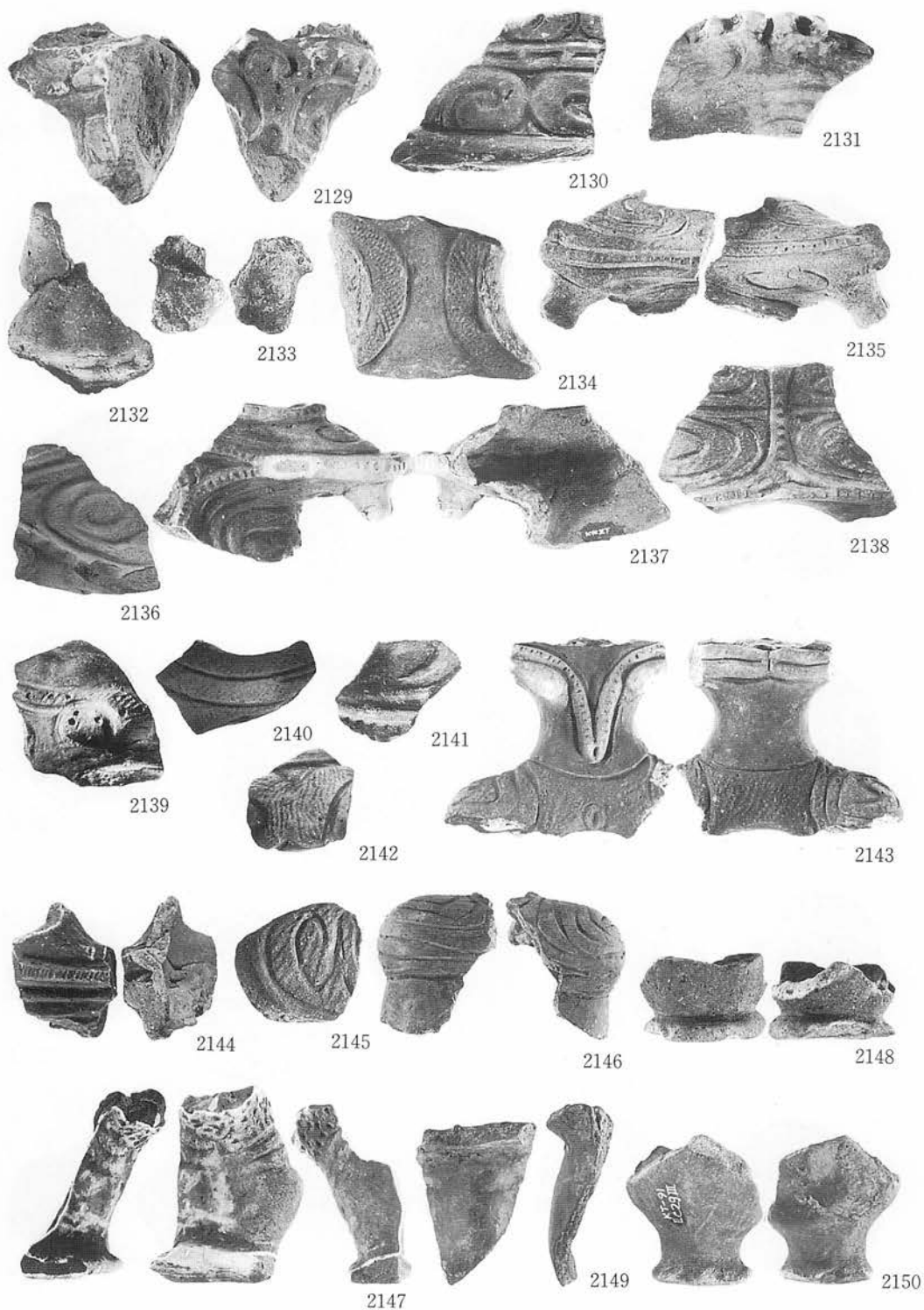
写真図版180 遺物包含層出土遺物（石製品）2・（土偶）1



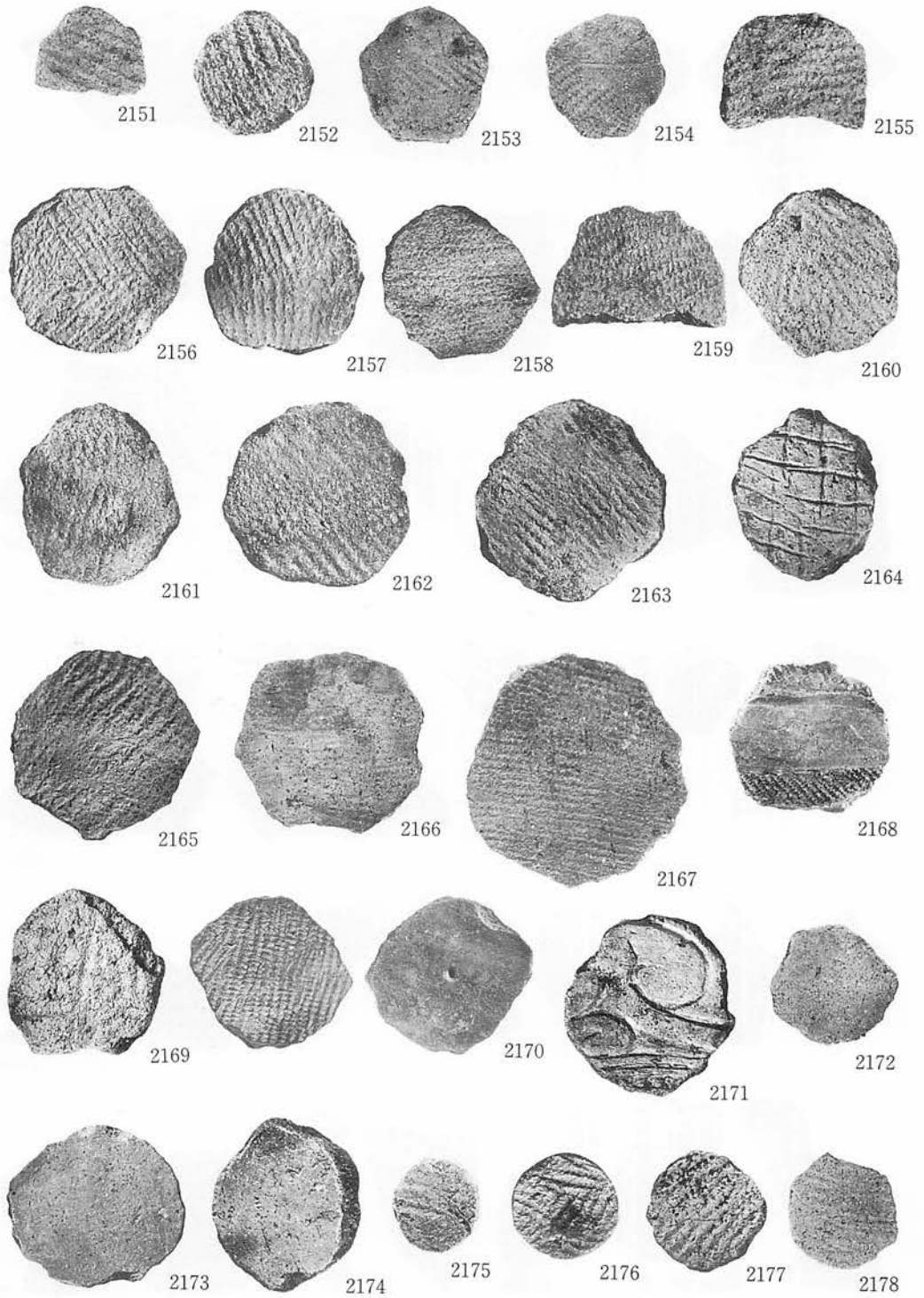
写真図版181 遺物包含層出土遺物（土偶）2



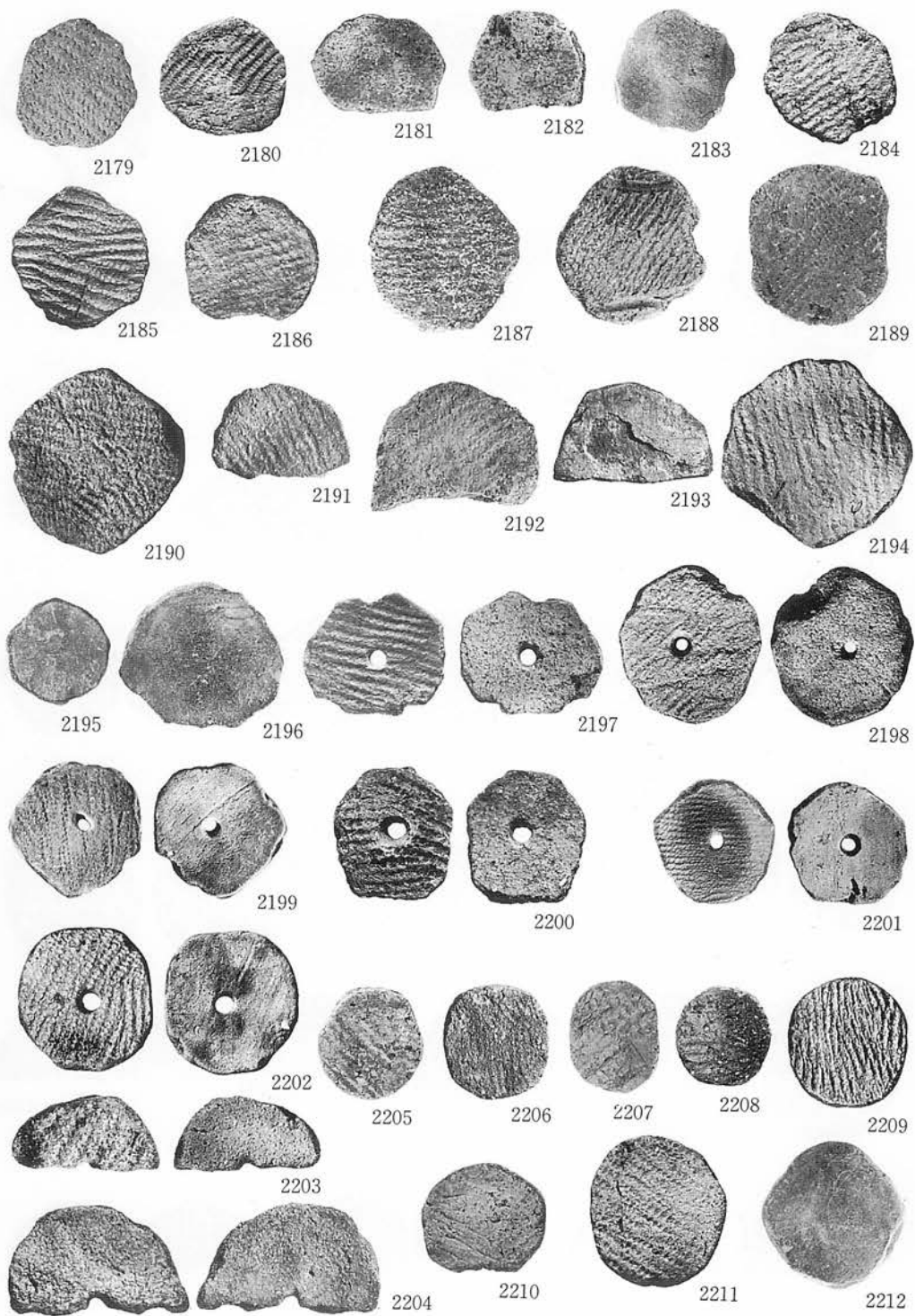
写真図版182 遺物包含層出土遺物（土偶）3



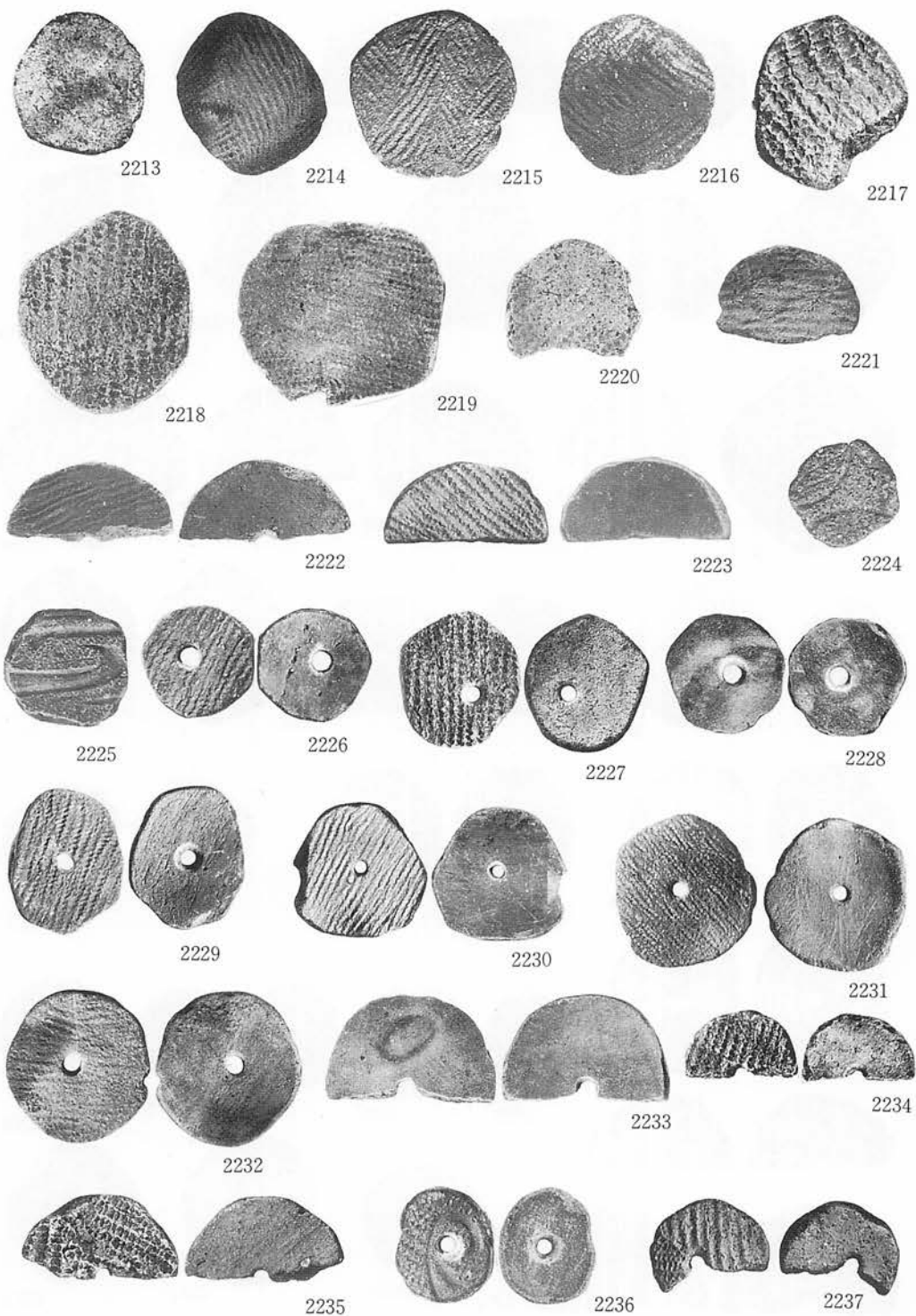
写真図版183 遺物包含層出土遺物（土偶）4



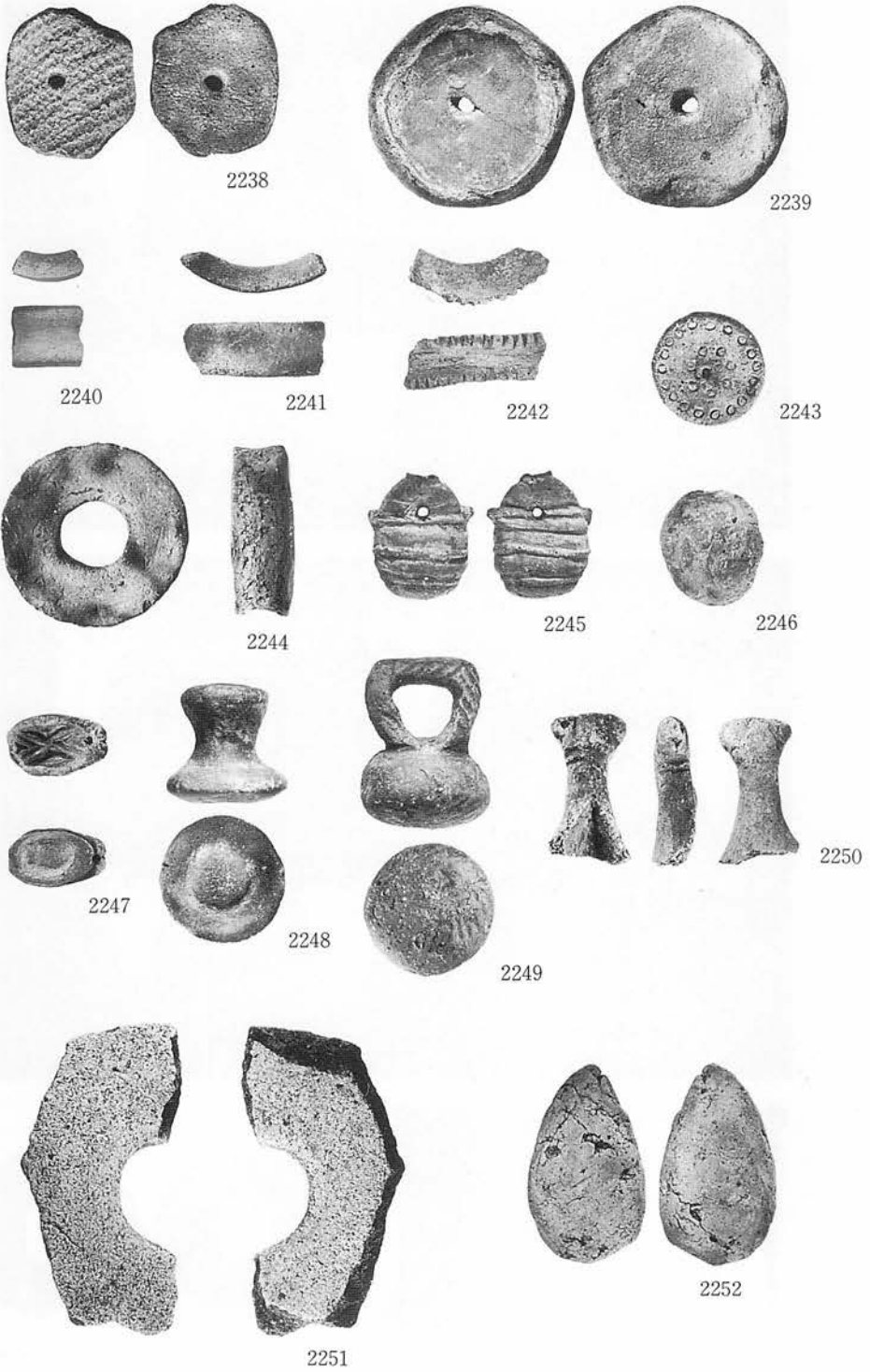
写真図版184 遺物包含層出土遺物（土製円盤）1



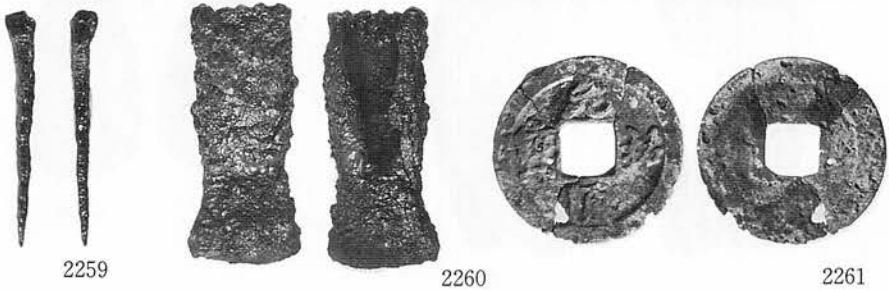
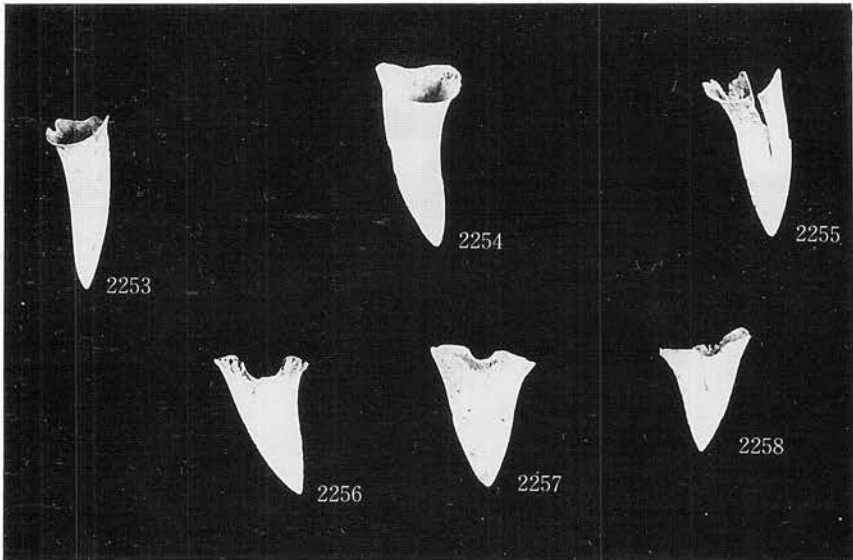
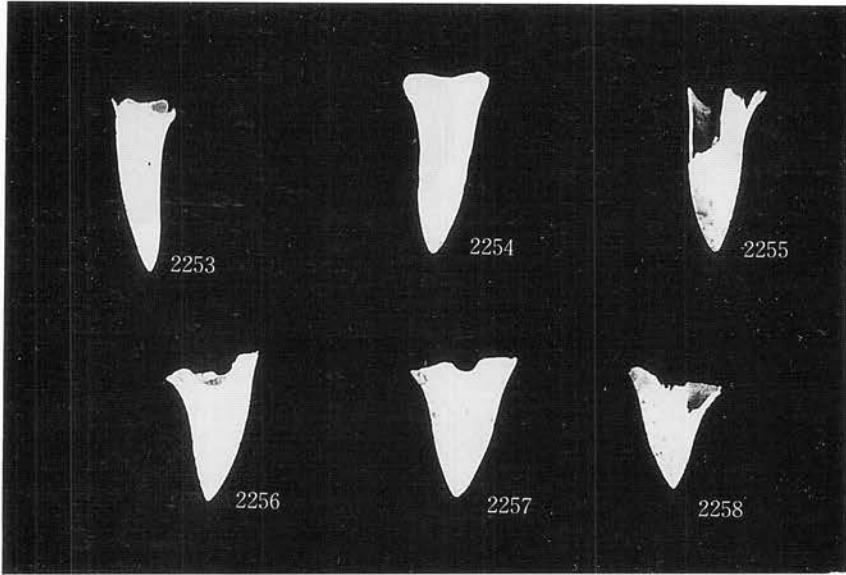
写真図版185 遺物包含層出土遺物（土製円盤）2



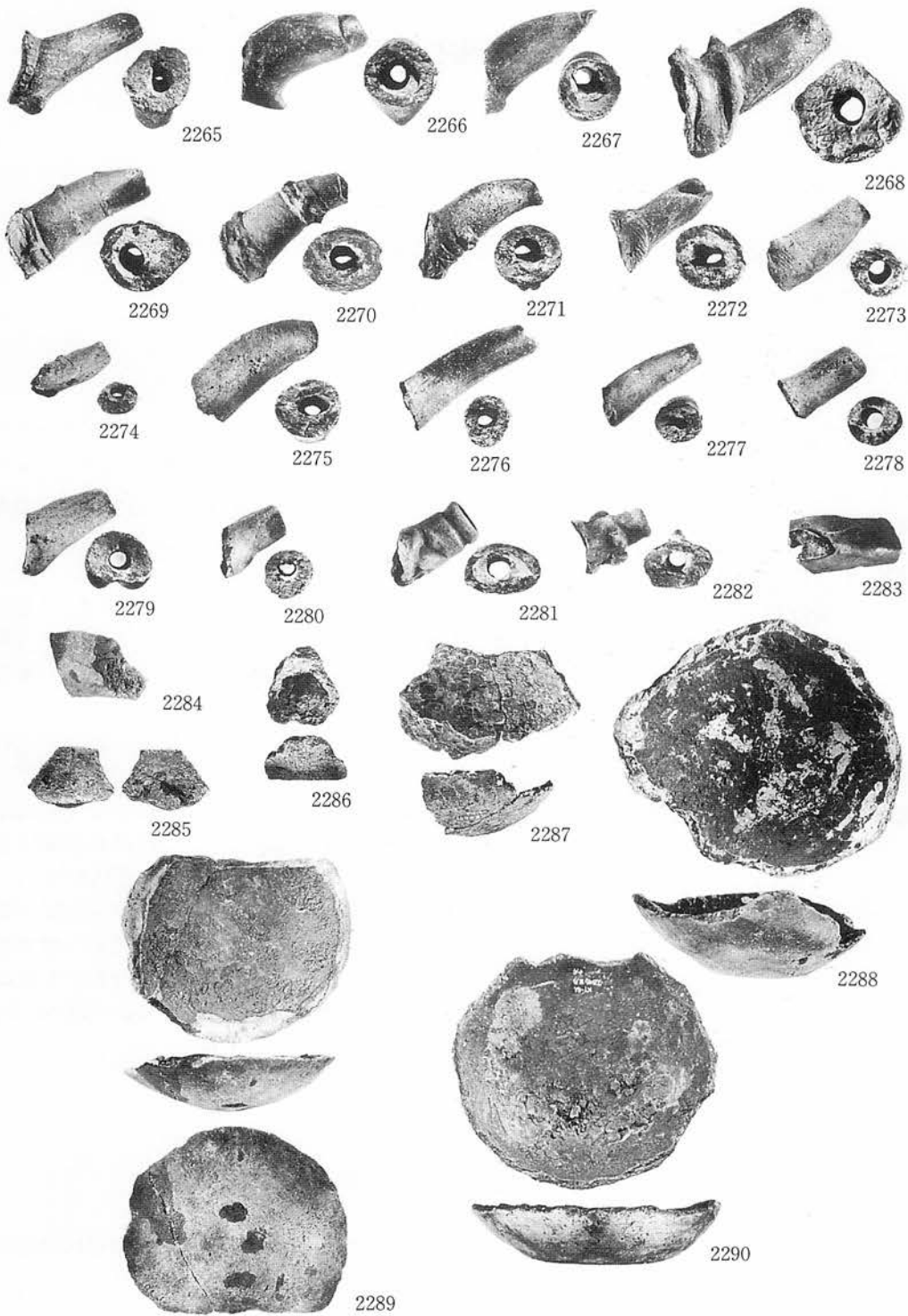
写真図版186 遺物包含層出土遺物（土製円盤）3



写真図版187 遺物包含層出土遺物（土製円盤）4・土製品



写真図版188 遺物包含層出土遺物（骨角器）・（金属製品）



写真図版189 アスファルト付着土器

報告書抄録

ふりがな	かみたこういせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	上鷹生遺跡発掘調査報告書							
副書名	鷹生ダム建設関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第253集							
編著者名	酒井宗孝							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001							
発行年月日	西暦1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみたこういせき 上鷹生遺跡	いわてけん おおふなと し 岩手県大船渡市 ひころいちちやうあざわんだい 日頃市町字上代 27-1 ほか	03203	NF18 -2222	39度 08分 24秒	141度 41分 30秒	19910624~ 19911031 19920410~ 19920904	600㎡ 700㎡	鷹生ダム 建設に伴 う緊急発 掘調査
所収遺跡名	種 別	主な時代			主 な 遺 物		特 記 事 項	
上鷹生遺跡	集落跡	縄文時代			15棟	縄文土器（早・前・ 中・後・晩期） 土偶（後期・晩期） 土製品 石器 石製品 自然遺物（骨角器・ アスファルト・焼獣 骨）	縄文時代後期は居住 区晩期は墓域として の性格を持つ。 遺物包含層と墓域の 範囲が一致する。廃 棄行為にもある種の 儀礼が窺われる。	
					3棟			
					65基			
					34基			
					18基			
					16基			
					15基			
		弥生時代				弥生土器（前・後期） 北海道系土器（後北）		
		中世			1基	中世陶器（常滑・渥 美・伊豆沼・美濃） 鉄器（鉄斧・釘） 銭貨（元祐通寶）	12世紀代の遺物もあ り	
					15基			

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長 山 影 源 吉
副 所 長 鷹 羽 康 造

〔管理課〕

管 理 課 長 澤 田 寛
主 任 横 山 文 彦
主 事 千 葉 勝 彦

文 化 財
專 門 調 査 員

羽 柴 直 人
星 雅 之
高 木 晃

〔調査課〕

調 査 課 長 小 田 野 哲 憲
課 長 補 佐 高 橋 與 右 衛 門
“ 工 藤 利 幸
主任文化財 中 川 重 紀
専門調査員 “ 佐々木 清 文
“ 高 橋 義 介
“ 酒 井 宗 孝
“ 菊 池 人 見
文 化 財 小 山 内 透
専門調査員 “ 金 子 佐 知 子
“ 松 本 建 速
“ 菊 池 榮 壽
“ 宮 本 節 子
“ 下 田 隆 衛
“ 濱 田 宏
“ 金 子 昭 彦
“ 晴 山 雅 光
“ 木 戸 口 俊 子
“ 阿 部 勝 則

期 限 付
專 門 職 員

“ 杉 沢 昭 太 郎
“ 大 道 篤 史
“ 溜 浩 二 郎
“ 村 上 拓
“ 中 村 直 美
“ 川 向 聖 子
“ 佐 藤 良 和
“ 篠 根 敬 志
“ 柴 田 慈 幸
“ 鈴 木 浩 二
“ 鈴 木 聡
“ 高 橋 実 央
“ 千 葉 和 弘
“ 平 澤 里 香
“ 山 口 俊 規
“ 山 下 浩 幸

〔資料課〕

資 料 課 長 菊 池 強 一
文 化 財 伊 藤 拓
專 門 調 査 員

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第253集

上鷹生遺跡発掘調査報告書

鷹生ダム建設関連遺跡発掘調査

印刷 平成9年3月25日

発行 平成9年3月31日

発行 財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020岩手県紫波郡都南村大字飯岡11-185
電話 (019) 638-9001・9002

印刷 (株) 熊谷印刷
〒020岩手県盛岡市上田一丁目6-49
電話 (019) 653-4151